別記様式第２号（その１の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基本計画

事　　項	記入欄	備　　考
計　画　の　区　分	学部の課程の設置（工学に関する学部の教育課程）	
フ　リ　ガ　ナ 設　置　者	ｶﾞｯｺｳﾎｳｼﾞﾝ ｼﾊﾞｳﾗｺｳｷﾞｮｳﾀﾞｲｶﾞｸ 学校法人　芝浦工業大学	
フ　リ　ガ　ナ 大　学　の　名　称	ｼﾊﾞｳﾗｺｳｷﾞｮｳﾀﾞｲｶﾞｸ 芝浦工業大学（Shibaura Institute of Technology）	
大学本部の位置	東京都江東区豊洲三丁目７番５号	
大　学　の　目　的	本学は教育基本法及び学校教育法の定めるところにより、学術の中心として深く工学の研究を行い世界文化に貢献し、併せて広く一般の学術教養と専門の工業教育を施すことにより、学生の人格を陶冶し、学理を究めさせ体位の向上を図り、もって優秀なる技術者を養成することを目的とする。	
新設学部等の目的	【システム理工学部 生命科学課程】 地域社会における少子高齢化の進行に伴い、社会構造が大きく変化し、従来の医療制度や福祉制度では対応できない問題が顕在化しつつある。人々の医療・福祉への関心が高まる中、身体的・精神的・社会的に良好な状態にあることを意味する「Well-being」の向上が求められている。そのためには、高齢者や子供への支援だけではなく、すべての人々の「Well-being」に貢献できる人材が必要である。 ・養成する人材像 生命科学や工学に関する職業倫理を身につけ、生命の複雑なシステム、生命現象、および個々の生命機能を理解し、ヒトの発達や加齢を科学的に洞察し、システム思考に基づく創造的な発想から人の健康に関する諸問題を解決できる人材を養成する。 ・教育研究上の目的 具体的には、生命科学や工学に関する専門知識・技術、研究倫理観を修得させ、システム思考とシステム工学の知識と手法を活用し、すべての人が健康な生活を享受できる社会の実現に貢献できる人材を養成することを教育研究上の目的とする。	

	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地	
		年	人	年次 人	人			年　月 第　年次		
新設学部等の概要	システム理工学部								埼玉県さいたま市見沼区深作307番地	
	生命科学課程	4	180	－	720	学士 （生命科学）	工学関係 理学関係 体育関係	令和8年4月 第1年次		課程を設ける工学に関する学部等 【大学設置基準第49条の4に定める専攻分野】 生命科学専攻分野
	情報課程	4	240	－	960	学士 （工学）	工学関係	令和8年4月 第1年次		課程を設ける工学に関する学部等 【大学設置基準第49条の4に定める専攻分野】 情報専攻分野 ※令和7年4月届出予定
	機械・電気課程	4	90	－	360	学士 （工学）	工学関係	令和8年4月 第1年次		課程を設ける工学に関する学部等 【大学設置基準第49条の4に定める専攻分野】 機械・電気専攻分野 ※令和7年4月届出予定

	建築・環境課程	4	120	―	480	学士 （工学）	工学関係	令和8年4月 第1年次		課程を設ける工学に関する学部等 【大学設置基準第49条の4に定める専攻分野】 建築・環境専攻分野 ※令和7年4月届出予定
	数理科学課程	4	75	―	300	学士 （数理科学）	理学関係	令和8年4月 第1年次		課程を設ける工学に関する学部等 【大学設置基準第49条の4に定める専攻分野】 数理科学専攻分野 ※令和7年4月届出予定
	計		705	―	2820					
同一設置者内における変更状況 （定員の移行，名称の変更等）	システム理工学部 生命科学科　（廃止）　（△115） 電子情報システム学科　（廃止）　（△115） 機械制御システム学科　（廃止）　（△90） 環境システム学科　（廃止）　（△90） 数理科学科　（廃止）　（△75） ※令和8年4月学生募集停止									

	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数	
		講義	演習	実験・実習	計		
教育課程	システム理工学部 生命科学課程	262科目	30科目	7科目	299科目	124単位	
	システム理工学部 情報課程	244科目	29科目	10科目	283科目	124単位	
	システム理工学部 機械・電気課程	244科目	20科目	12科目	276科目	124単位	
	システム理工学部 建築・環境課程	246科目	24科目	8科目	278科目	124単位	
	システム理工学部 数理科学課程	270科目	16科目	4科目	290科目	124単位	

	学部等の名称	基幹教員					助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
		教授	准教授	講師	助教	計			
新設	システム理工学部　生命科学課程	人 —	人 —	人 —	人 —	人 —	人 —	人 —	大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　38人
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	12 (12)	8 (7)	0 (0)	0 (0)	20 (19)			
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	12 (12)	8 (7)	0 (0)	0 (0)	20 (19)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	12 (12)	8 (7)	0 (0)	0 (0)	20 (19)			
	システム理工学部　情報課程	人 —	人 —	人 —	人 —	人 —	人 —	人 —	令和7年4月届出済み（予定）
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	13 (13)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	19 (19)			
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	13 (13)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	19 (19)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	13 (13)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	19 (19)			
	システム理工学部　機械・電気課程	人 —	人 —	人 —	人 —	人 —	人 —	人 —	令和7年4月届出済み（予定）
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	10 (10)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	12 (12)			
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	10 (10)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	12 (12)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	10 (10)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	12 (12)			

	システム理工学部　建築・環境課程	人 —	人 —	人 —	人 —	人 —	人 —	人 —	令和7年4月届出済み（予定）
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	10 (10)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	11 (11)			
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	10 (10)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	11 (11)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	10 (10)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	11 (11)			
	システム理工学部　数理科学課程	人 —	人 —	人 —	人 —	人 —	人 —	人 —	令和7年4月届出済み（予定）
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	8 (8)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	13 (13)			
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	8 (8)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	13 (13)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	8 (8)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	13 (13)			
分	計	53 (53)	19 (18)	0 (0)	3 (3)	75 (74)	0 (0)	92 (92)	
既	工学部　機械工学課程	—	—	—	—	—	—	—	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	23 (23)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	30 (30)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　40人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	23 (23)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	30 (30)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	23 (23)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	30 (30)			
	工学部　物質化学課程	—	—	—	—	—	—	—	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	26 (26)	6 (6)	0 (0)	1 (1)	33 (33)			
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	26 (26)	6 (6)	0 (0)	1 (1)	33 (33)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			

d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計（a～d）	26 (26)	6 (6)	0 (0)	1 (1)	33 (33)		
工学部　電気電子工学課程	—	—	—	—	—	—	—
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	22 (22)	9 (9)	0 (0)	1 (1)	32 (32)		
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
小計（a～b）	22 (22)	9 (9)	0 (0)	1 (1)	32 (32)		
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計（a～d）	22 (22)	9 (9)	0 (0)	1 (1)	32 (32)		
工学部　情報・通信工学課程	—	—	—	—	—	—	—
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	26 (26)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	31 (31)		
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
小計（a～b）	26 (26)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	31 (31)		
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計（a～d）	26 (26)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	31 (31)		

設								
工学部　土木工学課程		—	—	—	—	—	—	—
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	15 (15)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	17 (17)		
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	小計（ａ～ｂ）	15 (15)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	17 (17)		
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	計（ａ～ｄ）	15 (15)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	17 (17)		
工学部　先進国際課程		—	—	—	—	—	—	—
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	7 (7)	10 (10)	0 (0)	3 (3)	20 (20)		
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	小計（ａ～ｂ）	7 (7)	10 (10)	0 (0)	3 (3)	20 (20)		
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	計（ａ～ｄ）	7 (7)	10 (10)	0 (0)	3 (3)	20 (20)		
計		119 (119)	39 (39)	0 (0)	5 (5)	163 (163)	0 (0)	158 (158)
デザイン工学部　デザイン工学科		17 (17)	4 (4)	0 (0)	2 (2)	23 (23)	0 (0)	62 (62)
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	17 (17)	4 (4)	0 (0)	2 (2)	23 (23)		大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　12人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	小計（ａ～ｂ）	17 (17)	4 (4)	0 (0)	2 (2)	23 (23)		
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	計（ａ～ｄ）	17 (17)	4 (4)	0 (0)	2 (2)	23 (23)		
建築学部　建築学科		29 (29)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	33 (33)	0 (0)	116 (116)
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	29 (29)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	33 (33)		大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　15人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	小計（ａ～ｂ）	29 (29)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	33 (33)		
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		

	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はｃに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	29 (29)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	34 (34)			
分	計	165 (165)	47 (47)	0 (0)	8 (8)	220 (220)	0 (0)	－ (－)	
合　　計		218 (218)	66 (65)	0 (0)	11 (11)	295 (294)	0 (0)	－ (－)	

職　　種	専　属	その他	計	
事　務　職　員	184 人 (184)	159 人 (159)	343 人 (343)	
技　術　職　員	13 (13)	7 (7)	20 (20)	
図　書　館　職　員	2 (2)	23 (23)	25 (25)	
そ　の　他　の　職　員	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
指　導　補　助　者	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
計	199 (199)	189 (189)	388 (388)	

校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	校舎敷地	183,008㎡	0㎡	0㎡	183,008㎡	大学全体
	その他	18,995㎡	0㎡	0㎡	18,995㎡	
	合計	202,003㎡	0㎡	0㎡	202,003㎡	

校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	148,506㎡	0㎡	0㎡	148,506㎡	大学全体
	(148,506㎡)	(0㎡)	(0㎡)	(148,506㎡)	

教室・教員研究室	教室	533室	教員研究室	20室	大学全体

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	電子図書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	機械・器具 点	標本 点	
	システム理工学部 生命科学課程	230,457〔22,846〕	25,421〔23,041〕	261〔23〕	5,448〔5,266〕	0	0	課程単位での特定不能なため、大学全体の数
		(222,457〔22,846〕)	(25,421〔23,041〕)	261〔23〕	(5,448〔5,266〕)	0	0	
	計	230,457〔22,846〕	25,421〔23,041〕	261〔23〕	5,448〔5,266〕	0	0	
		(222,457〔22,846〕)	(25,421〔23,041〕)	261〔23〕	(5,448〔5,266〕)	0	0	

スポーツ施設等	スポーツ施設	講堂	厚生補導施設	
	6,771.6㎡	0㎡	6,182.6㎡	大学全体

経費の見積及び維持方法の概要		区分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	
	経費の見積	教員１人当り研究費等		1,132千円	1,132千円	1,132千円	1,132千円			※図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コスト含む）を含む。
		共同研究費等		20,974千円	20,974千円	20,974千円	20,974千円			
		図書購入費	33,198千円	33,198千円	33,198千円	33,198千円	33,198千円			
		設備購入費	357,532千円	112,532千円	112,532千円	112,532千円	112,532千円			
	学生１人当り納付金			第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	
				1,762千円	1,482千円	1,582千円	1,582千円	— 千円	— 千円	
	学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、手数料収入、資産運用収入等						

既設大学等

大学等の名称		芝浦工業大学（Shibaura Institute of Technology）							
学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍		
工学部							0.98		［豊洲キャンパス］東京都江東区豊洲三丁目7番5号 ［大宮キャンパス］埼玉県さいたま市見沼区深作307番地
	機械工学課程	4	228	－	456	学士（工学）	0.94	令和6年度	
	物質化学課程	4	208	－	416	学士（工学）	1.02	令和6年度	
	電気電子工学課程	4	208	－	416	学士（工学）	1.00	令和6年度	
	情報・通信工学課程	4	218	－	436	学士（工学）	0.98	令和6年度	
	土木工学課程	4	104	－	208	学士（工学）	0.98	令和6年度	
	先進国際課程	4	9	－	36	学士（工学）	1.00	令和2年度	
システム理工学部							1.02		［大宮キャンパス］埼玉県さいたま市見沼区深作307番地
	電子情報システム学科	4	115	－	460	学士（工学）	1.00	平成3年度	
	機械制御システム学科	4	90	－	360	学士（工学）	1.02	平成3年度	
	環境システム学科	4	90	－	360	学士（工学）	1.04	平成3年度	
	生命科学科	4	115	－	460	学士（生命科学）	1.00	平成20年度	
	数理科学科	4	75	－	300	学士（数理科学）	1.03	平成21年度	
デザイン工学部							1.08		［豊洲キャンパス］東京都江東区豊洲三丁目7番5号 ［大宮キャンパス］

の状況	デザイン工学科	4	160	―	640	学士（デザイン工学）	1.08	平成21年度	［大宮キャンパス］ 埼玉県さいたま市見沼区深作307番地	
	建築学部						1.08		［豊洲キャンパス］ 東京都江東区豊洲三丁目7番5号	
	建築学科	4	240	―	960	学士（建築学）	1.08	平成29年度		
	大学院　理工学研究科 修士課程						1.77		［豊洲キャンパス］ 東京都江東区豊洲三丁目7番5号 ［大宮キャンパス］ 埼玉県さいたま市見沼区深作307番地	
	電気電子情報工学専攻	2	110	―	220	修士（工学）	2.00	昭和38年度		
	材料工学専攻	2	40	―	80	修士（工学）	1.36	昭和38年度		
	応用化学専攻	2	30	―	60	修士（工学）	1.50	昭和38年度		
	機械工学専攻	2	85	―	170	修士（工学）	1.74	昭和51年度		
	システム理工学専攻	2	75	―	150	修士（ｼｽﾃﾑ理工学）	2.00	平成23年度		
	国際理工学専攻	2	10		20	修士（理工学）	1.95	平成29年度		
	社会基盤学専攻	2	25	―	50	修士（工学）	1.64	令和3年度		
	建築学専攻	2	110	―	220	修士（建築学）又は修士（工学）	1.65	令和3年度		
	大学院　理工学研究科 博士（後期）課程						1.18		［豊洲キャンパス］ 東京都江東区豊洲三丁目7番5号 ［大宮キャンパス］ 埼玉県さいたま市見沼区深作307番地	
	地域環境システム専攻	3	12	―	36	博士（工学）又は博士（学術）	1.22	平成7年度		
	機能制御システム専攻	3	15	―	45	博士（工学）又は博士（学術）	1.15	平成7年度		
附属施設の概要										

（参考）学校法人芝浦工業大学　設置認可等に関わる組織の移行表

2025（令和7）年度	入学定員	編入学定員	収容定員	2026（令和8）年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由	
芝浦工業大学				**芝浦工業大学**					
システム理工学部				**システム理工学部**					
生命科学科	115	—	460		0	—	0	令和8年4月学生募集停止	
電子情報システム学科	115	—	460		0	—	0	令和8年4月学生募集停止	
機械制御システム学科	90	—	360		0	—	0	令和8年4月学生募集停止	
環境システム学科	90	—	360		0	—	0	令和8年4月学生募集停止	
数理科学科	75	—	300		0	—	0	令和8年4月学生募集停止	
				生命科学課程	180	—	720	課程の設置（認可）	〔定員増〕
				情報課程	240	—	960	課程の設置（届出）	〔定員増〕
				機械・電気課程	90	—	360	課程の設置（届出）	〔定員増〕
				建築・環境課程	120	—	480	課程の設置（届出）	〔定員増〕
				数理科学課程	75	—	300	課程の設置（届出）	〔定員増〕
工学部				**工学部**					
機械工学課程	228	—	912	機械工学課程	228	—	912		
物質化学課程	208	—	832	物質化学課程	208	—	832		
電気電子工学課程	208	—	832	電気電子工学課程	208	—	832		
情報・通信工学課程	218	—	872	情報・通信工学課程	218	—	872		
土木工学課程	104	—	416	土木工学課程	104	—	416		
先進国際課程	9	—	36	先進国際課程	9	—	36		
デザイン工学部				**デザイン工学部**					
デザイン工学科	160	—	640	デザイン工学科	160	—	640		
建築学部				**建築学部**					
建築学科	240	—	960	建築学科	240	—	960		
計	1,860	—	7,440	計	2,080	—	8,320		
芝浦工業大学大学院				**芝浦工業大学大学院**					
理工学研究科				**理工学研究科**					
【修士課程】				【修士課程】					
電気電子情報工学専攻	200	—	400	電気電子情報工学専攻	200	—	400		
材料工学専攻	50	—	100	材料工学専攻	50	—	100		
応用化学専攻	40	—	80	応用化学専攻	40	—	80		
機械工学専攻	140	—	280	機械工学専攻	140	—	280		
システム理工学専攻	150	—	300	システム理工学専攻	150	—	300		
国際理工学専攻	10	—	20	国際理工学専攻	10	—	20		
社会基盤学専攻	40	—	80	社会基盤学専攻	40	—	80		
建築学専攻	170	—	340	建築学専攻	170	—	340		
【博士（後期）課程】				【博士（後期）課程】					
地域環境システム専攻	15	—	45	地域環境システム専攻	15	—	45		
機能制御システム専攻	18	—	54	機能制御システム専攻	18	—	54		
	833	—	1699		833	—	1699		

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教育課程等の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
学際科目	ＳＤＧｓ・キャリアデザイン	SDGs入門	1前	○	2			○			1						
		未来を創る1	1前	○	2			○			1						※演習
		未来を創る2	2後	○	1			○			1						※演習
		ダイバーシティ入門	1前・後			2		○								1	
		インターンシップ	2前・後			2		○			2						※演習、共同
		芝浦工業大学通論	1前・後			2										1	
		小計(6科目)		－	5	6		－			3					2	
	アントレプレナーシップ	アントレプレナーシップA（価値創造）	3前	○	2			○			1	1				1	共同
		アントレプレナーシップB（事業創出）	3後			2		○			1	1				1	共同
		経営工学	２前			2		○				1					
		産学官金連携PBL	3前・後			2		○			2						※演習、共同
		会計簿記	３後			2		○								1	
		小計(5科目)		－	2	8		－			2	1				2	
	システム工学	システム工学Ａ（システム計画方法論）	2前	○	3			○	○		3	1					※演習、共同
		システム工学Ｂ（数理計画法）	2後	○	3			○	○		3	1					※演習、共同
		プロジェクトマネジメント	3前			2		○								1	
		Advanced Systems Science and Engineering1	2前・後			2		○			2	1					共同
		Advanced Systems Science and Engineering2	2前・後			2		○			2	1					共同
		信頼性工学	3後			2		○								1	
		人間工学	2前			2		○								1	
		サイバーセキュリティと社会	3後			2		○				1					
		小計(8科目)		－	6	12		－			3	2				3	
	理数・情報	微分積分１	1前			2		○								2	
		微分積分２	1後			2		○								2	
		線形代数1	1前			2		○				1				1	
		線形代数2	1後			2		○								2	
		力学1	1前			2		○			1					1	
		力学2	1後			2		○								1	
		波動・熱力学	1後			2		○								1	
		電磁気学	2前			2		○			2						
		生物学	1前			2		○			1						
		化学	1前			2		○			1	1					オムニバス
		現代物理学概論	2後			2		○			1						
		情報基礎	1前	○	3			○			2	2		1			共同
		AI基礎	2後	○	1			○			2	1		1			共同、標準外
		統計学基礎	1前	○	1						2	1		1			共同、標準外
		データサイエンスリテラシー	1後	○	1						2	1		1			共同
		小計(15科目)		－	6	22		－			6	4		1		6	
	社会科学	科学技術史	1後			2		○								1	
		科学技術と社会	1前			2		○								1	
		行政学	1後			2		○								1	
		政治学	1後			2		○								1	
		社会福祉論	1前			2		○								1	
		情報社会と法	1前			2		○								1	
		日本国憲法	1後			2		○								1	

基礎教養科目		社会学概論	1後			2		○			1						
		人間と自然環境	1後			2		○								1	
		教育社会学	1前・後			2		○								1	
		小計(10科目)		－		20		－			1					8	
	人文科学	哲学1	1前			2		○								1	
		哲学2	1後			2		○								1	
		倫理学	1前・後			2		○								1	
		生命倫理概論	1前・後			2		○								1	
		技術者と倫理	3前			2		○								1	
		世界史A	1前			2		○								1	
		世界史B	1前			2		○								1	
		国際デザイン史	1後			2		○			1						
		認知心理学	1前			2		○								1	
		組織心理学	1後			2		○								1	
		教育の近現代史	1前・後			2		○				1					
		教育原論	1前・後			2		○				1					
		人間関係論	1前・後			2		○								1	
		小計(13科目)		－		26		－			1	1				6	
	保健体育	体育実技１	1前・後			1			○		3	2				10	
		体育実技２	1前・後			1			○		3	2				10	
		からだの仕組みと運動	1前			2		○								1	
		身体運動のメカニズム	1後			2		○								1	
		健康科学論Ａ	1前			2		○								2	
		健康科学論Ｂ	1後			2		○								1	
		小計(6科目)		－		10		－			3	2				12	
	英語	English Basic Skills 1	1前			2		○			1					5	
		English Basic Skills 2	1後			2		○								5	
		English Advanced Skills 1	1前			2		○			1					2	
		English Advanced Skills 2	1後			2		○			1					2	
		English Remedial Course 1	1前				2	○								2	
		English Remedial Course 2	1後				2	○								2	
		Basic English for Science and Technology 1	2前			2		○			1					3	
		Basic English for Science and Technology 2	2後			2		○			1					3	
		Advanced English for Science and Technology 1	2前			2		○			1					3	
		Advanced English for Science and Technology 2	2後			2		○								3	
		理工系英語プレゼンテーション	2前・後			2		○			1						
		海外英語研修1	1前・後			2			○		1						標準外
		海外英語研修2	1前・後			2			○		1						標準外
		海外短期英語研修1	1前・後			1			○		1						標準外
		海外短期英語研修2	1前・後			1			○		1						標準外
		学外英語検定1	1前・後			2			○		1						標準外
		学外英語検定2	1前・後			2			○		1						標準外
		小計(17科目)	－	－		28	4	－			3					12	
教職課程		事前・事後指導	3前・後				1	○			1	1					共同
		教育実習１	3前・後				2			○	1	1					共同
		教育実習２	3前・後				2			○	1	1					共同
		教職実践演習（中・高）	4前・後				2		○		1	1					共同
		教職インターンシップ１	1前・後				1		○		1	1					共同
		教職インターンシップ２	1前・後				1		○		1	1					共同
		小計(6科目)	－	－			9	－			1	1					

		Advanced Bioscience	2前			2		○			5	2						オムニバス
		Basic Bioscience	1後			2		○				1						
		Basic Control Engineering	2後			2		○			1							
		CAD/CAM演習	3前	○		3			○		1	1						オムニバス
		Genetic Engineering	3前			2						1						
		医工学概論	1前	○		1		○			3	4						オムニバス
		Introduction to Biomedical-Engineering	1後			1		○			3	4						オムニバス
		Introduction to Control Engineering	2前			2		○			1							
		Introduction to Embedded Programming	1前			2		○			2	1						
		Global Project-Based Learning 1	2前後			2			○		3	2						標準外、共同
		Global Project-Based Learning 2	2前後			2			○		3	2						標準外、共同
		Global Project-Based Learning 3	2前後			2			○		3	2						標準外、共同
		健康データサイエンス	3後			2		○				1						
		健康長寿学	3後			2		○			1							
		スポーツ工学実験演習1	2前	○		3			○		2	1						オムニバス
		スポーツ工学実験演習2	2後	○		3			○		2	1						オムニバス
		健康行動栄養学	3前			2		○				1						
		スポーツ画像工学	3後			2		○			1							
		スポーツ信号処理	2前			2		○				1						
		応用バイオメカニクス	3前			2		○				1						
		映像メディア解析	3前			2		○			1							
		スポーツ工学とSDGs	3前			2			○			1						
		スポーツ工学概論	1後			2		○			3	2						オムニバス
		スポーツ工学研究法	3前			2		○			1							
		生理学	1後	○		2		○			1							
		体力医科学	2後			2		○			1							
		データ解析	1後			2		○			1	1						
		データサイエンス入門	1前			1		○			2	1		1				オムニバス
		バイオイメージング	3後			2		○				1						
		バイオエレクトロニクス	3後			2		○			1							
		バイオエンジニアリング実験	3後			3			○			1						
		バイオマテリアル	3前			2		○				1						
		バイオメカニカルエンジニアリング	3後			2		○				1						
		バイオメカニクス	3前			2		○			1							
		Python入門	1前	○		1		○			1			1				共同
		Pythonプログラミング	1後	○		2		○				1						
		バイオレオロジー	3前			2		○			1							
		メカトロニクス	3前			2						1						
		メディア認知心理・人間工学	2前			2		○			1							
		メディカルエンジニアリング実験	3後			3			○		1	1						共同
		ものづくり工学	3前			2		○			2							オムニバス
	主専攻	ロボティクス	3前			2		○			1							
		医学・医療概論	1後			2		○				1						
		医工学エレクトロニクス演習	2前	○		2			○			2						共同
		医工学セミナー	2後	○		2		○			3	4						オムニバス
		医工学プログラミング演習	3前	○		3			○		1							
		運動生理学	2前			2		○				1						
		解剖学	1前	○		2		○				2						オムニバス
		環境化学	3後			2		○			1							
		機械・電気基礎数学	2前			2		○			1							
		機械設計製作演習	2後	○		3			○		1	2						共同
		機械力学	1前			2		○				1						
		機構学	1前			2		○			1							
		機能解剖学	2前			2		○			1	1						オムニバス
		公衆衛生学	3後			2		○									1	
		構造解析学	3後			2		○			1	1						オムニバス
		細胞生理学	3後			2		○			1							
		材料力学	2後			2		○			1							
		食品栄養学神	2後			2		○				1						
		経生理学人工	2前			2		○			1							
		知能基礎	2前			2		○				1						

		制御工学	2後			2		○			1						
		生化学	2前	○		2		○				1					
		生体計測学	2前			2		○			1						
		生物地球化学	2後			2		○			1						
		生物物理学	3前			2		○			1						
		生命科学概論	1前			2		○			5	2					オムニバス
		生命科学実験（基礎）	1後	○		4			○		5	2					オムニバス
		生命科学実験（応用）	2前	○		4			○		2	2					オムニバス
		生命科学実験（発展）	2前後	○		4			○		2	1					オムニバス
		生命統計学	1後			2		○			1						
		創薬化学	3後			2		○			1						
		電気電子回路	2前	○		2		○				1					
		脳機能計測学	3前			2		○			1						
		発生生物学	2後			2		○			1						
		微生物学	3前			2		○				1					
		分子遺伝学	3後			2		○			1						
		分子生物学	2後			2		○				1					
		分析化学	1後			2		○			1						
		保健医療福祉政策概論	1前			2		○			1						
		薬理学	3前			2		○				1					
		有機化学	1後			2		○			1						
		流れ学	2後			2		○			1						
		小計(83科目)	－	－		175		－			19	9		1		1	
		Cross-cultural Student Support	1前後			1		○			1						
		理科指導法1	2前後			2		○			1						
		理科指導法2	2前後			2		○			1						
		理科指導法3	3前後			2		○			1						
		理科指導法4	3前後			2		○			1						
		工業科指導法１	2前後			2		○								1	
		工業科指導法2	2前後			2		○								1	
		職業指導	1前後			2		○								1	
		工学基礎概論	1前後			1		○			1						
		教育におけるICT活	1前後			1		○								2	
		用教育の方法及び技	1前後			1		○								2	
		術総合科学実験	1後			1				○						2	
		教職論	1前後			2		○			1						
		特別活動の指導法	2前後			1		○								1	
		総合的な学習の時間の指導法	2前後			1		○								1	
		道徳の理論及び指導法	2前後			2		○				1					
		生徒・進路指導論	1前後			2		○								1	
		教育課程論	1前後			2		○								1	
		教育相談論	1前後			2		○								1	
		教育心理学	1前後			2		○								1	
		特別支援教育論	1前後			1		○								1	
		IoT基礎	1前			2		○			1						
		IoT設計論	2前			2		○			1						
専門科目		電気回路	1後			2		○			1	1					共同
		フロントエンドとインタフェース基礎	2前			2		○			1						
		センサとアクチュエータ	2前			2		○			2			1			オムニバス・共同（一部）
		ディジタル信号処理	2前			2		○								1	
		数値解析	2前			2		○				1					
		電子回路	2後			3		○								1	※演習、共同
		プログラミング入門	1前			1		○			1			1			共同
		社会シミュレーション入門	1後			1		○			2	1		1			オムニバス
		ゲーミング入門	1後			1		○			2	1		1			オムニバス
		Cプログラミング(情報)	1後			3		○				2					※演習、オムニバス
		データ構造とアルゴリズム	2前			3		○			1						
		オブジェクト指向言語	2前			2		○			1						※演習
		モバイルプログラミング	3後			2		○			1						
		ネットワークプログラミング	3前			2		○			1						

		Computer Simulation	3前			2		○								1	
		ソフトウェア設計論	3前			2		○			1						
		ソフトウェア開発管理	2前			2		○			2						オムニバス
		現代的ソフトウェア構築技法	2後			2		○			1						
		ゲームプログラミング	3後			2		○			1						
		データベース	2後			2		○								1	
		情報セキュリティ	3後			2		○				1					
		インターネットプロトコル	1後			2		○			1						
		情報理論	1前後			2		○			1						メディア
		符号理論	3後			2		○			1						
		ネットワークアプリケーション	2後			2		○				1					
		ICT Systems Design	3前			2		○				1					
		クラウドコンピューティング	3後			2		○			1						
		メディア処理基礎	1前			2		○			2						オムニバス
		メディア処理1	2後			2		○			1						
		メディア処理2	3前			2		○			1						
		音声音響情報処理	2前			2		○			1						
		自然言語処理	2後			2		○								1	
		画像情報処理	1後			2		○			1						
		コンピュータグラフィックス	2前			2		○			1						
		VR/AR1	2後			2		○			1						
		VR/AR2	3前			2		○			1						
		ヒューマンコンピュータインタラクション	3後			2		○			1						
		サイバーセキュリティ	3前			2		○				1					
		エンタテインメントコンピューティング	2前			2		○			1						
	副専攻	メディアデザイン1	2後			2		○			1						
		メディアデザイン2	3前			2		○			1						
		メディア表現基礎	1後			2		○			1						
		メディア表現応用	2後			2		○			1						
		メディアコンテンツビジネス	3後			2		○			1						
		社会システム入門	1前			1		○			2	1		1			オムニバス・共同（一部）
		システム科学	4前			2		○			2	1		1			共同
		社会システム実践演習	3後			3		○			2	1		1			共同
		データサイエンス応用	2後			3		○			1			1			※演習、共同
		数理シミュレーション	2後			3		○				1		1			※演習、共同
		シミュレーション&ゲーミング	2後			2		○			2						
		消費者行動論	1前			2		○			1	1					
		社会調査法	1前			2		○			1			1			
		ビジネスエコノミクス	1前			2		○			1						
		金融・経済リテラシー	1後			2		○			1						
		マーケティング論	1前			2		○								1	
		クリエイティブ産業論	1後			2		○			1						
		機械・電気システムセミナー	2後			2		○			9	1		1			オムニバス
		電気機器システム	1前			2		○						1			
		材料・加工学	1後			2		○								1	
		Introduction to Industrial Design	2前			2		○			1						
		機械計測工学	2前			2		○				1					
		自動車工学	3後			2		○			1						
		建築史	1後			2		○			1						
		建築基礎演習	1後			2		○			3	1				1	オムニバス・共同（一部）
		建築構造基礎	1後			2		○			1						
		建築計画基礎	2前			2		○				1					
		建築環境設備基礎	2前			2		○			1						
		建築設計情報演習	2前			2		○				1				1	共同
		建設プロジェクトマネジメント	3前			2		○			1						
		建築材料	3前			2		○								1	
		建築生産・施工	3後			2		○			1						
		建築環境工学	2後			2		○			1						
		建築構造設計	3前			3		○			1						※演習
		建築構造力学1	2前			2		○			1						

		建築構造力学2	2後			2		○			1						
		環境・都市基礎	1後			2		○			5	1					オムニバス
		環境・都市基礎演習	1後			1			○		5	1					オムニバス
		SDGsと環境	1前			2		○			1						
		都市計画基礎	2前			2		○								1	
		都市計画演習	2前			1			○		1						
		都市環境デザイン	3前			2		○			1						
		都市及び都市計画史	1前			2		○			1						
		都市・地域システム計画	3前			2		○			3	1				1	オムニバス
		Global Governance and Sustainable Strategy	2後			2		○			1						
		土地利用計画	2後			3		○			1						※演習
		景観・ランドスケープデザイン	3後			2		○			1						
		資源・エネルギーシステム論	2前			3		○			1						※演習
		環境政策	3前			2		○			1						
		環境ビジネス	2後			3		○			1						※演習
		脱炭素と地域創発	3前			2		○			1						
		論理と集合	1前			2		○			1						
		解析基礎	1後			2		○			1						
		代数学1	2前			2		○						1			
		幾何学1	2前			2		○				1					
		ベクトル解析	3前			2		○			1						
		複素解析	2後			2		○			1						
		数値解析1	2前			2		○			1						
		数理計画法	2前			2		○			1						
		現象の数理	2前			2		○			1						
		数理科学概論	1後			2		○			8	3		1			オムニバス
		金融工学	3前			2		○				1					
		保険数学	3前			2		○				1					
		小計（125科目）	—			227		－			38	11		3		17	
	総合研究	総合研究１	3前	○	2					○	12	8					
		総合研究２	3後	○	2					○	12	8					
		総合研究３	4前	○	4					○	12	8					
		総合研究４	4後	○	4					○	12	8					
		小計（4科目）	—		12						12	8					
合計（299科目）			—		31	534	13	－			51	19		3		67	

学位又は称号	学士（生命科学）	学位又は学科の分野	工学関係、理学関係、体育関係 【大学設置基準第49条の４に定める専攻分野】　生命科学

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
別紙１、別紙２に記載	１学年の学期区分	2学期
	１学期の授業期間	14週
	１時限の授業の標準時間	100分

【卒業・修了要件及び履修方法】

・所属する学生は、以下の要件を満たしたうえで１２４単位を取得すること。

・なお、履修上限は、通期４８単位以下（半期２４単位以下）とする。

【生命科学コース】

科目系列	基礎教養科目			学際科目	専門科目		
	理数・情報	社会科学 人文科学 保健体育	英語	SDGs・キャリアデザイン システム工学 アントレプレナーシップ	主専攻	副専攻	総合研究
単位数	必修６単位、コース必修８単位を含む ２０単位以上	選択必修２単位を含む ６単位以上	８単位以上	必修１３単位以上	主専攻５モジュール または 主専攻４モジュール+副専攻１モジュール		必修 １２単位
	必修19単位、選択必修２単位、コース必修６単位を含む４８単位以上				コース必修20単位を含む６０単位以上		
総単位数	必修31単位、選択必修２単位、コース必修28単位を含む１２４単位以上						

【基礎教養】
〈理数・情報〉
コース必修：微分積分I、線形代数１、生物学、化学
〈人文科学〉
選択必修：倫理学、生命倫理概論、技術者と倫理

【専門科目】
〈主専攻〉
コース必修：生理学、生化学、生命健康統計学、医療・医学概論、生命科学実験（基礎）、生命科学実験（応用）、生命科学実験（発展）
・※１12単位以上修得で1モジュールの完成とする
・科目が複数のモジュールで重複する場合はモジュールの完成※１には重複してカウントされるが、総単位数には単位数は重複してカウントされない
・専門基礎モジュールを必修とする
・バイオサイエンステクニカルモジュールをコース必修とする
・主専攻５モジュール または　主専攻４モジュール+副専攻１モジュール を完成すること
・上記いずれかのモジュール完成後、修得単位数が60単位に満たない場合は主専攻の未修得科目から選択し、修得単位数を60単位以上にすること

【医工学コース】

科目系列	基礎教養科目			学際科目	専門科目		
	理数・情報	社会科学 人文科学 保健体育	英語	SDGs・キャリアデザイン システム工学 アントレプレナーシップ	主専攻	副専攻	総合研究
単位数	必修6単位、コース必修8単位を含む２０単位以上	選択必修２単位を含む ６単位以上	８単位以上	必修１３単位以上	主専攻５モジュール または 主専攻４モジュール+副専攻１モジュール		必修 １２単位
	必修19単位、選択必修２単位、コース必修８単位を含む４８単位以上				コース必修14単位を含む６０単位以上		
総単位数	必修31単位、選択必修２単位、コース必修22単位を含む１２４単位以上						

【基礎教養】
〈理数・情報〉
コース必修：微分積分I、線形代数１、力学１、電磁気学
〈人文科学〉
選択必修：倫理学、生命倫理概論、技術者と倫理

【専門科目】
〈主専攻〉
コース必修：Pythonプログラミング、医工学概論、医工学エレクトロニクス演習、機械設計製作演習、医工学セミナー、CAD/CAM演習
・※１12単位以上修得で1モジュールの完成とする
・科目が複数のモジュールで重複する場合はモジュールの完成※１には重複してカウントされるが、総単位数には単位数は重複してカウントされない
・専門基礎モジュールを必修とする
・医工学モジュールをコース必修とする
・主専攻５モジュール または　主専攻４モジュール+副専攻１モジュール を完成すること
・上記いずれかのモジュール完成後、修得単位数が60単位に満たない場合は主専攻の未修得科目から選択し、修得単位数を60単位以上にすること

【スポーツ工学コース】

科目系列	基礎教養科目			学際科目	専門科目		
	理数・情報	社会科学 人文科学 保健体育	英語	SDGs・キャリアデザイン システム工学 アントレプレナーシップ	主専攻	副専攻	総合研究
単位数	必修６単位を含む １０単位以上	選択必修２単位を含む ６単位以上	８単位以上	必修１３単位以上	主専攻５モジュール または 主専攻４モジュール+副専攻１モジュール		必修 １２単位
	必修１９単位、選択必修２単位を含む４８単位以上				コース必修13単位を含む６０単位以上		
総単位数	必修３1単位、選択必修２単位、コース必修13単位を含む１２４単位以上						

【基礎教養】
〈人文科学〉
選択必修：倫理学、生命倫理概論、技術者と倫理

【専門科目】
〈主専攻〉
コース必修：生理学、解剖学、Pythonプログラミング、スポーツ工学実験演習１、スポーツ工学実験演習２
・※１12単位以上修得で1モジュールの完成とする
・科目が複数のモジュールで重複する場合はモジュールの完成※１には重複してカウントされるが、総単位数には単位数は重複してカウントされない
・専門基礎モジュールを必修とする
・主専攻５モジュール または　主専攻４モジュール+副専攻１モジュール を完成すること
・上記いずれかのモジュール完成後、修得単位数が60単位に満たない場合は主専攻の未修得科目から選択し、修得単位数を60単位以上にすること

【別紙２】

生命科学課程　生命科学コース

モジュール名称		科目名称	単位区分
主専攻モジュール	専門基礎モジュール（必修）	生理学	必修
		生化学	必修
		生命統計学	選択
		医学・医療概論	選択
		解剖学	選択
		Python入門	選択
		Pythonプログラミング	選択
		Global Project-Based Learning 1	選択
		Introduction to Embedded Programming	選択
	バイオサイエンステクニカルモジュール（必修）	生命科学実験（基礎）	必修
		生命科学実験（応用）	必修
		生命科学実験（発展）	必修
	ライフサイエンスモジュール	生命科学概論	選択
		有機化学	選択
		分析化学	選択
		Basic Bioscience	選択
		無機化学	選択
		物理化学	選択
		分子遺伝学	選択
		薬理学	選択
	ヒューマンヘルスサイエンスモジュール	食品栄養学	選択
		公衆衛生学	選択
		神経生理学	選択
		細胞生理学	選択
		発生生物学	選択
		分子生物学	選択
		生物物理学	選択
		Advanced Bioscience	選択
		健康行動栄養学	選択
	サステイナブルバイオサイエンスモジュール	生物地球化学	選択
		環境化学	選択
		構造解析学	選択
		創薬化学	選択
		微生物学	選択
		Genetic Engineering	選択
		Advanced Bioscience	選択
		生体高分子工学	選択
		健康データサイエンス	選択

【別紙２】

生命科学課程　生命科学コース

モジュール名称		科目名称	単位区分	
副専攻モジュール	生命科学（理科・工業）教職モジュール	教育の方法及び技術	モジュール必修	
		教育におけるICT活用	モジュール必修	
		理科指導法1	モジュール選択必修A	モジュール選択必修AまたはBで４単位以上
		理科指導法2	モジュール選択必修A	
		理科指導法3	選択	
		理科指導法4	選択	
		環境化学	選択	
		総合科学実験	選択	
		生理学	選択	
		生化学	選択	
		物理化学	選択	
		生物地球化学	選択	
		電気電子回路	選択	
		無機化学	選択	
		有機化学	選択	
		生命科学概論	選択	
		工業科指導法１	モジュール選択必修B	モジュール選択必修AまたはBで４単位以上
		工業科指導法2	モジュール選択必修B	
		職業指導	選択	
		工学基礎概論	選択	
		生命健康統計学	選択	
		Pythonプログラミング	選択	
		医学・医療概論	選択	
		医工学概論	選択	
	留学モジュール	Introduction to Embedded Programming	モジュール選択必修	４単位以上
		Global Project-Based Learning 1	モジュール選択必修	
		Global Project-Based Learning 2	モジュール選択必修	
		Global Project-Based Learning 3	モジュール選択必修	
		Cross-cultural Student Support	選択	
		Introduction to Biomedical-Engineering	選択	
		Basic Control Engineering	選択	
		Introduction to Control Engineering	選択	
		生体計測学	選択	
		Basic Bioscience	選択	
		Advanced Bioscience	選択	
		Genetic Engineering	選択	
		スポーツ工学概論	選択	

【別紙２】

生命科学課程　生命科学コース

モジュール名称		科目名称	単位区分
	教育モジュール	教職論	選択
		特別活動の指導法	選択
		総合的な学習の時間の指導法	選択
		道徳の理論及び指導法	選択
		生徒・進路指導論	選択
		教育課程論	選択
		教育相談論	選択
		教育心理学	選択
		特別支援教育論	選択
	IoT基礎モジュール	IoT基礎	モジュール必修
		IoT設計論	モジュール必修
		電気回路	選択
		フロントエンドとインタフェース基礎	選択
		センサとアクチュエータ	選択
		ディジタル信号処理	選択
		数値解析	選択
		電子回路	選択
	プログラミングモジュール	プログラミング入門	選択
		Python入門	モジュール必修
		Cプログラミング（情報）	選択
		データ構造とアルゴリズム	モジュール必修
		オブジェクト指向言語	選択
		モバイルプログラミング	選択
		ネットワークプログラミング	選択
		Computer　simulation	選択
	ソフトウエア開発モジュール	ソフトウェア設計論	モジュール必修
		ソフトウェア開発管理	モジュール必修
		現代的ソフトウェア構築技法	モジュール必修
		ゲームプログラミング	選択
		モバイルプログラミング	選択
		データベース	選択
		情報セキュリティ	選択
	情報ネットワークモジュール	インターネットプロトコル	モジュール必修
		情報理論	モジュール必修
		符号理論	選択
		ネットワークアプリケーション	選択
		ICT Systems Design	選択
		クラウドコンピューティング	選択
		ネットワークプログラミング	選択

【別紙２】

生命科学課程　生命科学コース

モジュール名称		科目名称	単位区分
副専攻モジュール	メディア工学モジュール	メディア処理基礎	モジュール必修
		メディア処理1	モジュール必修
		メディア処理2	選択
		音声音響情報処理	選択
		自然言語処理	選択
		画像情報処理	選択
		ディジタル信号処理	選択
		ICT Systems Design	選択
	サイバースペースモジュール	メディア処理基礎	モジュール必修
		コンピュータグラフィックス	モジュール必修
		VR/AR1	選択
		VR/AR2	選択
		ヒューマンコンピュータインタラクション	選択
		サイバーセキュリティ	選択
		エンタテインメントコンピューティング	選択
		ネットワークアプリケーション	選択
		インターネットプロトコル	選択
	メディアデザインモジュール	メディア処理基礎	モジュール必修
		コンピュータグラフィックス	モジュール必修
		メディアデザイン1	選択
		メディアデザイン2	選択
		メディア認知心理・人間工学	選択
		メディア表現基礎	選択
		メディア表現応用	選択
		メディアコンテンツビジネス	選択
	社会データサイエンスモジュール	プログラミング入門	選択
		Python入門	選択
		社会システム入門	モジュール必修
		データサイエンス入門	モジュール必修
		社会シミュレーション入門	モジュール必修
		ゲーミング入門	モジュール必修
		システム科学	選択
		社会システム実践演習	選択
		データサイエンス応用	モジュール必修
		数理シミュレーション	選択
		シミュレーション&ゲーミング	選択
		消費者行動論	選択
		社会調査法	選択
		ビジネスエコノミクス	選択
		金融・経済リテラシー	選択
		マーケティング論	選択
		クリエイティブ産業論	選択
		保健医療福祉政策概論	選択

【別紙２】

生命科学課程　生命科学コース

モジュール名称		科目名称	単位区分
副専攻モジュール	機械・電気工学入門モジュール	機械・電気システムセミナー	選択
		機構学	選択
		電気機器システム	選択
		材料・加工学	選択
		Introduction to Industrial Design	選択
		ものづくり工学	選択
		制御工学	選択
		機械計測工学	選択
		自動車工学	選択
	建築モジュール	建築史	選択
		建築基礎演習	選択
		建築構造基礎	選択
		建築計画基礎	選択
		建築環境設備基礎	選択
		建築設計情報演習	選択
		建設プロジェクトマネジメント	選択
		建築材料	選択
		建築生産・施工	選択
		建築環境工学	選択
		建築構造設計	選択
		建築構造力学1	選択
		建築構造力学2	選択
	都市・環境モジュール	環境・都市基礎	モジュール必修
		環境・都市基礎演習	選択
		SDGsと環境	選択
		都市計画基礎	モジュール必修
		都市計画演習	選択
		都市環境デザイン	選択
		都市及び都市計画史	選択
		都市・地域システム計画	選択
		Global Governance and Sustainable Strategy	選択
		土地利用計画	選択
		景観・ランドスケープデザイン	選択

【別紙２】

生命科学課程　生命科学コース

モジュール名称		科目名称	単位区分
副専攻モジュール	環境・社会モジュール	環境・都市基礎	モジュール必修
		環境・都市基礎演習	選択
		SDGsと環境	選択
		資源・エネルギーシステム論	選択
		環境政策	選択
		環境ビジネス	選択
		脱炭素と地域創発	選択
	医工学モジュール	バイオイメージング	選択
		医工学概論	選択
		バイオマテリアル	選択
		バイオレオロジー	選択
		バイオメカニクス	選択
		メカトロニクス	選択
		バイオエレクトロニクス	選択
		バイオメカニカルエンジニアリング	選択
	スポーツ工学モジュール	スポーツ工学概論	選択
		スポーツ工学研究法	選択
		健康行動栄養学	選択
		スポーツ信号処理	選択
		映像メディア解析	選択
		応用バイオメカニクス	選択
		脳機能計測学	選択
		健康長寿学	選択
	数理科学モジュール	論理と集合	選択
		解析基礎	選択
		代数学1	選択
		幾何学1	選択
		ベクトル解析	選択
		複素解析	選択
		数値解析1	選択
		数理計画法	選択
		現象の数理	選択
		数理科学概論	選択
		金融工学	選択
		保険数学	選択

【別紙２】

生命科学課程　医工学コース

モジュール名称		科目名称	単位区分
主専攻モジュール	専門基礎モジュール（必修）	解剖学	選択
		Introduction to Embedded Programming	選択
		Python入門	必修
		医学・医療概論	選択
		生命統計学	選択
		生理学	選択
		Pythonプログラミング	必修
		生化学	選択
		Global Project-Based Learning 1	選択
	医工学モジュール（必修）	医工学概論	必修
		Introduction to Biomedical-Engineering	選択
		医工学エレクトロニクス演習	必修
		機械設計製作演習	必修
		医工学セミナー	必修
		CAD/CAM演習	必修
		医工学プログラミング演習	必修
	ものづくりモジュール	機械力学	選択
		機構学	選択
		電気電子回路	必修
		機械・電気基礎数学	選択
		人工知能基礎	選択
		Introduction to Control Engineering	選択
		材料力学	選択
		流れ学	選択
		制御工学	選択
		Basic Control Engineering	選択
		ものづくり工学	選択
	バイオエンジニアリングモジュール	分子生物学	選択
		神経生理学	選択
		バイオマテリアル	選択
		バイオレオロジー	選択
		物理化学	選択
		薬理学	選択
		バイオイメージング	選択
		バイオエレクトロニクス	選択
		バイオエンジニアリング実験	選択
	メディカルエンジニアリングモジュール	スポーツ信号処理	選択
		生体計測学	選択
		応用バイオメカニクス	選択
		バイオメカニクス	選択
		メカトロニクス	選択
		ロボティクス	選択
		健康データサイエンス	選択
		バイオメカニカルエンジニアリング	選択
		メディカルエンジニアリング実験	選択

【別紙２】

生命科学課程　医工学コース

モジュール名称		科目名称	単位区分	
副専攻モジュール	生命科学（理科・工業）教職モジュール	教育の方法及び技術	モジュール必修	
		教育におけるICT活用	モジュール必修	
		理科指導法1	モジュール選択必修A	モジュール選択必修A またはBで４単位以上
		理科指導法2	モジュール選択必修A	
		理科指導法3	選択	
		理科指導法4	選択	
		環境化学	選択	
		総合科学実験	選択	
		生理学	選択	
		生化学	選択	
		物理化学	選択	
		生物地球化学	選択	
		電気電子回路	選択	
		無機化学	選択	
		有機化学	選択	
		生命科学概論	選択	
		工業科指導法１	モジュール選択必修B	モジュール選択必修A またはBで４単位以上
		工業科指導法2	モジュール選択必修B	
		職業指導	選択	
		工学基礎概論	選択	
		生命健康統計学	選択	
		Pythonプログラミング	選択	
		医学・医療概論	選択	
		医工学概論	選択	
	留学モジュール	Introduction to Embedded Programming	モジュール選択必修	４単位以上
		Global Project-Based Learning 1	モジュール選択必修	
		Global Project-Based Learning 2	モジュール選択必修	
		Global Project-Based Learning 3	モジュール選択必修	
		Cross-cultural Student Support	選択	
		Introduction to Biomedical-Engineering	選択	
		Basic Control Engineering	選択	
		Introduction to Control Engineering	選択	
		生体計測学	選択	
		Basic Bioscience	選択	
		Advanced Bioscience	選択	
		Genetic Engineering	選択	
		スポーツ工学概論	選択	

【別紙２】

生命科学課程　医工学コース

モジュール名称		科目名称	単位区分
副専攻モジュール	教育モジュール	教職論	選択
		特別活動の指導法	選択
		総合的な学習の時間の指導法	選択
		道徳の理論及び指導法	選択
		生徒・進路指導論	選択
		教育課程論	選択
		教育相談論	選択
		教育心理学	選択
		特別支援教育論	選択
	ＩｏＴ基礎モジュール	IoT基礎	モジュール必修
		IoT設計論	モジュール必修
		電気回路	選択
		フロントエンドとインタフェース基礎	選択
		センサとアクチュエータ	選択
		ディジタル信号処理	選択
		数値解析	選択
		電子回路	選択
	プログラミングモジュール	プログラミング入門	選択
		Python入門	モジュール必修
		Cプログラミング（情報）	選択
		データ構造とアルゴリズム	モジュール必修
		オブジェクト指向言語	選択
		モバイルプログラミング	選択
		ネットワークプログラミング	選択
		Computer　simulation	選択
	ソフトウエア開発モジュール	ソフトウェア設計論	モジュール必修
		ソフトウェア開発管理	モジュール必修
		現代的ソフトウェア構築技法	モジュール必修
		ゲームプログラミング	選択
		モバイルプログラミング	選択
		データベース	選択
		情報セキュリティ	選択
	情報ネットワークモジュール	インターネットプロトコル	モジュール必修
		情報理論	モジュール必修
		符号理論	選択
		ネットワークアプリケーション	選択
		ICT Systems Design	選択
		クラウドコンピューティング	選択
		ネットワークプログラミング	選択
	メディア工学モジュール	メディア処理基礎	モジュール必修
		メディア処理1	モジュール必修
		メディア処理2	選択
		音声音響情報処理	選択
		自然言語処理	選択
		画像情報処理	選択
		ディジタル信号処理	選択
		ICT Systems Design	選択
	サイバースペースモジュール	メディア処理基礎	モジュール必修
		コンピュータグラフィックス	モジュール必修
		VR/AR1	選択
		VR/AR2	選択
		ヒューマンコンピュータインタラクション	選択
		サイバーセキュリティ	選択
		エンタテインメントコンピューティング	選択
		ネットワークアプリケーション	選択
		インターネットプロトコル	選択

【別紙２】

生命科学課程　医工学コース

モジュール名称		科目名称	単位区分
副専攻モジュール	メディアデザインモジュール	メディア処理基礎	モジュール必修
		コンピュータグラフィックス	モジュール必修
		メディアデザイン1	選択
		メディアデザイン2	選択
		メディア認知心理・人間工学	選択
		メディア表現基礎	選択
		メディア表現応用	選択
		メディアコンテンツビジネス	選択
	社会データサイエンスモジュール	プログラミング入門	選択
		Python入門	選択
		社会システム入門	モジュール必修
		データサイエンス入門	モジュール必修
		社会シミュレーション入門	モジュール必修
		ゲーミング入門	モジュール必修
		システム科学	選択
		社会システム実践演習	選択
		データサイエンス応用	モジュール必修
		数理シミュレーション	選択
		シミュレーション＆ゲーミング	選択
		消費者行動論	選択
		社会調査法	選択
		ビジネスエコノミクス	選択
		金融・経済リテラシー	選択
		マーケティング論	選択
		クリエイティブ産業論	選択
		保健医療福祉政策概論	選択
	機械・電気工学入門モジュール	機械・電気システムセミナー	選択
		機構学	選択
		電気機器システム	選択
		材料・加工学	選択
		Introduction to Industrial Design	選択
		ものづくり工学	選択
		制御工学	選択
		機械計測工学	選択
		自動車工学	選択
	建築モジュール	建築史	選択
		建築基礎演習	選択
		建築構造基礎	選択
		建築計画基礎	選択
		建築環境設備基礎	選択
		建築設計情報演習	選択
		建設プロジェクトマネジメント	選択
		建築材料	選択
		建築生産・施工	選択
		建築環境工学	選択
		建築構造設計	選択
		建築構造力学1	選択
		建築構造力学2	選択

【別紙２】

生命科学課程　医工学コース

モジュール名称		科目名称	単位区分
副専攻モジュール	都市・環境モジュール	環境・都市基礎	モジュール必修
		環境・都市基礎演習	選択
		SDGsと環境	選択
		都市計画基礎	モジュール必修
		都市計画演習	選択
		都市環境デザイン	選択
		都市及び都市計画史	選択
		都市・地域システム計画	選択
		Global Governance and Sustainable Strategy	選択
		土地利用計画	選択
		景観・ランドスケープデザイン	選択
	環境・社会モジュール	環境・都市基礎	モジュール必修
		環境・都市基礎演習	選択
		SDGsと環境	選択
		資源・エネルギーシステム論	選択
		環境政策	選択
		環境ビジネス	選択
		脱炭素と地域創発	選択
	バイオサイエンスモジュール	生命科学概論	選択
		細胞生理学	選択
		分子生物学	選択
		有機化学	選択
		食品栄養学	選択
		微生物学	選択
		発生生物学	選択
		分析化学	選択
		生物物理学	選択
	スポーツ工学モジュール	スポーツ工学概論	選択
		スポーツ工学研究法	選択
		健康行動栄養学	選択
		スポーツ信号処理	選択
		映像メディア解析	選択
		応用バイオメカニクス	選択
		脳機能計測学	選択
		健康長寿学	選択

【別紙２】

生命科学課程　医工学コース

モジュール名称		科目名称	単位区分
副専攻モジュール	数理科学モジュール	論理と集合	選択
		解析基礎	選択
		代数学1	選択
		幾何学1	選択
		ベクトル解析	選択
		複素解析	選択
		数値解析1	選択
		数理計画法	選択
		現象の数理	選択
		数理科学概論	選択
		金融工学	選択
		保険数学	選択

【別紙２】

生命科学課程　スポーツ工学コース

モジュール名称		科目名称	単位区分
主専攻モジュール	専門基礎モジュール	生理学	必修
		生化学	選択
		生命統計学	選択
		医学・医療概論	選択
		Introduction to Embedded Programming	選択
		解剖学	必修
		Python入門	必修
		Pythonプログラミング	必修
		Global Project-Based Learning 1	選択
	データ計測・解析モジュール	データサイエンス入門	選択
		データ解析	選択
		スポーツ工学実験演習1	必修
		スポーツ工学実験演習2	必修
		スポーツ工学とSDGs	選択
		健康データサイエンス	選択
		保健医療福祉政策概論	選択
		スポーツ工学研究法	選択
		脳機能計測学	選択
	運動理論モジュール	健康行動栄養学	選択
		健康長寿学	選択
		体力医科学	選択
		食品栄養学	選択
		公衆衛生学	選択
		運動生理学	選択
		機能解剖学	選択
		神経生理学	選択
	エンジニアリングモジュール	スポーツ信号処理	選択
		スポーツ工学概論	選択
		生体計測学	選択
		応用バイオメカニクス	選択
		メディア認知心理・人間工学	選択
		スポーツ画像工学	選択
		映像メディア解析	選択
	ものづくり理論モジュール	機械力学	選択
		機構学	選択
		電気電子回路	選択
		材料力学	選択
		流れ学	選択
		バイオメカニクス	選択
		ものづくり工学	選択
		Basic Control Engineering	選択
		Introduction to Control Engineering	選択

【別紙２】

生命科学課程　スポーツ工学コース

モジュール名称		科目名称	単位区分	
副専攻モジュール	生命科学（理科・工業）教職モジュール	教育の方法及び技術	モジュール必修	
		教育におけるICT活用	モジュール必修	
		理科指導法1	モジュール選択必修A	モジュール選択必修A またはBで４単位以上
		理科指導法2	モジュール選択必修A	
		理科指導法3	選択	
		理科指導法4	選択	
		環境化学	選択	
		総合科学実験	選択	
		生理学	選択	
		生化学	選択	
		物理化学	選択	
		生物地球化学	選択	
		電気電子回路	選択	
		無機化学	選択	
		有機化学	選択	
		生命科学概論	選択	
		工業科指導法１	モジュール選択必修B	モジュール選択必修A またはBで４単位以上
		工業科指導法2	モジュール選択必修B	
		職業指導	選択	
		工学基礎概論	選択	
		生命統計学	選択	
		Pythonプログラミング	選択	
		医学・医療概論	選択	
		医工学概論	選択	
	留学モジュール	Introduction to Embedded Programming	モジュール選択必修	４単位以上
		Global Project-Based Learning 1	モジュール選択必修	
		Global Project-Based Learning 2	モジュール選択必修	
		Global Project-Based Learning 3	モジュール選択必修	
		Cross-cultural Student Support	選択	
		Introduction to Biomedical-Engineering	選択	
		Basic Control Engineering	選択	
		Introduction to Control Engineering	選択	
		生体計測学	選択	
		Basic Bioscience	選択	
		Advanced Bioscience	選択	
		Genetic Engineering	選択	
		スポーツ工学概論	選択	
	教育モジュール	教職論	選択	
		特別活動の指導法	選択	
		総合的な学習の時間の指導法	選択	
		道徳の理論及び指導法	選択	
		生徒・進路指導論	選択	
		教育課程論	選択	
		教育相談論	選択	
		教育心理学	選択	
		特別支援教育論	選択	
	IoT基礎モジュール	IoT基礎	モジュール必修	
		IoT設計論	モジュール必修	
		電気回路	選択	
		フロントエンドとインタフェース基礎	選択	
		センサとアクチュエータ	選択	
		ディジタル信号処理	選択	
		数値解析	選択	
		電子回路	選択	

【別紙２】

生命科学課程　スポーツ工学コース

モジュール名称		科目名称	単位区分
副専攻モジュール	プログラミングモジュール	プログラミング入門	選択
		Python入門	モジュール必修
		Cプログラミング（情報）	選択
		データ構造とアルゴリズム	モジュール必修
		オブジェクト指向言語	選択
		モバイルプログラミング	選択
		ネットワークプログラミング	選択
		Computer　simulation	選択
	ソフトウエア開発モジュール	ソフトウェア設計論	モジュール必修
		ソフトウェア開発管理	モジュール必修
		現代的ソフトウェア構築技法	モジュール必修
		ゲームプログラミング	選択
		モバイルプログラミング	選択
		データベース	選択
		情報セキュリティ	選択
	情報ネットワークモジュール	インターネットプロトコル	モジュール必修
		情報理論	モジュール必修
		符号理論	選択
		ネットワークアプリケーション	選択
		ICT Systems Design	選択
		クラウドコンピューティング	選択
		ネットワークプログラミング	選択
	メディア工学モジュール	メディア処理基礎	モジュール必修
		メディア処理1	モジュール必修
		メディア処理2	選択
		音声音響情報処理	選択
		自然言語処理	選択
		画像情報処理	選択
		ディジタル信号処理	選択
		ICT Systems Design	選択

【別紙２】

生命科学課程　スポーツ工学コース

モジュール名称		科目名称	単位区分
副専攻モジュール	サイバースペースモジュール	メディア処理基礎	モジュール必修
		コンピュータグラフィックス	モジュール必修
		VR/AR1	選択
		VR/AR2	選択
		ヒューマンコンピュータインタラクション	選択
		サイバーセキュリティ	選択
		エンタテインメントコンピューティング	選択
		ネットワークアプリケーション	選択
		インターネットプロトコル	選択
	メディアデザインモジュール	メディア処理基礎	モジュール必修
		コンピュータグラフィックス	モジュール必修
		メディアデザイン1	選択
		メディアデザイン2	選択
		メディア認知心理・人間工学	選択
		メディア表現基礎	選択
		メディア表現応用	選択
		メディアコンテンツビジネス	選択
	社会データサイエンスモジュール	プログラミング入門	選択
		Python入門	選択
		社会システム入門	モジュール必修
		データサイエンス入門	モジュール必修
		社会シミュレーション入門	モジュール必修
		ゲーミング入門	モジュール必修
		システム科学	選択
		社会システム実践演習	選択
		データサイエンス応用	モジュール必修
		数理シミュレーション	選択
		シミュレーション＆ゲーミング	選択
		消費者行動論	選択
		社会調査法	選択
		ビジネスエコノミクス	選択
		金融・経済リテラシー	選択
		マーケティング論	選択
		クリエイティブ産業論	選択
		保健医療福祉政策概論	選択
	機械・電気工学入門モジュール	機械・電気システムセミナー	選択
		機構学	選択
		電気機器システム	選択
		材料・加工学	選択
		Introduction to Industrial Design	選択
		ものづくり工学	選択
		制御工学	選択
		機械計測工学	選択
		自動車工学	選択

【別紙２】

生命科学課程　スポーツ工学コース

モジュール名称		科目名称	単位区分
副専攻モジュール	建築モジュール	建築史	選択
		建築基礎演習	選択
		建築構造基礎	選択
		建築計画基礎	選択
		建築環境設備基礎	選択
		建築設計情報演習	選択
		建設プロジェクトマネジメント	選択
		建築材料	選択
		建築生産・施工	選択
		建築環境工学	選択
		建築構造設計	選択
		建築構造力学1	選択
		建築構造力学2	選択
	都市・環境モジュール	環境・都市基礎	モジュール必修
		環境・都市基礎演習	選択
		SDGsと環境	選択
		都市計画基礎	モジュール必修
		都市計画演習	選択
		都市環境デザイン	選択
		都市及び都市計画史	選択
		都市・地域システム計画	選択
		Global Governance and Sustainable Strategy	選択
		土地利用計画	選択
		景観・ランドスケープデザイン	選択
	環境・社会モジュール	環境・都市基礎	モジュール必修
		環境・都市基礎演習	選択
		SDGsと環境	選択
		資源・エネルギーシステム論	選択
		環境政策	選択
		環境ビジネス	選択
		脱炭素と地域創発	選択
	バイオサイエンスモジュール	生命科学概論	選択
		細胞生理学	選択
		分子生物学	選択
		有機化学	選択
		食品栄養学	選択
		微生物学	選択
		発生生物学	選択
		分析化学	選択
		生物物理学	選択

【別紙２】

生命科学課程　スポーツ工学コース

モジュール名称		科目名称	単位区分
副専攻モジュール	医工学モジュール	バイオイメージング	選択
		医工学概論	選択
		バイオマテリアル	選択
		バイオレオロジー	選択
		バイオメカニクス	選択
		メカトロニクス	選択
		バイオエレクトロニクス	選択
		バイオメカニカルエンジニアリング	選択
	数理科学モジュール	論理と集合	選択
		解析基礎	選択
		代数学1	選択
		幾何学1	選択
		ベクトル解析	選択
		複素解析	選択
		数値解析1	選択
		数理計画法	選択
		現象の数理	選択
		数理科学概論	選択
		金融工学	選択
		保険数学	選択

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	ＳＤＧｓ・キャリアデザイン	SDGs入門	○	本科目は、2015年に国連サミットで採択された持続可能な開発目標（SDGs）を実際の社会にどのように結びつけ、具体的な行動に移すかを探求する講義科目である。SDGsの基本的な理解を築くとともに、それを達成の課題にどのように応用できるかに焦点を当てる。SDGsが社会に与える影響や、異なる専攻やキャリアにおいてどのように実践できるかを具体例を交えながら学ぶ。企業、政府、市民社会との連携や協働の重要性を強調し、SDGsの実装においてどのような役割を果たすのかを実践的なケーススタディを通じて理解する。国内外のプロジェクトや事例を紹介し、学生が将来の職場やコミュニティでSDGsを具体的に推進するための戦略を考える手助けをする。学生はSDGsを抽象的な概念から具体的な社会実装へと結びつけ、自らが関わる社会において積極的な変化を起こすためのスキルと意識を身につけること目標とする。	
		未来を創る1	○	前半は、ものづくり、ことづくりに必要なキャリア形成について学ぶ。キャリアデザインとは、学修者自身が将来へ向けた行動計画を構想し策定するものである。社会で起こっている事象や企業、機関、組織の活動事例に学び、変化する社会と大学教育との関係性を知り、将来の夢と結び付けて学修する動機を形成する。めざす職業や職能に必要な知識や技能を計画的に修得し、生涯に渡るキャリアについて、主体的に考え、実現のために必要な学修の手順や方法を実践的に学ぶ。自らの考えと他者の考えとの共通性と違いを知ることで多様性に対する理解を深めつつ、なりたい自分を発見的に見出すために、個人ワークとグループワークを経験し、主体的に考え、議論し、文書化し、他者に説明することで、自己理解を深め自ら行動できるようになる。 後半は、SDGsに関する基礎知識を学び、ものづくり、ことづくりの動機・目的を形成した上で、グループワークによる、ものづくり、ことづくりの体験学修を実践する。授業は15名程度のグループ作業で、教員が示すSDGsの課題解決に関連するテーマを理解し、知的好奇心、知的遊び心で、何らかの「もの」「こと」を創造する。「創る」におけるテーマの範囲は、実社会のあらゆる事象を対象とし、社会が抱えるより具体的な課題解決を図る。	
		未来を創る2	○	「未来を創る1」の前半「キャリアデザイン」で取り組んだ社会の動向と自らの将来の夢を結び付けた学修計画を基に、めざす職業や職能をより具体化し、それを実現するための研究内容を構想するものである。1年次に策定した学修計画の実践経緯を省察し、グループワークで議論することで自らの学修計画の改善を図る。1、2年次に学修した知識や技能を総括し、3年次以降の総合研究で取り組むべき方向性を策定する。社会貢献が果たせるキャリアについて、個人ワークとグループワークを交互に繰り返し、自ら取り組むべき研究計画を文書化し、他者に説明することで、自己理解を深め、積極的な研究活動を開始する。	
		ダイバーシティ入門		現代社会では、科学技術の発展や経済の急速な構造変化に伴い、グローバル化とイノベーションが求められている。多様な人材が異なる文化や技術、考え方を交わせる環境と、一人ひとりが異質な人々と仕事や活動を共にできる力、そこから何かを生み出す力が必要である。本科目では、 Diversity&Inclusion、すなわち、立場や特徴や価値観等の違いにかかわらず、多様なメンバーがあらゆる活動に同じように参加でき、等しく尊重され、力を伸ばし発揮できる社会の実現に向け、ダイバーシティの理解（問題と取組み）、ダイバーシティの諸相（ジェンダー・障害・文化・経営）、ダイバーシティの推進活動について学ぶ。様々な立場、特徴、価値観を有する人々が排除されたり不利益を受けたりする事象に目を向け、いかにそれを克服しうるかを考え、自らのとるべき態度と行動について説明できるようになることを目標とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （システム理工学部　生命科学課程）					
科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	ＳＤＧｓ・キャリアデザイン	インターンシップ		学生のキャリア形成支援に係る産学協働の取組の四つの類型のうち、タイプ３「汎用型能力・専門活用型インターンシップ」を対象として、その仕事に就く能力が自身に備わっているかどうか（仕事で通用するかどうか）を見極めることを目的に、自身の課程・コースの専門分野と副専攻分野に関連する将来のキャリアパス見据えた就業体験（企業実務の経験）を行う活動を実施する。なお、インターンシップを有益なものにするために、その趣旨を理解し、綿密な計画を立て、実際のインターンシップに臨むための事前準備を行う。実施期間中の取り組みについては、就業体験状況を日誌としてまとめ、インターンシップ終了後に実施内容について整理・考察したうえで、振り返り報告書を作成することで、自身のキャリアに対する気づきを得る。	共同
		芝浦工業大学通論		本講義では、大学の執行幹部（学長、理工学研究科長）による教学理念やビジョン、社会と工学との関わり、大学の現状と未来、学内で利用できる学生支援を聞くとともに、本学の歴史を批判的に振り返る。その後、卒業生による社会からみた本学の姿や学生に対するアドバイスなどを受けながら、大学やそこに在籍する自分自身を本音で見直す機会とする。外部の調査結果によると、多くの大学に入学してくる新入生の大部分は不本意入学者だと言われており、それは本学の学生調査にも見られる傾向となっている。しかし、学ぶこと自体は本来どこの大学でもできるはずであり、能動的に学んでいけるか否かは、自らが在籍する大学に根を張り、自分らしく学ぼうと思えるか否かである。	
		アントレプレナーシップA（価値創造）	○	アントレプレナーシップ：アイデアをかたちにする能力を学修する。この能力は、EUのアントレプレナーシップコンピテンシー、EntreComp（The European Entrepreneurship Competence Framework）で掲げられているものである。システム工学教育にて、EntreCompの15項目のコンピテンシーの多くの部分を学修している。ここでは、社会課題解決（社会貢献）に向けて、どんな社会にしたいのか、何が課題なのか（社会貢献）、自身が何をやりたいのか（目標）を明確し、社会貢献×自己実現、すなわち人/社会/世界/未来のためになること（ニーズ）×やりたいこと（目標）を達成させるために、行動に移すための能力とアイデアを価値創造活動に移すための金融・経済リテラシーを学修することが目標である。	共同
		アントレプレナーシップB（事業創出）		システム工学とアントレプレナーシップ入門で学修した知識と経験知を用いて、アイデアを価値創造に移すための事業創出プロセスを学修する。 ここでは、産官学金連携PBLや国際PBLで取り扱った課題や現在進行形のプロジェクト課題を題材として、スタートアップのビジネスモデルを可視化するリーンキャンバス（Lean Canvas）を用いて、新規事業の立ち上げのためのビジネスモデルの作成を実施する。また、社会性（Social）、経済合理性（Business）、創造性（Creative）、すなわちSBCの観点から、ビジネスモデルがバランスよくモデル化されているかを検証、ビジネスモデルの実現に向けたピッチ資料作成、発表を行う。この一連のプロセスを講義と演習を通じたアクティブラーニングで実施することで、アイデアを価値創造に移すための実践力を修得することが目標である。	共同

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （システム理工学部　生命科学課程）					
科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学際科目	アントレプレナーシップ	経営工学		経営工学は、より豊かな社会実現に向けた組織のよい運営を実現するための学問である。本講義では、経営工学の体系を学び、組織のよい運営のために、どうすればよいのか？よりも何をしなければならないのか？を理解できるようにする。 具体的には、価値定義・発見に関わる問題発見能力、価値実現の設計に関わる分析技術やシステム技術、システムの実現に関わる非認知能力が必要であること、経営要素として生産・人的資源・会計・物流・販売・情報・環境・倫理などが必要であること、システム方法論が重要であることを学ぶ。	
		産学官金連携PBL		産業界、地方自治体、金融機関から提供された現実の課題をPBL形式で実施する。システム工学教育で学修した「システム思考」、「システム手法」、「システムマネジメント」の考え方や技術を課題解決に適用し、実行する。この演習を通じて、実体験させ、総合的問題解決能力を身につけさせる。なお、プロジェクトの運用は一任されるが、隔週毎に教員全員に対してデザインレビューを実施することで、プロジェクトの妥当性を確認する。このプロジェクトチームのメンバーとして協働し、課題解決のためのシステム計画を具現化し、課題提供先に提案を行う。この演習の目標は、「他者と協力して協働し、アイデアを創出し、行動に移すことができる」「プロジェクト活動の難しさを他者との協働を通じて学ぶ」「デザインレビューを通じて、レビューのための資料作成技術、プレゼンテーション技術を理解する」「計画書の作成技術を理解する」となる。	共同
		会計簿記		アイデアを価値創造活動につなげるためのコスト見積、資本政策と実行に移すための中長期評価と資金調達管理を行うための基礎的知識を、ケーススタディを含めた講義形式で学ぶ。具体的には、コスト・原価・費用、財務諸表（損益計算書、貸借対照表、キャッシュフロー計算書）の構造と解釈方法、調達コストと資本コスト、資金管理について、「何のために事業を行うのか」「会社は誰のものか」「何のために存在するのか」という観点から学修する。この講義の到達目標は、「アイデアを価値創造活動に変えるコストを見積もることができる」「財務諸表の構造と解釈ができる」「資金調達管理の考え方や原理を理解できる」となる。なお、日商簿記検定3級の基礎部分の習得を目標とする。	
		システム工学Ａ（システム計画方法論）	○	INCOSEのSystems Engineering Handbookによれば、システムとは、「定義された目的を成し遂げるため、相互に作用する要素を組み合わせたものである。これにはハードウェア、ソフトウェア、ファームウェア、人、情報、技術、設備、サービスおよび他の支援要素を含む」である。この授業は、講義と演習形式で実施され、システム計画をするにあたって実行される問題発見・定義から始まる問題解決のためのシステム思考のプロセスと手法を学ぶ。また、課程・コースの学生が混成でプロジェクトチームを構成し、問題発見、要求分析、機能設計、評価、プロジェクト計画を行い、システム企画の提案をプレゼンテーションと文章による報告を行う。この講義と演習により、学問体系を横断し、関連づけるシステム工学のプロセスを理解し、総合的な解決策を導出・評価できる能力を修得することが目標である。	共同

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	システム工学	システム工学Ｂ（数理計画法）	○	１つの専門分野の知識のみでは解決することができない現代社会の問題に対して、総合的解決策を提示するための体系的な計画手法と分析手法をツールともに学ぶ。具体的には、講義・演習形式にて、数理計画法（線形計画、スケジューリング、待ち行列）、意思決定法、確率的シミュレーションとその質保証のためのV&Vを学修する。また、システム工学Aと同様に、課程・コースの学生が混成で、ビジネスを題材としたプロジェクトチームを結成し、ビジネスの実現に向けた演習活動を行う。この講義・演習を通じて、計画立案、意思決定、分析、最適化のための定量的な意思決定を行う能力を修得することが目標である。	共同
		プロジェクトマネジメント		あらゆる産業界で活躍するために、プロジェクトマネジメントがなぜ重要であるかを理解し、その体系と技法を学ぶ。また、事例と演習により理解を深め、プロジェクト計画ができるようになることが目標である。本講義では、標準的プロジェクトマネジメントのプロセスと知識体系の理解、プロジェクトマネジメントツールとその技法を演習を通じて学修する。さらに、実際の問題に適用できるように、プロジェクト計画の流れを理解し、演習形式でプロジェクト計画を作成する。	
		Advanced Systems Science and Engineering1		The goal of this course is to attempt to make some documents for solving real problems in English by using the process and methods of systems thinking for problem solving、 starting from problem discovery and definition、 which are implemented in systems planning as studied in Systems Engineering A. By discussing、 analyzing, and preparing materials for problem solving all in English, the course also aims to improve international competence. システム工学Aで学修したシステム計画をするにあたって実行される問題発見・定義から始まる問題解決のためのシステム思考のプロセスと手法を用いて、実際に実課題を解決する提案書を作成することを英語で試みることが本講義の目標である。問題解決に向けた議論、分析、資料の作成をすべて英語で行うことで、国際力の向上も狙う。	共同
		Advanced Systems Science and Engineering2		The goal of this course is to attempt make some prototype for solving real problems in English by using systematic planning and analysis methods to present comprehensive solutions to problems as studied in Systems Engineering B, using tools. By discussing, analyzing, and preparing materials for problem solving all in English, the course also aims to1mprove1nternational competence. システム工学Bで学修した問題に対して、総合的解決策を提示するための体系的な計画手法と分析手法をツールを用いて、実際に実課題を解決するプロトタイプを作成することを英語で試みることが本講義の目標である。問題解決に向けた議論、分析、資料の作成をすべて英語で行うことで、国際力の向上も狙う。	共同

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		信頼性工学		信頼性とは、「アイテムが与えられた条件の下で、与えられた期間、要求機能を発揮できる能力」(JISZ 8115:2000)のことである。平たく言うと、「製品が要求通りに機能し、寿命をまっとうできること」を意味する。信頼性工学では、信頼性を故障率や信頼度などの指標を用いて定量的に表し、それが要求を満足しているかどうかで評価し、さらに信頼性を改善する方法を体系化したものである。本講義は、信頼性工学の基礎を学修し、演習と組み合わせて製品開発の実務に役立てることができるようにすることが目的である。	
		人間工学		巨大システムを始め、ハードやソフトを開発・設計するには、その性能だけではなく、高齢者、子供の特性、使いやすさや使い勝手、そして安全であるという人間工学敵側面も考慮しなければならない。すなわち、より良い開発・設計には、そこに携わるエンジニアが人間工学的センスを身に付ける必要がある。本講義では、人間と道具・機械等の人工物との接点の学問である人間工学を通じて、学生の人間工学的センスを磨くことを目標とする。便利で快適な人間生活を支えるシステムでも持続可能性がなければ社会に浸透しない。逆に、エコロジーではあるが、安全に不安がある場合は社会が受け入れない。どのようなバランスと考え方をしていくのかを考えていく。また、日常生活での、経験をもとにデザインの重要性を理解し、人間工学的な評価方法を学修することを目的とする。	
		サイバーセキュリティと社会		本講義は、サイバーセキュリティと社会の関わりを学修し、関連する知見やスキルの理解を深めることで、サイバーセキュリティの社会への影響を分析できることを目指す。サイバーセキュリティの実践には総合的な取組が必要である。例えば、サイバーセキュリティの強化には、技術的な知識に加えて、政治経済、組織管理、人間工学、法律、政策等の俯瞰的な視点が必要である。そこで本講義は、サイバーセキュリティに関するインシデント、国際的なサイバー空間における規範形成等の事例を上記の側面から多面的に分析し、予防、対処、防止の観点から技術的、または政策的な対策の議論を行う。	
		微分積分１		適度な演習を含む講義形式で行う。微分積分学は理工学のみならず、社会現象などの解析にも必要である。本科目では、高校で取得した知識を必要に応じて復習しながら、１変数関数の微分積分法を学ぶ。微分の分野では、逆三角関数や合成関数の微分公式を用いた具体的な関数の導関数の計算ができる・不定形の極限をロピタルの定理などを用いて求めることができる・Taylorの定理を理解することを目標とする。積分の分野では、部分積分や置換積分を用いて積分の計算ができるようになることを目標とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （システム理工学部　生命科学課程）					
科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	理数・情報	微分積分２		適度な演習を含む講義形式で行う。本科目では、「微分積分1」で学んだ１変数関数の微分積分法を必要に応じて復習しながら、多変数関数（主に２変数関数）の微分積分法を学ぶ。１変数関数では現れなかった偏微分や重積分について解説する。具体的には、多変数関数の極限・連続性、多変数関数の偏導関数・合成関数の偏導関数、Taylor展開、極値問題、重積分（累次積分・順序交換・変数変換）、広義重積分、重積分の応用（面積・体積）について学ぶ。	共同
		線形代数1		線形代数学は、微分積分学とならび、多くの理工学分野において必須となる基礎的な数学理論である。線形代数学の入門にあたるこの講義は、連立一次方程式の理論や、行列と行列式の理論について修得することを目標とする。具体的には、和や積などの基本的な行列演算の方法からはじめ、連立一次方程式の掃き出し法による解法、連立一次方程式の解の存在性や自由度と係数行列の階数との関係、行列と線形変換との関係、行列式の定義、行列式の計算方法、行列式を用いた正方行列の正則性の判定条件などについて学ぶ。授業は講義形式で実施する。	
		線形代数2		「線形代数1」に続き、行列に関する理論を講義形式で学ぶ。前半では正方行列の固有値、固有ベクトル、対角化および実対称行列の直交行列による対角化について修得する。後半では線形空間、基底、次元、表現行列などの線形空間論の基礎を学び、これまでに学んだ行列における様々な操作（行列の積、基本変形、対角化等）を抽象的な視点から理解する。この講義の目標としては、与えられた正方行列が対角化可能であるかを判定し、可能である場合には実際に対角化でき、線形空間論における基本概念の定義や具体例を説明できるようになることが挙げられる。	共同
		力学1		物理学は工学の基礎であり、力学はその中でも最も基本的な分野である。力学1では、質点の力学が対象分野となり、物体に働く力を理解し、物体の運動を理解することを目的とする。力としては、重力、万有引力、摩擦力などがある。高校の物理で既に学習している内容も多いが、力学1ではこれらを微分積分やベクトルを用いて問題を解くことになる。また、簡単な微分方程式も扱われる。このため、基礎的な数学を具体的な問題に応用する能力の養成にも役立つ。力学I以外の物理科目の受講において本科目の内容を理解しておくことは必須である。授業形態は講義だが、適宜演習を行い理解を定着させる。また簡易的な実験の実演を行う場合もある。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	力学2		力学2は、一質点系の力学を学修する力学1を基盤として、多質点系の運動、剛体の運動を学習し、次いで変形する物体（弾性体）の運動へと学習を進めて行く。また、回転を記述する物理量として角運動量について、および角運動量の変化を決める力のモーメントについて学ぶ。さらに、遠心力やコリオリの力といった見かけの力についても学修する。これらの学修を通して、各種の運動の基本的性質を理解すること、物理的な考え方を身につけてもらうことが目的である。力学2の受講には、力学1の講義内容を理解していることが必須である。授業形態は講義だが、適宜演習を行い理解を定着させる。また簡易的な実験の実演を行う場合もある。	共同
	波動・熱力学		波動・熱力学では、波動および熱力学の基本的な概念や法則を理解し、活用できる力を身につけることを目的とする。波動では、振動や波動方程式を学修し、波動の性質を理解する。さらに音波や光などの波を通じて、波の考え方、基礎、その応用について理解を深める。熱力学では、熱や熱の伝わり方、気体の分子運動論を学修する。また熱力学の第１法則および第２法則を学び、熱力学の考え方や基礎法則を理解し、熱機関などへの応用を学ぶ。受講には、力学1の講義内容を理解していることが必須である。授業形態は講義だが、適宜演習を行い理解を定着させる。また簡易的な実験の実演を行う場合もある。	
	電磁気学		電磁気学の授業では、電気、磁気、光学をマクスウェル方程式を用いて統一的に扱う。現代社会では電気と磁気、さらに電磁波（光を含む）が日常の多くの面で重要であり、電磁気学の知識は工学分野において欠かせない。電磁気学を理解する上で、電荷や電流だけでなく、見えない電場や磁場についても考慮することが不可欠である。これらはローレンツ力という概念を通じて物理的な意味を持ち、また電荷や電流、電場と磁場の相互作用はマクスウェル方程式によって記述される。この授業では、クーロン力やアンペールの法則など基本的な現象を通じてマクスウェル方程式の導出し、逆に、これ土台にしてあらゆる電磁気現象を説明し、応用する方法を習得する。授業形態は講義だが、適宜演習を行い理解を定着させる。また簡易的な実験の実演を行う場合もある。	
	生物学		生物学はヒトを含めた生命体の基本的な単位（細胞）や構造、機能などを体系的に知るための学問である。本講義では高校生物で学修した内容に触れつつ、より高度で複雑な生命体に関する知識を学ぶ。特に遺伝子や染色体に関する知識は現在或いは未来の人類社会においても重要な領域であり、本講義の主要な講義内容の一つである。また、生命に関する基本的な知識を学ぶことは、人類が関連する様々な事象を理解する上でも重要であり、さらには、ヒトの健康や医療といった、人類社会の構築に直接関連する内容にも触れ多様な知識を学修する。	共同

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	理数・情報	化学		科目の授業形態は、講義形式で行う。高校で学んだ化学の知識をより深め、大学での専門分野における化学関連科目（有機化学・無機化学・物理化学・生化学）を受講する上で橋渡しとして、原子・分子の概念から化学変化やそれらの量的関係を計算など、必要最低限の化学的素養を身に付けることを目標とする。 （オムニバス方式／全１４回） （67　廣田　佳久／7回）　全14回のうち、前半の7回を担当する。化学の基礎・物質の構成粒子・物質量と化学反応式・化学結合と分子の構造を中心に軌道の概念等を概説する。 （29　須原　義智／７回）　全14回のうち、後半の7回を担当する。気体および溶液の性質・酸と塩基・酸化還元反応を中心に有機化学等の専門科目に繋がる内容を概説する。	オムニバス
		現代物理学概論		現代物理学の授業では、物理学の基礎であり、現代科学技術の基盤となる相対性理論と量子論の基本を学ぶ。授業の前半では相対性理論に焦点を当て、時間の遅れや長さの収縮といった新たな時空概念について理解を深める。後半では量子論における波と粒子の二重性、確率解釈や不確実性原理を学びつつ、近未来の情報科学における応用が期待される量子もつれや、局所実在を否定するベルの定理についても学ぶ。これらを題材に、古典物理学とは全くことなる自然界の最新の理解を深め、新しい科学技術への応用に対応できることを目指す。授業形態は講義であるが、一部講義中に実験の実演も取り入れる。	
		情報基礎	○	情報サービスを用いた共同作作業、情報社会とセキュリティの基礎、コンピュータ・情報サービスの仕組み、レポートの作成、効果的なプレゼンテーション、Excelを用いたデータサイエンスの各項目を学修することで、学部教育に必須な情報リテラシー力を養う。	
		AI基礎	○	近年の社会において人工知能は無視できない存在となってきている。また、今後も人工知能が使われる分野は拡大していくことが予想される。この授業の目的は社会で人工知能がどのように活用されているかを学ぶとともに、どのような社会課題を解決してきたかについて触れることで、今後の人工知能の活用法について知見を広めることを目的とする。7回の講義の中で、AIの歴史、AIの応用分野、AIと社会、機械学習の帰途と展望、深層学習の基礎と展望、AIの構築と運用、AIを扱う上での倫理と法規、の7つの単元について講義形式で知識を深め、レポートにて学修した知識の確認を行う。	共同、標準外

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	統計学基礎	○	実験や観測、あるいはアンケートなどによって様々なデータを取得することができるが、このようなデータから情報を抽出し、背景に潜む構造を理解する手法のひとつが統計学である。このようなデータに対する解析手法はここ最近ますます重要視され、様々な方向に発展している。本授業で扱う統計学の内容はデータを扱う手法として古くから用いられているものであり、非常に基本的であるが、基本的であるがゆえにその理解は必要不可欠である。本授業では、統計学における基本的概念、分析手法を学ぶ。	共同、標準外
	データサイエンスリテラシー	○	工学系の多くの研究においてデータを取り扱うことは必須といってもよい。また現在もしくは今後の工学においてデータサイエンスは切っても切れない関係にある。この授業の目的は工学系の研究においてデータサイエンスの基礎となる歴史や現在を知ることで卒業研究に向けてリテラシーを身につけることである。7回の講義を通して、社会で起きている変化、社会で活用されているデータ、データ・AIの活用領域、データ・AIの活用領域・AI利活用のための技術、データ・AI利活用の現場、データ・AI利活用の最新動向、データ・AIを扱う上での倫理と法規、についての知識を身につけ、各回小テストを行い、獲得した知識の確認を行う。	共同
	科学技術史		本講義では、ギリシアの自然哲学者からニュートンによって頂点に達する科学革命を経て成立した近代科学を中心に、自然科学がどのようなものの見方や考え方から生まれてきたかや当時の自然哲学者たちが直面した困難がどのようなものであったかを検討し、当時の文脈からそれらの科学的業績の意義の理解を目指す。そもそも技術はシステムであり、個別の物質的実体が個々に関連して具体的技術を構成する。また技術は人間が社会で使う以上、人間個人・グループ・社会に影響を与えたり、または与えられたりし、一見極めて複雑な展開をするように見える。これら技術展開の諸要因を技術の内的および外的要因に切り分け、その発達メカニズムを理解することも目指す。	共同
	科学技術と社会		科学技術のアウトプットは社会に多大な（正負両面の）影響を与える。逆に、科学技術の側も社会の制約を受ける。つまり、科学技術と社会は相互に影響しながらお互いを形成していくと捉えることができる。従って、たとえ将来科学者やエンジニアの職に専従する場合であっても、科学技術と社会の相互作用を理解する能力が必須となる。科学技術と社会の相互作用について研究する学問分野のことを「科学技術社会論」と呼ぶが、本講義では、「科学技術社会論」の研究者である平川秀幸氏が執筆した入門書『科学は誰のものか』（NHK出版、2010 年）の講読を通じて、こうした相互作用を理解するために有用な概念や考え方を学び、また、それらの概念や考え方を使って具体的事例を理解する能力を養う。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	社会科学	行政学		現代社会において、人は生まれてからその命尽きるまで、行政との関わり合いをもち続けている。他方で、本当は身近な行政について、私たちは意外なほどその実態を理解していない。こうした行政に対する理解不足が生む、行政に対する過大な批判や信頼は、行政が私たちの生活に深く関係しているがゆえに、結果として私たち自身に不利益をもたらすことがある。そこで、本講義においては、行政について、適切な距離を保ちながら考察が出来るよう、行政学の基礎的な知見を講義形式で提供する。具体的には、日本の行政に関する制度や実際の運用、さらに、こうした制度や運用を理解するために有用な概念や理論について、学生が理解しやすいよう、具体例等を交えながら、解説する。これにより、行政学に関する基礎知識や概念を理解したうえで、現代日本が抱える様々な課題を分析できるようになることを目指す。	
		政治学		本講義は、日本の政治を中心に諸外国の政治も例に交えながら、政治学に関わる基本的な知識の理解を目指す。人間は社会の中で生活していく限り、好むと好まざるにかかわらず、税、社会保障、安全などの様々なかたちで政治との関わりを持つ。それゆえ、人々は主権者として、より良い政治を実現するべく、選挙を通じて政党や政治家を選び、ある時は世論などを通じて不満を表明し、さらに政治への直接的な参加を行う。政治学の役割は、一人一人の市民が政治現象を深く分析するための視角を提供することである。そこで本講義では、政治に関わる様々な概念や制度を整理しながら、政治学の基礎的な知識や理論を通じて、日本や世界の政治現象への幅広い関心をもち、それらの政治現象に対する政治学的な考察ができるようになることを目指す。	
		社会福祉論		「福祉」という言葉の意味は、歴史の中でも貧困者、児童、障害者、高齢者に対して社会政策として対応してきた社会保障の一分野として特別な人が利用するものとされていた「社会福祉」と、誰でもが問題に直面したときはサービスとして利用するものという概念の「対人社会サービス」としての「社会福祉」があると考えられる。本講義では、現代社会の福祉的課題である少子高齢化、児童虐待、貧困の連鎖、老老介護、地域格差、まちづくりなどについて、基本的な法制度について学び、数回の事例検討やディスカッションなどの体験授業も行う。これにより、現代社会における福祉分野の現状や課題を把握し、基礎概念や「福祉」が法律、経済、行政、教育、医療、環境などさまざまな分野との関わりがあることを理解し、社会の一員として今日的課題に対して考える力を養い、さらに人権に対する感覚も身に付けることを目指す。	
		情報社会と法		本講義では、情報化社会において、インターネットを利用した商取引や金融取引について関連する法的な枠組みを具体的な事例を用いながら法律的な各種問題を理解するのに必要な法律的な考え方や法律的な基本用語などを確認する。また、それらの取引関係について関連する特別法をいくつか挙げ、その法的枠組みと具体的な内容を理解することによって、いわゆるFintechに関連する領域の問題も含めたネット取引についての法的問題について、実社会で活躍する際にさまざまなビジネス分野で活用できる力を滋養し、応用できるようにすることを目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	日本国憲法		日本国憲法は日本の法制度を知る上でもっとも基本的な法律である。公務員になろうとする人はもちろん、どのような職業であれ、日本の国民として知らなければならない、基礎的な法である。本講義では、日本国憲法の制定や国民主権、平和主義、基本的人権、三権分立、憲法改正など日本国憲法の学修を通じて、国のしくみや国民の権利・義務などについてしっかり認識することを目的とする。これら通じて、憲法学の基礎知識を習得することを目指す。	
	社会学概論		本講義の前半では、近代社会を支える柱である経済システム、政治システム、言い換えれば、資本主義や民主主義がどのようなロジックで現れてきたかを講義する。具体的には、パーソンズ、ウェーバー、マルクスの社会理論を社会システム論の視点で解説するとともに、ハーバーマスの現代社会の診断の紹介し、社会を読み解く基礎的なフレームを提供する。後半は、グループワークの形式で、様々なデモグラフィックデータを使って、現代の日本社会の課題を定量的に探索・分析するとともに、柄谷行人の歴史観を手掛かりして、未来に向けた新たな兆しを探索する形で、今後の社会がどう変容してゆくか未来洞察を行う。	
	人間と自然環境		本講義では自然保護理論の基礎知識として、生物主体環境系を扱う生態学、および人間主体環境系を扱う景観生態学の両学問を整理し解説する。そのうえで自然保護の歴史的経緯と現在の理念にいたる流れを講述し、現象的・心理的両側面から自然保護各手法と理念の本質を解説する。さらに「原生環境」「生物多様性保全」「里地・里山・里海」を中心に、文化人類学や環境心理学といった多様な研究領域の視点も取り入れながら、種とビオトープ保護プログラムやコアエリア、バッファーゾーン、コリドーの設定など各種自然環境保全手法について解説する。これにより、自然環境の把握と評価による様々な「自然保護」理念、生態学・景観生態学・保全生態学等に基づく学術根拠、解決方法を理解し、地域の自然保護計画や生物多様性保全計画といった専門分野に繋げる基礎を確立し、地球上で人間らしく生きるための環境哲学を構築できることを目指す。	
	教育社会学		教育社会学とは、教育を広く社会的な営みと捉え、教育をめぐる事象を社会学的に分析する学問である。本講義では、現代社会において学校教育の現場で起こっている様々な問題を取り上げて社会学的に検討することをとおして、我々が無意識のうちに持っている教育や学校に対するまなざしを問い直していく。本講義での学びを通して、受講生たちは、教育を社会的な営みとして捉え、教育問題を幅広い視点から多角的に考えることができるような視点を身につけることを目標とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	人文	哲学1		明治の開国以来、日本は西洋近代の学問を導入してきた。しかし、西洋の学問の根底にあって学問を支えている思想・哲学を受けいれてきたとは言い難い。それゆえ、日本の社会システムが、いわゆる「タコツボ」化している。こうした現状を打破するためにも、もう一度、日本が受けいれてきた「西洋」とは何かを考え直すことが必要だろう。 したがって、本講義では今日の私たちの思考の足場を知ることを目的に、古代から現代までの西洋の代表的な哲学・思想・宗教に関する概説講義を行う。これにより西洋哲学史を理解することを目指す。	
		哲学2		かつて夏目漱石は、日本の近代化を「うわすべりの開化」と批判した。私たちは明治期以来、西洋科学文明を受け入れながらも、うちに秘めたアジア・日本的なものを払拭できないというのである。しかし、そもそも、私たちは本当に西洋科学文明やアジア・日本的な考え方や価値観を理解しているのであろうか。したがって、本講義では今日の私たちの思考の足場を知ることを目的に、古代から現代までの東洋・日本の代表的な哲学・思想・宗教に関する概説講義を行う。これにより東洋哲学史を理解することを目指す。	
		倫理学		倫理学は、 その原理的部分においては、 哲学からはっきりとは区別されえない。 本講義で取り扱われる倫理学はこの原理的な倫理学、 つまり、 倫理的問題群を取り扱う哲学である。 したがって、 本講義の主たる問題は、 人間について哲学的に思考するとはどういうことかに定式化されうる。本講義では、 いまなお現代の哲学者たちの関心を引き続けている古典のどれもが有しているこの「無時間的」意義を学生が理解することを目指す。また、本講義では倫理学に関する多くの概念と述語が導入される。学生がこれらについての知識と理解を得るのを助けることを目指す。	
		生命倫理概論		先端医療技術の劇的な発展は、「ヒトがいつから人間になるのかを決めてよいか」「私達は人間の死の判定基準を決められるのか」「生・死に関する基準を誰かの自己決定に委ねてよいのか」等の問題を私達に投げかけ何らかの対応を求めている。しかし、なぜ私達は基準を持つべきと考え、もし持つべきだとすればどのような基準を持つべきなのだろうか。こうした問題意識のもと、本講義では先哲が思考を巡らした基本的な倫理原則と現代の医療を巡る問題を往復しながら、生命倫理を巡る技術的あるいは社会的な諸問題を考えていく。「倫理は説教」「倫理は教えられない」「倫理に正解はない」等の一般的見解から脱しながら、（１）生命倫理に関連する倫理原則の理解、（２）生命倫理を巡る諸問題に関する正確な基礎知識、（３）倫理原則を諸問題に応用して自ら考える力を養うことを目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎教養科目	科学	技術者と倫理		本講義では、 倫理的観点から見て興味深い、 科学と技術にかかわるいくつかの学説を紹介する。 これらのすべてが哲学に属しているが、倫理学は、 その根本的形態においては、 哲学からはっきりとは区別されえない。 したがって、 本講義の主題は、 科学と技術をわれわれの哲学的倫理学の観点からして人間的存在者を構成する本質的な契機ととらえなおし、 それらが人間にとってどういった意義をもつのかを探求することである。 これらを通じて、本講義では、現代の哲学者たちの関心をなおも引き続けているどのような古典もが有している「無時間的な」意義を学生が理解するのを助けることを目指す。また、「技術者倫理」は多くの概念や術語が紹介されることになる。本講義では、学生がこれらの知識に属する技術者倫理上の概念や術語を知り、 科学と技術に関して哲学的に考え、理解するのを助けることを目指す。	
		世界史A		現在、国際社会では様々なことが起きている。このような困難な状況にあって、我々はどのように考え行動すべきなのか。そのヒントを得るために、本講義では国際社会とは、国家とは、政治とは何なのかということを、歴史的観点から考察する。具体的にはヨーロッパにおける国際社会の成立から第二次世界大戦の終結までを扱う。そこにはやがて日本も登場するのだが、日本と世界の関係性についても考察していく。これにより、現在の国際社会で起こっている様々なことを理解し、それに沿って我々が主体的に考え行動できるようにすることを目指す。	
		世界史B		日本は東アジアに位置し、これまで中国大陸・朝鮮半島から文化的にも政治的にも大きな影響を受けてきた。現在でも日本にとって重要な隣国であるにも拘わらず、残念ながら日中・日韓関係は良好なものとは言いがたい。さらに最近は排外主義的な考えも横行している。それは一体何故なのか。不幸な歴史があったということの他に、我々が中国や朝鮮のことをよく理解していないことが考えられる。そこで本講義では、中国史・朝鮮史について解説する。その際当然ながら日本も登場する。この授業では日本史は扱わないが、中国史・朝鮮史・日本史の三本柱を意識しつつ、過去から現在に至るまでの東アジア諸国の関係性やその推移について理解を深められるよう授業を進める。現在の国際社会で起こっている様々なことを理解し、それに沿って我々が主体的に考え行動できるようになることを目指す。	
		国際デザイン史		様々な専門分野からデザインに関心を持つ学生を対象に、19世紀から現代までの欧米諸国と日本を中心に、（１）製品デザインを例に、工業化の過程、また国家の発展過程において、「デザイン」はどうとらえられ、何が目指されてきたか（２）デザインは国際社会の未来にどのような役割を果たせるか、の２点を手掛かりに「デザイン」の歴史と概念について理解を深める講義科目である。グループディスカッションや発表なども取り入れ、受講生の積極的な参加を促す。具体的には（１）「デザイン」が扱う多様な領域について基本的知識を得る、(2) 19世紀から現代までの欧米諸国と日本を中心とした「デザイン」の概念の発展について理解し、自分自身の意見を表現できる、(3) 現在と未来における「デザイン」の役割について理解し、自分自身の意見を表現できることを目標とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	人文科学	認知心理学		本講義では、知覚心理学および思考の基本用語・概念、Gestalt法則、記憶や注意、学習理論、心理測定法などを扱うことで、人が環境、特に外的環境を知覚・認知し、その中で思考や記憶、学習といった行動をどのように取っているのか、理解することを目指す。これにより、学術的心理学のうち実験心理学に関する重要用語・重要概念を知っており、説明できることを目指す。また、日常の自分の体験を意識しつつ、それらを客観的に眺められるようにすることを目指す。	
		組織心理学		組織心理学は産業組織とそこで働く人々が直面する諸問題を心理学的観点から解明し、解決を目指す実践的な学問である。組織心理学は心理学の知見を、組織や組織で働く人に役立つように研究・実践する応用心理学の一領域である。本講義では、ワーク・モチベーション、リーダーシップ、職場のストレスとメンタルヘルス等をテーマとして取り上げ、理論と具体的な実践事例を交えながら展開する。これにより、将来、組織と関わりながら活躍する人になるために、働く人のモチベーション・リーダーシップ・職場のメンタルヘルスに関する基礎知識を修得することを目指す。	
		教育の近現代史		本講義では、近現代を中心に教育の歴史的変遷について学ぶ。本講義の内容は、学校と家族の近現代史の２部に分かれる。まず、前半の講義では、就学をテーマとする。明治期以降から現在にかけて、不就学の子どもに対していかなる働きかけが行われ、近代教育制度が成立してきたのかについて学ぶ。後半の講義では、子どもの養育をテーマとし、近代家族の成り立ちと今後について考察する。近現代の教育課題を紐解き、学校や家族とは何かといった、根本的な問いについて考える機会とし、教職教養を深めることを目指す。	
		教育原論		本講義では、教育がこれまでの日本、世界でどのように捉えられてきたのかを概観し、代表的な教育思想家の思想について説明する。また、学校の成立過程と教育制度の展開について、歴史的な視点から学び、今日の教育課題がどのようにして立ち現われてきたかを理解できるようにする。こうした歴史的に構築されてきた教育理論をもとにして、現代における教育の事象をどのように捉え、どのように考えるのかについて、議論する。これらをとおして、教職を目指す学生たちが、教育をめぐる諸問題について自分自身で考えることができるようになるための基礎的な知識の習得を目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	人間関係論		人と人との関係は、教職に限らずあらゆる職業や社会生活の基本である。本講義では自己の対人関係のあり方の特徴について心理学の視点から考え理解すること、および、人間関係に関する様々な理論や方法について学ぶ。本講義では、人間関係を対人問題解決ととらえ、様々な対人関係の課題を問題解決的なアプローチで理解することを試みる。講義では、個別およびグループでの演習および授業外学修としてe-learning型のシミュレーション教材を取り入れながら、学んだ知識を自己の日常の対人場面で活用でき、実際に問題解決ができるようになることを支援する。	
	体育実技１		本科目の授業形態は演習形式とし、数回の講義を交える。体育実技1では、いくつかの種目の中から1つを選び、当該種目に必要な技術、体力を身につけると共に、安全に身体活動を実践することが求められる。そして、社会人として必要な、豊かな人間性・コミュニケーションスキルの獲得に向け、スポーツマンシップを意識して授業に参加することが不可欠となる。また、授業実施期間中、毎日、自身の生活を振り返ることで、生活習慣の改善・確立を目指す。個人種目・団体種目のどちらを選ぶかで、アプローチは異なるが、上記の目標を達成できるよう授業を実施する。	
	体育実技２		本科目の授業形態は演習形式とし、数回の講義を交える。体育実技2は、体育実技1を履修した学生が選択できる科目となる。体育実技1で選択した種目以外から1つを選び、当該種目に必要な技術、体力を身につけると共に、安全に身体活動を実践することが求められる。そして、体育実技1で獲得を目指した、社会人として必要な、豊かな人間性・コミュニケーションスキルを、スポーツマンシップを意識して授業に参加することで、さらに高めることを目的とする。また、体育実技1で学んだ日々の自身の生活の振り返りを、授業実施期間中、毎日継続することできちんと習慣化し、大学生活、ひいては、その後の社会人生活まで見据え、長期に亘る生活習慣の改善・確立を目指す。個人種目・団体種目のどちらを選ぶかで、アプローチは異なるが、上記の目標を達成できるよう授業を実施する。	共同

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	保健体育	からだの仕組みと運動		本科目の授業形態は、講義形式である。運動生理学に関する内容を基礎教養科目として広く浅く学修する本科目では、身体を動かす仕組みを理解すること、身体に対する運動の効果を理解すること、そして、運動を活用した健康の維持・増進の方法を理解することを達成目標とする。身体運動における生理機能の応答や適応について概説する内容となり、運動と呼吸、循環、体液、血液あるいは身体組成との関係や、運動に関連する内的環境・外的環境についても概説する。	共同
		身体運動のメカニズム		本科目の授業形態は、講義形式である。バイオメカニクスに関する内容を基礎教養科目として広く浅く学修する本科目では、筋力を決定する因子を説明できること、運動における腱の力学的役割について説明できること、そして、身体運動を力学的に考えることができることを達成目標とする。授業の前半において、身体で力がどのように生成され、伝達されるかを学修し、その後、実際の身体動作（例：走る、跳ぶ、投げる）のメカニズムについて学修する。その過程で、神経系・筋・腱の可塑性を踏まえ、健康の維持増進や競技力向上に資する合理的な運動の実施方法について学修する。	
		健康科学論Ａ		本科目の授業形態は、講義形式である。近年、生活習慣病の罹患者数は年々増加し、国内外で深刻な問題となっている。このような現代社会において、健康でQOL（quality of life）の高い生活を送るためには、「運動・栄養・休養」のそれぞれの側面で適切なライフスタイルを選択する必要がある。本科目では、健康科学の基礎的・専門的知識として「身体の仕組み」を学び、それらの知識をもとに健康づくりの具体的な実践方法を身に付けることを目標とする。基礎教養科目に相当する本科目で学んだことは、現在の学生生活、そして将来の生活において、健康的なライフスタイルを実現するために役立てることができるよう、授業を実施する。	
		健康科学論Ｂ		本科目の授業形態は、講義形式である。基礎教養科目として割り当てられている本科目では、健康科学に関するデータリテラシーを身に付け、データに基づいて、健康を阻害する要因や生涯に亘る健康づくりについて理解することを達成目標とする。データリテラシーに関しては、データの誤差やばらつき、変数同士の量的比較や変数間の相関について、健康科学に関するデータを活用して学修する。また、健康科学におけるベイズ統計や数理モデリングについても学修し、データの解釈方法・活用方法についても理解を深める。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	English Basic Skills 1		本講義では、理工学人材に必要とされる英語によるコミュニケーション能力を習得する第一歩として、高校までの英語学習を基礎として、特に「読む」「聞く」という二つの力を中心に英語の４技能を身につける。さまざまな基本的な文章を読み、聞くことにより、多くの英語表現の方法を理解し、英語表現の蓄えを充実させ、英語を理解する力を養い、理工系英語を学ぶ基礎的な英語運用能力をつける。 English Basic SkillsもしくはEnglish Advanced Skillsのレベル別授業となっている。1と2の内容は異なる。前期には1を後期には2を履修する。	
	English Basic Skills 2		本講義では、理工学人材に必要とされる英語によるコミュニケーション能力を習得する第一歩として、高校までの英語学習を基礎として、特に「読む」「聞く」という二つの力を中心に英語の４技能を身につける。さまざまな基本的な文章を読み、聞くことにより、多くの英語表現の方法を理解し、英語表現の蓄えを充実させ、英語を理解する力を養い、理工系英語を学ぶ基礎的な英語運用能力をつける。 English Basic SkillsもしくはEnglish Advanced Skillsのレベル別授業となっている。1と2の内容は異なる。前期には1を後期には2を履修する。	共同
	English Advanced Skills 1		本講義では、理工学人材に必要とされる英語によるコミュニケーション能力を習得する第一歩として、高校までの英語学習を基礎として、特に「読む」「聞く」という二つの力を中心に英語の４技能を身につける。さまざまな基本的な文章を読み、聞くことにより、多くの英語表現の方法を理解し、英語表現の蓄えを充実させ、英語を理解する力を養い、理工系英語を学ぶ基礎的な英語運用能力をつける。 English Basic SkillsもしくはEnglish Advanced Skillsのレベル別授業となっている。1と2の内容は異なる。前期には1を後期には2を履修する。	共同
	English Advanced Skills 2		本講義では、理工学人材に必要とされる英語によるコミュニケーション能力を習得する第一歩として、高校までの英語学習を基礎として、特に「読む」「聞く」という二つの力を中心に英語の４技能を身につける。さまざまな基本的な文章を読み、聞くことにより、多くの英語表現の方法を理解し、英語表現の蓄えを充実させ、英語を理解する力を養い、理工系英語を学ぶ基礎的な英語運用能力をつける。 English Basic SkillsもしくはEnglish Advanced Skillsのレベル別授業となっている。1と2の内容は異なる。前期には1を後期には2を履修する。	共同

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （システム理工学部　生命科学課程）					
科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		English Remedial Course 1		本講義の主な目的は、英語能力テストのスコアが基準点以下だった学生が、英語科目の授業に無理なくついていけるよう、英語の基礎を固め、基本的な英文の読解力を身につけることである。また、基準点に関わらず英語の基礎を固めたい学生も履修可能である。英文法の基礎を完全に自分のものとし、英文の基本構造を完全に理解する。そうすることで、理工学人材に必要とされる、英語によるコミュニケーション能力を習得する前提条件としての英語の基礎力を確立する。本講義の担当教員は英語学習サポート室にも在室している。そのため授業や英語全般の質問や相談に英語学習サポート室を積極的に利用することが推奨される。1と2の内容は異なる。前期には1を後期には2を履修する。	共同
		English Remedial Course 2		本講義の主な目的は、英語能力テストのスコアが基準点以下だった学生が、英語科目の授業に無理なくついていけるよう、英語の基礎を固め、基本的な英文の読解力を身につけることである。また、基準点に関わらず英語の基礎を固めたい学生も履修可能である。英文法の基礎を完全に自分のものとし、英文の基本構造を完全に理解する。そうすることで、理工学人材に必要とされる、英語によるコミュニケーション能力を習得する前提条件としての英語の基礎力を確立する。本講義の担当教員は英語学習サポート室にも在室している。そのため授業や英語全般の質問や相談に英語学習サポート室を積極的に利用することが推奨される。1と2の内容は異なる。前期には1を後期には2を履修する。	共同
		Basic English for Science and Technology 1		理工学・アカデミック分野での英語表現を習得する講義科目（標準レベル）である。本講義では、英語の4技能のうち、特に「話す」と「書く」に重点を置く。理工系技術分野の教科書を用い、理工学・アカデミック分野において、（１）相手の話を聞いて、自分の考えを発言できるようになる、（２）簡潔な英語の文章が書けるようになる、（３）授業履修前より多くの英文を聞き、読むことができるようになる、（４）いろいろな学生とペアワークやグループワークができるようになることを目標とする。	共同
		Basic English for Science and Technology 2		理工学・アカデミック分野での英語表現を習得する講義科目（標準レベル）である。「1」（前期）と同じ教科書の続きを進める。本講義では、英語の4技能のうち、特に「話す」と「書く」に重点を置く。理工系技術分野の教科書を用い、理工学・アカデミック分野において、（１）相手の話を聞いて、自分の考えを発言できるようになる、（２）簡潔な英語の文章が書けるようになる、（３）授業履修前より多くの英文を聞き、読むことができるようになる、（４）いろいろな学生とペアワークやグループワークができるようになることを目標とする。	共同

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	英語	Advanced English for Science and Technology 1		理工学・アカデミック分野での英語表現を習得する講義科目（上級レベル）である。本講義では、英語の4技能のうち、特に「話す」と「書く」に重点を置く。理工系技術分野の教科書を用い、理工学・アカデミック分野において、（１）相手の話を聞いて、自分の考えを発言できるようになる、（２）簡潔な英語の文章が書けるようになる、（３）授業履修前より多くの英文を聞き、読むことができるようになる、（４）いろいろな学生とペアワークやグループワークができるようになることを目標とする。上級レベルでは、より高度な教科書を用い、かつ英語で授業が進められる。	共同
		Advanced English for Science and Technology 2		理工学・アカデミック分野での英語表現を習得する講義科目（上級レベル）である。「1」（前期）と同じ教科書の続きを進める。本講義では、英語の4技能のうち、特に「話す」と「書く」に重点を置く。理工系技術分野の教科書を用い、理工学・アカデミック分野において、（１）相手の話を聞いて、自分の考えを発言できるようになる、（２）簡潔な英語の文章が書けるようになる、（３）授業履修前より多くの英文を聞き、読むことができるようになる、（４）いろいろな学生とペアワークやグループワークができるようになることを目標とする。上級レベルでは、より高度な教科書を用い、かつ英語で授業が進められる。	共同
		理工系英語プレゼンテーション		理工学分野やアカデミックな分野での研究や実務でのプレゼンテーションや論文執筆をする上で必要な基礎的な英語力を身につける。口頭発表でのIntroduction、 Body、 Conclusionの流れを理解し、それら各部で使われる英語の言い回しや語彙を習得する。そのために、理工系のさまざまな分野や様式でのモデル発表を題材にし、発表方法のさまざまな手法を理解する。プレゼンテーションにおける「目的と方法の示し方」、「論理的な話の組み立て方」、「話題のつなげ方」などの手法を習得する。理工系分野に特有のグラフの説明の仕方や数値表現などを学ぶ。模擬発表や問題演習を行い運用能力を身につける。	共同
		海外英語研修1		一定の英語力を備えた学生の英語能力の向上には、その言葉が使われている環境に身を置き、一日中その言語にさらされることが効果的である。この研修は、海外の大学等で行われる英語学修プログラムに参加し、語学の運用能力とコミュニケーション能力を高めることを目的とする。プログラムは、4週間前後の長さであり、英語の座学と演習、現地大学生との交流、現地文化施設や企業の訪問と理解などが含まれることもある。帰国後、教員との面談で研修を振り返り、総括する。初めて海外語学研修を履修するときは1を履修する。2回目に海外語学研修を履修するときは２を履修する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （システム理工学部　生命科学課程）					
科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		海外英語研修2		一定の英語力を備えた学生の英語能力の向上には、その言葉が使われている環境に身を置き、一日中その言語にさらされることが効果的である。この研修は、海外の大学等で行われる英語学修プログラムに参加し、語学の運用能力とコミュニケーション能力を高めることを目的とする。プログラムは、4週間前後の長さであり、英語の座学と演習、現地大学生との交流、現地文化施設や企業の訪問と理解などが含まれることもある。初めて海外語学研修を履修するときは1を履修する。2回目に海外語学研修を履修するときは2を履修する。	標準外
		海外短期英語研修1		一定の英語力を備えた学生の英語能力の向上には、その言葉が使われている環境に身を置き、実際に使うことが効果的である。この研修では、海外の大学の大学で行われる語学留学プログラムに参加し、英語の運用能力とコミュニケーション能力を高めることを目的とする。 プログラムは、2週間前後の長さであり、英語の座学と演習、現地大学生との交流、現地文化施設や企業の訪問と理解などが含まれることもある。初めて海外短期英語研修を履修するときは1を履修する。2回目に海外短期英語研修を履修するときは2を履修する。	標準外
		海外短期英語研修2		一定の英語力を備えた学生の英語能力の向上には、その言葉が使われている環境に身を置き、実際に使うことが効果的である。この研修では、海外の大学の大学で行われる語学留学プログラムに参加し、英語の運用能力とコミュニケーション能力を高めることを目的とする。 プログラムは、2週間前後の長さであり、英語の座学と演習、現地大学生との交流、現地文化施設や企業の訪問と理解などが含まれることもある。初めて海外短期英語研修を履修するときは1を履修する。2回目に海外短期英語研修を履修するときは2を履修する。	標準外
		学外英語検定1		学外の英語検定試験、（英検、TOEFL、TOEIC、IELTS）において良好な成績を修めた場合、面接試験を経た後、等級または点数に応じて英語の単位を取得することが出来る単位認定科目である。単位認定申請者はあらかじめ自分で目標を立て、自主的に英語の勉強に取り組み、基準となる点数を取った後、必要な書類を申請して手続きをし、面接を受ける。具体的には（１）自分で目的を設定し、自学自習に基づき、必要なスコアを達成する（2）英文Eメールで基本的な英語の連絡や日程調整ができる（3）英語での20分間の面接で質問に的確に答え、自分の考えを表現できる、を達成目標として評価される。	標準外

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		学外英語検定2		学外の英語検定試験、（英検、TOEFL、TOEIC、IELTS）において良好な成績を修めた場合、面接試験を経た後、等級または点数に応じて英語の単位を取得することが出来る単位認定科目である。学外英語検定2は1より高い等級または点数が必要となっている。単位認定申請者はあらかじめ自分で目標を立て、自主的に英語の勉強に取り組み、基準となる点数を取った後、必要な書類を申請して手続きをし、面接を受ける。具体的には（１）自分で目的を設定し、自学自習に基づき、必要なスコアを達成する（2）英文Eメールで基本的な英語の連絡や日程調整ができる（3）英語での20分間の面接で質問に的確に答え、自分の考えを表現できる、を達成目標として評価される。	標準外
		事前・事後指導		本講義は、「教育実習1」、「教育実習2」の科目と結びついた科目である。「事前指導」と「事後指導」から構成される。「事前指導」は、４年次に実施する教育実習に必要な諸知識に加え、教育実習日誌や出勤簿への記載等に関する講義からなる。「事後指導」は教育実習の振り返りや評価を中心に行う。教育実習で必要な業務、教科指導や教育実習日誌の書き方を理解するとともに、教育実習で得た情報を共有し、「教職実践演習」へ繋げていく。	標準外
		教育実習１		本講義は、中学校および高等学校教員免許状を取得しようとする者を対象にした学外実習である。本講義は、「事前指導」を受講し、さらに教育実習に求められる必要科目の必要単位数を取得し、教育実習を行う知識や技能を修得していることを前提として履修することになる。そのため、学外実習は最終学年である４年前期または後期に実施する。大学で学んだ知識や技能、技術を、実習校で現職教員の指導の基で生かすことが可能な学生による実習である。	共同

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （システム理工学部　生命科学課程）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教職課程	教育実習２		本講義は、中学校教員免許状を取得しようとする者を対象にした学外実習である。本講義は、「事前指導」を受講し、さらに教育実習に求められる必要科目の必要単位数を取得し、教育実習を行う知識や技能を修得していることを前提として履修することになる。そのため、学外実習は最終学年である４年前期または後期に実施する。大学で学んだ知識や技能、技術を、実習校で現職教員の指導の基で生かすことが可能な学生による実習である。	共同
	教職実践演習（中・高）		教職課程で学んだ教職に関する知識、理工学の専門的な知識と技術並びに理工学的な考え方などの総合化を図る。教育実習や介護体験で得られた教科指導力、生徒指導力などの実践的な経験を振り返り、使命感や責任感に裏打ちされた、実践的指導力に富む教員の資質・能力の向上を図る。	共同
	教職インターンシップ１		教育現場においてインターンシップを行い、教職に関わる実践力とコミュニケーション能力、人間性を培うこととする。主に３つの活動を行う。まず、事前研修を通して、教育現場への参与方法と注意すべき事項、日誌の書き方について学ぶ。次に、教育現場において学習支援や教育環境の整備、放課後の児童生徒の見守りや遊びに関わり、その日の出来事や気付きを日誌に記録する。最後に、事後指導においてリフレクションを行い、グループでインターンシップの活動内容を共有する。	共同
	教職インターンシップ２		教育現場においてインターンシップを行う。「教職インターンシップ１」での学びや課題を踏まえ、教職に関わるより高度な実践力とコミュニケーション能力、豊かな人間性を養うことを目的とする。主に３つの活動を行う。まず、事前研修を通して、教育現場への参与方法と注意すべき事項、日誌の書き方について学ぶ。次に、教育現場において学習支援や教育環境の整備、放課後の児童生徒の見守りや遊びに関わり、その日の出来事や気付きを日誌に記録する。最後に、事後指導においてリフレクションを行い、グループでインターンシップの活動内容を共有する。	共同

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	主専攻	Advanced Bioscience		本科目は、生命科学分野の研究内容と最新トピックスをしっかりと理解し、英語にて簡単に説明できるようになることを目標とする。また、本科目はオムニバス方式にて実施し、担当する各教員が専門とする「微生物学」「生化学・分子生物学」「有機化学」「発生遺伝学」「生理学」「環境化学」「生物物理学」等に関する最新のトピックを概説する。 （オムニバス方式／全１４回） （54　ＡＺＨＡＭ ＢＩＮ　ＺＵＬＫＨＡＲＮＡＩＮ／2回）　微生物学について （67　廣田　佳久／2回）　生化学・分子生物学について （30　須原　義智／2回）　有機化学について （45　矢嶋　伊知朗／2回）　発生遺伝学について （40　福井　浩二／2回）　生理学について （18　川島　洋人／2回）　環境化学について （51　吉村　建二郎／2回）　生物物理学について	オムニバス
		Basic Bioscience		本科目は、英語で遺伝子学、生物化学、微生物学を含めてバイオサイエンスの基礎知識をしっかりと理解し、「生命科学」分野のさらなる専門的な科目を受講する準備を整えることを目標とする。授業の前半7回は生命を維持するために必要な基本的な分子を理解し、それぞれの機能を概説し、この概説内にはDNAやRNA、タンパク質剛性のプロセスについて学ぶことを含む。後半の7回は、医療、診断、製薬、農業、食品などに関連するバイオテクノロジーを概説する。	
		Basic Control Engineering		サイバーフィジカルシステムの実現には情報通信技術の他に物理的な機器を制御する技術が必要である. Basic Control Engineeringでは講義形式でフィードバック制御理論の基礎について学習する。講義の前半ではIntroduction to Control Engineeringより発展して、ラプラス変換を初め、フィードバックシステムの解析方法と安定性の判別法や設計理論などフィードバック制御の基礎について学び、周波数応答に基づく設計手法を習得することを目的としている。また、講義の後半ではPIおよびPD、 PID制御の基礎を学び、任意の制御対象に対する適切なコントローラの導出方法を学ぶ。講義内容の理解をつかめるために演習を行う。	
		CAD/CAM演習	○	機器の開発、設計、生産を行なうものづくりの過程において、ITの活用は必要不可欠のものとなっている。この中でも機械の設計、製造、解析を計算機支援よって行なうCAD/CAM/CAEシステムの学習を行なう。計算機上に三次元のモデルを構築し、その解析、製造データ出力も計算機を用いて行なうことにより、性能の高い製品を少ない人手で短期間に、また省資源で製作することが可能となる。本講義においては、CADによる二次元の製図、三次元モデリング、CAEによる運動・強度解析、３Dプリンタを用いた製作、汎用加工機およびNC工作機の基本とCAMによる加工データ出力の座学による学習とCAD/CAM/CAEシステムによる演習を行なう。 （オムニバス方式／全14回） （53　渡邉　宣夫／7回） ・CAEとCAMについて （63　髙山　祐三／7回） ・3DCADについて	オムニバス
		Genetic Engineering		本科目は、英語にて遺伝学の基礎と、染色体、DNA、遺伝情報の構造と仕組みと、遺伝子組み換え技術をしっかりと理解し、受講生が自身の言葉で説明できるようになることを目標とする。授業の前半の7回は、遺伝学の歴史とメンデルの遺伝原則と、染色体の構造を概説し、遺伝子が親から子孫にどのように受け継がれるかについて学ぶ。後半の7回は、授業での課題を通じて、ゲノム解読と遺伝工学の方法とバイオインフォマティクスを概説することとする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	主専攻	医工学概論	○	医工学という幅広い学問領域の概要を本分野における研究者である教員がオムニバス形式の講義を通じて説明する。それとともに、細胞工学、人工臓器、生体材料、バイオ流体、医療技術、福祉工学、神経リハビリテーション工学、人間工学、生体物理工学など、本学問領域における様々な研究分野における、先行研究活動事例および最新の研究活動事例も紹介する。そして、医工学研究分野の全体像を把握し、総合研究や卒業後の進路を意識した学習計画を立てる一助としてもらう。 （オムニバス方式／全7回） （49　山本　紳一郎／1回） ・神経リハビリテーション工学・人間工学について （62　髙木　基樹／1回） ・福祉工学について （53　渡邉　宣夫／1回） ・バイオ流体について （63　髙山　祐三／1回） ・細胞工学について （25　迫田　大輔／1回） ・生体物理工学・人工臓器について （58　信太　宗也／1回） ・医療技術について （66　中村　奈緒子／1回） ・生体材料・人工臓器について	オムニバス
		Introduction to Biomedical-Engineering		An overview of the biomedical-engineering field will be lectured in English in an omnibus type lecture. Specifically, cell engineering, artificial organs, biomaterials, biofluids, medical technology, welfare engineering, neurorehabilitation engineering, ergonomics, and biophysical engineering will be covered in the classes. Examples of prior and recent research activities in Japan and abroad will also be presented. The objective is for students to be able to understand and explain in English. （Omnibus / 7 sessions） (49　Shin-ichiro Yamamoto/1 times) Neurorehabilitation Engineering and Ergonomics (62　Motoki Takagi/1 times) Welfare Engineering (53　Nobuo Watanabe/1 times) Biofluidics (63　Yuzo Takayama/1 times) Cell Engineering (25　Daisuke Sakoda/1 times) Biophysics and Artificial Organs (59　Munenari Shinta/1 times) Medical Technology (66 Naoko Nakamura/1 times) Biomaterials and Artificial Organs 医工学領域の概要をオムニバス形式で英語で講義する。具体的には、細胞工学、人工臓器、生体材料、バイオ流体、医療技術、福祉工学、神経リハビリテーション工学、人間工学、生体物理工学などの学問を授業で扱う。受講生が英語で理解し、説明できるようになることを目的とする。国内外の先行研究活動事例および最新の研究活動事例も紹介する。 （オムニバス方式／全7回） （49　山本　紳一郎／1回）　神経リハビリテーション工学・人間工学について （62　髙木　基樹／1回）　福祉工学について （53　渡邉　宣夫／1回）　バイオ流体について （63　髙山　祐三／1回）　細胞工学について （25　迫田　大輔／1回）　生体物理工学・人工臓器について （59　信太　宗也／1回）　医療技術について （66　中村　奈緒子／1回）　生体材料・人工臓器について	オムニバス
		Introduction to Control Engineering		This course provides fundamentals of the control engineering1ncluding some mathematical preliminaries, which1s applied to various automation devices. The main purpose of the class are to learn Laplace transforms, transfer functions, transient characteristics, block diagrams and frequency characteristics. To complete this course,1t1s necessary to check some basics of physics and calculus1ncluding simple linear differential equation. This course1s a prerequisite to Basic Control Engineering. 機械のモーションコントロール、移動体制御、通信システム制御、福祉・リハビリテーションロボット、医療・手術支援システムなど、機械・電気工学分野で対象とするシステムには必ず制御技術が必要となる。この講義では、一次/二次遅れ系の応答、入出力安定性判別、周波数応答までを学び、この後に続くBasic Control Engineeringの基礎を学ぶ。数式の扱いだけでなく、その裏にある物理的な意味を重視して講義を行う。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	主専攻	Introduction to Embedded Programming		この演習では、組込みプログラミングの基本的な知識とスキルを扱います。プログラミングは今やエンジニアの重要な共通スキルの1つであり、問題解決のための論理的思考力の訓練にもつながります。 具体的には、プログラミングの3つの基本概念(変数の使い方、条件分岐処理、繰返し処理)、に続いて処理および変数をモジュール化した関数、配列について学びます。後半では、メモリとI/0デバイスへのアクセス技術について紹介します。これらのステップでは、実用的なデバイス制御のために一般的な組込みコントロールボードを併用して学びます。最後に、学生はグループに分かれてコントローラーとI/0デバイスを使用したシステムを開発する実習を行います。これにはこのシステム開発をまとめたプレゼンテーションも含まれています。 This exercise covers basic knowledge and skills of embedded programming. Programming is now one of the important common skills for engineers, and it also helps train logical thinking skills for problem solving. Specifically, students learn about the three basic concepts of programming (variables, conditional jump, and loop processing), followed by functions and arrays that modularize processes and variables, respectively. In the second half, the techniques for accessing memory and I/0 devices are also introduced. In these steps, students will learn how to use common embedded control boards for practical device control. Finally, students will work in groups to practice developing a system using controllers and I/0 devices. This includes a presentation summarizing the development of this system.	
		Global Project-Based Learning 1		本授業では、実地体験形式にて、国際的な技術者・科学者として活躍するために求められる、専門的な内容を含む情報を他者に伝える能力、他者の発信した専門的な内容を含む情報や意見を理解し、グループで協力し、連携できる能力を海外の参加者と共に行う実習を通じて身に付けることを目標とする。実習においては、期間を原則実働が５日間から２か月として、原則海外で実施することとし、学生は実習活動先の企業または学術機関により指定された内容に基づき活動を行う。本科目で学習したことおよび体験したことについて実習後に報告書の提出及び報告会にてプレゼンテーションを実施する。	標準外、共同
		Global Project-Based Learning 2		本授業では、実地体験形式にて、国際的な技術者・科学者として活躍するために求められる、専門的な内容を含む情報を他者に伝える能力、他者の発信した専門的な内容を含む情報や意見を理解し、グループで協力し、連携できる能力を海外の参加者と共に行う実習を通じて身に付けることを目標とする。実習においては、期間を原則実働が５日間から２か月として、原則海外で実施することとし、学生は実習活動先の企業または学術機関により指定された内容に基づき活動を行う。本科目で学習したことおよび体験したことについて実習後に報告書の提出及び報告会にてプレゼンテーションを実施する。 Global Project-Based Learning2は、Global Project-Based Learning１での経験を踏まえ、グローバルな環境におけるインターンシップに積極的に参加することが期待される。	標準外、共同
		Global Project-Based Learning 3		本授業では、実地体験形式にて、国際的な技術者・科学者として活躍するために求められる、専門的な内容を含む情報や意見を他者に伝える能力、他者の発信した専門的な内容を含む情報や意見を理解し、グループで協力し、連携できる能力を海外の参加者と共に行う実習を通じて身に付けることを目標とする。実習においては、原則実働が5日間から2か月として、原則海外で実施することとし、学生は実習活動先の企業または学術機関により指定された内容に基づき、活動を行う。本科目で学修したことおよび体験したことについて実習後に報告書の提出及び報告会におけるプレゼンテーションを行う。 Global Project-Based Learning3は、Global Project-Based Learning２での経験を踏まえ、グローバルな環境におけるインターンシップにより積極的に参加することが期待される。	標準外、共同
		健康データサイエンス		本科目は講義形式を中心とし、適宜実習形式を交える。 健康寿命の延伸のためには、様々なデータを活用した健康的な生活習慣の確立と疾病予防が重要である。私たちの健康状態とそれに関連する生活習慣を含む様々な要因の頻度や分布をデータで捉え、科学的に明らかにすることができれば、公衆衛生上の問題解決や効果的な疾病予防法を見出すことが可能となる。この授業では、健康に関するデータサイエンスとして、疫学の基本概念と疫学研究の方法、疾病頻度の指標を理解する。また、実際に実施されている国内外の疫学研究から報告されている事例を通して、疫学研究の理解を深める。本授業の目標は、健康状態とその背後に潜む要因に関する研究結果や保健統計データから、その集団における健康課題や特性を正確に把握し、公衆衛生上の課題に対するアプローチ法や疾病予防法を見つけるための手法を習得することである。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	主専攻	健康長寿学		本科目は講義形式を中心とし、適宜実習形式を交える。 日本人の平均寿命は2023年時点で84歳を超え世界一である。そのため、大学を卒業してから、平均して60年以上もの長い人生が待っている。その長い人生をよりよく生きるために、これまでに学習したスポーツ・健康科学、栄養学の知識を基に、ヒトのライフコース別の健康の諸問題に対して、身体機能・口腔機能・認知機能などの生体機能の維持向上を目指す解決策について理解する。本科目は、加齢論や老年学といった分野の学問体系を系統的に学ぶ。到達目標として、乳幼児期・学童期・青年期・中年期から高齢期のからだとこころの特徴とその加齢変化についての知識の習得すること、および、習得した知識を活用して、各世代の男女に対する適切な生活の指導や運動処方が行えるようになることを目標とする。	
		スポーツ工学実験演習1	○	総合研究、そして、大学院進学後の研究を実施するうえで必要な実験手法を習得することを目的とする。本科目では、骨格筋のメカニクス・生理学系の実験を対象とし、ヒト生体からどのようにデータを取得するのか、取得したデータをどのように分析するのか、分析したデータをどのようにレポートにまとめるのかについて学習する。 （オムニバス方式／全14回） （２　赤木　亮太／6回）　全14回の内、6回を担当する。筋力に関するデータを主な対象とする。また、実験レポートの書き方や研究計画法に関する説明を担当する。 （55　江間　諒一／4回）　全14回の内、4回を担当する。筋の量・質に関するデータを主な対象とする。 （11　大須賀　洋祐／4回）全14回の内、4回を担当する。身体活動量に関するデータを主な対象とする。	オムニバス
		スポーツ工学実験演習2	○	総合研究および大学院進学後の研究に必要となる実験手法を習得することを目的とする。本科目では、心理生理学系および動作解析に関する実験を対象とし、各種センサや計測装置の使い方、ヒトを対象としたデータの計測方法、取得したデータの解析手法およびデータの見方、解析した結果のまとめ方について学習する。 （オムニバス方式／全14回） （26　佐藤　大樹／7回）　全14回の内、前半7回を担当する。心理生理学に関するデータを主な対象とする。 （60　柴田　翔平／7回）　全14回の内、後半7回を担当する。動作解析に関するデータを主な対象とする。	オムニバス
		健康行動栄養学		本科目は講義形式を中心とし、適宜実習形式を交える。 ヒトは、食事から栄養を摂取しており、生命の維持、健康促進のために不可欠である。また、身体活動の高い人やアスリートにおけるパフォーマンス向上や筋肉の維持には、食事による適切な栄養摂取が重要である。本講義では、栄養学の基礎、適切な食事摂取の役割・重要性について正しく理解した上で、身体活動レベルや運動内容に適した体づくり、栄養や食事方法について学ぶ。また、ライフステージ別の対象者特性や関連する疾病について理解し、それぞれに対応する栄養管理について学ぶ。	
		スポーツ画像工学		本科目は講義形式を中心とし、適宜実習形式を交える。 スポーツ映像の解析により、選手のプレーや試合状況を客観的に分析するのがスポーツ映像解析である。非接触型デバイスであるカメラを用いることで選手に負担をかけず、センシング機器の使用が制限される公式試合でも解析できる。本授業では、スポーツ映像解析を行う上で必須となる画像処理を基礎から解説し、実際のスポーツ中継で利用した映像解析システムの例を紹介する。具体的には、スポーツ映像に機械学習を適用して選手やボールを検出・追跡し、プレーや試合状況を理解するとともに、CGを用いてその結果を可視化する方法を学ぶ。画像処理の基本を理解し、映像からスポーツを分析する手段を習得することを目標とする。	
		スポーツ信号処理		本科目は講義形式を中心とし、適宜実習形式を交える。 近年のカメラやセンサ技術の急速な発展に伴い、プロだけでなくアマチュアのスポーツ現場においても、データの情報処理・活用が進められている。選手個人のパフォーマンス評価にとどまらず、チームのデータ分析を専門とするアナリストという職種も出てきており、実社会からも、スポーツデータを素早く処理し、現場に適切にフィードバック可能な人材が求められている。本授業では、このようなスポーツに関連するデータを取り扱うために必要な信号処理について学習する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	主専攻	応用バイオメカニクス		本科目は講義形式を中心とし、適宜実習形式を交える。 バイオメカニクスの続きとなる科目として位置付け、バイオメカニクスにおける主要な計測手法（モーションキャプチャーなど）及び解析方法を解説・実践するとともに、歩・走・投・打動作などの身体運動について、力学的観点から客観的に説明する。到達目標として、様々なヒトの身体運動の評価方法や解析方法の概要を理解し、様々なスポーツ動作の特徴を、バイオメカニクス的観点から説明できるようになることを目指す。	
		映像メディア解析		本科目は講義形式を中心とし、適宜実習形式を交える。 スポーツ画像工学を学習する前段階として、画像のデジタル化技術や映像符号化原理など、映像メディアに関わる基礎技術について、その基本原理や仕組みを解説する。さらに、機械学習を活用したメディア解析技術の基礎を講述する。画像処理の基礎的な考え方と応用への適応力を修得することを目的とする。	
		スポーツ工学とSDGs		本科目は、講義と演習を組み合わせた形式で行う。学外機関との連携や、学外でのフィールドワークを実施することもある。 2015年の国連総会で採択された持続可能な開発目標（SDGs）は、分野や国境を越えた共通言語として、日々のニュースの中で頻繁に登場する。2015年に発表された文書の中で、スポーツは「持続可能な開発における重要な鍵となる」と述べられており、スポーツがSDGs達成のために大きな役割を果たすことが期待されている。講義では、SDGsについての基礎知識を身につけた後、グループワークを中心とした活動を行う。スポーツや運動、健康をキーワードに据えながら、課題を発見し、その課題を解決するための方法を計画・提案（プレゼンテーション等）し、行動に移す。関連科目で身につけたスポーツ工学の知識を活かして、具体的な取り組みを提案し、実行できるようになることを目標とする。	
		スポーツ工学概論		本科目は、スポーツ工学の基礎と応用を幅広く理解することを目標とする。授業は講義形式を中心に行われ、適宜実習形式も交えながら実施される。これにより、学生は専門的な知識の習得と実践的なスキルも身につけることができる。授業計画では、各教員の専門研究分野に関連するスポーツ工学の概要を説明する。学生はスポーツ工学の多面的な理解を深め、将来的な応用力を養うことが期待される。 （オムニバス方式／全14回） （２　赤木　亮太／3回）　筋メカニクスについて （55　江間　諒一／3回）　運動生理学について （26　佐藤　大樹／3回）　脳機能計測について （60　柴田　翔平／2回）　スポーツセンシングについて （11　大須賀　洋祐／3回）加齢と健康について	オムニバス
		スポーツ工学研究法		本科目は講義形式を中心とし、適宜実習形式を交える。 スポーツ工学に関連する研究を実施するにあたり、どのように実験デザインを作り上げるのか、そのノウハウについて学習する科目となる。具体的には、学術論文を活用しながら、スポーツ工学分野で頻用する統計手法について説明し、実際に統計分析アプリを使い方について学ぶ。また、サンプルサイズの事前の計算方法や実験を実施する前に必要な倫理審査の手続きについても説明する。本科目で学んだことを元に、実際に配属された研究室の内容に合わせた研究計画の立案につなげる。	
		生理学	○	全ての生命体は、様々な生理機能が正常に機能している事で維持されている（恒常性：ホメオスタシス）。また、生理機能といっても、分子レベルから社会に至るまでその幅は広い。本講義では、生命科学を学ぶ上で重要な、ヒトにおける各臓器・器官の配置や機能の理解を中心とした生理学の基礎を学習する。尚、生理学の範囲は広大である。神経生理学とは範囲は重複しない。消化器系、循環器系、呼吸器系、排泄等の分野の講義を行う。いずれの内容も今後、上級学年で学習する専門科目を履修するうえで重要な知識となる。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	主専攻	体力医科学		本科目は講義形式を中心とし、適宜実習形式を交える。 スポーツおよび日常生活を営む上で必要なヒトの体力について、基礎となる身体組成について学んだうえで、筋力・持久力・柔軟性などの行動体力と、病気やストレスに対する免疫力・抵抗力・環境適応力などの防衛体力に分け、その両方の維持向上を目指す方法について医科学的な視点から解説する。具体的には、身体活動・食事・睡眠などの24時間の生活の仕方から、体力要素の発育発達の仕組みに至るまでを包括的に学習する。加えて、身体不活動による身体機能低下についても学び、よりよく生きる上で、身体活動がどのように重要であるかについて理解を深めていく。スポーツや日常生活を営む上で必要な体力に関する医科学的知識を習得すること、および、習得した知識を活用して、体力の維持向上のためにスポーツなどの身体活動の実践や、健康につながる生活行動の実践することを到達目標とする。	
		データ解析		プログラミング言語Pythonを用いて、データのクリーニング、時系列の分析、多変量解析、および統計分析を行う。合わせてデータを分析した結果の可視化について学習する。 プログラミング言語Pythonを用いたデータ解析の全体像の理解、データクリーニング：前処理、欠損値の取り扱い、統計学と可視化、時系列分析、時間軸に応じたデータの理解、多変量解析、回帰分析やロジスティック分析、決定木を通じて、データが扱えるようになる。	
		データサイエンス入門		本講義では，データサイエンスの概念からデータサイエンスの応用事例をオムニバス形式で紹介することで、データサイエンティストとしての素養を身につけることを目的とする。これまでの様々な分野で行われたきたデータ分析の理解、方法論、およびデータの実際の取り扱い方などを学ぶ。 （オムニバス方式／全７回） （75　原田　拓弥／4回） ・データサイエンティストに必要なデータサイエンス力、データエンジニア力、ビジネス力の3つの概要を紹介 ・データサイエンスにおけるデータエンジニア力の必要性を紹介 ・データ倫理およびデータサイエンスにおける倫理について紹介 （7　市川　学／1回） ・データサイエンスの保健、医療分野への応用について紹介 （58　後藤　裕介／1回） ・データサイエンスの経営分野への応用について紹介 （22　小山　友介／1回） ・データサイエンスの経済分野への応用について紹介	オムニバス
		バイオイメージング		バイオイメージングは分子、シグナル、細胞、臓器等の生物現象のプロセスを可視化し、理解するために不可欠な手法である。本講義ではまず基本的な光学顕微鏡の原理を学び、その後高度なイメージング技術について学ぶ。例えば、共焦点顕微鏡による三次元画像の取得や蛍光タンパク質を用いた細胞内イメージング技術について紹介する。さらに、医学診断を目的とした臓器レベルでのイメージング技術として大きな役割を果たしているX線CTやMRI等の撮影原理や特長について紹介する。また、イメージング技術に資するデバイス技術についても紹介し、実際の生命科学研究や臨床診断における応用例について学ぶ。	
		バイオエレクトロニクス		生命現象の原理を説明するためにも、生命現象を測定・解析するためにも、電磁気学的知識が必要であり、今日の医療機器はほとんどがエレクトロニクス技術によって成立している。本講義においては、生体の電気的性質を活かした医療機器，または生体を観測するための電子工学技術を活用した診断・分析機器の原理について学ぶ。授業の流れについては、細胞の営みの基礎知識と関連付けて、細胞は電気を発生していることをまず知るところからはじまる。そして、細胞や生体に電気を流したり、電磁波を照射したりした際の応答や電磁気学的性質を理解する。さらに、これらを応用した、様々な医療機器や生物分析機器の原理を習得する。	
		バイオエンジニアリング実験		医工学分野における研究や開発では、医療機器の機能性の評価のために、バイオ系技術や種々の計測・分析技術が必要となる。本実験科目では、基礎的なバイオ系実験手法を修得する。さらに、物質の定量や成分分析、構造解析などに利用される代表的な計測・分析機器の原理・用途について学び、基本的な測定技術や得られたデータの取り扱い方を習得する。紫外・可視分光法、蛍光分光分析法、位相差顕微鏡、蛍光顕微鏡、共焦点顕微鏡、電界放出型走査型電子顕微鏡（SEM）、エネルギー分散型X線分析装置（EDS）、透過型電子顕微鏡（TEM）、力学特性試験、粘弾性測定、フローサイトメトリー等を取り扱う。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	主専攻	バイオマテリアル		医療分野や生命科学研究領域では、様々な生体材料が用いられている。本科目では、生体材料である無機材料、金属材料、高分子材料、生体由来材料の基礎的な内容を講義する。また、これらの生体材料と生体との界面にて生じる現象を講義し、生体材料に対する生体内外での生体反応（タンパク質吸着・細胞接着・免疫炎症反応等）について学習する。さらに、ドラッグデリバリーシステム、人工臓器、再生医療、組織工学等について、基礎的な内容と最新の研究内容を材料学的な立場から概説する。	
		バイオメカニカルエンジニアリング		医療・バイオ分野において、機械工学は大いに活用されてきている。本講義では、生体医工学への応用に必要となる機械工学の基礎理論の概説から実践的解析手法、さらに医用デバイス開発などの生体医工学研究開発事例について学ぶ。例えば、流体力学のナヴィエ・ストークス方程式を用いた血行動態の解析、生体信号取得のための計測工学や情報処理、それらに基づく実践的手法として数値流体力学計算、信号解析の手法などを学ぶ。その応用として、人工心臓の開発、血流解析、生体信号処理などの研究開発事例を紹介し、医療・バイオ分野における機械工学の活用方法を理解する。	
		バイオメカニクス		バイオメカニクス（生体力学）の基礎として、生体の構造や形態、運動制御機構、力学的なモデル化手法ついて講義する。特に医工学コースやスポーツ工学コースの分野で用いられる生体の運動におけるバイオメカニクスを理解するために必要となる解剖学・生理学知見を踏まえ、力学的基礎である機械力学・材料力学知見をもとに作成するヒト運動系の力学モデルを理解し、生体の内外における力学的現象にどのように応用するのかについて学ぶ。	
		Python入門		本講義では、プログラミング的思考を身に付けることを目的とし、プログラミング言語のひとつであるPythonの基本を学ぶ。Pythonそのものの概要と歴史、変数とデータの型、条件文、繰り返しの制御、関数の定義と読み込み、ファイルの読み込みと書き込み等を取り扱う。そのほか、総合的な課題に取り組むことで、講義で身につけた基本的なPythonの知識を活用できる素質を養う。	共同
		Pythonプログラミング	○	本講義では、コンピュータの特性を自在に発揮して柔軟に使いこなすための方法を習得する。そのため、プログラミング言語の一種であるPythonについてそのプログラミングを行うための手法を学習する。Pythonでプログラミングを行う際に必要となる様々な知識、計算機の基本、演算の手法、論理式と論理回路、フローチャートによる処理手順の記述方法についても学習するとともに、Pythonの基本的な文法等を学習して、プログラミングを演習的に学習する。	
		バイオレオロジー		身体の中にはたくさんの水分が存在し流動している。本講義においては、それらの種類や量、それらに含まれる構成要素の種類とその役割そして物理的特徴を学ぶ。例えば、流れ学の知識で説明できるダイナミックで大きなスケールの対流現象と、ナノ・ミクロといった小さいスケールの拡散・浸透現象、さらにバイオ流体としての血液・間質液・細胞内液の中の構成要素、および存在する血液細胞の機能と流動条件下における血液の非ニュートン流体特性とその解釈、心臓血管系の生理とそこで成立する物理学、血液循環で起こりうる疾患に関係した物理的解釈などについて学ぶ。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	主専攻	メカトロニクス		メカトロニクスとはメカニクス(Mechanics)とエレクトロニクス(Electronics)の合成語で、様々な分野が統合された技術分野である。医療機器や福祉機器を設計する際、機械を含むシステムに柔軟性を持たせ、思い通りに制御するには、メカトロニクスのコンセプトは大変重要となる。そこで本講義では、メカトロニクスの基礎となる下記の各要素技術等、実際にメカトロニクス機器を設計開発するための手法を学ぶ。 (1)　機構　(2)　電気、電子回路　(3)　様々なセンサ　(4)　アクチュエータ	
		メディア認知心理・人間工学		メディアを設計するにあたっては、人の受容器から認知過程を経て効果器を通して操作に到達するまでのインタラクションを適切に考慮する必要がある。このため、人間工学的視点から人体の特性を知ることは、表現のバリエーションを広げることと両輪をなしている。また同時に、現実世界での経験を仮想世界で実現する、あるいは超現実を仮想世界に展開していくことを考えた場合、エンジニアには、人の生理現象、さらには危険性についての知識が求められる。この講義では、眼や耳などの人間の受容器特性と対応した表現を学ぶとともに、エンジニアとして求められる表現に対する効果の評価や、さらには危険性についても学ぶ。	
		メディカルエンジニアリング実験		生命医工学分野(医療機器・福祉機器)における研究や開発では、計測や制御をおこなうために種々のプログラミング技術が必要となる。本実験では、生命医医工学分野の研究開発に必要な要素技術の一つであるI/Oを用いた機器の制御と制御法の基礎を学ぶ。小型なMCUであるArduinoを使用した基本的な組み込み機器を用いた基本的な回路作成や、制御を行うための実験演習を行い、幅広い生命医工学分野の研究や開発において必要な組み込みプログラミング技術の基礎を身につける。	共同
		ものづくり工学		企業の第一線で活躍している技術者の方々（主に本学卒業生）を特別講師として招聘し、具体例を紹介しながらオムニバス形式で開講する。ものづくりの現場における機械・電気システム等に焦点を当て、これらは何が特長で如何に効果的に用いられているか、どこが問題点でそれらをどう克服せねばならないかについての解説を通じて、これから過程で学修する内容の理解を深めることを目的とする。また、講義中または講義後には第一線で活躍している技術者とのディスカッションを行う。 講義ごとのまとめとして内容に関係する課題を用意し、 講義内容の振り返りを含めてこの課題に取り組む。 （オムニバス方式／全14回） （4　飯塚　浩二郎／7回） ・求められるエンジニア像に関する講義 ・ものづくりの現場に関する業界 ・ソフトウェアに関する業界 ・機械・電気システムに関する業界 ・自動車に関する業界 ・自動車部品開発に関する業界 ・レース車両開発に関する業界 （17　川上　幸男／7回） ・ITセキュリティに関する業界 ・宇宙技術に関する業界 ・建設業における機電技術に関する業界 ・ビルオートメーションに関する業界 ・建設機械開発に関する業界 ・油空圧機器開発に関する業界 ・歯科医療機器開発に関する業界	オムニバス
		ロボティクス		ロボットは様々な科学技術を融合した1つのシステムであることから、本講義では電気工学、機械工学、情報工学、制御工学などの基礎工学を統合し、システムにまとめあげるロボティクス（ロボット工学）について考え、ロボットシステム開発に必要な基本知識を要素技術、システム化技術（ハード、ソフト）の両面から学修することを目的とする。最終的に、ロボットを設計・制御するために必要な基礎知識を習得できるよう、 機械の動力学運動方程式の導出、ロボットの各種制御手法について重点的に取り組む。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	主専攻	医学・医療概論		医療福祉に携わる理工学系研究者・技術者に必要な医学的知識を包括的に教授する。基本的な疾患の病態・病因・治療法、代表的な医療機器の仕組みと用途、医療施設、日本の医療システムについて概説する。基礎的な疾患として、血行障害による病変、進行性の病変、退行性の病変、炎症、腫瘍、奇形を取り扱う。医療機器として、治療機器、診断機器、機能代行・補助の機器を取り扱う。医療機器メーカーの協力のもと、血圧計やパルスオキシメーター、心電図などの医療機器を体験し、そのメカニズムを学ぶ。医療施設メーカーの協力のもと、医療施設の設計・施工・運用までの一連の流れを説明する。	
		医工学エレクトロニクス演習	○	生命医工学分野における医療福祉機器の開発に必要な技術を身につけるため、特に電気と情報処理の各分野の要素技術について体感し、それらを組み合わせてひとつのシステムとして構築する手法を学ぶ。また、レポート作成を通し、基本的な技術文書の書き方を身につける。 本実験では、基本である電気的特性を計測する計測機器の使い方、デジタル回路の組み立て、アナログ回路基板の作成などについて学ぶための実験演習を行っていく。	共同
		医工学セミナー	○	医工学コースの各研究室の研究領域や特色を学び、自身の興味を明確にし、3年次より履修する総合研究Ⅰ、総合研究Ⅱ、総合研究Ⅲ、総合研究Ⅳで研究活動を実施する研究室を選択する。研究の取り組み方、研究テーマ設定、研究の遂行に必要な知識、実験手法、開発技術、論文の書き方、発表方法および参考文献の検索方法やその管理方法について学ぶ。研究に携わる際に必要となる研究者倫理をAPRINのeラーニングを通じて学習する。 （オムニバス方式／全14回） （49　山本　紳一郎／2回）　神経リハビリテーション工学・人間工学に関連する領域について （62　髙木　基樹／2回）　福祉工学に関連する領域について （53　渡邉　宣夫／2回）　バイオ流体に関連する領域について （63　髙山　祐三／2回）　細胞工学に関連する領域について （25　迫田　大輔／2回）　生体物理工学・人工臓器に関連する領域について （59　信太　宗也／2回）　医療技術に関連する領域について （66　中村　奈緒子／2回）　生体材料・人工臓器に関連する領域について	オムニバス
		医工学プログラミング演習		医工学に関する研究では、計測や制御のために種々のプログラミング技術が必要となる。本演習では、データ解析、画像処理、アルゴリズム開発など多様な機能を持ち、医工学分野で広く使用されているMATLAB・Phythonを中心にプログラミング技術を学ぶ。前半では、数値計算、データ解析方法、プログラミング構文など、初歩的な内容から始め、その後、画像処理の基礎を修得し、医工学研究に必要なデータ解析・プログラミングについて理解を深める。	
		運動生理学		本科目は講義形式を中心とし、適宜実習形式を交える。 講義では、身体運動が生じる仕組みの基礎、ならびに身体運動によって身体（各器官）がどのような応答や適応を示すのか、基本的なメカニズムを含めて概説する。さらに、身体機能や健康に影響する要因について、関連科目を学ぶ上での基礎を説明する。身につけた知識を活用し、身体機能の向上や健康づくりに結びつく取り組み、そしてそれらをサポートするものづくりにつなげられるようになることを目標とする。	
		解剖学	○	解剖学とは人間の正常なからだの形態と構造を研究する形態学の一つであり、生体に対する理工学的アプローチを考える際に必要な学問である。生命健康科学領域に必須の人体にのマクロからミクロの構造について説明する。本科目では、骨格系・筋系・循環器系（心臓・血管・脾臓等）・消化器系（口腔・胃・小腸・大腸・肝臓等）・呼吸器系（肺等）・泌尿器系（腎臓・膀胱等）・内分泌系・神経系（中枢神経・末梢神経等）・感覚器系（視覚器・平衡感覚器・皮膚等）等の各器官系について、疾患と関連付けながら、基礎的な内容を講義する。 （オムニバス方式／全14回） （66　中村　奈緒子／7回）　器官と器官系・骨格系・筋系・消化器系・泌尿器系について （63　髙山　祐三／7回）：循環器系・呼吸器系・内分泌系・神経系・感覚器系について	オムニバス

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		環境化学		環境化学の講義は、過去から現在に至る様々な環境問題を取り上げ、その歴史的背景や対策について説明出来るようになることを目的とする。また、環境濃度やリスクについても計算出来るようになり、将来の環境問題にも対応出来るようになることも目的とする。具体的な講義内容としては、環境化学の基礎として、濃度計算や物質収支の計算方法を習得する。また、地球温暖化の原理の理解や、過去に生じた公害問題の発生メカニズムについても学ぶ。さらに、大気汚染、水汚染、土壌汚染の環境問題やそれらの汚染対策技術、環境リスクマネジメントについても講義する。この講義を通じて、過去から現在までの様々な環境問題について理解し、それに対処できる知識とスキルを身につけることも目標とする。	
専門科目	主専攻	機械・電気基礎数学		機械・電気系システムの解析や設計を行う上で広く利用されている信号解析、データ解析等において基本的かつ必須の道具である、フーリエ級数、フーリエ変換およびラプラス変換の3つについて基礎的な事柄を学び、さらにこれらを線形システムの応答解析手法を身に付けることを目的とする。これらの定義、その物理的意味および実際の適用における選択を正しく理解することが重要である。企業での実務遂行のためには、必ず知っておかなければならないものである。 信号解析の基本を学ぶことは必要であり、また、今後「制御工学」、「線形システム制御」を深く理解する場合には、本科目の履修は必須となってくる。	
		機械設計製作演習	○	生命医工学分野の研究において、独自の実験装置を製作するケースが多くある。それらの機械設計製作においては何もないところから機能を持った装置を創り出す必要がある．その手段は設計である。最近の設計方法としては、CADで図面を描くのが主流となっているが，その前段階として機械製図の規則と設計方法を学ぶ必要がある．本講義は，機械図面の書き方としてまず機械製図法について学び，機械システム設計に必要な加工法を考慮した設計方法を学ぶ．加えて、手仕上げ加工、汎用フライス盤および汎用旋盤を用いた機械加工実習、およびNC（自動）機械加工を学び、座学と演習の両方の観点から機械設計製作法を習得する。加えて、ノギス、マイクロメータを用いた計測体験も行い、ものづくりのセンスを養う。	共同
		機械力学		本講義では生命医工学分野における機械や機器の設計や生体の動きを理解するうために必要な基礎知識である機械力学を学ぶ。機械力学では「機械の動作により生じる力」等を扱う学問であり、基本的な物体の運動、剛体に関する力のつり合いを扱う「静力学」、動かない物体に働く力のつり合いを学ぶ「動力学」について学ぶ。また、並進的な運動における運動方程式に対応した物体の回転運動に関する角運動量や慣性モーメントや振動に関する基本的なことについても学ぶ。	
		機構学		機械を設計してゆくには、 まず動く仕組み（からくり）を定性的ならびに定量的に把握しなければならない。 それを扱うのが機構学であり、 機素や節で構成される‘力の伝達機構’とその‘作動原理’を学ぶことを目的とする。 具体的には、 リンク機構、 摩擦伝動機構、 カム機構、 歯車機構などといった機械を構成させる重要な機構の内容について、 原理以外にも数学的・力学的要素を考慮しながら講義を行う。 また、 このような原理を使って機構や構造物を創造設計する演習を設ける。	
		機能解剖学		本科目は講義形式を中心とし、適宜実習形式を交える。 解剖学の続きの科目として位置付け、解剖学の中でも、骨格筋と関節にフォーカスし、ヒトの身体運動を生み出す基礎的な構造・機能について理解することを目標とする。 （オムニバス方式／全14回） （２　赤木　亮太／7回）　全14回の内、最初の4回を担当する。主に上肢に関して説明する。 （55　江間　諒一／7回）　全14回の内、残りの10回を担当する。下肢・体幹を中心に説明する。	オムニバス

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	主専攻	公衆衛生学		環境因子によって誘導される健康へのリスクを学習することは、ある一定集団のQOLの向上・疾患の予防・健康寿命の延伸に必須である。本講義では、集団の特性を理解する保健統計・集団の中で出現する健康事象に関する疫学調査・ウイルスや細菌による感染症・農薬や遺伝子改変食品の現状・事業活動による公害・動物や植物の有害成分や食物連鎖を通して取り込まれた天然の毒物などの単元ごとに、環境因子と健康リスクの関係性について学習し、その理解を進める。	
		構造解析学		本科目は有機化合物の構造を解析するための基本的な知識の習得を目的とする。講義では種々の分光法のうち、現在最も一般的に構造解析に利用される種々の分光法を取り上げ、総合的な化学構造の構造解析方法を学習する。授業は７回ずつを須原、廣田が担当し、主に以下の内容について解説する。 （オムニバス方式／全14回） （30　須原　義智／7回）　紫外-可視分光法、赤外分光法、プロトン核磁気共鳴分光法、炭素-13核磁気共鳴分光法、二次元核磁気共鳴分光法について （67　廣田　佳久／7回）　質量分析法、X線結晶解析、総合演習問題について	オムニバス
		細胞生理学		生理学の中でも特に細胞の生理学について講義を行う。細胞膜の機能や細胞内小器官における生理学、更には細胞間・細胞内情報伝達機構についても講義を行う。よって、講義の中では分子生物学や科学的要素も含まれる。これまでの生理学や神経生理学よりはよりミクロな範囲での講義となる。講義内での資料の解説を通じて、蛍光タンパク質の導入による細胞観察など様々な分子細胞生物学領域における実験手法や、グルタミン酸神経毒性など実際の疾病のメカニズムに関する話も行う。	
		材料力学		本科目は講義形式を中心とし、適宜演習形式を取り入れる。 まず外力およびモーメントのつり合いより反力を正しく求められるようにする。次に応力ひずみの定義、応力ひずみ関係、一般的な金属材料の弾塑性挙動を理解する。さらに熱応力、不静定問題について学習する。後半でははりの曲げに関する力学を学ぶ。SFD、BMD、曲げ応力、断面二次モーメントについて学習し曲げ剛性及び断面設計について学習する。その後、それらすべてを使った問題、すなわち曲げ変形について正しく計算できるよう学ぶ。具体的にはたわみの微分方程式について理解しそれを用いたたわみ量の計算ができるようにする。最後に、ねじりの観点から、設計に必要な計算方法を学習する。	
		食品栄養学		健康寿命を延伸するためには，健全な食習慣を送るための基本的な知識を学ぶことが重要である。本講義では，近年明らかになった食と健康の関連性について学習する。具体的には，食品と医薬品の分類や現在流通している食品の特性を理解するとともに，栄養学だけでなく生理学・神経科学・生理学をベースにエネルギー代謝・概日リズム・腸内環境・味覚，あるいはメタボリックシンドローム・ロコモーティブシンドローム・ガン・神経変性疾患といった単元ごとに理解を進める。	
		神経生理学		生理学の中でも特にヒトの神経系に関して講義を行う。神経生理学も生理学同様、生体内恒常性（ホメオスタシス）の考え方が基となっている。活動電位や神経伝達物質の機能を含めた神経伝達を学ぶことで、記憶のメカニズムについて理解する。また、二重支配を中心とした自律・体性神経系を含む中枢・末梢神経系の役割などについても講義する。老化や認知症、アルツハイマー病などの多くの神経変性疾患に関する理解を深めるうえで非常に重要である。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	主専攻	人工知能基礎		人工知能は、人間の知能を解明し、それをコンピュータ上に実現することを目的とする学問領域である。計算機の性能向上と我々の手にできるデータ量の増大により、人工知能は我々の生活に欠かすことのできない技術となりつつある。知能は多面性を持つため、人工知能はさまざまな学問領域に深く関わり、関係領域は幅広い。この授業では、知能を解明する試みの歴史を辿りながら、人工知能における基礎的な技術分野・アルゴリズム等について学ぶ。また、人工知能にとってより根源的な哲学・倫理的話題についても考えていく。	
		制御工学		機械のモーションコントロール、移動体制御、通信システム制御、福祉・リハビリテーションロボット、医療・手術支援システムなど、機械・電気工学分野で対象とするシステムには必ず制御技術が必要となる。この講義では、一次/二次遅れ系の応答、入出力安定性判別、周波数応答、フィードバック系およびPID制御系設計に代表される、制御工学の基礎について学ぶ。さらに、理論だけでなくMATLAB/Simulinkを使用しての演習も実施する。	
		生化学	○	生体は膨大な数の細胞により構成されており、高度なネットワークにより生命現象が制御されている。このような複雑なメカニズムを理解するために、化学的検知に基づき糖・脂質・タンパク質等の生体成分や生体内の酵素反応を中心とした代謝系を学ぶことによって、生体の恒常性維持のメカニズムを理解することを目標とする。授業の前半の7回は、細胞の基本構造、糖質、脂質、タンパク質、ビタミン、核酸・ミネラルといった生化学を学ぶ上で基礎的なものの理解や構造式、その機能を概説する。後半の7回は、酵素の性質と反応、糖質や脂質の代謝といった、酵素機能や生体内代謝を概説する。	
		生体計測学		「計測」とは，特定の目的を持って事物や現象を量的に捉えることであり，科学の基本となる現象の数値化を可能とする。つまり，生命活動や生体現象を理解するためには，生体の構造や機能を計測することが必要不可欠である。本科目では，この「生体計測」の基礎概念を学び，生体計測を行う際に必要となる基礎知識を身につけることを到達目標とする。授業は講義を中心に構成し，3割ほど演習を含める。具体的には，生体計測の特徴や計測全般に関する基礎知識を学んだ後，主に個体レベルの生体計測を対象に，生体信号の検出，アナログ処理，デジタル処理，結果表示に至る各プロセスについて学習する。その後，簡単な生体信号の計測演習を通して，生体計測に関する理解を深める。最後に，少人数のグループに分かれ，関心を持った生体計測装置／医療機器について調査，発表を行い，生体計測の応用例について学ぶ。	
		生体高分子工学		本科目は、生体を構成し、生命活動を司る高分子について、その産業への利用に向けてどのような研究や手法等が行われているのかを理解することを目標とする。授業の前半の7回は、タンパク質・核酸・多糖類などの天然高分子化合物と、人工的に化学合成されたプラスチックなどの高分子化合物の結合様式や立体構造、生理機能について解説する。後半の7回は、工業、環境、医療、医薬に向けたタンパク質などの高分子化合物の高度化・有効利用のための応用研究について概説する。	
		生物地球化学		生物地球化学は、生物と地球のかかわりに焦点を当てた学問である。生命の起源、地球規模での物質循環における生物の役割や、近年の人類による環境影響が生物地球化学にとって重要な視点である。また、生物に密接に関連している安定同位体は環境影響を大きく反映するため、生物地球化学にとって有力なツールになっている。生物地球化学の講義では、講義前半では、生命の誕生、生物の外部環境、炭素や窒素の物質循環、人類における環境影響について講義を行う。また、講義後半では、安定同位体比の原理、分析法の歴史、生物への応用例などを講義する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （システム理工学部　生命科学課程）					
科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	主専攻	生物物理学		生物の物理的な活動や特徴を理解することを目的とする。ヒトをはじめとする生物は、光や力という物理的な情報を視覚や触覚という感覚により得る。その情報を神経の電気的活動で伝えて処理し、さらに筋肉や繊毛のような運動装置の動きを制御し、適切に反応する。このような生物の物理的な活動や特徴を理解することは、生物の理解を深めるだけでなく、ヒトを守ったり補助したりする器具や装置の開発にも有効である。さらに、さまざまな生物が進化の間に蓄えてきたセンサーと運動装置の巧妙な仕組みには、新しい装置を開発する上でのヒントが豊富に含まれる。本講義では、ヒトの感覚と運動の基本を学ぶとともに、ヒト以外のさまざまな生物の適応戦略を学ぶ。	
		生命科学概論		本科目は、生命科学という学問領域の概要を説明するとともに、様々な研究専門分野について、所属する担当教員が最新の研究事例、卒業後の進路やキャリアの事例等を交えて分かりやすく解説する。また、専門科目と各研究専門分野との関わりについて説明する。本講義によって、生命科学コースの全体像を把握し、総合研究や卒業後の進路を意識した学修計画を立てることを目標とする。授業は担当する教員が原則2回ずつ、関連する研究内容を講義する。 （オムニバス方式／全１４回） （54　ＡＺＨＡＭ　ＢＩＮ　ＺＵＬＫＨＡＲＮＡＩＮ／2回）　微生物学について （67　廣田　佳久／2回）　生化学・分子生物学について （30　須原　義智／2回）　有機化学について （45　矢嶋　伊知朗／2回）　発生遺伝学について （40　福井　浩二／2回）　生理学について （18　川島　洋人／2回）　環境化学について （51　吉村　建二郎／２回）　生物物理学について	オムニバス
		生命科学実験（基礎）	○	本科目は、生命科学実験（応用）、生命科学実験（発展）を受講するに当たり、基礎的な実験を自ら実施し、知識や技術を習得することを目標とする。実験については、特に化学・生物学の基礎的な実験やレポートの書き方、将来的な研究室での実験手技等の取得を目指す。また、最も重要な科学的な倫理観や安全な実験寳保などを理解する。 （オムニバス方式／全１４回） （54　ＡＺＨＡＭ　ＢＩＮ　ＺＵＬＫＨＡＲＮＡＩＮ／2回）　分光光度計の使用方法について （67　廣田　佳久／2回）　天秤と回転機器の使い方について （30　須原　義智／2回）　薄層クロマトグラフィー法について （45　矢嶋　伊知朗／2回）　細胞の染色と観察について （40　福井　浩二／2回）　顕微鏡の使い方について （18　川島　洋人／2回）　pHメーターと緩衝液について （51　吉村　建二郎／２回）　生物物理の基礎について	オムニバス
		生命科学実験（応用）	○	本科目は、生命科学実験（発展）を受講するに当たり、生命科学分野における基礎から応用の実験を実施し、知識や技術を修得することを目標とする。実験については、特に、化学・生物学のより専門的な実験やレポートの書き方、PCRやウエスタンプロットといった生化学的な手法や化合物の有機合成、環境物質の分析など将来的な研究室での実験手技などの取得を目指す。 （オムニバス方式／全１４回） （54　ＡＺＨＡＭ　ＢＩＮ　ＺＵＬＫＨＡＲＮＡＩＮ／４回）　微生物学実験について （67　廣田　佳久／2回）　生化学実験について （30　須原　義智／４回）　有機化学実験について （18　川島　洋人／４回）　環境化学実験について	オムニバス
		生命科学実験（発展）	○	本科目は、実験形式にて実施する。授業の目標として、研究室配属をするに当たり、応用からより発展した実験を実施し、知識や技術を習得することとする。実験については、特に大腸菌等の形質転換やゲノム編集などの遺伝子組み換えといった分子生物学的な手法や医薬品など立体選択的な化学合成、食品栄養成分や大気汚染物質の定量分析など将来的な研究室での実験手技等の取得を目指す。 （オムニバス方式／全１４回） （67　廣田　佳久／６回）　生化学実験などについて （45　矢嶋　伊知朗／４回）　発生遺伝学実験について （40　福井　浩二／４回）　生理学実験について	オムニバス

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		生命統計学		生命科学課程における様々な実験研究のための統計手法の基礎を講義する。生命科学コース・医工学コース・スポーツ工学コースの分野で多く扱われるヒトや動物を対象とした実験データの統計処理手法を習得することは、合理的な実験研究計画の立案に不可欠である。実験系の統計処理の基本的な確率統計手法を中心に生命科学課程分野の研究事例を用いながら解説し、演習によって基本的な統計処理手法を身につけ、総合研究に生かせるようにする。	
		創薬化学		本科目は、「作用」に関する基本的知識を修得することを目的とし、主に以下の「化合物のデザイン」「ターゲット分子」「医薬品の合成法」「バイオアッセイとスクリーニング」「倫理と規制」の内容について解説する。 １．化合物のデザイン：生体内で作用を示す新しい薬物の設計と合成方法について学ぶ ２．ターゲット分子：疾患の原因となるタンパク質や分子について、それらをターゲットにする薬物にはどのようなものがあるのか解説する ３．医薬品の合成法：新しい薬物を効率的かつ安全に合成する方法について学ぶ 4.バイオアッセイとスクリーニング：医薬品の候補化合物の効果を評価するための実験法やハイスループットスクリーニングの原理について解説する 5.倫理と規制：医薬品の研究開発における倫理的問題と規制について学び、薬物の承認プロセスについて説明する	
		電気電子回路	○	医療・福祉機器の設計・開発を行う際、様々な電気電子機器を利用することが多い。また、生体計測技術の多くは生体から検出する微小な電気信号を電気的に変換して処理するものである。本授業では医療・福祉機器分野における電気電子機器や生体計測技術を理解・活用・設計するために必要な電気電子回路の基礎知識を学習する。具体的には基本的な電気素子とトランジスタやオペアンプなどを用いたアナログ回路及びデジタル回路の基礎理論を学び、それを用いた電気電子回路の設計手法について学習する。	
		脳機能計測学		ヒトの認知的・身体的パフォーマンスには、脳のはたらき（脳機能）が大きく関与している。本科目では、脳機能計測技術が発展してきた背景とともに、代表的な脳機能計測技術の原理と特徴について理解を深めることを目的とする。また、脳機能計測を活用してヒトの認知機能や身体機能を神経生理学的に理解する枠組みを学び、その知識を医工学やスポーツ工学に関する研究開発に応用する力を身につける。授業は主に講義形式で進めるが、グループディスカッションや実験デモンストレーションなど、能動的に学習する機会を適宜織り交ぜて構成する。	
		発生生物学		分子遺伝学は生命現象を遺伝子レベルのシステムとして理解する学問である。本授業では、遺伝子そのものの構造や性質とその機能について解説する。 「遺伝する」とはどういうことなのか、遺伝子という情報が先祖から子孫に向けてどのように伝わっていくのか、その分子レベルの仕組みを解説する。 また、遺伝子の情報を「伝える」ために必要な情報の複製（コピー）方法、あるいは情報に齟齬（エラー）が生じた際のチェックシステムや修復システムについても紹介し、情報（遺伝子）が次世代へと正確に伝わる仕組みを解説する。 さらに、遺伝によって受け継がれる疾患やその発症形態を紹介することで、ヒトと遺伝に関する理解を深めるとともに、最近の遺伝子技術とその応用についても紹介する。	
		微生物学		本科目は、微生物の基礎（発見、構造、生理機能、生態、進化）から、産業応用（発酵食品・醸造、環境・物質循環、医療、農業、エネルギー）までの概要をしっかりと理解し、学生が説明できるようにすることを目標とする。授業の前半の7回は、基本的に微生物を知ることから学ぶことになり、微生物の分類と構造、取り扱い方法、微生物の遺伝学を概説する。後半の7回は微生物の代謝、発酵、物質生産と関連するバイオテクノロジーについて概説する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	主専攻	物理化学		本科目「物理化学」は、生命や物質世界における分子のふるまいを「エネルギー」の観点から理解する学問体系である。物理化学の主要な領域のうち、化学熱力学と反応速度論のトピックを、適宜演習問題を解きながら学び、理解を深めることを目標とする。授業については、特に、物理化学の主要な領域のうち、化学熱力学と反応速度論のトピックに関して概説する。	
		分子遺伝学		分子遺伝学は生命現象を遺伝子レベルのシステムとして理解する学問です。本授業では、遺伝子そのものの構造や性質とその機能について解説します。 「遺伝する」とはどういうことなのか、遺伝子という情報が先祖から子孫に向けてどのように伝わっていくのか、その分子レベルの仕組みを解説します。 また、遺伝子の情報を「伝える」ために必要な情報の複製（コピー）方法、あるいは情報に齟齬（エラー）が生じた際のチェックシステムや修復システムについても紹介し、情報（遺伝子）が次世代へと正確に伝わる仕組みを解説します。 さらに、遺伝によって受け継がれる疾患やその発症形態を紹介することで、ヒトと遺伝に関する理解を深めるとともに、最近の遺伝子技術とその応用についても紹介します。	
		分子生物学		分子生物学とは、これまでに学んだ分子生物学は生化学、微生物学、遺伝学等を基礎として、生命現象を分子のレベルで理解し、分子メカニズムを理解する学問である。分子生物学を基盤として、遺伝子工学、蛋白質工学、酵素工学、糖鎖工学、脂質工学等のバイオテクノロジーが急速に進展し、工業、環境、医療・医薬（薬理学等）、農業・食品などの発展に大きく貢献してきている。このような生命現象を分子レベルで理解し、説明できることを目標とする。授業については、前半の7回は、生体膜、酸化還元反応、情報伝達とホルモン、核酸およびタンパク質の生合成といった生化学の内容とオーバーラップする内容を概説し、後半の7回は、iPS細胞、オートファジーと疾患、ゲノム編集の現状と課題、感覚生物学、ウィルス感染防御といった最新の分子生物学のトピックを概説する。	
		分析化学		分析化学は、化学物質の種類や存在量を解析し、化学物質の分離方法を理解する化学の一分野である。あらゆるものは化学物質であり、分析化学は、工業、環境、医療・医薬、農業・食品など幅広い分野で利用されている。講義前半では、分析化学の目的、基本的な分析器具の操作方法、分析化学のデータ処理、濃度、pH、化学平衡などの化学の基礎知識の習得に重点を置き、講義し、また演習も行う。講義の後半は、分光化学的な手法、原子分光分析法、クロマトグラフィ、ガスクロマトグラフィ、液体クロマトグラフィ、質量分析、安定同位体比質量分析等の機器分析法の原理を解説し、最新の分析機器の状況、実際の応用例について紹介する。	
		保健医療福祉政策概論		国、都市、地域が置かれている状況を、多面的な角度から把握して、保健医療福祉の政策立案を可能にすることを本授業の目的とする。そのために、これまでの保健医療福祉の政策背景へ考察から、これからの将来への定量的な予測まで授業で扱う。医療については、医療機関の統廃合や最適な病床数の検討。保健については、住民の健康の状況と医療費の関係性、福祉について地域包括ケアシステムをキーワードとデータに基づき、定量的に紐解く。	
		無機化学		本科目は、酸化還元や酸・塩基といった化学を学ぶ上で通常必要とされる概念を体系的にまとめ解説するとともに、化学を学ぶ者が知っておきたい無機物質（単体・化合物】を種々取り上げ、化学的概念と結びつけてそれらの特性を解説し、また、無機物質から作られるいくつかの重要な無機材料に関して理解することを目標とする。授業については、酸化還元や酸・塩素、無機物質の化学的概念やその特性、無機物質から作られる無機材料等に関して概説する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	主専攻	薬理学		疾患に対して用いられる薬物が、どのようにして作用を示すのかについて学習する。様々な投与経路を通じて処置された薬物の血中や標的臓器における動態、標的臓器における神経伝達物質・ホルモン・オータコイドといった情報伝達物質やその受容体と薬物の化学的相互作用、その結果として発現する表現型である有効性・毒性について、循環器・消化器・中枢神経系・免疫系・悪性新生物・ウイルス・細菌といった単元ごとに理解を進める。	
		有機化学		有機化学は炭素を中心とした有機化合物に焦点を当て、その構造、反応、合成の基本を理解することを目的とする。有機化学は生命の基本的な分子や有機化合物の合成をはじめ、医薬品の設計、新素材の創成、環境への影響など幅広い分野に関連している。本講義では、炭素の結合、立体化学、官能基、反応機構など、有機化学の基本について解説する。また、複雑な分子を合成するための有機合成法について、受講者が新しい化合物を創出するための基礎を身に付けることを目指す。	
		流れ学		自然界に存在する物体のうち、気体と液体は力の作用より生ずる変形量が大きいという、固体には見られない著しい特徴がある。このような物体を総称して流体と呼ぶ。空気や水のような身の回りの流体の運動、すなわち「流れ」が多様な自然現象をもたらしている。また、社会を支える様々な機械システムでは、流体がもつ性質をうまく利用してエネルギー変換を行なっている。それらの理解のためには、流体の特徴と流れの性質を十分に把握することが重要となる。この科目では、流れに関わる力学の基本法則を学び、それを流体が関わる機械システムの評価や設計に応用する能力を身につけることを目的とする。	
		Cross-cultural Student Support		Supporting international students is considered to be an effective approach of preparing for studying abroad and understanding the differences in ways of thinking from country to country. This course aims to provide support to students who have come to study abroad at SIT to help them become aware of the problems and things they should consider while your studying abroad, and to help students learn about the differences between the cultures of their countries and Japan. The purpose is to create an opportunity to deeply consider differences in ideas and ways of thinking. Although it is possible to accompany for official procedures and contracts, it is important that both students are fully aware of the scope of support each pther, as this is intended to help international students become able to live independently. 留学の準備あるいは国々ごとの考え方の違いを知るには、留学生をサポートすることが一つの有効な手段と考えられる。この科目は、本学に留学して来た学生のサポート活動により、留学先で体験するであろう問題点や考えておくべき事柄に対する気付きを得ること、あるいは学生の出身国と日本の文化の差や考え方の違いを深く考える機会を作ること、を目的としている。 なお、手続きや契約等への立ち合いは可能であるが、あくまで留学生が自立して生活できるようになることを支援するため、サポートの範囲をお互いに十分に知っておくことが重要になる。	
		理科指導法1		本講義では、中学校及び高等学校学習指導要領の内容を踏まえて、理科の目標、科目編成と履修、科目の内容、および評価の観点などについて概説する。小学校・中学校・高等学校・大学の理科・科学教育を俯瞰し、年間授業計画案の作成、学習指導案の作成、模擬授業、評価方法を実習形式で学ぶ機会を提供する。本講義を通して理科指導の基礎を培い、中学校及び高等学校理科教師としての専門性向上を図る。また理科教育に関する様々な指導法の理解を深める機会も提供する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	副専攻	理科指導法2		本講義では、「理科指導法１」の内容と関連させながら、中学校及び高等学校の学習指導要領に示された内容の背景となる学問領域について理解を深め、具体的な授業場面を想定した授業計画案や学習指導案の作成と、模擬授業の実施と評価方法を実習形式で学ぶ機会を提供する。また関連する様々な学習指導理論の理解を深め、さらに模擬授業の振り返りを通して、教育実習において求められる数学に関する専門的知識と実践的な指導力の向上を図る。	
		理科指導法3		「理科指導法１、２」の内容を踏まえ、中学校及び高等学校の学習指導要領に示された内容の背景となる学問領域について理解を深め実践力を強化する。さらに教育実習で必要な授業力を養成する。具体的な授業場面を想定した授業計画案や学習指導案の作成と、模擬授業の実施と評価方法を実習形式で学ぶ機会を提供する。ICTを活用した教材作成や模擬授業の振り返りを通して、教育実習において求められる理科に関する専門的知識と実践的な指導力の向上を図る。	
		理科指導法4		「理科指導法１、２、３」を通して得た理科教育に関する知識・技能・経験に基づき、生徒の関心・意欲、思考・判断・表現の向上を可能とする実践的な指導力を修得することを目的とする。教育実習においては、専門的知識をふまえ、多様な生徒への対応が求められる。生徒指導の視点を含め、具体的な授業場面を想定した授業計画案や学習指導案の作成と、模擬授業の実施と評価方法を実習形式で学ぶ機会を提供し、教科における総合的な指導力の向上を図る。	
		工業科指導法１		本講義では、高等学校学習指導要領の内容を踏まえて、教科工業の目標、科目編成と履修、科目の内容、および評価の観点などについて概説する。高等学校で用いる様々な機器を用いた教育活動等を俯瞰し、年間授業計画案の作成、学習指導案の作成、模擬授業、評価方法を実習形式で学ぶ機会を提供する。本講義を通して工業科指導の基礎を培い、高等学校工業科教師としての専門性向上を図る。また工業科教育に関する様々な指導法の理解を深める機会も提供する。	
		工業科指導法2		本講義では、「工業科指導法１」の内容と関連させながら、高等学校の学習指導要領に示された内容の背景となる学問領域について理解を深め、具体的な授業場面を想定した授業計画案や学習指導案の作成と、模擬授業の実施と評価方法を実習形式で学ぶ機会を提供する。また関連する様々な学習指導理論の理解を深め、さらに模擬授業の振り返りを通して、教育実習において求められる工業科に関する専門的知識と実践的な指導力の向上を図る。	
		職業指導		本講義では、主に工業高等学校の生徒への職業指導だけでなく、小・中・高校生へのキャリア教育をも視野に入れて、職業指導、進路指導、キャリア教育に必要な基礎知識、ものの見方考え方、その指導法を実践的に習得することを目的とする。職業指導の発展経緯や基礎理論などの授業に加えて、キャリア教育で実際に使用されている教材等を体験することを通して、受講生が自ら体験して、考え、学ぶことを重視する。被支援者としての生徒とのコミュニケーションの取り方を実践的に習得する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	副専攻	工学基礎概論		現在のプロダクトやサービスは、様々なシステムの組み合わせによりデザイン、製作されている。例えば、自動車は、Software Defined Vehicle（SDV）としてソフトウェアによって機能が定義され、アップデートできるデザインへと変わってきている。本講義では、履修者自身の興味があるプロダクトやサービスを取り上げ、リバースエンジニアリングにより全体システムを実現するためのシステムの組み合わせを明確化する。その後、各システムに対する機能分解を行い、その機能を実現するための工学技術を探求する。この探求により、プロダクトやサービスが様々な分野の工学技術の組み合わせで実現していることを理解する。	
		教育におけるICT活用		社会の変化や急速な技術の発展を踏まえ、個別最適な学びと協働的な学びの実現や、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が必要となっている。また、学校教育現場では1人1台の情報機器が児童・生徒に配布され、情報通信技術を活用した学習指導や校務の在り方の理解も求められている。本講義ではこうした教育をめぐる情報技術の変化を踏まえたうえで、情報通信技術を効果的かつ適切に活用する能力を育む教育方法の理論及び方法について学習する。	
		教育の方法及び技術		社会の変化に対応し、適切な学習指導を行うには、新しい教育方法を学び、教育の技術に関する知識や技能を身に付ける必要がある。本講義では、基本的な教育技術である話し方や板書に加え、授業の設計・実施・分析・評価・改善の方法、さらに教員の授業力に関する課題など、教員が学校現場で同僚などと情報交換しながら研鑽を積み、成長していくために必要な内容を取り扱う。そして、これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解することと、教育の目的に適した指導技術を理解し身につけることを目指す。	
		総合科学実験		本講義では、将来の理科教員として指導できるよう、科学的手法における「仮説」を検証する実験活動の重要性を理解し、さらに実験を指導する知識と基礎的な実験操作を習熟し、身に付ける。具体的には、地学・化学・物理学に関係する試料の取り扱いと分析・解析手法の習得を目指す。分析化学・物理化学、各分野に関連した実験を行うことで、様々な知識や実験器具を使って、新しい実験を開発する能力を養っていく。	
		教職論		本講義は、これから４年間で学ぶ教職関連科目の基礎に位置づけられており、学生が学校現場での諸問題に対して、教師の動きを中心に、子どもたちの成長を安心、安全に配慮し、教育できることについて理解できるようにする。また、教科指導がどのように進められているのかを、教職を目指す学生が理解できるようにする。また、学校教育と教職の意義や歴史、教員組織と文化など幅広く取り上げ、教師という職業に求められる資質を身に付けるための基盤となる知識の習得を目指す。	
	副専攻	特別活動の指導法		教師には、学習指導要領の「特別活動の目標」に掲げられた「互いの良さや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決する（望ましい集団活動）」ことを指導する心構えと、実践的な指導力が求められる。本講義では、特別活動の目標及び教育的意義とそれらに基づく教育活動の実際、学級活動（ホームルーム活動）の理解と指導計画、生徒会活動の理解と指導計画、学校行事の理解と指導計画、特別活動を指導する際の留意点について講義するとともに、学生による発表及び相互評価等のグループ活動を行う。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻等	総合的な学習の時間の指導法		総合的な学習の時間では、国際化や情報化をはじめとする社会の変化をふまえ、子どもの自ら学び自ら考える力などの生きる力を育むとともに、教科などの枠を越えた横断的・総合的な学習を行う。体験学習や問題解決学習の重視、学校・家庭・地域の連携も重視される。本講義では、学習指導要領の「総合的な学習の時間の目標」に掲げられた「探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成する」ための実践的な指導力の向上を図る。	
	道徳の理論及び指導法		本講義では、学校の教育活動全体で行われる道徳教育の基礎的知識の獲得と、指導力の育成向上を図ることを目的とする。本授業は、大きく３つに分かれる。まず、はじめに道徳教育の理念と歴史について学び、道徳を教えるとはどういうことか、日本における道徳教育がいかに揺れ動いてきたかを確認する。２つ目に、いくつかの道徳的教材について考察することにより、道徳教育の指導に必要な思考力を鍛える。３つ目として『学習指導要領』の内容を確認し、「特別の教科 道徳」に関する教材研究を行うとともに、実際に指導する場面を想定して学習指導案の作成と模擬授業を実施する。	
	生徒・進路指導論		本講義は中学校、高等学校における学校教育に欠かせない生徒指導と進路指導についての基本的な理念、意義、法規について概説し、生徒指導と進路指導の実践に欠かせない生徒理解について学生と共に考察する。また、家庭、学校、地域社会、学校外部の諸機関との連携の必要性について説明する。進路指導・キャリア教育については、キャリア教育が必要とされる社会的背景を説明し、単なる職業指導・進学指導ではない生徒指導と連動した教育の理念と意義について概説する。	
	教育課程論		本講義では、教育課程、学習指導要領についての基本的な概念と学校教育、社会から見た意味と意義について学んだうえで、教育課程の編成方法を説明する。さらに現代の学校教育におけるカリキュラム・マネジメントの必要性と方法について学び、カリキュラムそのものの評価の方法について概観する。また、学習指導要領を基準として編成される教育課程についての基本事項と各学校において編成される教育課程の意義や編成方法を学習するとともに、各学校や地域の実情に合わせ、教科横断的な考え方で行われるカリキュラム・マネジメントの意義と方法を理解する。	
	教育相談論		本講義では、教育相談に関する基礎的知識を中心に紹介する。まずは、教育相談を行う上で有用であろうと思われる基礎的知見をなるべく網羅的に解説する。具体的には、１.教育相談とは、２.カウンセリングの基礎、３.不登校・いじめ・非行の理解と対応、４.開発的教育相談の大きく４つのテーマを扱う。その上で、単なる知識の習得にとどまることなく、個別およびグループでの演習を取り入れながら、学んだ知識を活用して実際の教育現場で起こりうる問題の理解と対応策を考える機会を提供する。	
	教育心理学		本講義では、教育活動を進める上で有用であろうと思われる心理学の基礎的知見をなるべく網羅的に解説する。具体的には、発達、学習、動機づけと学習意欲、教授法、教育評価、学級集団の大きく６つのテーマを扱う。その上で、単なる知識の習得にとどまることなく、個別およびグループでの演習を取り入れながら、学んだ心理学的知識を自分自身の経験と照らし合わせて考えることができること、および、今後教育活動を行う上でどのように活かしていけばよいのかについて考えることを重視する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	副専攻	特別支援教育論		本講義では、通常の学級に在籍している発達障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする生徒を理解し支援するために必要な知識や方法を解説する。「１．特別支援教育の制度や教育課程」、「２．特別な支援を必要とする生徒の理解」、「３．特別な支援を必要とする生徒への支援」の大きく３つのテーマを扱う。単なる知識の習得にとどまることなく、個別およびグループでのディスカッションや演習、発表、疑似体験などを取り入れながら、学んだ特別支援に関する知識を活用して特別な支援を必要とする生徒の理解と対応策を具体的に考える機会を積極的に提供する。	
		IoT基礎		ICTの浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させることをめざすディジタルトランスフォーメーショ（DX）にはInternet of Things（IoT：モノのインターネット)技術が欠かせない。身の回りの様々なモノに取り付けられたセンサからの情報をインターネットを介して活用することで改善や新しい付加価値を創造できる。本科目ではIoTの歴史、IoTの仕組み、応用事例、IoTを実現技術と課題、市場動向について学修し、IoTに関する基礎知識の取得を目指す。	
		IoT設計論		モノのインターネット（IoT: Internet of Things）システムには、計測・制御・通信・蓄積・分析・予測などの技術が必要である。また、これらを組み合わせて一つのIoTシステムを作り上げるためにはこれらの要素に関する基礎知識だけでなく、どんな目的で何を作るか、どのように作るかを知らなければ効率的かつ有効な開発はできない。本科目ではIoTシステムの設計・企画におけるボトムアップおよびトップダウン的アプローチについて学び、IoTシステムを実現するための設計基礎の取得を目指す。	
		電気回路		電気電子工学の基礎として直流及び交流に対する線形回路の基本法則を習得するため講義形式の授業を実施する。この授業では直流・交流の線形回路の諸定理、フェーザ、イミッタンス、二端子対パラメータの概念を習得し、さらに共振回路や変成器などの基本的な電気回路の解析を自在に行えるようになることを目的とする。また各回に対応する演習・実験を電気回路演習で実施し、学生自ら線形回路における回路解析の基礎を身につけることを方針とする。	共同
		フロントエンドとインタフェース基礎		モノのインターネット（IoT:1nternet of Things）にはセンサから出力される電気信号（アナログ信号）を記億・分析できるディジタル信号に変換するまでのハードウェアが必要である。また、ボード間の通信には様々なシリアル通信規格が使われている。本科目ではアナログ信号からディジタル信号得るのに必要なセンサアナログ・フロントエンド（AFE）やアナログ、ディジタル変換、さらにシリアル通信などの基礎知識の取得を目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門	副専	センサとアクチュエータ		モノのインターネット（IoT:Internet of Things）には環境から情報を得るためのセンサが欠かせないである。また、メカトロニクス分野ではセンサとアクチュエータは中心的なデバイスであり、これらの技術がこの分野の重要なコンポネントである。本科目では様々なセンサやアクチュエータの原理を学び、使用事例を知ることでそれらの機能や使用方法、応用などの基礎知識を取得することを目指す。また、センサとアクチュエータに関する調査を行い最新動向を理解する。 （オムニバス方式／全14回） （37　ニコデムス　レディアン／6回） ・センシング技術概要 ・電圧と電流センサ ・温度センサ、加速度センサ、圧力センサ ・フォトダイオード、イメージセンサ ・マイクとスピーカー ・センサアナログフロントエンドの紹介 （34　田中　直彦／4回） ・超音波トランスデューサの構造と特性 ・パルス反射法とドプラ法 ・アレイトランスデューサとビームフォーミング ・超音波アクチュエータ、超音波のパワー応用 （73　桑原　央明／４回） ・アクチュエーション技術概要、静電駆動技術 ・電磁力駆動技術（モータ） ・流体駆動技術（油空圧，機能性流体） ・特殊アクチュエーション（超音波、刺激応答）	オムニバス
		ディジタル信号処理		計算機によって信号を処理するための技術であるディジタル信号処理は、IoTに限らず、情報通信、計測制御、メディカルエレクトロニクスなど多くの分野でなくてはならない基本技術となっている。本科目では離散時間システムの概念およびz変換、伝達関数と離散時間回路、標本化定理、離散フーリエ変換、FIR・IIRディジタルフィルタについて講義形式で学ぶ。本講義は、信号処理の数理よりも信号処理システムの構成に重点をおいて、ディジタル信号処理の基礎を講義する。	
		数値解析		コンピュータの発展によって、複雑な現象をモデル化し、シミュレーションを行うことで予測・推定および評価が可能となった。シミュレーションによる予測・評価は生産や開発現場での低コスト化や危険作業を減らすことにつながるため、技術者として非常に重要なスキルである。本本科目では、行列演算およびデータ補完、数値積分、非線形方程式と微分方程式の近似解についてシミュレーションに必要な数値解析を講義形式で学ぶ。C言語またはPython言語を用いた演習を通じて、これらの数値解析を実装するためのプログラミング技術を習得する。	
		電子回路		ディジタル時代といわれる現在、アナログ技術の重要性は減るどころが増加の一途をたどっている。アナログ技術の中核をなすのが、アナログ電子回路である。本講義は、トランジスタを２個程度使った電子回路の解析と設計をマスターすることを到達目標とする。特に、能動素子の等価回路の理解、電子回路の直流設計と交流設計重点を置く。電子回路の習得には、学生自らの手で回路の計算をすることが必須であるので、時間を割ける限り能動的な演習を実施する。	共同
		プログラミング入門		Minecraftを用いて、プログラミングの基礎となる論理的な思考と変数、条件、繰り返しの概念を学ぶ。ブロック構造のGUIを用いて、プログラミングの基本概念を実践していくとともに、C、C++、Java、Pythonなどのプログラミング言語を学習する際の基礎を築く。7回から構成されるこの授業では、Minecraftのプログラミング環境構築、変数、条件、繰り返し、およびこれらを総合的に用いた構造物の自動生成を取り扱う。	共同

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	副専攻	Python入門		本講義では、プログラミング的思考を身に付けることを目的とし、プログラミング言語のひとつであるPythonの基本を学ぶ。Pythonそのものの概要と歴史、変数とデータの型、条件文、繰り返しの制御、関数の定義と読み込み、ファイルの読み込みと書き込み等を取り扱う。そのほか、総合的な課題に取り組むことで、講義で身につけた基本的なPythonの知識を活用できる素質を養う。	共同
		Cプログラミング（情報）		昨今のソフトウェア開発では、様々なプログラミング言語が用いられ、現代のエンジニアはそれらに対する体系的な理解が求められる。本講義では、プログラミングを理解する一歩目として、代表的な手続き型のプログラミング言語のひとつであるC言語を学び、プログラムの基礎的な構造や構文の理解を目指す。また、それらを実践することで、学習した知識を応用しながら要求された要件を理解し、それらをプログラムに落とし込む能力の獲得を行う。 （オムニバス方式／全14回） （68　保坂　亮介／7回） ・C言語の概要、変数、繰り返し、条件分岐、配列、関数（値呼出し）を担当する （72　山崎　託／7回） ・文字配列、ポインタ、関数（参照呼出し）、メモリの動的確保、構造体を担当する	オムニバス
		データ構造とアルゴリズム		ソフトウェアを開発する際，性能上の要求を満たす効率的なアルゴリズムとデータ構造の設計・解析が不可欠になる。本講義では、基本的なデータ構造（リスト、スタック、キューなど）、 アルゴリズムと計算量、 再帰的アルゴリズム、 グラフの定義と木構造、線形探索と2分探索、2分探索木、ハッシュ法、整列、深さ優先探索と幅優先探索などについて学ぶ。本科目の目標は、 基本的なアルゴリズムとデータ構造を理解した上で、 それらをプログラミング言語で実装できるだけでなく、 計算量を考慮して適切に応用できる力を身につけることである。プログラミングにあたっては、Linuxの利用が推奨される。	
		オブジェクト指向言語		本講義ではオブジェクト指向プログラミング言語であるJavaを用いて、オブジェクト指向プログラミングの基本概念のみならず現在の言語が持つ機能を習得することを目的とする。オブジェクト指向以外にも関数型プログラミングの要素を取り入れ、多様なプログラミングスタイルに対応できるようにする。講義と演習を組み合わせて知識のみではなく実践できるスキルを身につける。この講義と演習を通して、学生は現代的なソフトウェア開発スキルを身につけ、実世界の問題解決に応用できる力を養う。	
		モバイルプログラミング		モバイル端末の技術革新はすさまじく、スマートフォンは私たちの生活になくてはならない存在となっている。スマートフォンには数多くのアプリケーションが実装され、それらを使ってさまざまな情報にアクセスしたり楽しんだりしている。本講義では、スマートフォンにおけるアプリケーション開発に関する技術について学修を行う。モバイルアプリケーション開発に必要となる開発環境の導入から始め、ユーザインタフェースのデザインやコールバック関数の導入方法について解説する。また、サーバとの通信やクラウドサービス利用時のアプリケーションの実装方法についても学習する。演習課題を通じて、モバイルプログラミングスキルを身につける。	
		ネットワークプログラミング		ICTの発達に伴い、コンピュータやスマートフォンはほぼすべてネットワークに接続された状態で使用されるようになった。ソフトウェア開発においても、ネットワークで接続されていることを前提として他端末と通信しながら動作するネットワークアプリケーション開発が必要となる。本講義では、インターネットで使用されるTCP/IPプロトコルについて概説した後、ネットワークアプリケーションを実現するためのプログラミング技術について学修する。具体的には、C言語やPythonを用いてソケット通信技術やマルチスレッドによる非同期並列処理などを行うプログラミング技術の理解と修得を目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	副専攻	Computer Simulation		In modern society, which is composed of various elements organically intertwined, there are numerous problems that are difficult to experimentally evaluate due to their high degree of complexity and freedom. Therefore, techniques for modeling the problems to be evaluated and deriving solutions and observing behaviors through computer simulation are employed as a means to replace experimentation. In this course, students will acquire the knowledge and skills necessary for modeling problems and conducting computer simulations. Additionally, through exercises, students will also acquire insights into implementation using programming languages. 様々な要素が有機的に結合することで構成されている現代社会においては、その高い自由度によって実験的評価が困難である問題が多数存在する。そこで、評価対象となる問題をモデル化し、コンピューターシミュレーションによって解の導出や挙動の観測を行う技法が、実験を代替する手段として用いられる。本講義では、問題のモデル化とそれを利用したシミュレーション実施に必要となる知識及び技術について学修を行う。また、演習課題を通じて、プログラミング言語を用いた実装についての知見を習	
		ソフトウェア設計論		本講義では、ソフトウェア設計の基本から応用までを学ぶ。デザインシンキングの手法を通した課題獲得や解決の方法について学ぶ。また、オブジェクト指向分析設計方法論に基づいたソフトウェアシステムの要求分析、設計、実装の方法を習得する。さらに、設計品質の向上、効果的なデザインパターンの利用、ソフトウェアアーキテクチャの構築についても学ぶ。ソフトウェアプロダクトラインの概念を通じてコードの再利用に焦点を当て、最終的にはモデル駆動開発についても探求する。この講義では、実践的かつ理論的な知識を統合し、効率的なソフトウェア設計技術を学ぶことができる。	
		ソフトウェア開発管理		本講義ではソフトウェア開発管理について学ぶ。ソフトウェア開発のプロセスモデルやライフサイクルモデル、そしてアジャイル開発手法について学ぶ。また、ソフトウェア品質の確保と向上に必要なテスト技法、テストプロセスを学ぶ。さらにソフトウェア開発を管理する上で重要な開発状況を計測、把握する手法にも焦点を当てる。本講義を受講することで学生はソフトウェア開発の管理と品質保証に関する幅広い知識と実践的なスキルを習得できる。 （オムニバス方式／全14回） （39　久住　憲嗣／8回） ・ソフトウェア開発のプロセスモデルやライフサイクルモデル、およびアジャイル開発手法 ・ソフトウェア品質の確保と向上に必要なテスト技法、テストプロセス （29　鈴木　徹也／6回） ・ソフトウェアの開発状況を計測、把握する手法	オムニバス
		現代的ソフトウェア構築技法		本講義では現代のソフトウェア開発における実践的な技術と手法を学ぶ。具体的には単体テスト、自動テスト、リファクタリング、デザインパターンの応用などの実践的なテクニックを学ぶ。また、継続的ソフトウェア工学の基本概念とともに、継続的インテグレーションや継続的デリバリーを学び機動性の高いソフトウェア開発手法を身につける。さらに、コンテナ技術やマイクロサービスアーキテクチャを学ぶ。本講義を通して学生は最新のソフトウェア構築手法を身に付け、現代のソフトウェア開発現場に対応できるスキルを身につける。	
		ゲームプログラミング		本講義ではゲームプログラミングの基本から実装に至るまでの知識を提供する。コンピュータゲーム開発におけるシーンモデリング、物理エンジン、アニメーション、キャラクターリギング、ゲームAI、ゲームUI、オーディオエフェクト、ネットワーキングなどの概念を紹介する。また、アイデアをゲームにとして実現するために必要なプロセスを紹介する。学生はゲームエンジンを使用したさまざまなゲームプログラミング演習を実施することにより、そのスキルを獲得することができる。	
		データベース		データベースとは共同利用を想定し、組織的に集められた情報の集まりのことであり、その構築・運用には通常のソフトウェア・システムとは異なった特質が要求される。本講義では、現在最も広く使われているリレーショナルデータベースを中心に、データベースの基本的概念について学び、身近に活躍しているデータベース（システム）の実現裏を考察する。また現状技術の問題点や、その解決策として注目される最新の技術動向にも触れ、データベースを取り巻く情報システム界の未来を描く。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	副専攻	情報セキュリティ		現在、ICTに絡む全ての機器がセキュリティの脅威があり、セキュリティの確保が急務な課題となっている。年々、攻撃が巧妙化、進化しており、多くのセキュリティ技術者が求められている。本講義では、セキュリティの基本知識、技術から、攻撃の種類と手口を明らかにし、これらの攻撃を検知し、解析し、どのように対策するかについて解説する。また、現在開発が進んでいるセキュリティを確保する技術及び特にネットワークに関するセキュリティ技術についても学ぶ。	
		インターネットプロトコル		近年、インターネットは私たちの生活に欠かせない情報通信インフラとなっている。本科目では、インターネットで使用される基礎的な通信技術として、OSI 7階層モデルやインターネットプロトコルスイートに基づいてリンク層、ネットワーク層、トランスポート層、アプリケーション層について学修する。リンク層ではEthernetとWi-Fiで使用されるIEEE802.11、ネットワーク層ではIP、トランスポート層ではTCPとUDPを取り上げ、これらのプロトコルの役割や仕組み、機能などについて学修する。アプリケーション層としては、TELNET、SMTP、HTTP、DNS、DHCPなどついて学修する。本科目の履修を通じて、インターネットにおいてホスト間で情報のやり取りを行うメカニズムに関する知識を習得する。	
		情報理論		本講義では、情報通信における情報の蓄積・伝達の効率化・高信頼化についての基礎理論を理解する。シャノン流の情報理論について、その情報源・通信路の数学的モデル化と具体的符号化について解説する。また、講義の実際的理解を助けるために演習・実習を行う。具体的な学習目標を以下のとおりとする。１．シャノンの情報伝達の基本モデル、情報量・エントロピー、情報源符号化定理、通信路容量、通信路符号化定理、誤り検出・訂正の諸概念について基礎的知識を習得する。２．演習と実習によって、情報量・エントロピー、通信路容量の計算等ができ、ハフマン符号化・ユニバーサル符号化等の情報源符号化について実データ処理により実践的な解決能力を身につける。３．情報通信システムにおいて、情報理論の知識を利用した設計・評価ができる。	メディア
		符号理論		情報・通信・システムにおいて情報は符号によって表現されるが、符号化としては、データの効率化を図る情報源符号化と蓄積・送信における高信頼化のための通信路符号化があり、さらに、情報の秘匿性のために暗号化がある。本授業では、前半（７回）暗号理論を、後半（７回）符号理論（誤り訂正符号）の学習をする。 暗号部では、簡単な暗号の仕組みから、ONE-TIME-PAD、DES、Diffie-Hellmanの鍵交換、RSA暗号などの現代暗号までを解説する。また、講義で学んだ暗号をプログラム実装する体験をする。 符号部では、通信路符号化の基礎理論を理解する。具体的にはブロック符号と畳み込み符号を中心とした誤り訂正符号化技術について解説する。講義の実際的理解を助けるために演習を実施する。	
		ネットワークアプリケーション		インターネットは、様々なネットワークを相互接続することで実現されているネットワークであり、各インターネット上の端末はプロトコルと呼ばれる通信規約に基づいて通信制御を行うことで、自立分散的に管理されている。特に昨今では、このようなインターネットを介して様々なアプリケーションが利用されている。本講義では、ネットワークを用いたアプリケーションを実現するための通信構造や仕組みをネットワークとアプリケーション両者の観点から学ぶ。特に、ネットワークの観点では、現代のネットワークやそれらを支える機器の構成や構造に起因する技術的な課題や解決策について学び、アプリケーションの観点では、現代のアプリケーションで用いられる技術、その技術的背景、設計について学ぶことによる体系的な理解を目指す。	
		ICT Systems Design		The aim of this course is to acquire the practical knowledge and skills for designing and developing modern information and communication technology (ICT) systems, applications, and services with the Agile development methodology. This course mainly focuses on making a proposal for developing a new networked systems, applications, and services in ICT fields through group work. 本講義では、ICT（Information and Communication Technology）を用いたシステム・サービス・アプリケーションの設計と開発をアジャイル開発手法を用いて行い、それらの体系的な知識と技術を得ることを目指す。また、ネットワークを用いた新しいシステム・サービス・アプリケーションの提案をグループワークを通じて行い、最終的なその成果物の実装を行う。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	副専攻	クラウドコンピューティング		昨今のICTシステムを支える重要な技術として、ネットワークを通じて計算資源、通信資源、ソフトウェア資源を提供するクラウドコンピューティングが用いられている。本講義では、それらのクラウドコンピューティングを支える仮想化技術、データベース技術、オーケストレーション技術などの要素技術群の学習を行い、クラウドコンピューティングの体系的な理解を目指す。また、現代で用いられているクラウドサービスを学び、その実際の活用事例や応用事例を学ぶ。	
		メディア処理基礎		画像や音声・音響などのメディア情報は人間にとり重要な情報源であり、それらを扱う技術は様々な分野の発展に重要な技術である。この講義では、これらメディア情報を扱う基本的な知識（基礎的な手法、基礎的な語句の意味）を身に着けることを目的とする。画像については、ディジタル化、色、濃淡変換とフィルタリング処理、画像解析、入出力装置、画像ファイル形式などについて講義する。音声・音響については、以下の基本事項を取り扱う。音とは何か、音の物理的性質、音を聞くしくみ、音の収録と再生、音声の発話と認識、音を使ったサービスなど。 （オムニバス方式／全14回） （32　高橋　正信／７回） ・主に画像について学修する （31　高嶋　和毅／7回） ・主に音声・音響について学修する	オムニバス
		メディア処理1		画像や音声などのメディアに関して学んできた基礎的な処理や知識をベースとして、より高度な処理や手法について学ぶ。また、これらを総合的に用いる演習を通じて実践的な知識を身に着けるとともに、プログラミングの技術も身に着ける。具体的なテーマとしては、画像に関しては画像認識、セグメンテーション、画像変換、画像生成，画像計測などを扱い、音声・音響については、音声認識・合成、話者認識、符号化、オーディオ・音響処理について扱う。とくに、具体的な要求条件に応じたシステム設計といった観点からの学びにも期待する。	
		メディア処理2		メディア処理1の講義と演習で身に着けた内容をベースとして、画像や音声・音響などのメディア情報を用いたより高度で複雑な課題を解決する処理や手法について学ぶ。また、講義内容に関する演習を通して実践的な知識を身に着け、プログラミングの技術も身に着ける。また、メディア処理技術を利用した様々なサービスの普及が進んでいるため、演習では複数のメディア情報を組み合わせたより複雑な課題についても扱う。また、AI・機械学習の利用にも触れる。	
		音声音響情報処理		音声・音響信号は、確定的ではな、確率的、定常・非定常といった多様な時系列であり、それらを用いる情報処理には、確率的・統計的処理が必要となる。この講義では、音声・音響処理に関わる技術分野を学ぶ上で基本となる知識を身につけることを目的として、音声分析技術（相関関数，線形予測、スペクトル分析）、雑音・音響処理技術（雑音推定・抑圧、収音・伝送・再生）、パターン処理（機械学習による音声・音響情報の特徴抽出・分類・識別）について、最低限知っておくべき内容を講義する。また、理解のために、簡単な情報処理演習を行う。	
		自然言語処理		自然言語は，人や機械とのコミュニケーション，インタフェースの重要メディアである．自然言語処理とは，人間の使っている言語を計算機で処理することを指す．本授業では以下の内容について講義とその理解のために演習を行う．まず，自然言語処理技術と応用の概要を示す．次に，基礎的な解析技術である形態素解析・構文解析析・意味解析について理解し，実際の文において各種アルゴリズムのトレース演習を行う．続いて，機械学習に基づく技術として，単語ベクトル表現，系列に対するニューラルネットワーク，言語モデルと系列変換の理解と実際の言語データ処理演習を行う．最後に，応用のトピックスとして，情報検索・抽出・要約，質問・応答，対話，機械翻訳のいくつかについてシステム例をとりあげ，システム構成・設計思想について学ぶ．	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	副専攻	画像情報処理		画像は人間にとり重要な情報源であり、認識、検査、計測、圧縮など様々な分野で扱われている。この講義では、これら画像に関連する技術分野を学ぶ上で基本となる知識を身につけることを目的とし、画像の濃淡変換、空間領域および周波数領域でのフィルタリング、画像の復元、領域処理，符号化などに関し、画像に関わる技術者が最低限知っておくべき内容を講義する。画像処理ソフトの使い方を学ぶのではなく、作り方の基礎を学ぶ。これにより、任意の画像処理ソフトの使い方も理解できるようになる。	
		コンピュータグラフィックス		コンピュータグラフィックスはコンピュータを用いて画像や動画を生成する技術であり、VR、AR、ヒューマンコンピュータインタラクション、エンタテインメントコンピューティング、メディアデザインやメディア表現などで利用される重要な技術である。本講義では、撮影対象をコンピュータ内でモデル化して表現するモデリング、仮想的なカメラで撮影するレンダリングについて基本的な手法を学ぶ。また、動画として表現するアニメーションについても学ぶとともに、実際に画像を作成する演習により理解を深め、実践的な技術・知識を身につける。	
		VR/AR1		社会に急速に浸透し様々な応用がなされているバーチャルリアリティと拡張現実（VR/AR）は数多くの知見や技術から成り立っている。本講義では、VRとARの基礎理論から最新応用技術までの知識を体系的に学び獲得することを目的とする。本講義VR/AR 1では、VRやAR体験を実現するために必要な人の感覚器官の特性、VR/AR用に開発されるインタフェース（入力出力デバイス）技術、バーチャル世界のコンテンツ構成方法などについて学ぶ。座学だけではなく、演習も適宜導入して、VRの簡単なコンテンツを作成したり人の感覚特性を調査する実験系を組み立てたりするなど、VRとARを様々な観点で体験しながら学ぶ。	
		VR/AR2		社会に急速に浸透し様々な応用がなされているバーチャルリアリティと拡張現実（VR/AR）は数多くの知見や技術から成り立っている。本講義では、VR/AR1の発展形を学ぶ場であり、VRとARの代表的アプリケーションであるメタバース、テレオペレーション、シミュレーションなどに焦点をあてて，VRとARの応用効果について学ぶ。演習を適宜取り入れることで、遠隔コミュニケーション、簡単なインタフェースやゲーム開発を体験し、現状のVRとARの可能性と課題の両方を学び、 今後の発展形を考察する。	
		ヒューマンコンピュータインタラクション		ヒューマンコンピュータインタラクションとは，人とコンピュータの相互のやり取り（インタラクション）を包括的に整理し、よりよい入出力デバイスやインタフェースの開発に向けた幅広い研究分野である．本講義では、人の身体・認知処理能力、様々な入出力デバイスの設計、可視化技術、世に溢れるインタフェースデザイン例、ユザビリティ評価手法、これまでの計算機とインタフェースの歴史と変遷、および最新の研究事例などを体系的に学び、将来のコンピュータの形態と人との関係について考察する。	
		サイバーセキュリティ		In addition to technical aspects such as protection of computers and networks, cyber security has a social aspect to ensure the free flow and reliability of information through laws and institutions. This course aims to provide students with an understanding of cyber security principles and technologies, and to enable them to define security requirements for software and networks based on models and to analyze threats. The course also aims to enable students to analyze the relationship between technology and society by learning about examples of social implementation of technology, such as laws, regulations, and institutions related to cyber security. サイバーセキュリティは、コンピュータやネットワークの保護等の技術的な側面に加え、法律や制度等によって情報の自由な流通や信頼性を確保する社会的側面を持っている。本講義では、サイバーセキュリティの原則や技術について理解し、モデルに基づくソフトウェアやネットワークのセキュリティ要件を定めることや脅威分析ができるようになることを目指す。また、サイバーセキュリティに関連する法令や制度といった技術の社会実装例を学ぶことで、技術と社会の関係を分析できるようになることを目	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （システム理工学部　生命科学課程）					
科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		エンタテインメントコンピューティング		エンタテインメントコンピューティングとは，コンピュータ技術を用いて人を楽しませるメディアや技術を創造・開発する研究分野である。本講義では、人がコンテンツを楽しむ際の理論を学んだ後、エンタテイメントコンピューティングを構成する要素技術である、映像制作、音楽制作、バーチャルリアリティ、メディアアート、人工知能などに加えて、ゲーム開発やeスポーツ等にも触れながら、人を楽しませる体験の設計論と技術について幅広く学ぶ。また、実習や調査を通して、楽しむという主観的で曖昧な人の反応を理解し、エンタテイメントコンピューティングの主要素を考察する。	
専門科目	副専攻	メディアデザイン1		デジタルメディア、広告、ウェブ、コミュニケーションツール等あらゆるメディア形態において、人に分かりやすく情報を伝達する視聴覚情報等のデザインは極めて重要である。本メディアデザインⅠの講義では、座学と演習を通じて、主に、ビジュアル・グラフィックデザイン、映像生成、アニメーション生成など、視覚メディアデザインに関する基礎的な知識を理解することを目的とする。理論や事例からの学びだけではなく、実践的な演習を取り入れ、メディアデザインに関するアイディアの企画から、プロトタイピングとユーザエクスペリエンス評価までを経験し、メディアデザインのプロセス全体を把握する。	
		メディアデザイン2		デジタルメディア、広告、ウェブ、コミュニケーションツール等あらゆるメディア形態において、人に分かりやすく情報を伝達するメディアデザインは極めて重要である。本メディアデザインⅡの講義では、メディアデザインⅠをより発展させ、視聴覚メディアデザインに加えて、物理的なモノを利用した触覚メディアや、実世界ガジェット等のIoTデバイス等を含めたより広範囲のメディアデザインについて学ぶ、バーチャルリアリティや三次元物体のモデリングについて学びつつ、演習課題では、モデリングした物体を３Dプリンタで印刷して機能化させるファブリケーション技術や、インタラクティブガジェット技術の基礎を開発し、実践的な知識を身につける。	
		メディア表現基礎		メディアとは、計算機と人がお互いに情報を伝達しあうためのツールや媒体である。本講義では、そのメディアを設計するにあたっての表現に焦点をあて、主に人の感覚と結び付けて様々な表現技法について学ぶ。視覚表現として、文字、色彩、アニメーション等のデザインの基礎について学ぶ。それに加えて、聴覚・音声メディアや触覚メディアにおける表現技法やその表現能力ついても学び、メディアを通した情報や感情の伝達技術について基本的な知識を身につける。	
		メディア表現応用		メディアとは、計算機と人がお互いに情報を伝達しあうためのツールや媒体であり、現代社会においては、あらゆるメディアが我々の生活や情報共有を支えている。本講義では、メディアの表現技術がどのように現実に実践応用されているかを代表的な事例について詳細に学び、メディア表現の応用面での専門的な知識を身に着ける。事例は、ゲーム、メディアアート、ＡＩ・エージェント、ファッション、建築・景観デザイン、伝統芸能、ライブ演出、データサイエンスなど多岐に渡り、これらを俯瞰することで、メディアデザインにおける表現能力の向上を図る。	
		メディアコンテンツビジネス		本講義は、メディア業界におけるビジネス戦略と企画に関する理解を深め、将来のメディアコンテンツビジネス考案に向けての基礎スキルを養うこと目的としている。メディアコンテンツの誕生、育成、そして消費に至るプロセスを含む一般的な知識を学ぶとともに、実際の事例やデータに基づいてメディアコンテンツの市場動向、歴史、変遷などを分析し、需要を考察する。また、演習として、グループでメディアコンテンツビジネスを考案し、アイディア、収益モデル、マーケティング戦略等を考察し、プレゼンテーションをすることで、コンテンツビジネスについての経験値と実践能力の向上を図る。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	副専攻	社会システム入門		本講義では、社会システムの概念から様々な領域における社会をシステムとして捉える応用事例をオムニバス形式で紹介することで、社会システムの基礎を身につけることを目的とする。これまでの様々な分野で整理・理解されてきた社会システムについて、多くの事例を学び、データサイエンス、シミュレーション、ゲーミングに通じる体系的なシステムの知識を得る。 （オムニバス方式／全７回） （22　小山　友介／4回） ・社会システムの基礎。社会をシステムとして捉える。 ・社会システムと経済学 ・社会システムとは。自分たちが考える社会システムと社会課題。 （58　後藤　裕介／1回） ・社会システムと経営工学 （７　市川　学／1回） ・社会システムとEBPM （75　原田　拓弥／1回） ・社会システムにおける情報技術の活用法	オムニバス
		システム科学		システム科学について教科書を輪行形式で学修する。大学院の科目と同時開講とし、大学院生と学部4年生の混成グループで、システム科学に関する与えられた領域の知見を深め、合わせて他者に説明する。取り扱う内容は、自然的世界と人工的世界の理解、経済的合理性、心理学、記憶と学習、デザインと人工物、社会計画、複雑性で、講義を通して自然物と人工物の統合に関してシステム科学的に理解することを目標とする。合わせて、人と組織を理解する方法についても触れることで、社会をシステムとして捉え、そこに存在する科学について議論を行う。	共同
		社会システム実践演習		現代社会には、解が一つに定まらないものや、解のない複雑な問題が多い。様々な社会システムの設計と分析のためには、与えられた課題を解くことだけではなく、自ら主体的に課題を設定（発見）したり、プロジェクトを構想する能力が求められる。本演習では、個人あるいは少人数のグループで、自ら主体的に設定した社会システムに関するプロジェクト課題に取り組み、データサイエンスやシミュレーションを活用して、所定の期間内に一定の成果を創出することができるようになることを目指す。問題発見と問題解決の全体プロセスを、必要に応じてメンター役の大学院生から助言を受けながら、主体的に実践し、適切に成果発表を行う能力を育む。	共同
		データサイエンス応用		本講義では、プログラミング言語ではなく、データサイエンスに活用できるソフトウェアを用いて、データサイエンスに必要な知識と技術を習得する。扱う内容は、地理情報システム、スクレイピング、自然言語処理および機械学習や深層学習の基本などで、様々なソフトウェアを活用してデータ分析および複数のデータの関係性を明らかにする。オープンデータもしくはインターネット上から取得可能なデータを用いて、定量的な提案・企画を行う。	共同
		数理シミュレーション		数理シミュレーションは経営・経済をはじめ多領域でシステムの設計と分析のために利用されている。本講義・演習では、数理シミュレーションの代表的手法である離散事象シミュレーションとシステムダイナミクスを対象として、モデル化の考え方と手法の特徴を理解し、実際にシミュレーションソフトウェアを利用して自分でシミュレーションができるように演習を通じて学習する。離散事象シミュレーションでは、離散事象システムの概念と関連する離散数学・確率論の知識を説明し、モデル化手法として事象指向モデル・プロセス指向モデル・オブジェクト指向モデルについて学び、活用事例から諸分野への応用可能性を学ぶ。システムダイナミクスでは、システムダイナミクスの基本概念であるシステム思考・因果ループ・ストック/フロー概念と微分方程式の知識を説明し、モデリングとシミュレーションの方法について学び、活用事例から諸分野への応用可能性を学ぶ。	共同
		シミュレーション＆ゲーミング		この講義では、社会の複雑な事象を理解するために、言語やデータだけでなく、経験や体験に基づく理解を促すシミュレーション＆ゲーミングの知識を身につける。具体的には以下の内容で構成する。 1. 経験型学習の導入：学生は、社会課題に関連した経験型学習用ゲームを体験します。これは、実際の状況を模倣することで、理論だけでは得られない深い理解を促す。 2. ゲームの種類の理解：カードゲーム、ボードゲーム、コンピュータゲームなど、異なる種類のゲームを体験します。各ゲームがどのようにプレイヤーの意思決定、戦略、問題解決能力を養うかを学ぶ。 3. ゲーム設計の原理：ゲームの基本的な要素（ルール、目的、対象、対話、フィードバックなど）を学び、これらがどのように組み合わさってプレイヤーの体験を形成するかを理解する。 4. ゲームの構築：自らのアイディアをもとに新しいゲームを設計し、実際に構築します。このプロセスでは、創造性、論理的思考、チームワークが重要となる。 5. 実演と評価：構築したゲームを実際にプレイし、その効果や学習結果を評価します。他の学生や教員からのフィードバックを通して、ゲームを改善する方法を学ぶ。	共同

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （システム理工学部　生命科学課程）					
科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	副専攻	消費者行動論		日本は長期的にデフレが続き、他の先進国に比べ給料も上がらず、新たなイノベーションが創出されづらくなっていてる一方、世界においてはGAFAに代表されるように超グローバルカンパニーがイノベーションを創出し、多様な企業を飲み込みつつある。このように、イノベーションの根源にあるのは消費者インサイトであり、複雑な現代社会においては大変見え難くなっている。 本講義では、様々な調査手法を学び、マーケティングにおいて最も重要かつ現代では見えづらくなっている「消費者インサイト」を発見できるようにする。技術発想は、日本の大きな武器ではあり、理工系学生こそ、「消費者インサイト」を学び、日々、これに敏感に生活する力をつけることが目的である。	共同
		社会調査法		社会が望むことについて「こうではないか」と思ったとき、説明の根拠としてのデータが必要になる。データも、好き勝手に集めればいいというわけではなく（例えば、「〇〇に反対」というデータだけ集めることも出来るが、それは署名と同じ）、しかるべき手順を踏んで（＝科学的に）集めなければならない。社会調査法とは、データを集める方法と、その分析の方法を指す。本講義ではアンケート調査の目的・方法、調査の読み解き方、及び、インターネットを使った調査法を中心に学ぶ。また、実際にグループワークとして、オンラインプラットフォームを使った質問票を作成し、回答しあい、その結果を実際に入力・集計することで分析の基礎も学ぶ。	共同
		ビジネスエコノミクス		ビジネスエコノミクスとは、ミクロ経済学やゲーム理論などの経済学の理論ツールを使いこなして、ビジネスの世界の現象を解き明かすことを目的とした学問です。とかく抽象的でわかりにくい印象を持たれやすいミクロ経済学やゲーム理論ですが、その抽象度の高さ・シンプルさが様々な現象に理論を適用できる理由でもあり、使いこなせると社会を理解する際の画面解像度が大きく上がります。本講義では、様々な事例を経済学の理論で解き明かしていく中で、ミクロ経済学の基本とともに、「経済学的な思考法」を身に着けてもらうことを目的にします。この講義を通して、ニュースなどで話題になる様々な社会・経済現象を経済学の観点から理解できるようになることが目標となります。	
		金融・経済リテラシー		本講義では、みなさんの生活に欠かせない「お金」について、適切に理解して活用するための知識を学びます。ただし、「お金」について学ぶといっても、社会制度やマクロ経済学の知識などが必要です。例えば、将来に向けて貯金をする場合、将来の日本の（場合によっては世界の）経済がどうなっていくのか、税や年金はどうなるのか、を知っておかないと目標額が決められません。貯金といっても、単に銀行に預金するだけでなく、株や債券など、様々な方法があります。それらを組み合わせる（ポートフォリオを組む）にも知識が必要です。一念発起して起業するなら、投資家から資金を募る必要があり、そのためには事業計画を立てる必要があるはずです。この講義で金融や経済についての基本的な知識を学びことで、将来何かする際の助けとなることでしょう。	
		マーケティング論		モノやサービスを作って売るということはどのようなことか、私たちの生活にどのように関わっているかについて学ぶ。消費者の立場から見る市場（マーケット）と、作り手、売り手の立場から見る市場（マーケット）ではどのような違いがあるか、私たちが日々何気なく選択して購入するという行為に何が影響しているかを考えるベースを作ることをこの授業の目標とする。効果的な理解のため、この授業では適宜事例を取り扱う。取り上げる事例の分野・企業は学生が親しみやすい市場およびあまり親しみのないB2B分野からも取り上げ、一般消費者が関わるもの以外にも市場が存在することを意識できるようにする。各回の最後に小テストやミニレポートを出題するので期限までに提出することで出席扱いとする。小テストやミニレポートには質問および感想を記入する欄を設ける。必要に応じて次回の講義で共有する。評価は各回の課題と期末テストで行うことを予定している。教室での講義および期末テストが困難になった場合は期末テストの代わりにレポート課題で評価を行う。	
		クリエイティブ産業論		クリエイティブ産業とは、制作者の創造性によって生み出された生産物に関わる産業のことを指し、マンガ・ゲーム・アニメなどといったコンテンツ産業を含む概念である。いわゆる“Cool Japan“現象にもあるように、様々な分野で日本の国際競争力が落ちていく中で、クリエイティブ産業は高い国際競争力を維持している分野の一つでもある。また、情報通信技術の発展を受け、クリエイティブ産業は大きく変貌を遂げている。本講義ではクリエイティブ産業の概要と、それを理解するために必要な各種概念・理論について講義する。　また、個別分野では外部から講師を招いて講義をしていただく予定である。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	副専攻	機械・電気システムセミナー		課程の各研究室が行っている研究テーマ、その内容及び研究を行う上で必要とする知識を説明し、総合研究の取り組み方について学ぶ。 （オムニバス方式／全14回） （②飯塚　浩二郎／4回）①システムセミナーの進め方，評価方法等の説明，将来のキャリアを考え，②月や火星表面のような軟弱地盤上を走行可能とするモビリティ技術の紹介，③農業現場や災害現場のような不整地で利用されるロボットの紹介，④システムセミナーの振り返り・まとめ(ワーク) （㉓　渡邉　大／1回）構造シミュレーションを用いた頭部外傷の発生メカニズムについて紹介 （㉙　桑原　央明／1回）「実世界情報メカトロニクス」について概説、先端研究事例を紹介 （⑨ 川上　幸男／1回）油空圧技術に代表される流体パワーシステムの駆動システムについて紹介（⑤伊藤　和寿／1回）制御工学の考え方がどのように機械の制御に活かされているかを具体的に紹介 （⑲　武藤　正義／1回）二主体間の相互作用間の均衡と安定性、パフォーマンス記述の概念を解説 （⑳　矢田部　清美／１回）認知科学の定義や目的、研究方法を講義。簡単な調査や実験を参加体験 （⑪ 木村 元／1回）量子力学、特に量子もつれの現象や量子情報科学への応用を紹介 （⑰ 長谷川　浩志／1回）魅力的な製品を創出するためのデザインプロセスとAI活用を紹介（⑩君島　真仁／1回）発電システムの性能向上と排熱の有効利用について現状と将来を考える （㉔　大谷　拓也／1回）人間のすごいところをロボットに取り入れ、新時代のロボットを紹介	オムニバス
		電気機器システム		自動車や電車といったインフラに関連する装置、家電製品、パソコンなどの情報機器、さらにロボットやメカトロデバイスなど多くの装置では、電気エネルギを力学的エネルギなど別の形態に変換して使用している。一方、電気エネルギは自然から直接得られるものではなく、石油などの化石燃料から熱エネルギを発生させ、さらに力学エネルギ、電気エネルギと変換して得られるものである。これらの力学・電気エネルギ間の変換を担う機器が電動機（モータ）と発電機である。本科目は講義形式で行い、モータと発電機の基本原理に基づいた特徴を学修することを目的とする。また、モータに関しては、種類と制御方法の違いについて学び、用途によって最適な電気機器を選択できるメカトロシステム設計の基礎力を習得する。	
		材料・加工学		あらゆる工業製品は、材料を加工して創り出される部品を組み合わせることで成り立っている。工業製品の設計・製造プロセスにおいて、広範な材料加工技術について理解を深めておくことが、低コストかつ高能率に、機能性に優れた工業製品を生み出す上では、特に重要となる。本講義では、様々な材料加工プロセスについて基礎から応用まで幅広く学ぶことを目的とする。具体的には、各種加工プロセスの加工原理や特徴、材料や加工形状に合わせた加工プロセスの選択方法、レーザ加工や付加製造（3Dプリンティング）などの先端加工技術について講義する。また、加工品サンプルや動画などを活用し、視覚的な理解も促す。	
専門科目	副専攻	Introduction to Industrial Design		Based on design perspective and design thinking, the purpose of this course1s to learn about1ndustrial design procedures and basic methods with small practice. This class provides an overview of1ndustrial design. To understand1ndustrial design critically, student should have the view point of design history, material culture and user centered design. While design history tell the dynamic changes from person to person production to mass production, and material culture tell the multi functionality,1t will help future engineers when they confronted to the uncertain society. Based on this criteria,1ntroducing the structured method to analyze1ndustrial design process. この講義では、工業デザインの概説を通してデザインの視点とデザイン思考に基づいた工業デザインの基本的な手法を学ぶことを目的とする。工業デザインをクリティカルな視点で理解するには、分析的な視点として、デザイン史、マテリアルカルチャー、ユーザー中心などの視点を持つ必要がある。デザイン史は大量生産にはじまる消費社会の構造を理解し、マテリアルカルチャーでは文化人類学に基づいた分類を理解する。この講義では、これらを基礎に、工業デザインプロセスを分析するための構造化手法の導入部を紹介する。	
		機械計測工学		計測に必要な単位や誤差の扱い方から、各種物理量の計測原理と手法、及び計測システムについて学修することが目的である。ロボットや生産設備、モビリティの制御を研究分野に考えている学生には、基本単位系と各種計測システムの原理と実際は重要事項である。なお、講義は日本語で行うが、国際化へ対応するために配布資料は英語を基本とする。	
		自動車工学		自動車の構成部品点数は数万点にも及び、関連する分野もエンジンの熱力学、機械力学から、各種制御用ＥＣＵの計算機と幅広く、最近ではぶつからない車に使われる画像処理技術やレーダーまでが構成要素の対象となっている。本講では最新の自動車の全体像を理解することを目的とし、まず自動車各部品の機械的要素の機構・構造を解説し、関連する工学的要素について学ぶ。更に、車載コンピュータ、電気、ハイブリッド、燃料電池自動車やASV、ITS等の電気・情報・通信・制御分野から、自動車用素材に欠かせない鉄鋼、非鉄金属、非金属、油脂材料についても扱う。また、自動車生産のマーケティング、シミュレーションによる設計・評価や、プレス、溶接、塗装、鋳造、鍛造、機械加工、組立等の工場での生産技術面も述べ、これから期待されている自動車技術について紹介する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （システム理工学部　生命科学課程）					
科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		建築史		本科目は、日本と西洋の建築、そして近代から現代に続く建築の歴史を学ぶ基礎的な講義科目である。歴史を時系列（時間の流れ）に沿って理解するだけではなく、世界中で繰り広げられた人間社会の事象と建築行為の関係を、現代社会の「ものづくり」に関係付けながら説明できるようにする。また、建築史を建築計画・設計のため、さらには問題発見・解決のための基礎知識と結びつけて思考し、説明できることを目標とする。「温故知新」さらには「温故創新」を標榜し、「問題発見・解決力」そして「創造的表現力」の向上をめざす。	
		建築基礎演習		本授業は、建築設計製図・構造設計製図における約束事の理解と基礎的な表現技術を学び、建築・都市・環境の各分野における「ものづくり」に必要な基礎的な図面表記・表現の技量を修得する基礎的な演習科目である。建築のスケッチ・建築設計製図・構造設計製図の課題に取り組むことで、建築空間を三次元で把握し、その構成要素と仕組みを理解した上で、設計製図の表記・表現の基礎的知識と技量を身につける。 （オムニバス方式／全14回） （70　水谷　晃啓／4回）□立体図法について （48　山嵜　一也・100　加藤　詞史／7回）（共同）　木造・鉄骨・RC建築設計製図について （48　山嵜　一也・23　近藤　武士・100　加藤　詞史／1回）（共同）　木造住宅の設備について （5　石川　裕次・48　山嵜　一也・100　加藤　詞史／2回）（共同）　木造・鉄骨・RC造建築物の構成	オムニバス・共同（一部）
専門科目	副専攻	建築構造基礎		本授業では、設計・構造・設備によって構成される建築の中で、長期荷重に加え、積雪、台風および地震において建築物に作用する荷重に耐えうる建築物の構造システムの基礎を学ぶ。様々な構造システムの概要および特徴を理解することによって、構造や生産施工関係の授業を受けるための基礎知識を習得することができる。また、実務構造設計者による特別講義を通し、最先端の建築構造に関する情報・知識を提供する。	
		建築計画基礎		本科目は、各種の建築施設を理解するための基本的な考え方と、建築の計画・設計・監理に必要な基礎知識を学ぶ講義科目である。建築および建築群としての都市を理解するために、建築を成りたせている要素とその構成を理解し、具体的な事例を挙げて説明できること、人間工学を基礎とした寸法体系を理解し、応用できることを目標とする。将来、建築士、技術士、監理士等の資格取得を目指す学生には必修の科目である。	
		建築環境設備基礎		本科目は、建築環境工学と建築設備工学の基礎知識と基礎理論を学ぶ入門的な講義科目である。上級学年でのより専門的な関連科目の理解を深めるために、室内環境の空気、光、熱、音に関する建築環境工学の基礎知識、室内環境の健康性、快適性、効率性、安全性を確保する上で必要となる建築環境工学の基礎理論、建築設備（空気調和設備・給排水衛生設備・電気設備・消火/防災設備）に関する工学的な基礎知識と基礎理論を学ぶ。特に実際の建築関連プロジェクト事例を通じて、各種要素技術の意義や役割、導入プロセスや評価の視点について理解し説明できることを目標とする。	
		建築設計情報演習		本科目は、建築情報体系としての図面化（情報処理＝建築設計製図）のための基礎的な知識と技術について学ぶ演習科目である。建築設計は、様々な与条件や環境情報の読解・分析から始まり、関連する情報を適確に把握し、利用可能な情報に変換する加工（情報処理）する能力を必要とする。本科目では、建築設計における構想段階（企画／基本計画）においては、情報分析と整理・起案・提示の技量を、次工程（基本設計／実施設計段階）においては、建築の数値化（寸法体系）、構成要素の仕組みを理解し、デジタルツールを用いた建築設計製図の基礎的技量を修得した上で、自らの計画イメージを３次元オブジェクトＣＡＤを用いて平面的かつ立体的に表現できること等を目標とする。	共同
		建設プロジェクトマネジメント		建築を企画し、設計や施工段階を経て建物を完成させ、さらに運用・維持管理するにはさまざまな立場のひとたちが関与する。大学で建築を学んだ後はそれら様々な専門分野での活躍が期待できる。こうした多くの視点で建築プロジェクトを俯瞰し、建築生産の全体像を理解する機会とする。本授業は、建築士試験指定科目⑧「建築生産」に該当する。	
		建築材料		本科目は、建築を構成する構造材料・内外装材料について、それらと社会との結びつきを学び、空間・環境との関連について考える講義科目である。環境面から材料を捉え、都市規模から身の回りのスケールまで、空間や環境を構成する素材・材料の種類、特性、役割、エネルギー等について学習し、環境・用途及び部位に応じた材料の選定について学ぶことを目標とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	副専攻	建築生産・施工		本授業では、建築施工・生産が設計図書に基づき関係諸法規などを遵守した上で、事業主の要求に沿って、安全に、適正なコストによって契約工期内に建築という作品を、完成することであることを学ぶ。加えて、代表的なプロジェクトにおける事例を含めて紹介すると共に、現在および近未来を担う最先端の建築技術を示す。特に、建築施工・生産の分野では、様々な業種の人々と共に建築と言う作品を作り上げることを理解すると共に、「ものづくり」について学ぶ。	
		建築環境工学		本科目は、室内環境の空気、光、熱、音に関する建築環境工学の知識を学ぶ講義科目である。室内環境の健康性、快適性、効率性、安全性を確保する上で必要となる建築環境工学の理論と、室内環境を良好にするための計画・設計の基礎知識を学ぶ。建築環境工学に関する基礎的な専門用語の意味を理解し説明できること、基本的な計算式（教科書の中で演習問題として取り上げられている公式や計算式）を用いて基礎的な数量等の計算ができること、室内環境が優れた建築を計画・設計するための基礎理論を理解し説明できること、室内環境を良好にし、健康的で快適な建築を計画・設計するための基本的な考え方を理解し説明できることを目標とする。	
		建築構造設計		本授業では、鉄筋コンクリート構造を対象に、鉄骨構造、木構造の構造設計の基本方針・仕組み・設計手法の概要を習得する講義科目である。授業の中で適宜AUTOCADによる図面作成等を含めた演習を実施する。建物の重要な機能のひとつは、そこに生活する人間の生命・財産を守ることである。近年も阪神淡路大震災および東日本大震災において、人的・経済的な被害が発生した。加えて近年は、構造設計で想定する地震荷重が増加する傾向にあり、構造設計者は，これまで以上に適切な設計を行う必要があり、構造設計者の役割は重要となっている。	
		建築構造力学1		本授業では、構造物に外力が作用した時に、どのように力を伝達し支えるかを、力のつり合い条件に従って計算できるように、力学の基礎を学ぶ講義科目である。具体的には橋のように両側2点で支えられた構造物（単純はり）や、片持ち梁のように1点で支えられた構造物などの簡単な構造物に作用するの力および支点に作用する反力を、力学に基づいて算定できるようにする。	
		建築構造力学2		本授業では、建物構造設計を行うために必要な力学的な原理および計算手法を学ぶ講義科目である。具体的には地震時を想定した耐震設計や長期荷重時における設計を行うために必要な曲げモーメントおよびせん断力による建築骨組の力学的挙動を，適正に評価する手法を習得する。その結果，構造設計に必要な建物の力学的な挙動の原理を理解することが可能となる。２年前期「建築構造力学１」では静的構造物を主な対象としていたが、本講義では不静定構造物（モーメント抵抗骨組み）を対象とする。	
		環境・都市基礎		本科目は、SDGsの概念に基づいて持続可能な社会の実現に向けた具体的な方策を考える上で必要となる、都市・環境・建築分野の基礎的な統計知識や、社会の持続可能性評価に係る認証制度を総合的に学修する。全14回のうち環境系専任教員と都市系専任教員が各回の授業運営を担うオムニバス方式の授業であり、必要に応じて各分野の実務に関わっている専門家を特別講師として招く形で運用する講義科目である。なお、本科目は環境・都市基礎演習に必要となる知識を事前に習得することを目的とする。 （オムニバス方式／全14回） （48　山嵜　一也／２回）　都市計画モジュールの学修 （47　松下（八束）　希和／２回）　都市デザインモジュールの学修 （70　水谷　晃啓／2回）　都市デザインモジュールの学修 （21　磐田（玄地）　朋子／２回）　環境工学・環境政策モジュールの学修 （16　袖野（蟹江）　玲子／２回）環境工学・環境政策モジュールの学修 （15　ＫＡＴＲＡＭＩＺ　ＴＡＲＥＫ／４回）　環境ビジネスモジュールの学修	オムニバス
		環境・都市基礎演習		本科目は、SDGsの概念に基づいて持続可能な社会の実現に向けた具体的な方策を考える上で必要となる、都市・環境・建築分野の基礎的な統計知識や、環境・都市分野における情報処理の基礎、および社会の持続可能性評価に係る認証制度を総合的に学修する。全14回のうち環境系専任教員と都市系専任教員が各回の授業運営を担うオムニバス方式の授業であり、必要に応じて各分野の実務に関わっている専門家を特別講師として招く形で運用する演習科目である。 （オムニバス方式／全14回） （48　山嵜　一也／２回）　都市計画モジュールの学修 （47　松下（八束）　希和／２回）　都市デザインモジュールの学修 （70　水谷　晃啓／2回）　都市デザインモジュールの学修 （21　磐田（玄地）　朋子／２回）　環境工学・環境政策モジュールの学修 （16　袖野（蟹江）　玲子／２回）環境工学・環境政策モジュールの学修 （15　ＫＡＴＲＡＭＩＺ　ＴＡＲＥＫ／４回）　環境ビジネスモジュールの学修	オムニバス

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	副専攻	SDGsと環境		本科目は、国際目標である「持続可能な開発目標（SDGs）」と環境問題の基礎を学ぶ講義科目である。SDGsと関連付けて、様々な環境問題（気候変動、エネルギー、水、大気、廃棄物、化学物質、生物多様性など）の原因やその対策を講義する。地球規模及び地域規模の環境問題について、法制度や社会システムなど、どのような取組みが進められ、持続可能な社会の構築に向けてどのような取組みが必要なのか、特に、環境・社会・経済の課題への統合的なアプローチの必要性について理解し、基本的な考え方を習得することを目標とする。	
		都市計画基礎		本授業では都市計画の基礎を習得することを目的とした講義科目である。都市計画法に規定する狭義の都市計画と、広義の都市計画やまちづくりの違いを理解した上で、時代と共に変化する都市計画の課題とそれを解決するための都市計画制度の変遷等を学ぶ。さらに狭義の都市計画でいう土地利用計画や都市形態のコントロール手法など都市計画制度とプランニングの方法について理解し、さらにハード事業の道路や公園、その他インフラ施設の都市施設、土地区画整理事業や市街地再開発事業をはじめとする市街地開発事業の内容と整備事例から、社会の課題解決につながる基礎的な都市計画技術を習得する。	
		都市計画演習		だれにも理解でき共有できるようなわかりやすい都市構造の概念図作成や都市模型の表現方法を習得することを目的とした演習授業である。都市構造を分かりやすく表現する概念図の作成技術を習得し、都市構造図やダイヤグラム図といった概念図を作成し、これによって社会での合意形成に役立つツールを活用することができる。地区の課題解決のためのまちづくりコンセプトを立案し、それを具現化するための計画と設計、実現手法としての空間形成の提案を模型やパース、CG 等を活用して見える化できる都市計画を習得する。ブロック模型から詳細な模型までの使い分けと、樹木やストリートファニチャーの作成技術を習得し、都市模型を製作することができる。これによって住民合意に効果的でかつ都市を空間として認識するための高度なツールを活用することができる。	
		都市環境デザイン		本授業は講義形式で行う。授業の目的は都市環境デザイン（アーバンデザイン）の基礎知識を得るとともにその調査、計画及びマネジメント手法の基礎を修得することである。授業計画は、まず都市環境デザインの概念及び都市空間を理解するための基本的手法を解説する。続いて都市の代表的なパブリックスペースである街路、広場、緑地等の機能や特性およびそれらの計画・設計手法について事例を交えながら解説する。都市空間の調査、街路の基本計画などの小演習も行う。 本授業を通して、学生は　①都市環境デザインとは何か、何を対象とし誰が行うのかといった基本概念を理解する　②都市環境デザインの複合領域としての意義を理解し、それを支える様々な手法の基礎を修得する　③身近に存在する良質な都市環境デザインの事例を通してその課題を理解し改善方策を学ぶ　④世界の都市デザインの潮流を学び、都市とデザインのあるべき姿を考察する。	
専門科目	副専攻	都市及び都市計画史		本科目は、都市および都市計画の歴史を通じて都市計画の役割と課題を学ぶ講義科目である。授業の目標は以下の3点である。①都市の物的形態の変遷を歴史的に学習することにより、都市と建築・環境との関係、都市計画が対象としているもの、都市計画の役割について、自ら主体的に考えることができる。②近代都市計画理論の発展と問題点を学ぶことにより、都市計画が目標としているもの、都市計画が果たしてきた役割と課題について、自ら主体的に考えることができる。③持続可能な社会を実現するための都市計画の課題について、自ら主体的に考えることができる。都市の物的形態の変遷として、城壁の都市、都市施設と都市居住、格子割の都市、バロックの都市、社会改良主義の都市を学び、その後、近代都市計画の思潮を学び、都市計画が果たしてきた役割と課題を考察する。	
		都市・地域システム計画		超高齢人口減少社会の課題を入口として、地区まちづくり、市町村都市マスタープランの役割、および都市・地域計画の仕組みと課題について学ぶことを目的とした講義科目である。地区のまちづくりと市町村の都市マスタープランについて、事例、資料や計画の作成方法を知りケーススタディとしてまちづくり計画を作成することができること、都市防災上の課題を知り、都市と市民活動の協力の必要性を考え意見を述べることができること、専門的な都市・地域計画関連分野の計画や実現事例について説明ができることを目標とする。 （オムニバス方式／全14回） （⑱ 増田 幸宏／２回）　都市・地域の防災と復興 （㉘　水谷　晃啓／３回）　宅地開発とまちづくり （㉑　松下（八束）　希和／３回）　協働による都市デザイン （㉗　作山　康／３回）　都市・地域計画の仕組みと課題 （㉒　山嵜　一也／３回）　都市・地区マスタープランの立案	オムニバス
専門科目	副専攻	Global Governance and Sustainable Strategy		Since the United Nations General Assembly adopted the 2030 Agenda for Sustainable Development in 2015, the Sustainable Development Goals (SDGs) have drawn attention from numerous business organizations. While governments are the primary actors in driving the SDGs, businesses play a crucial role as stakeholders in contributing to their achievement. This course explores how businesses can contribute to the SDGs and operate within the context of global crises, including climate change, water and food scarcity, poverty, conflict, and inequality. It emphasizes corporate governance and its implications for addressing societal and environmental challenges. 2015年に国連総会が2030アジェンダを採択して以来、持続可能な開発目標（SDGs）は多くの企業団体から注目を集めている。政府がSDGs推進の主要な役割を担う一方で、企業はその達成に貢献する重要な利害関係者としての役割を果たしている。本科目はでは、企業がどのようにしてSDGsに貢献し、気候変動などの世界的な危機の中で活動できるかを探る。特に、社会的および環境的な課題に対処するための企業ガバナンスとその影響に重点を置いている。ケーススタディや新たなトレンドを分析することで、学生はSDGsに向けた進展を促進する企業の実践的な戦略についての洞察を得ることができる。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		土地利用計画		本科目は、GIS（地理情報システム）を用いた土地利用計画の基礎を学ぶ演習科目である。GISの操作、土地利用計画立案のための調査・分析、計画課題の把握、計画コンセプトの検討、プレゼンテーションの方法について基礎的な手法を習得することを目標とする。演習科目である。具体的には、GIS（地理情報システム）の基本的な操作を習得した後、現実の市街地を対象として、現地調査を行うことによって、土地利用上の問題点、課題を把握する方法を習得する。また、地図の読み取り、各種統計データ、市街地環境指標による分析などから、対象エリアを多面的に評価する方法を習得する。さらに、対象エリアの現状と課題を整理し、計画づくりに向けたコンセプトの検討方法、効果的なプレゼンテーションの方法を習得する。	
		景観・ランドスケープデザイン		本授業は講義形式で行う。本授業の目的は、景観の認知方法やランドスケープデザイン基礎的な知識を得るとともに、計画・設計の基本的手法を修得することである。そのために、景観計画やランドスケープデザインに関わる思想、基礎理論、潮流、法制度及び事例の解説を行い、学生はそれを踏まえた考察レポートを作成する。 本授業の学修到達目標は、①美しい景観とはどのような状況を指し、それはどのように形成、維持されてきたかを理解し説明できる。②近現代の景観デザイン及びランドスケープに関する主な思想、活動、潮流を理解し説明できる。③人を惹きつける景観の特徴を理解するとともに、その背景として人々の努力があることを説明できる　④景観デザイン及びその保全継承に関する基本的な法制度、手法について説明できる　の４点である。	
専門科目	副専攻	資源・エネルギーシステム論		本講義は、自然環境および人間活動から構成される地球環境システムという複雑系のうち環境・エネルギー系に焦点をあて、地球温暖化問題など直面する諸問題に関する解決策を導くために必要な枠組み・理論と手法について、エネルギーの供給・需要の両側面から学修することを目的とする。授業の目標は以下4点である。①太陽光発電、水力発電、風力発電、バイオマス発電のそれぞれについて資源量からエネルギー生産量を算出することができる。②熱力学の法則に従って発電の仕組みを理解し、発電環境に応じた発電量を算出することができる。③熱力学の法則に従ってヒートポンプの仕組みを理解し、熱負荷から空調エネルギー消費量を算出することができる。④日本における再生可能エネルギー導入に向けた課題および解決案を列挙し説明することができる。	
		環境政策		本科目は、社会の持続可能な発展のため、主要な環境問題とその解決のための政策ツールについて学ぶ講義科目である。環境政策には、伝統的な規制的手法のほか、経済的手法、情報的手法、合意的手法などがあり、そのポリシーミックスについて法制度や社会システムの基礎知識を習得するとともに、大気汚染対策と地球温暖化対策のシナジー効果やトレードオフ効果に見られるような、問題間の関連性についても理解する。特に、世界の潮流であるカーボンニュートラル及びサーキュラーエコノミーの国内外の動向を踏まえた政策提案や事業企画を行う力の習得を目指す。また、都市へのインプット（環境基盤）とアウトプット（環境負荷）の観点から、都市環境とそれを支える管理手法を概観し、環境アセスメント制度について理解する。	
		環境ビジネス		本科目は、近年の企業評価において重要性が高まっているESG(Environment、 Social、 Governance)などの非財務情報に関する基礎知識を学ぶ実践的な講義科目である。授業の目標は以下4点である。①非財務情報が注目される背景を説明することができる。②非財務情報の開示に関わる世界情勢を説明することができる。③データに基づき企業の非財務情報を算出することができる。④国内外における環境関連ビジネスを展開する企業の取り組みを学び、企業価値を評価するスキルを身につけることができる。本科目では、担当教員やゲストスピーカーによる講義に加えて、学生自らが国内外のビジネス事例を調査分析して発表するアクティブラーニングを取り入れた授業運営を行う。	
		脱炭素と地域創発		本科目は、日本を初め様々な国における脱炭素化と地域活性化の相互関係を探求することを目的とした講義科目である。具体的には、人口減少、高齢化、雇用創出などの課題がどのように脱炭素化に関連しているのかを検討する。学生は持続可能なまちづくり、サーキュラーエコノミー、地域資源の活用における持続可能な地域活性化の機会と課題を探求する。学生は地域レベルでの脱炭素化の概念と他の持続可能性の課題との関連性を理解し、脱炭素化と地域活性化のための革新的な解決策を提案するための批判的思考力と問題解決能力を深める。講座では、ディスカッション、事例研究、ゲストスピーカーなど、様々な手法を用いて脱炭素化と地域振興の相互関係を包括的に理解するアプローチを採用する。学生は協働的な問題解決に取り組むとともに、日本国内外の実例を分析する能力を身につける。	
		論理と集合		適度な演習を含めた講義形式で行う。数学は命題の連なりで記述され、ある命題を満たすもの全体をひとつの集合と考えて議論することが常である。この講義では、命題を記述するために必要となる論理の知識と、集合の包含関係を論証するために必要となる演算や考え方を学び、数学の議論に慣れることを目標とする。この講義において数学の基礎となる論理と集合の知識を修得し、引き続き1年次後期の「集合と位相」の講義において数学の基礎を学ぶことで、数学の基礎固めが完了する計画である。	
		解析基礎		適度な演習を含めた講義形式で行う。この講義では微分積分学をはじめ解析学一般の基礎となる「実数の連続性」について講義する。デデキントの切断から始め、上限の存在、区間縮小法の原理、ボルツアノ・ワイエルストラスの定理などの同値な性質やアルキメデスの原理などを解説する。それとともに、これらの概念が数列の極限や関数の連続性を扱うのにどのように使われるのか、いわゆるε-N論法やε-δ論法を解説する。高校の「数学Ⅲ」と1年次の「微分積分1・2」で学んだ直観的な微分積分を厳密に議論できるようになることを目標とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	副専攻	代数学1		図形の形を変えないような変換は、合成という操作を持ち、また何もしないという変換があり、さらに逆変換という操作を持つ。このような二項演算を持った集合のことを群という。この講義では群論の基礎事項を講義形式で学び、群論を通して抽象的な代数系の考え方や扱い方や、抽象的な理論を具体例と並行させながら学ぶ姿勢を身につける。具体的には整数の剰余類群、対称群や二面体群などの具体的な群を扱った後、ラグランジュの定理、準同型定理や軌道・固定群定理について学ぶ。この講義の目標としては、整数の剰余類群、対称群や二面体群などの具体的な群での二項演算が具体的に計算できるようになること、群や剰余群や群作用の定義や具体例を説明できるようになること、群論における定理を理解して適用例を挙げられるようになることが挙げられる。	
		幾何学1		この講義では、曲線論・曲面論の基本事項の修得を目標とする。さらに幾何学における重要な概念である多様体を理解するために必要な位相空間論の基本事項も説明する。まず、曲線のパラメーター表示から始め、平面曲線の曲率、空間曲線のフレネ・セレの公式を学ぶ。つづいて、曲面の接平面と法線ベクトル、測地線、第一・第二基本形式、曲面の曲率について学ぶ。その後、多様体を理解するために必要な基本事項として、ユークリッド空間の開集合、位相空間と連続写像、ハウスドルフ空間について説明する。	
		ベクトル解析		この講義では、ベクトル解析の基本事項の修得を目標とする。先ず３次元ベクトルの内積、外積から始め、ベクトル関数の微分、フレネセレの公式や曲面の単位法線ベクトル、ベクトル場の流線、場の微分演算である勾配、発散、回転について学ぶ。つづいて、ベクトル関数の積分の概念すなわち線積分、面積分を導入する。その後、グリーンの定理、ストークスの定理、ガウスの発散定理など積分定理を学ぶ。最後にその物理学への応用にも触れる。	
		複素解析		この講義では、複素関数の微分法および積分法の概説を行うことで、留数定理に関する基本事項の修得を目標とする。微分積分学は実数に実数を対応させる関数（実関数）の解析学であった。これに対して複素解析学は複素数に複素数を対応させる関数（複素関数）の解析学である。本講義では、複素数の基本事項を復習した後、複素数列・級数、整級数、複素初等関数について学ぶ。つづいて正則関数とコーシー・リーマン方程式について学ぶ。その後、複素積分、コーシーの積分定理・積分公式を学んだ後、ローラン級数展開、留数定理について学ぶ。最後に留数定理の実積分への応用についても触れる。	
		数値解析1		現代の研究・開発においてコンピュータ上での計算は必要不可欠である。本講義では、数値解析の基礎である計算機上での数値の表現と誤差の話題から始め、非線形方程式の求解のための二分法・ニュートン法、連立１次方程式の求解のための定常反復法、数値積分のための中点則・台形則・シンプソン則等を取り上げ、背景にある数学理論やアルゴリズムの導出および動作原理を学修する。さらに、各種アルゴリズムをコンピュータ上で実装し、具体的な問題に対する数値実験を行い、結果を適切に評価できる素養を身につけることを目標とする。授業は講義を中心とするが、PCを用いた演習も行う。	
		数理計画法		数理計画問題とは、与えられた制約条件のもとで関数を最大化あるいは最小化する問題である。この講義では数理計画における各問題の定式化と基本解法を学ぶことを目的とする。具体的には、数理計画問題の定式化を解説したのち、線形計画では図的解法と単体法（シンプレックス法）、双対性と感度分析、ゲーム理論への応用などを学修し、非線形計画では１変数関数と２変数関数の最適性の条件による厳密解法、降下法等による数値解法を学修する。授業は講義を中心とするが、コンピュータを用いたシミュレーションも行う。	
		現象の数理		物理学、化学、生物学、工学、社会学等に現れる現象の解明や環境問題等の研究において、その現象を数理モデルを用いて表現し、その解の性質を解析する、という数理科学的アプローチは、重要な役割を果たしている。この講義では、まず、力学や生物学等に現れる典型的な数理モデルの紹介を行い、数理モデリングについて学ぶ。次に、連立非線形常微分方程式系の平衡解の線形安定性解析について学び、その後、勾配系、ハミルトン系など典型的な構造をもつ数理モデルの性質について学ぶ。授業は講義形式が大半であるが、適宜演習を入れ理解を促し、各パート毎にグループワークを実施して、数理モデルの基本的な解析手法の修得を目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	副専攻	数理科学概論		「数理科学」は純粋数学・応用数学・情報数学などを含む広い意味での数学である。学問としての長い歴史をもち、その成果は様々な分野で応用され、産業・社会の発展に多大な貢献をしている。本講義は数理科学に関連する12名の教員によるオムニバス形式で実施する。各教員の専門分野に対する導入的な内容から最新の研究成果の紹介なども併せて行うことで、数学的素養を身につけ、数理科学に関連する多様な研究分野を幅広く知ることを目標とする。 （オムニバス形式／全14回、初回および最終回は全員担当） （③ 石渡　哲哉／3回）　身の回りの現象と数理モデルについて （⑥　井戸川　知之／3回）　計算機代数入門 （⑦　榎本　裕子／3回）　現象と微分方程式 （⑧　尾崎　克久／3回）　数値計算の速度と精度 （㉕　梶ヶ谷　徹／3回）　幾何学的変分問題入門 （⑬ サイ　貴生／3回）　フィードバック制御 （㉖　清水　健一／3回）　組みひもと群論 （⑭ 鈴木　達夫／3回）　微分幾何入門 （⑯ 竹内　慎吾／3回）　微分積分から関数解析へ （㉗　中津　智則／3回）　金融のための数学入門 （㉚　田森　宥好／3回）　行列の指数関数 （① 福田（相原）　亜希子／3回）　離散数理モデル入門	オムニバス
		金融工学		金融工学（あるいは数理ファイナンス）における古典的な株価のモデルである、二項モデルにおける金融商品の価格付けについて学ぶ。前半では、二項モデルおいて、複製ポートフォリオの考え方から金融商品の適正価格が決まり、その価格がリスク中立確率と呼ばれる確率の下での期待値となっていることについて説明する。後半では、マルチンゲールの概念を導入し、マルチンゲール、リスク中立確率、裁定機会との関連などについて学ぶことで、金融派生商品の価格付けを理解することを目標とする。受講者の理解をより深めるため、講義中に演習を行う。	
		保険数学		アクチュアリーと呼ばれる、保険料や年金現価算出などのスペシャリストとなるための基礎となる数学を学ぶ。前半では、生命確率の定義とその性質、収支相当原理を用いた保険商品の保険料の算出法と、生命確率との関係などの基礎的事項を学ぶ。後半では、既払い保険料返還付き保険や、再帰式、責任準備金の算出など、前半で学んだ事項の発展について学び、アクチュアリーに必要な生命保険の数理を理解することを目標とする。確率分布を用いた期待値の計算など、「確率統計」で学んだ事項の応用と言える科目である。	
	総合研究	総合研究１	○	総合研究の目的は、持続可能な社会の実現へ向けて、社会や科学における取り組むべき課題を自ら設定し、総合的、学際的な視野に立って、理工学分野の専門知識と技術を活用した研究活動を行うことにより問題解決力を養うことにある。 総合研究１では、専門分野で取り組まれる研究事例を複数の指導教員から学び、研究論文（設計）や文献からの調査方法、実験、分析、解析の方法、研究成果のまとめ方、各種機器、デジタルツールの修得と活用方法などの基礎的な研究スキルを身につける。学修成果について、指導教員の指導のもとで進捗報告を行う。	共同
専門科目	総合研究	総合研究２	○	総合研究２では、総合研究１で修得した基礎的な研究スキル（研究論文（設計）や文献からの調査方法、実験、分析、解析の方法、研究成果のまとめ方、各種機器、デジタルツールの修得と活用方法など）の一層の定着を図る。総合研究２の期間内に指導教員と研究室を確定し、取り組むべき研究テーマを具体化し調査研究を開始する。研究活動を通して、正確で誤りのない文書を作成する力、第三者にわかりやすく伝えるためのプレゼンテーション力を身につける。	共同
		総合研究３	○	総合研究３では、総合研究１、総合研究２で身につけた基礎的な研究スキルの修得を客観的に確認し、社会課題の解決や社会基盤を支える科学の発展へ向けた研究テーマを明確に掲げる。指導教員の指導のもと、研究テーマに応じた研究方針・計画・方法を策定し、学際的な視野に立って、実践的な研究活動に取り組む。研究の進捗状況を、指導教員および研究室メンバーと情報共有しながら、計画的に研究活動を行う。	共同

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		総合研究４	○	総合研究１～3で培ってきた研究活動の集大成として、主専攻分野および研究に必要な特定分野において、総合的、学際的な視野に立って、実践的に問題解決を図る。取り組む研究内容において社会に貢献する職業人としての倫理観に基づいた視点に立ち、社会に対し負うべき責任を意識し、第三者にわかりやすい研究論文（設計）をまとめる。さらに研究活動を通して実践した研究成果を、正確に、魅力的に伝えるための総合的なコミュニケーション力の向上を図る。	共同
専門科目	主専攻	Advanced Bioscience		本科目は、生命科学分野の研究内容と最新トピックスをしっかりと理解し、英語にて簡単に説明できるようになることを目標とする。また、本科目はオムニバス方式にて実施し、担当する各教員が専門とする「微生物学」「生化学・分子生物学」「有機化学」「発生遺伝学」「生理学」「環境化学」「生物物理学」等に関する最新のトピックを概説する。 （オムニバス方式／全１４回） （54　ＡＺＨＡＭ ＢＩＮ　ＺＵＬＫＨＡＲＮＡＩＮ／2回）　微生物学について （67　廣田　佳久／2回）　生化学・分子生物学について （30　須原　義智／2回）　有機化学について （45　矢嶋　伊知朗／2回）　発生遺伝学について （40　福井　浩二／2回）　生理学について	オムニバス
		Basic Bioscience		本科目は、英語で遺伝子学、生物化学、微生物学を含めてバイオサイエンスの基礎知識をしっかりと理解し、「生命科学」分野のさらなる専門的な科目を受講する準備を整えることを目標とする。授業の前半7回は生命を維持するために必要な基本的な分子を理解し、それぞれの機能を概説し、この概説内にはDNAやRNA、タンパク質剛性のプロセスについて学ぶことを含む。後半の7回は、医療、診断、製薬、農業、食品などに関連するバイオテクノロジーを概説する。	
		Basic Control Engineering		サイバーフィジカルシステムの実現には情報通信技術の他に物理的な機器を制御する技術が必要である. Basic Control Engineeringでは講義形式でフィードバック制御理論の基礎について学習する。講義の前半ではIntroduction to Control Engineeringより発展して、ラプラス変換を初め、フィードバックシステムの解析方法と安定性の判別法や設計理論などフィードバック制御の基礎について学び、周波数応答に基づく設計手法を習得することを目的としている。また、講義の後半ではPIおよびPD、 PID制御の基礎を学び、任意の制御対象に対する適切なコントローラの導出方法を学ぶ。講義内容の理解をつかめるために演習を行う。	
		CAD/CAM演習	○	機器の開発、設計、生産を行なうものづくりの過程において、ITの活用は必要不可欠のものとなっている。この中でも機械の設計、製造、解析を計算機支援よって行なうCAD/CAM/CAEシステムの学習を行なう。計算機上に三次元のモデルを構築し、その解析、製造データ出力も計算機を用いて行なうことにより、性能の高い製品を少ない人手で短期間に、また省資源で製作することが可能となる。本講義においては、CADによる二次元の製図、三次元モデリング、CAEによる運動・強度解析、３Dプリンタを用いた製作、汎用加工機およびNC工作機の基本とCAMによる加工データ出力の座学による学習とCAD/CAM/CAEシステムによる演習を行なう。 （オムニバス方式／全14回） （53　渡邉　宣夫／7回） ・CAEとCAMについて （63　髙山　祐三／7回） ・3DCADについて	オムニバス
		Genetic Engineering		本科目は、英語にて遺伝学の基礎と、染色体、DNA、遺伝情報の構造と仕組みと、遺伝子組み換え技術をしっかりと理解し、受講生が自身の言葉で説明できるようになることを目標とする。授業の前半の7回は、遺伝学の歴史とメンデルの遺伝原則と、染色体の構造を概説し、遺伝子が親から子孫にどのように受け継がれるかについて学ぶ。後半の7回は、授業での課題を通じて、ゲノム解読と遺伝工学の方法とバイオインフォマティクスを概説することとする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	主専攻	医工学概論	○	医工学という幅広い学問領域の概要を本分野における研究者である教員がオムニバス形式の講義を通じて説明する。それとともに、細胞工学、人工臓器、生体材料、バイオ流体、医療技術、福祉工学、神経リハビリテーション工学、人間工学、生体物理工学など、本学問領域における様々な研究分野における、先行研究活動事例および最新の研究活動事例も紹介する。そして、医工学研究分野の全体像を把握し、総合研究や卒業後の進路を意識した学習計画を立てる一助としてもらう。 （オムニバス方式／全7回） （49　山本　紳一郎／1回） ・神経リハビリテーション工学・人間工学について （62　髙木　基樹／1回） ・福祉工学について （53　渡邉　宣夫／1回） ・バイオ流体について （63　髙山　祐三／1回） ・細胞工学について （25　迫田　大輔／1回） ・生体物理工学・人工臓器について （58　信太　宗也／1回） ・医療技術について （66　中村　奈緒子／1回） ・生体材料・人工臓器について	オムニバス
		Introduction to Biomedical-Engineering		An overview of the biomedical-engineering field will be lectured in English in an omnibus type lecture. Specifically, cell engineering, artificial organs, biomaterials, biofluids, medical technology, welfare engineering, neurorehabilitation engineering, ergonomics, and biophysical engineering will be covered in the classes. Examples of prior and recent research activities in Japan and abroad will also be presented. The objective is for students to be able to understand and explain in English. （Omnibus / 7 sessions） (49　Shin-ichiro Yamamoto/1 times) Neurorehabilitation Engineering and Ergonomics (62　Motoki Takagi/1 times) Welfare Engineering (53　Nobuo Watanabe/1 times) Biofluidics (63　Yuzo Takayama/1 times) Cell Engineering (25　Daisuke Sakoda/1 times) Biophysics and Artificial Organs (59　Munenari Shinta/1 times) Medical Technology (66 Naoko Nakamura/1 times) Biomaterials and Artificial Organs 医工学領域の概要をオムニバス形式で英語で講義する。具体的には、細胞工学、人工臓器、生体材料、バイオ流体、医療技術、福祉工学、神経リハビリテーション工学、人間工学、生体物理工学などの学問を授業で扱う。受講生が英語で理解し、説明できるようになることを目的とする。国内外の先行研究活動事例および最新の研究活動事例も紹介する。 （オムニバス方式／全7回） （49　山本　紳一郎／1回）　神経リハビリテーション工学・人間工学について （62　髙木　基樹／1回）　福祉工学について （53　渡邉　宣夫／1回）　バイオ流体について （63　髙山　祐三／1回）　細胞工学について （25　迫田　大輔／1回）　生体物理工学・人工臓器について （59　信太　宗也／1回）　医療技術について （66　中村　奈緒子／1回）　生体材料・人工臓器について	オムニバス
		Introduction to Control Engineering		This course provides fundamentals of the control engineering1ncluding some mathematical preliminaries, which1s applied to various automation devices. The main purpose of the class are to learn Laplace transforms, transfer functions, transient characteristics, block diagrams and frequency characteristics. To complete this course,1t1s necessary to check some basics of physics and calculus1ncluding simple linear differential equation. This course1s a prerequisite to Basic Control Engineering. 機械のモーションコントロール、移動体制御、通信システム制御、福祉・リハビリテーションロボット、医療・手術支援システムなど、機械・電気工学分野で対象とするシステムには必ず制御技術が必要となる。この講義では、一次/二次遅れ系の応答、入出力安定性判別、周波数応答までを学び、この後に続くBasic Control Engineeringの基礎を学ぶ。数式の扱いだけでなく、その裏にある物理的な意味を重視して講義を行う。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	主専攻	Introduction to Embedded Programming		この演習では、組込みプログラミングの基本的な知識とスキルを扱います。プログラミングは今やエンジニアの重要な共通スキルの1つであり、問題解決のための論理的思考力の訓練にもつながります。 具体的には、プログラミングの3つの基本概念(変数の使い方、条件分岐処理、繰返し処理)、に続いて処理および変数をモジュール化した関数、配列について学びます。後半では、メモリとI/0デバイスへのアクセス技術について紹介します。これらのステップでは、実用的なデバイス制御のために一般的な組込みコントロールボードを併用して学びます。最後に、学生はグループに分かれてコントローラーとI/0デバイスを使用したシステムを開発する実習を行います。これにはこのシステム開発をまとめたプレゼンテーションも含まれています。 This exercise covers basic knowledge and skills of embedded programming. Programming is now one of the important common skills for engineers, and it also helps train logical thinking skills for problem solving. Specifically, students learn about the three basic concepts of programming (variables, conditional jump, and loop processing), followed by functions and arrays that modularize processes and variables, respectively. In the second half, the techniques for accessing memory and I/O devices are also introduced. In these steps, students will learn how to use common embedded control boards for practical device control. Finally, students will work in groups to practice developing a system using controllers and I/O devices. This includes a presentation summarizing the development of this system.	
		Global Project-Based Learning 1		本授業では、実地体験形式にて、国際的な技術者・科学者として活躍するために求められる、専門的な内容を含む情報を他者に伝える能力、他者の発信した専門的な内容を含む情報や意見を理解し、グループで協力し、連携できる能力を海外の参加者と共に行う実習を通じて身に付けることを目標とする。実習においては、期間を原則実働が５日間から２か月として、原則海外で実施することとし、学生は実習活動先の企業または学術機関により指定された内容に基づき活動を行う。本科目で学習したことおよび体験したことについて実習後に報告書の提出及び報告会にてプレゼンテーションを実施する。	標準外、共同
		Global Project-Based Learning 2		本授業では、実地体験形式にて、国際的な技術者・科学者として活躍するために求められる、専門的な内容を含む情報を他者に伝える能力、他者の発信した専門的な内容を含む情報や意見を理解し、グループで協力し、連携できる能力を海外の参加者と共に行う実習を通じて身に付けることを目標とする。実習においては、期間を原則実働が５日間から２か月として、原則海外で実施することとし、学生は実習活動先の企業または学術機関により指定された内容に基づき活動を行う。本科目で学習したことおよび体験したことについて実習後に報告書の提出及び報告会にてプレゼンテーションを実施する。 Global Project-Based Learning2は、Global Project-Based Learning１での経験を踏まえ、グローバルな環境におけるインターンシップに積極的に参加することが期待される。	標準外、共同
		Global Project-Based Learning 3		本授業では、実地体験形式にて、国際的な技術者・科学者として活躍するために求められる、専門的な内容を含む情報や意見を他者に伝える能力、他者の発信した専門的な内容を含む情報や意見を理解し、グループで協力し、連携できる能力を海外の参加者と共に行う実習を通じて身に付けることを目標とする。実習においては、原則実働が5日間から2か月として、原則海外で実施することとし、学生は実習活動先の企業または学術機関により指定された内容に基づき、活動を行う。本科目で学修したことおよび体験したことについて実習後に報告書の提出及び報告会におけるプレゼンテーションを行う。 Global Project-Based Learning3は、Global Project-Based Learning２での経験を踏まえ、グローバルな環境におけるインターンシップにより積極的に参加することが期待される。	標準外、共同
		健康データサイエンス		本科目は講義形式を中心とし、適宜実習形式を交える。 健康寿命の延伸のためには、様々なデータを活用した健康的な生活習慣の確立と疾病予防が重要である。私たちの健康状態とそれに関連する生活習慣を含む様々な要因の頻度や分布をデータで捉え、科学的に明らかにすることができれば、公衆衛生上の問題解決や効果的な疾病予防法を見出すことが可能となる。この授業では、健康に関するデータサイエンスとして、疫学の基本概念と疫学研究の方法、疾病頻度の指標を理解する。また、実際に実施されている国内外の疫学研究から報告されている事例を通して、疫学研究の理解を深める。本授業の目標は、健康状態とその背後に潜む要因に関する研究結果や保健統計データから、その集団における健康課題や特性を正確に把握し、公衆衛生上の課題に対するアプローチ法や疾病予防法を見つけるための手法を習得することである。	
		健康長寿学		本科目は講義形式を中心とし、適宜実習形式を交える。 日本人の平均寿命は2023年時点で84歳を超え世界一である。そのため、大学を卒業してから、平均して60年以上もの長い人生が待っている。その長い人生をよりよく生きるために、これまでに学習したスポーツ・健康科学、栄養学の知識を基に、ヒトのライフコース別の健康の諸問題に対して、身体機能・口腔機能・認知機能などの生体機能の維持向上を目指す解決策について理解する。本科目は、加齢論や老年学といった分野の学問体系を系統的に学ぶ。到達目標として、乳幼児期・学童期・青年期・中年期から高齢期のからだとこころの特徴とその加齢変化についての知識の習得すること、および、習得した知識を活用して、各世代の男女に対する適切な生活の指導や運動処方が行えるようになることを目標とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	主専攻	スポーツ工学実験演習1	○	総合研究、そして、大学院進学後の研究を実施するうえで必要な実験手法を習得することを目的とする。本科目では、骨格筋のメカニクス・生理学系の実験を対象とし、ヒト生体からどのようにデータを取得するのか、取得したデータをどのように分析するのか、分析したデータをどのようにレポートにまとめるのかについて学習する。 （オムニバス方式／全14回） （２　赤木　亮太／6回）　全14回の内、6回を担当する。筋力に関するデータを主な対象とする。また、実験レポートの書き方や研究計画法に関する説明を担当する。 （55　江間　諒一／4回）　全14回の内、4回を担当する。筋の量・質に関するデータを主な対象とする。 （11　大須賀　洋祐／4回）全14回の内、4回を担当する。身体活動量に関するデータを主な対象とする。	オムニバス
		スポーツ工学実験演習2	○	総合研究および大学院進学後の研究に必要となる実験手法を習得することを目的とする。本科目では、心理生理学系および動作解析に関する実験を対象とし、各種センサや計測装置の使い方、ヒトを対象としたデータの計測方法、取得したデータの解析手法およびデータの見方、解析した結果のまとめ方について学習する。 （オムニバス方式／全14回） （26　佐藤　大樹／7回）　全14回の内、前半7回を担当する。心理生理学に関するデータを主な対象とする。 （60　柴田　翔平／7回）　全14回の内、後半7回を担当する。動作解析に関するデータを主な対象とする。	オムニバス
		健康行動栄養学		本科目は講義形式を中心とし、適宜実習形式を交える。 ヒトは、食事から栄養を摂取しており、生命の維持、健康促進のために不可欠である。また、身体活動の高い人やアスリートにおけるパフォーマンス向上や筋肉の維持には、食事による適切な栄養摂取が重要である。本講義では、栄養学の基礎、適切な食事摂取の役割・重要性について正しく理解した上で、身体活動レベルや運動内容に適した体づくり、栄養や食事方法について学ぶ。また、ライフステージ別の対象者特性や関連する疾病について理解し、それぞれに対応する栄養管理について学ぶ。	
		スポーツ画像工学		本科目は講義形式を中心とし、適宜実習形式を交える。 スポーツ映像の解析により、選手のプレーや試合状況を客観的に分析するのがスポーツ映像解析である。非接触型デバイスであるカメラを用いることで選手に負担をかけず、センシング機器の使用が制限される公式試合でも解析できる。本授業では、スポーツ映像解析を行う上で必須となる画像処理を基礎から解説し、実際のスポーツ中継で利用した映像解析システムの例を紹介する。具体的には、スポーツ映像に機械学習を適用して選手やボールを検出・追跡し、プレーや試合状況を理解するとともに、CGを用いてその結果を可視化する方法を学ぶ。画像処理の基本を理解し、映像からスポーツを分析する手段を習得することを目標とする。	
		スポーツ信号処理		本科目は講義形式を中心とし、適宜実習形式を交える。 近年のカメラやセンサ技術の急速な発展に伴い、プロだけでなくアマチュアのスポーツ現場においても、データの情報処理・活用が進められている。選手個人のパフォーマンス評価にとどまらず、チームのデータ分析を専門とするアナリストという職種も出てきており、実社会からも、スポーツデータを素早く処理し、現場に適切にフィードバック可能な人材が求められている。本授業では、このようなスポーツに関連するデータを取り扱うために必要な信号処理について学習する。	
		応用バイオメカニクス		本科目は講義形式を中心とし、適宜実習形式を交える。 バイオメカニクスの続きとなる科目として位置付け、バイオメカニクスにおける主要な計測手法（モーションキャプチャーなど）及び解析方法を解説・実践するとともに、歩・走・投・打動作などの身体運動について、力学的観点から客観的に説明する。到達目標として、様々なヒトの身体運動の評価方法や解析方法の概要を理解し、様々なスポーツ動作の特徴を、バイオメカニクス的観点から説明できるようになることを目指す。	
		映像メディア解析		本科目は講義形式を中心とし、適宜実習形式を交える。 スポーツ画像工学を学習する前段階として、画像のデジタル化技術や映像符号化原理など、映像メディアに関わる基礎技術について、その基本原理や仕組みを解説する。さらに、機械学習を活用したメディア解析技術の基礎を講述する。画像処理の基礎的な考え方と応用への適応力を修得することを目的とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	主専攻	スポーツ工学とSDGs		本科目は、講義と演習を組み合わせた形式で行う。学外機関との連携や、学外でのフィールドワークを実施することもある。 2015年の国連総会で採択された持続可能な開発目標（SDGs）は、分野や国境を越えた共通言語として、日々のニュースの中で頻繁に登場する。2015年に発表された文書の中で、スポーツは「持続可能な開発における重要な鍵となる」と述べられており、スポーツがSDGs達成のために大きな役割を果たすことが期待されている。講義では、SDGsについての基礎知識を身につけた後、グループワークを中心とした活動を行う。スポーツや運動、健康をキーワードに据えながら、課題を発見し、その課題を解決するための方法を計画・提案（プレゼンテーション等）し、行動に移す。関連科目で身につけたスポーツ工学の知識を活かして、具体的な取り組みを提案し、実行できるようになることを目標とする。	
		スポーツ工学概論		本科目は、スポーツ工学の基礎と応用を幅広く理解することを目標とする。授業は講義形式を中心に行われ、適宜実習形式も交えながら実施される。これにより、学生は専門的な知識の習得と実践的なスキルも身につけることができる。授業計画では、各教員の専門研究分野に関連するスポーツ工学の概要を説明する。学生はスポーツ工学の多面的な理解を深め、将来的な応用力を養うことが期待される。 （オムニバス方式／全14回） （２　赤木　亮太／3回）　筋メカニクスについて （55　江間　諒一／3回）　運動生理学について （26　佐藤　大樹／3回）　脳機能計測について （60　柴田　翔平／2回）　スポーツセンシングについて （11　大須賀　洋祐／3回）加齢と健康について	オムニバス
		スポーツ工学研究法		本科目は講義形式を中心とし、適宜実習形式を交える。 スポーツ工学に関連する研究を実施するにあたり、どのように実験デザインを作り上げるのか、そのノウハウについて学習する科目となる。具体的には、学術論文を活用しながら、スポーツ工学分野で頻用する統計手法について説明し、実際に統計分析アプリを使い方について学ぶ。また、サンプルサイズの事前の計算方法や実験を実施する前に必要な倫理審査の手続きについても説明する。本科目で学んだことを元に、実際に配属された研究室の内容に合わせた研究計画の立案につなげる。	
		生理学	○	全ての生命体は、様々な生理機能が正常に機能している事で維持されている（恒常性：ホメオスタシス）。また、生理機能といっても、分子レベルから社会に至るまでその幅は広い。本講義では、生命科学を学ぶ上で重要な、ヒトにおける各臓器・器官の配置や機能の理解を中心とした生理学の基礎を学習する。尚、生理学の範囲は広大である。神経生理学とは範囲は重複しない。消化器系、循環器系、呼吸器系、排泄等の分野の講義を行う。いずれの内容も今後、上級学年で学習する専門科目を履修するうえで重要な知識となる。	
		体力医科学		本科目は講義形式を中心とし、適宜実習形式を交える。 スポーツおよび日常生活を営む上で必要なヒトの体力について、基礎となる身体組成について学んだうえで、筋力・持久力・柔軟性などの行動体力と、病気やストレスに対する免疫力・抵抗力・環境適応力などの防衛体力に分け、その両方の維持向上を目指す方法について医科学的な視点から解説する。具体的には、身体活動・食事・睡眠などの24時間の生活の仕方から、体力要素の発育発達の仕組みに至るまでを包括的に学習する。加えて、身体不活動による身体機能低下についても学び、よりよく生きる上で、身体活動がどのように重要であるかについて理解を深めていく。スポーツや日常生活を営む上で必要な体力に関する医科学的知識を習得すること、および、習得した知識を活用して、体力の維持向上のためにスポーツなどの身体活動の実践や、健康につながる生活行動の実践することを到達目標とする。	
		データ解析		プログラミング言語Pythonを用いて、データのクリーニング、時系列の分析、多変量解析、および統計分析を行う。合わせてデータを分析した結果の可視化について学習する。 プログラミング言語Pythonを用いたデータ解析の全体像の理解、データクリーニング：前処理、欠損値の取り扱い、統計学と可視化、時系列分析、時間軸に応じたデータの理解、多変量解析、回帰分析やロジスティック分析、決定木を通じて、データが扱えるようになる。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		データサイエンス入門		本講義では，データサイエンスの概念からデータサイエンスの応用事例をオムニバス形式で紹介することで、データサイエンティストとしての素養を身につけることを目的とする。これまでの様々な分野で行われたきたデータ分析の理解、方法論、およびデータの実際の取り扱い方などを学ぶ。 （オムニバス方式／全７回） （75　原田　拓弥／4回） ・データサイエンティストに必要なデータサイエンス力、データエンジニア力、ビジネス力の3つの概要を紹介 ・データサイエンスにおけるデータエンジニア力の必要性を紹介 ・データ倫理およびデータサイエンスにおける倫理について紹介 （7　市川　学／1回） ・データサイエンスの保健、医療分野への応用について紹介 （58　後藤　裕介／1回） ・データサイエンスの経営分野への応用について紹介 （22　小山　友介／1回） ・データサイエンスの経済分野への応用について紹介	オムニバス
専門科目	主専攻	バイオイメージング		バイオイメージングは分子、シグナル、細胞、臓器等の生物現象のプロセスを可視化し、理解するために不可欠な手法である。本講義ではまず基本的な光学顕微鏡の原理を学び、その後高度なイメージング技術について学ぶ。例えば、共焦点顕微鏡による三次元画像の取得や蛍光タンパク質を用いた細胞内イメージング技術について紹介する。さらに、医学診断を目的とした臓器レベルでのイメージング技術として大きな役割を果たしているX線CTやMRI等の撮影原理や特長について紹介する。また、イメージング技術に資するデバイス技術についても紹介し、実際の生命科学研究や臨床診断における応用例について学ぶ。	
		バイオエレクトロニクス		生命現象の原理を説明するためにも、生命現象を測定・解析するためにも、電磁気学的知識が必要であり、今日の医療機器はほとんどがエレクトロニクス技術によって成立している。本講義においては、生体の電気的性質を活かした医療機器，または生体を観測するための電子工学技術を活用した診断・分析機器の原理について学ぶ。授業の流れについては、細胞の営みの基礎知識と関連付けて、細胞は電気を発生していることをまず知るところからはじまる。そして、細胞や生体に電気を流したり、電磁波を照射したりした際の応答や電磁気学的性質を理解する。さらに、これらを応用した、様々な医療機器や生物分析機器の原理を習得する。	
		バイオエンジニアリング実験		医工学分野における研究や開発では、医療機器の機能性の評価のために、バイオ系技術や種々の計測・分析技術が必要となる。本実験科目では、基礎的なバイオ系実験手法を修得する。さらに、物質の定量や成分分析、構造解析などに利用される代表的な計測・分析機器の原理・用途について学び、基本的な測定技術や得られたデータの取り扱い方を習得する。紫外・可視分光法、蛍光分光分析法、位相差顕微鏡、蛍光顕微鏡、共焦点顕微鏡、電界放出型走査型電子顕微鏡（SEM）、エネルギー分散型X線分析装置（EDS）、透過型電子顕微鏡（TEM）、力学特性試験、粘弾性測定、フローサイトメトリー等を取り扱う。	
		バイオマテリアル		医療分野や生命科学研究領域では、様々な生体材料が用いられている。本科目では、生体材料である無機材料、金属材料、高分子材料、生体由来材料の基礎的な内容を講義する。また、これらの生体材料と生体との界面にて生じる現象を講義し、生体材料に対する生体内外での生体反応（タンパク質吸着・細胞接着・免疫炎症反応等）について学習する。さらに、ドラッグデリバリーシステム、人工臓器、再生医療、組織工学等について、基礎的な内容と最新の研究内容を材料学的な立場から概説する。	
		バイオメカニカルエンジニアリング		医療・バイオ分野において、機械工学は大いに活用されてきている。本講義では、生体医工学への応用に必要となる機械工学の基礎理論の概説から実践的解析手法、さらに医用デバイス開発などの生体医工学研究開発事例について学ぶ。例えば、流体力学のナヴィエ・ストークス方程式を用いた血行動態の解析、生体信号取得のための計測工学や情報処理、それらに基づく実践的手法として数値流体力学計算、信号解析の手法などを学ぶ。その応用として、人工心臓の開発、血流解析、生体信号処理などの研究開発事例を紹介し、医療・バイオ分野における機械工学の活用方法を理解する。	
		バイオメカニクス		バイオメカニクス（生体力学）の基礎として、生体の構造や形態、運動制御機構、力学的なモデル化手法ついて講義する。特に医工学コースやスポーツ工学コースの分野で用いられる生体の運動におけるバイオメカニクスを理解するために必要となる解剖学・生理学知見を踏まえ、力学的基礎である機械力学・材料力学知見をもとに作成するヒト運動系の力学モデルを理解し、生体の内外における力学的現象にどのように応用するのかについて学ぶ。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	主専攻	Python入門		本講義では、プログラミング的思考を身に付けることを目的とし、プログラミング言語のひとつであるPythonの基本を学ぶ。Pythonそのものの概要と歴史、変数とデータの型、条件文、繰り返しの制御、関数の定義と読み込み、ファイルの読み込みと書き込み等を取り扱う。そのほか、総合的な課題に取り組むことで、講義で身につけた基本的なPythonの知識を活用できる素質を養う。	共同
		Pythonプログラミング	○	本講義では、コンピュータの特性を自在に発揮して柔軟に使いこなすための方法を習得する。そのため、プログラミング言語の一種であるPythonについてそのプログラミングを行うための手法を学習する。Pythonでプログラミングを行う際に必要となる様々な知識、計算機の基本、演算の手法、論理式と論理回路、フローチャートによる処理手順の記述方法についても学習するとともに、Pythonの基本的な文法等を学習して、プログラミングを演習的に学習する。	
		バイオレオロジー		身体の中にはたくさんの水分が存在し流動している。本講義においては、それらの種類や量、それらに含まれる構成要素の種類とその役割そして物理的特徴を学ぶ。例えば、流れ学の知識で説明できるダイナミックで大きなスケールの対流現象と、ナノ・ミクロといった小さいスケールの拡散・浸透現象、さらにバイオ流体としての血液・間質液・細胞内液の中の構成要素、および存在する血液細胞の機能と流動条件下における血液の非ニュートン流体特性とその解釈、心臓血管系の生理とそこで成立する物理学、血液循環で起こりうる疾患に関係した物理的解釈などについて学ぶ。	
		メカトロニクス		メカトロニクスとはメカニクス(Mechanics)とエレクトロニクス(Electronics)の合成語で、様々な分野が統合された技術分野である。医療機器や福祉機器を設計する際、機械を含むシステムに柔軟性を持たせ、思い通りに制御するには、メカトロニクスのコンセプトは大変重要となる。そこで本講義では、メカトロニクスの基礎となる下記の各要素技術等、実際にメカトロニクス機器を設計開発するための手法を学ぶ。 (1)　機構　(2)　電気、電子回路　(3)　様々なセンサ　(4)　アクチュエータ	
		メディア認知心理・人間工学		メディアを設計するにあたっては、人の受容器から認知過程を経て効果器を通して操作に到達するまでのインタラクションを適切に考慮する必要がある。このため、人間工学的視点から人体の特性を知ることは、表現のバリエーションを広げることと両輪をなしている。また同時に、現実世界での経験を仮想世界で実現する、あるいは超現実を仮想世界に展開していくことを考えた場合、エンジニアには、人の生理現象、さらには危険性についての知識が求められる。この講義では、眼や耳などの人間の受容器特性と対応した表現を学ぶとともに、エンジニアとして求められる表現に対する効果の評価や、さらには危険性についても学ぶ。	
		メディカルエンジニアリング実験		生命医工学分野(医療機器・福祉機器)における研究や開発では、計測や制御をおこなうために種々のプログラミング技術が必要となる。本実験では、生命医医工学分野の研究開発に必要な要素技術の一つであるI/Oを用いた機器の制御と制御法の基礎を学ぶ。小型なMCUであるArduinoを使用した基本的な組み込み機器を用いた基本的な回路作成や、制御を行うための実験演習を行い、幅広い生命医工学分野の研究や開発において必要な組み込みプログラミング技術の基礎を身につける。	共同

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	主専攻	ものづくり工学		企業の第一線で活躍している技術者の方々（主に本学卒業生）を特別講師として招聘し、具体例を紹介しながらオムニバス形式で開講する。ものづくりの現場における機械・電気システム等に焦点を当て、これらは何が特長で如何に効果的に用いられているか、どこが問題点でそれらをどう克服せねばならないかについての解説を通じて、これから過程で学修する内容の理解を深めることを目的とする。また、講義中または講義後には第一線で活躍している技術者とのディスカッションを行う。 講義ごとのまとめとして内容に関係する課題を用意し、 講義内容の振り返りを含めてこの課題に取り組む。 （オムニバス方式／全14回） （4　飯塚　浩二郎／7回） ・求められるエンジニア像に関する講義 ・ものづくりの現場に関する業界 ・ソフトウェアに関する業界 ・機械・電気システムに関する業界 ・自動車に関する業界 ・自動車部品開発に関する業界 ・レース車両開発に関する業界 （17　川上　幸男／7回） ・ITセキュリティに関する業界 ・宇宙技術に関する業界 ・建設業における機電技術に関する業界 ・ビルオートメーションに関する業界 ・建設機械開発に関する業界 ・油空圧機器開発に関する業界 ・歯科医療機器開発に関する業界	オムニバス
		ロボティクス		ロボットは様々な科学技術を融合した1つのシステムであることから、本講義では電気工学、機械工学、情報工学、制御工学などの基礎工学を統合し、システムにまとめあげるロボティクス（ロボット工学）について考え、ロボットシステム開発に必要な基本知識を要素技術、システム化技術（ハード、ソフト）の両面から学修することを目的とする。最終的に、ロボットを設計・制御するために必要な基礎知識を習得できるよう、 機械の動力学運動方程式の導出、ロボットの各種制御手法について重点的に取り組む。	
		医学・医療概論		医療福祉に携わる理工学系研究者・技術者に必要な医学的知識を包括的に教授する。基本的な疾患の病態・病因・治療法、代表的な医療機器の仕組みと用途、医療施設、日本の医療システムについて概説する。基礎的な疾患として、血行障害による病変、進行性の病変、退行性の病変、炎症、腫瘍、奇形を取り扱う。医療機器として、治療機器、診断機器、機能代行・補助の機器を取り扱う。医療機器メーカーの協力のもと、血圧計やパルスオキシメーター、心電図などの医療機器を体験し、そのメカニズムを学ぶ。医療施設メーカーの協力のもと、医療施設の設計・施工・運用までの一連の流れを説明する。	
		医工学エレクトロニクス演習	○	生命医工学分野における医療福祉機器の開発に必要な技術を身につけるため、特に電気と情報処理の各分野の要素技術について体感し、それらを組み合わせてひとつのシステムとして構築する手法を学ぶ。また、レポート作成を通し、基本的な技術文書の書き方を身につける。 本実験では、基本である電気的特性を計測する計測機器の使い方、デジタル回路の組み立て、アナログ回路基板の作成などについて学ぶための実験演習を行っていく。	共同
		医工学セミナー	○	医工学コースの各研究室の研究領域や特色を学び、自身の興味を明確にし、3年次より履修する総合研究Ⅰ、総合研究Ⅱ、総合研究Ⅲ、総合研究Ⅳで研究活動を実施する研究室を選択する。研究の取り組み方、研究テーマ設定、研究の遂行に必要な知識、実験手法、開発技術、論文の書き方、発表方法および参考文献の検索方法やその管理方法について学ぶ。研究に携わる際に必要となる研究者倫理をAPRINのeラーニングを通じて学習する。 （オムニバス方式／全14回） （49　山本　紳一郎／2回）　神経リハビリテーション工学・人間工学に関連する領域について （62　髙木　基樹／2回）　福祉工学に関連する領域について （53　渡邉　宣夫／2回）　バイオ流体に関連する領域について （63　髙山　祐三／2回）　細胞工学に関連する領域について （25　迫田　大輔／2回）　生体物理工学・人工臓器に関連する領域について （59　信太　宗也／2回）　医療技術に関連する領域について （66　中村　奈緒子／2回）　生体材料・人工臓器に関連する領域について	オムニバス

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	主専攻	医工学プログラミング演習		医工学に関する研究では、計測や制御のために種々のプログラミング技術が必要となる。本演習では、データ解析、画像処理、アルゴリズム開発など多様な機能を持ち、医工学分野で広く使用されているMATLAB・Phythonを中心にプログラミング技術を学ぶ。前半では、数値計算、データ解析方法、プログラミング構文など、初歩的な内容から始め、その後、画像処理の基礎を修得し、医工学研究に必要なデータ解析・プログラミングについて理解を深める。	
		運動生理学		本科目は講義形式を中心とし、適宜実習形式を交える。 講義では、身体運動が生じる仕組みの基礎、ならびに身体運動によって身体（各器官）がどのような応答や適応を示すのか、基本的なメカニズムを含めて概説する。さらに、身体機能や健康に影響する要因について、関連科目を学ぶ上での基礎を説明する。身につけた知識を活用し、身体機能の向上や健康づくりに結びつく取り組み、そしてそれらをサポートするものづくりにつなげられるようになることを目標とする。	
		解剖学	○	解剖学とは人間の正常なからだの形態と構造を研究する形態学の一つであり、生体に対する理工学的アプローチを考える際に必要な学問である。生命健康科学領域に必須の人体にのマクロからミクロの構造について説明する。本科目では、骨格系・筋系・循環器系（心臓・血管・脾臓等）・消化器系（口腔・胃・小腸・大腸・肝臓等）・呼吸器系（肺等）・泌尿器系（腎臓・膀胱等）・内分泌系・神経系（中枢神経・末梢神経等）・感覚器系（視覚器・平衡感覚器・皮膚等）等の各器官系について、疾患と関連付けながら、基礎的な内容を講義する。 （オムニバス方式／全14回） （66　中村　奈緒子／7回）　器官と器官系・骨格系・筋系・消化器系・泌尿器系について （63　髙山　祐三／7回）：循環器系・呼吸器系・内分泌系・神経系・感覚器系について	オムニバス
		環境化学		環境化学の講義は、過去から現在に至る様々な環境問題を取り上げ、その歴史的背景や対策について説明出来るようになることを目的とする。また、環境濃度やリスクについても計算出来るようになり、将来の環境問題にも対応出来るようになることも目的とする。具体的な講義内容としては、環境化学の基礎として、濃度計算や物質収支の計算方法を習得する。また、地球温暖化の原理の理解や、過去に生じた公害問題の発生メカニズムについても学ぶ。さらに、大気汚染、水汚染、土壌汚染の環境問題やそれらの汚染対策技術、環境リスクマネジメントについても講義する。この講義を通じて、過去から現在までの様々な環境問題について理解し、それに対処できる知識とスキルを身につけることも目標とする。	
専門科目	主専攻	機械・電気基礎数学		機械・電気系システムの解析や設計を行う上で広く利用されている信号解析、データ解析等において基本的かつ必須の道具である、フーリエ級数、フーリエ変換およびラプラス変換の3つについて基礎的な事柄を学び、さらにこれらを線形システムの応答解析手法を身に付けることを目的とする。これらの定義、その物理的意味および実際の適用における選択を正しく理解することが重要である。企業での実務遂行のためには、必ず知っておかなければならないものである。 信号解析の基本を学ぶことは必要であり、また、今後「制御工学」、「線形システム制御」を深く理解する場合には、本科目の履修は必須となってくる。	
		機械設計製作演習	○	生命医工学分野の研究において、独自の実験装置を製作するケースが多くある。それらの機械設計製作においては何もないところから機能を持った装置を創り出す必要がある．その手段は設計である。最近の設計方法としては、CADで図面を描くのが主流となっているが，その前段階として機械製図の規則と設計方法を学ぶ必要がある．本講義は，機械図面の書き方としてまず機械製図法について学び，機械システム設計に必要な加工法を考慮した設計方法を学ぶ．加えて、手仕上げ加工、汎用フライス盤および汎用旋盤を用いた機械加工実習、およびNC（自動）機械加工を学び、座学と演習の両方の観点から機械設計製作法を習得する。加えて、ノギス、マイクロメータを用いた計測体験も行い、ものづくりのセンスを養う。	共同
		機械力学		本講義では生命医工学分野における機械や機器の設計や生体の動きを理解するうために必要な基礎知識である機械力学を学ぶ。機械力学では「機械の動作により生じる力」等を扱う学問であり、基本的な物体の運動、剛体に関する力のつり合いを扱う「静力学」、動かない物体に働く力のつり合いを学ぶ「動力学」について学ぶ。また、並進的な運動における運動方程式に対応した物体の回転運動に関する角運動量や慣性モーメントや振動に関する基本的なことについても学ぶ。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	主専攻	機構学		機械を設計してゆくには、 まず動く仕組み（からくり）を定性的ならびに定量的に把握しなければならない。 それを扱うのが機構学であり、 機素や節で構成される‘力の伝達機構’とその‘作動原理’を学ぶことを目的とする。 具体的には、 リンク機構、 摩擦伝動機構、 カム機構、 歯車機構などといった機械を構成させる重要な機構の内容について、 原理以外にも数学的・力学的要素を考慮しながら講義を行う。 また、 このような原理を使って機構や構造物を創造設計する演習を設ける。	
		機能解剖学		本科目は講義形式を中心とし、適宜実習形式を交える。 解剖学の続きの科目として位置付け、解剖学の中でも、骨格筋と関節にフォーカスし、ヒトの身体運動を生み出す基礎的な構造・機能について理解することを目標とする。 （オムニバス方式／全14回） （２　赤木　亮太／7回）　全14回の内、最初の4回を担当する。主に上肢に関して説明する。 （55　江間　諒一／7回）　全14回の内、残りの10回を担当する。下肢・体幹を中心に説明する。	オムニバス
		公衆衛生学		環境因子によって誘導される健康へのリスクを学習することは、ある一定集団のQOLの向上・疾患の予防・健康寿命の延伸に必須である。本講義では、集団の特性を理解する保健統計・集団の中で出現する健康事象に関する疫学調査・ウイルスや細菌による感染症・農薬や遺伝子改変食品の現状・事業活動による公害・動物や植物の有害成分や食物連鎖を通して取り込まれた天然の毒物などの単元ごとに、環境因子と健康リスクの関係性について学習し、その理解を進める。	
		構造解析学		本科目は有機化合物の構造を解析するための基本的な知識の習得を目的とする。講義では種々の分光法のうち、現在最も一般的に構造解析に利用される種々の分光法を取り上げ、総合的な化学構造の構造解析方法を学習する。授業は７回ずつを須原、廣田が担当し、主に以下の内容について解説する。 （オムニバス方式／全14回） （30　須原　義智／7回）　紫外-可視分光法、赤外分光法、プロトン核磁気共鳴分光法、炭素-13核磁気共鳴分光法、二次元核磁気共鳴分光法について （67　廣田　佳久／7回）　質量分析法、X線結晶解析、総合演習問題について	オムニバス
		細胞生理学		生理学の中でも特に細胞の生理学について講義を行う。細胞膜の機能や細胞内小器官における生理学、更には細胞間・細胞内情報伝達機構についても講義を行う。よって、講義の中では分子生物学や科学的要素も含まれる。これまでの生理学や神経生理学よりはよりミクロな範囲での講義となる。講義内での資料の解説を通じて、蛍光タンパク質の導入による細胞観察など様々な分子細胞生物学領域における実験手法や、グルタミン酸神経毒性など実際の疾病のメカニズムに関する話も行う。	
		材料力学		本科目は講義形式を中心とし、適宜演習形式を取り入れる。 まず外力およびモーメントのつり合いより反力を正しく求められるようにする。次に応力ひずみの定義、応力ひずみ関係、一般的な金属材料の弾塑性挙動を理解する。さらに熱応力、不静定問題について学習する。後半でははりの曲げに関する力学を学ぶ。SFD、BMD、曲げ応力、断面二次モーメントについて学習し曲げ剛性及び断面設計について学習する。その後、それらすべてを使った問題、すなわち曲げ変形について正しく計算できるよう学ぶ。具体的にはたわみの微分方程式について理解しそれを用いたたわみ量の計算ができるようにする。最後に、ねじりの観点から、設計に必要な計算方法を学習する。	
		食品栄養学		健康寿命を延伸するためには，健全な食習慣を送るための基本的な知識を学ぶことが重要である。本講義では，近年明らかになった食と健康の関連性について学習する。具体的には，食品と医薬品の分類や現在流通している食品の特性を理解するともに，栄養学だけでなく生理学・神経科学・生理学をベースにエネルギー代謝・概日リズム・腸内環境・味覚，あるいはメタボリックシンドローム・ロコモーティブシンドローム・ガン・神経変性疾患といった単元ごとに理解を進める。	
		神経生理学		生理学の中でも特にヒトの神経系に関して講義を行う。神経生理学も生理学同様、生体内恒常性（ホメオスタシス）の考え方が基となっている。活動電位や神経伝達物質の機能を含めた神経伝達を学ぶことで、記憶のメカニズムについて理解する。また、二重支配を中心とした自律・体性神経系を含む中枢・末梢神経系の役割などについても講義する。老化や認知症、アルツハイマー病などの多くの神経変性疾患に関する理解を深めるうえで非常に重要である。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		人工知能基礎		人工知能は、人間の知能を解明し、それをコンピュータ上に実現することを目的とする学問領域である。計算機の性能向上と我々の手にできるデータ量の増大により、人工知能は我々の生活に欠かすことのできない技術となりつつある。知能は多面性を持つため、人工知能はさまざまな学問領域に深く関わり、関係領域は幅広い。この授業では、知能を解明する試みの歴史を辿りながら、人工知能における基礎的な技術分野・アルゴリズム等について学ぶ。また、人工知能にとってより根源的な哲学・倫理的話題についても考えていく。	
専門科目	主専攻	制御工学		機械のモーションコントロール、移動体制御、通信システム制御、福祉・リハビリテーションロボット、医療・手術支援システムなど、機械・電気工学分野で対象とするシステムには必ず制御技術が必要となる。この講義では、一次/二次遅れ系の応答、入出力安定性判別、周波数応答、フィードバック系およびPID制御系設計に代表される、制御工学の基礎について学ぶ。さらに、理論だけでなくMATLAB/Simulinkを使用しての演習も実施する。	
		生化学	○	生体は膨大な数の細胞により構成されており、高度なネットワークにより生命現象が制御されている。このような複雑なメカニズムを理解するために、化学的検知に基づき糖・脂質・タンパク質等の生体成分や生体内の酵素反応を中心とした代謝系を学ぶことによって、生体の恒常性維持のメカニズムを理解することを目標とする。授業の前半の7回は、細胞の基本構造、糖質、脂質、タンパク質、ビタミン、核酸・ミネラルといった生化学を学ぶ上で基礎的なものの理解や構造式、その機能を概説する。後半の7回は、酵素の性質と反応、糖質や脂質の代謝といった、酵素機能や生体内代謝を概説する。	
		生体計測学		「計測」とは，特定の目的を持って事物や現象を量的に捉えることであり，科学の基本となる現象の数値化を可能とする。つまり，生命活動や生体現象を理解するためには，生体の構造や機能を計測することが必要不可欠である。本科目では，この「生体計測」の基礎概念を学び，生体計測を行う際に必要となる基礎知識を身につけることを到達目標とする。授業は講義を中心に構成し，3割ほど演習を含める。具体的には，生体計測の特徴や計測全般に関する基礎知識を学んだ後，主に個体レベルの生体計測を対象に，生体信号の検出，アナログ処理，デジタル処理，結果表示に至る各プロセスについて学習する。その後，簡単な生体信号の計測演習を通して，生体計測に関する理解を深める。最後に，少人数のグループに分かれ，関心を持った生体計測装置／医療機器について調査，発表を行い，生体計測の応用例について学ぶ。	
		生体高分子工学		本科目は、生体を構成し、生命活動を司る高分子について、その産業への利用に向けてどのような研究や手法等が行われているのかを理解することを目標とする。授業の前半の7回は、タンパク質・核酸・多糖類などの天然高分子化合物と、人工的に化学合成されたプラスチックなどの高分子化合物の結合様式や立体構造、生理機能について解説する。後半の7回は、工業、環境、医療、医薬に向けたタンパク質などの高分子化合物の高度化・有効利用のための応用研究について概説する。	
		生物地球化学		生物地球化学は、生物と地球のかかわりに焦点を当てた学問である。生命の起源、地球規模での物質循環における生物の役割や、近年の人類による環境影響が生物地球化学にとって重要な視点である。また、生物に密接に関連している安定同位体は環境影響を大きく反映するため、生物地球化学にとって有力なツールになっている。生物地球化学の講義では、講義前半では、生命の誕生、生物の外部環境、炭素や窒素の物質循環、人類における環境影響について講義を行う。また、講義後半では、安定同位体比の原理、分析法の歴史、生物への応用例などを講義する。	
		生物物理学		生物の物理的な活動や特徴を理解することを目的とする。ヒトをはじめとする生物は、光や力という物理的な情報を視覚や触覚という感覚により得る。その情報を神経の電気的活動で伝えて処理し、さらに筋肉や繊毛のような運動装置の動きを制御し、適切に反応する。このような生物の物理的な活動や特徴を理解することは、生物の理解を深めるだけでなく、ヒトを守ったり補助したりする器具や装置の開発にも有効である。さらに、さまざまな生物が進化の間に蓄えてきたセンサーと運動装置の巧妙な仕組みには、新しい装置を開発する上でのヒントが豊富に含まれる。本講義では、ヒトの感覚と運動の基本を学ぶとともに、ヒト以外のさまざまな生物の適応戦略を学ぶ。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	主専攻	生命科学概論		本科目は、生命科学という学問領域の概要を説明するとともに、様々な研究専門分野について、所属する担当教員が最新の研究事例、卒業後の進路やキャリアの事例等を交えて分かりやすく解説する。また、専門科目と各研究専門分野との関わりについて説明する。本講義によって、生命科学コースの全体像を把握し、総合研究や卒業後の進路を意識した学修計画を立てることを目標とする。授業は担当する教員が原則2回ずつ、関連する研究内容を講義する。 （オムニバス方式／全１４回） （54　ＡＺＨＡＭ ＢＩＮ　ＺＵＬＫＨＡＲＮＡＩＮ／2回）　微生物学について （67　廣田　佳久／2回）　生化学・分子生物学について （30　須原　義智／2回）　有機化学について （45　矢嶋　伊知朗／2回）　発生遺伝学について （40　福井　浩二／2回）　生理学について （18　川島　洋人／2回）　環境化学について （51　吉村　建二郎／２回）　生物物理学について	オムニバス
		生命科学実験（基礎）	○	本科目は、生命科学実験（応用）、生命科学実験（発展）を受講するに当たり、基礎的な実験を自ら実施し、知識や技術を習得することを目標とする。実験については、特に化学・生物学の基礎的な実験やレポートの書き方、将来的な研究室での実験手技等の取得を目指す。また、最も重要な科学的な倫理観や安全な実験寳保などを理解する。 （オムニバス方式／全１４回） （54　ＡＺＨＡＭ ＢＩＮ　ＺＵＬＫＨＡＲＮＡＩＮ／2回）　分光光度計の使用方法について （67　廣田　佳久／2回）　天秤と回転機器の使い方について （30　須原　義智／2回）　薄層クロマトグラフィー法について （45　矢嶋　伊知朗／2回）　細胞の染色と観察について （40　福井　浩二／2回）　顕微鏡の使い方について （18　川島　洋人／2回）　pHメーターと緩衝液について （51　吉村　建二郎／２回）　生物物理の基礎について	オムニバス
		生命科学実験（応用）	○	本科目は、生命科学実験（発展）を受講するに当たり、生命科学分野における基礎から応用の実験を実施し、知識や技術を修得することを目標とする。実験については、特に、化学・生物学のより専門的な実験やレポートの書き方、PCRやウエスタンプロットといった生化学的な手法や化合物の有機合成、環境物質の分析など将来的な研究室での実験手技などの取得を目指す。 （オムニバス方式／全１４回） （54　ＡＺＨＡＭ ＢＩＮ　ＺＵＬＫＨＡＲＮＡＩＮ／４回）　微生物学実験について （67　廣田　佳久／2回）　生化学実験について （30　須原　義智／４回）　有機化学実験について （18　川島　洋人／４回）　環境化学実験について	オムニバス
		生命科学実験（発展）	○	本科目は、実験形式にて実施する。授業の目標として、研究室配属をするに当たり、応用からより発展した実験を実施し、知識や技術を習得することとする。実験については、特に大腸菌等の形質転換やゲノム編集などの遺伝子組み換えといった分子生物学的な手法や医薬品など立体選択的な化学合成、食品栄養成分や大気汚染物質の定量分析など将来的な研究室での実験手技等の取得を目指す。 （オムニバス方式／全１４回） （67　廣田　佳久／６回）　生化学実験などについて （45　矢嶋　伊知朗／４回）　発生遺伝学実験について （40　福井　浩二／４回）　生理学実験について	オムニバス
		生命統計学		生命科学課程における様々な実験研究のための統計手法の基礎を講義する。生命科学コース・医工学コース・スポーツ工学コースの分野で多く扱われるヒトや動物を対象とした実験データの統計処理手法を習得することは、合理的な実験研究計画の立案に不可欠である。実験系の統計処理の基本的な確率統計手法を中心に生命科学課程分野の研究事例を用いながら解説し、演習によって基本的な統計処理手法を身につけ、総合研究に生かせるようにする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	創薬化学		本科目は、「作用」に関する基本的知識を修得することを目的とし、主に以下の「化合物のデザイン」「ターゲット分子」「医薬品の合成法」「バイオアッセイとスクリーニング」「倫理と規制」の内容について解説する。 １．化合物のデザイン：生体内で作用を示す新しい薬物の設計と合成方法について学ぶ ２．ターゲット分子：疾患の原因となるタンパク質や分子について、それらをターゲットにする薬物にはどのようなものがあるのか解説する ３．医薬品の合成法：新しい薬物を効率的かつ安全に合成する方法について学ぶ 4.バイオアッセイとスクリーニング：医薬品の候補化合物の効果を評価するための実験法やハイスループットスクリーニングの原理について解説する 5.倫理と規制：医薬品の研究開発における倫理的問題と規制について学び、薬物の承認プロセスについて説明する	
	電気電子回路	○	医療・福祉機器の設計・開発を行う際、様々な電気電子機器を利用することが多い。また、生体計測技術の多くは生体から検出する微小な電気信号を電気的に変換して処理するものである。本授業では医療・福祉機器分野における電気電子機器や生体計測技術を理解・活用・設計するために必要な電気電子回路の基礎知識を学習する。具体的には基本的な電気素子とトランジスタやオペアンプなどを用いたアナログ回路及びデジタル回路の基礎理論を学び、それを用いた電気電子回路の設計手法について学習する。	
	脳機能計測学		ヒトの認知的・身体的パフォーマンスには、脳のはたらき（脳機能）が大きく関与している。本科目では、脳機能計測技術が発展してきた背景とともに、代表的な脳機能計測技術の原理と特徴について理解を深めることを目的とする。また、脳機能計測を活用してヒトの認知機能や身体機能を神経生理学的に理解する枠組みを学び、その知識を医工学やスポーツ工学に関する研究開発に応用する力を身につける。授業は主に講義形式で進めるが、グループディスカッションや実験デモンストレーションなど、能動的に学習する機会を適宜織り交ぜて構成する。	
	発生生物学		分子遺伝学は生命現象を遺伝子レベルのシステムとして理解する学問である。本授業では、遺伝子そのものの構造や性質とその機能について解説する。 「遺伝する」とはどういうことなのか、遺伝子という情報が先祖から子孫に向けてどのように伝わっていくのか、その分子レベルの仕組みを解説する。 また、遺伝子の情報を「伝える」ために必要な情報の複製（コピー）方法、あるいは情報に齟齬（エラー）が生じた際のチェックシステムや修復システムについても紹介し、情報（遺伝子）が次世代へと正確に伝わる仕組みを解説する。 さらに、遺伝によって受け継がれる疾患やその発症形態を紹介することで、ヒトと遺伝に関する理解を深めるとともに、最近の遺伝子技術とその応用についても紹介する。	
	微生物学		本科目は、微生物の基礎（発見、構造、生理機能、生態、進化）から、産業応用（発酵食品・醸造、環境・物質循環、医療、農業、エネルギー）までの概要をしっかりと理解し、学生が説明できるようにすることを目標とする。授業の前半の7回は、基本的に微生物を知ることから学ぶことになり、微生物の分類と構造、取り扱い方法、微生物の遺伝学を概説する。後半の7回は微生物の代謝、発酵、物質生産と関連するバイオテクノロジーについて概説する。	
	物理化学		本科目「物理化学」は、生命や物質世界における分子のふるまいを「エネルギー」の観点から理解する学問体系である。物理化学の主要な領域のうち、化学熱力学と反応速度論のトピックを、適宜演習問題を解きながら学び、理解を深めることを目標とする。授業については、特に、物理化学の主要な領域のうち、化学熱力学と反応速度論のトピックに関して概説する。	
	分子遺伝学		分子遺伝学は生命現象を遺伝子レベルのシステムとして理解する学問です。本授業では、遺伝子そのものの構造や性質とその機能について解説します。 「遺伝する」とはどういうことなのか、遺伝子という情報が先祖から子孫に向けてどのように伝わっていくのか、その分子レベルの仕組みを解説します。 また、遺伝子の情報を「伝える」ために必要な情報の複製（コピー）方法、あるいは情報に齟齬（エラー）が生じた際のチェックシステムや修復システムについても紹介し、情報（遺伝子）が次世代へと正確に伝わる仕組みを解説します。 さらに、遺伝によって受け継がれる疾患やその発症形態を紹介することで、ヒトと遺伝に関する理解を深めるとともに、最近の遺伝子技術とその応用についても紹介します。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	主専攻	分子生物学		分子生物学とは、これまでに学んだ分子生物学は生化学、微生物学、遺伝学等を基礎として、生命現象を分子のレベルで理解し、分子メカニズムを理解する学問である。分子生物学を基盤として、遺伝子工学、蛋白質工学、酵素工学、糖鎖工学、脂質工学等のバイオテクノロジーが急速に進展し、工業、環境、医療・医薬（薬理学等）、農業・食品などの発展に大きく貢献してきている。このような生命現象を分子レベルで理解し、説明できることを目標とする。授業については、前半の7回は、生体膜、酸化還元反応、情報伝達とホルモン、核酸およびタンパク質の生合成といった生化学の内容とオーバーラップする内容を概説し、後半の7回は、iPS細胞、オートファジーと疾患、ゲノム編集の現状と課題、感覚生物学、ウィルス感染防御といった最新の分子生物学のトピックを概説する。	
		分析化学		分析化学は、化学物質の種類や存在量を解析し、化学物質の分離方法を理解する化学の一分野である。あらゆるものは化学物質であり、分析化学は、工業、環境、医療・医薬、農業・食品など幅広い分野で利用されている。講義前半では、分析化学の目的、基本的な分析器具の操作方法、分析化学のデータ処理、濃度、pH、化学平衡などの化学の基礎知識の習得に重点を置き、講義し、また演習も行う。講義の後半は、分光化学的な手法、原子分光分析法、クロマトグラフィ、ガスクロマトグラフィ、液体クロマトグラフィ、質量分析、安定同位体比質量分析等の機器分析法の原理を解説し、最新の分析機器の状況、実際の応用例について紹介する。	
		保健医療福祉政策概論		国、都市、地域が置かれている状況を、多面的な角度から把握して、保健医療福祉の政策立案を可能にすることを本授業の目的とする。そのために、これまでの保健医療福祉の政策背景へ考察から、これからの将来への定量的な予測まで授業で扱う。医療については、医療機関の統廃合や最適な病床数の検討。保健については、住民の健康の状況と医療費の関係性、福祉について地域包括ケアシステムをキーワードとデータに基づき、定量的に紐解く。	
		無機化学		本科目は、酸化還元や酸・塩基といった化学を学ぶ上で通常必要とされる概念を体系的にまとめ解説するとともに、化学を学ぶ者が知っておきたい無機物質（単体・化合物】を種々取り上げ、化学的概念と結びつけてそれらの特性を解説し、また、無機物質から作られるいくつかの重要な無機材料に関して理解することを目標とする。授業については、酸化還元や酸・塩素、無機物質の化学的概念やその特性、無機物質から作られる無機材料等に関して概説する。	
		薬理学		疾患に対して用いられる薬物が、どのようにして作用を示すのかについて学習する。様々な投与経路を通じて処置された薬物の血中や標的臓器における動態、標的臓器における神経伝達物質・ホルモン・オータコイドといった情報伝達物質やその受容体と薬物の化学的相互作用、その結果として発現する表現型である有効性・毒性について、循環器・消化器・中枢神経系・免疫系・悪性新生物・ウイルス・細菌といった単元ごとに理解を進める。	
		有機化学		有機化学は炭素を中心とした有機化合物に焦点を当て、その構造、反応、合成の基本を理解することを目的とする。有機化学は生命の基本的な分子や有機化合物の合成をはじめ、医薬品の設計、新素材の創成、環境への影響など幅広い分野に関連している。本講義では、炭素の結合、立体化学、官能基、反応機構など、有機化学の基本について解説する。また、複雑な分子を合成するための有機合成法について、受講者が新しい化合物を創出するための基礎を身に付けることを目指す。	
		流れ学		自然界に存在する物体のうち、気体と液体は力の作用より生ずる変形量が大きいという、固体には見られない著しい特徴がある。このような物体を総称して流体と呼ぶ。空気や水のような身の回りの流体の運動、すなわち「流れ」が多様な自然現象をもたらしている。また、社会を支える様々な機械システムでは、流体がもつ性質をうまく利用してエネルギー変換を行なっている。それらの理解のためには、流体の特徴と流れの性質を十分に把握することが重要となる。この科目では、流れに関わる力学の基本法則を学び、それを流体が関わる機械システムの評価や設計に応用する能力を身につけることを目的とする。	
専門科					

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目		Cross-cultural Student Support		Supporting international students is considered to be an effective approach of preparing for studying abroad and understanding the differences in ways of thinking from country to country. This course aims to provide support to students who have come to study abroad at SIT to help them become aware of the problems and things they should consider while your studying abroad, and to help students learn about the differences between the cultures of their countries and Japan. The purpose is to create an opportunity to deeply consider differences in ideas and ways of thinking. Although it is possible to accompany for official procedures and contracts, it is important that both students are fully aware of the scope of support each pther, as this is intended to help international students become able to live independently. 留学の準備あるいは国々ごとの考え方の違いを知るには、留学生をサポートすることが一つの有効な手段と考えられる。この科目は、本学に留学して来た学生のサポート活動により、留学先で体験するであろう問題点や考えておくべき事柄に対する気付きを得ること、あるいは学生の出身国と日本の文化の差や考え方の違いを深く考える機会を作ること、を目的としている。 なお、手続きや契約等への立ち合いは可能であるが、あくまで留学生が自立して生活できるようになることを支援するため、サポートの範囲をお互いに十分に知っておくことが重要になる。	
	主専攻	理科指導法1		本講義では、中学校及び高等学校学習指導要領の内容を踏まえて、理科の目標、科目編成と履修、科目の内容、および評価の観点などについて概説する。小学校・中学校・高等学校・大学の理科・科学教育を俯瞰し、年間授業計画案の作成、学習指導案の作成、模擬授業、評価方法を実習形式で学ぶ機会を提供する。本講義を通して理科指導の基礎を培い、中学校及び高等学校理科教師としての専門性向上を図る。また理科教育に関する様々な指導法の理解を深める機会も提供する。	
		理科指導法2		本講義では、「理科指導法１」の内容と関連させながら、中学校及び高等学校の学習指導要領に示された内容の背景となる学問領域について理解を深め、具体的な授業場面を想定した授業計画案や学習指導案の作成と、模擬授業の実施と評価方法を実習形式で学ぶ機会を提供する。また関連する様々な学習指導理論の理解を深め、さらに模擬授業の振り返りを通して、教育実習において求められる数学に関する専門的知識と実践的な指導力の向上を図る。	
		理科指導法3		「理科指導法１、２」の内容を踏まえ、中学校及び高等学校の学習指導要領に示された内容の背景となる学問領域について理解を深め実践力を強化する。さらに教育実習で必要な授業力を養成する。具体的な授業場面を想定した授業計画案や学習指導案の作成と、模擬授業の実施と評価方法を実習形式で学ぶ機会を提供する。ICTを活用した教材作成や模擬授業の振り返りを通して、教育実習において求められる理科に関する専門的知識と実践的な指導力の向上を図る。	
		理科指導法4		「理科指導法１、２、３」を通して得た理科教育に関する知識・技能・経験に基づき、生徒の関心・意欲、思考・判断・表現の向上を可能とする実践的な指導力を修得することを目的とする。教育実習においては、専門的知識をふまえ、多様な生徒への対応が求められる。生徒指導の視点を含め、具体的な授業場面を想定した授業計画案や学習指導案の作成と、模擬授業の実施と評価方法を実習形式で学ぶ機会を提供し、教科における総合的な指導力の向上を図る。	
		工業科指導法１		本講義では、高等学校学習指導要領の内容を踏まえて、教科工業の目標、科目編成と履修、科目の内容、および評価の観点などについて概説する。高等学校で用いる様々な機器を用いた教育活動等を俯瞰し、年間授業計画案の作成、学習指導案の作成、模擬授業、評価方法を実習形式で学ぶ機会を提供する。本講義を通して工業科指導の基礎を培い、高等学校工業科教師としての専門性向上を図る。また工業科教育に関する様々な指導法の理解を深める機会も提供する。	
		工業科指導法2		本講義では、「工業科指導法１」の内容と関連させながら、高等学校の学習指導要領に示された内容の背景となる学問領域について理解を深め、具体的な授業場面を想定した授業計画案や学習指導案の作成と、模擬授業の実施と評価方法を実習形式で学ぶ機会を提供する。また関連する様々な学習指導理論の理解を深め、さらに模擬授業の振り返りを通して、教育実習において求められる工業科に関する専門的知識と実践的な指導力の向上を図る。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （システム理工学部　生命科学課程）					
科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	主専攻	職業指導		本講義では、主に工業高等学校の生徒への職業指導だけでなく、小・中・高校生へのキャリア教育をも視野に入れて、職業指導、進路指導、キャリア教育に必要な基礎知識、ものの見方考え方、その指導法を実践的に習得することを目的とする。職業指導の発展経緯や基礎理論などの授業に加えて、キャリア教育で実際に使用されている教材等を体験することを通して、受講生が自ら体験して、考え、学ぶことを重視する。被支援者としての生徒とのコミュニケーションの取り方を実践的に習得する。	
		工学基礎概論		本講義では、工学を支える電気・電子工学、情報工学、機械工学、建築、環境等のそれぞれの分野について、基礎的事項を各分野の専門家が概観し、現代社会における工学の意義や役割、最新技術とその動向についてオムニバス形式で概説する。さらに、工業科教員として求められる工学の諸問題を主体的、合理的に解決する能力の育成と、現代社会における諸課題を高等学校の工業科の視点を持ち、環境に配慮しながら現代社会の発展を目指す態度を育成する。	
		教育におけるICT活用		社会の変化や急速な技術の発展を踏まえ、個別最適な学びと協働的な学びの実現や、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が必要となっている。また、学校教育現場では1人1台の情報機器が児童・生徒に配布され、情報通信技術を活用した学習指導や校務の在り方の理解も求められている。本講義ではこうした教育をめぐる情報技術の変化を踏まえたうえで、情報通信技術を効果的かつ適切に活用する能力を育む教育方法の理論及び方法について学習する。	
		教育の方法及び技術		社会の変化に対応し、適切な学習指導を行うには、新しい教育方法を学び、教育の技術に関する知識や技能を身に付ける必要がある。本講義では、基本的な教育技術である話し方や板書に加え、授業の設計・実施・分析・評価・改善の方法、さらに教員の授業力に関する課題など、教員が学校現場で同僚などと情報交換しながら研鑽を積み、成長していくために必要な内容を取り扱う。そして、これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解することと、教育の目的に適した指導技術を理解し身につけることを目指す。	
		総合科学実験		本講義では、将来の理科教員として指導できるよう、科学的手法における「仮説」を検証する実験活動の重要性を理解し、さらに実験を指導する知識と基礎的な実験操作を習熟し、身に付ける。具体的には、地学・化学・物理学に関係する試料の取り扱いと分析・解析手法の習得を目指す。分析化学・物理化学、各分野に関連した実験を行うことで、様々な知識や実験器具を使って、新しい実験を開発する能力を養っていく。	
	副専攻	教職論		本講義は、これから４年間で学ぶ教職関連科目の基礎に位置づけられており、学生が学校現場での諸問題に対して、教師の動きを中心に、子どもたちの成長を安心、安全に配慮し、教育できることについて理解できるようにする。また、教科指導がどのように進められているのかを、教職を目指す学生が理解できるようにする。また、学校教育と教職の意義や歴史、教員組織と文化など幅広く取り上げ、教師という職業に求められる資質を身に付けるための基盤となる知識の習得を目指す。	
		特別活動の指導法		教師には、学習指導要領の「特別活動の目標」に掲げられた「互いの良さや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決する（望ましい集団活動）」ことを指導する心構えと、実践的な指導力が求められる。本講義では、特別活動の目標及び教育的意義とそれらに基づく教育活動の実際、学級活動（ホームルーム活動）の理解と指導計画、生徒会活動の理解と指導計画、学校行事の理解と指導計画、特別活動を指導する際の留意点について講義するとともに、学生による発表及び相互評価等のグループ活動を行う。	
		総合的な学習の時間の指導法		総合的な学習の時間では、国際化や情報化をはじめとする社会の変化をふまえ、子どもの自ら学び自ら考える力などの生きる力を育むとともに、教科などの枠を越えた横断的・総合的な学習を行う。体験学習や問題解決学習の重視、学校・家庭・地域の連携も重視される。本講義では、学習指導要領の「総合的な学習の時間の目標」に掲げられた「探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成する」ための実践的な指導力の向上を図る。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	副専攻	道徳の理論及び指導法		本講義では、学校の教育活動全体で行われる道徳教育の基礎的知識の獲得と、指導力の育成向上を図ることを目的とする。本授業は、大きく３つに分かれる。まず、はじめに道徳教育の理念と歴史について学び、道徳を教えるとはどういうことか、日本における道徳教育がいかに揺れ動いてきたかを確認する。２つ目に、いくつかの道徳的教材について考察することにより、道徳教育の指導に必要な思考力を鍛える。３つ目として『学習指導要領』の内容を確認し、「特別の教科 道徳」に関する教材研究を行うとともに、実際に指導する場面を想定して学習指導案の作成と模擬授業を実施する。	
		生徒・進路指導論		本講義は中学校、高等学校における学校教育に欠かせない生徒指導と進路指導についての基本的な理念、意義、法規について概説し、生徒指導と進路指導の実践に欠かせない生徒理解について学生と共に考察する。また、家庭、学校、地域社会、学校外部の諸機関との連携の必要性について説明する。進路指導・キャリア教育については、キャリア教育が必要とされる社会的背景を説明し、単なる職業指導・進学指導ではない生徒指導と連動した教育の理念と意義について概説する。	
		教育課程論		本講義では、教育課程、学習指導要領についての基本的な概念と学校教育、社会から見た意味と意義について学んだうえで、教育課程の編成方法を説明する。さらに現代の学校教育におけるカリキュラム・マネジメントの必要性と方法について学び、カリキュラムそのものの評価の方法について概観する。また、学習指導要領を基準として編成される教育課程についての基本事項と各学校において編成される教育課程の意義や編成方法を学習するとともに、各学校や地域の実情に合わせ、教科横断的な考え方で行われるカリキュラム・マネジメントの意義と方法を理解する。	
		教育相談論		本講義では、教育相談に関する基礎的知識を中心に紹介する。まずは、教育相談を行う上で有用であろうと思われる基礎的知見をなるべく網羅的に解説する。具体的には、1.教育相談とは、2.カウンセリングの基礎、3.不登校・いじめ・非行の理解と対応、4.開発的教育相談の大きく４つのテーマを扱う。その上で、単なる知識の習得にとどまることなく、個別およびグループでの演習を取り入れながら、学んだ知識を活用して実際の教育現場で起こりうる問題の理解と対応策を考える機会を提供する。	
		教育心理学		本講義では、教育活動を進める上で有用であろうと思われる心理学の基礎的知見をなるべく網羅的に解説する。具体的には、発達、学習、動機づけと学習意欲、教授法、教育評価、学級集団の大きく６つのテーマを扱う。その上で、単なる知識の習得にとどまることなく、個別およびグループでの演習を取り入れながら、学んだ心理学的知識を自分自身の経験と照らし合わせて考えることができること、および、今後教育活動を行う上でどのように活かしていけばよいのかについて考えることを重視する。	
		特別支援教育論		本講義では、通常の学級に在籍している発達障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする生徒を理解し支援するために必要な知識や方法を解説する。「１．特別支援教育の制度や教育課程」、「２．特別な支援を必要とする生徒の理解」、「３．特別な支援を必要とする生徒への支援」の大きく３つのテーマを扱う。単なる知識の習得にとどまることなく、個別およびグループでのディスカッションや演習、発表、疑似体験などを取り入れながら、学んだ特別支援に関する知識を活用して特別な支援を必要とする生徒の理解と対応策を具体的に考える機会を積極的に提供する。	
		IoT基礎		ICTの浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させることをめざすディジタルトランスフォーメーショ（DX）にはInternet of Things（IoT：モノのインターネット)技術が欠かせない。身の回りの様々なモノに取り付けられたセンサからの情報をインターネットを介して活用することで改善や新しい付加価値を創造できる。本科目ではIoTの歴史、IoTの仕組み、応用事例、IoTを実現技術と課題、市場動向について学修し、IoTに関する基礎知識の取得を目指す。	
		IoT設計論		モノのインターネット（IoT: Internet of Things）システムには、計測・制御・通信・蓄積・分析・予測などの技術が必要である。また、これらを組み合わせて一つのIoTシステムを作り上げるためにはこれらの要素に関する基礎知識だけでなく、どんな目的で何を作るか、どのように作るかを知らなければ効率的かつ有効な開発はできない。本科目ではIoTシステムの設計・企画におけるボトムアップおよびトップダウン的アプローチについて学び、IoTシステムを実現するための設計基礎の取得を目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	副専攻	電気回路		電気電子工学の基礎として直流及び交流に対する線形回路の基本法則を習得するため講義形式の授業を実施する。この授業では直流・交流の線形回路の諸定理、フェーザ、イミッタンス、二端子対パラメータの概念を習得し、さらに共振回路や変成器などの基本的な電気回路の解析を自在に行えるようになることを目的とする。また各回に対応する演習・実験を電気回路演習で実施し、学生自ら線形回路における回路解析の基礎を身につけることを方針とする。	共同
		フロントエンドとインタフェース基礎		モノのインターネット（IoT:1nternet of Things）にはセンサから出力される電気信号（アナログ信号）を記憶・分析できるディジタル信号に変換するまでのハードウェアが必要である。また、ボード間の通信には様々なシリアル通信規格が使われている。本科目ではアナログ信号からディジタル信号得るのに必要なセンサアナログ・フロントエンド（AFE）やアナログ、ディジタル変換、さらにシリアル通信などの基礎知識の取得を目指す。	
		センサとアクチュエータ		モノのインターネット（IoT:Internet of Things）には環境から情報を得るためのセンサが欠かせないである。また、メカトロニクス分野ではセンサとアクチュエータは中心的なデバイスであり、これらの技術がこの分野の重要なコンポネントである。本科目では様々なセンサやアクチュエータの原理を学び、使用事例を知ることでそれらの機能や使用方法、応用などの基礎知識を取得することを目指す。また、センサとアクチュエータに関する調査を行い最新動向を理解する。 （オムニバス方式／全14回） （37　ニコデムス　レディアン／6回） ・センシング技術概要 ・電圧と電流センサ ・温度センサ、加速度センサ、圧力センサ	オムニバス
		ディジタル信号処理		計算機によって信号を処理するための技術であるディジタル信号処理は、IoTに限らず、情報通信、計測制御、メディカルエレクトロニクスなど多くの分野でなくてはならない基本技術となっている。本科目では離散時間システムの概念およびz変換、伝達関数と離散時間回路、標本化定理、離散フーリエ変換、FIR・IIRディジタルフィルタについて講義形式で学ぶ。本講義は、信号処理の数理よりも信号処理システムの構成に重点をおいて、ディジタル信号処理の基礎を講義する。	
		数値解析		コンピュータの発展によって、複雑な現象をモデル化し、シミュレーションを行うことで予測・推定および評価が可能となった。シミュレーションによる予測・評価は生産や開発現場での低コスト化や危険作業を減らすことにつながるため、技術者として非常に重要なスキルである。本本科目では、行列演算およびデータ補完、数値積分、非線形方程式と微分方程式の近似解についてシミュレーションに必要な数値解析を講義形式で学ぶ。C言語またはPython言語を用いた演習を通じて、これらの数値解析を実装するためのプログラミング技術を習得する。	
		電子回路		ディジタル時代といわれる現在、アナログ技術の重要性は減るどころが増加の一途をたどっている。アナログ技術の中核をなすのが、アナログ電子回路である。本講義は、トランジスタを２個程度使った電子回路の解析と設計をマスターすることを到達目標とする。特に、能動素子の等価回路の理解、電子回路の直流設計と交流設計重点を置く。電子回路の習得には、学生自らの手で回路の計算をすることが必須であるので、時間を割ける限り能動的な演習を実施する。	共同
		プログラミング入門		Minecraftを用いて、プログラミングの基礎となる論理的な思考と変数、条件、繰り返しの概念を学ぶ。ブロック構造のGUIを用いて、プログラミングの基本概念を実践していくとともに、C、C++、Java、Pythonなどのプログラミング言語を学習する際の基礎を築く。7回から構成されるこの授業では、Minecraftのプログラミング環境構築、変数、条件、繰り返し、およびこれらを総合的に用いた構造物の自動生成を取り扱う。	共同
		Python入門		本講義では、プログラミング的思考を身に付けることを目的とし、プログラミング言語のひとつであるPythonの基本を学ぶ。Pythonそのものの概要と歴史、変数とデータの型、条件文、繰り返しの制御、関数の定義と読み込み、ファイルの読み込みと書き込み等を取り扱う。そのほか、総合的な課題に取り組むことで、講義で身につけた基本的なPythonの知識を活用できる素質を養う。	共同

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		Cプログラミング（情報）		昨今のソフトウェア開発では、様々なプログラミング言語が用いられ、現代のエンジニアはそれらに対する体系的な理解が求められる。本講義では、プログラミングを理解する一歩目として、代表的な手続き型のプログラミング言語のひとつであるC言語を学び、プログラムの基礎的な構造や構文の理解を目指す。また、それらを実践することで、学習した知識を応用しながら要求された要件を理解し、それらをプログラムに落とし込む能力の獲得を行う。 （オムニバス方式／全14回） （68　保坂　亮介／7回） ・C言語の概要、変数、繰り返し、条件分岐、配列、関数（値呼出し）を担当する （72　山崎　託／7回） ・文字配列、ポインタ、関数（参照呼出し）、メモリの動的確保、構造体を担当する	オムニバス
		データ構造とアルゴリズム		ソフトウェアを開発する際，性能上の要求を満たす効率的なアルゴリズムとデータ構造の設計・解析が不可欠になる。本講義では、基本的なデータ構造（リスト、スタック、キューなど）、 アルゴリズムと計算量、 再帰的アルゴリズム、 グラフの定義と木構造、線形探索と2分探索、2分探索木、ハッシュ法、整列、深さ優先探索と幅優先探索などについて学ぶ。本科目の目標は、 基本的なアルゴリズムとデータ構造を理解した上で、 それらをプログラミング言語で実装できるだけでなく、 計算量を考慮して適切に応用できる力を身につけることである。プログラミングにあたっては、Linuxの利用が推奨される。	
専門科目	副専攻	オブジェクト指向言語		本講義ではオブジェクト指向プログラミング言語であるJavaを用いて、オブジェクト指向プログラミングの基本概念のみならず現在の言語が持つ機能を習得することを目的とする。オブジェクト指向以外にも関数型プログラミングの要素を取り入れ、多様なプログラミングスタイルに対応できるようにする。講義と演習を組み合わせて知識のみではなく実践できるスキルを身につける。この講義と演習を通して、学生は現代的なソフトウェア開発スキルを身につけ、実世界の問題解決に応用できる力を養う。	
		モバイルプログラミング		モバイル端末の技術革新はすさまじく、スマートフォンは私たちの生活になくてはならない存在となっている。スマートフォンには数多くのアプリケーションが実装され、それらを使ってさまざまな情報にアクセスしたり楽しんだりしている。本講義では、スマートフォンにおけるアプリケーション開発に関する技術について学修を行う。モバイルアプリケーション開発に必要となる開発環境の導入から始め、ユーザインタフェースのデザインやコールバック関数の導入方法について解説する。また、サーバとの通信やクラウドサービス利用時のアプリケーションの実装方法についても学習する。演習課題を通じて、モバイルプログラミングスキルを身につける。	
		ネットワークプログラミング		ICTの発達に伴い、コンピュータやスマートフォンはほぼすべてネットワークに接続された状態で使用されるようになった。ソフトウェア開発においても、ネットワークで接続されていることを前提として他端末と通信しながら動作するネットワークアプリケーション開発が必要となる。本講義では、インターネットで使用されるTCP/IPプロトコルについて概説した後、ネットワークアプリケーションを実現するためのプログラミング技術について学修する。具体的には、C言語やPythonを用いてソケット通信技術やマルチスレッドによる非同期並列処理などを行うプログラミング技術の理解と修得を目指す。	
		Computer Simulation		In modern society, which is composed of various elements organically intertwined, there are numerous problems that are difficult to experimentally evaluate due to their high degree of complexity and freedom. Therefore, techniques for modeling the problems to be evaluated and deriving solutions and observing behaviors through computer simulation are employed as a means to replace experimentation. In this course, students will acquire the knowledge and skills necessary for modeling problems and conducting computer simulations. Additionally, through exercises, students will also acquire insights into implementation using programming languages. 様々な要素が有機的に結合することで構成されている現代社会においては、その高い自由度によって実験的評価が困難である問題が多数存在する。そこで、評価対象となる問題をモデル化し、コンピュー	
		ソフトウェア設計論		本講義では、ソフトウェア設計の基本から応用までを学ぶ。デザインシンキングの手法を通した課題獲得や解決の方法について学ぶ。また、オブジェクト指向分析設計方法論に基づいたソフトウェアシステムの要求分析、設計、実装の方法を習得する。さらに、設計品質の向上、効果的なデザインパターンの利用、ソフトウェアアーキテクチャの構築についても学ぶ。ソフトウェアプロダクトラインの概念を通じてコードの再利用に焦点を当て、最終的にはモデル駆動開発についても探求する。この講義では、実践的かつ理論的な知識を統合し、効率的なソフトウェア設計技術を学ぶことができる。	
		ソフトウェア開発管理		本講義ではソフトウェア開発管理について学ぶ。ソフトウェア開発のプロセスモデルやライフサイクルモデル、そしてアジャイル開発手法について学ぶ。また、ソフトウェア品質の確保と向上に必要なテスト技法、テストプロセスを学ぶ。さらにソフトウェア開発を管理する上で重要な開発状況を計測、把握する手法にも焦点を当てる。本講義を受講することで学生はソフトウェア開発の管理と品質保証に関する幅広い知識と実践的なスキルを習得できる。 （オムニバス方式／全14回） （39　久住　憲嗣／8回） ・ソフトウェア開発のプロセスモデルやライフサイクルモデル、およびアジャイル開発手法 ・ソフトウェア品質の確保と向上に必要なテスト技法、テストプロセス （29　鈴木　徹也／6回）	オムニバス

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	副専攻	現代的ソフトウェア構築技法		本講義では現代のソフトウェア開発における実践的な技術と手法を学ぶ。具体的には単体テスト、自動テスト、リファクタリング、デザインパターンの応用などの実践的なテクニックを学ぶ。また、継続的ソフトウェア工学の基本概念とともに、継続的インテグレーションや継続的デリバリーを学び機動性の高いソフトウェア開発手法を身につける。さらに、コンテナ技術やマイクロサービスアーキテクチャを学ぶ。本講義を通して学生は最新のソフトウェア構築手法を身に付け、現代のソフトウェア開発現場に対応できるスキルを身につける。	
		ゲームプログラミング		本講義ではゲームプログラミングの基本から実装に至るまでの知識を提供する。コンピュータゲーム開発におけるシーンモデリング、物理エンジン、アニメーション、キャラクターリギング、ゲームAI、ゲームUI、オーディオエフェクト、ネットワーキングなどの概念を紹介する。また、アイデアをゲームにとして実現するために必要なプロセスを紹介する。学生はゲームエンジンを使用したさまざまなゲームプログラミング演習を実施することにより、そのスキルを獲得することができる。	
		データベース		データベースとは共同利用を想定し、組織的に集められた情報の集まりのことであり、その構築・運用には通常のソフトウェア・システムとは異なった特質が要求される。本講義では、現在最も広く使われているリレーショナルデータベースを中心に、データベースの基本的概念について学び、身近に活躍しているデータベース（システム）の実現裏を考察する。また現状技術の問題点や、その解決策として注目される最新の技術動向にも触れ、データベースを取り巻く情報システム界の未来を描く。	
		情報セキュリティ		現在、ICTに絡む全ての機器がセキュリティの脅威があり、セキュリティの確保が急務な課題となっている。年々、攻撃が巧妙化、進化しており、多くのセキュリティ技術者が求められている。本講義では、セキュリティの基本知識、技術から、攻撃の種類と手口を明らかにし、これらの攻撃を検知し、解析し、どのように対策するかについて解説する。また、現在開発が進んでいるセキュリティを確保する技術及び特にネットワークに関するセキュリティ技術についても学ぶ。	
		インターネットプロトコル		近年、インターネットは私たちの生活に欠かせない情報通信インフラとなっている。本科目では、インターネットで使用される基礎的な通信技術として、OSI 7階層モデルやインターネットプロトコルスイートに基づいてリンク層、ネットワーク層、トランスポート層、アプリケーション層について学修する。リンク層ではEthernetとWi-Fiで使用されるIEEE802.11、ネットワーク層ではIP、トランスポート層ではTCPとUDPを取り上げ、これらのプロトコルの役割や仕組み、機能などについて学修する。アプリケーション層としては、TELNET、SMTP、HTTP、DNS、DHCPなどついて学修する。本科目の履修を通じて、インターネットにおいてホスト間で情報のやり取りを行うメカニズムに関する知識を習得する。	
専門科目	副専攻	情報理論		本講義では、情報通信における情報の蓄積・伝達の効率化・高信頼化についての基礎理論を理解する。シャノン流の情報理論について、その情報源・通信路の数学的モデル化と具体的符号化について解説する。また、講義の実際的理解を助けるために演習・実習を行う。具体的な学習目標を以下のとおりとする。１．シャノンの情報伝達の基本モデル、情報量・エントロピー、情報源符号化定理、通信路容量、通信路符号化定理、誤り検出・訂正の諸概念について基礎的知識を習得する。２．演習と実習によって、情報量・エントロピー、通信路容量の計算等ができ、ハフマン符号化・ユニバーサル符号化等の情報源符号化について実データ処理により実践的な解決能力を身につける。３．情報通信システムにおいて、情報理論の知識を利用した設計・評価ができる。	メディア
		符号理論		情報・通信・システムにおいて情報は符号によって表現されるが、符号化としては、データの効率化を図る情報源符号化と蓄積・送信における高信頼化のための通信路符号化があり、さらに、情報の秘匿性のために暗号化がある。本授業では、前半（７回）暗号理論を、後半（７回）符号理論（誤り訂正符号）の学習をする。 暗号部では、簡単な暗号の仕組みから、ONE-TIME-PAD、DES、Diffie-Hellmanの鍵交換、RSA暗号などの現代暗号までを解説する。また、講義で学んだ暗号をプログラム実装する体験をする。 符号部では、通信路符号化の基礎理論を理解する。具体的にはブロック符号と畳み込み符号を中心とした誤り訂正符号化技術について解説する。講義の実際的理解を助けるために演習を実施する。	
専門	副専	ネットワークアプリケーション		インターネットは、様々なネットワークを相互接続することで実現されているネットワークであり、各インターネット上の端末はプロトコルと呼ばれる通信規約に基づいて通信制御を行うことで、自立分散的に管理されている。特に昨今では、このようなインターネットを介して様々なアプリケーションが利用されている。本講義では、ネットワークを用いたアプリケーションを実現するための通信構造や仕組みをネットワークとアプリケーション両者の観点から学ぶ。特に、ネットワークの観点では、現代のネットワークやそれらを支える機器の構成や構造に起因する技術的な課題や解決策について学び、アプリケーションの観点では、現代のアプリケーションで用いられる技術、その技術的背景、設計について学ぶことによる体系的な理解を目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	副専攻	ICT Systems Design		The aim of this course is to acquire the practical knowledge and skills for designing and developing modern information and communication technology (ICT) systems, applications, and services with the Agile development methodology. This course mainly focuses on making a proposal for developing a new networked systems, applications, and services in ICT fields through group work. 本講義では、ICT（Information and Communication Technology）を用いたシステム・サービス・アプリケーションの設計と開発をアジャイル開発手法を用いて行い、それらの体系的な知識と技術を得ることを目指す。また、ネットワークを用いた新しいシステム・サービス・アプリケーションの提案をグループワークを通じて行い、最終的なその成果物の実装を行う。	
		クラウドコンピューティング		昨今のICTシステムを支える重要な技術として、ネットワークを通じて計算資源、通信資源、ソフトウェア資源を提供するクラウドコンピューティングが用いられている。本講義では、それらのクラウドコンピューティングを支える仮想化技術、データベース技術、オーケストレーション技術などの要素技術群の学習を行い、クラウドコンピューティングの体系的な理解を目指す。また、現代で用いられているクラウドサービスを学び、その実際の活用事例や応用事例を学ぶ。	
		メディア処理基礎		画像や音声・音響などのメディア情報は人間にとり重要な情報源であり、それらを扱う技術は様々な分野の発展に重要な技術である。この講義では、これらメディア情報を扱う基本的な知識（基礎的な手法、基礎的な語句の意味）を身に着けることを目的とする。画像については、ディジタル化、色、濃淡変換とフィルタリング処理、画像解析、入出力装置、画像ファイル形式などについて講義する。音声・音響については、以下の基本事項を取り扱う。音とは何か、音の物理的性質、音を聞くしくみ、音の収録と再生、音声の発話と認識、音を使ったサービスなど。 （オムニバス方式／全14回） （32　高橋　正信／７回） ・主に画像について学修する （31　高嶋　和毅／7回）	オムニバス
		メディア処理1		画像や音声などのメディアに関して学んできた基礎的な処理や知識をベースとして、より高度な処理や手法について学ぶ。また、これらを総合的に用いる演習を通じて実践的な知識を身に着けるとともに、プログラミングの技術も身に着ける。具体的なテーマとしては、画像に関しては画像認識、セグメンテーション、画像変換、画像生成，画像計測などを扱い、音声・音響については、音声認識・合成、話者認識、符号化、オーディオ・音響処理について扱う。とくに、具体的な要求条件に応じたシステム設計といった観点からの学びにも期待する。	
		メディア処理2		メディア処理1の講義と演習で身に着けた内容をベースとして、画像や音声・音響などのメディア情報を用いたより高度で複雑な課題を解決する処理や手法について学ぶ。また、講義内容に関する演習を通して実践的な知識を身に着け、プログラミングの技術も身に着ける。また、メディア処理技術を利用した様々なサービスの普及が進んでいるため、演習では複数のメディア情報を組み合わせたより複雑な課題についても扱う。また、AI・機械学習の利用にも触れる。	
		音声音響情報処理		音声・音響信号は、確定的ではな、確率的、定常・非定常といった多様な時系列であり、それらを用いる情報処理には、確率的・統計的処理が必要となる。この講義では、音声・音響処理に関わる技術分野を学ぶ上で基本となる知識を身につけることを目的として、音声分析技術（相関関数，線形予測、スペクトル分析）、雑音・音響処理技術（雑音推定・抑圧、収音・伝送・再生）、パターン処理（機械学習による音声・音響情報の特徴抽出・分類・識別）について、最低限知っておくべき内容を講義する。また、理解のために、簡単な情報処理演習を行う。	
		自然言語処理		自然言語は，人や機械とのコミュニケーション，インタフェースの重要メディアである．自然言語処理とは，人間の使っている言語を計算機で処理することを指す．本授業では以下の内容について講義とその理解のために演習を行う．まず，自然言語処理技術と応用の概要を示す．次に，基礎的な解析技術である形態素解析・構文解析析・意味解析について理解し，実際の文において各種アルゴリズムのトレース演習を行う．続いて，機械学習に基づく技術として，単語ベクトル表現，系列に対するニューラルネットワーク，言語モデルと系列変換の理解と実際の言語データ処理演習を行う．最後に，応用のトピックスとして，情報検索・抽出・要約，質問・応答，対話，機械翻訳のいくつかについてシステム例をとりあげ，システム構成・設計思想について学ぶ.	
		画像情報処理		画像は人間にとり重要な情報源であり、認識、検査、計測、圧縮など様々な分野で扱われている。この講義では、これら画像に関連する技術分野を学ぶ上で基本となる知識を身につけることを目的とし、画像の濃淡変換、空間領域および周波数領域でのフィルタリング、画像の復元、領域処理，符号化などに関し、画像に関わる技術者が最低限知っておくべき内容を講義する。画像処理ソフトの使い方を学ぶのではなく、作り方の基礎を学ぶ。これにより、任意の画像処理ソフトの使い方も理解できるようになる。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （システム理工学部　生命科学課程）					
科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		コンピュータグラフィックス		コンピュータグラフィックスはコンピュータを用いて画像や動画を生成する技術であり、VR、AR、ヒューマンコンピュータインタラクション、エンタテインメントコンピューティング、メディアデザインやメディア表現などで利用される重要な技術である。本講義では、撮影対象をコンピュータ内でモデル化して表現するモデリング、仮想的なカメラで撮影するレンダリングについて基本的な手法を学ぶ。また、動画として表現するアニメーションについても学ぶとともに、実際に画像を作成する演習により理解を深め、実践的な技術・知識を身につける。	
専門科目	副専攻	VR/AR1		社会に急速に浸透し様々な応用がなされているバーチャルリアリティと拡張現実（VR/AR）は数多くの知見や技術から成り立っている。本講義では、VRとARの基礎理論から最新応用技術までの知識を体系的に学び獲得することを目的とする。本講義VR/AR 1では、VRやAR体験を実現するために必要な人の感覚器官の特性、VR/AR用に開発されるインタフェース（入力出力デバイス）技術、バーチャル世界のコンテンツ構成方法などについて学ぶ。座学だけではなく、演習も適宜導入して、VRの簡単なコンテンツを作成したり人の感覚特性を調査する実験系を組み立てたりするなど、VRとARを様々な観点で体験しながら学ぶ。	
		VR/AR2		社会に急速に浸透し様々な応用がなされているバーチャルリアリティと拡張現実（VR/AR）は数多くの知見や技術から成り立っている。本講義では、VR/AR1の発展形を学ぶ場であり、VRとARの代表的アプリケーションであるメタバース、テレオペレーション、シミュレーションなどに焦点をあてて，VRとARの応用効果について学ぶ。演習を適宜取り入れることで、遠隔コミュニケーション、簡単なインタフェースやゲーム開発を体験し、現状のVRとARの可能性と課題の両方を学び、 今後の発展形を考察する。	
		ヒューマンコンピュータインタラクション		ヒューマンコンピュータインタラクションとは，人とコンピュータの相互のやり取り（インタラクション）を包括的に整理し、よりよい入出力デバイスやインタフェースの開発に向けた幅広い研究分野である．本講義では、人の身体・認知処理能力、様々な入出力デバイスの設計、可視化技術、世に溢れるインタフェースデザイン例、ユザビリティ評価手法、これまでの計算機とインタフェースの歴史と変遷、および最新の研究事例などを体系的に学び、将来のコンピュータの形態と人との関係について考察する。	
		サイバーセキュリティ		In addition to technical aspects such as protection of computers and networks, cyber security has a social aspect to ensure the free flow and reliability of information through laws and institutions. This course aims to provide students with an understanding of cyber security principles and technologies, and to enable them to define security requirements for software and networks based on models and to analyze threats. The course also aims to enable students to analyze the relationship between technology and society by learning about examples of social implementation of technology, such as laws, regulations, and institutions related to cyber security. サイバーセキュリティは、コンピュータやネットワークの保護等の技術的な側面に加え、法律や制度等によって情報の自由な流通や信頼性を確保する社会的側面を持っている．本講義では，サイバーセキュ	
		エンタテインメントコンピューティング		エンタテインメントコンピューティングとは，コンピュータ技術を用いて人を楽しませるメディアや技術を創造・開発する研究分野である。本講義では、人がコンテンツを楽しむ際の理論を学んだ後、エンタテイメントコンピューティングを構成する要素技術である、映像制作、音楽制作、バーチャルリアリティ、メディアアート、人工知能などに加えて、ゲーム開発やeスポーツ等にも触れながら、人を楽しませる体験の設計論と技術について幅広く学ぶ。また、実習や調査を通して、楽しむという主観的で曖昧な人の反応を理解し、エンタテイメントコンピューティングの主要素を考察する。	
		メディアデザイン1		デジタルメディア、広告、ウェブ、コミュニケーションツール等あらゆるメディア形態において、人に分かりやすく情報を伝達する視聴覚情報等のデザインは極めて重要である。本メディアデザインⅠの講義では、座学と演習を通じて、主に、ビジュアル・グラフィックデザイン、映像生成、アニメーション生成など、視覚メディアデザインに関する基礎的な知識を理解することを目的とする。理論や事例からの学びだけではなく、実践的な演習を取り入れ、メディアデザインに関するアイディアの企画から、プロトタイピングとユーザエクスペリエンス評価までを経験し、メディアデザインのプロセス全体を把握する。	
		メディアデザイン2		デジタルメディア、広告、ウェブ、コミュニケーションツール等あらゆるメディア形態において、人に分かりやすく情報を伝達するメディアデザインは極めて重要である。本メディアデザインⅡの講義では、メディアデザインⅠをより発展させ、視聴覚メディアデザインに加えて、物理的なモノを利用した触覚メディアや、実世界ガジェット等のIoTデバイス等を含めたより広範囲のメディアデザインについて学ぶ、バーチャルリアリティや三次元物体のモデリングについて学びつつ、演習課題では、モデリングした物体を３Dプリンタで印刷して機能化させるファブリケーション技術や、インタラクティブガジェット技術の基礎を開発し、実践的な知識を身につける。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	副専攻	メディア表現基礎		メディアとは、計算機と人がお互いに情報を伝達しあうためのツールや媒体である。本講義では、そのメディアを設計するにあたっての表現に焦点をあて、主に人の感覚と結び付けて様々な表現技法について学ぶ。視覚表現として、文字、色彩、アニメーション等のデザインの基礎について学ぶ。それに加えて、聴覚・音声メディアや触覚メディアにおける表現技法やその表現能力ついても学び、メディアを通した情報や感情の伝達技術について基本的な知識を身につける。	
		メディア表現応用		メディアとは、計算機と人がお互いに情報を伝達しあうためのツールや媒体であり、現代社会においては、あらゆるメディアが我々の生活や情報共有を支えている。本講義では、メディアの表現技術がどのように現実に実践応用されているかを代表的な事例について詳細に学び、メディア表現の応用面での専門的な知識を身に着ける。事例は、ゲーム、メディアアート、ＡＩ・エージェント、ファッション、建築・景観デザイン、伝統芸能、ライブ演出、データサイエンスなど多岐に渡り、これらを俯瞰することで、メディアデザインにおける表現能力の向上を図る。	
		メディアコンテンツビジネス		本講義は、メディア業界におけるビジネス戦略と企画に関する理解を深め、将来のメディアコンテンツビジネス考案に向けての基礎スキルを養うこと目的としている。メディアコンテンツの誕生、育成、そして消費に至るプロセスを含む一般的な知識を学ぶとともに、実際の事例やデータに基づいてメディアコンテンツの市場動向、歴史、変遷などを分析し、需要を考察する。また、演習として、グループでメディアコンテンツビジネスを考案し、アイディア、収益モデル、マーケティング戦略等を考察し、プレゼンテーションをすることで、コンテンツビジネスについての経験値と実践能力の向上を図る。	
専門科目	副専攻	社会システム入門		本講義では、社会システムの概念から様々な領域における社会をシステムとして捉える応用事例をオムニバス形式で紹介することで、社会システムの基礎を身につけることを目的とする。これまでの様々な分野で整理・理解されてきた社会システムについて、多くの事例を学び、データサイエンス、シミュレーション、ゲーミングに通じる体系的なシステムの知識を得る。 （オムニバス方式／全７回） （22　小山　友介／4回） ・社会システムの基礎。社会をシステムとして捉える。 ・社会システムと経済学 ・社会システムとは。自分たちが考える社会システムと社会課題。 （58　後藤　裕介／1回）	オムニバス
		システム科学		システム科学について教科書を輪行形式で学修する。大学院の科目と同時開講とし、大学院生と学部4年生の混成グループで、システム科学に関する与えられた領域の知見を深め、合わせて他者に説明する。取り扱う内容は、自然的世界と人工的世界の理解、経済的合理性、心理学、記憶と学習、デザインと人工物、社会計画、複雑性で、講義を通して自然物と人工物の統合に関してシステム科学的に理解することを目標とする。合わせて、人と組織を理解する方法についても触れることで、社会をシステムとして捉え、そこに存在する科学について議論を行う。	共同
		社会システム実践演習		現代社会には、解が一つに定まらないものや、解のない複雑な問題が多い。様々な社会システムの設計と分析のためには、与えられた課題を解くことだけではなく、自ら主体的に課題を設定（発見）したり、プロジェクトを構想する能力が求められる。本演習では、個人あるいは少人数のグループで、自ら主体的に設定した社会システムに関するプロジェクト課題に取り組み、データサイエンスやシミュレーションを活用して、所定の期間内に一定の成果を創出することができるようになることを目指す。問題発見と問題解決の全体プロセスを、必要に応じてメンター役の大学院生から助言を受けながら、主体的に実践し、適切に成果発表を行う能力を育む。	共同
		データサイエンス応用		本講義では、プログラミング言語ではなく、データサイエンスに活用できるソフトウェアを用いて、データサイエンスに必要な知識と技術を習得する。扱う内容は、地理情報システム、スクレイピング、自然言語処理および機械学習や深層学習の基本などで、様々なソフトウェアを活用してデータ分析および複数のデータの関係性を明らかにする。オープンデータもしくはインターネット上から取得可能なデータを用いて、定量的な提案・企画を行う。	共同
		数理シミュレーション		数理シミュレーションは経営・経済をはじめ多領域でシステムの設計と分析のために利用されている。本講義・演習では、数理シミュレーションの代表的手法である離散事象シミュレーションとシステムダイナミクスを対象として、モデル化の考え方と手法の特徴を理解し、実際にシミュレーションソフトウェアを利用して自分でシミュレーションができるように演習を通じて学習する。離散事象シミュレーションでは、離散事象システムの概念と関連する離散数学・確率論の知識を説明し、モデル化手法として事象指向モデル・プロセス指向モデル・オブジェクト指向モデルについて学び、活用事例から諸分野への応用可能性を学ぶ。システムダイナミクスでは、システムダイナミクスの基本概念であるシステム思考・因果ループ・ストック/フロー概念と微分方程式の知識を説明し、モデリングとシミュレーションの方法について学び、活用事例から諸分野への応用可能性を学ぶ。	共同

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	副専攻	シミュレーション＆ゲーミング		この講義では、社会の複雑な事象を理解するために、言語やデータだけでなく、経験や体験に基づく理解を促すシミュレーション＆ゲーミングの知識を身につける。具体的には以下の内容で構成する。 1. 経験型学習の導入：学生は、社会課題に関連した経験型学習用ゲームを体験します。これは、実際の状況を模倣することで、理論だけでは得られない深い理解を促す。 2. ゲームの種類の理解：カードゲーム、ボードゲーム、コンピュータゲームなど、異なる種類のゲームを体験します。各ゲームがどのようにプレイヤーの意思決定、戦略、問題解決能力を養うかを学ぶ。 3. ゲーム設計の原理：ゲームの基本的な要素（ルール、目的、対象、対話、フィードバックなど）を学び、これらがどのように組み合わさってプレイヤーの体験を形成するかを理解する。 4. ゲームの構築：自らのアイディアをもとに新しいゲームを設計し、実際に構築します。このプロセスでは、創造性、論理的思考、チームワークが重要となる。 5. 実演と評価：構築したゲームを実際にプレイし、その効果や学習結果を評価します。他の学生や教員	共同
		消費者行動論		日本は長期的にデフレが続き、他の先進国に比べ給料も上がらず、新たなイノベーションが創出されづらくなっていてる一方、世界においてはGAFAに代表されるように超グローバルカンパニーがイノベーションを創出し、多様な企業を飲み込みつつある。このように、イノベーションの根源にあるのは消費者インサイトであり、複雑な現代社会においては大変見え難くなっている。 本講義では、様々な調査手法を学び、マーケティングにおいて最も重要かつ現代では見えづらくなっている「消費者インサイト」を発見できるようにする。技術発想は、日本の大きな武器ではあり、理工系学生こそ、「消費者インサイト」を学び、日々、これに敏感に生活する力をつけることが目的である。	共同
		社会調査法		社会が望むことについて「こうではないか」と思ったとき、説明の根拠としてのデータが必要になる。データも、好き勝手に集めればいいというわけではなく（例えば、「〇〇に反対」というデータだけ集めることも出来るが、それは署名と同じ）、しかるべき手順を踏んで（＝科学的に）集めなければならない。社会調査法とは、データを集める方法と、その分析の方法を指す。本講義ではアンケート調査の目的・方法、調査の読み解き方、及び、インターネットを使った調査法を中心に学ぶ。また、実際にグループワークとして、オンラインプラットフォームを使った質問票を作成し、回答しあい、その結果を実際に入力・集計することで分析の基礎も学ぶ。	共同
		ビジネスエコノミクス		ビジネスエコノミクスとは、ミクロ経済学やゲーム理論などの経済学の理論ツールを使いこなして、ビジネスの世界の現象を解き明かすことを目的とした学問です。とかく抽象的でわかりにくい印象を持たれやすいミクロ経済学やゲーム理論ですが、その抽象度の高さ・シンプルさが様々な現象に理論を適用できる理由でもあり、使いこなせると社会を理解する際の画面解像度が大きく上がります。本講義では、様々な事例を経済学の理論で解き明かしていく中で、ミクロ経済学の基本とともに、「経済学的な思考法」を身に着けてもらうことを目的にします。この講義を通して、ニュースなどで話題になる様々な社会・経済現象を経済学の観点から理解できるようになることが目標となります。	
		金融・経済リテラシー		本講義では、みなさんの生活に欠かせない「お金」について、適切に理解して活用するための知識を学びます。ただし、「お金」について学ぶといっても、社会制度やマクロ経済学の知識などが必要です。例えば、将来に向けて貯金をする場合、将来の日本の（場合によっては世界の）経済がどうなっていくのか、税や年金はどうなるのか、を知っておかないと目標額が決められません。貯金といっても、単に銀行に預金するだけでなく、株や債券など、様々な方法があります。それらを組み合わせる（ポートフォリオを組む）にも知識が必要です。一念発起して起業するなら、投資家から資金を募る必要があり、そのためには事業計画を立てる必要があるはずです。この講義で金融や経済についての基本的な知識を学びことで、将来何かする際の助けとなることでしょう。	
専門科目	副専攻	マーケティング論		モノやサービスを作って売るということはどのようなことか、私たちの生活にどのように関わっているかについて学ぶ。消費者の立場から見る市場（マーケット）と、作り手、売り手の立場から見る市場（マーケット）ではどのような違いがあるか、私たちが日々何気なく選択して購入するという行為に何が影響しているかを考えるベースを作ることをこの授業の目標とする。効果的な理解のため、この授業では適宜事例を取り扱う。取り上げる事例の分野・企業は学生が親しみやすい市場およびあまり親しみのないB2B分野からも取り上げ、一般消費者が関わるもの以外にも市場が存在することを意識できるようにする。各回の最後に小テストやミニレポートを出題するので期限までに提出することで出席扱いとする。小テストやミニレポートには質問および感想を記入する欄を設ける。必要に応じて次回の講義で共有する。評価は各回の課題と期末テストで行うことを予定している。教室での講義および期末テストが困難になった場合は期末テストの代わりにレポート課題で評価を行う。	
		クリエイティブ産業論		クリエイティブ産業とは、制作者の創造性によって生み出された生産物に関わる産業のことを指し、マンガ・ゲーム・アニメなどといったコンテンツ産業を含む概念である。いわゆる“Cool Japan“現象にもあるように、様々な分野で日本の国際競争力が落ちていく中で、クリエイティブ産業は高い国際競争力を維持している分野の一つでもある。また、情報通信技術の発展を受け、クリエイティブ産業は大きく変貌を遂げている。本講義ではクリエイティブ産業の概要と、それを理解するために必要な各種概念・理論について講義する。　また、個別分野では外部から講師を招いて講義をしていただく予定である。	
		機械・電気システムセミナー		課程の各研究室が行っている研究テーマ、その内容及び研究を行う上で必要とする知識を説明し、総合研究の取り組み方について学ぶ。 （オムニバス方式／全14回） （４　飯塚　浩二郎／３回）システムセミナーの進め方、評価方法等の説明、将来のキャリアを考え、システムセミナーの振り返りを行う、月や火星表面のような軟弱地盤上を走行可能とするモビリティ技術の紹介 （52　渡邉　大／1回）構造シミュレーションを用いた頭部外傷の発生メカニズムについて紹介 （73　桑原　央明／1回）「実世界情報メカトロニクス」について概説、先端研究事例を紹介 （35　田中　みなみ／1回）製品設計での人-モノ-環境系の相互関係、デザインへの展開について概説 （17　川上　幸男／1回）油空圧技術に代表される流体パワーシステムの駆動システムについて紹介	オムニバス

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		電気機器システム		自動車や電車といったインフラに関連する装置、家電製品、パソコンなどの情報機器、さらにロボットやメカトロデバイスなど多くの装置では、電気エネルギを力学的エネルギなど別の形態に変換して使用している。一方、電気エネルギは自然から直接得られるものではなく、石油などの化石燃料から熱エネルギを発生させ、さらに力学エネルギ、電気エネルギと変換して得られるものである。これらの力学・電気エネルギ間の変換を担う機器が電動機（モータ）と発電機である。本科目は講義形式で行い、モータと発電機の基本原理に基づいた特徴を学修することを目的とする。また、モータに関しては、種類と制御方法の違いについて学び、用途によって最適な電気機器を選択できるメカトロシステム設計の基礎力を習得する。	
		材料・加工学		あらゆる工業製品は、材料を加工して創り出される部品を組み合わせることで成り立っている。工業製品の設計・製造プロセスにおいて、広範な材料加工技術について理解を深めておくことが、低コストかつ高能率に、機能性に優れた工業製品を生み出す上では、特に重要となる。本講義では、様々な材料加工プロセスについて基礎から応用まで幅広く学ぶことを目的とする。具体的には、各種加工プロセスの加工原理や特徴、材料や加工形状に合わせた加工プロセスの選択方法、レーザ加工や付加製造（3Dプリンティング）などの先端加工技術について講義する。また、加工品サンプルや動画などを活用し、視覚的な理解も促す。	
専門科目	副専攻	Introduction to Industrial Design		Based on design perspective and design thinking, the purpose of this coursels to learn about1ndustrial design procedures and basic methods with small practice. This class provides an overview of1ndustrial design. To understand1ndustrial design critically, student should have the view point of design history, material culture and user centered design. While design history tell the dynamic changes from person to person production to mass production, and material culture tell the multi functionality,1t will help future engineers when they confronted to the uncertain society. Based on this criteria,1ntroducing the structured method to analyze1ndustrial design process. この講義では、工業デザインの概説を通してデザインの視点とデザイン思考に基づいた工業デザインの基本的な手法を学ぶことを目的とする。工業デザインをクリティカルな視点で理解するには、分析的な	
		機械計測工学		計測に必要な単位や誤差の扱い方から、各種物理量の計測原理と手法、及び計測システムについて学修することが目的である。ロボットや生産設備、モビリティの制御を研究分野に考えている学生には、基本単位系と各種計測システムの原理と実際は重要事項である。なお、講義は日本語で行うが、国際化へ対応するために配布資料は英語を基本とする。	
		自動車工学		自動車の構成部品点数は数万点にも及び、関連する分野もエンジンの熱力学、機械力学から、各種制御用ＥＣＵの計算機と幅広く、最近ではぶつからない車に使われる画像処理技術やレーダーまでが構成要素の対象となっている。本講では最新の自動車の全体像を理解することを目的とし、まず自動車各部品の機械的要素の機構・構造を解説し、関連する工学的要素について学ぶ。更に、車載コンピュータ、電気、ハイブリッド、燃料電池自動車やASV、ITS等の電気・情報・通信・制御分野から、自動車用素材に欠かせない鉄鋼、非鉄金属、非金属、油脂材料についても扱う。また、自動車生産のマーケティング、シミュレーションによる設計・評価や、プレス、溶接、塗装、鋳造、鍛造、機械加工、組立等の工場での生産技術面も述べ、これから期待されている自動車技術について紹介する。	
		建築史		本科目は、日本と西洋の建築、そして近代から現代に続く建築の歴史を学ぶ基礎的な講義科目である。歴史を時系列（時間の流れ）に沿って理解するだけではなく、世界中で繰り広げられた人間社会の事象と建築行為の関係を、現代社会の「ものづくり」に関係付けながら説明できるようにする。また、建築史を建築計画・設計のため、さらには問題発見・解決のための基礎知識と結びつけて思考し、説明できることを目標とする。「温故知新」さらには「温故創新」を標榜し、「問題発見・解決力」そして「創造的表現力」の向上をめざす。	
		建築基礎演習		本授業は、建築設計製図・構造設計製図における約束事の理解と基礎的な表現技術を学び、建築・都市・環境の各分野における「ものづくり」に必要な基礎的な図面表記・表現の技量を修得する基礎的な演習科目である。建築のスケッチ・建築設計製図・構造設計製図の課題に取り組むことで、建築空間を三次元で把握し、その構成要素と仕組みを理解した上で、設計製図の表記・表現の基礎的知識と技量を身につける。 （オムニバス方式／全14回） （70　水谷　晃啓／4回）□立体図法について （48　山嵜　一也・100　加藤　詞史／7回）（共同）　木造・鉄骨・RC建築設計製図について （48　山嵜　一也・23　近藤　武士・100　加藤　詞史／1回）（共同）　木造住宅の設備について （5　石川　裕次・48　山嵜　一也・100　加藤　詞史／2回）（共同）　木造・鉄骨・RC造建築物の構成	オムニバス・共同（一部）
		建築構造基礎		本授業では、設計・構造・設備によって構成される建築の中で、長期荷重に加え、積雪、台風および地震において建築物に作用する荷重に耐えうる建築物の構造システムの基礎を学ぶ。様々な構造システムの概要および特徴を理解することによって、構造や生産施工関係の授業を受けるための基礎知識を習得することができる。また、実務構造設計者による特別講義を通し、最先端の建築構造に関する情報・知識を提供する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	副専攻	建築計画基礎		本科目は、各種の建築施設を理解するための基本的な考え方と、建築の計画・設計・監理に必要な基礎知識を学ぶ講義科目である。建築および建築群としての都市を理解するために、建築を成りたせている要素とその構成を理解し、具体的な事例を挙げて説明できること、人間工学を基礎とした寸法体系を理解し、応用できることを目標とする。将来、建築士、技術士、監理士等の資格取得を目指す学生には必修の科目である。	
		建築環境設備基礎		本科目は、建築環境工学と建築設備工学の基礎知識と基礎理論を学ぶ入門的な講義科目である。上級学年でのより専門的な関連科目の理解を深めるために、室内環境の空気、光、熱、音に関する建築環境工学の基礎知識、室内環境の健康性、快適性、効率性、安全性を確保する上で必要となる建築環境工学の基礎理論、建築設備（空気調和設備・給排水衛生設備・電気設備・消火/防災設備）に関する工学的な基礎知識と基礎理論を学ぶ。特に実際の建築関連プロジェクト事例を通じて、各種要素技術の意義や役割、導入プロセスや評価の視点について理解し説明できることを目標とする。	
		建築設計情報演習		本科目は、建築情報体系としての図面化（情報処理＝建築設計製図）のための基礎的な知識と技術について学ぶ演習科目である。建築設計は、様々な与条件や環境情報の読解・分析から始まり、関連する情報を適確に把握し、利用可能な情報に変換する加工（情報処理）する能力を必要とする。本科目では、建築設計における構想段階（企画／基本計画）においては、情報分析と整理・起案・提示の技量を、次工程（基本設計／実施設計段階）においては、建築の数値化（寸法体系）、構成要素の仕組みを理解し、デジタルツールを用いた建築設計製図の基礎的技量を修得した上で、自らの計画イメージを３次元オブジェクトＣＡＤを用いて平面的かつ立体的に表現できること等を目標とする。	共同
		建設プロジェクトマネジメント		建築を企画し、設計や施工段階を経て建物を完成させ、さらに運用・維持管理するにはさまざまな立場のひとたちが関与する。大学で建築を学んだ後はそれら様々な専門分野での活躍が期待できる。こうした多くの視点で建築プロジェクトを俯瞰し、建築生産の全体像を理解する機会とする。本授業は、建築士試験指定科目⑧「建築生産」に該当する。	
専門科目	副専攻	建築材料		本科目は、建築を構成する構造材料・内外装材料について、それらと社会との結びつきを学び、空間・環境との関連について考える講義科目である。環境面から材料を捉え、都市規模から身の回りのスケールまで、空間や環境を構成する素材・材料の種類、特性、役割、エネルギー等について学習し、環境・用途及び部位に応じた材料の選定について学ぶことを目標とする。	
		建築生産・施工		本授業では、建築施工・生産が設計図書に基づき関係諸法規などを遵守した上で、事業主の要求に沿って、安全に、適正なコストによって契約工期内に建築という作品を、完成することであることを学ぶ。加えて、代表的なプロジェクトにおける事例を含めて紹介すると共に、現在および近未来を担う最先端の建築技術を示す。特に、建築施工・生産の分野では、様々な業種の人々と共に建築と言う作品を作り上げることを理解すると共に、「ものづくり」について学ぶ。	
		建築環境工学		本科目は、室内環境の空気、光、熱、音に関する建築環境工学の知識を学ぶ講義科目である。室内環境の健康性、快適性、効率性、安全性を確保する上で必要となる建築環境工学の理論と、室内環境を良好にするための計画・設計の基礎知識を学ぶ。建築環境工学に関する基礎的な専門用語の意味を理解し説明できること、基本的な計算式（教科書の中で演習問題として取り上げられている公式や計算式）を用いて基礎的な数量等の計算ができること、室内環境が優れた建築を計画・設計するための基礎理論を理解し説明できること、室内環境を良好にし、健康的で快適な建築を計画・設計するための基本的な考え方を理解し説明できることを目標とする。	
		建築構造設計		本授業では、鉄筋コンクリート構造を対象に、鉄骨構造、木構造の構造設計の基本方針・仕組み・設計手法の概要を習得する講義科目である。授業の中で適宜AUTOCADによる図面作成等を含めた演習を実施する。建物の重要な機能のひとつは、そこに生活する人間の生命・財産を守ることである。近年も阪神淡路大震災および東日本大震災において、人的・経済的な被害が発生した。加えて近年は、構造設計で想定する地震荷重が増加する傾向にあり、構造設計者は，これまで以上に適切な設計を行う必要があり、構造設計者の役割は重要となっている。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	副専攻	建築構造力学1		本授業では、構造物に外力が作用した時に、どのように力を伝達し支えるかを、力のつり合い条件に従って計算できるように、力学の基礎を学ぶ講義科目である。具体的には橋のように両側2点で支えられた構造物（単純はり）や、片持ち梁のように1点で支えられた構造物などの簡単な構造物に作用するの力および支点に作用する反力を、力学に基づいて算定できるようにする。	
		建築構造力学2		本授業では、建物構造設計を行うために必要な力学的な原理および計算手法を学ぶ講義科目である。具体的には地震時を想定した耐震設計や長期荷重時における設計を行うために必要な曲げモーメントおよびせん断力による建築骨組の力学的挙動を，適正に評価する手法を習得する。その結果，構造設計に必要な建物の力学的な挙動の原理を理解することが可能となる。２年前期「建築構造力学１」では静的構造物を主な対象としていたが、本講義では不静定構造物（モーメント抵抗骨組み）を対象とする。	
		環境・都市基礎		本科目は、SDGsの概念に基づいて持続可能な社会の実現に向けた具体的な方策を考える上で必要となる、都市・環境・建築分野の基礎的な統計知識や、社会の持続可能性評価に係る認証制度を総合的に学修する。全14回のうち環境系専任教員と都市系専任教員が各回の授業運営を担うオムニバス方式の授業であり、必要に応じて各分野の実務に関わっている専門家を特別講師として招く形で運用する講義科目である。なお、本科目は環境・都市基礎演習に必要となる知識を事前に習得することを目的とする。 （オムニバス方式／全14回） （48　山嵜　一也／２回）　都市計画モジュールの学修 （47　松下（八束）　希和／２回）　都市デザインモジュールの学修 （70　水谷　晃啓／2回）　都市デザインモジュールの学修 （21　磐田（玄地）　朋子／２回）　環境工学・環境政策モジュールの学修	オムニバス
		環境・都市基礎演習		本科目は、SDGsの概念に基づいて持続可能な社会の実現に向けた具体的な方策を考える上で必要となる、都市・環境・建築分野の基礎的な統計知識や、環境・都市分野における情報処理の基礎、および社会の持続可能性評価に係る認証制度を総合的に学修する。全14回のうち環境系専任教員と都市系専任教員が各回の授業運営を担うオムニバス方式の授業であり、必要に応じて各分野の実務に関わっている専門家を特別講師として招く形で運用する演習科目である。 （オムニバス方式／全14回） （48　山嵜　一也／２回）　都市計画モジュールの学修 （47　松下（八束）　希和／２回）　都市デザインモジュールの学修 （70　水谷　晃啓／2回）　都市デザインモジュールの学修 （21　磐田（玄地）　朋子／２回）　環境工学・環境政策モジュールの学修	オムニバス
		SDGsと環境		本科目は、国際目標である「持続可能な開発目標（SDGs）」と環境問題の基礎を学ぶ講義科目である。SDGsと関連付けて、様々な環境問題（気候変動、エネルギー、水、大気、廃棄物、化学物質、生物多様性など）の原因やその対策を講義する。地球規模及び地域規模の環境問題について、法制度や社会システムなど、どのような取組みが進められ、持続可能な社会の構築に向けてどのような取組みが必要なのか、特に、環境・社会・経済の課題への統合的なアプローチの必要性について理解し、基本的な考え方を習得することを目標とする。	
		都市計画基礎		本授業では都市計画の基礎を習得することを目的とした講義科目である。都市計画法に規定する狭義の都市計画と、広義の都市計画やまちづくりの違いを理解した上で、時代と共に変化する都市計画の課題とそれを解決するための都市計画制度の変遷等を学ぶ。さらに狭義の都市計画でいう土地利用計画や都市形態のコントロール手法など都市計画制度とプランニングの方法について理解し、さらにハード事業の道路や公園、その他インフラ施設の都市施設、土地区画整理事業や市街地再開発事業をはじめとする市街地開発事業の内容と整備事例から、社会の課題解決につながる基礎的な都市計画技術を習得する。	
		都市計画演習		だれにも理解でき共有できるようなわかりやすい都市構造の概念図作成や都市模型の表現方法を習得することを目的とした演習授業である。都市構造を分かりやすく表現する概念図の作成技術を習得し、都市構造図やダイヤグラム図といった概念図を作成し、これによって社会での合意形成に役立つツールを活用することができる。地区の課題解決のためのまちづくりコンセプトを立案し、それを具現化するための計画と設計、実現手法としての空間形成の提案を模型やパース、CG 等を活用して見える化できる都市計画を習得する。ブロック模型から詳細な模型までの使い分けと、樹木やストリートファニチャーの作成技術を習得し、都市模型を製作することができる。これによって住民合意に効果的でかつ都市を空間として認識するための高度なツールを活用することができる。	
		都市環境デザイン		本授業は講義形式で行う。授業の目的は都市環境デザイン（アーバンデザイン）の基礎知識を得るとともにその調査、計画及びマネジメント手法の基礎を修得することである。授業計画は、まず都市環境デザインの概念及び都市空間を理解するための基本的手法を解説する。続いて都市の代表的なパブリックスペースである街路、広場、緑地等の機能や特性およびそれらの計画・設計手法について事例を交えながら解説する。都市空間の調査、街路の基本計画などの小演習も行う。 本授業を通して、学生は　①都市環境デザインとは何か、何を対象とし誰が行うのかといった基本概念を理解する　②都市環境デザインの複合領域としての意義を理解し、それを支える様々な手法の基礎を修得する　③身近に存在する良質な都市環境デザインの事例を通してその課題を理解し改善方策を学ぶ　④世界の都市デザインの潮流を学び、都市とデザインのあるべき姿を考察する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	副専攻	都市及び都市計画史		本科目は、都市および都市計画の歴史を通じて都市計画の役割と課題を学ぶ講義科目である。授業の目標は以下の3点である。①都市の物的形態の変遷を歴史的に学習することにより、都市と建築・環境との関係、都市計画が対象としているもの、都市計画の役割について、自ら主体的に考えることができる。②近代都市計画理論の発展と問題点を学ぶことにより、都市計画が目標としているもの、都市計画が果たしてきた役割と課題について、自ら主体的に考えることができる。③持続可能な社会を実現するための都市計画の課題について、自ら主体的に考えることができる。都市の物的形態の変遷として、城壁の都市、都市施設と都市居住、格子割の都市、バロックの都市、社会改良主義の都市を学び、その後、近代都市計画の思潮を学び、都市計画が果たしてきた役割と課題を考察する。	
		都市・地域システム計画		超高齢人口減少社会の課題を人口として、地区まちづくり、市町村都市マスタープランの役割、および都市・地域計画の仕組みと課題について学ぶことを目的とした講義科目である。地区のまちづくりと市町村の都市マスタープランについて、事例、資料や計画の作成方法を知りケーススタディとしてまちづくり計画を作成することができること、都市防災上の課題を知り、都市と市民活動の協力の必要性を考え意見を述べることができること、専門的な都市・地域計画関連分野の計画や実現事例について説明ができることを目標とする。（オムニバス方式／全14回） （⑱増田幸宏／２回）　都市・地域の防災と復興 （㉘　水谷　晃啓／３回）　宅地開発とまちづくり （㉑　松下（八束）　希和／３回）　協働による都市デザイン	オムニバス
		Global Governance and Sustainable Strategy		Since the United Nations General Assembly adopted the 2030 Agenda for Sustainable Development in 2015, the Sustainable Development Goals (SDGs) have drawn attention from numerous business organizations. While governments are the primary actors in driving the SDGs, businesses play a crucial role as stakeholders in contributing to their achievement. This course explores how businesses can contribute to the SDGs and operate within the context of global crises, including climate change, water and food scarcity, poverty, conflict, and inequality. It emphasizes corporate governance and its implications for addressing societal and environmental challenges.2015年に国連総会が2030アジェンダを採択して以来、持続可能な開発目標（SDGs）は多くの企業団体から注目を集めている。政府がSDGs推進の主要な役割を担う一方で、企業はその達成に貢献する重要な	
		土地利用計画		本科目は、GIS（地理情報システム）を用いた土地利用計画の基礎を学ぶ演習科目である。GISの操作、土地利用計画立案のための調査・分析、計画課題の把握、計画コンセプトの検討、プレゼンテーションの方法について基礎的な手法を習得することを目標とする。演習科目である。具体的には、GIS（地理情報システム）の基本的な操作を習得した後、現実の市街地を対象として、現地調査を行うことによって、土地利用上の問題点、課題を把握する方法を習得する。また、地図の読み取り、各種統計データ、市街地環境指標による分析などから、対象エリアを多面的に評価する方法を習得する。さらに、対象エリアの現状と課題を整理し、計画づくりに向けたコンセプトの検討方法、効果的なプレゼンテーションの方法を習得する。	
		景観・ランドスケープデザイン		本授業は講義形式で行う。本授業の目的は、景観の認知方法やランドスケープデザイン基礎的な知識を得るとともに、計画・設計の基本的手法を修得することである。そのために、景観計画やランドスケープデザインに関わる思想、基礎理論、潮流、法制度及び事例の解説を行い、学生はそれを踏まえた考察レポートを作成する。 本授業の学修到達目標は、①美しい景観とはどのような状況を指し、それはどのように形成、維持されてきたかを理解し説明できる。②近現代の景観デザイン及びランドスケープに関する主な思想、活動、潮流を理解し説明できる。③人を惹きつける景観の特徴を理解するとともに、その背景として人々の努力があることを説明できる　④景観デザイン及びその保全継承に関する基本的な法制度、手法について説明できる　の４点である。	
		資源・エネルギーシステム論		本講義は、自然環境および人間活動から構成される地球環境システムという複雑系のうち環境・エネルギー系に焦点をあて、地球温暖化問題など直面する諸問題に関する解決策を導くために必要な枠組み・理論と手法について、エネルギーの供給・需要の両側面から学修することを目的とする。授業の目標は以下4点である。①太陽光発電、水力発電、風力発電、バイオマス発電のそれぞれについて資源量からエネルギー生産量を算出することができる。②熱力学の法則に従って発電の仕組みを理解し、発電環境に応じた発電量を算出することができる。③熱力学の法則に従ってヒートポンプの仕組みを理解し、熱負荷から空調エネルギー消費量を算出することができる。④日本における再生可能エネルギー導入に向けた課題および解決案を列挙し説明することができる。	
		環境政策		本科目は、社会の持続可能な発展のため、主要な環境問題とその解決のための政策ツールについて学ぶ講義科目である。環境政策には、伝統的な規制的手法のほか、経済的手法、情報的手法、合意的手法などがあり、そのポリシーミックスについて法制度や社会システムの基礎知識を習得するとともに、大気汚染対策と地球温暖化対策のシナジー効果やトレードオフ効果に見られるような、問題間の関連性についても理解する。特に、世界の潮流であるカーボンニュートラル及びサーキュラーエコノミーの国内外の動向を踏まえた政策提案や事業企画を行う力の習得を目指す。また、都市へのインプット（環境基盤）とアウトプット（環境負荷）の観点から、都市環境とそれを支える管理手法を概観し、環境アセスメント制度について理解する。	
		環境ビジネス		本科目は、近年の企業評価において重要性が高まっているESG(Environment、 Social、 Governance)などの非財務情報に関する基礎知識を学ぶ実践的な講義科目である。授業の目標は以下4点である。①非財務情報が注目される背景を説明することができる。②非財務情報の開示に関わる世界情勢を説明することができる。③データに基づき企業の非財務情報を算出することができる。④国内外における環境関連ビジネスを展開する企業の取り組みを学び、企業価値を評価するスキルを身につけることができる。本科目では、担当教員やゲストスピーカーによる講義に加えて、学生自らが国内外のビジネス事例を調査分析して発表するアクティブラーニングを取り入れた授業運営を行う。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	副専攻	脱炭素と地域創発		本科目は、日本を初め様々な国における脱炭素化と地域活性化の相互関係を探求することを目的とした講義科目である。具体的には、人口減少、高齢化、雇用創出などの課題がどのように脱炭素化に関連しているのかを検討する。学生は持続可能なまちづくり、サーキュラーエコノミー、地域資源の活用における持続可能な地域活性化の機会と課題を探求する。学生は地域レベルでの脱炭素化の概念と他の持続可能性の課題との関連性を理解し、脱炭素化と地域活性化のための革新的な解決策を提案するための批判的思考力と問題解決能力を深める。講座では、ディスカッション、事例研究、ゲストスピーカーなど、様々な手法を用いて脱炭素化と地域振興の相互関係を包括的に理解するアプローチを採用する。学生は協働的な問題解決に取り組むとともに、日本国内外の実例を分析する能力を身につける。	
		論理と集合		適度な演習を含めた講義形式で行う。数学は命題の連なりで記述され、ある命題を満たすもの全体をひとつの集合と考えて議論することが常である。この講義では、命題を記述するために必要となる論理の知識と、集合の包含関係を論証するために必要となる演算や考え方を学び、数学の議論に慣れることを目標とする。この講義において数学の基礎となる論理と集合の知識を修得し、引き続き1年次後期の「集合と位相」の講義において数学の基礎を学ぶことで、数学の基礎固めが完了する計画である。	
		解析基礎		適度な演習を含めた講義形式で行う。この講義では微分積分学をはじめ解析学一般の基礎となる「実数の連続性」について講義する。デデキントの切断から始め、上限の存在、区間縮小法の原理、ボルツアノ・ワイエルストラスの定理などの同値な性質やアルキメデスの原理などを解説する。それとともに、これらの概念が数列の極限や関数の連続性を扱うのにどのように使われるのか、いわゆるε-N論法やε-δ論法を解説する。高校の「数学Ⅲ」と1年次の「微分積分1・2」で学んだ直観的な微分積分を厳密に議論できるようになることを目標とする。	
		代数学1		図形の形を変えないような変換は、合成という操作を持ち、また何もしないという変換があり、さらに逆変換という操作を持つ。このような二項演算を持った集合のことを群という。この講義では群論の基礎事項を講義形式で学び、群論を通して抽象的な代数系の考え方や扱い方や、抽象的な理論を具体例と並行させながら学ぶ姿勢を身につける。具体的には整数の剰余類群、対称群や二面体群などの具体的な群を扱った後、ラグランジュの定理、準同型定理や軌道・固定群定理について学ぶ。この講義の目標としては、整数の剰余類群、対称群や二面体群などの具体的な群での二項演算が具体的に計算できるようになること、群や剰余群や群作用の定義や具体例を説明できるようになること、群論における定理を理解して適用例を挙げられるようになることが挙げられる。	
		幾何学1		この講義では、曲線論・曲面論の基本事項の修得を目標とする。さらに幾何学における重要な概念である多様体を理解するために必要な位相空間論の基本事項も説明する。まず、曲線のパラメーター表示から始め、平面曲線の曲率、空間曲線のフレネ・セレの公式を学ぶ。つづいて、曲面の接平面と法線ベクトル、測地線、第一・第二基本形式、曲面の曲率について学ぶ。その後、多様体を理解するために必要な基本事項として、ユークリッド空間の開集合、位相空間と連続写像、ハウスドルフ空間について説明する。	
		ベクトル解析		この講義では、ベクトル解析の基本事項の修得を目標とする。先ず３次元ベクトルの内積、外積から始め、ベクトル関数の微分、フレネセレの公式や曲面の単位法線ベクトル、ベクトル場の流線、場の微分演算である勾配、発散、回転について学ぶ。つづいて、ベクトル関数の積分の概念すなわち線積分、面積分を導入する。その後、グリーンの定理、ストークスの定理、ガウスの発散定理など積分定理を学ぶ。最後にその物理学への応用にも触れる。	
		複素解析		この講義では、複素関数の微分法および積分法の概説を行うことで、留数定理に関する基本事項の修得を目標とする。微分積分学は実数に実数を対応させる関数（実関数）の解析学であった。これに対して複素解析学は複素数に複素数を対応させる関数（複素関数）の解析学である。本講義では、複素数の基本事項を復習した後、複素数列・級数、整級数、複素初等関数について学ぶ。つづいて正則関数とコーシー・リーマン方程式について学ぶ。その後、複素積分、コーシーの積分定理・積分公式を学んだ後、ローラン級数展開、留数定理について学ぶ。最後に留数定理の実積分への応用についても触れる。	
		数値解析1		現代の研究・開発においてコンピュータ上での計算は必要不可欠である。本講義では、数値解析の基礎である計算機上での数値の表現と誤差の話題から始め、非線形方程式の求解のための二分法・ニュートン法、連立１次方程式の求解のための定常反復法、数値積分のための中点則・台形則・シンプソン則等を取り上げ、背景にある数学理論やアルゴリズムの導出および動作原理を学修する。さらに、各種アルゴリズムをコンピュータ上で実装し、具体的な問題に対する数値実験を行い、結果を適切に評価できる素養を身につけることを目標とする。授業は講義を中心とするが、PCを用いた演習も行う。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	副専攻	数理計画法		数理計画問題とは、与えられた制約条件のもとで関数を最大化あるいは最小化する問題である。この講義では数理計画における各問題の定式化と基本解法を学ぶことを目的とする。具体的には、数理計画問題の定式化を解説したのち、線形計画では図的解法と単体法（シンプレックス法）、双対性と感度分析、ゲーム理論への応用などを学修し、非線形計画では１変数関数と２変数関数の最適性の条件による厳密解法、降下法等による数値解法を学修する。授業は講義を中心とするが、コンピュータを用いたシミュレーションも行う。	
		現象の数理		物理学、化学、生物学、工学、社会学等に現れる現象の解明や環境問題等の研究において、その現象を数理モデルを用いて表現し、その解の性質を解析する、という数理科学的アプローチは、重要な役割を果たしている。この講義では、まず、力学や生物学等に現れる典型的な数理モデルの紹介を行い、数理モデリングについて学ぶ。次に、連立非線形常微分方程式系の平衡解の線形安定性解析について学び、その後、勾配系、ハミルトン系など典型的な構造をもつ数理モデルの性質について学ぶ。授業は講義形式が大半であるが、適宜演習を入れ理解を促し、各パート毎にグループワークを実施して、数理モデルの基本的な解析手法の修得を目指す。	
		数理科学概論		「数理科学」は純粋数学・応用数学・情報数学などを含む広い意味での数学である。学問としての長い歴史をもち、その成果は様々な分野で応用され、産業・社会の発展に多大な貢献をしている。本講義は数理科学に関連する12名の教員によるオムニバス形式で実施する。各教員の専門分野に対する導入的な内容から最新の研究成果の紹介なども併せて行うことで、数学的素養を身につけ、数理科学に関連する多様な研究分野を幅広く知ることを目標とする。 （オムニバス形式／全14回、初回および最終回は全員担当） （③ 石渡　哲哉／3回）　身の回りの現象と数理モデルについて （⑥　井戸川　知之／3回）　計算機代数入門 （⑦　榎本　裕子／3回）　現象と微分方程式 （⑧　尾崎　克久／3回）　数値計算の速度と精度 （㉕　梶ヶ谷　徹／3回）　幾何学的変分問題入門 （⑬ サイ　貴生／3回）　フィードバック制御 （㉖　清水　健一／3回）　組みひもと群論 （⑭ 鈴木　達夫／3回）　微分幾何入門 （⑯ 竹内　慎吾／3回）　微分積分から関数解析へ （㉗　中津　智則／3回）　金融のための数学入門 （㉚　田森　宥好／3回）　行列の指数関数 （① 福田（相原）　亜希子／3回）　離散数理モデル入門	オムニバス
		金融工学		金融工学（あるいは数理ファイナンス）における古典的な株価のモデルである、二項モデルにおける金融商品の価格付けについて学ぶ。前半では、二項モデルおいて、複製ポートフォリオの考え方から金融商品の適正価格が決まり、その価格がリスク中立確率と呼ばれる確率の下での期待値となっていることについて説明する。後半では、マルチンゲールの概念を導入し、マルチンゲール、リスク中立確率、裁定機会との関連などについて学ぶことで、金融派生商品の価格付けを理解することを目標とする。受講者の理解をより深めるため、講義中に演習を行う。	
		保険数学		アクチュアリーと呼ばれる、保険料や年金現価算出などのスペシャリストとなるための基礎となる数学を学ぶ。前半では、生命確率の定義とその性質、収支相当原理を用いた保険商品の保険料の算出法と、生命確率との関係などの基礎的事項を学ぶ。後半では、既払い保険料返還付き保険や、再帰式、責任準備金の算出など、前半で学んだ事項の発展について学び、アクチュアリーに必要な生命保険の数理を理解することを目標とする。確率分布を用いた期待値の計算など、「確率統計」で学んだ事項の応用と言える科目である。	
	総合研究	総合研究１	○	総合研究の目的は、持続可能な社会の実現へ向けて、社会や科学における取り組むべき課題を自ら設定し、総合的、学際的な視野に立って、理工学分野の専門知識と技術を活用した研究活動を行うことにより問題解決力を養うことにある。 総合研究１では、専門分野で取り組まれる研究事例を複数の指導教員から学び、研究論文（設計）や文献からの調査方法、実験、分析、解析の方法、研究成果のまとめ方、各種機器、デジタルツールの修得と活用方法などの基礎的な研究スキルを身につける。学修成果について、指導教員の指導のもとで進捗報告を行う。	共同

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要

（システム理工学部　生命科学課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	総合研究	総合研究２	○	総合研究２では、総合研究１で修得した基礎的な研究スキル（研究論文（設計）や文献からの調査方法、実験、分析、解析の方法、研究成果のまとめ方、各種機器、デジタルツールの修得と活用方法など）の一層の定着を図る。総合研究２の期間内に指導教員と研究室を確定し、取り組むべき研究テーマを具体化し調査研究を開始する。研究活動を通して、正確で誤りのない文書を作成する力、第三者にわかりやすく伝えるためのプレゼンテーション力を身につける。	共同
		総合研究３	○	総合研究３では、総合研究１、総合研究２で身につけた基礎的な研究スキルの修得を客観的に確認し、社会課題の解決や社会基盤を支える科学の発展へ向けた研究テーマを明確に掲げる。指導教員の指導のもと、研究テーマに応じた研究方針・計画・方法を策定し、学際的な視野に立って、実践的な研究活動に取り組む。研究の進捗状況を、指導教員および研究室メンバーと情報共有しながら、計画的に研究活動を行う。	共同
		総合研究４	○	総合研究４では、総合研究１～3で培ってきた研究活動の集大成として、主専攻分野および研究に必要な特定分野において、総合的、学際的な視野に立って、実践的に問題解決を図る。取り組む研究内容において社会に貢献する職業人としての倫理観に基づいた視点に立ち、社会に対し負うべき責任を意識し、第三者にわかりやすい研究論文（設計）をまとめる。さらに研究活動を通して実践した研究成果を、正確に、魅力的に伝えるための総合的なコミュニケーション力の向上を図る。	共同

校地校舎等の図面

（１）都道府県内における位置関係の図面



（２）最寄り駅からの距離、交通機関及び所要時間がわかる図面



大宮キャンパス

■ JR宇都宮線「東大宮」駅東口からスクールバス5分、または徒歩20分

■東武鉄道　東武アーバンパークライン「岩槻駅」よりスクールバス20分

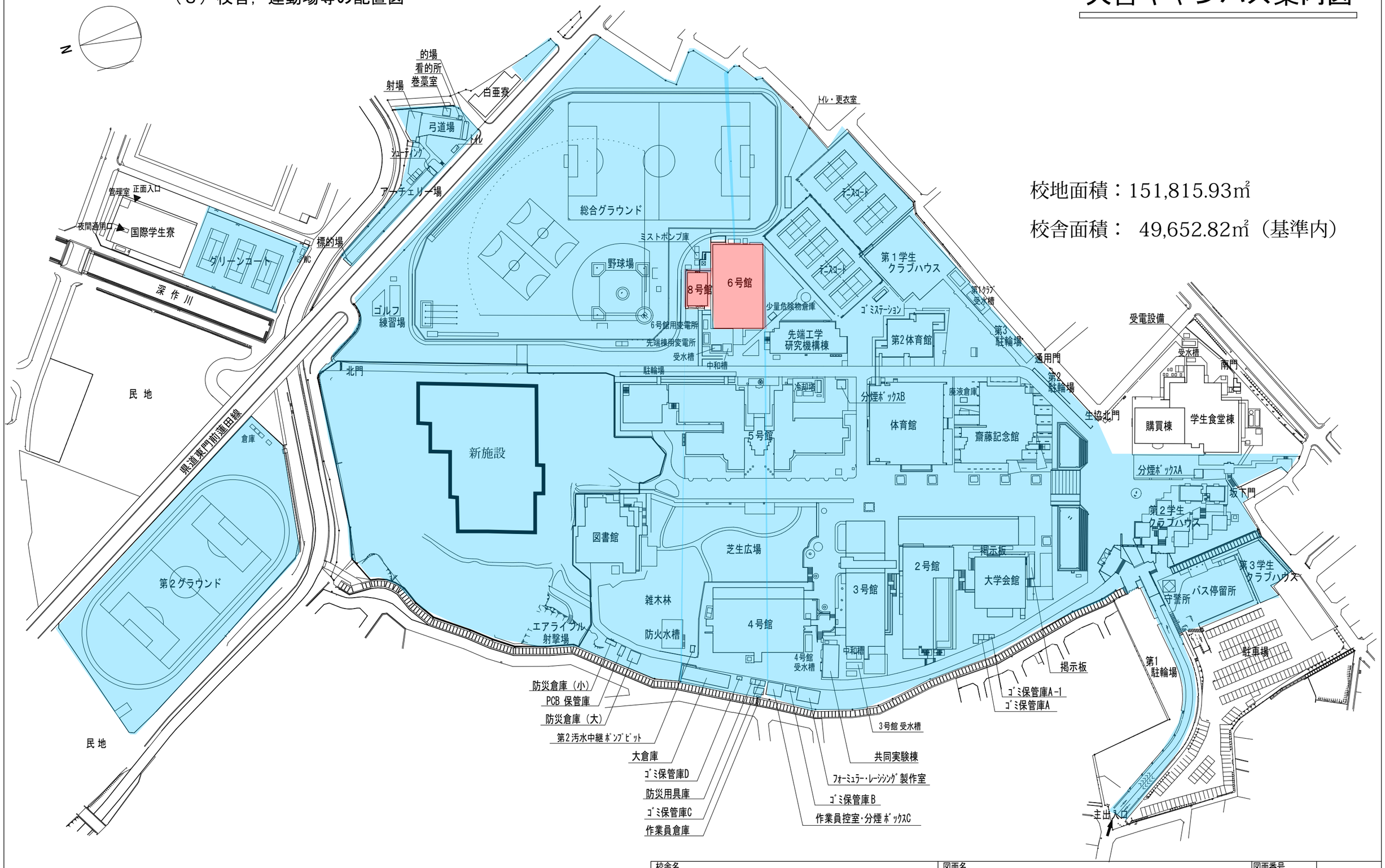
〒337-8570　埼玉県さいたま市見沼区深作307

（３）校舎，運動場等の配置図

大宮キャンパス案内図

校地面積：151,815.93㎡

校舎面積： 49,652.82㎡（基準内）



校舎名	図面名	図面番号	2024年4月
芝浦工業大学　大宮キャンパス	施設案内図 配　置　図	0	
		縮尺	1／2000

○芝浦工業大学学則

昭和24年３月25日
制定

第1章　総則

(目的)

第1条　本学は教育基本法及び学校教育法の定めるところにより、学術の中心として深く工学の研究を行い世界文化に貢献し、併せて広く一般の学術教養と専門の工業教育を施すことにより、学生の人格を陶冶し、学理を究めさせ体位の向上を図り、もって優秀なる技術者を養成することを目的とする。

(自己点検・評価等)

第1条の2　本学は、教育研究水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表する。点検及び評価に関する必要事項は別に定める。

(認証評価)

第1条の3　本学は、第１条の２の措置に加え、学校教育法に則り、文部科学大臣の認証を受けた者による評価を受審し、その結果を公表するものとする。

(学校教育基本法施行規則第165条の２第１項に定める方針)

第1条の4　本学は、第１条の目的を踏まえた方針について、別表２―１のとおり定める。

(設置等)

第2条　本学は芝浦工業大学と称する。

第3条　本学は東京都江東区豊洲３丁目７番５号に置く。

(学部、課程、学科)

第4条　本学に次の学部・課程・学科を置く。

【工学部】

機械工学課程

物質化学課程

電気電子工学課程

情報・通信工学課程

土木工学課程

先進国際課程

【システム理工学部】

電子情報システム学科

機械制御システム学科

環境システム学科

生命科学課程

数理科学科

【デザイン工学部】
デザイン工学科
【建築学部】
建築学科
2　この学則に定めるもののほか、各学部に関する規則は別に定める。
(大学院)
第5条　本学に大学院を置く。
2　大学院に関する学則は、別に定める。
(学術情報センター)
第6条　本学に学術情報センターを置く。
2　学術情報センターに関する規程は別に定める。
(研究所等)
第7条　本学にSIT総合研究所を置く。
2　SIT総合研究所に関する規程は別に定める。
(教育イノベーション推進センター)
第8条　本学に教育イノベーション推進センターを置く。
2　教育イノベーション推進センターに関する規程は別に定める。
(収容定員)
第9条　本学の収容定員は別表１のとおりとする。
(学部等における教育研究上の目的及び方針)
第10条　学部、課程、学科における人材養成に関する目的、その他の教育研究上の目的及び方針は、別表２―２のとおりとする。
第2章　学部
第1節　教育課程及び授業科目
(教育課程の編成)
第11条　本学は学部等における教育研究上の目的を達成するために学位プログラムごとに教育課程を編成し、必要な授業科目を開設する。
第11条の2　(削除)
(主要授業科目)
第11条の3　第１条の４の方針を達成すべき能力を育成するために必要な科目群を主要授業科目とする。（主要授業科目は別表３、別表４、別表５、別表６のとおりとする。）
2　主要授業科目は、原則として基幹教員（教育課程の編成その他の学部の運営について責任を担う教員であって、当該学部の教育課程に係る主要授業科目を担当する者（専任教員に限る）、又は1年につき8単位以上の当該学部の教育課程に係る授業科目を担当する者）が担当する。
3　主要授業科目に関する必要な事項は、別に定める。

(指導補助者)

第11条の4　本学は、各授業科目について、当該授業科目を担当する教員以外の教員、学生その他の本学が定める者　（「授業補助者」という）を補助にあたらせることができる

(成績評価基準等の明示等)

第12条　本学は、学生に対して、授業方法、内容並びに授業計画をあらかじめ明示するものとする。

2　学修の成果に係る評価及び卒業の認定にあたっては、客観性及び厳格性を保持するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに当該基準に従って適切に行うものとする。

(教育課程)

第13条　本学の教育課程は各授業科目を必修科目、選択科目、自由科目に分け、これを各年次に配当し編成する。

各学部の授業科目、単位数は別表３、別表４、別表５、別表６のとおりとし、卒業要件は別表７のとおりとする。

(修業年限)

第14条　学部の修業年限は４年とする。ただし、８年を越えて在籍することはできない。

(教育内容等改善のための組織的研修等)

第15条　本学は各学部の授業の内容及び方法の改善等を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

第2節　履修及び授業科目修了認定

(単位)

第16条　本学所定の授業科目に対する課程を修了し、正規の試験その他の本学が定める 適切な方法により学修の成果を評価して、その授業科目所定の単位を与える。

2　各授業科目の１単位は45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学習等を考慮して、次の基準によって単位数を計算する。

(1)　講義及び演習については、15時間から30時間までの授業をもって１単位とする。

(2)　実験、実習及び実技等については、30時間から45時間の授業をもって１単位とする。

(3)　前項の各規定に関わらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して単位数を定めることができる。

(4)　学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、卒業の要件として学生が修得すべき単位数について、学生が１年間または１学期に履修科目として登録することができる単位数の上限を別に定める。

(5)　所定の単位を優れた成績をもって修得した学生については、別に定めるところにより

上限を超えて履修科目の登録を認めることができる。

(各授業科目の授業期間)

第16条の2　各授業科目の授業は、14週にわたる期間を単位として行うものとする。ただし、教育上必要があり、かつ、十分な教育効果をあげることができると認められる場合は、この限りでない。

(授業の方法)

第16条の3　授業は講義、演習、実験、実習もしくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2　本学は前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

3　本学は本条第１項の授業を外国において履修することができる。また、前項の規定により多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても同様とする。

4　本学は本条第1項の授業を校舎及び附属施設以外の場所で行うことができる。

(学外単位等認定及び入学前の既修得単位等認定)

第17条　本学学生が本学在籍中に外国を含む他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位は、60単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2　本学学生が本学入学前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を認めることができる。

3　前項により修得したものとみなし、又は認めることのできる単位数は、編入学、転学等の場合を除き、第１項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

4　本学に学士入学又は編入学を許可された者は、別に定めるところにより既修得単位の認定をうけることができる。

5　本学に再入学した者は、別に定めるところにより既修得単位の認定をうけることができる。

6　本条第１項から前項で認定された単位は、本学で開講されている授業科目に振替えることができる。

(教育職員の免許状)

第18条　教員の免許状授与の所要資格を取得しようとする者は、教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則に定める所要の単位を取得しなければならない。

2　本学の課程・学科において当該所要資格を取得できる教員免許状の種類・専門科目及び単位数は別表３、別表４、別表５に掲げるとおりとする。

(授業科目の修了認定)

第19条　授業科目履修修了の認定は試験等による。

(成績評価)

第20条　成績評価はS・A・B・C・D・Fとし、C以上を合格とする。

第3節　卒業及び学位の授与

(卒業認定)

第21条　別表７に定める所定の単位を取得した者につき、教授会の議を経て学長が認定する。

2　卒業の要件として修得すべき単位のうち、第16条の３第２項の授業の方法により修得する単位数は60単位を超えないものとする。

(学位)

第22条　本学を卒業した者には別表９に定める学位を授与する。

第4節　入学、退学、休学及び転学

(入学時期)

第23条　入学の時期は、４月又は10月とする。

(入学資格)

第24条　本学に入学することのできる者は、次の各号の一つに該当する者でなければならない。

(1)　高等学校、若しくは中等教育学校を卒業した者

(2)　通常の課程による12年の学校教育を修了した者(通常の課程以外の課程により、これに相当する学校を修了したと文部科学大臣が認めた者を含む。)

(3)　文部科学大臣が指定した者

(4)　高等学校卒業程度認定試験規則により高等学校卒業程度認定試験に合格した者(大学入学資格検定規程による大学入学資格検定に合格した者を含む)

(5)　外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣が指定した者

(6)　文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

(7)　本学が、相当の年齢に達し高等学校、若しくは中等教育学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

(入学許可)

第25条　前条の者のうち本学が行う選考に合格した者につき、教授会の議を経て学長が入学を許可する。

(学士入学)

第26条　大学を卒業した者及びこれと同等以上の資格を有する者で、本学に入学すること(学士入学と称する。)を希望する者があるときは、別に定めるところにより教授会の議を経て入学を許可することができる。

(編入学)

第27条　本学の各学部に編入学を志願する者があるときは、志願先課程、学科及び在学生の学修に支障のない限り、別に定めるところにより選考の上、当該学部教授会の議を経て、入学を許可することができる。

(外国人特別入学・帰国子女特別入学)

第28条　本学の各学部に入学を志願する外国人志願者及び帰国子女志願者があるときは、志願先課程、学科及び在学生の学修に支障のない限り、別に定めるところにより選考の上、当該学部教授会の議を経て、入学を許可することができる。

(出願書類等)

第29条　本学に入学を志願する者は、所定の入学願書、出身学校長の提出する調査書又はこれに代わるものと認められる証明書及び写真に入学検定料を添えて提出しなければならない。

(入学手続)

第30条　入学を許可された者は、本学所定の誓約書に保証人と連署の上、住民票その他所定の書類に学費を添えて指定日までに提出しなければならない。

(保証人)

第31条　保証人は父母又は独立生計を営む成年者で、確実に保証人としての責を果たし得る者でなければならない。保証人として不適当と認めたときは変更を命ずることがある。なお、その身分及び住所に変更があったときは速やかに届け出なければならない。

(休学)

第32条　病気又はその他の理由によって出席できない者は、その理由(兵役の場合は、徴兵に関する証明書等)を記して保証人連署の休学願を提出し、学長の許可を経て休学することができる。ただし、入学初年度の１年前期は、休学することはできない。

2　休学の願い出に際しては、休学開始日の前日の属する期までの学費等を納入していなければならない。

3　休学は１ヵ年以内とする。ただし、特別の理由のある者は休学延期の願い出により引き続き休学することができる。

4　休学期間は、連続して２年を超えることはできない。また、通算して４年を越えることはできない。

5　休学期間は在学年数に算入しないが、在籍年数には算入する。

6　休学者は休学した学期の単位を取得することはできない。

(休学期間中の学費)

第33条　休学期間中の学費は、許可された期の翌期から、休学する期に限り、授業料および維持料を免除し、休学在籍料を徴収する。ただし、兵役による休学の場合は、兵役期間に限り授業料および維持料に加え、休学在籍料を免除する。

(復学)

第34条　休学者が復学しようとするときはその理由を記し、保証人連署の復学願を提出し、

学長の許可を経て復学することができる。

(退学)

第35条　退学しようとする者は、保証人連署の上、その理由を記して願い出て学長の許可を受けなければならない。

2　退学の願い出に際しては、退学の日の属する期までの学費等を納入していなければならない。

(再入学)

第36条　正当な理由により退学した者、又は第71条第１項第２号若しくは第４号により除籍された者が再入学を願い出た時は、第14条ただし書に定める在籍年数(通算年数とする。)内に卒業見込みのある者に限り、選考の上、教授会の議を経て入学許可することがある。

(転学)

第37条　本学の学生が他に転学を志望するときは、その理由を記して願い出て学長の許可を受けなければならない。

第5節　学費等

(学費等)

第38条　学費は別表８に定めるところによる。

2　学費とは入学金、維持料、授業料をいう。

3　入学検定料は、諸納入金に関する内規に定めるところによる。

(学費の納付)

第39条　学費その他の納入金は指定の期日までに納入しなければならない。

(転部・転課程・転科生等の学費)

第40条　転部、転課程・コース、転科、又は再入学の許可を受けた者は、新たに所属する学年の学費を納入するものとする。

(学費の取扱)

第41条　既に納入した学費は、事情のいかんにかかわらず一切返還しない。

第6節　職員組織

(職員)

第42条　本学に次の職員を置く。

学長、副学長、学部長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員、その他必要な職員

第7節　学長、学部長、教授会及び学部長・研究科長会議

(学長・副学長)

第43条　学長は校務をつかさどり、所属職員を統督するとともに本学を代表する。

2　学長は、校務における決定権を有し、最終的な責任を負う。

第43条の2　副学長は、学長を助け、命を受けて校務をつかさどる。

(学部長)

第44条　学部長は当該学部の校務をつかさどり、当該学部を代表する。

(教授会)

第45条　各学部に教授会を置く。

2　教授会に関する事項は本学則によるほか、各学部教授会規則の定めるところによる。

第46条　学部長は教授会を招集する。

第47条　教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり、意見を述べるものとする。

(1)　学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項

(2)　学位の授与に関する事項

(3)　教育及び研究組織に関する事項

(4)　課程、学科、学科目及び授業に関する事項

(5)　教員の研究育成及び留学に関する事項

(6)　教育研究予算の配分の方針に関する事項

(7)　教員の任用に関する事項

(8)　学生の指導育成に関する事項

(9)　学生の賞罰に関する事項

(10)　教員の資格審査に関する事項

(11)　学則に関する事項

(12)　その他学長から意見を求められた事項

第48条　教授会は、前条各号に定める事項のほか、学長及び学部長その他の教授会等が置かれる組織の長(以下「学長等」という)がつかさどる次の事項について審議し、及び学長等の求めに応じて意見を述べることができる。

(1)　教授会の運営に関する事項

(2)　図書、設備及び施設に関する事項

(3)　学生の試験、進級、転科、転課程・コース、転部に関する事項

(4)　授業日数及び休業に関する事項

(5)　学生団体及び学生活動、並びに学生生活に関する事項

(6)　学部規則に関する事項

(7)　その他学長等から意見を求められた事項

2　第１項にいう審議とは、議論・検討することを意味し、決定権を含意するものではない。

第49条　学長が必要と認める時は、他の学部の教授会と共同して合同の委員会を設けることができる。

(学部長・研究科長会議)

第50条　本学に学部長・研究科長会議を置き、学長が求める教学に関する重要な事項を審議する。

2　学部長・研究科長会議について必要な事項は別に定める。

第51条　(削除)

第8節　科目等履修生、研究生、特別聴講生、外国人学生及び特別留学生

(科目等履修生)

第52条　本学学生以外の者が、本学所定の授業科目を一又は複数選択して履修する者を科目等履修生とする。

2　科目等履修生に出願できる者は、高校卒業又はこれと同等以上の学力を有する者とする。

3　科目等履修生は、本学学生の授業に支障のない限り教授会の議を経て、学長が入学を許可する。

4　科目等履修生の学費等は、別表８のとおりとする。

5　科目等履修生について必要な事項は、別に定める。

(研究生)

第53条　一定の研究課題について研究する者を研究生とする。

2　研究生の入学資格は、大学卒業又はこれと同等以上の学力があると認められた者とする。

3　選考は、研究内容の該当する課程・学科等が志願者の学力および希望と芝浦工業大学の受け入れ能力を検討し、教授会の議を経るものとする。

4　研究生は、本学学生の授業、研究に支障のない限り教授会の議を経て、学長が入学を許可する。

5　研究生の研究期間は６ヶ月以上２年以内とする。

6　研究生は、研究終了後、研究成果を指導教員を経て学長に報告しなければならない。

7　研究生はその研究成果についての研究証明書の交付を受けることができる。

8　研究生の学費等は、別表８のとおりとする。

(特別聴講生)

第54条　国内の他の大学と本大学との間で締結した協定に基づき、当該大学に在学する学生のうち、本大学における授業科目の履修を許可された者を特別聴講生とする。

2　特別聴講生について必要な事項は、別に定める。

(外国人学生)

第55条　日本国籍を有さず外国において通常の課程による12年の学校教育を修了した者は又はこれに準ずる者で、本学での学位取得を目的として入学を志願する者を外国人学生とする。

第55条の2　外国人学生は、特別に選考の上、教授会の議を経て学長が入学を許可する。

2　外国人学生について必要な事項は、別に定める。

(特別留学生)

第56条　日本国籍を有さず、外国において通常の課程による12年の学校教育を修了した者は又はこれに準ずる者で、本学での学位取得を目的とせず、１年以内の留学を希望する者を

特別留学生とする。

第56条の2　特別留学生とは次の各号の一つに該当するものでなければならない。

(1)　本学との海外学術協定校に在籍する者

(2)　学位授与権をもつ外国の大学に在籍する者

(3)　その他、学部長・研究科長会議で認めた者

2　特別留学生は、学部長・研究科長会議の議を経て、学長が入学を許可する。

3　特別留学生について必要な事項は、別に定める。

第57条　科目等履修生、研究生、特別聴講生、外国人学生及び特別留学生については、本章に規定するもののほか本学則の各章の規定を準用する。

第9節　公開講座

(公開講座)

第58条　本学は、技術者の再教育及び一般公衆の文化向上を期して講座を公開することがある。

第59条　(削除)

第60条　公開講座の聴講料は、必要に応じ適当と認める額を納入させることがある。

第10節　学年・学期及び休業日

(学年)

第61条　本学の学年は４月１日に始まり、翌年３月31日に終わる。

(学期)

第62条　学年を分けて、次の２学期とする。

(1)　春学期　４月１日より９月30日まで

(2)　秋学期　10月１日より３月31日まで

2　各学期における授業開始日及び授業終了日等は、年度毎に定める学年暦による。

(休業日)

第63条　本学の休業日は次のとおりとする。

(1)　日曜日

(2)　国民の祝日に関する法律に規定する休日

(3)　創立記念日(11月４日)

(4)　春季休業

(5)　夏季休業

(6)　冬季休業

2　学長は教授会の議を経て休業日を変更し、又は臨時に休業日を定めることができる。

3　第１項の休業日のうち春季、夏季及び冬季の休業日期間は別に定める。

第11節　寮及び厚生保健

(学生寮)

第64条　必要に応じ学生寮を置き、本学が管理する。学生寮に関する規則は別に定める。

(厚生寮等)

第65条　本学に教職員学生のための寮、セミナーハウス等を置く。寮、セミナーハウス等に関する規則は別に定める。

(学校医・健康診断)

第66条　本学は、学生の保健衛生に留意し体位向上を期するため、学校医を委嘱する。また、毎年度定期に健康診断を行う。

第12節　賞罰

(授業料免除)

第67条　品行方正、学力優秀、精勤で学生の範と認められた者には特待生として賞状を授け、授業料を免除することがある。ただし、特待生としての資格に欠けた場合は、その待遇は解かれるものとする。

(表彰)

第68条　在学期間中、品行方正、学力優秀等で学生の範と認められた者には表彰することができる。

(懲戒)

第69条　学生にして本学則にそむき、又は学生の本分に反する行為があった場合は、教育目的のために懲戒する。懲戒処分はその事情によって譴責、停学及び退学とする。

(退学)

第70条　次の各号の一つに該当する者は、教授会の議を経て学長が退学を命ずる。

(1)　入学誓約書に違反した者

(2)　性行不良で学生の品位を乱し、改善の見込みがないと認められた者

(3)　学力劣等で成業の見込みがないと認められた者

(4)　正当な理由がなく常に出席しない者

(5)　学校の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

第13節　除籍

(除籍)

第71条　学長は、次の各号の一つに該当する者について除籍する。

(1)　行方不明の届け出のあった者

(2)　学費の納入を怠り、督促を受けても納入しない者

(3)　第14条ただし書きに定める在籍年数を超えた者

(4)　休学期間満了となっても復学等の手続きをしない者

第3章　雑則

(雑則)

第72条　この学則の改廃は、教授会で審議し、学部長・研究科長会議の議を経て学長が行う。

附　則

昭和24年３月25日(機械工学科・土木工学科設置)
昭和25年３月１日(電気工学科増設)
昭和27年３月１日(教職課程設置)
昭和29年２月15日(建築学科・工業化学科増設)
昭和29年４月１日(教育職員免許状授与認定)
昭和29年４月１日(同上。聴講生制度認定)
昭和30年１月20日(機械工学科・電気工学科定員増)
昭和31年３月１日(二部機械工学科・電気工学科増設)
昭和34年３月１日(金属工学科・電子工学科増設)
昭和40年12月27日(機械工学第二学科・通信工学科・建築工学科・工業経営学科増設)
(機械工学科・電気工学科定員変更)
昭和43年６月21日(教授会構成員・卒業単位数変更)
昭和44年５月16日(教授会構成員変更)
昭和47年11月17日(講座制・教授会その他変更)
昭和49年４月１日(全学科定員変更及び教育職員免許状取得に関する授業科目変更)
本改正学則は昭和49年４月１日より実施する。ただし、入学検定料は昭和49年１月21日より実施し、学費は昭和49年度入学生に適用する。
昭和50年４月１日(大学院及び研究生の制度並びに抹籍処理の付加、別表１の授業科目、単位数の一部変更、一部学費の改訂及び休学中の授業料免除額の規定)
本改正学則は、昭和50年４月１日より実施する。ただし、学費及び休学中の授業料の免除額については、昭和50年度以降の入学生に適用する。
昭和51年４月１日(教育職員免許状授与に関する記載事項の修正並びに入学検定料の変更)
本改正学則は、昭和51年４月１日より実施する。ただし、入学検定料は昭和51年１月10日より実施する。
昭和52年４月１日(授業料目・単位数の一部変更並びに入学検定料の変更)
本改正学則は、昭和52年４月１日より実施する。ただし、入学検定料は昭和52年１月10日より実施する。
昭和53年４月１日(授業料目・単位数の一部の変更並びに学費の変更)
本改正学則は、昭和53年４月１日より実施する。ただし、学費は昭和53年度以降の入学生に適用する。
昭和54年４月１日(編入学・休学・復学等の条文並びに授業料目・単位数の一部変更)
昭和55年４月１日(授業料目・単位数の一部変更並びに入学検定料の変更)
本改正学則は、昭和55年４月１日より実施する。ただし、入学検定料は昭和55年１月10日より実施する。
昭和56年４月１日(授業料目・単位数の一部変更並びに学費の変更)
本改正学則は、昭和56年４月１日より実施する。ただし、学費は昭和56年度以降の入学

生に適用する。

昭和57年４月１日(授業料目・単位数の一部変更、学費納入に関する条文の修正並びに入学検定料の変更)

本改正学則は昭和57年４月１日より実施する。ただし、入学検定料は昭和57年１月10日より実施する。

昭和58年４月１日(授業科目・単位数の一部変更、教育職員免許状の資格取得に関する記載事項の修正)

昭和59年４月１日(授業料目・単位数の一部変更並びに入学検定料、学費の変更)

本改正学則は、昭和59年４月１日より実施する。ただし、入学検定料は昭和59年１月10日より実施し、学費は昭和59年度入学生に適用する。

昭和60年４月１日(授業料目・単位数の一部変更並びに学費の変更)

本改正学則は、昭和60年４月１日より実施する。ただし、学費は昭和60年度以降の入学生に適用する。

昭和60年12月25日(全学科定員変更)

本改正学則は、昭和61年４月１日より実施する。

昭和61年４月１日(定員の変更、授業料目・単位数の一部変更、一部廃寮に伴う条文修正及び入学検定料の変更)

本改正学則は、昭和61年４月１日より実施する。ただし、入学検定料は、昭和61年１月10日より実施する。

昭和62年４月１日(授業科目・単位数の一部変更)

本改正学則は、昭和62年４月１日より実施する。

昭和63年４月１日(授業料目・単位数の一部変更。)

本改正学則は、昭和63年４月１日より実施する。

平成元年４月１日(他大学等における既修得単位の認定に関する条項の追加、入学手続き時の提出書類に関する条文修正、抹籍及び再入学に関する条文の修正、授業料目の一部変更、学費・入学検定料等の変更)

本改正学則は、平成元年４月１日より実施する。

ただし、入学検定料は、平成元年１月10日より実施する。

平成２年４月１日(条文(第９条第２項、第21条)、授業科目・単位数の一部、教職課程に関する授業科目等及び学費の変更)

本改正学則は、平成２年４月１日より実施する。

ただし、学費は平成２年度入学生に適用する。

平成３年４月１日(新学部設置による変更)

学則条文の整理、別表(入学定員、授業科目等、卒業要件、学費等)の変更。

この学則(改正)は、平成３年４月１日から施行する。ただし、学費および入学検定料は平成３年度入学生より適用する。

平成３年10月１日(学費の一部変更)

本改正学則は平成３年10月１日より実施する。

平成４年４月１日(大学設置基準の改正に伴う学則条文の一部改正、別表の収容定員、授業科目・単位数、卒業要件及び学費等の一部変更)

この学則(改正)は、平成４年４月１日から実施する。

ただし、第９条、第18条、第34条に係る事項は次の通りとする。

１．第９条の別表１は、この規程にかかわらず、平成４年度から平成11年度までの入学定員を次表の通りとする。

期間付入学定員

工学部	学科名	入学定員
一部	機械工学科	90名
	機械工学第二学科	90名
	材料工学科	90名
	工業化学科	90名
	電気工学科	90名
	通信工学科	90名
	電子工学科	90名
	土木工学科	90名
	建築学科	90名
	建築工学科	90名
	工業経営学科	90名
	合計	990名

２．第18条は、平成４年３月18日より実施する。

３．第34条の別表第５は、平成４年度入学生より適用する。

平成５年４月１日(別表の授業科目・単位数、卒業要件、学費等の一部変更)

この学則(改正)は、平成５年４月１日から実施する。

ただし、第34条の別表第５は、平成５年度入学生より適用する。

平成６年４月１日(学則条文第13条、第24条、第46条、第48条、第49条、第50条、第51条、第52条、第53条の一部改正、別表の授業科目・単位数、学部・学科別卒業要件、納入金等の一部変更)

この学則(改正)は、平成６年４月１日から実施する。

平成７年４月１日(二部新学科設置に係る学則条文第４条、収容定員の減少(修学年数の変更)に係る学則条文第11条、第28条の一部改正。別表の収容定員、授業科目・単位数、学部・学科別卒業要件、納入金等の一部変更)

この学則(改正)は、平成７年４月１日入学生より適用する。

ただし、第９条の別表１は、この規程にかかわらず、平成７年度から平成10年度までの

工学部二部機械工学科・電気工学科の収容定員は、次の通りとする。

学部	年度	機械工学科	電気工学科
工学部二部	平成7年度	400名	400名
	平成8年度	400名	400名
	平成9年度	400名	400名
	平成10年度	400名	400名

平成８年４月１日(学科名称変更に係る学則条文第４条の一部変更。学則条文第13条の一部改正。別表の収容定員。工学部授業科目(教職課程を含む)単位数、学部・学科別卒業要件、納入金等の一部変更)

(経過措置)

工学部一部金属工学科は、平成８年３月31日に当該学科に在学するものが当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

この学則(改正)は、平成８年４月１日から実施する。

平成９年４月１日(学則条文第７条の一部改正、第８条の削除、別表の授業科目、単位数、学部・学科別卒業要件、納入金等の一部変更)

この学則(改正)は、平成９年４月１日から実施する。

ただし、第34条の別表５は平成９年度入学生より適用する。

平成10年４月１日(学則条文第６条並びに第46条の一部改正、別表の授業科目、単位数、学部・学科別卒業要件、納入金等の一部変更)

この学則(改正)は、平成10年４月１日から実施する。

ただし、第34条の別表５は平成10年度入学生より適用する。

また、第６条の学術情報センターについては平成10年２月１日より適用する。

平成11年４月１日(別表の授業科目・単位数、卒業要件、学費等の一部変更)

この学則(改正)は、平成11年４月１日から実施する。

ただし、第34条の別表５は平成11年度入学生より適用する。

平成12年４月１日(システム工学部電子情報システム学科の定員の変更、工学部一部の臨時定員の延長および恒常化入学定員の変更、授業科目・単位数、卒業要件及び学費等の一部変更)

この学則は、平成12年４月１日から実施する。

ただし、第９条、第34条に係わる事項は次の通りとする。

１．第９条の別表１は、この規程にかかわらず、平成12年度から平成15年度までの入学定員を次表の通りとする。

期間付入学定員

工学部一部	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度
機械工学	89名	88名	87名	86名

科				
機械工学第二学科	89名	88名	87名	86名
材料工学科	89名	88名	87名	86名
工業化学科	89名	88名	87名	86名
電気工学科	89名	88名	87名	86名
通信工学科	89名	88名	87名	86名
電子工学科	89名	88名	87名	86名
土木工学科	89名	88名	87名	86名
建築学科	89名	88名	87名	86名
建築工学科	89名	88名	87名	86名
工業経営学科	89名	88名	87名	86名

２．第34条の別表５は、平成12年度入学生から適用する。

平成13年４月１日(学科名称変更に係る学則条文第４条の一部変更。別表の収容定員。授業科目(教職課程を含む)、単位数、学部・学科別卒業要件、納入金等の一部変更)

(経過措置)

工学部一部工業化学科及び工業経営学科は、平成13年３月31日に当該学科に在学するものが当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

この学則(改正)は、平成13年４月１日から実施する。

ただし、第34条の別表５は平成13年度入学生より適用する。

平成14年４月１日(学則条文第32条、第38条、第46条、第67条の一部改正。別表の授業科目(教職課程を含む)、単位数、学部・学科別卒業要件、納入金等の一部変更。)

この学則(改正)は、平成14年４月１日から実施する。

ただし、第34条の別表５は平成14年度入学生より適用する。

平成15年４月１日(工学部の収容定員の増加に係る学則条文第４条の一部変更。別表の収容定員。工学部の名称及び入学定員の変更、工学部二部２学科の廃止、授業科目・単位数、学部・学科別卒業要件、教育職員免許状の種類・教科の一部変更。学則条文第10条、第24条の一部改正、別表の納入金等の一部変更。)

(経過措置)

工学部一部及び工学部二部機械工学科・電気工学科は、平成15年３月31日に当該学部・学科に在学するものが当該学部・学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

この学則(改正)は、平成16年４月１日から実施する。

ただし、第34条の別表５は平成15年度入学生より適用する。

平成16年４月１日(工学部の収容定員の増加に係る学則条文第４条の一部変更。別表１の収容定員、入学定員の変更。工学部二部１学科の廃止に係わる学則第29条、第34条、別表２の授業科目・別表４の単位数等の一部変更。学費に係わる別表５の一部変更。)

(経過措置)

工学部二部電気設備学科は、平成16年３月31日に当該学部・学科に在学するものが当該学部・学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

この学則(改正)は、平成16年４月１日から実施する。ただし、第34条の別表５は平成16年度入学生より適用する。

平成17年４月１日(学則条文第８条の追加、第29条の一部改正。別表５の納入金等の一部改正。)

この学則(改正)は、平成17年４月１日から実施する。ただし、第29条の休学期間中の学費の取扱は、平成17年度の在籍者から適用する。

平成18年４月１日(学則条文第３条の変更、第10条、第46条の一部改正。別表２の工学部授業科目、別表３のシステム工学部授業科目、別表４の学部・学科別卒業要件、別表５の納入金等の一部改正。)

この学則(改正)は、平成18年４月１日から実施する。

平成19年４月１日(学則条文第38条並びに第43条の一部改正。別表２の工学部授業科目、別表３のシステム工学部授業科目、別表４の学部・学科別卒業要件、別表５の納入金等の一部改正。)

この学則(改正)は、平成19年４月１日から実施する。

平成20年４月１日(学則条文第１条、第４条、第18条、第34条、第36条、の一部改正。別表１収容定員、別表２の工学部授業科目、別表３システム工学部授業科目、別表４の学部学科別・卒業要件の変更、別表５の納入金の一部改正、別表６学位の種類の追加。)

この学則(改正)は、平成20年４月１日から施行する。

平成21年４月１日(学則条文第29条、第46条、別表６の一部改正。デザイン工学部設置、システム工学部数理科学科設置、工学部機械工学第二学科名称変更、システム工学部名称変更、収容定員の変更に係る学則第４条、第10条、第17条、第18条、第34条、第51条の一部改正。別表１収容定員、別表２の工学部授業科目、別表３システムの工学部授業科目、別表４のデザイン工学部授業科目、別表５学部学科別・卒業要件の変更、別表７学位の種類の一部追加ならびに改正。)

工学部機械工学第二学科は、平成21年３月31日に当該学科に在学するものが当該学科に

在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

システム工学部は、平成21年３月31日に在学するものが、当該学部に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

この学則(改正)は、平成21年４月１日から実施する。

ただし、別表６納入金の取り扱いは、平成21年度の在籍者から適用する。

平成22年４月１日(条項に項目(見出し)を追加。認証評価に係る学則第１条の３の追加。SIT総合研究所に係る学則第７条の２の追加。学部等における教育研究上の目に係る学則第10条の追加。教育課程編成方針に係る学則第11条の追加。成績評価基準等の明示等に係る学則第12条の追加。教育内容等改善のための組織的研修等に係る学則第15条の追加。学則条文第21条、第30条、第63条の一部改正。学則第65条と第66条の入れ替え。学部等における教育研究上の目に係る別表２の追加。別表３工学部授業科目、別表４システム理工学部授業科目、別表５のデザイン工学部授業科目、別表６学部学科別・卒業要件の変更。)

この学則(改正)は、平成22年４月１日から適用する。

平成23年４月１日(学長に係る学則第43条の追加。公開講座に係る学則第59条の削除。学期係る学則第62条第２項の追加。別表２芝浦工業大学における教育研究上の目的、別表３工学部授業科目、別表４システム理工学部授業科目、別表５デザイン工学部授業科目、別表６学部学科別・卒業要件の変更。)

この学則(改正)は、平成23年４月１日から適用する。

平成24年４月１日(学則条文第８条の変更。別表２学部等における教育研究上の目的、別表３工学部授業科目、別表４システム理工学部授業科目、別表５デザイン工学部授業科目、別表６学部学科別・卒業要件の変更。)

この学則(改正)は、平成24年４月１日から実施する。

教育イノベーション推進センター設置にともない教育支援センターは廃止する。

平成25年４月１日別表２学部等における教育研究上の目的、別表３工学部授業科目、別表４システム理工学部授業科目、別表５デザイン工学部授業科目、別表６学部学科別・卒業要件の変更。学則条文第８条の変更)

この学則(改正)は、平成25年４月１日から実施する。

平成26年４月１日(学則第11条の２に副専攻プログラムを追加。学則第16条の一部改正。学則第23条入学時期の一部改正。別表２学部等における教育研究上の目的、別表３工学部授業科目、別表４システム理工学部授業科目、別表５デザイン工学部授業科目、別表６学部学科別・卒業要件の変更。)

この学則(改正)は、平成26年４月１日から実施する。

平成27年４月１日(学校教育法および同施行規則改正に伴う変更)学則第43条学長の権限と責任、及び同第43条の２副学長職務についての追加。同44条から同48条まで教授会の役割について改正および一部削除。同50条大学協議会の役割について一部改正。

この学則(改正)は、平成27年４月１日から実施する。

平成28年４月１日(学則第３条の変更。先端工学研究機構に係る学則第７条の１及び２の削除。学則第16条を単位、各授業科目の授業期間、授業の方法に分類。学則第16条２に卒業論文等の授業科目に係わる単位数及び履修科目として登録できる単位数上限を追加。学則第16条の３に授業の方法を追加。学則第17条の一部改正。学則第18条の２の一部改正。学則第21条の一部改正。学則第24条の一部改正。学則第27条の一部改正。学則第28条の一部改正。学則第31条の一部改正。別表３工学部授業科目、別表４システム理工学部授業科目、別表５デザイン工学部授業科目の変更。)

この学則(改正)は、平成28年４月１日から実施する。

平成28年６月15日(学則第43条の３を追加)

この学則(改正)は、平成28年６月15日から実施する。

平成28年６月15日(学則第44条の２を追加)

この学則(改正)は、平成28年６月15日から実施する。

平成28年６月15日(学則第48条の(6)学部長選挙に関する事項の削除)

この学則(改正)は、平成28年６月15日から実施する。

平成29年４月１日(建築学部設置及び収容定員の変更に係る学則第４条、第13条、第21条、第22条、第38条、第50条の２、第55条の改正。別表１収容定員、別表２教育研究上の目的、別表６建築学部授業科目、別表７学部・学科別卒業要件、別表８納入金、別表９学位の種類の一部追加ならびに改正。)

工学部建築学科及び建築工学科は、平成29年３月31日に在学するものが、当該学部に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

この学則(改正)は、平成29年４月１日から実施する。

平成30年４月１日(工学部通信工学科名称変更に係る学則条文第４条の一部変更。別表の収容定員、授業科目(教職課程を含む)、単位数、学部・学科別卒業要件、納入金等の一部変更)、当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。第７節　大学協議会廃止に係わる学部長・研究科長会議の役割について一部改正。第８節　科目等履修生・委託生・研究生の一部改正および項目削除。

この学則(改正)は、平成30年４月１日から実施する。

平成31年４月１日(兵役義務により休学する場合の学費免除に係る第32条第１項、第33条の一部改正)

この学則(改正)は、平成31年４月１日から実施する。

令和２年４月１日(工学部先進国際課程の設置に係わる学則条文第４条、10条、27条、28条、別表１収容定員、別表２芝浦工業大学における教育研究上の目的、別表３工学部授業科目(教職課程含む)、別表７学部・学科別卒業要件、別表８納入金、別表９学位の種類の一部追加ならびに改正)

この学則(改正)は、令和２年４月１日から実施する。

令和３年４月１日(別表７工学部・システム理工学部・建築学部卒業要件の一部追加ならびに

改正)

この学則(改正)は、令和３年４月１日から実施する。

令和４年４月１日(休学に係わる学則条文第32条、休学期間中の学費に係わる学則条文第33条の一部変更。別表３工学部授業科目、別表４システム理工学部授業科目、別表５デザイン工学部授業科目、別表６建築学部授業科目、別表７工学部・システム理工学部・デザイン工学部・建築学部卒業要件、別表８納入金の一部追加ならびに改正)

この学則(改正)は、令和４年４月１日から実施する。ただし、第33条休学期間中の学費の取扱は、令和４年度の在籍者から適用する。

令和５年４月１日(自己点検・評価等に係わる学則条文第１条の２、設置等に係わる学則条文第３条の住所、教育課程に係わる学則条文第13条別表３工学部授業科目、別表４システム理工学部授業科目、別表５デザイン工学部授業科目、別表６建築学部授業科目、卒業認定に係る学則条文第21条別表７システム理工学部卒業要件、学費等に係る学則条文第38条別表８科目等履修生の学費等の一部改正)

この学則(改定)は、令和５年４月１日から実施する。

令和６年４月１日(学校教育法施行規則第165条の２第１項に定める方針に係わる学則条文第１条の４、学部等における教育研究上の目的及び方針に係わる学則条文第10条、教育課程の編成に係わる学則条文第11条、授業期間に係わる学則条文第16条の２、芝浦工業大学における三つの方針に係わる別表２―１、学部等における教育研究上の目的及び方針に係わる別表２―２、工学部５課程の設置に係わる学則条文第４条、別表１収容定員、別表３工学部授業科目(教職課程含む)、別表７学部・課程・学科別卒業要件、別表９学位の種類の一部追加ならびに改正)工学部機械工学科及び機械機能工学科・材料工学科・応用化学科・電気工学科・情報通信工学科・電子工学科・土木工学科・情報工学科は、令和６年３月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

この学則(改定)は、令和６年４月１日から実施する。

この学則(改定)は、令和７年４月１日から実施する。

この学則(改定)は、令和８年４月１日から実施する。

別表

別表1……収容定員

別表2―1……芝浦工業大学における三つの方針

別表2―2……学部等における教育研究上の目的及び方針

別表3……工学部授業科目(教職課程含む)

別表4……システム理工学部授業科目(教職課程含む)

別表5……デザイン工学部授業科目(教職課程含む)

別表6……建築学部授業科目

別表7……学部・課程・学科別卒業要件

別表8……納入金

別表9……学位の種類

別表1

収容定員

学部	課程・学科名	入学定員	収容定員
工学部	機械工学課程	228	912
	物資化学課程	208	832
	電気電子工学課程	208	832
	情報・通信工学課程	218	872
	土木工学課程	104	416
	先進国際課程	9	36
	合計	975名	3,900名
システム理工学部	電子情報システム学科	115	460
	機械制御システム学科	90	360
	環境システム学科	90	360
	生命科学課程	180	720
	数理科学科	75	300
	合計	550名	2,200名
デザイン工学部	デザイン工学科	160	640
	合計	160名	640名
建築学部	建築学科	240	960
	合計	240名	960名

別表2―1

芝浦工業大学における三つの方針

大学の目的

本学は教育基本法及び学校教育法の定めるところにより、学術の中心として深く工学の研究を行い世界文化に貢献し、併せて広く一般の学術教養と専門の工業教育を施すことにより、学生の人格を陶冶し、学理を究めさせ体位の向上を図り、もって優秀なる技術者を養成することを目的とする。

(芝浦工業大学学則第１条第１項)

三つの方針	
卒業の認定に関する方針 (ディプロマ・ポリシー)	芝浦工業大学は、理工学の基礎知識及び幅広い専門分野の知識を活用して、持続型社会の実現のために世界の諸問題を解決できるとともに、建学の精神に謳われる社会に貢献する理工学人材にふさわしい能力を有し、卒業要件を満たしたものに学位を授与します。 (学修・教育目標) ・世界と社会の多様性を認識し、高い倫理観を持った理工学人材として行動できる。 ・問題を特定し、問題解決に必要な知識・スキルを認識し、不足分を自己学修し、社会・経済的制約条件を踏まえ、基礎科学と専門知識を運用し、問題を解決できる。 ・関係する人々とのコミュニケーションを図り、チームで仕事ができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	芝浦工業大学は、学位授与の方針に掲げる知識・スキル・能力・態度を修得させるため、講義、演習、実験、実習により体系的にカリキュラムを編成します。学生の主体的・能動的な学修・研究を促す教育方法を実施し、その学修成果を多面的に評価し、学生の振り返りを促すことにより、学修・教育到達目標を達成します。
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	芝浦工業大学へ入学を志望する受験生は、本学の建学の精神と以下に挙げる「求める人物像」を理解し、さらに各学部の教育方針、学科のカリキュラム、教育および研究の内容をよく理解して出願することが望まれます。 本学が求める人物像を以下に示します。 ・本学での学修、研究を強く希望し、本学で自己成長・自己実現を成そうと希望する人。 ・数学および自然科学(物理学、化学、生物学などの科目)の基礎を学び、理工学と科学技術に対して強い興味関心を持ち、将来この学問を通じて我が国と世界の持続的発展に貢献しようという意思を持つ人。 ・大学において幅広い教養と経験、さらにコミュニケーション能力を身につけ、世界が多様であることを意識しながら市民社会の一員としての責務を自覚し、人類の進歩と地球環境の保全に尽くすとの気概を持つ人

	上記に賛同し、本学への入学を希望する人は、高等学校等において以下の能力等を身につけておくことが望まれます。 (1)　高等学校等の課程で学ぶ知識・技能(特に外国語、数学、理科) (2)　思考力・判断力・表現力等の能力 (3)　主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度 ・一般選抜の前期日程、英語資格・検定試験利用方式、全学統一日程、後期日程では、(1)及び(2)を評価します。 ・一般入試の大学入学共通テスト利用方式では、多科目の成績により(1)及び(2)を評価します。 ・総合型選抜では、筆記試験や外部検定試験などにより(1)及び(2)を評価し、面接や口頭試問などにより(1)及び(2)、(3)を総合的に評価します。 ・学校推薦型選抜では、調査書や外部検定試験などにより(1)及び(2)を評価し、面接や口頭試問などにより(1)及び(2)、(3)を総合的に評価します。

別表2―2

学部等における教育研究上の目的及び方針

1　工学部

人材の育成及び教育研究上の目的
工学部では、現代社会が抱える様々な課題を自ら発見、解決する工学技術者を養成するため、確かな基礎学力に基づく各専門分野の高い専門能力に加え、工学部内の多彩な専門分野を横断的に学べる新たな教育プログラムにより学際的な思考能力を涵養する。さらに、修得した分野横断的知識に加え、研究を軸とした実践型教育により課題解決能力を高め、様々な課題の本質を捉え、学際的アプローチにより解決する能力を涵養し、持続可能な社会の発展に、多様な価値観と高い倫理観をもって貢献する創造性豊かな人材を養成する。 具体的には、卒業までに以下に挙げる能力を持った人材を養成することを教育研究上の目的とする。 ・工学専門教育の修得に必要な基礎学力・教養を身に付けている。 (豊かな教養を涵養する学修) ・工学の専門知識と論理的思考法を体系的に学び、身に付けている。 (工学知識の体系的学修) ・複数分野の知識を修得し、学際的な思考能力を身に付けている。 (分野横断的知識の修得) ・研究を通じ、課題を発見・解決し、未踏分野に挑戦できる力を身に付けている。 (創造性の育成) ・社会の要求、多様な価値観を理解し、他者と協働して主体的に行動できる能力を身に付けている。(他者との共生)

三つの方針	
卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)	工学部は、確かな基礎学力に基づく高い専門能力を備え、社会が抱えるさまざまな課題を発見・解決することで、持続可能な社会の発展に貢献する創造性豊かな人材を育成します。そして以下の能力を身に付けて卒業要件を満たした者に、学位を授与します。 1. 豊かな人格形成の基本と基礎的な学力を備え、課題を自ら発見し、関係する人々と意思疎通を図りながら協働できる。 2. 工学の本質の体系的な理解に加え、分野横断的な知識による多様な手法によって課題の核心に迫り、その解決方法を導き出せる。 3. 工学技術者教育や研究を軸とした実践型教育を通じ、社会の多様性を認識して高い倫理観を持った理工学人材として行動できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)	工学部ではディプロマ・ポリシーに掲げる能力を身に付けるため、以下の教育課程の編成、教育内容・方法および学修成果の評価に基づいた教育を実施します。 教育課程の編成 教育課程を「基礎・教養科目」と「専門科目」に区分し、工学を体系的に学修できるように科目を以下のように配置する。 「基礎・教養科目」は、「数理基礎科目」「英語科目」「情報科目」「人文社会系教養科目」「体育健康科目」「工学部共通教養科目」の細区分で構成した科目を配置する。また「専門科目」は、「工学部共通専門科目」「自コース専門科目」「他コース専門科目」の細区分で構成した科目を配置する。 教育内容・方法の実施 ・技術者として必要な基礎能力を得るため、各科目で質の高い授業を展開する。 ・「数理基礎科目」「英語科目」「情報科目」「人文社会系教養科目」により、工学の専門教育の修得に必要な基礎学力・教養・倫理観を涵養する。 「体育健康科目」「工学部共通教養科目」により社会の要求、多様な価値観を理解し、他者と協働して主体的に行動できる能力を育成する。 ・「専門科目」では工学の専門知識と論理的思考法を体系的に学び、身に付ける。また未踏分野に挑戦し、社会における課題を自ら発見、社会の多様性を認識しながら他者と協働して解決できる創造性豊かな技術者を養成するため、研究を軸とした実践型教育を実施する。 ・複数分野の知識を修得した学際的な思考能力を養成するため、技術者に必要な分野横断的知識を学修する。具体的には、所属するコースの専門科目に加えて所属するコース以外の専門科目履修も可能とする。 ・カリキュラムツリーを示し、学修・教育到達目標に応じた科目履修の理解を促す。

	学修成果の評価 ・単位制を採用し、学修成果を総合的に評価する。 ・各コースに設定した学修・教育到達目標、各授業科目の達成目標に対して、学修成果が一定のレベルに達した際に単位を付与する。 ・所属するコース以外からの専門科目を履修し、所定の条件を満たした場合に副コース認定を行う。
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	工学部では知識偏重教育ではなく、実践型教育による課題解決型人材の輩出に力点を置いた教育を行なっています。そのため、本学の建学の精神と工学部の教育方針、各コースのカリキュラム、教育・研究の内容をよく理解した、以下のような学生を求めます。 (工学部が求める人物像) ・工学部での学修・研究を強く志望し、関連する教育分野における基礎学力を身に付けた人 ・工学各分野における技術と、その基礎・応用に興味がある人 ・実際に対象に触れ、実践的に学修・研究することに価値を見出す人 ・国際的な視野を持って社会の課題解決に主体的に取り組み、人類や社会の持続的発展に貢献しようという意志を持つ人

課程

課程名	人材の育成及び教育研究上の目的
機械工学課程	科学技術の現状や社会の要望をグローバルな視点で捉え、環境や感性との調和に配慮しながら、機械工学の学理を用いて有用な機械やシステムを創成できる人材を養成する。 具体的には、卒業までに以下のような人材を養成することを教育研究上の目的とする。 ・機械工学に関わる数理知識を用いて機械のメカニズムを理解する能力と、それらを活用して有用な機能を創成できる設計能力を身に付けている。 ・社会や環境との関わりに配慮して機械工学の必要性を常に見直すことができる倫理観および責任感を持ち、グローバルな視点から多面的に科学技術を捉える能力を身に付けている。 ・工学的な問題に対して機械工学の見地から取り組むべき事柄を整理し、与えられた条件の下で様々な分野の知識を関連付けて課題解決に適用できる能力を身に付けている。 ・地球的視野から科学技術の現状を捉えて能動的に考え分析し、社会の発展に向けて行動することができる研究推進能力を身に付けている。 ・多様性を尊重し他者と協調して活動できる能力と、意思疎通を図りながら自らの判断や意見について説明できるコミュニケーション能力を身に付けている。

	・技術的課題の探求に関心を持ち、情報環境等を利用して継続的に自己学修できる能力を身に付けている。
物質化学課程	環境・物質工学分野ならびに化学・生命工学分野における広範囲な産業界に適用し、柔軟な対応力に加え、即戦力、実践力を持って活躍できる人材、社会の財産となりうる人材を養成する。 具体的には、卒業までに以下のような人材を養成することを教育研究上の目的とする。 ・物質化学を基盤とする自然科学ならびに工学にかかわる幅広い視野を育み、広範囲な領域の課題を探求する姿勢と技術を身に付けている。 ・物質化学の体系的な理解・整理と生産技術の開発・管理を基に、環境保全や生命工学を含めた分野における課題を見出し、問題を解決する能力を身に付けている。 ・物質化学の幅広い分野において、境界領域や融合領域および未踏科学分野に、創造力を持って積極的に取り組む姿勢や能力を身に付けている。 ・高度な知性に加え、産業界での即戦力となる創造性豊かな実践力を身に付けている。 ・社会における責任感と倫理感、他者との協力・協働の姿勢を基に、社会貢献できる能力を身に付けている。
電気電子工学課程	技術の進歩に対応して主体的に活動できる人間性豊かな人材、電気電子分野の技術をもって、持続的な社会の構築に貢献できる人材を養成する。 具体的には、卒業までに以下のような人材を養成することを教育研究上の目的とする。 ・電気電子工学に関わる専門分野の基本知識を有し、これらを用いて、技術者として当該分野の問題を分析し、その問題解決のために応用できる力を身に付けている。 ・自らの意見を文書あるいは口頭説明で他者に論理的に説明する、他者が発信した情報や意見を理解することができ、自らの意図を実現できるプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を身に付けている。 ・チームの一員として自己のなすべき行動を理解し実行できる協調性、自らの活動の結果が社会および環境に及ぼす影響を認識できる倫理観、および社会から付託されている責任を理解し実務の場で技術者倫理に基づいた行動ができる責任感を身に付けている。
情報・通信工学課程	コンピュータと情報通信を利用して人間の社会と生活を豊かにする技術を体系的に広く学ぶことを教育の目的とし、時代に左右されない技術の基盤を支える普遍的な基礎学力を身に付けた技術者を養成する。 具体的には、卒業までに以下のような人材を養成することを教育研究上の目的と

	する。 ・技術の基盤を支える数学と物理などの自然科学の基礎学力を身に付けている。 ・情報・通信工学の基本的な考え方と基礎技術、およびそれらを創造的に応用して課題を解決する能力を身に付けている。 ・情報技術・情報通信技術が社会に及ぼす影響や制約条件を考えながらシステムの設計・実装を行うことで課題を解決する能力を身に付けている。 ・幅広い教養と豊かな人間性を基に、地球的視点からの広い視野を持って課題に自律的に取り組み探求する能力を身に付けている。 ・技術者として必要な他者とのコミュニケーションの能力を身に付けている。
土木工学課程	グローバルな視点で持続可能な社会に貢献できる創造性豊かな土木技術者の育成を目指す。土木工学の対象である「人」、「自然」、「モノ」が相互に影響する社会基盤システムを大局的に捉える能力と集団の中での自己の役割と責任の自覚をもつ人材を養成する。 具体的には、卒業までに以下のような人材を養成することを教育研究上の目的とする。 ・真に市民の立場に立った都市づくりを行える姿勢や能力を身に付けている。 ・科学技術と土木工学の専門知識を基礎とした問題を分析、洞察、解決する能力を身に付けている。 ・自然や社会の環境変化に対処する能力と創造力を身に付けている。 ・日本のみならず国際社会での指導力と倫理観に基づく行動力を身に付けている。
先進国際課程	工学、理学など広く学問を統合することをもって、持続的社会の構築に貢献できる人材を育成することを目的とする。特に、多様な価値観のもと産業と技術革新基盤を創造できる人材の育成に重点を置く。

2　システム理工学部

人材の育成及び教育研究上の目的
システム理工学部は、幅広い教養、国際性及び理工学に対する体系的な知識を身に付け、総合的問題解決のためのシステム工学の思考と手法を活用して持続可能な社会の構築に貢献できる人材を養成することを目的とする。

三つの方針	
卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)	システム理工学部は、理工学の基礎知識と幅広い専門分野の知識に加え、学問体系を横断し関連づけるシステム工学の手法、すなわち総合的解決策を追求する「システム思考」、目標達成の機能を作る「システム手法」、および問題解決の人・知識・技術を統合する「システムマネジメント」を修得し、地域と人類社会の発展に貢献する高い倫理観を持ち、卒業要件を満たしたものに学位を授与します。 (学修・教育到達目標) 1. 地球的観点から多面的に物事を考える幅広い教養を備え、他分野・異文化と相互理解・交流し、社会や世界の問題解決に取り組み、高い倫理観を持った理工学人材として行動できる。 2. 科学技術の知識を修得するとともに、これを総合して問題解決するまでの行動計画を推進するためのシステム思考を修得し、問題を発見し、総合的解決策を導き出すことができる。 3. 社会の問題解決に必要なシステム工学の理論とその運用能力を備え、人・知識・技術をマネジメントし、関係する人々とのコミュニケーションを図りながらチームで仕事ができる。 4. 専門的知識とその運用能力を備え、問題解決に必要な知識・スキルを認識し、不足分を自己学修し、問題を解決できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)	システム理工学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、学問体系を横断し関連づけるシステム工学の手法と、専門的知識を深めるための学科専門教育を体系的に学修・研究するための手法により、教育プログラムを実施しています。この教育プログラムは、全学共通科目、共通科目、専門科目の講義、演習、実験、実習で構成されています。学部理念の核となる共通科目のシステム工学教育では、学生の主体的・能動的な学修を促すために、プロジェクトを通した演習と講義の組み合わせにより実践と経験を繰り返して学修していくカリキュラムを編成しています。カリキュラムは、次の科目群で編成され、その学修成果を多面的に評価し、学生の振り返りを促すことで学修・教育到達目標を達成します。 1. 全学共通科目　建学の精神に則り教養を養う。 2. 共通科目　システム理工学部生として共通に有すべき基礎力の育成 2―1　教職科目　教育職に関する専門的知識と技能、実践的指導力を修得し、豊かな人間性を養う。 2―2　総合科目　幅広い教養と他分野・異文化の理解力を修得 2―3　基礎科目　理工学人材の基盤となる数学、物理、化学、生物学の修得

	2―4　システム・情報科目　社会の問題解決に必要な情報リテラシーとシステム工学理論を　修め、グループワークによる解決力を養成 3. 専門科目　専門的知識を深める。 3―1　学科専門科目　学科特有の専門的知識を深める。 3―2　総合研究　各自が設定したテーマを解明、解決策を導く。
入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)	システム理工学部は、分野横断教育を特徴としています。本学部への入学を志望する受験生は、以下に挙げる「求める人物像」及び本学部の教育方針、学科のカリキュラム、教育・研究の内容をよく理解して出願することが望まれます。 (システム理工学部が求める人物像) 1.　身の回りにあるさまざまな「もの」や「こと」の仕組みや成り立ちに関心を持ち、それについて深く考え、問題点を解明することに興味を持っている人。 2.　他学科の学生とチームを組んで課題に取り組むなど、システム理工学部における学科の枠を超えた演習科目に興味を持ち、主体的であり積極的に学修することに強い意欲を持っている人。 3.　システムを構成する要素のつながりを重視した付加価値のある「ものづくり」や「新たな枠組みづくり」に携わることを通じて社会に貢献する意志を持っている人。 上記に賛同し、本学部への入学を志望する人は、高等学校等において芝浦工業大学アドミッション・ポリシーに定める(1)～(3)の能力を身につけておくことが望まれます。

システム理工学部　課程

養成する人材像
持続可能な社会の実現に貢献するために、科学技術が社会や自然に及ぼす利点と欠点を見据えて、ひと・もの・ことが関係する現象をシステムと捉え（システム思考）、総合的、学際的に問題解決できる知識やスキルを修得し、世界に貢献する職業人としての倫理観をもつグローバル理工系人材を養成する。

教育研究上の目的
地球規模で複雑化、多様化する現代社会において、諸問題を総合的、学際的に解決できる力が必要とされている。 システム理工学部は、複数の学問体系を横断し関連付けるシステム思考とシステム工学の知識と手法を生かし、新たな時代の要請に応え、地域と人類社会の発展に寄与する教育研究を行う。幅広い教養と国際性を礎にした分野横断型の教育を通して、体系的な理工学の知識や自ら行動し多様な人々と共創できる能力を身につけたグローバル理工系人材を養成することを目的とする。

三つの方針	
卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)	システム理工学部は、持続可能な社会の実現に貢献するために、科学技術が社会や自然に及ぼす利点と欠点を見据えて、ひと・もの・ことが関係する現象をシステムと捉え（システム思考）、総合的、学際的に問題解決できる知識やスキルを修得し、世界に貢献する職業人としての倫理観を持ち、卒業要件を満たした者に学位を授与します。学修・教育到達目標 以下に示す能力と行動特性を有した世界に貢献するグローバル理工系人材を養成するために、学修・教育到達目標を定めます。 総合的、学際的な知識や能力 ・目的の達成へ向けて取り組むべき具体的な課題を設定し、対象とするひと・もの・ことが関係する現象をシステムとして捉えることができる。（システム思考） ・システム思考を用いて、包括的な解決策を導き出すことができる。（システム工学） ・社会の具体的な課題を解決するアイデアをかたちにし、社会実装に向けて行動できる。（アントレプレナーシップ） ・新たな課題の解決に必要な知識やスキルを認識し、自らの可能性を広げる学習を継続できる。（生涯学習能力） 基礎教養力 ・自然科学、人文・社会科学、情報技術等に関する知識を修得し、課題の解決に応用できる。 ・グローバルな視点から多面的にひと・もの・ことを考える幅広い視野と教養を身につけ、諸問題を多面的かつ客観的に扱うことができる。 ・科学技術が社会や自然に及ぼす便益とリスク、技術者・科学者が社会に対し負うべき責任を理解し、社会に貢献する職業人としての倫理観に基づき行動できる。 専門知識を応用できる能力 ・主軸となる分野の専門知識を修得し、問題解決に応用できる。 ・主軸となる分野の専門知識を他分野と関連付ける分野横断型の知識と行動力を修得し、社会で活用できる。 コミュニケーション能力 ・目標を達成するために、関係する人々と相互の知識や技術を関連付け合いながら、一人ひとりが最大の力を発揮するチームを形成し活動できる。 ・技術文書の作成、口頭発表、討論等のコミュニケーションができる。 ・英語の技術文書を理解、作成し、技術者・科学者と英語でコミュニケーションができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)	システム理工学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、学問体系を横断し関連付けるシステム思考とシステム工学の知識、学修者の主軸となる専門知識と他分野を関連付ける分野横断型の知識、そして自ら行動し多様な人々と共創できる能力を修得します。カリキュラムは、「学際科目」、「基礎教養科目」、「専門科目」で構成しています。専門科目は、新たな価値を創生し、社会に貢献する職業人としてのキャリア形成に必要となるスキルに紐づけられます。スキルに紐づけられた科目のセット（モジュール）を組み合わせることで、主軸となる分野の専門知識と他分野を関連付け問題解決するための能力を修得することもできます。 各科目の学修成果を多面的に評価し、学生の振り返りを促すことで学修・教育到達目標を達成します １．学際科目 ・システム工学 取り組むべき具体的な課題を設定し、目的達成に向けて、関連するひと・もの・ことの諸現象をシステムと捉え（システム思考）、総合的、学際的に解決策を導き出すためのシステムズアプローチの方法論と、プロジェクト活動によりチームで共同 して活動できる能力を養成する。 ・SDGs・キャリアデザイン 持続可能な社会の構成員としての職業人生を主体的・能動的にデザインし、実現に向けて行動するためのスキルを養成する。 ・アントレプレナーシップ 社会の具体的な課題を解決するアイデアをかたちにし、社会実装に向けて行動できるスキルを養成する。 ２．基礎教養科目 ・理数・情報 自然科学、情報技術等に関する基礎知識を養成する。 ・社会科学・人文科学・保健体育・英語 英語、職業倫理 、幅広い視野と教養を養成する。 ３．専門科目 ・主軸となる分野の専門知識を修得し、課題の解決に応用できる能力を養成する。 ・主軸となる分野の専門知識を他分野と関連付ける能力を養成する。 ・総合研究では、各自が設定したテーマについての問題を解明し、具体的な解決

	策を導く能力を修得し、総合的、学際的に問題解決できる能力を養成する。システム理工学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、学問体系を横断し関連づけるシステム工学の手法と、専門的知識を深めるための学科専門教育を体系的に学修・研究するための手法により、教育プログラムを実施しています。この教育プログラムは、全学共通科目、共通科目、専門科目の講義、演習、実験、実習で構成されています。学部理念の核となる共通科目のシステム工学教育では、学生の主体的・能動的な学修を促すために、プロジェクトを通した演習と講義の組み合わせにより実践と経験を繰り返して学修していくカリキュラムを編成しています。カリキュラムは、次の科目群で編成され、その学修成果を多面的に評価し、学生の振り返りを促すことで学修・教育到達目標を達成します。
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	本学部への入学を志望する者は、本学の建学の精神と以下に挙げる「求める人物像」及び教育方針、課程のカリキュラム、教育・研究の内容をよく理解して出願することを求めます。 (システム理工学部が求める人物像) 1. 身の回りのさまざまなひと・もの・ことの仕組みや成り立ちについて深く考え、課題を解決することに興味や関心を持つ者。 2. 総合的、学際的に課題を解決することで、新たな価値を創生し、社会に貢献する意志を持つ者。 3. 他分野の学生とチームを組んで課題に取り組む等、システム理工学部における分野の枠を超えたプロジェクト演習に興味を持ち、主体的かつ積極的に行動することに強い意欲を持つ者

課程・学科

学科名	人材の育成及び教育研究上の目的
電子情報システム学科	電子情報システム学科は、ソフトウェア、メディア・ネットワーク、及びハードウェア技術分野の専門的知識の習得と、問題を自ら発見し解決できるシステム志向のエンジニアを目指し、技術者としての倫理観をもち、多様性を尊重し、持続可能な社会の構築に貢献できる人材を養成することを的とする。

機械制御システム学科	機械制御システム学科では、機械システムを開発するための機械工学の基礎と多要素を組合せて有機的に制御するために必要な理論を身に付け、もの・人・環境を総合した新たな価値創造と社会の持続的発展を担う「ものづくり」「ことづくり」ができる人材の育成を目的とする。
環境システム学科	環境システム学科は、建築や都市、環境分野を中心とする専門的な知識と実践的な技術や、これらを横断的に関連づける手法、多様なステークホルダーと協働し、国際社会や地域における諸問題を解決できる能力を修得し、持続可能な社会の形成に貢献することができる人材を育成することを目的とする。

生命科学課程

養成する人材像
生命科学や工学に関する職業倫理を身につけ、生命の複雑なシステム、生命現象、および個々の生命機能を理解し、ヒトの発達や加齢を科学的に洞察し、システム思考に基づく創造的な発想から人の健康に関する諸問題を解決できる人材を養成する。

教育研究上の目的	
生命科学や工学に関する専門知識・技術、研究倫理観を修得させ、システム思考とシステム工学の知識と手法を活用し、すべての人が健康な生活を享受できる社会の実現に貢献できる人材を養成する。研究においては、分子や遺伝子レベルから細胞、個体に至るまで、様々な観点から発達や加齢といった生命現象の機序を解明する研究をはじめとし、医療や人々の生活を支援する科学技術の開発を通して、健康寿命の延伸と人々のQOL（Quality of life）向上に貢献することを目的とする。	
数理科学科	「数学に強く、幅広い応用分野に対応でき自ら考える学生を育てる」ことを教育の基本目標として、実社会で数理科学的手法を実践し、持

	続可能な社会の構築の基盤技術・理論の進展に貢献し得る人材を育成していく。

3　デザイン工学部

人材の育成及び教育研究上の目的	
デザイン工学部は、幅広い工学の素養をもち、コンセプトが明確になっていない段階からアイディアを生み出し、人間の感性及び社会との調和・融合を図りながら創造的なものづくりをすることによって、持続可能な社会の構築に貢献できる実践的な人材を育成することを目的とする。	
三つの方針	
卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)	デザイン工学部は、社会が求める「あるべき姿(当為)を構築する設計科学技術」を身につけ、工学的知識と技術を基礎として、人間の感性および社会との調和・融合を図り、創造的ものづくり能力、すなわちものづくり全体を表現するための1)認識力、2)構想力、3)計画力、4)意匠・設計力というデザイン能力を有し、卒業要件を満たしたものに学位を授与します。 【学修・教育到達目標】 A.　幅広い教養を身につけ、地球的視点から多面的に物事を考えることができる。 B.　技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者の社会に対する貢献と責任を理解し、行動できる。 C.　数学、自然科学、および情報技術の基礎的な考え方を理解し、それらを応用することができる。 D.　種々の科学、技術及び情報を活用して、人間の感性や社会との調和・融合を図ったうえで、社会の要求を解決するためのデザインをすることができる。 D―1　社会的要請や利用者からの要望を認識・理解し、求められている姿・あるべき姿を見い出し、目標を設定するという全体を構想することができる。 D―2　目標に対して情報を収集・分析し課題設定を行い、計画を立案し、他者と協力して進め、結果をまとめることができる。 E.　専門分野の知識・技術を継続的・自主的に修得して、意匠・設計力を身に付け、それらを応用して課題を解決できる。 F.　論理的な記述、口頭発表、ならびに討議等のコミュニケーションができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針	デザイン工学部は、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、工学と人間の感性および社会との調和・融合を図り、創造的なものづくり能力を素養にもつ、実践的な人材を育成するため、次のように科目を編成しています。幅広い工学の素養や技術を身につけるため、共通教養科目とデータ・サイエンス科目を置きます。また、コンセプトが明確になっていない段階からアイディアを生み

(カリキュラム・ポリシー)	出し、リーダーシップをもって個々の要求を整理・統合化し、ものづくりができるようになるためのデザイン科目とエンジニアリング科目を置きます。さらに知識を実践的に修得するためのプロジェクト科目を置きます。これらの科目を講義、演習、実験、実習により体系的に編成します。学生の主体的・能動的な学修・研究を促す教育方法を実施し、その学修成果を多面的に評価し、学生の振り返りを促すことにより、教育目標を達成します。
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	デザイン工学部は、デザイン能力醸成教育を特徴としています。本学部への入学を志望する受験生は、以下に挙げる「求める人物像」及び本学部の教育方針、学科のカリキュラム、教育・研究の内容をよく理解して出願することが望まれます。 (デザイン工学部が求める人物像) 1. 十分な基礎学力に加えて、21世紀における社会と産業が求める技術者をめざす人。 2. 創造的な発想と、問題発見・解決能力、そして総合的な視野に立ち自律的に思考できる素養を持つ人。 3. 多彩な才能と可能性を秘め、国際社会、産業、個人の生活・関心の変化に対して敏感に適応できる人。 上記に賛同し、本学部への入学を志望する人は、高等学校等において芝浦工業大学アドミッション・ポリシーに定める(1)～(3)の能力を身につけておくことが望まれます。

4　建築学部

人材の育成及び教育研究上の目的
建築学部は、これからの時代に建築を「いかにつくるか」だけでなく「何のためにつくるか」を重視します。そのために、自然科学や人文社会科学なども含んだ学際的視点を持ち、持続可能な社会における豊かな建築や都市空間を創造する力を持った人材を育てます。また、多様な価値観が共存する21世紀の世界に適応できる、建築をベースにした特色ある人材を育てます。具体的には、卒業までに以下に挙げる能力を持った人材を養成します。 1　歴史的発展を踏まえてさまざまな側面を理解し、現代の建築の技術的・社会的問題点を理解することができる。 2　人々の生命や財産に深く関連する建築に、技術者や設計者としてたずさわるための倫理観を身に付ける。 3　普遍的法則である科学に関する基礎知識を身に付け、なおかつ建築設計や建築技術に関する幅広い専門知識を身に付ける。 4　それらの幅広い知識を統合、駆使し、建築や都市をめぐる現在的課題に対して自らの役割や責任を認識しつつ、解決に導くことができる 5　豊富なコミュニケーション能力を使って他者や他集団とのあいだに適切な社会関係を築

くことができ、さらにそれを踏まえて21世紀のグローバル社会で活躍できる。

三つの方針	
卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)	建築学部は、自然科学や人文社会科学を含んだ学際的視点を持ち、豊かな建築・都市空間の創造により社会に貢献できる能力、また、多様な価値観が共存する21世紀の世界に適応できる能力を有し、卒業要件を満たしたものに学位を授与します。 (学修・教育到達目標) ① 歴史的発展を踏まえて建築を捉え、現代の建築を取り巻く技術的・社会的問題を理解できる。 ② 自然・社会・人間に深く関わる建築に、専門家としてたずさわるための高い倫理観を身につけている。 ③ 自然科学や人文社会科学に関する基礎知識と、建築設計や建築技術に関する幅広い専門知識を身につけている。 ④ 世界と社会の多様性を認識し、高いコミュニケーション能力を持ち、21世紀のグローバル社会で活躍できる国際感覚とチームで仕事ができる能力を身につけている。 ⑤ 豊富な教養と幅広い知識を統合・駆使し、建築や都市をめぐる現代的課題を解決できる。 ⑥ 課題の発見・解決のために、建築に関わる広範な知識・技術を自ら進んで探求し、理解しようとする姿勢を身につけている。
教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)	・建築学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、これからの時代に建築を「いかにつくるか」だけでなく「何のためにつくるか」を重視します。そのため、建築の専門科目に加えて多様な基礎・教養科目によってカリキュラムを構成し教育を行います。 ・専門科目が建築学の専門性を高めるための科目であるのに対し、基礎・教養科目は自然科学の一般法則の知識とその運用方法、基本的な外国語・コミュニケーション能力、社会・文化に関する教養などを身につけるための科目です。また、「建築デザイン」、「工学」、「幅広い教養」の融合を実現するため、専門性の高い科目と基礎・教養科目の横断的な学修を促し、各科目間の相乗効果を生むようカリキュラムを設計しています。これらの教育課程編成方針に基づき、以下の科目構成により授業を実施します。 ① 専門科目では建築設計や建築技術に関する幅広い専門知識と倫理観を身につけることを狙いとした科目を配置しています。 ② 基礎・教養科目では、数学・理科・英語のほか、幅広い分野を持つ人文社会系科目を中心に構成し、年次を通じて履修可能とすることで専門教育との横断的融合を実現します。

	③　講義科目で学んだ知識を演習・実習科目で実践することで理解を深めていくことを基本としますが、実社会や現場の体験から得られる視点やコミュニケーション能力も重視しています。そのため、国内外でのプロジェクト型実習科目も豊富に配置しています。 ・上記の各授業科目においては知識の伝達のみならず、学生同士や教員との双方向のやり取りを通じて専門知識の深化とコミュニケーション能力の向上を図ります。なお、建築学部では学生が無理のない学修計画を立てられるよう、年間に履修できる科目数に制限を設けています。 ・各授業科目に評価方法・評価基準を設定し、学修成果を多面的に評価し、学生の振り返りを促すことにより、建築学部の学修・教育到達目標を達成します。
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	建築学部は、豊かな感性と技術力を身につけた高い志を持つ建築の専門家を養成します。本学部への入学を志望する受験生は、以下に挙げる「求める人物像」及び本学部の教育方針、カリキュラム、教育・研究の内容をよく理解して出願することが望まれます。 (建築学部が求める人物像) 1. 建築・都市におけるさまざまな課題に対して積極的な興味・関心を持つ人 2. 本学部での学修、研究を強く志望し、自らの意思と行動力を持って人々の暮らしを支え喜びをもたらす建築を生み出すことに、情熱を持つ人 3. 建築をベースに、社会や時代・環境の変化を見据え、多様な価値観を受け入れ、場所・地域・国を問わずに活躍することを志向する人上記に賛同し、本学部への入学を志望する人は、高等学校等において以下の能力を身につけていることが望まれます。 上記に賛同し、本学部への入学を志望する人は、高等学校等において、以下の能力を身につけていることが望まれます。 (1)　科学的な思考・判断をするための基礎学力(特に数学・物理・化学・英語) (2)　論理的な思考にもとづく、判断力、読解力、表現力 (3)　建築・都市を取り巻く社会や文化について、その歴史をふまえて理解するための基礎的知識 (4)　主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度 (5)　独自の視点により空間や思考を表現する能力

別表３

授　業　科　目

工学部

専門科目【機械工学課程　基幹機械コース】

◎必修　○選択必修　△選択　□自由

系列	科目コード	科目名	単位数	実施期	1年			2年			3年			4年		週コマ数	講義区分	選択必修グループ	学修・教育到達目標
					前期	後期	不定	前期	後期	不定	前期	後期	不定	前期	後期				
自コース専門	A0001000	機械材料	2	ー	○											1	講義	B	E
	A0002000	機械工学の基礎1	2	ー	△											1	講義	ー	G
	AB001000	材料力学1	2	ー		◎										1	講義	ー	D
	A0003000	機械運動学	2	ー		○										1	講義	B	E
	A0004000	機械設計製図1	3	ー				◎								3	製図	ー	E
	AB002000	流体力学1	2	ー				◎								1	講義	ー	D
	AB003000	熱力学1	2	ー				◎								1	講義	ー	D
	A0005000	材料力学2（基幹機械コース）	2	ー				○								1	講義	B	D
	A0006000	機械設計	2	ー				○								1	講義	B	E
	A0007000	応用解析学	2	ー				△								1	講義	ー	E
	A0008000	機械設計製図2	3	ー					◎							3	製図	ー	E
	AB004000	振動工学1	2	ー					◎							1	講義	ー	D
	A0009000	加工学	2	ー					○							1	講義	B	E
	A0010000	流体力学2（基幹機械コース）	2	ー					○							1	講義	A	D
	A0011000	Thermodynamics 2	2	ー					○							1	講義	A	D
	A0012000	エネルギー・環境論	2	ー					○							1	講義	A	E
	A0013000	確率統計	2	ー					△							1	講義	ー	C
	A0014000	機械工学の基礎2	2	ー					△							1	講義	ー	G
	A0015000	振動工学2	2	ー							○					1	講義	B	D
	A0016000	粘性流体力学	2	ー							○					1	講義	A	D
	A0017000	エンジンシステム	2	ー							○					1	講義	A	E
	A0018000	伝熱工学	2	ー							○					1	講義	A	D
	A0019000	制御工学1	2	ー							○					1	講義	B	E
	A0020000	Mechatronics	2	ー							○					1	講義	B	E
	A0021000	低温工学	2	ー							○					1	講義	A	E
	A0022000	材料強度学	2	ー							○					1	講義	B	E
	A0023000	安全と倫理	2	ー							△					1	講義	ー	A
	A0024000	プログラミング言語	2	ー							△					1	講義	ー	E
	AB005000	工学英語3	2	ー							△					1	講義	ー	A
	A0025000	エネルギー変換工学	2	ー								○				1	講義	A	E
	A0026000	材料設計学	2	ー								○				1	講義	B	E
	A0027000	Combustion Engineering	2	ー								○				1	講義	A	E
	A0028000	制御工学2	2	ー								○				1	講義	B	E
	A0029000	計算力学	2	ー								○				1	講義	A	E
	A0030000	航空宇宙工学	2	ー								○				1	講義	A	E
	A0031000	機械分子工学	2	ー								○				1	講義	A	D
	A0032000	プログラミング演習	2	ー								△				1	演習	ー	E
	A0032500	Advanced Course on Mechanical Engineering	2	ー								□				1	講義	ー	ー
	A0033000	卒業研究1	2	ー							◎	(◎)				1	卒研	ー	B,F,G
	A0034000	卒業研究2	2	ー							(◎)	◎				1	卒研	ー	B,F,G
	A0035000	卒業研究3	4	ー										◎	(◎)	2	卒研	ー	B,F,G
	A0036000	卒業研究4	4	ー										(◎)	◎	2	卒研	ー	B,F,G

授　業　科　目

工学部

共通専門科目【機械工学課程　基幹機械コース】

◎必修　○選択必修　△選択　□自由

系列	系列グループ	科目コード	科目名	単位数	年次	開講期	単位区分	週コマ数	講義区分	学修・教育到達目標
共通専門	共通専門科目	EN830100	社会の中の工学	1	1	前期	◎	1	講義	F
	共通専門科目	EN830150	グローバルPBL（機械工学課程）	2	1	不定	△	2	演習	A
	共通専門科目	EN830160	グローバルPBL（物質化学課程）	2	1	不定	△	2	演習	A
	共通専門科目	EN830170	グローバルPBL（電気電子工学課程）	2	1	不定	△	2	演習	A
	共通専門科目	EN830180	グローバルPBL（情報・通信工学課程）	2	1	不定	△	2	演習	A
	共通専門科目	EN830190	グローバルPBL（土木工学課程）	2	1	不定	△	2	演習	A
	共通専門科目	EN830200	グローバルPBL（先進国際課程）	2	1	不定	△	2	演習	A
	共通専門科目	EN830110	工学研究探訪1	1	2	後期	◎	1	講義	F
	共通専門科目	EN830120	工学研究探訪2	1	2	後期	△	1	講義	F
	共通専門科目	EN830210	国際インターンシップ1	2	2	不定	△	2	演習	A
	共通専門科目	EN830220	国際インターンシップ2	2	2	不定	□	2	演習	ー
	共通専門科目	EN830130	学内研究留学1	2	3	後期	△	1	演習	F
	共通専門科目	EN830140	学内研究留学2	2	3	後期	△	1	演習	F

授　業　科　目

工学部

専門科目以外【機械工学課程　基幹機械コース】

◎必修　○選択必修　△選択　□自由

系列	系列グループ	科目コード	科目名	単位数	年次	開講期	単位区分	週コマ数	講義区分	学修・教育到達目標
数理基礎	数学科目	11731100	線形代数1	2	1	前期	◎	1	講義	C
	数学科目	11731120	微分積分1	4	1	前期	◎	2	講義	C
	数学科目	11731150	確率と統計1	2	1	前期・後期	△	1	講義	C
	数学科目	11731110	線形代数2	2	1	後期	◎	1	講義	C
	数学科目	11731130	微分積分2	4	1	後期	◎	2	講義	C
	数学科目	11731140	微分方程式	2	1	後期	△	1	講義	C
	数学科目	11731160	確率と統計2	2	2	前期・後期	△	1	講義	C
	数学科目	11731170	関数論	2	2	前期・後期	△	1	講義	C
	数学科目	11731180	ベクトル解析	2	2	前期・後期	△	1	講義	C
	数学科目	11731190	フーリエ解析	2	2	前期・後期	△	1	講義	C
	物理学科目	11732120	基礎力学	2	1	前期	◎	1	講義	C
	物理学科目	11732130	基礎力学演習	2	1	前期	△	1	演習	C
	物理学科目	11732110	物理学実験	3	1	後期	◎	3	実験	C
	物理学科目	11732150	基礎電磁気学	2	1	後期	△	1	講義	C
	物理学科目	11732180	基礎熱統計力学	2	2	前期	△	1	講義	C
	物理学科目	11732190	基礎熱統計力学演習	2	2	前期	△	1	演習	C
	物理学科目	11732200	相対論と量子論の基礎	2	2	後期	△	1	講義	C
	化学科目	11733100	化学の基礎と実験	2	1	前期	◎	2	講義	C
	化学科目	11733140	基礎無機化学	2	1	後期	△	1	講義	C
	化学科目	11733150	基礎有機化学	2	1	後期	△	1	講義	C
	化学科目	11733160	基礎生物化学	2	1	後期	△	1	講義	C
	化学科目	11733170	基礎固体化学	2	1	後期	△	1	講義	C
英語	英語科目	11810100	Reading & Writing 1	2	1	前期	◎	1	講義	A
	英語科目	11810140	TOEIC	2	1	前期・後期	△	1	講義	A
	英語科目	11810120	Listening & Speaking 1	2	1	後期	◎	1	講義	A
	英語科目	11810130	Listening & Speaking 2	2	2	前期	△	1	講義	A
	英語科目	11810150	工学英語1	2	2	前期	△	1	講義	A
	英語科目	11810110	Reading & Writing 2	2	2	後期	△	1	講義	A
	英語科目	11810160	工学英語2	2	2	後期	△	1	講義	A
	英語科目	11810170	Academic English	2	3	前期・後期	△	1	講義	A
情報	情報科目	11750100	情報リテラシー	1	1	前期・後期	△	1	講義	C
	情報科目	11750110	情報処理概論	2	1	前期・後期	△	1	講義	C
	情報科目	11750120	Java入門	3	1	前期・後期	△	2	演習	C
	情報科目	11750130	C言語入門	3	1	前期・後期	△	2	演習	C
	情報科目	11750140	データサイエンス演習	2	1	後期	◎	1	演習	C
人文社会系教養	人文社会系教養科目	11760100	技術者の倫理	2	1	前期	◎	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760220	社会心理学	2	1	前期	○	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760280	教育原論	2	1	前期	△	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760110	生命倫理	2	1	前期・後期	○	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760120	人間社会と環境問題	2	1	前期・後期	○	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760140	経済学	2	1	前期・後期	○	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760150	現代の日本経済	2	1	前期・後期	○	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760160	現代日本の社会	2	1	前期・後期	○	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760170	福祉と技術	2	1	前期・後期	○	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760180	法学入門	2	1	前期・後期	○	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760190	日本国憲法	2	1	前期・後期	○	1	講義	A

授　業　科　目

工学部

専門科目以外【機械工学課程　基幹機械コース】

◎必修　○選択必修　△選択　□自由

系列	系列グループ	科目コード	科目名	単位数	年次	開講期	単位区分	週コマ数	講義区分	学修・教育到達目標
人文社会系教養	人文社会系教養科目	11760200	世界の言語と文化	2	1	前期・後期	○	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760210	文化人類学	2	1	前期・後期	○	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760230	認知心理学	2	1	前期・後期	○	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760240	レポートライティング	2	1	前期・後期	○	1	演習	A
	人文社会系教養科目	11760250	プレゼンテーション入門	2	1	前期・後期	△	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760260	自己表現とコミュニケーション	2	1	前期・後期	△	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760270	教育心理学	2	1	前期・後期	△	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760300	教育の近現代史	2	1	前期・後期	△	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760290	人間関係論	2	1	後期	△	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760320	生産と消費の環境論	2	2	前期	○	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760310	地域と環境	2	2	前期・後期	○	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760330	情報技術と現代社会	2	2	前期・後期	○	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760340	地方自治論	2	2	前期・後期	○	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760360	地域と経済	2	3	前期	○	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760390	地域社会学	2	3	前期	○	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760350	哲学・倫理学	2	3	前期・後期	○	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760370	応用経済学	2	3	前期・後期	○	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760380	グローバリゼーション論	2	3	前期・後期	○	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760400	知的財産法	2	3	前期・後期	○	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760410	教育社会学	2	3	前期・後期	△	1	講義	A
体育健康	体育健康科目	11770100	スポーツ健康学	2	1	前期・後期	△	1	講義	A
	体育健康科目	11770110	スポーツバイオメカニクス	2	1	前期・後期	△	1	講義	A
	体育健康科目	11770120	コンディショニング演習	2	1	前期・後期	△	1	演習	A
	体育健康科目	11772100	スポーツ科学実技1	1	1	前期・後期	◎	1	実技	A
	体育健康科目	11772110	スポーツ科学実技2	1	1	前期・後期	△	1	実技	A
	体育健康科目	11772120	スポーツ科学実技3	1	1	前期・後期	□	1	実技	ー
	体育健康科目	11772130	スポーツ科学実技4	1	1	前期・後期	□	1	実技	ー
共通教養	共通教養科目	11820110	データサイエンスリテラシー	1	1	前期・後期	△	1	講義	C
	共通教養科目	11820140	ダイバーシティ入門	2	1	前期・後期	△	1	講義	A
	共通教養科目	11820100	統計学基礎	1	1	前期・後期	□	1	講義	ー
	共通教養科目	11820120	芝浦工業大学通論	2	1	前期・後期	□	1	講義	ー
	共通教養科目	11820130	技術経営入門	2	1	前期・後期	□	1	講義	ー
	共通教養科目	11820150	消費者行動論	2	1	前期・後期	□	1	講義	ー
	共通教養科目	11820160	マーケティング概論	2	1	前期・後期	□	1	講義	ー
	共通教養科目	11820170	デジタルプレゼンテーション	2	1	前期・後期	□	1	講義	ー
課程外		XX990100	海外語学演習1	2	1	不定	△	2	演習	A
		XX990110	海外語学演習2	2	1	不定	□	2	演習	ー
		XX990120	海外語学演習3	2	1	不定	□	2	演習	ー
		XX990130	海外語学演習4	2	1	不定	□	2	演習	ー
		XX990140	海外語学演習1（短期）	1	1	不定	△	1	演習	A
		XX990150	海外語学演習2（短期）	1	1	不定	□	1	演習	ー
		XX990160	海外語学演習3（短期）	1	1	不定	□	1	演習	ー
		XX990170	海外語学演習4（短期）	1	1	不定	□	1	演習	ー
		XX990900	学外英語検定	2	1	不定	△	1	その他	A

授　業　科　目

工学部

専門科目【機械工学課程　先進機械コース】

◎必修　○選択必修　△選択　□自由

系列	科目コード	科目名	単位数	実施期	1年			2年			3年			4年		週コマ数	講義区分	選択必修グループ	学修・教育到達目標
					前期	後期	不定	前期	後期	不定	前期	後期	不定	前期	後期				
自コース専門	B0001000	先進機械基礎1	2	ー	◎											1	講義	ー	B,G
	B0002000	機械工学概論1	2	ー		◎										1	講義	ー	E
	AB001000	材料力学1	2	ー		◎										1	講義	ー	D
	B0003000	マテリアル・サイエンス	2	ー		△										1	講義	ー	D
	B0004000	機械工学概論2	2	ー				◎								1	講義	ー	E
	AB002000	流体力学1	2	ー				◎								1	講義	ー	D
	AB003000	熱力学1	2	ー				◎								1	講義	ー	D
	AB004000	振動工学1	2	ー				◎								1	講義	ー	D
	B0005000	先進機械基礎2	2	ー				△								1	講義	ー	B,G
	B0006000	メカトロニクス	2	ー				△								1	講義	ー	D
	B0007000	材料力学2（先進機械コース）	2	ー				△								1	講義	ー	D
	B0008000	電気工学	2	ー				△								1	講義	ー	D
	B0009000	機械工学概論3	2	ー					◎							1	講義	ー	E
	B0010000	機械力学	2	ー					△							1	講義	ー	D
	B0011000	流体力学2（先進機械コース）	2	ー					△							1	講義	ー	D
	B0012000	熱力学2	2	ー					△							1	講義	ー	D
	B0013000	エネルギー／環境概論	2	ー					△							1	講義	ー	D
	B0014000	制御工学	2	ー					△							1	講義	ー	D
	B0015000	研究導入講義1（知能機械）	2	ー							○					1	講義	A	D
	B0016000	研究導入講義1（生体工学）	2	ー							○					1	講義	A	D
	B0017000	研究導入講義1（計測工学）	2	ー							○					1	講義	A	D
	B0018000	研究導入講義1（サイエンス・メカニクス）	2	ー							○					1	講義	A	D
	B0019000	研究導入講義1（ナノ・マイクロ）	2	ー							○					1	講義	A	D
	B0020000	研究導入演習1	2	1Q							○					2	演習	B	E
	B0021000	研究導入演習2	2	2Q							○					2	演習	B	E
	AB005000	工学英語3	2	ー							△					1	講義	ー	A
	B0022000	研究導入講義2（知能機械）	2	ー								○				1	講義	A	D
	B0023000	研究導入講義2（生体工学）	2	ー								○				1	講義	A	D
	B0024000	研究導入講義2（計測工学）	2	ー								○				1	講義	A	D
	B0025000	研究導入講義2（サイエンス・メカニクス）	2	ー								○				1	講義	A	D
	B0026000	研究導入講義2（ナノ・マイクロ）	2	ー								○				1	講義	A	D
	B0027000	研究導入演習3	2	3Q								○				2	演習	B	E
	B0028000	研究導入演習4	2	4Q								○				2	演習	B	E
	B0029000	卒業研究1	2	ー							◎	(◎)				1	卒研	ー	B,F,G
	B0030000	卒業研究2	2	ー							(◎)	◎				1	卒研	ー	B,F,G
	B0031000	卒業研究3	4	ー										◎	(◎)	2	卒研	ー	B,F,G
	B0032000	卒業研究4	4	ー										(◎)	◎	2	卒研	ー	B,F,G

授　業　科　目

工学部

共通専門科目【機械工学課程　先進機械コース】

◎必修　○選択必修　△選択　□自由

系列	系列グループ	科目コード	科目名	単位数	年次	開講期	単位区分	週コマ数	講義区分	学修・教育到達目標
共通専門	共通専門科目	EN830100	社会の中の工学	1	1	前期	◎	1	講義	F
	共通専門科目	EN830150	グローバルPBL（機械工学課程）	2	1	不定	△	2	演習	A
	共通専門科目	EN830160	グローバルPBL（物質化学課程）	2	1	不定	△	2	演習	A
	共通専門科目	EN830170	グローバルPBL（電気電子工学課程）	2	1	不定	△	2	演習	A
	共通専門科目	EN830180	グローバルPBL（情報・通信工学課程）	2	1	不定	△	2	演習	A
	共通専門科目	EN830190	グローバルPBL（土木工学課程）	2	1	不定	△	2	演習	A
	共通専門科目	EN830200	グローバルPBL（先進国際課程）	2	1	不定	△	2	演習	A
	共通専門科目	EN830110	工学研究探訪1	1	2	後期	◎	1	講義	F
	共通専門科目	EN830120	工学研究探訪2	1	2	後期	△	1	講義	F
	共通専門科目	EN830210	国際インターンシップ1	2	2	不定	△	2	演習	A
	共通専門科目	EN830220	国際インターンシップ2	2	2	不定	□	2	演習	ー
	共通専門科目	EN830130	学内研究留学1	2	3	後期	△	1	演習	F
	共通専門科目	EN830140	学内研究留学2	2	3	後期	△	1	演習	F

授　業　科　目

工学部

専門科目以外【機械工学課程　先進機械コース】

◎必修　○選択必修　△選択　□自由

系列	系列グループ	科目コード	科目名	単位数	年次	開講期	単位区分	週コマ数	講義区分	学修・教育到達目標
数理基礎	数学科目	11731100	線形代数1	2	1	前期	◎	1	講義	C
	数学科目	11731120	微分積分1	4	1	前期	◎	2	講義	C
	数学科目	11731140	微分方程式	2	1	前期・後期	△	1	講義	C
	数学科目	11731110	線形代数2	2	1	後期	◎	1	講義	C
	数学科目	11731130	微分積分2	4	1	後期	◎	2	講義	C
	数学科目	11731150	確率と統計1	2	1	後期	△	1	講義	C
	数学科目	11731160	確率と統計2	2	2	前期・後期	△	1	講義	C
	数学科目	11731170	関数論	2	2	前期・後期	△	1	講義	C
	数学科目	11731180	ベクトル解析	2	2	前期・後期	△	1	講義	C
	数学科目	11731190	フーリエ解析	2	2	前期・後期	△	1	講義	C
	物理学科目	11732120	基礎力学	2	1	前期	◎	1	講義	C
	物理学科目	11732130	基礎力学演習	2	1	前期	△	1	演習	C
	物理学科目	11732110	物理学実験	3	1	後期	◎	3	実験	C
	物理学科目	11732150	基礎電磁気学	2	1	後期	△	1	講義	C
	物理学科目	11732200	相対論と量子論の基礎	2	2	後期	△	1	講義	C
	化学科目	11733100	化学の基礎と実験	2	1	前期	◎	2	講義	C
	化学科目	11733140	基礎無機化学	2	1	後期	△	1	講義	C
	化学科目	11733150	基礎有機化学	2	1	後期	△	1	講義	C
	化学科目	11733160	基礎生物化学	2	1	後期	△	1	講義	C
	化学科目	11733170	基礎固体化学	2	1	後期	△	1	講義	C
英語	英語科目	11810100	Reading & Writing 1	2	1	前期	◎	1	講義	A
	英語科目	11810140	TOEIC	2	1	前期・後期	△	1	講義	A
	英語科目	11810120	Listening & Speaking 1	2	1	後期	◎	1	講義	A
	英語科目	11810130	Listening & Speaking 2	2	2	前期	△	1	講義	A
	英語科目	11810150	工学英語1	2	2	前期	△	1	講義	A
	英語科目	11810110	Reading & Writing 2	2	2	後期	△	1	講義	A
	英語科目	11810160	工学英語2	2	2	後期	△	1	講義	A
	英語科目	11810170	Academic English	2	3	前期・後期	△	1	講義	A
情報	情報科目	11750100	情報リテラシー	1	1	前期・後期	△	1	講義	C
	情報科目	11750110	情報処理概論	2	1	前期・後期	△	1	講義	C
	情報科目	11750120	Java入門	3	1	前期・後期	△	2	演習	C
	情報科目	11750140	データサイエンス演習	2	1	前期・後期	△	1	演習	C
	情報科目	11750130	C言語入門	3	2	前期	◎	2	演習	C
人文社会系教養	人文社会系教養科目	11760100	技術者の倫理	2	1	前期	◎	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760220	社会心理学	2	1	前期	○	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760280	教育原論	2	1	前期	△	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760110	生命倫理	2	1	前期・後期	○	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760120	人間社会と環境問題	2	1	前期・後期	○	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760140	経済学	2	1	前期・後期	○	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760150	現代の日本経済	2	1	前期・後期	○	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760160	現代日本の社会	2	1	前期・後期	○	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760170	福祉と技術	2	1	前期・後期	○	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760180	法学入門	2	1	前期・後期	○	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760190	日本国憲法	2	1	前期・後期	○	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760200	世界の言語と文化	2	1	前期・後期	○	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760210	文化人類学	2	1	前期・後期	○	1	講義	A

授　業　科　目

工学部

専門科目以外【機械工学課程　先進機械コース】

◎必修　○選択必修　△選択　□自由

系列	系列グループ	科目コード	科目名	単位数	年次	開講期	単位区分	週コマ数	講義区分	学修・教育到達目標
人文社会系教養	人文社会系教養科目	11760230	認知心理学	2	1	前期・後期	○	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760240	レポートライティング	2	1	前期・後期	○	1	演習	A
	人文社会系教養科目	11760250	プレゼンテーション入門	2	1	前期・後期	△	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760260	自己表現とコミュニケーション	2	1	前期・後期	△	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760270	教育心理学	2	1	前期・後期	△	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760300	教育の近現代史	2	1	前期・後期	△	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760290	人間関係論	2	1	後期	△	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760320	生産と消費の環境論	2	2	前期	○	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760310	地域と環境	2	2	前期・後期	○	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760330	情報技術と現代社会	2	2	前期・後期	○	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760340	地方自治論	2	2	前期・後期	○	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760360	地域と経済	2	3	前期	○	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760390	地域社会学	2	3	前期	○	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760350	哲学・倫理学	2	3	前期・後期	○	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760370	応用経済学	2	3	前期・後期	○	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760380	グローバリゼーション論	2	3	前期・後期	○	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760400	知的財産法	2	3	前期・後期	○	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760410	教育社会学	2	3	前期・後期	△	1	講義	A
体育健康	体育健康科目	11770100	スポーツ健康学	2	1	前期・後期	△	1	講義	A
	体育健康科目	11770110	スポーツバイオメカニクス	2	1	前期・後期	△	1	講義	A
	体育健康科目	11770120	コンディショニング演習	2	1	前期・後期	△	1	演習	A
	体育健康科目	11772100	スポーツ科学実技1	1	1	前期・後期	◎	1	実技	A
	体育健康科目	11772110	スポーツ科学実技2	1	1	前期・後期	△	1	実技	A
	体育健康科目	11772120	スポーツ科学実技3	1	1	前期・後期	□	1	実技	ー
	体育健康科目	11772130	スポーツ科学実技4	1	1	前期・後期	□	1	実技	ー
共通教養	共通教養科目	11820110	データサイエンスリテラシー	1	1	前期・後期	△	1	講義	C
	共通教養科目	11820140	ダイバーシティ入門	2	1	前期・後期	△	1	講義	A
	共通教養科目	11820100	統計学基礎	1	1	前期・後期	□	1	講義	ー
	共通教養科目	11820120	芝浦工業大学通論	2	1	前期・後期	□	1	講義	ー
	共通教養科目	11820130	技術経営入門	2	1	前期・後期	□	1	講義	ー
	共通教養科目	11820150	消費者行動論	2	1	前期・後期	□	1	講義	ー
	共通教養科目	11820160	マーケティング概論	2	1	前期・後期	□	1	講義	ー
	共通教養科目	11820170	デジタルプレゼンテーション	2	1	前期・後期	□	1	講義	ー
課程外		XX990100	海外語学演習1	2	1	不定	△	2	演習	A
		XX990110	海外語学演習2	2	1	不定	□	2	演習	ー
		XX990120	海外語学演習3	2	1	不定	□	2	演習	ー
		XX990130	海外語学演習4	2	1	不定	□	2	演習	ー
		XX990140	海外語学演習1（短期）	1	1	不定	△	1	演習	A
		XX990150	海外語学演習2（短期）	1	1	不定	□	1	演習	ー
		XX990160	海外語学演習3（短期）	1	1	不定	□	1	演習	ー
		XX990170	海外語学演習4（短期）	1	1	不定	□	1	演習	ー
		XX990900	学外英語検定	2	1	不定	△	1	その他	A

授　業　科　目

工学部

専門科目【物質化学課程　環境・物質工学コース】

◎必修　○選択必修　△選択　□自由

系列	科目コード	科目名	単位数	実施期	1年			2年			3年			4年		週コマ数	講義区分	選択必修グループ	学修・教育到達目標
					前期	後期	不定	前期	後期	不定	前期	後期	不定	前期	後期				
自コース専門	C0001000	環境と化学	2	ー	◎											1	講義	ー	B
	C0002000	環境物質工学入門	2	ー	◎											1	講義	ー	D
	C0003000	材料力学	2	ー	○											1	講義	ー	A
	C0004000	熱力学	2	ー		◎										1	講義	ー	A
	C0005000	有機材料	2	ー		◎										1	講義	ー	B
	C0006000	状態図と金属組織	2	ー		◎										1	講義	ー	A
	CD001000	生物化学実験	2	ー		○										2	実験	ー	A,E
	C0007000	材料化学演習1	2	ー		△										1	演習	ー	B
	C0008000	材料化学演習2	2	ー		△										1	演習	ー	B
	CD002000	塗料・塗装工学概論	2	ー		△										1	講義	ー	B
	C0009000	結晶構造解析	2	ー				○								1	講義	ー	A
	C0010000	無機材料	2	ー				○								1	講義	ー	A
	C0011000	物質移動論	2	ー				○								1	講義	ー	A
	C0012000	材料科学	2	ー				○								1	講義	ー	A
	C0013000	材料電気化学	2	ー				○								1	講義	ー	B
	C0014000	図学と製図1	3	ー				△								2	講義	ー	A
	C0015000	電気化学演習	2	ー				△								1	演習	ー	B
	C0016000	環境物質工学通論	2	ー					◎							1	講義	ー	D
	C0017000	生体材料化学	2	ー					◎							1	講義	ー	B
	C0018000	固体物理	2	ー					○							1	講義	ー	A
	C0019000	弾塑性論	2	ー					○							1	講義	ー	A
	C0020000	触媒化学	2	ー					○							1	講義	ー	B
	CD003000	環境物質基礎実験	2	ー					○							2	実験	ー	D,E
	C0021000	接合工学	2	ー					△							1	講義	ー	A
	C0022000	図学と製図2	3	ー					△							2	講義	ー	A
	CD004000	惑星科学	2	ー					△							1	講義	ー	A
	C0023000	環境物質科学実験1	2	ー							◎					2	実験	ー	D,E
	C0024000	環境物質科学実験2	2	ー							◎					2	実験	ー	D,E
	C0025000	Semiconductor Materials	2	ー							○					1	講義	ー	A
	C0026000	Phase Transitions in Materials	2	ー							○					1	講義	ー	A
	C0027000	複合材料	2	ー							○					1	講義	ー	A
	C0028000	凝固工学	2	ー							○					1	講義	ー	A
	C0029000	Organic Materials Chemistry	2	ー							○					1	講義	ー	B
	C0030000	鉄鋼材料製造法	2	ー							△					1	講義	ー	A
	C0031000	生体有機材料	2	ー							△					1	講義	ー	B
	CD005000	現代生物学	2	ー							△					1	講義	ー	A
	CD006000	宇宙空間科学	2	ー							△					1	講義	ー	A
	C0032000	環境物質工学実験1	2	ー								◎				2	実験	ー	D,E
	C0033000	環境物質工学実験2	2	ー								◎				2	実験	ー	D,E
	C0034000	マテリアルインフォマティクス	2	ー								○				1	講義	ー	A
	C0035000	電子顕微鏡とナノサイエンス	2	ー								○				1	講義	ー	A
	C0036000	物性物理学	2	ー								○				1	講義	ー	A
	C0037000	Strength of Materials	2	ー								○				1	講義	ー	A
	C0038000	表界面の物理化学	2	ー								○				1	講義	ー	A
	C0039000	リサイクル工学	2	ー								○				1	講義	ー	B
	C0039750	Surface Treatment	2	ー								○				1	講義	ー	B
	C0041250	機器分析	2	ー								○				1	講義	ー	A
	C0042000	粉体成形	2	ー								△				1	講義	ー	A
	C0043000	生体金属材料	2	ー								△				1	講義	ー	B
	C0044000	卒業研究1	2	ー							◎	(◎)				1	卒研	ー	D,E
	C0045000	卒業研究2	2	ー							(◎)	◎				1	卒研	ー	D,E
	C0046000	卒業研究3	4	ー										◎	(◎)	2	卒研	ー	A,B,C,D,E
	C0047000	卒業研究4	4	ー										(◎)	◎	2	卒研	ー	A,B,C,D,E

授　業　科　目

工学部

共通専門科目【物質化学課程　環境・物質工学コース】

◎必修　○選択必修　△選択　□自由

系列	系列グループ	科目コード	科目名	単位数	年次	開講期	単位区分	週コマ数	講義区分	学修・教育到達目標
共通専門	共通専門科目	EN830100	社会の中の工学	1	1	前期	◎	1	講義	B
	共通専門科目	EN830150	グローバルPBL（機械工学課程）	2	1	不定	△	2	演習	C
	共通専門科目	EN830160	グローバルPBL（物質化学課程）	2	1	不定	△	2	演習	C
	共通専門科目	EN830170	グローバルPBL（電気電子工学課程）	2	1	不定	△	2	演習	C
	共通専門科目	EN830180	グローバルPBL（情報・通信工学課程）	2	1	不定	△	2	演習	C
	共通専門科目	EN830190	グローバルPBL（土木工学課程）	2	1	不定	△	2	演習	C
	共通専門科目	EN830200	グローバルPBL（先進国際課程）	2	1	不定	△	2	演習	C
	共通専門科目	EN830110	工学研究探訪1	1	2	後期	◎	1	講義	B
	共通専門科目	EN830120	工学研究探訪2	1	2	後期	△	1	講義	B
	共通専門科目	EN830210	国際インターンシップ1	2	2	不定	△	2	演習	C
	共通専門科目	EN830220	国際インターンシップ2	2	2	不定	□	2	演習	ー
	共通専門科目	EN830130	学内研究留学1	2	3	後期	△	1	演習	E
	共通専門科目	EN830140	学内研究留学2	2	3	後期	△	1	演習	E

授　業　科　目

工学部

専門科目以外【物質化学課程　環境・物質工学コース】

◎必修　○選択必修　△選択　□自由

系列	系列グループ	科目コード	科目名	単位数	年次	開講期	単位区分	週コマ数	講義区分	学修・教育到達目標
数理基礎	数学科目	11731100	線形代数1	2	1	前期	△	1	講義	A
	数学科目	11731120	微分積分1	4	1	前期	△	2	講義	A
	数学科目	11731140	微分方程式	2	1	前期・後期	△	1	講義	A
	数学科目	11731150	確率と統計1	2	1	前期・後期	△	1	講義	A
	数学科目	11731110	線形代数2	2	1	後期	△	1	講義	A
	数学科目	11731130	微分積分2	4	1	後期	△	2	講義	A
	数学科目	11731160	確率と統計2	2	2	前期・後期	△	1	講義	A
	数学科目	11731170	関数論	2	2	前期・後期	△	1	講義	A
	数学科目	11731180	ベクトル解析	2	2	前期・後期	△	1	講義	A
	数学科目	11731190	フーリエ解析	2	2	前期・後期	△	1	講義	A
	物理学科目	11732100	物理学入門	4	1	前期	△	2	講義	A
	物理学科目	11732110	物理学実験	3	1	前期・後期	△	3	実験	E
	物理学科目	11732140	基礎力学および演習	4	1	後期	△	2	講義	A
	物理学科目	11732160	基礎電磁気学および演習	4	1	後期	△	2	講義	A
	物理学科目	11732180	基礎熱統計力学	2	2	前期	△	1	講義	A
	物理学科目	11732190	基礎熱統計力学演習	2	2	前期	△	1	演習	A
	物理学科目	11732200	相対論と量子論の基礎	2	2	後期	△	1	講義	A
	化学科目	11733110	基礎化学	2	1	前期	△	1	講義	A
	化学科目	11733120	化学実験	2	1	後期	◎	2	実験	E
	化学科目	11733140	基礎無機化学	2	1	後期	△	1	講義	A
	化学科目	11733150	基礎有機化学	2	1	後期	△	1	講義	A
	化学科目	11733160	基礎生物化学	2	1	後期	△	1	講義	A
	化学科目	11733170	基礎固体化学	2	1	後期	△	1	講義	A
英語	英語科目	11810100	Reading & Writing 1	2	1	前期	◎	1	講義	C
	英語科目	11810140	TOEIC	2	1	前期・後期	△	1	講義	C
	英語科目	11810120	Listening & Speaking 1	2	1	後期	◎	1	講義	C
	英語科目	11810130	Listening & Speaking 2	2	2	前期	△	1	講義	C
	英語科目	11810150	工学英語1	2	2	前期	△	1	講義	C
	英語科目	11810110	Reading & Writing 2	2	2	後期	△	1	講義	C
	英語科目	11810160	工学英語2	2	2	後期	△	1	講義	C
	英語科目	11810170	Academic English	2	3	前期・後期	△	1	講義	C
情報	情報科目	11750100	情報リテラシー	1	1	前期・後期	△	1	講義	A
	情報科目	11750110	情報処理概論	2	1	前期・後期	△	1	講義	A
	情報科目	11750120	Java入門	3	1	前期・後期	△	2	演習	A
	情報科目	11750130	C言語入門	3	1	前期・後期	△	2	演習	A
	情報科目	11750140	データサイエンス演習	2	1	前期・後期	△	1	演習	A
人文社会系教養	人文社会系教養科目	11760100	技術者の倫理	2	1	前期	◎	1	講義	D
	人文社会系教養科目	11760220	社会心理学	2	1	前期	△	1	講義	D
	人文社会系教養科目	11760280	教育原論	2	1	前期	△	1	講義	D
	人文社会系教養科目	11760110	生命倫理	2	1	前期・後期	△	1	講義	D
	人文社会系教養科目	11760120	人間社会と環境問題	2	1	前期・後期	△	1	講義	D
	人文社会系教養科目	11760140	経済学	2	1	前期・後期	△	1	講義	D
	人文社会系教養科目	11760150	現代の日本経済	2	1	前期・後期	△	1	講義	D
	人文社会系教養科目	11760160	現代日本の社会	2	1	前期・後期	△	1	講義	D
	人文社会系教養科目	11760170	福祉と技術	2	1	前期・後期	△	1	講義	D
	人文社会系教養科目	11760180	法学入門	2	1	前期・後期	△	1	講義	D
	人文社会系教養科目	11760190	日本国憲法	2	1	前期・後期	△	1	講義	D

授　業　科　目

工学部

専門科目以外【物質化学課程　環境・物質工学コース】

◎必修　○選択必修　△選択　□自由

系列	系列グループ	科目コード	科目名	単位数	年次	開講期	単位区分	週コマ数	講義区分	学修・教育到達目標
人文社会系教養	人文社会系教養科目	11760200	世界の言語と文化	2	1	前期・後期	△	1	講義	D
	人文社会系教養科目	11760210	文化人類学	2	1	前期・後期	△	1	講義	D
	人文社会系教養科目	11760230	認知心理学	2	1	前期・後期	△	1	講義	D
	人文社会系教養科目	11760240	レポートライティング	2	1	前期・後期	△	1	演習	D
	人文社会系教養科目	11760250	プレゼンテーション入門	2	1	前期・後期	△	1	講義	D
	人文社会系教養科目	11760260	自己表現とコミュニケーション	2	1	前期・後期	△	1	講義	D
	人文社会系教養科目	11760270	教育心理学	2	1	前期・後期	△	1	講義	D
	人文社会系教養科目	11760300	教育の近現代史	2	1	前期・後期	△	1	講義	D
	人文社会系教養科目	11760290	人間関係論	2	1	後期	△	1	講義	D
	人文社会系教養科目	11760320	生産と消費の環境論	2	2	前期	△	1	講義	D
	人文社会系教養科目	11760310	地域と環境	2	2	前期・後期	△	1	講義	D
	人文社会系教養科目	11760330	情報技術と現代社会	2	2	前期・後期	△	1	講義	D
	人文社会系教養科目	11760340	地方自治論	2	2	前期・後期	△	1	講義	D
	人文社会系教養科目	11760360	地域と経済	2	3	前期	△	1	講義	D
	人文社会系教養科目	11760390	地域社会学	2	3	前期	△	1	講義	D
	人文社会系教養科目	11760350	哲学・倫理学	2	3	前期・後期	△	1	講義	D
	人文社会系教養科目	11760370	応用経済学	2	3	前期・後期	△	1	講義	D
	人文社会系教養科目	11760380	グローバリゼーション論	2	3	前期・後期	△	1	講義	D
	人文社会系教養科目	11760400	知的財産法	2	3	前期・後期	△	1	講義	D
	人文社会系教養科目	11760410	教育社会学	2	3	前期・後期	△	1	講義	D
体育健康	体育健康科目	11770100	スポーツ健康学	2	1	前期・後期	△	1	講義	A
	体育健康科目	11770110	スポーツバイオメカニクス	2	1	前期・後期	△	1	講義	A
	体育健康科目	11770120	コンディショニング演習	2	1	前期・後期	△	1	演習	C
	体育健康科目	11772100	スポーツ科学実技1	1	1	前期・後期	◎	1	実技	C
	体育健康科目	11772110	スポーツ科学実技2	1	1	前期・後期	△	1	実技	C
	体育健康科目	11772120	スポーツ科学実技3	1	1	前期・後期	□	1	実技	ー
	体育健康科目	11772130	スポーツ科学実技4	1	1	前期・後期	□	1	実技	ー
共通教養	共通教養科目	11820110	データサイエンスリテラシー	1	1	前期・後期	△	1	講義	D
	共通教養科目	11820140	ダイバーシティ入門	2	1	前期・後期	△	1	講義	D
	共通教養科目	11820100	統計学基礎	1	1	前期・後期	□	1	講義	ー
	共通教養科目	11820120	芝浦工業大学通論	2	1	前期・後期	□	1	講義	ー
	共通教養科目	11820130	技術経営入門	2	1	前期・後期	□	1	講義	ー
	共通教養科目	11820150	消費者行動論	2	1	前期・後期	□	1	講義	ー
	共通教養科目	11820160	マーケティング概論	2	1	前期・後期	□	1	講義	ー
	共通教養科目	11820170	デジタルプレゼンテーション	2	1	前期・後期	□	1	講義	ー
課程外		XX990100	海外語学演習1	2	1	不定	△	2	演習	C
		XX990110	海外語学演習2	2	1	不定	□	2	演習	ー
		XX990120	海外語学演習3	2	1	不定	□	2	演習	ー
		XX990130	海外語学演習4	2	1	不定	□	2	演習	ー
		XX990140	海外語学演習1（短期）	1	1	不定	△	1	演習	C
		XX990150	海外語学演習2（短期）	1	1	不定	□	1	演習	ー
		XX990160	海外語学演習3（短期）	1	1	不定	□	1	演習	ー
		XX990170	海外語学演習4（短期）	1	1	不定	□	1	演習	ー
		XX990900	学外英語検定	2	1	不定	△	1	その他	C
教職		Z1510100	教職論	2	1	前期・後期	△	1	講義	C
		Z1510240	情報機器の操作	2	1	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1510120	教育課程論	2	2	前期・後期	△	1	講義	C
		Z1510130	道徳の理論及び指導法	2	2	前期・後期	□	1	講義	ー

授　業　科　目

工学部

専門科目以外【物質化学課程　環境・物質工学コース】

◎必修　○選択必修　△選択　□自由

系列	系列グループ	科目コード	科目名	単位数	年次	開講期	単位区分	週コマ数	講義区分	学修・教育到達目標
教職		Z1510160	教育の方法及び技術	1	2	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1510170	教育におけるICT活用	1	2	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1512100	理科指導法1	2	2	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1512110	理科指導法2	2	2	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1510150	特別活動の指導法	1	2	1Q・3Q	□	1	講義	ー
		Z1510140	総合的な学習の時間の指導法	1	2	2Q・4Q	□	1	講義	ー
		Z1510110	特別支援教育論	1	3	前期・後期	△	1	講義	C
		Z1510190	教育相談論	2	3	前期・後期	△	1	講義	C
		Z1510180	生徒・進路指導論	2	3	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1512120	理科指導法3	2	3	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1512130	理科指導法4	2	3	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1510230	教職実践演習（中・高）	2	4	後期	□	1	演習	ー
		Z1510200	事前・事後指導	1	4	通年	□	1	講義	ー
		Z1510210	教育実習1	2	4	通年	□	2	実習	ー
		Z1510220	教育実習2	2	4	通年	□	2	実習	ー

授　業　科　目

工学部

専門科目【物質化学課程　化学・生命工学コース】

◎必修　○選択必修　△選択　□自由

系列	科目コード	科目名	単位数	実施期	1年			2年			3年			4年		週コマ数	講義区分	選択必修グループ	学修・教育到達目標
					前期	後期	不定	前期	後期	不定	前期	後期	不定	前期	後期				
自コース専門	D0001000	工業化学概論	2	ー	◎											1	講義	ー	B,D
	D0002000	化学結合論	2	ー	○											1	講義	A	A
	D0003000	生物化学	2	ー	○											1	講義	B	A
	D0004000	物理化学1	2	ー	○											1	講義	C	A
	CD001000	生物化学実験	2	ー		◎										2	実験	ー	A,E
	D0005000	分析化学	2	ー		○										1	講義	B	A
	D0006000	有機化学	2	ー		○										1	講義	A	A
	D0007000	無機化学1	2	ー		○										1	講義	A	A
	D0008000	化学工学1	2	ー		○										1	講義	C	A
	CD002000	塗料・塗装工学概論	2	ー		△										1	講義	ー	B
	D0009000	分析化学実験	3	ー				◎								4	実験	ー	A,E
	D0010000	生物有機化学	2	ー				○								1	講義	B	A
	D0011000	物理化学2	2	ー				○								1	講義	C	A
	D0012000	化学工学2	2	ー				○								1	講義	C	A
	D0013000	有機反応論	2	ー				○								1	講義	A	A
	D0014000	物理化学実験	2	3Q					◎							4	実験	ー	A,E
	D0015000	化学工学実験	2	4Q					◎							4	実験	ー	A,E
	D0016000	応用生物化学	2	ー					○							1	講義	B	A
	D0017000	無機化学2	2	ー					○							1	講義	A	A
	D0018000	化学分光学	2	ー					△							1	講義	ー	A
	CD003000	環境物質基礎実験	2	ー					△							2	実験	ー	D,E
	CD004000	惑星科学	2	ー					△							1	講義	ー	A
	D0019000	有機化学実験	3	ー							◎					4	実験	ー	A,E
	D0019500	反応工学	2	ー							△					1	講義	ー	A
	D0021000	分離工学	2	ー							△					1	講義	ー	A
	D0022000	セラミックス化学	2	ー							△					1	講義	ー	A
	D0023000	電気化学	2	ー							△					1	講義	ー	A
	D0024000	有機構造決定法	2	ー							△					1	講義	ー	A
	D0025000	ケミカルバイオロジー基礎	2	ー							△					1	講義	ー	A
	D0026000	応用分析化学	2	ー							△					1	講義	ー	A
	D0026500	Applied Chemistry Laboratory	3	ー							△					2	実験	ー	A
	D0026875	Introduction to Chemical Spectroscopy	2	ー							△					1	講義	ー	A
	D0033500	Basic Thermodynamics for Chemists and Chemical Engineers	2	ー							△					1	講義	ー	A
	CD005000	現代生物学	2	ー							△					1	講義	ー	A
	CD006000	宇宙空間科学	2	ー							△					1	講義	ー	A
	D0027000	化学工業総論	2	ー								◎				1	講義	ー	B,D
	D0028000	無機物質化学	2	ー								△				1	講義	ー	A
	D0029000	地球科学	2	ー								△				1	講義	ー	A
	D0030000	生物無機化学	2	ー								△				1	講義	ー	A
	D0031000	応用物理化学	2	ー								△				1	講義	ー	A
	D0032000	有機合成化学	2	ー								△				1	講義	ー	A
	D0033000	高分子化学	2	ー								△				1	講義	ー	A
	D0033750	Foundations of Chemical Biology	2	ー								△				1	講義	ー	A
	D0026750	Introduction to Applied Chemistry	2	ー								△				1	講義	ー	A
	D0034000	卒業研究1	2	ー							◎	(◎)				1	卒研	ー	A,C,E
	D0035000	卒業研究2	2	ー							(◎)	◎				1	卒研	ー	A,C,E
	D0036000	卒業研究3	4	ー										◎	(◎)	2	卒研	ー	A,C,E
	D0037000	卒業研究4	4	ー										(◎)	◎	2	卒研	ー	A,C,E

授　業　科　目

工学部

共通専門科目【物質化学課程　化学・生命工学コース】

◎必修　○選択必修　△選択　□自由

系列	系列グループ	科目コード	科目名	単位数	年次	開講期	単位区分	週コマ数	講義区分	学修・教育到達目標
共通専門	共通専門科目	EN830100	社会の中の工学	1	1	前期	◎	1	講義	B
	共通専門科目	EN830150	グローバルPBL（機械工学課程）	2	1	不定	△	2	演習	C
	共通専門科目	EN830160	グローバルPBL（物質化学課程）	2	1	不定	△	2	演習	C
	共通専門科目	EN830170	グローバルPBL（電気電子工学課程）	2	1	不定	△	2	演習	C
	共通専門科目	EN830180	グローバルPBL（情報・通信工学課程）	2	1	不定	△	2	演習	C
	共通専門科目	EN830190	グローバルPBL（土木工学課程）	2	1	不定	△	2	演習	C
	共通専門科目	EN830200	グローバルPBL（先進国際課程）	2	1	不定	△	2	演習	C
	共通専門科目	EN830110	工学研究探訪1	1	2	後期	◎	1	講義	B
	共通専門科目	EN830120	工学研究探訪2	1	2	後期	△	1	講義	B
	共通専門科目	EN830210	国際インターンシップ1	2	2	不定	△	2	演習	C
	共通専門科目	EN830220	国際インターンシップ2	2	2	不定	□	2	演習	ー
	共通専門科目	EN830130	学内研究留学1	2	3	後期	△	1	演習	E
	共通専門科目	EN830140	学内研究留学2	2	3	後期	△	1	演習	E

授　業　科　目

工学部

専門科目以外【物質化学課程　化学・生命工学コース】

◎必修　○選択必修　△選択　□自由

系列	系列グループ	科目コード	科目名	単位数	年次	開講期	単位区分	週コマ数	講義区分	学修・教育到達目標
数理基礎	数学科目	11731100	線形代数1	2	1	前期	△	1	講義	A
	数学科目	11731120	微分積分1	4	1	前期	△	2	講義	A
	数学科目	11731140	微分方程式	2	1	前期・後期	△	1	講義	A
	数学科目	11731150	確率と統計1	2	1	前期・後期	△	1	講義	A
	数学科目	11731110	線形代数2	2	1	後期	△	1	講義	A
	数学科目	11731130	微分積分2	4	1	後期	△	2	講義	A
	数学科目	11731160	確率と統計2	2	2	前期・後期	△	1	講義	A
	数学科目	11731170	関数論	2	2	前期・後期	△	1	講義	A
	数学科目	11731180	ベクトル解析	2	2	前期・後期	△	1	講義	A
	数学科目	11731190	フーリエ解析	2	2	前期・後期	△	1	講義	A
	物理学科目	11732100	物理学入門	4	1	前期	△	2	講義	A
	物理学科目	11732110	物理学実験	3	1	前期・後期	△	3	実験	E
	物理学科目	11732140	基礎力学および演習	4	1	後期	△	2	講義	A
	物理学科目	11732160	基礎電磁気学および演習	4	1	後期	△	2	講義	A
	物理学科目	11732180	基礎熱統計力学	2	2	前期	△	1	講義	A
	物理学科目	11732190	基礎熱統計力学演習	2	2	前期	△	1	演習	A
	物理学科目	11732200	相対論と量子論の基礎	2	2	後期	△	1	講義	A
	化学科目	11733120	化学実験	2	1	前期	◎	2	実験	E
英語	英語科目	11810100	Reading & Writing 1	2	1	前期	◎	1	講義	C
	英語科目	11810140	TOEIC	2	1	前期・後期	△	1	講義	C
	英語科目	11810120	Listening & Speaking 1	2	1	後期	◎	1	講義	C
	英語科目	11810130	Listening & Speaking 2	2	2	前期	△	1	講義	C
	英語科目	11810150	工学英語1	2	2	前期	△	1	講義	C
	英語科目	11810110	Reading & Writing 2	2	2	後期	△	1	講義	C
	英語科目	11810160	工学英語2	2	2	後期	△	1	講義	C
	英語科目	11810170	Academic English	2	3	前期・後期	△	1	講義	C
情報	情報科目	11750100	情報リテラシー	1	1	前期・後期	△	1	講義	A
	情報科目	11750110	情報処理概論	2	1	前期・後期	△	1	講義	A
	情報科目	11750120	Java入門	3	1	前期・後期	△	2	演習	A
	情報科目	11750130	C言語入門	3	1	前期・後期	△	2	演習	A
	情報科目	11750140	データサイエンス演習	2	1	前期・後期	△	1	演習	A
人文社会系教養	人文社会系教養科目	11760100	技術者の倫理	2	1	前期	◎	1	講義	D
	人文社会系教養科目	11760220	社会心理学	2	1	前期	△	1	講義	D
	人文社会系教養科目	11760280	教育原論	2	1	前期	△	1	講義	D
	人文社会系教養科目	11760110	生命倫理	2	1	前期・後期	△	1	講義	D
	人文社会系教養科目	11760120	人間社会と環境問題	2	1	前期・後期	△	1	講義	D
	人文社会系教養科目	11760140	経済学	2	1	前期・後期	△	1	講義	D
	人文社会系教養科目	11760150	現代の日本経済	2	1	前期・後期	△	1	講義	D
	人文社会系教養科目	11760160	現代日本の社会	2	1	前期・後期	△	1	講義	D
	人文社会系教養科目	11760170	福祉と技術	2	1	前期・後期	△	1	講義	D
	人文社会系教養科目	11760180	法学入門	2	1	前期・後期	△	1	講義	D
	人文社会系教養科目	11760190	日本国憲法	2	1	前期・後期	△	1	講義	D
	人文社会系教養科目	11760200	世界の言語と文化	2	1	前期・後期	△	1	講義	D
	人文社会系教養科目	11760210	文化人類学	2	1	前期・後期	△	1	講義	D
	人文社会系教養科目	11760230	認知心理学	2	1	前期・後期	△	1	講義	D
	人文社会系教養科目	11760240	レポートライティング	2	1	前期・後期	△	1	演習	D
	人文社会系教養科目	11760250	プレゼンテーション入門	2	1	前期・後期	△	1	講義	D

授　業　科　目

工学部

専門科目以外【物質化学課程　化学・生命工学コース】

◎必修　○選択必修　△選択　□自由

系列	系列グループ	科目コード	科目名	単位数	年次	開講期	単位区分	週コマ数	講義区分	学修・教育到達目標
人文社会系教養	人文社会系教養科目	11760260	自己表現とコミュニケーション	2	1	前期・後期	△	1	講義	D
	人文社会系教養科目	11760270	教育心理学	2	1	前期・後期	△	1	講義	D
	人文社会系教養科目	11760300	教育の近現代史	2	1	前期・後期	△	1	講義	D
	人文社会系教養科目	11760290	人間関係論	2	1	後期	△	1	講義	D
	人文社会系教養科目	11760320	生産と消費の環境論	2	2	前期	△	1	講義	D
	人文社会系教養科目	11760310	地域と環境	2	2	前期・後期	△	1	講義	D
	人文社会系教養科目	11760330	情報技術と現代社会	2	2	前期・後期	△	1	講義	D
	人文社会系教養科目	11760340	地方自治論	2	2	前期・後期	△	1	講義	D
	人文社会系教養科目	11760360	地域と経済	2	3	前期	△	1	講義	D
	人文社会系教養科目	11760390	地域社会学	2	3	前期	△	1	講義	D
	人文社会系教養科目	11760350	哲学・倫理学	2	3	前期・後期	△	1	講義	D
	人文社会系教養科目	11760370	応用経済学	2	3	前期・後期	△	1	講義	D
	人文社会系教養科目	11760380	グローバリゼーション論	2	3	前期・後期	△	1	講義	D
	人文社会系教養科目	11760400	知的財産法	2	3	前期・後期	△	1	講義	D
	人文社会系教養科目	11760410	教育社会学	2	3	前期・後期	△	1	講義	D
体育健康	体育健康科目	11770100	スポーツ健康学	2	1	前期・後期	△	1	講義	A
	体育健康科目	11770110	スポーツバイオメカニクス	2	1	前期・後期	△	1	講義	A
	体育健康科目	11770120	コンディショニング演習	2	1	前期・後期	△	1	演習	C
	体育健康科目	11772100	スポーツ科学実技1	1	1	前期・後期	◎	1	実技	C
	体育健康科目	11772110	スポーツ科学実技2	1	1	前期・後期	△	1	実技	C
	体育健康科目	11772120	スポーツ科学実技3	1	1	前期・後期	□	1	実技	ー
	体育健康科目	11772130	スポーツ科学実技4	1	1	前期・後期	□	1	実技	ー
共通教養	共通教養科目	11820110	データサイエンスリテラシー	1	1	前期・後期	△	1	講義	D
	共通教養科目	11820140	ダイバーシティ入門	2	1	前期・後期	△	1	講義	D
	共通教養科目	11820100	統計学基礎	1	1	前期・後期	□	1	講義	ー
	共通教養科目	11820120	芝浦工業大学通論	2	1	前期・後期	□	1	講義	ー
	共通教養科目	11820130	技術経営入門	2	1	前期・後期	□	1	講義	ー
	共通教養科目	11820150	消費者行動論	2	1	前期・後期	□	1	講義	ー
	共通教養科目	11820160	マーケティング概論	2	1	前期・後期	□	1	講義	ー
	共通教養科目	11820170	デジタルプレゼンテーション	2	1	前期・後期	□	1	講義	ー
課程外		XX990100	海外語学演習1	2	1	不定	△	2	演習	C
		XX990110	海外語学演習2	2	1	不定	□	2	演習	ー
		XX990120	海外語学演習3	2	1	不定	□	2	演習	ー
		XX990130	海外語学演習4	2	1	不定	□	2	演習	ー
		XX990140	海外語学演習1（短期）	1	1	不定	△	1	演習	C
		XX990150	海外語学演習2（短期）	1	1	不定	□	1	演習	ー
		XX990160	海外語学演習3（短期）	1	1	不定	□	1	演習	ー
		XX990170	海外語学演習4（短期）	1	1	不定	□	1	演習	ー
		XX990900	学外英語検定	2	1	不定	△	1	その他	C
教職		Z1510100	教職論	2	1	前期・後期	△	1	講義	C
		Z1510240	情報機器の操作	2	1	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1510120	教育課程論	2	2	前期・後期	△	1	講義	C
		Z1510130	道徳の理論及び指導法	2	2	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1510160	教育の方法及び技術	1	2	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1510170	教育におけるICT活用	1	2	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1512100	理科指導法1	2	2	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1512110	理科指導法2	2	2	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1510150	特別活動の指導法	1	2	1Q・3Q	□	1	講義	ー

授　業　科　目

工学部

専門科目以外【物質化学課程　化学・生命工学コース】

◎必修　○選択必修　△選択　□自由

系列	系列グループ	科目コード	科目名	単位数	年次	開講期	単位区分	週コマ数	講義区分	学修・教育到達目標
教職		Z1510140	総合的な学習の時間の指導法	1	2	2Q・4Q	□	1	講義	ー
		Z1510110	特別支援教育論	1	3	前期・後期	△	1	講義	C
		Z1510190	教育相談論	2	3	前期・後期	△	1	講義	C
		Z1510180	生徒・進路指導論	2	3	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1512120	理科指導法3	2	3	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1512130	理科指導法4	2	3	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1510230	教職実践演習（中・高）	2	4	後期	□	1	演習	ー
		Z1510200	事前・事後指導	1	4	通年	□	1	講義	ー
		Z1510210	教育実習1	2	4	通年	□	2	実習	ー
		Z1510220	教育実習2	2	4	通年	□	2	実習	ー

工学部全課程共通

「教育の基礎的理解に関する科目等」

施行規則の科目区分	授業科目名	単位数	免許状要件	卒業要件
教育の基礎的理解に関する科目	教育原論	2	必修	選択
	教育の近現代史	2	選択	選択
	教職論	2	必修	選択
	教育社会学	2	必修	選択
	教育心理学	2	必修	選択
	特別支援教育論	1	必修	選択
	教育課程論	2	必修	選択
道徳、総合的な学習の時間の指導法及び生徒指導、教育相談などに関する科目	道徳の理論及び指導法	2	中学校：必修 高等学校：選択	自由
	総合的な学習の時間の指導法	1	必修	自由
	特別活動の指導法	1	必修	自由
	教育の方法及び技術	1	必修	自由
	教育におけるICT活用	1	必修	自由
	生徒・進路指導論	2	必修	自由
	教育相談論	2	必修	選択
教育実践に関する科目	事前・事後指導	1	必修	自由
	教育実習１	2	必修	自由
	教育実習２	2	中学校：必修 高等学校：選択	自由
	教職実践演習（中・高）	2	必修	自由

「大学が独自に設定する科目」

施行規則の科目区分	授業科目名	単位数	免許状要件	卒業要件
大学が独自に設定する科目	人間関係論	2	選択	選択

「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」

施行規則の科目区分	授業科目名	単位数	免許状要件	卒業要件	
日本国憲法	日本国憲法	2	必修	選択	
体育	スポーツ科学実技1	1	必修	必修	
	スポーツ科学実技2	1	選択必修	選択	この中から1単位以上選択必修
	コンディショニング演習	2	選択必修	選択	
	スポーツ健康学	2	選択必修	選択	
	スポーツバイオメカニクス	2	選択必修	選択	
外国語コミュニケーション	Reading & Writing 1	2	選択必修	必修	
	Listening & Speaking 1	2	選択必修	必修	
情報機器の操作	情報機器の操作	2	選択必修	自由	この中から2単位以上選択必修
	C言語入門	3	選択必修	コース別科目配当表参照	
	情報通信ソフトウェア演習A	1	選択必修	Fコース必修	
	情報通信ソフトウェア演習B	1	選択必修	Fコース必修	
	プログラミング入門１	2	選択必修	Lコース必修	
	土木情報処理	2	選択必修	Hコース必修	

物質化学課程

「教科及び教科の指導法に関する科目」

教科名『理科』

施行規則の科目区分	授業科目名	単位数	免許状要件	備考	
物理学	物理学入門	4	必修		
	熱力学	2	選択必修		いずれか１科目選択必修
	物理化学1	2	選択必修		
	結晶構造解析	2	選択		
	固体物理	2	選択		
	Semiconductor Materials	2	選択		
	電子顕微鏡とナノサイエンス	2	選択		
	物性物理学	2	選択		
	物理化学2	2	選択		
化学	無機材料	2	選択必修		いずれか１科目選択必修
	無機化学1	2	選択必修		
	有機材料	2	選択必修		いずれか１科目選択必修
	有機化学	2	選択必修		
	材料科学	2	選択		
	触媒化学	2	選択		
	Organic Materials Chemistry	2	選択		
	Phase Transitions in Materials	2	選択		
	環境と化学	2	選択		
	化学結合論	2	選択		
	分析化学	2	選択		
	有機反応論	2	選択		
	生物有機化学	2	選択		
	有機合成化学	2	選択		
	ケミカルバイオロジー基礎	2	選択		
	化学分光学	2	選択		
生物学	現代生物学	2	必修		
	生体材料化学	2	選択		
	生物化学	2	選択		
	応用生物化学	2	選択		
地学	地球科学	2	選択必修		いずれか１科目選択必修
	惑星科学	2	選択必修		
	リサイクル工学	2	選択		
	宇宙空間科学	2	選択		
物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験	環境物質科学実験1	2	選択必修	物理学実験	中学校：いずれか１科目選択必修
	化学工学実験	2	選択必修	物理学実験	
	物理化学実験	2	選択必修	物理学実験	
	環境物質工学実験1	2	必修	化学実験	中学校：いずれか１科目選択必修
	有機化学実験	3	必修	化学実験	
	生物化学実験	2	中学校：必修 高等学校：選択	生物学実験	中学校：「物理学実験」「化学実験」「生物学実験」「地学実験」各区分1科目以上必修 高等学校：科目区分「物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験」の中から1科目選択必修
	環境物質基礎実験	2	中学校：必修 高等学校：選択	地学実験	
各教科の指導法	理科指導法1	2	必修		
	理科指導法2	2	必修		
	理科指導法3	2	中学校：必修 高等学校：選択		
	理科指導法4	2	中学校：必修 高等学校：選択		

授　業　科　目

工学部

専門科目【電気電子工学課程　電気・ロボット工学コース】

系列	科目コード	科目名	単位数	実施期	1年			2年			3年			4年		週コマ数	講義区分	選択必修グループ	学修・教育到達目標
					前期	後期	不定	前期	後期	不定	前期	後期	不定	前期	後期				
自コース専門	E0001000	電気回路1A	2	1Q	◎											2	講義	ー	D
	E0002000	電気回路1B	2	2Q	◎											2	講義	ー	D
	E0003000	電気磁気学1A	2	3Q		◎										2	講義	ー	D
	E0004000	電気磁気学1B	2	4Q		◎										2	講義	ー	D
	E0005000	電気回路2A	2	3Q		○										2	講義	ー	D
	E0006000	電気回路2B	2	4Q		○										2	講義	ー	D
	E0007000	製作実験	2	ー		○										2	実験	ー	E
	E0044000	電気･ロボット工学国際インターンシップA	2	ー			○									2	実習	ー	D,F
	E0045000	電気･ロボット工学国際インターンシップB	2	ー			○									2	実習	ー	D,F
	E0008000	基礎実験1	1	ー				◎								2	実験	ー	B,D,F,H,I
	E0009000	電気磁気学2A	2	1Q				○								2	講義	ー	D
	E0010000	電気磁気学2B	2	2Q				○								2	講義	ー	D
	E0011000	電気回路3A	2	1Q				○								2	講義	ー	D
	E0012000	電気回路3B	2	2Q				○								2	講義	ー	D
	E0013000	アナログ電子回路	2	ー				○								1	講義	ー	D
	E0014000	ディジタル回路	2	ー				○								1	講義	ー	D
	E0015000	基礎実験2	3	ー					◎							3	実験	ー	B,D,F,H,I
	E0016000	電気･ロボット工学研究概論	1	ー					◎							1	講義	ー	D
	E0017000	電気磁気学3A	2	3Q					○							2	講義	ー	D
	E0018000	電気磁気学3B	2	4Q					○							2	講義	ー	D
	E0019000	電子基礎物理	2	ー					○							1	講義	ー	D
	E0020000	電気計測	2	ー					○							1	講義	ー	D
	E0021000	応用実験1	2	ー							◎					4	実験	ー	B,D,F,H,I
	E0022000	電気工学技術英語	2	1Q・2Q							◎					2	講義	ー	F
	E0023000	Introduction of Electrical Engineering Research	2	1Q							△					2	講義	ー	D
	E0024000	マイクロコンピュータ	2	1Q							△					2	講義	ー	D
	E0025000	電気機器学	2	1Q							△					2	講義	ー	D
	E0026000	電力系統工学	2	1Q							△					2	講義	ー	D
	E0027000	制御工学	2	2Q							△					2	講義	ー	D
	E0028000	Applied Mathematics	2	2Q							△					2	講義	ー	D
	E0029000	パワーエレクトロニクス	2	2Q							△					2	講義	ー	D
	EG001000	電子物性	2	1Q							△					2	講義	ー	D
	E0030000	応用実験2	2	ー								◎				4	実験	ー	B,D,F,H,I
	E0031000	電気材料	2	3Q								△				2	講義	ー	D
	E0032000	電動機制御	2	3Q								△				2	講義	ー	D
	E0033000	Mechatronics	2	3Q								△				2	講義	ー	D
	E0034000	ロボティクス	2	3Q								△				2	講義	ー	D
	E0035000	ディジタル信号処理	2	3Q								△				2	講義	ー	D
	E0036000	現代制御	2	3Q								△				2	講義	ー	D
	E0037000	発変電工学	2	4Q								△				2	講義	ー	D
	E0038000	電気応用	2	4Q								△				2	講義	ー	D
	EG003000	電子デバイス	2	4Q								△				2	講義	ー	D
	E0039000	電気法規	2	1Q										△		2	講義	ー	D
	E0040000	高電圧工学	2	2Q										△		2	講義	ー	D
	E0041000	Electric Railway	2	2Q										△		2	講義	ー	D
	E0042000	電気機器設計製図	2	ー										△		2	講義	ー	D
	E0043000	電力情報システム設計	2	ー										△		2	講義	ー	D
	EG002000	電波工学	2	ー										△		1	講義	ー	D
	EG005000	電波法規	2	ー										△		1	講義	ー	D
	EG004000	無線機器	2	ー											△	1	講義	ー	D
	E0046000	卒業研究1	2	ー							◎	(◎)				1	卒研	ー	B,E,G
	E0047000	卒業研究2	2	ー							(◎)	◎				1	卒研	ー	B,E,G
	E0048000	卒業研究3	4	ー										◎	(◎)	2	卒研	ー	B,E,G
	E0049000	卒業研究4	4	ー										(◎)	◎	2	卒研	ー	B,E,G

授　業　科　目

工学部

共通専門科目【電気電子工学課程　電気・ロボット工学コース】

◎必修　○選択必修　△選択　□自由

系列	系列グループ	科目コード	科目名	単位数	年次	開講期	単位区分	週コマ数	講義区分	学修・教育到達目標
共通専門	共通専門科目	EN830100	社会の中の工学	1	1	前期	◎	1	講義	D
	共通専門科目	EN830150	グローバルPBL（機械工学課程）	2	1	不定	△	2	演習	A
	共通専門科目	EN830160	グローバルPBL（物質化学課程）	2	1	不定	△	2	演習	A
	共通専門科目	EN830170	グローバルPBL（電気電子工学課程）	2	1	不定	△	2	演習	A
	共通専門科目	EN830180	グローバルPBL（情報・通信工学課程）	2	1	不定	△	2	演習	A
	共通専門科目	EN830190	グローバルPBL（土木工学課程）	2	1	不定	△	2	演習	A
	共通専門科目	EN830200	グローバルPBL（先進国際課程）	2	1	不定	△	2	演習	A
	共通専門科目	EN830110	工学研究探訪1	1	2	後期	◎	1	講義	D
	共通専門科目	EN830120	工学研究探訪2	1	2	後期	△	1	講義	D
	共通専門科目	EN830210	国際インターンシップ1	2	2	不定	△	2	演習	A
	共通専門科目	EN830220	国際インターンシップ2	2	2	不定	□	2	演習	ー
	共通専門科目	EN830130	学内研究留学1	2	3	後期	△	1	演習	E
	共通専門科目	EN830140	学内研究留学2	2	3	後期	△	1	演習	E

授　業　科　目

工学部

専門科目以外【電気電子工学課程　電気・ロボット工学コース】

◎必修　○選択必修　△選択　□自由

系列	系列グループ	科目コード	科目名	単位数	年次	開講期	単位区分	週コマ数	講義区分	学修・教育到達目標
数理基礎	数学科目	11731100	線形代数1	2	1	前期	◎	1	講義	C
	数学科目	11731120	微分積分1	4	1	前期	◎	2	講義	C
	数学科目	11731150	確率と統計1	2	1	前期・後期	△	1	講義	C
	数学科目	11731110	線形代数2	2	1	後期	◎	1	講義	C
	数学科目	11731130	微分積分2	4	1	後期	◎	2	講義	C
	数学科目	11731140	微分方程式	2	2	前期	◎	1	講義	C
	数学科目	11731160	確率と統計2	2	2	前期・後期	△	1	講義	C
	数学科目	11731170	関数論	2	2	前期・後期	△	1	講義	C
	数学科目	11731180	ベクトル解析	2	2	前期・後期	△	1	講義	C
	数学科目	11731190	フーリエ解析	2	2	前期・後期	△	1	講義	C
	物理学科目	11732100	物理学入門	4	1	前期	○	2	講義	C
	物理学科目	11732170	基礎熱力学	2	1	後期	○	1	講義	C
	物理学科目	11732140	基礎力学および演習	4	1	後期	△	2	講義	C
	物理学科目	11732180	基礎熱統計力学	2	2	前期	△	1	講義	C
	物理学科目	11732190	基礎熱統計力学演習	2	2	前期	△	1	演習	C
	物理学科目	11732200	相対論と量子論の基礎	2	2	後期	△	1	講義	C
	化学科目	11733110	基礎化学	2	1	前期	○	1	講義	C
	化学科目	11733120	化学実験	2	1	前期・後期	△	2	実験	C
	化学科目	11733140	基礎無機化学	2	1	後期	△	1	講義	C
	化学科目	11733150	基礎有機化学	2	1	後期	△	1	講義	C
	化学科目	11733160	基礎生物化学	2	1	後期	△	1	講義	C
	化学科目	11733170	基礎固体化学	2	1	後期	△	1	講義	C
英語	英語科目	11810100	Reading & Writing 1	2	1	前期	◎	1	講義	F
	英語科目	11810140	TOEIC	2	1	前期・後期	△	1	講義	F
	英語科目	11810120	Listening & Speaking 1	2	1	後期	◎	1	講義	F
	英語科目	11810130	Listening & Speaking 2	2	2	前期	△	1	講義	F
	英語科目	11810150	工学英語1	2	2	前期	△	1	講義	F
	英語科目	11810110	Reading & Writing 2	2	2	後期	△	1	講義	F
	英語科目	11810160	工学英語2	2	2	後期	△	1	講義	F
	英語科目	11810170	Academic English	2	3	前期・後期	△	1	講義	F
情報	情報科目	11750100	情報リテラシー	1	1	前期・後期	△	1	講義	C
	情報科目	11750110	情報処理概論	2	1	前期・後期	△	1	講義	C
	情報科目	11750120	Java入門	3	1	前期・後期	△	2	演習	C
	情報科目	11750140	データサイエンス演習	2	1	前期・後期	□	1	演習	ー
	情報科目	11750130	C言語入門	3	2	前期	◎	2	演習	C
	情報科目	11750150	データサイエンス	3	2	後期	◎	2	演習	C
人文社会系教養	人文社会系教養科目	11760220	社会心理学	2	1	前期	△	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760280	教育原論	2	1	前期	△	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760110	生命倫理	2	1	前期・後期	△	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760140	経済学	2	1	前期・後期	△	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760150	現代の日本経済	2	1	前期・後期	△	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760160	現代日本の社会	2	1	前期・後期	△	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760170	福祉と技術	2	1	前期・後期	△	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760180	法学入門	2	1	前期・後期	△	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760190	日本国憲法	2	1	前期・後期	△	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760200	世界の言語と文化	2	1	前期・後期	△	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760210	文化人類学	2	1	前期・後期	△	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760230	認知心理学	2	1	前期・後期	△	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760240	レポートライティング	2	1	前期・後期	△	1	演習	F
	人文社会系教養科目	11760250	プレゼンテーション入門	2	1	前期・後期	△	1	講義	F

授　業　科　目

工学部

専門科目以外【電気電子工学課程　電気・ロボット工学コース】

◎必修　○選択必修　△選択　□自由

系列	系列グループ	科目コード	科目名	単位数	年次	開講期	単位区分	週コマ数	講義区分	学修・教育到達目標
人文社会系教養	人文社会系教養科目	11760260	自己表現とコミュニケーション	2	1	前期・後期	△	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760270	教育心理学	2	1	前期・後期	△	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760300	教育の近現代史	2	1	前期・後期	△	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760100	技術者の倫理	2	1	後期	◎	1	講義	B
	人文社会系教養科目	11760120	人間社会と環境問題	2	1	後期	◎	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760290	人間関係論	2	1	後期	△	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760320	生産と消費の環境論	2	2	前期	△	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760310	地域と環境	2	2	前期・後期	△	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760330	情報技術と現代社会	2	2	前期・後期	△	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760340	地方自治論	2	2	前期・後期	△	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760360	地域と経済	2	3	前期	△	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760390	地域社会学	2	3	前期	△	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760350	哲学・倫理学	2	3	前期・後期	△	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760370	応用経済学	2	3	前期・後期	△	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760380	グローバリゼーション論	2	3	前期・後期	△	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760400	知的財産法	2	3	前期・後期	△	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760410	教育社会学	2	3	前期・後期	△	1	講義	A
体育健康	体育健康科目	11770100	スポーツ健康学	2	1	前期・後期	△	1	講義	A
	体育健康科目	11770110	スポーツバイオメカニクス	2	1	前期・後期	△	1	講義	A
	体育健康科目	11770120	コンディショニング演習	2	1	前期・後期	△	1	演習	A
	体育健康科目	11772100	スポーツ科学実技1	1	1	前期・後期	◎	1	実技	A
	体育健康科目	11772110	スポーツ科学実技2	1	1	前期・後期	△	1	実技	A
	体育健康科目	11772120	スポーツ科学実技3	1	1	前期・後期	□	1	実技	ー
	体育健康科目	11772130	スポーツ科学実技4	1	1	前期・後期	□	1	実技	ー
共通教養	共通教養科目	11820110	データサイエンスリテラシー	1	1	前期・後期	△	1	講義	A
	共通教養科目	11820140	ダイバーシティ入門	2	1	前期・後期	△	1	講義	A
	共通教養科目	11820100	統計学基礎	1	1	前期・後期	□	1	講義	ー
	共通教養科目	11820120	芝浦工業大学通論	2	1	前期・後期	□	1	講義	ー
	共通教養科目	11820130	技術経営入門	2	1	前期・後期	□	1	講義	ー
	共通教養科目	11820150	消費者行動論	2	1	前期・後期	□	1	講義	ー
	共通教養科目	11820160	マーケティング概論	2	1	前期・後期	□	1	講義	ー
	共通教養科目	11820170	デジタルプレゼンテーション	2	1	前期・後期	□	1	講義	ー
課程外		XX990100	海外語学演習1	2	1	不定	△	2	演習	F
		XX990110	海外語学演習2	2	1	不定	□	2	演習	ー
		XX990120	海外語学演習3	2	1	不定	□	2	演習	ー
		XX990130	海外語学演習4	2	1	不定	□	2	演習	ー
		XX990140	海外語学演習1（短期）	1	1	不定	△	1	演習	F
		XX990150	海外語学演習2（短期）	1	1	不定	□	1	演習	ー
		XX990160	海外語学演習3（短期）	1	1	不定	□	1	演習	ー
		XX990170	海外語学演習4（短期）	1	1	不定	□	1	演習	ー
		XX990900	学外英語検定	2	1	不定	△	1	その他	F
教職		Z1510100	教職論	2	1	前期・後期	△	1	講義	A
		Z1510240	情報機器の操作	2	1	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1511110	幾何学A	2	1	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1510120	教育課程論	2	2	前期・後期	△	1	講義	A
		Z1510130	道徳の理論及び指導法	2	2	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1510160	教育の方法及び技術	1	2	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1510170	教育におけるICT活用	1	2	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1511100	代数学概論	2	2	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1511120	幾何学B	2	2	前期・後期	□	1	講義	ー

授　業　科　目

工学部

専門科目以外【電気電子工学課程　電気・ロボット工学コース】

◎必修　○選択必修　△選択　□自由

系列	系列グループ	科目コード	科目名	単位数	年次	開講期	単位区分	週コマ数	講義区分	学修・教育到達目標
教職		Z1511130	解析学概論	2	2	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1511140	数学科指導法1	2	2	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1511150	数学科指導法2	2	2	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1510150	特別活動の指導法	1	2	1Q・3Q	□	1	講義	ー
		Z1510140	総合的な学習の時間の指導法	1	2	2Q・4Q	□	1	講義	ー
		Z1510110	特別支援教育論	1	3	前期・後期	△	1	講義	A
		Z1510190	教育相談論	2	3	前期・後期	△	1	講義	A
		Z1510180	生徒・進路指導論	2	3	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1511160	数学科指導法3	2	3	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1511170	数学科指導法4	2	3	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1510230	教職実践演習（中・高）	2	4	後期	□	1	演習	ー
		Z1510200	事前・事後指導	1	4	通年	□	1	講義	ー
		Z1510210	教育実習1	2	4	通年	□	2	実習	ー
		Z1510220	教育実習2	2	4	通年	□	2	実習	ー

授　業　科　目

工学部

専門科目【電気電子工学課程　先端電子工学コース】

◎必修　○選択必修　△選択　□自由

系列	科目コード	科目名	単位数	実施期	1年			2年			3年			4年		週コマ数	講義区分	選択必修グループ	学修・教育到達目標
					前期	後期	不定	前期	後期	不定	前期	後期	不定	前期	後期				
自コース専門	G0001000	電気数学1	2	ー	◎											1	講義	ー	C
	G0002000	電気回路1	2	ー	◎											1	講義	ー	D
	G0003000	電子工学一般	2	ー	○											1	講義	ー	G
	G0004000	電気数学2	2	ー		◎										1	講義	ー	C
	G0005000	電気回路2	2	ー		◎										1	講義	ー	D
	G0006000	電磁気学1	2	ー		◎										1	講義	ー	D
	G0007000	ものつくり入門	2	ー		○										1	講義	ー	G
	G0039000	電子工学国際インターンシップ4	2	ー			△									2	実習	ー	E,H
	G0040000	電子工学国際インターンシップ5	2	ー			△									2	実習	ー	E,H
	G0008000	電気回路3	2	ー				◎								1	講義	ー	D
	G0009000	電磁気学2	2	ー				◎								1	講義	ー	D
	G0010000	アナログ電子回路1	2	ー				○								1	講義	ー	D
	G0011000	電子材料基礎	2	ー				○								1	講義	ー	D
	G0012000	電子工学製作実習	2	ー				○								2	実習	ー	E,H
	G0013000	電磁気学3	2	ー					◎							1	講義	ー	D
	G0014000	電子工学基礎実験	2	ー					◎							2	実験	ー	B,F,H
	G0015000	先端技術1	2	ー					◎							1	講義	ー	G
	G0016000	電気回路総合	2	ー					○							1	講義	ー	D
	G0017000	電磁気学総合	2	ー					○							1	講義	ー	D
	G0018000	アナログ電子回路2	2	ー					○							1	講義	ー	D
	G0019000	ディジタル電子回路	2	ー					○							1	講義	ー	D
	G0020000	電子物性基礎	2	ー					○							1	講義	ー	D
	G0036000	電子工学国際インターンシップ1	2	ー						△						2	実習	ー	E,H
	G0041000	電子工学国際インターンシップ6	2	ー						△						2	実習	ー	E,H
	G0042000	電子工学国際インターンシップ7	2	ー						△						2	実習	ー	E,H
	G0021000	電子工学倫理	2	ー							◎					1	講義	ー	B
	G0022000	電子制御工学	2	ー							○					1	講義	ー	D
	G0023000	電子材料	2	ー							○					1	講義	ー	D
	G0024000	半導体工学	2	ー							○					1	講義	ー	D
	G0025000	光エレクトロニクス	2	ー							○					1	講義	ー	D
	G0026000	情報理論	2	ー							○					1	講義	ー	C
	G0027000	信号処理回路	2	ー							○					1	講義	ー	D
	G0028000	情報伝送回路	2	ー							○					1	講義	ー	D
	G0029000	信頼性品質工学	2	ー							○					1	講義	ー	D
	G0030000	先端技術2	2	ー							○					1	講義	ー	G
	EG001000	電子物性	2	ー							○					1	講義	ー	D
	EG002000	電波工学	2	ー							△					1	講義	ー	D
	G0031000	電子材料評価論	2	ー								○				1	講義	ー	D
	G0032000	集積回路工学	2	ー								○				1	講義	ー	D
	G0033000	音響システム	2	ー								○				1	講義	ー	D
	G0034000	メディカルエレクトロニクス	2	ー								○				1	講義	ー	D
	EG003000	電子デバイス	2	ー								○				1	講義	ー	D
	EG004000	無線機器	2	ー								○				1	講義	ー	D
	G0037000	電子工学国際インターンシップ2	2	ー									△			2	実習	ー	E,H
	G0038000	電子工学国際インターンシップ3	2	ー									△			2	実習	ー	E,H
	EG005000	電波法規	2	ー										△		1	講義	ー	D
	G0035000	通信法令	2	ー											△	1	講義	ー	D
	G0043000	卒業研究1	2	ー							◎	(◎)				1	卒研	ー	B,E,F
	G0044000	卒業研究2	2	ー							(◎)	◎				1	卒研	ー	B,E,F
	G0045000	卒業研究3	4	ー										◎	(◎)	2	卒研	ー	B,E,F
	G0046000	卒業研究4	4	ー										(◎)	◎	2	卒研	ー	B,E,F

授　業　科　目

工学部

共通専門科目【電気電子工学課程　先端電子工学コース】

◎必修　○選択必修　△選択　□自由

系列	系列グループ	科目コード	科目名	単位数	年次	開講期	単位区分	週コマ数	講義区分	学修・教育到達目標
共通専門	共通専門科目	EN830100	社会の中の工学	1	1	前期	◎	1	講義	E
	共通専門科目	EN830150	グローバルPBL（機械工学課程）	2	1	不定	△	2	演習	A
	共通専門科目	EN830160	グローバルPBL（物質化学課程）	2	1	不定	△	2	演習	A
	共通専門科目	EN830170	グローバルPBL（電気電子工学課程）	2	1	不定	△	2	演習	A
	共通専門科目	EN830180	グローバルPBL（情報・通信工学課程）	2	1	不定	△	2	演習	A
	共通専門科目	EN830190	グローバルPBL（土木工学課程）	2	1	不定	△	2	演習	A
	共通専門科目	EN830200	グローバルPBL（先進国際課程）	2	1	不定	△	2	演習	A
	共通専門科目	EN830110	工学研究探訪1	1	2	後期	◎	1	講義	E
	共通専門科目	EN830120	工学研究探訪2	1	2	後期	△	1	講義	E
	共通専門科目	EN830210	国際インターンシップ1	2	2	不定	△	2	演習	A
	共通専門科目	EN830220	国際インターンシップ2	2	2	不定	□	2	演習	ー
	共通専門科目	EN830130	学内研究留学1	2	3	後期	△	1	演習	E
	共通専門科目	EN830140	学内研究留学2	2	3	後期	△	1	演習	E

授　業　科　目

工学部

専門科目以外【電気電子工学課程　先端電子工学コース】

◎必修　○選択必修　△選択　□自由

系列	系列グループ	科目コード	科目名	単位数	年次	開講期	単位区分	週コマ数	講義区分	学修・教育到達目標
数理基礎	数学科目	11731100	線形代数1	2	1	前期	△	1	講義	C
	数学科目	11731120	微分積分1	4	1	前期	△	2	講義	C
	数学科目	11731140	微分方程式	2	1	前期・後期	△	1	講義	C
	数学科目	11731150	確率と統計1	2	1	前期・後期	△	1	講義	C
	数学科目	11731110	線形代数2	2	1	後期	△	1	講義	C
	数学科目	11731130	微分積分2	4	1	後期	△	2	講義	C
	数学科目	11731160	確率と統計2	2	2	前期・後期	△	1	講義	C
	数学科目	11731170	関数論	2	2	前期・後期	△	1	講義	C
	数学科目	11731180	ベクトル解析	2	2	前期・後期	△	1	講義	C
	数学科目	11731190	フーリエ解析	2	2	前期・後期	△	1	講義	C
	物理学科目	11732100	物理学入門	4	1	前期	△	2	講義	C
	物理学科目	11732140	基礎力学および演習	4	1	後期	△	2	講義	C
	物理学科目	11732110	物理学実験	3	2	前期	◎	3	実験	C
	物理学科目	11732180	基礎熱統計力学	2	2	前期	△	1	講義	C
	物理学科目	11732190	基礎熱統計力学演習	2	2	前期	△	1	演習	C
	物理学科目	11732200	相対論と量子論の基礎	2	2	後期	△	1	講義	C
	化学科目	11733110	基礎化学	2	1	前期	△	1	講義	C
	化学科目	11733120	化学実験	2	1	後期	◎	2	実験	C
	化学科目	11733140	基礎無機化学	2	1	後期	△	1	講義	C
	化学科目	11733150	基礎有機化学	2	1	後期	△	1	講義	C
	化学科目	11733160	基礎生物化学	2	1	後期	△	1	講義	C
	化学科目	11733170	基礎固体化学	2	1	後期	△	1	講義	C
英語	英語科目	11810100	Reading & Writing 1	2	1	前期	◎	1	講義	A
	英語科目	11810140	TOEIC	2	1	前期・後期	△	1	講義	A
	英語科目	11810120	Listening & Speaking 1	2	1	後期	◎	1	講義	A
	英語科目	11810130	Listening & Speaking 2	2	2	前期	△	1	講義	A
	英語科目	11810150	工学英語1	2	2	前期	△	1	講義	A
	英語科目	11810110	Reading & Writing 2	2	2	後期	△	1	講義	A
	英語科目	11810160	工学英語2	2	2	後期	△	1	講義	A
	英語科目	11810170	Academic English	2	3	前期・後期	△	1	講義	A
情報	情報科目	11750100	情報リテラシー	1	1	前期・後期	△	1	講義	C
	情報科目	11750110	情報処理概論	2	1	前期・後期	△	1	講義	C
	情報科目	11750120	Java入門	3	1	前期・後期	△	2	演習	C
	情報科目	11750130	C言語入門	3	1	前期・後期	△	2	演習	C
	情報科目	11750140	データサイエンス演習	2	1	前期・後期	△	1	演習	C
人文社会系教養	人文社会系教養科目	11760220	社会心理学	2	1	前期	△	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760280	教育原論	2	1	前期	△	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760100	技術者の倫理	2	1	前期・後期	△	1	講義	B
	人文社会系教養科目	11760110	生命倫理	2	1	前期・後期	△	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760120	人間社会と環境問題	2	1	前期・後期	△	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760140	経済学	2	1	前期・後期	△	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760150	現代の日本経済	2	1	前期・後期	△	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760160	現代日本の社会	2	1	前期・後期	△	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760170	福祉と技術	2	1	前期・後期	△	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760180	法学入門	2	1	前期・後期	△	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760190	日本国憲法	2	1	前期・後期	△	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760200	世界の言語と文化	2	1	前期・後期	△	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760210	文化人類学	2	1	前期・後期	△	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760230	認知心理学	2	1	前期・後期	△	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760240	レポートライティング	2	1	前期・後期	△	1	演習	A

授　業　科　目

工学部

専門科目以外【電気電子工学課程　先端電子工学コース】

◎必修　○選択必修　△選択　□自由

系列	系列グループ	科目コード	科目名	単位数	年次	開講期	単位区分	週コマ数	講義区分	学修・教育到達目標
人文社会系教養	人文社会系教養科目	11760250	プレゼンテーション入門	2	1	前期・後期	△	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760260	自己表現とコミュニケーション	2	1	前期・後期	△	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760270	教育心理学	2	1	前期・後期	△	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760300	教育の近現代史	2	1	前期・後期	△	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760290	人間関係論	2	1	後期	△	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760320	生産と消費の環境論	2	2	前期	△	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760310	地域と環境	2	2	前期・後期	△	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760330	情報技術と現代社会	2	2	前期・後期	△	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760340	地方自治論	2	2	前期・後期	△	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760360	地域と経済	2	3	前期	△	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760390	地域社会学	2	3	前期	△	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760350	哲学・倫理学	2	3	前期・後期	△	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760370	応用経済学	2	3	前期・後期	△	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760380	グローバリゼーション論	2	3	前期・後期	△	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760400	知的財産法	2	3	前期・後期	△	1	講義	A
	人文社会系教養科目	11760410	教育社会学	2	3	前期・後期	△	1	講義	A
体育健康	体育健康科目	11770100	スポーツ健康学	2	1	前期・後期	△	1	講義	A
	体育健康科目	11770110	スポーツバイオメカニクス	2	1	前期・後期	△	1	講義	A
	体育健康科目	11770120	コンディショニング演習	2	1	前期・後期	△	1	演習	A
	体育健康科目	11772100	スポーツ科学実技1	1	1	前期・後期	◎	1	実技	A
	体育健康科目	11772110	スポーツ科学実技2	1	1	前期・後期	△	1	実技	A
	体育健康科目	11772120	スポーツ科学実技3	1	1	前期・後期	□	1	実技	ー
	体育健康科目	11772130	スポーツ科学実技4	1	1	前期・後期	□	1	実技	ー
共通教養	共通教養科目	11820110	データサイエンスリテラシー	1	1	前期・後期	△	1	講義	A
	共通教養科目	11820140	ダイバーシティ入門	2	1	前期・後期	△	1	講義	A
	共通教養科目	11820100	統計学基礎	1	1	前期・後期	□	1	講義	ー
	共通教養科目	11820120	芝浦工業大学通論	2	1	前期・後期	□	1	講義	ー
	共通教養科目	11820130	技術経営入門	2	1	前期・後期	□	1	講義	ー
	共通教養科目	11820150	消費者行動論	2	1	前期・後期	□	1	講義	ー
	共通教養科目	11820160	マーケティング概論	2	1	前期・後期	□	1	講義	ー
	共通教養科目	11820170	デジタルプレゼンテーション	2	1	前期・後期	□	1	講義	ー
課程外		XX990100	海外語学演習1	2	1	不定	△	2	演習	A
		XX990110	海外語学演習2	2	1	不定	□	2	演習	ー
		XX990120	海外語学演習3	2	1	不定	□	2	演習	ー
		XX990130	海外語学演習4	2	1	不定	□	2	演習	ー
		XX990140	海外語学演習1（短期）	1	1	不定	△	1	演習	A
		XX990150	海外語学演習2（短期）	1	1	不定	□	1	演習	ー
		XX990160	海外語学演習3（短期）	1	1	不定	□	1	演習	ー
		XX990170	海外語学演習4（短期）	1	1	不定	□	1	演習	ー
		XX990900	学外英語検定	2	1	不定	△	1	その他	A
教職		Z1510100	教職論	2	1	前期・後期	△	1	講義	A
		Z1510240	情報機器の操作	2	1	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1511110	幾何学A	2	1	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1510120	教育課程論	2	2	前期・後期	△	1	講義	A
		Z1510130	道徳の理論及び指導法	2	2	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1510160	教育の方法及び技術	1	2	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1510170	教育におけるICT活用	1	2	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1511100	代数学概論	2	2	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1511120	幾何学B	2	2	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1511130	解析学概論	2	2	前期・後期	□	1	講義	ー

授　業　科　目

工学部

専門科目以外【電気電子工学課程　先端電子工学コース】

◎必修　○選択必修　△選択　□自由

系列	系列グループ	科目コード	科目名	単位数	年次	開講期	単位区分	週コマ数	講義区分	学修・教育到達目標
教職		Z1511140	数学科指導法1	2	2	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1511150	数学科指導法2	2	2	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1510150	特別活動の指導法	1	2	1Q・3Q	□	1	講義	ー
		Z1510140	総合的な学習の時間の指導法	1	2	2Q・4Q	□	1	講義	ー
		Z1510110	特別支援教育論	1	3	前期・後期	△	1	講義	A
		Z1510190	教育相談論	2	3	前期・後期	△	1	講義	A
		Z1510180	生徒・進路指導論	2	3	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1511160	数学科指導法3	2	3	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1511170	数学科指導法4	2	3	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1510230	教職実践演習（中・高）	2	4	後期	□	1	演習	ー
		Z1510200	事前・事後指導	1	4	通年	□	1	講義	ー
		Z1510210	教育実習1	2	4	通年	□	2	実習	ー
		Z1510220	教育実習2	2	4	通年	□	2	実習	ー

工学部全課程共通

「教育の基礎的理解に関する科目等」

施行規則の科目区分	授業科目名	単位数	免許状要件	卒業要件
教育の基礎的理解に関する科目	教育原論	2	必修	選択
	教育の近現代史	2	選択	選択
	教職論	2	必修	選択
	教育社会学	2	必修	選択
	教育心理学	2	必修	選択
	特別支援教育論	1	必修	選択
	教育課程論	2	必修	選択
道徳、総合的な学習の時間の指導法及び生徒指導、教育相談などに関する科目	道徳の理論及び指導法	2	中学校：必修 高等学校：選択	自由
	総合的な学習の時間の指導法	1	必修	自由
	特別活動の指導法	1	必修	自由
	教育の方法及び技術	1	必修	自由
	教育におけるICT活用	1	必修	自由
	生徒・進路指導論	2	必修	自由
	教育相談論	2	必修	選択
教育実践に関する科目	事前・事後指導	1	必修	自由
	教育実習１	2	必修	自由
	教育実習２	2	中学校：必修 高等学校：選択	自由
	教職実践演習（中・高）	2	必修	自由

「大学が独自に設定する科目」

施行規則の科目区分	授業科目名	単位数	免許状要件	卒業要件
大学が独自に設定する科目	人間関係論	2	選択	選択

「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」

施行規則の科目区分	授業科目名	単位数	免許状要件	卒業要件	
日本国憲法	日本国憲法	2	必修	選択	
体育	スポーツ科学実技1	1	必修	必修	
	スポーツ科学実技2	1	選択必修	選択	この中から1単位以上選択必修
	コンディショニング演習	2	選択必修	選択	
	スポーツ健康学	2	選択必修	選択	
	スポーツバイオメカニクス	2	選択必修	選択	
外国語コミュニケーション	Reading & Writing 1	2	選択必修	必修	
	Listening & Speaking 1	2	選択必修	必修	
情報機器の操作	情報機器の操作	2	選択必修	自由	この中から2単位以上選択必修
	C言語入門	3	選択必修	コース別科目配当表参照	
	情報通信ソフトウェア演習A	1	選択必修	Fコース必修	
	情報通信ソフトウェア演習B	1	選択必修	Fコース必修	
	プログラミング入門１	2	選択必修	Lコース必修	
	土木情報処理	2	選択必修	Hコース必修	

電気電子工学課程

「教科及び教科の指導法に関する科目」

教科名『数学』

施行規則の科目区分	授業科目名	単位数	免許状要件	
代数学	代数学概論	2	必修	
幾何学	幾何学A	2	必修	
	幾何学B	2	選択	
解析学	解析学概論	2	必修	
	Applied Mathematics	2	選択必修	この中から6単位以上選択必修
	制御工学	2	選択必修	
	電動機制御	2	選択必修	
	ディジタル信号処理	2	選択必修	
	現代制御	2	選択必修	
	電気計測	2	選択必修	
	電気数学1	2	選択必修	
	電気数学2	2	選択必修	
	電子制御工学	2	選択必修	
確率論、統計学	確率と統計1	2	必修	
コンピュータ	情報処理概論	2	必修	
	マイクロコンピュータ	2	選択必修	この中から4単位以上選択必修
	製作実験	2	選択必修	
	ロボティクス	2	選択必修	
	Mechatronics	2	選択必修	
	情報理論	2	選択必修	
	信号処理回路	2	選択必修	
	電子工学製作実習	2	選択必修	
各教科の指導法	数学科指導法1	2	必修	
	数学科指導法2	2	必修	
	数学科指導法3	2	中学校：必修 高等学校：選択	
	数学科指導法4	2	中学校：必修 高等学校：選択	

授　業　科　目

工学部

専門科目【情報・通信工学課程　情報通信コース】

◎必修　○選択必修　△選択　□自由

系列	科目コード	科目名	単位数	実施期	1年			2年			3年			4年		週コマ数	講義区分	選択必修グループ	学修・教育到達目標
					前期	後期	不定	前期	後期	不定	前期	後期	不定	前期	後期				
自コース専門	F0001000	情報通信ソフトウェア演習A	1	1Q・2Q	◎											2	演習	ー	A-4,B-1,B-2
	F0002000	情報通信ハードウェア実験A	1	1Q・2Q	◎											2	実験	ー	A-4,B-1,B-2,G
	F0003000	情報処理入門	2	ー	△											1	講義	ー	A-3
	F0004000	情報処理基礎	2	ー	△											1	講義	ー	A-4
	F0005000	情報通信ソフトウェア演習B	1	3Q・4Q		◎										2	演習	ー	A-4,B-1,B-2
	F0006000	情報通信ハードウェア実験B	1	3Q・4Q		◎										2	実験	ー	A-4,B-1,B-2,G
	F0007000	電気回路基礎	2	ー		△										1	講義	ー	B-1
	F0008000	論理設計	2	ー		△										1	講義	ー	B-1
	F0044000	情報通信工学実習	1	ー			△									1	実習	ー	F
	F0009000	情報通信ソフトウェア演習C	1	1Q・2Q				◎								2	演習	ー	A-4,B-1,B-2
	F0010000	情報通信ハードウェア実験C	1	1Q・2Q				◎								2	実験	ー	A-4,B-1,B-2,G
	F0011000	電磁気学1	4	ー				△								2	講義	ー	B-1
	F0013000	回路の過渡現象	2	ー				△								1	講義	ー	B-1
	F0014000	情報通信数学	2	ー				△								1	講義	ー	A-3
	F0015000	通信計測	2	ー				△								1	講義	ー	B-1
	F0016000	情報通信ネットワーク	2	ー				△								1	講義	ー	B-3
	F0017000	情報通信ソフトウェア演習D	1	3Q・4Q					◎							2	演習	ー	A-4,B-1,B-2
	F0018000	情報通信ハードウェア実験D	1	3Q・4Q					◎							2	実験	ー	A-4,B-1,B-2,G
	F0019000	情報理論	2	ー					△							1	講義	ー	B-1
	F0020000	情報処理1	2	ー					△							1	演習	ー	A-4
	F0021000	回路設計演習	2	ー					△							1	演習	ー	B-3
	F0022000	ネットワーク理論	2	ー					△							1	講義	ー	B-3
	F0023000	情報通信工学概論	2	ー					△							1	講義	ー	C-1,C-2
	F0012000	電子回路	2	ー					△							1	講義	ー	B-1
	F0024000	情報通信応用実験A	3	ー							◎					2	実験	ー	B-2,B-3,G
	F0025000	電磁気学2	2	ー							△					1	講義	ー	B-1
	F0026000	通信方式	2	ー							△					1	講義	ー	B-3
	F0027000	メディア情報工学	2	ー							△					1	講義	ー	B-3
	F0028000	電波工学1	2	ー							△					1	講義	ー	B-3
	F0029000	電波法規	2	ー							△					1	講義	ー	B-3
	F0030000	情報処理2	2	ー							△					1	演習	ー	B-3
	F0031000	情報通信特論1	1	ー							△					1	講義	ー	B-3
	F0032000	音響工学	2	ー							△					1	講義	ー	B-3
	FL001000	データベース	2	ー							△					1	講義	ー	A-4
	FL002000	移動通信工学	2	ー							△					1	講義	ー	B-3
	FL003000	情報通信技術英語	2	ー							△					1	講義	ー	D-2
	FL004000	光通信工学	2	ー							△					1	講義	ー	B-3
	F0033000	情報通信応用実験B	3	ー								◎				2	実験	ー	B-2,B-3,G
	F0034000	ディジタル信号処理	2	ー								△				1	講義	ー	B-3
	F0035000	マイクロ波工学	2	ー								△				1	講義	ー	B-3
	F0036000	無線機器	2	ー								△				1	講義	ー	B-3
	F0037000	電波工学2	2	ー								△				1	講義	ー	B-3
	F0038000	宇宙通信工学	2	ー								△				1	講義	ー	B-3
	F0039000	通信法令	2	ー								△				1	講義	ー	B-3
	F0040000	メディア通信工学	2	ー								△				1	講義	ー	B-3
	F0041000	パターン認識	2	ー								△				1	講義	ー	A-3
	F0042000	生体情報工学	2	ー								△				1	講義	ー	B-3
	F0043000	情報通信システム設計論	2	ー								△				1	講義	ー	B-3
	FL005000	情報倫理	2	ー								△				1	講義	ー	E
	FL006000	情報通信特論2	1	ー								△				1	講義	ー	B-3
	FL007000	セキュアネットワーク	2	ー								△				1	講義	ー	B-3
	FL008000	情報工学特論	1	ー								△				1	講義	ー	B-3
	F0045000	卒業研究1	2	ー							◎	(◎)				1	卒研	ー	C-1,C-2,D-1
	F0046000	卒業研究2	2	ー							(◎)	◎				1	卒研	ー	C-1,C-2,D-1
	F0047000	卒業研究3	4	ー										◎	(◎)	2	卒研	ー	C-1,C-2,D-1,F
	F0048000	卒業研究4	4	ー										(◎)	◎	2	卒研	ー	C-1,C-2,D-1,F

授　業　科　目

工学部

共通専門科目【情報・通信工学課程　情報通信コース】

◎必修　○選択必修　△選択　□自由

系列	系列グループ	科目コード	科目名	単位数	年次	開講期	単位区分	週コマ数	講義区分	学修・教育到達目標
共通専門	共通専門科目	EN830100	社会の中の工学	1	1	前期	◎	1	講義	F
	共通専門科目	EN830150	グローバルPBL（機械工学課程）	2	1	不定	△	2	演習	G
	共通専門科目	EN830160	グローバルPBL（物質化学課程）	2	1	不定	△	2	演習	G
	共通専門科目	EN830170	グローバルPBL（電気電子工学課程）	2	1	不定	△	2	演習	G
	共通専門科目	EN830180	グローバルPBL（情報・通信工学課程）	2	1	不定	△	2	演習	G
	共通専門科目	EN830190	グローバルPBL（土木工学課程）	2	1	不定	△	2	演習	G
	共通専門科目	EN830200	グローバルPBL（先進国際課程）	2	1	不定	△	2	演習	G
	共通専門科目	EN830110	工学研究探訪1	1	2	後期	◎	1	講義	F
	共通専門科目	EN830120	工学研究探訪2	1	2	後期	△	1	講義	F
	共通専門科目	EN830210	国際インターンシップ1	2	2	不定	△	2	演習	G
	共通専門科目	EN830220	国際インターンシップ2	2	2	不定	□	2	演習	ー
	共通専門科目	EN830130	学内研究留学1	2	3	後期	△	1	演習	C-1,C-2,D-1,F
	共通専門科目	EN830140	学内研究留学2	2	3	後期	△	1	演習	C-1,C-2,D-1,F

授　業　科　目

工学部

専門科目以外【情報・通信工学課程　情報通信コース】

◎必修　○選択必修　△選択　□自由

系列	系列グループ	科目コード	科目名	単位数	年次	開講期	単位区分	週コマ数	講義区分	学修・教育到達目標
数理基礎	数学科目	11731100	線形代数1	2	1	前期	◎	1	講義	A-3
	数学科目	11731120	微分積分1	4	1	前期	◎	2	講義	A-3
	数学科目	11731140	微分方程式	2	1	前期・後期	△	1	講義	A-3
	数学科目	11731150	確率と統計1	2	1	前期・後期	△	1	講義	A-3
	数学科目	11731110	線形代数2	2	1	後期	◎	1	講義	A-3
	数学科目	11731130	微分積分2	4	1	後期	◎	2	講義	A-3
	数学科目	11731160	確率と統計2	2	2	前期・後期	△	1	講義	A-3
	数学科目	11731170	関数論	2	2	前期・後期	△	1	講義	A-3
	数学科目	11731180	ベクトル解析	2	2	前期・後期	△	1	講義	A-3
	数学科目	11731190	フーリエ解析	2	2	前期・後期	△	1	講義	A-3
	物理学科目	11732100	物理学入門	4	1	前期	◎	2	講義	A-2
	物理学科目	11732110	物理学実験	3	1	後期	◎	3	実験	A-2
	物理学科目	11732140	基礎力学および演習	4	1	後期	△	2	講義	A-2
	物理学科目	11732180	基礎熱統計力学	2	2	前期	△	1	講義	A-2
	物理学科目	11732190	基礎熱統計力学演習	2	2	前期	△	1	演習	A-2
	物理学科目	11732200	相対論と量子論の基礎	2	2	後期	△	1	講義	A-2
	化学科目	11733110	基礎化学	2	1	前期	△	1	講義	A-3
	化学科目	11733120	化学実験	2	1	前期・後期	△	2	実験	A-3
	化学科目	11733140	基礎無機化学	2	1	後期	△	1	講義	A-3
	化学科目	11733150	基礎有機化学	2	1	後期	△	1	講義	A-3
	化学科目	11733160	基礎生物化学	2	1	後期	△	1	講義	A-3
	化学科目	11733170	基礎固体化学	2	1	後期	△	1	講義	A-3
英語	英語科目	11810100	Reading & Writing 1	2	1	前期	◎	1	講義	D-2
	英語科目	11810140	TOEIC	2	1	前期・後期	△	1	講義	D-2
	英語科目	11810120	Listening & Speaking 1	2	1	後期	◎	1	講義	D-2
	英語科目	11810130	Listening & Speaking 2	2	2	前期	△	1	講義	D-2
	英語科目	11810150	工学英語1	2	2	前期	△	1	講義	D-2
	英語科目	11810110	Reading & Writing 2	2	2	後期	△	1	講義	D-2
	英語科目	11810160	工学英語2	2	2	後期	△	1	講義	D-2
	英語科目	11810170	Academic English	2	3	前期・後期	△	1	講義	D-2
情報	情報科目	11750100	情報リテラシー	1	1	前期・後期	△	1	講義	A-4
	情報科目	11750120	Java入門	3	1	前期・後期	△	2	演習	A-4
	情報科目	11750140	データサイエンス演習	2	1	前期・後期	△	1	演習	A-4
	情報科目	11750130	C言語入門	3	1	前期・後期	□	2	演習	ー
人文社会系教養	人文社会系教養科目	11760220	社会心理学	2	1	前期	△	1	講義	A-1
	人文社会系教養科目	11760280	教育原論	2	1	前期	△	1	講義	A-1
	人文社会系教養科目	11760110	生命倫理	2	1	前期・後期	△	1	講義	E
	人文社会系教養科目	11760120	人間社会と環境問題	2	1	前期・後期	△	1	講義	A-1
	人文社会系教養科目	11760140	経済学	2	1	前期・後期	△	1	講義	A-1
	人文社会系教養科目	11760150	現代の日本経済	2	1	前期・後期	△	1	講義	A-1
	人文社会系教養科目	11760160	現代日本の社会	2	1	前期・後期	△	1	講義	A-1
	人文社会系教養科目	11760170	福祉と技術	2	1	前期・後期	△	1	講義	A-1
	人文社会系教養科目	11760180	法学入門	2	1	前期・後期	△	1	講義	A-1
	人文社会系教養科目	11760190	日本国憲法	2	1	前期・後期	△	1	講義	A-1
	人文社会系教養科目	11760200	世界の言語と文化	2	1	前期・後期	△	1	講義	A-1
	人文社会系教養科目	11760210	文化人類学	2	1	前期・後期	△	1	講義	A-1
	人文社会系教養科目	11760230	認知心理学	2	1	前期・後期	△	1	講義	A-1
	人文社会系教養科目	11760240	レポートライティング	2	1	前期・後期	△	1	演習	D-1
	人文社会系教養科目	11760250	プレゼンテーション入門	2	1	前期・後期	△	1	講義	D-1
	人文社会系教養科目	11760260	自己表現とコミュニケーション	2	1	前期・後期	△	1	講義	D-1

授　業　科　目

工学部

専門科目以外【情報・通信工学課程　情報通信コース】

◎必修　○選択必修　△選択　□自由

系列	系列グループ	科目コード	科目名	単位数	年次	開講期	単位区分	週コマ数	講義区分	学修・教育到達目標
人文社会系教養	人文社会系教養科目	11760270	教育心理学	2	1	前期・後期	△	1	講義	A-1
	人文社会系教養科目	11760300	教育の近現代史	2	1	前期・後期	△	1	講義	A-1
	人文社会系教養科目	11760100	技術者の倫理	2	1	後期	◎	1	講義	E
	人文社会系教養科目	11760290	人間関係論	2	1	後期	△	1	講義	A-1
	人文社会系教養科目	11760320	生産と消費の環境論	2	2	前期	△	1	講義	A-1
	人文社会系教養科目	11760310	地域と環境	2	2	前期・後期	△	1	講義	A-1
	人文社会系教養科目	11760330	情報技術と現代社会	2	2	前期・後期	△	1	講義	A-1
	人文社会系教養科目	11760340	地方自治論	2	2	前期・後期	△	1	講義	A-1
	人文社会系教養科目	11760360	地域と経済	2	3	前期	△	1	講義	A-1
	人文社会系教養科目	11760390	地域社会学	2	3	前期	△	1	講義	A-1
	人文社会系教養科目	11760350	哲学・倫理学	2	3	前期・後期	△	1	講義	E
	人文社会系教養科目	11760370	応用経済学	2	3	前期・後期	△	1	講義	A-1
	人文社会系教養科目	11760380	グローバリゼーション論	2	3	前期・後期	△	1	講義	A-1
	人文社会系教養科目	11760400	知的財産法	2	3	前期・後期	△	1	講義	A-1
	人文社会系教養科目	11760410	教育社会学	2	3	前期・後期	△	1	講義	A-1
体育健康	体育健康科目	11770100	スポーツ健康学	2	1	前期・後期	△	1	講義	A-1
	体育健康科目	11770110	スポーツバイオメカニクス	2	1	前期・後期	△	1	講義	A-1
	体育健康科目	11770120	コンディショニング演習	2	1	前期・後期	△	1	演習	A-1
	体育健康科目	11772100	スポーツ科学実技1	1	1	前期・後期	◎	1	実技	A-1
	体育健康科目	11772110	スポーツ科学実技2	1	1	前期・後期	△	1	実技	A-1
	体育健康科目	11772120	スポーツ科学実技3	1	1	前期・後期	□	1	実技	ー
	体育健康科目	11772130	スポーツ科学実技4	1	1	前期・後期	□	1	実技	ー
共通教養	共通教養科目	11820110	データサイエンスリテラシー	1	1	前期・後期	△	1	講義	A-4
	共通教養科目	11820140	ダイバーシティ入門	2	1	前期・後期	△	1	講義	A-1
	共通教養科目	11820100	統計学基礎	1	1	前期・後期	□	1	講義	ー
	共通教養科目	11820120	芝浦工業大学通論	2	1	前期・後期	□	1	講義	ー
	共通教養科目	11820130	技術経営入門	2	1	前期・後期	□	1	講義	ー
	共通教養科目	11820150	消費者行動論	2	1	前期・後期	□	1	講義	ー
	共通教養科目	11820160	マーケティング概論	2	1	前期・後期	□	1	講義	ー
	共通教養科目	11820170	デジタルプレゼンテーション	2	1	前期・後期	□	1	講義	ー
課程外		XX990100	海外語学演習1	2	1	不定	△	2	演習	D-2
		XX990110	海外語学演習2	2	1	不定	□	2	演習	ー
		XX990120	海外語学演習3	2	1	不定	□	2	演習	ー
		XX990130	海外語学演習4	2	1	不定	□	2	演習	ー
		XX990140	海外語学演習1（短期）	1	1	不定	△	1	演習	D-2
		XX990150	海外語学演習2（短期）	1	1	不定	□	1	演習	ー
		XX990160	海外語学演習3（短期）	1	1	不定	□	1	演習	ー
		XX990170	海外語学演習4（短期）	1	1	不定	□	1	演習	ー
		XX990900	学外英語検定	2	1	不定	△	1	その他	D-2
教職		Z1510100	教職論	2	1	前期・後期	△	1	講義	G
		Z1510240	情報機器の操作	2	1	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1511110	幾何学A	2	1	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1510120	教育課程論	2	2	前期・後期	△	1	講義	G
		Z1510130	道徳の理論及び指導法	2	2	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1510160	教育の方法及び技術	1	2	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1510170	教育におけるICT活用	1	2	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1511100	代数学概論	2	2	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1511120	幾何学B	2	2	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1511130	解析学概論	2	2	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1511140	数学科指導法1	2	2	前期・後期	□	1	講義	ー

授　業　科　目

工学部

専門科目以外【情報・通信工学課程　情報通信コース】

◎必修　○選択必修　△選択　□自由

系列	系列グループ	科目コード	科目名	単位数	年次	開講期	単位区分	週コマ数	講義区分	学修・教育到達目標
教職		Z1511150	数学科指導法2	2	2	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1513110	工業科指導法1	2	2	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1513120	工業科指導法2	2	2	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1514110	情報科指導法1	2	2	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1514120	情報科指導法2	2	2	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1510150	特別活動の指導法	1	2	1Q・3Q	□	1	講義	ー
		Z1510140	総合的な学習の時間の指導法	1	2	2Q・4Q	□	1	講義	ー
		Z1510110	特別支援教育論	1	3	前期・後期	△	1	講義	G
		Z1510190	教育相談論	2	3	前期・後期	△	1	講義	G
		Z1513100	職業指導	2	3	前期・後期	△	1	講義	G
		Z1514100	情報と職業	2	3	前期・後期	△	1	講義	A-4,G
		Z1510180	生徒・進路指導論	2	3	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1511160	数学科指導法3	2	3	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1511170	数学科指導法4	2	3	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1510230	教職実践演習（中・高）	2	4	後期	□	1	演習	ー
		Z1510200	事前・事後指導	1	4	通年	□	1	講義	ー
		Z1510210	教育実習1	2	4	通年	□	2	実習	ー
		Z1510220	教育実習2	2	4	通年	□	2	実習	ー

授 業 科 目

工学部

専門科目【情報・通信工学課程　情報工学コース】

◎必修　○選択必修　△選択　□自由

系列	科目コード	科目名	単位数	実施期	1年			2年			3年			4年		週コマ数	講義区分	選択必修グループ	学修・教育到達目標
					前期	後期	不定	前期	後期	不定	前期	後期	不定	前期	後期				
自コース専門	L0001000	コンピュータ科学序説	2	ー	◎											1	講義	ー	B-2
	L0002000	離散数学1	2	ー	◎											1	講義	ー	B-1
	L0003000	プログラミング入門1	2	ー	◎											2	演習	ー	A,C
	L0004000	情報工学通論	2	ー		◎										1	講義	ー	D,F-1,G
	L0005000	プログラミング入門2	2	ー		◎										2	演習	ー	C
	L0006000	コンピュータアーキテクチャ	2	ー		◎										1	講義	ー	B-2
	L0007000	離散数学2	2	ー		○										1	講義	ー	B-1
	L0008000	論理回路	2	ー		△										1	講義	ー	B-2
	L0042000	情報工学実習	1	ー			△									1	実習	ー	G
	L0043000	情報工学海外実習1	2	ー			△									2	実習	ー	G
	L0044000	情報工学海外実習2	2	ー			△									2	実習	ー	G
	L0045000	情報工学海外実習3	2	ー			△									2	実習	ー	G
	L0046000	情報工学海外実習4	2	ー			△									2	実習	ー	G
	L0009000	データ構造とアルゴリズム1	2	ー				◎								1	講義	ー	B-2
	L0010000	基礎情報演習1A	2	ー				◎								2	演習	ー	C
	L0011000	基礎情報演習1B	2	ー				◎								1	演習	ー	C
	L0012000	H.C.インタラクション	2	ー				○								1	講義	ー	B-2
	L0013000	オペレーティングシステム	2	ー				○								1	講義	ー	B-2
	L0014000	数理論理学	1	1Q				△								1	講義	ー	B-1
	L0015000	信号処理	2	ー				△								1	講義	ー	B-1,B-2
	L0015500	Engineering Mathematics	2	ー				△								1	講義	ー	B-1
	L0016000	基礎情報演習2A	2	ー					◎							2	演習	ー	C
	L0017000	基礎情報演習2B	2	ー					◎							2	演習	ー	C
	L0018000	データ構造とアルゴリズム2	2	ー					○							1	講義	ー	B-2
	L0019000	ディジタルメディア処理	2	ー					○							1	講義	ー	B-2
	L0020000	コンピュータ通信	2	ー					△							1	講義	ー	B-2
	L0021000	形式言語とオートマトン	2	ー					△							1	講義	ー	B-1
	L0022000	プログラミング言語論	1	3Q					△							1	講義	ー	B-2
	L0023000	数値計算法	2	ー					△							1	講義	ー	B-1
	L0024000	卒研プレゼミナール	2	ー					△							1	講義	ー	G
	L0024500	Foundations for Programming Languages	2	ー					△							1	講義	ー	B-2
	L0024750	Operating Systems and Exercises	2	ー					△							1	演習	ー	B-2
	L0024875	Introduction to Computer Science and Engineering	2	ー					△							1	講義	ー	F-1
	L0025000	コンピュータビジョン	2	ー							△					1	講義	ー	B-2
	L0025500	Interaction Design	2	ー							△					1	講義	ー	B-2
	L0026000	人工知能	2	ー							△					1	講義	ー	B-2
	L0027000	組込みシステム	2	ー							△					1	講義	ー	C
	L0028000	情報ネットワーク	2	ー							△					1	講義	ー	B-2
	L0029000	集積回路工学	2	ー							△					1	講義	ー	B-2
	L0030000	数理計画法	1	1Q							△					1	講義	ー	B-1
	L0031000	ソフトウェア工学	2	ー							△					1	講義	ー	B-2
	L0032000	情報セキュリティ	2	ー							△					1	講義	ー	D
	L0033000	ソフトウェア開発演習	3	ー							△					2	演習	ー	C
	L0034000	Java応用プログラミング	2	1Q							△					2	講義	ー	B-2,C
	L0035500	人工知能プログラミング	2	2Q							△					2	講義	ー	B-2,C
	FL001000	データベース	2	ー							△					1	講義	ー	B-2
	FL002000	移動通信工学	2	ー							△					1	講義	ー	B-2
	FL003000	情報通信技術英語	2	ー							△					1	講義	ー	F-2
	FL004000	光通信工学	2	ー							△					1	講義	ー	B-2
	L0036000	自然言語処理	2	ー								△				1	講義	ー	B-2
	L0037000	音響・音声処理工学	2	ー								△				1	講義	ー	B-2
	L0038000	コンピュータグラフィックス	2	ー								△				1	講義	ー	B-2
	L0039000	データ解析法	2	ー								△				1	講義	ー	B-1
	L0040000	プログラミング言語処理演習	3	ー								△				2	演習	ー	C
	L0041000	情報システムプログラミング	2	ー								△				1	講義	ー	B-2
	L0041500	Exercise on Object Oriented Programming	2	ー								△				1	演習	ー	C
	FL005000	情報倫理	2	ー								△				1	講義	ー	D
	FL006000	情報通信特論2	1	ー								△				1	講義	ー	G
	FL007000	セキュアネットワーク	2	ー								△				1	講義	ー	B-2,D
	FL008000	情報工学特論	1	ー								△				1	講義	ー	G
	L0047000	卒業研究1	2	ー							◎	(◎)				1	卒研	ー	C,F-1,G
	L0048000	卒業研究2	2	ー							(◎)	◎				1	卒研	ー	C,F-1,G
	L0049000	卒業研究3	4	ー										◎	(◎)	2	卒研	ー	C,F-1,G
	L0050000	卒業研究4	4	ー										(◎)	◎	2	卒研	ー	C,F-1,G

授　業　科　目

工学部

共通専門科目【情報・通信工学課程　情報工学コース】

◎必修　○選択必修　△選択　□自由

系列	系列グループ	科目コード	科目名	単位数	年次	開講期	単位区分	週コマ数	講義区分	学修・教育到達目標
共通専門	共通専門科目	EN830100	社会の中の工学	1	1	前期	◎	1	講義	G
	共通専門科目	EN830150	グローバルPBL（機械工学課程）	2	1	不定	△	2	演習	G
	共通専門科目	EN830160	グローバルPBL（物質化学課程）	2	1	不定	△	2	演習	G
	共通専門科目	EN830170	グローバルPBL（電気電子工学課程）	2	1	不定	△	2	演習	G
	共通専門科目	EN830180	グローバルPBL（情報・通信工学課程）	2	1	不定	△	2	演習	G
	共通専門科目	EN830190	グローバルPBL（土木工学課程）	2	1	不定	△	2	演習	G
	共通専門科目	EN830200	グローバルPBL（先進国際課程）	2	1	不定	△	2	演習	G
	共通専門科目	EN830110	工学研究探訪1	1	2	後期	◎	1	講義	G
	共通専門科目	EN830120	工学研究探訪2	1	2	後期	△	1	講義	G
	共通専門科目	EN830210	国際インターンシップ1	2	2	不定	△	2	演習	G
	共通専門科目	EN830220	国際インターンシップ2	2	2	不定	□	2	演習	ー
	共通専門科目	EN830130	学内研究留学1	2	3	後期	△	1	演習	G
	共通専門科目	EN830140	学内研究留学2	2	3	後期	△	1	演習	G

授　業　科　目

工学部

専門科目以外【情報・通信工学課程　情報工学コース】

◎必修　○選択必修　△選択　□自由

系列	系列グループ	科目コード	科目名	単位数	年次	開講期	単位区分	週コマ数	講義区分	学修・教育到達目標
数理基礎	数学科目	11731100	線形代数1	2	1	前期	◎	1	講義	A
	数学科目	11731120	微分積分1	4	1	前期	◎	2	講義	A
	数学科目	11731140	微分方程式	2	1	前期・後期	△	1	講義	A
	数学科目	11731150	確率と統計1	2	1	後期	◎	1	講義	A
	数学科目	11731110	線形代数2	2	1	後期	△	1	講義	A
	数学科目	11731130	微分積分2	4	1	後期	△	2	講義	A
	数学科目	11731160	確率と統計2	2	2	前期・後期	△	1	講義	A
	数学科目	11731170	関数論	2	2	前期・後期	△	1	講義	A
	数学科目	11731180	ベクトル解析	2	2	前期・後期	△	1	講義	A
	数学科目	11731190	フーリエ解析	2	2	前期・後期	△	1	講義	A
	物理学科目	11732100	物理学入門	4	1	前期	◎	2	講義	A
	物理学科目	11732110	物理学実験	3	1	前期・後期	△	3	実験	A
	物理学科目	11732140	基礎力学および演習	4	1	後期	△	2	講義	A
	物理学科目	11732160	基礎電磁気学および演習	4	1	後期	△	2	講義	A
	物理学科目	11732180	基礎熱統計力学	2	2	前期	△	1	講義	A
	物理学科目	11732190	基礎熱統計力学演習	2	2	前期	△	1	演習	A
	物理学科目	11732200	相対論と量子論の基礎	2	2	後期	△	1	講義	A
	化学科目	11733110	基礎化学	2	1	前期	◎	1	講義	A
	化学科目	11733120	化学実験	2	1	前期・後期	△	2	実験	A
	化学科目	11733140	基礎無機化学	2	1	後期	△	1	講義	A
	化学科目	11733150	基礎有機化学	2	1	後期	△	1	講義	A
	化学科目	11733160	基礎生物化学	2	1	後期	△	1	講義	A
	化学科目	11733170	基礎固体化学	2	1	後期	△	1	講義	A
英語	英語科目	11810100	Reading & Writing 1	2	1	前期	◎	1	講義	F-2
	英語科目	11810140	TOEIC	2	1	前期・後期	△	1	講義	F-2
	英語科目	11810120	Listening & Speaking 1	2	1	後期	◎	1	講義	F-2
	英語科目	11810130	Listening & Speaking 2	2	2	前期	△	1	講義	F-2
	英語科目	11810150	工学英語1	2	2	前期	△	1	講義	F-2
	英語科目	11810110	Reading & Writing 2	2	2	後期	△	1	講義	F-2
	英語科目	11810160	工学英語2	2	2	後期	△	1	講義	F-2
	英語科目	11810170	Academic English	2	3	前期・後期	△	1	講義	F-2
人文社会系教養	人文社会系教養科目	11760220	社会心理学	2	1	前期	△	1	講義	E
	人文社会系教養科目	11760280	教育原論	2	1	前期	△	1	講義	E
	人文社会系教養科目	11760100	技術者の倫理	2	1	前期・後期	△	1	講義	D
	人文社会系教養科目	11760110	生命倫理	2	1	前期・後期	△	1	講義	D
	人文社会系教養科目	11760120	人間社会と環境問題	2	1	前期・後期	△	1	講義	E
	人文社会系教養科目	11760140	経済学	2	1	前期・後期	△	1	講義	E
	人文社会系教養科目	11760150	現代の日本経済	2	1	前期・後期	△	1	講義	E
	人文社会系教養科目	11760160	現代日本の社会	2	1	前期・後期	△	1	講義	E
	人文社会系教養科目	11760170	福祉と技術	2	1	前期・後期	△	1	講義	E
	人文社会系教養科目	11760180	法学入門	2	1	前期・後期	△	1	講義	E
	人文社会系教養科目	11760190	日本国憲法	2	1	前期・後期	△	1	講義	E
	人文社会系教養科目	11760200	世界の言語と文化	2	1	前期・後期	△	1	講義	E
	人文社会系教養科目	11760210	文化人類学	2	1	前期・後期	△	1	講義	E
	人文社会系教養科目	11760230	認知心理学	2	1	前期・後期	△	1	講義	E
	人文社会系教養科目	11760240	レポートライティング	2	1	前期・後期	△	1	演習	F-1
	人文社会系教養科目	11760250	プレゼンテーション入門	2	1	前期・後期	△	1	講義	F-1
	人文社会系教養科目	11760260	自己表現とコミュニケーション	2	1	前期・後期	△	1	講義	E
	人文社会系教養科目	11760270	教育心理学	2	1	前期・後期	△	1	講義	E
	人文社会系教養科目	11760300	教育の近現代史	2	1	前期・後期	△	1	講義	E

授　業　科　目

工学部

専門科目以外【情報・通信工学課程　情報工学コース】

◎必修　○選択必修　△選択　□自由

系列	系列グループ	科目コード	科目名	単位数	年次	開講期	単位区分	週コマ数	講義区分	学修・教育到達目標
人文社会系教養	人文社会系教養科目	11760290	人間関係論	2	1	後期	△	1	講義	E
	人文社会系教養科目	11760320	生産と消費の環境論	2	2	前期	△	1	講義	E
	人文社会系教養科目	11760310	地域と環境	2	2	前期・後期	△	1	講義	E
	人文社会系教養科目	11760330	情報技術と現代社会	2	2	前期・後期	△	1	講義	E
	人文社会系教養科目	11760340	地方自治論	2	2	前期・後期	△	1	講義	E
	人文社会系教養科目	11760360	地域と経済	2	3	前期	△	1	講義	E
	人文社会系教養科目	11760390	地域社会学	2	3	前期	△	1	講義	E
	人文社会系教養科目	11760350	哲学・倫理学	2	3	前期・後期	△	1	講義	E
	人文社会系教養科目	11760370	応用経済学	2	3	前期・後期	△	1	講義	E
	人文社会系教養科目	11760380	グローバリゼーション論	2	3	前期・後期	△	1	講義	E
	人文社会系教養科目	11760400	知的財産法	2	3	前期・後期	△	1	講義	E
	人文社会系教養科目	11760410	教育社会学	2	3	前期・後期	△	1	講義	E
体育健康	体育健康科目	11770100	スポーツ健康学	2	1	前期・後期	△	1	講義	E
	体育健康科目	11770110	スポーツバイオメカニクス	2	1	前期・後期	△	1	講義	E
	体育健康科目	11770120	コンディショニング演習	2	1	前期・後期	△	1	演習	E
	体育健康科目	11772100	スポーツ科学実技1	1	1	前期・後期	◎	1	実技	E
	体育健康科目	11772110	スポーツ科学実技2	1	1	前期・後期	△	1	実技	E
	体育健康科目	11772120	スポーツ科学実技3	1	1	前期・後期	□	1	実技	ー
	体育健康科目	11772130	スポーツ科学実技4	1	1	前期・後期	□	1	実技	ー
共通教養	共通教養科目	11820110	データサイエンスリテラシー	1	1	前期・後期	△	1	講義	A,D
	共通教養科目	11820140	ダイバーシティ入門	2	1	前期・後期	△	1	講義	E
	共通教養科目	11820100	統計学基礎	1	1	前期・後期	□	1	講義	ー
	共通教養科目	11820120	芝浦工業大学通論	2	1	前期・後期	□	1	講義	ー
	共通教養科目	11820130	技術経営入門	2	1	前期・後期	□	1	講義	ー
	共通教養科目	11820150	消費者行動論	2	1	前期・後期	□	1	講義	ー
	共通教養科目	11820160	マーケティング概論	2	1	前期・後期	□	1	講義	ー
	共通教養科目	11820170	デジタルプレゼンテーション	2	1	前期・後期	□	1	講義	ー
課程外		XX990100	海外語学演習1	2	1	不定	△	2	演習	F-2
		XX990110	海外語学演習2	2	1	不定	□	2	演習	ー
		XX990120	海外語学演習3	2	1	不定	□	2	演習	ー
		XX990130	海外語学演習4	2	1	不定	□	2	演習	ー
		XX990140	海外語学演習1（短期）	1	1	不定	△	1	演習	F-2
		XX990150	海外語学演習2（短期）	1	1	不定	□	1	演習	ー
		XX990160	海外語学演習3（短期）	1	1	不定	□	1	演習	ー
		XX990170	海外語学演習4（短期）	1	1	不定	□	1	演習	ー
		XX990900	学外英語検定	2	1	不定	△	1	その他	F-2
教職		Z1510100	教職論	2	1	前期・後期	△	1	講義	D,E
		Z1510240	情報機器の操作	2	1	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1511110	幾何学A	2	1	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1510120	教育課程論	2	2	前期・後期	△	1	講義	E
		Z1510130	道徳の理論及び指導法	2	2	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1510160	教育の方法及び技術	1	2	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1510170	教育におけるICT活用	1	2	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1511100	代数学概論	2	2	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1511120	幾何学B	2	2	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1511130	解析学概論	2	2	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1511140	数学科指導法1	2	2	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1511150	数学科指導法2	2	2	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1513110	工業科指導法1	2	2	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1513120	工業科指導法2	2	2	前期・後期	□	1	講義	ー

授　業　科　目

工学部

専門科目以外【情報・通信工学課程　情報工学コース】

◎必修　○選択必修　△選択　□自由

系列	系列グループ	科目コード	科目名	単位数	年次	開講期	単位区分	週コマ数	講義区分	学修・教育到達目標
教職		Z1514110	情報科指導法1	2	2	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1514120	情報科指導法2	2	2	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1510150	特別活動の指導法	1	2	1Q・3Q	□	1	講義	ー
		Z1510140	総合的な学習の時間の指導法	1	2	2Q・4Q	□	1	講義	ー
		Z1510110	特別支援教育論	1	3	前期・後期	△	1	講義	D,E
		Z1510190	教育相談論	2	3	前期・後期	△	1	講義	E
		Z1513100	職業指導	2	3	前期・後期	△	1	講義	D,E
		Z1514100	情報と職業	2	3	前期・後期	△	1	講義	D,E
		Z1510180	生徒・進路指導論	2	3	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1511160	数学科指導法3	2	3	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1511170	数学科指導法4	2	3	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1510230	教職実践演習（中・高）	2	4	後期	□	1	演習	ー
		Z1510200	事前・事後指導	1	4	通年	□	1	講義	ー
		Z1510210	教育実習1	2	4	通年	□	2	実習	ー
		Z1510220	教育実習2	2	4	通年	□	2	実習	ー

工学部全課程共通

「教育の基礎的理解に関する科目等」

施行規則の科目区分	授業科目名	単位数	免許状要件	卒業要件
教育の基礎的理解に関する科目	教育原論	2	必修	選択
	教育の近現代史	2	選択	選択
	教職論	2	必修	選択
	教育社会学	2	必修	選択
	教育心理学	2	必修	選択
	特別支援教育論	1	必修	選択
	教育課程論	2	必修	選択
道徳、総合的な学習の時間の指導法及び生徒指導、教育相談などに関する科目	道徳の理論及び指導法	2	中学校：必修 高等学校：選択	自由
	総合的な学習の時間の指導法	1	必修	自由
	特別活動の指導法	1	必修	自由
	教育の方法及び技術	1	必修	自由
	教育におけるICT活用	1	必修	自由
	生徒・進路指導論	2	必修	自由
	教育相談論	2	必修	選択
教育実践に関する科目	事前・事後指導	1	必修	自由
	教育実習１	2	必修	自由
	教育実習２	2	中学校：必修 高等学校：選択	自由
	教職実践演習（中・高）	2	必修	自由

「大学が独自に設定する科目」

施行規則の科目区分	授業科目名	単位数	免許状要件	卒業要件
大学が独自に設定する科目	人間関係論	2	選択	選択

「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」

施行規則の科目区分	授業科目名	単位数	免許状要件	卒業要件	
日本国憲法	日本国憲法	2	必修	選択	
体育	スポーツ科学実技1	1	必修	必修	
	スポーツ科学実技2	1	選択必修	選択	この中から1単位以上選択必修
	コンディショニング演習	2	選択必修	選択	
	スポーツ健康学	2	選択必修	選択	
	スポーツバイオメカニクス	2	選択必修	選択	
外国語コミュニケーション	Reading & Writing 1	2	選択必修	必修	
	Listening & Speaking 1	2	選択必修	必修	
情報機器の操作	情報機器の操作	2	選択必修	自由	この中から2単位以上選択必修
	C言語入門	3	選択必修	コース別科目配当表参照	
	情報通信ソフトウェア演習A	1	選択必修	Fコース必修	
	情報通信ソフトウェア演習B	1	選択必修	Fコース必修	
	プログラミング入門１	2	選択必修	Lコース必修	
	土木情報処理	2	選択必修	Hコース必修	

情報・通信工学課程

「教科及び教科の指導法に関する科目」

教科名『数学』

施行規則の科目区分	授業科目名	単位数	免許状要件	
代数学	代数学概論	2	必修	
幾何学	幾何学A	2	必修	
	幾何学B	2	選択	
解析学	解析学概論	2	必修	
	回路の過渡現象	2	選択必修	この中から4単位以上選択必修
	情報通信数学	2	選択必修	
	ディジタル信号処理	2	選択必修	
	離散数学1	2	選択必修	
	離散数学2	2	選択必修	
	数値計算法	2	選択必修	
	数理計画法	1	選択必修	
確率論、統計学	確率と統計1	2	必修	
	データ解析法	2	選択	
コンピュータ	情報処理入門	2	選択必修	いずれか1科目選択必修
	コンピュータ科学序説	2	選択必修	
	基礎情報演習1B	2	選択必修	この中から6単位以上選択必修
	情報処理基礎	2	選択必修	
	情報処理2	2	選択必修	
	生体情報工学	2	選択必修	
	コンピュータアーキテクチャ	2	選択必修	
	基礎情報演習2B	2	選択必修	
	数理論理学	1	選択必修	
	人工知能プログラミング	2	選択必修	
	人工知能	2	選択必修	
	集積回路工学	2	選択必修	
	形式言語とオートマトン	2	選択必修	
各教科の指導法	数学科指導法1	2	必修	
	数学科指導法2	2	必修	
	数学科指導法3	2	中学校：必修 高等学校：選択	
	数学科指導法4	2	中学校：必修 高等学校：選択	

教科名『工業』

施行規則の科目区分	授業科目名	単位数	免許状要件	
工業の関係科目	社会の中の工学	1	必修	
	電気回路基礎	2	選択必修	この中から17単位以上選択必修
	電磁気学1	4	選択必修	
	電子回路	2	選択必修	
	論理設計	2	選択必修	
	通信計測	2	選択必修	
	回路設計演習	2	選択必修	
	電磁気学2	2	選択必修	
	情報通信特論1	1	選択必修	
	情報通信特論2	1	選択必修	
	光通信工学	2	選択必修	
	マイクロ波工学	2	選択必修	
	情報工学特論	1	選択必修	
	プログラミング入門1	2	選択必修	
	プログラミング入門2	2	選択必修	
	基礎情報演習1A	2	選択必修	
	基礎情報演習2A	2	選択必修	
	データ構造とアルゴリズム2	2	選択必修	
	H.C.インタラクション	2	選択必修	
	論理回路	2	選択必修	
	信号処理	2	選択必修	
	コンピュータ通信	2	選択必修	
	プログラミング言語論	1	選択必修	
	コンピュータビジョン	2	選択必修	
	Java応用プログラミング	2	選択必修	
	自然言語処理	2	選択必修	
	情報システムプログラミング	2	選択必修	
	ソフトウェア開発演習	3	選択必修	
	プログラミング言語処理演習	3	選択必修	
職業指導	職業指導	2	必修	
各教科の指導法	工業科指導法1	2	必修	
	工業科指導法2	2	必修	

教科名『情報』

施行規則の科目区分	授業科目名	単位数	免許状要件	
情報社会（職業に関する内容を含む。）・情報倫理	情報倫理	2	必修	
	情報と職業	2	必修	いずれか1科目選択必修
	知的財産法	2	選択	
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ・情報処理	情報処理入門	2	選択必修	この中から2単位以上選択必修
	コンピュータ科学序説	2	選択必修	
	情報処理2	2	選択必修	
	基礎情報演習1B	2	選択必修	
	情報処理基礎	2	選択	
	生体情報工学	2	選択	
	コンピュータアーキテクチャ	2	選択	
	基礎情報演習2B	2	選択	
	数理論理学	1	選択	
	人工知能プログラミング	2	選択	
	人工知能	2	選択	
	集積回路工学	2	選択	
	形式言語とオートマトン	2	選択	
情報ｼｽﾃﾑ	情報処理1	2	選択必修	この中から4単位以上選択必修
	オペレーティングシステム	2	選択必修	
	データベース	2	選択必修	
	ソフトウェア工学	2	選択必修	
	データ構造とアルゴリズム1	2	選択必修	いずれか1科目選択必修
	組込みシステム	2	選択	
情報通信ﾈｯﾄﾜｰｸ	情報通信ネットワーク	2	選択必修	いずれか1科目選択必修
	情報ネットワーク	2	選択必修	
	セキュアネットワーク	2	選択必修	
	情報セキュリティ	2	選択必修	
	ネットワーク理論	2	選択	
	移動通信工学	2	選択	いずれか1科目選択必修
	情報理論	2	選択	
ﾏﾙﾁﾒﾃﾞｨｱ表現・ﾏﾙﾁﾒﾃﾞｨｱ技術	メディア情報工学	2	選択必修	いずれか1科目選択必修
	ディジタルメディア処理	2	選択必修	
	パターン認識	2	選択必修	
	コンピュータグラフィックス	2	選択必修	
	音響工学	2	選択	
	音響・音声処理工学	2	選択	
各教科の指導法	情報科指導法1	2	必修	
	情報科指導法2	2	必修	

授　業　科　目

工学部

専門科目【土木工学課程　都市・環境コース】

◎必修　○選択必修　△選択　□自由

系列	科目コード	科目名	単位数	実施期	1年			2年			3年			4年		週コマ数	講義区分	選択必修グループ	学修・教育到達目標
					前期	後期	不定	前期	後期	不定	前期	後期	不定	前期	後期				
自コース専門	H0001000	導入ゼミナール	1	ー	◎											1	ゼミ	ー	J
	H0002000	環境の科学	2	ー	◎											1	講義	ー	A-1
	H0003000	土木構造物概論	2	ー	△											1	講義	ー	D
	H0004000	土木数学1	2	ー		◎										1	講義	ー	C
	H0005000	地盤工学1	2	ー		◎										1	講義	ー	A-1
	H0006000	土木情報処理	2	ー		◎										1	講義	ー	F
	H0007000	土木と心理学	2	ー		△										1	講義	ー	A-1,H
	H0008000	土木計画学1	2	ー		△										1	講義	ー	D
	H0009000	測量学	2	ー		△										1	講義	ー	D
	H0010000	Introduction to Transportation Systems	2	ー		△										1	講義	ー	D
	H0053000	海外土木工学演習1	2	ー			△									2	演習	ー	G,I
	H0054000	海外土木工学演習2	2	ー			△									2	演習	ー	G,I
	H0055000	海外土木工学演習3	2	ー			△									2	演習	ー	G,I
	H0056000	土木工学国際演習1	2	ー			△									2	演習	ー	G,I
	H0057000	土木工学国際演習2	2	ー			△									2	演習	ー	G,I
	H0058000	土木工学国際演習3	2	ー			△									2	演習	ー	G,I
	H0011000	流れの力学	2	ー				◎								1	講義	ー	D
	H0012000	土木の力学	2	ー				◎								1	講義	ー	D
	H0013000	マテリアルデザイン	2	ー				◎								1	講義	ー	D
	H0014000	土木数学2	2	ー				△								1	講義	ー	C
	H0015000	土質力学1	2	ー				△								1	講義	ー	D
	H0016000	土木と社会学	2	ー				△								1	講義	ー	A-1,H
	H0017000	交通計画	2	ー				△								1	講義	ー	D
	H0018000	応用測量学	2	ー				△								1	講義	ー	D
	H0019000	測量学実習1	2	ー				△								2	実習	ー	D,F,K
	H0020000	地盤工学2	2	ー					◎							1	講義	ー	D
	H0021000	水理学	2	ー					◎							1	講義	ー	D
	H0022000	都市計画	2	ー					◎							1	講義	ー	D
	H0023000	土木工学総合講義	2	ー					◎							1	講義	ー	G
	H0024000	空間情報科学	2	ー					△							1	講義	ー	G
	H0025000	構造力学1	2	ー					△							1	講義	ー	D
	H0026000	コンクリート構造学1	2	ー					△							1	講義	ー	D
	H0027000	地域デザイン演習1	2	ー					△							1	演習	ー	B,F
	H0028000	測量学実習2	2	ー					△							2	実習	ー	D,F,K
	H0029000	構造力学演習	1	ー					△							1	演習	ー	F
	H0059000	学外体験学習1	1	ー						△						1	実習	ー	G
	H0029500	材料実験	1	1Q・2Q・3Q							◎	◎				2	実験	ー	D,E
	H0031000	土質実験	1	1Q・2Q・3Q							◎	◎				2	実験	ー	D,E
	H0032000	水理実験	1	1Q・2Q・3Q							◎	◎				2	実験	ー	D,E
	H0033000	地盤工学演習	1	ー							◎					1	演習	ー	D,F,H,K
	H0034000	水文学	2	ー							△					1	講義	ー	D
	H0035000	土質力学2	2	ー							△					1	講義	ー	G
	H0036000	地震防災工学	2	ー							△					1	講義	ー	H
	H0037000	土木計画学2	2	ー							△					1	講義	ー	G
	H0038000	鋼構造学	2	ー							△					1	講義	ー	G
	H0039000	構造力学2	2	ー							△					1	講義	ー	D
	H0040000	コンクリート構造学2	2	ー							△					1	講義	ー	D
	H0040500	社会調査演習	2	2Q							△					2	演習	ー	F
	H0042000	Mobility and Regional Development	1	1Q							△					1	演習	ー	F,I
	H0043000	土木キャリアセミナー	1	ー								◎				1	ゼミ	ー	H,J
	H0044000	土木応用実験	1	4Q								◎				2	実験	ー	D,E
	H0045000	土木設計演習	1	ー								◎				1	演習	ー	D,F,K
	H0046000	地盤環境工学	2	ー								△				1	講義	ー	G
	H0047000	都市環境工学	2	ー								△				1	講義	ー	G
	H0048000	地理情報システム	2	ー								△				1	講義	ー	G
	H0049000	維持管理工学	2	ー								△				1	講義	ー	G
	H0050000	国際開発工学	2	ー								△				1	講義	ー	B,D
	H0051000	地理情報システム演習	1	ー								△				1	演習	ー	F,K
	H0052000	地域デザイン演習2	2	ー								△				2	演習	ー	F,H,K
	H0052875	Lectures on Civil Engineering	2	3Q								□				1	講義	ー	ー
	H0060000	学外体験学習2	1	ー									△			1	実習	ー	G
	H0061000	卒業研究1	2	ー							◎	(◎)				1	卒研	ー	B,F,H,I,J,K
	H0062000	卒業研究2	2	ー							(◎)	◎				1	卒研	ー	B,F,H,I,J,K
	H0063000	卒業研究3	4	ー										◎	(◎)	2	卒研	ー	B,F,H,I,J,K
	H0064000	卒業研究4	4	ー										(◎)	◎	2	卒研	ー	B,F,H,I,J,K

授　業　科　目

工学部

共通専門科目【土木工学課程　都市・環境コース】

◎必修　○選択必修　△選択　□自由

系列	系列グループ	科目コード	科目名	単位数	年次	開講期	単位区分	週コマ数	講義区分	学修・教育到達目標
共通専門	共通専門科目	EN830100	社会の中の工学	1	1	前期	◎	1	講義	G
	共通専門科目	EN830150	グローバルPBL（機械工学課程）	2	1	不定	△	2	演習	I,J
	共通専門科目	EN830160	グローバルPBL（物質化学課程）	2	1	不定	△	2	演習	I,J
	共通専門科目	EN830170	グローバルPBL（電気電子工学課程）	2	1	不定	△	2	演習	I,J
	共通専門科目	EN830180	グローバルPBL（情報・通信工学課程）	2	1	不定	△	2	演習	I,J
	共通専門科目	EN830190	グローバルPBL（土木工学課程）	2	1	不定	△	2	演習	I,J
	共通専門科目	EN830200	グローバルPBL（先進国際課程）	2	1	不定	△	2	演習	I,J
	共通専門科目	EN830110	工学研究探訪1	1	2	後期	◎	1	講義	G
	共通専門科目	EN830120	工学研究探訪2	1	2	後期	△	1	講義	G
	共通専門科目	EN830210	国際インターンシップ1	2	2	不定	△	2	演習	I,J
	共通専門科目	EN830220	国際インターンシップ2	2	2	不定	□	2	演習	ー
	共通専門科目	EN830130	学内研究留学1	2	3	後期	△	1	演習	A-1
	共通専門科目	EN830140	学内研究留学2	2	3	後期	△	1	演習	A-1

授　業　科　目

工学部

専門科目以外【土木工学課程　都市・環境コース】

◎必修　○選択必修　△選択　□自由

系列	系列グループ	科目コード	科目名	単位数	年次	開講期	単位区分	週コマ数	講義区分	学修・教育到達目標
数理基礎	数学科目	11731100	線形代数1	2	1	前期	◎	1	講義	C
	数学科目	11731120	微分積分1	4	1	前期	◎	2	講義	C
	数学科目	11731150	確率と統計1	2	1	前期・後期	△	1	講義	C
	数学科目	11731110	線形代数2	2	1	後期	◎	1	講義	C
	数学科目	11731130	微分積分2	4	1	後期	△	2	講義	C
	数学科目	11731140	微分方程式	2	1	後期	△	1	講義	C
	数学科目	11731160	確率と統計2	2	2	前期・後期	△	1	講義	C
	数学科目	11731170	関数論	2	2	前期・後期	△	1	講義	C
	数学科目	11731180	ベクトル解析	2	2	前期・後期	△	1	講義	C
	数学科目	11731190	フーリエ解析	2	2	前期・後期	△	1	講義	C
	物理学科目	11732100	物理学入門	4	1	前期	△	2	講義	C
	物理学科目	11732110	物理学実験	3	1	前期・後期	△	3	実験	C
	物理学科目	11732140	基礎力学および演習	4	1	後期	△	2	講義	C
	物理学科目	11732180	基礎熱統計力学	2	2	前期	△	1	講義	C
	物理学科目	11732190	基礎熱統計力学演習	2	2	前期	△	1	演習	C
	物理学科目	11732200	相対論と量子論の基礎	2	2	後期	△	1	講義	C
	化学科目	11733130	基礎環境化学	2	1	前期	◎	1	講義	C
	化学科目	11733120	化学実験	2	1	前期・後期	△	2	実験	C
	化学科目	11733140	基礎無機化学	2	1	後期	△	1	講義	C
	化学科目	11733150	基礎有機化学	2	1	後期	△	1	講義	C
	化学科目	11733160	基礎生物化学	2	1	後期	△	1	講義	C
	化学科目	11733170	基礎固体化学	2	1	後期	△	1	講義	C
英語	英語科目	11810100	Reading & Writing 1	2	1	前期	◎	1	講義	I
	英語科目	11810140	TOEIC	2	1	前期・後期	△	1	講義	I
	英語科目	11810120	Listening & Speaking 1	2	1	後期	◎	1	講義	I
	英語科目	11810130	Listening & Speaking 2	2	2	前期	△	1	講義	I
	英語科目	11810150	工学英語1	2	2	前期	△	1	講義	I
	英語科目	11810110	Reading & Writing 2	2	2	後期	△	1	講義	I
	英語科目	11810160	工学英語2	2	2	後期	△	1	講義	I
	英語科目	11810170	Academic English	2	3	前期・後期	△	1	講義	I
情報	情報科目	11750100	情報リテラシー	1	1	前期・後期	△	1	講義	C
	情報科目	11750110	情報処理概論	2	1	前期・後期	△	1	講義	C
	情報科目	11750120	Java入門	3	1	前期・後期	△	2	演習	C
	情報科目	11750130	C言語入門	3	1	前期・後期	△	2	演習	C
	情報科目	11750140	データサイエンス演習	2	1	前期・後期	△	1	演習	C
人文社会系教養	人文社会系教養科目	11760130	土木と経済学	2	1	前期	◎	1	講義	A-1
	人文社会系教養科目	11760220	社会心理学	2	1	前期	△	1	講義	A-1,J
	人文社会系教養科目	11760280	教育原論	2	1	前期	△	1	講義	A-1
	人文社会系教養科目	11760110	生命倫理	2	1	前期・後期	△	1	講義	B
	人文社会系教養科目	11760120	人間社会と環境問題	2	1	前期・後期	△	1	講義	B
	人文社会系教養科目	11760150	現代の日本経済	2	1	前期・後期	△	1	講義	A-1
	人文社会系教養科目	11760160	現代日本の社会	2	1	前期・後期	△	1	講義	A-1
	人文社会系教養科目	11760170	福祉と技術	2	1	前期・後期	△	1	講義	B
	人文社会系教養科目	11760180	法学入門	2	1	前期・後期	△	1	講義	A-1
	人文社会系教養科目	11760190	日本国憲法	2	1	前期・後期	△	1	講義	A-1
	人文社会系教養科目	11760200	世界の言語と文化	2	1	前期・後期	△	1	講義	A-1
	人文社会系教養科目	11760210	文化人類学	2	1	前期・後期	△	1	講義	A-1
	人文社会系教養科目	11760230	認知心理学	2	1	前期・後期	△	1	講義	A-1
	人文社会系教養科目	11760240	レポートライティング	2	1	前期・後期	△	1	演習	I
	人文社会系教養科目	11760250	プレゼンテーション入門	2	1	前期・後期	△	1	講義	I

授　業　科　目

工学部

専門科目以外【土木工学課程　都市・環境コース】

◎必修　○選択必修　△選択　□自由

系列	系列グループ	科目コード	科目名	単位数	年次	開講期	単位区分	週コマ数	講義区分	学修・教育到達目標
人文社会系教養	人文社会系教養科目	11760260	自己表現とコミュニケーション	2	1	前期・後期	△	1	講義	I
	人文社会系教養科目	11760270	教育心理学	2	1	前期・後期	△	1	講義	A-1,J
	人文社会系教養科目	11760300	教育の近現代史	2	1	前期・後期	△	1	講義	A-1
	人文社会系教養科目	11760100	技術者の倫理	2	1	後期	◎	1	講義	B
	人文社会系教養科目	11760290	人間関係論	2	1	後期	△	1	講義	A-1,I
	人文社会系教養科目	11760320	生産と消費の環境論	2	2	前期	△	1	講義	B
	人文社会系教養科目	11760310	地域と環境	2	2	前期・後期	△	1	講義	B
	人文社会系教養科目	11760330	情報技術と現代社会	2	2	前期・後期	△	1	講義	A-1
	人文社会系教養科目	11760340	地方自治論	2	2	前期・後期	△	1	講義	A-1
	人文社会系教養科目	11760360	地域と経済	2	3	前期	△	1	講義	A-1
	人文社会系教養科目	11760390	地域社会学	2	3	前期	△	1	講義	A-1
	人文社会系教養科目	11760350	哲学・倫理学	2	3	前期・後期	△	1	講義	A-1
	人文社会系教養科目	11760370	応用経済学	2	3	前期・後期	△	1	講義	A-1
	人文社会系教養科目	11760380	グローバリゼーション論	2	3	前期・後期	△	1	講義	A-1
	人文社会系教養科目	11760400	知的財産法	2	3	前期・後期	△	1	講義	A-1
	人文社会系教養科目	11760410	教育社会学	2	3	前期・後期	△	1	講義	A-1,J
体育健康	体育健康科目	11770100	スポーツ健康学	2	1	前期・後期	△	1	講義	A-2
	体育健康科目	11770110	スポーツバイオメカニクス	2	1	前期・後期	△	1	講義	A-2
	体育健康科目	11770120	コンディショニング演習	2	1	前期・後期	△	1	演習	A-2
	体育健康科目	11772100	スポーツ科学実技1	1	1	前期・後期	◎	1	実技	A-2
	体育健康科目	11772110	スポーツ科学実技2	1	1	前期・後期	△	1	実技	A-2
	体育健康科目	11772120	スポーツ科学実技3	1	1	前期・後期	□	1	実技	ー
	体育健康科目	11772130	スポーツ科学実技4	1	1	前期・後期	□	1	実技	ー
共通教養	共通教養科目	11820110	データサイエンスリテラシー	1	1	前期・後期	△	1	講義	C
	共通教養科目	11820140	ダイバーシティ入門	2	1	前期・後期	△	1	講義	A-1
	共通教養科目	11820100	統計学基礎	1	1	前期・後期	□	1	講義	ー
	共通教養科目	11820120	芝浦工業大学通論	2	1	前期・後期	□	1	講義	ー
	共通教養科目	11820130	技術経営入門	2	1	前期・後期	□	1	講義	ー
	共通教養科目	11820150	消費者行動論	2	1	前期・後期	□	1	講義	ー
	共通教養科目	11820160	マーケティング概論	2	1	前期・後期	□	1	講義	ー
	共通教養科目	11820170	デジタルプレゼンテーション	2	1	前期・後期	□	1	講義	ー
課程外		XX990100	海外語学演習1	2	1	不定	△	2	演習	I
		XX990110	海外語学演習2	2	1	不定	□	2	演習	ー
		XX990120	海外語学演習3	2	1	不定	□	2	演習	ー
		XX990130	海外語学演習4	2	1	不定	□	2	演習	ー
		XX990140	海外語学演習1（短期）	1	1	不定	△	1	演習	I
		XX990150	海外語学演習2（短期）	1	1	不定	□	1	演習	ー
		XX990160	海外語学演習3（短期）	1	1	不定	□	1	演習	ー
		XX990170	海外語学演習4（短期）	1	1	不定	□	1	演習	ー
		XX990900	学外英語検定	2	1	不定	△	1	その他	I
教職		Z1510100	教職論	2	1	前期・後期	△	1	講義	A-1
		Z1510240	情報機器の操作	2	1	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1511110	幾何学A	2	1	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1510120	教育課程論	2	2	前期・後期	△	1	講義	A-1
		Z1510130	道徳の理論及び指導法	2	2	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1510160	教育の方法及び技術	1	2	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1510170	教育におけるICT活用	1	2	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1511100	代数学概論	2	2	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1511120	幾何学B	2	2	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1511130	解析学概論	2	2	前期・後期	□	1	講義	ー

授　業　科　目

工学部

専門科目以外【土木工学課程　都市・環境コース】

◎必修　○選択必修　△選択　□自由

系列	系列グループ	科目コード	科目名	単位数	年次	開講期	単位区分	週コマ数	講義区分	学修・教育到達目標
教職		Z1511140	数学科指導法1	2	2	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1511150	数学科指導法2	2	2	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1513110	工業科指導法1	2	2	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1513120	工業科指導法2	2	2	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1510150	特別活動の指導法	1	2	1Q・3Q	□	1	講義	ー
		Z1510140	総合的な学習の時間の指導法	1	2	2Q・4Q	□	1	講義	ー
		Z1510110	特別支援教育論	1	3	前期・後期	△	1	講義	A-1,I
		Z1510190	教育相談論	2	3	前期・後期	△	1	講義	A-1,I
		Z1513100	職業指導	2	3	前期・後期	△	1	講義	I,J
		Z1510180	生徒・進路指導論	2	3	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1511160	数学科指導法3	2	3	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1511170	数学科指導法4	2	3	前期・後期	□	1	講義	ー
		Z1510230	教職実践演習（中・高）	2	4	後期	□	1	演習	ー
		Z1510200	事前・事後指導	1	4	通年	□	1	講義	ー
		Z1510210	教育実習1	2	4	通年	□	2	実習	ー
		Z1510220	教育実習2	2	4	通年	□	2	実習	ー

工学部全課程共通

「教育の基礎的理解に関する科目等」

施行規則の科目区分	授業科目名	単位数	免許状要件	卒業要件
教育の基礎的理解に関する科目	教育原論	2	必修	選択
	教育の近現代史	2	選択	選択
	教職論	2	必修	選択
	教育社会学	2	必修	選択
	教育心理学	2	必修	選択
	特別支援教育論	1	必修	選択
	教育課程論	2	必修	選択
道徳、総合的な学習の時間の指導法及び生徒指導、教育相談などに関する科目	道徳の理論及び指導法	2	中学校：必修 高等学校：選択	自由
	総合的な学習の時間の指導法	1	必修	自由
	特別活動の指導法	1	必修	自由
	教育の方法及び技術	1	必修	自由
	教育におけるICT活用	1	必修	自由
	生徒・進路指導論	2	必修	自由
	教育相談論	2	必修	選択
教育実践に関する科目	事前・事後指導	1	必修	自由
	教育実習１	2	必修	自由
	教育実習２	2	中学校：必修 高等学校：選択	自由
	教職実践演習（中・高）	2	必修	自由

「大学が独自に設定する科目」

施行規則の科目区分	授業科目名	単位数	免許状要件	卒業要件
大学が独自に設定する科目	人間関係論	2	選択	選択

「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」

施行規則の科目区分	授業科目名	単位数	免許状要件	卒業要件	
日本国憲法	日本国憲法	2	必修	選択	
体育	スポーツ科学実技1	1	必修	必修	
	スポーツ科学実技2	1	選択必修	選択	この中から1単位以上選択必修
	コンディショニング演習	2	選択必修	選択	
	スポーツ健康学	2	選択必修	選択	
	スポーツバイオメカニクス	2	選択必修	選択	
外国語コミュニケーション	Reading & Writing 1	2	選択必修	必修	
	Listening & Speaking 1	2	選択必修	必修	
情報機器の操作	情報機器の操作	2	選択必修	自由	この中から2単位以上選択必修
	C言語入門	3	選択必修	コース別科目配当表参照	
	情報通信ソフトウェア演習A	1	選択必修	Fコース必修	
	情報通信ソフトウェア演習B	1	選択必修	Fコース必修	
	プログラミング入門１	2	選択必修	Lコース必修	
	土木情報処理	2	選択必修	Hコース必修	

土木工学課程

「教科及び教科の指導法に関する科目」

教科名『数学』

施行規則の科目区分	授業科目名	単位数	免許状要件	卒業要件	
代数学	代数学概論	2	必修	自由	
幾何学	幾何学A	2	必修	自由	
	幾何学B	2	選択	自由	
	測量学	2	選択必修	選択	この中から2単位以上選択必修
	測量学実習1	2	選択必修	選択	
	測量学実習2	2	選択必修	選択	
解析学	解析学概論	2	必修	自由	
	土木数学1	2	必修	必修	
確率論、統計学	確率と統計1	2	必修	選択	
	土木数学2	2	選択必修	選択	この中から2単位以上選択必修
	交通計画	2	選択必修	選択	
	土木計画学2	2	選択必修	選択	
	社会調査演習	2	選択必修	選択	
コンピュータ	情報処理概論	2	必修	選択	
	土木情報処理	2	必修	必修	
	地理情報システム	2	選択必修	選択	この中から2単位以上選択必修
	応用測量学	2	選択必修	選択	
	地理情報システム演習	1	選択必修	選択	
各教科の指導法	数学科指導法1	2	必修	自由	
	数学科指導法2	2	必修	自由	
	数学科指導法3	2	中学校：必修 高等学校：選択	自由	
	数学科指導法4	2	中学校：必修 高等学校：選択	自由	

教科名『工業』

施行規則の科目区分	授業科目名	単位数	免許状要件	卒業要件	
工業の関係科目	社会の中の工学	1	必修	必修	
	環境の科学	2	選択必修	必修	この中から17単位以上選択必修
	土木の力学	2	選択必修	必修	
	流れの力学	2	選択必修	必修	
	マテリアルデザイン	2	選択必修	必修	
	水文学	2	選択必修	選択	
	都市計画	2	選択必修	必修	
	地盤工学演習	1	選択必修	必修	
	土木計画学1	2	選択必修	選択	
	地盤環境工学	2	選択必修	選択	
	維持管理工学	2	選択必修	選択	
	鋼構造学	2	選択必修	選択	
	地震防災工学	2	選択必修	選択	
	土木構造物概論	2	選択必修	選択	
	構造力学1	2	選択必修	選択	
	コンクリート構造学1	2	選択必修	選択	
	水理学	2	選択必修	必修	
	構造力学2	2	選択必修	選択	
	コンクリート構造学2	2	選択必修	選択	
	地域デザイン演習2	2	選択必修	選択	
	構造力学演習	1	選択必修	選択	
	国際開発工学	2	選択必修	選択	
職業指導	職業指導	2	必修	選択	
各教科の指導法	工業科指導法1	2	必修	自由	
	工業科指導法2	2	必修	自由	

授 業 科 目

工学部

専門科目群【先進国際課程】

系列	科目コード	科目名	単位数	年次	開講期	単位区分	単位数	講義区分	学修・教育到達目標
Advanced Engineering Research Courses	M0001000	Freshman thesis program I	6	1	Spring/(Fall)		2	Graduation Research	A-1,E
	M0005000	Freshman thesis program II	6	1	(Spring)/Fall		2	Graduation Research	A-1,E
	M0009000	Sophomore thesis program I	6	2	Spring/(Fall)		2	Graduation Research	A-2,E
	M0013000	Sophomore thesis program II	6	2	(Spring)/Fall		2	Graduation Research	A-2,E
	M0017000	Junior thesis program I	6	3	Spring/(Fall)		2	Graduation Research	C,E
	M0021000	Junior thesis program II	6	3	(Spring)/Fall		2	Graduation Research	C,E
	M0025000	Graduation thesis program I	6	4	Spring/(Fall)		2	Graduation Research	D,E
	M0029000	Graduation thesis program II	6	4	(Spring)/Fall		2	Graduation Research	D,E
	M0033000	Freshman lab seminar I	2	1	Spring/(Fall)		1	Graduation Research	A-2,B
	M0037000	Freshman lab seminar II	2	1	(Spring)/Fall		1	Graduation Research	A-2,B
	M0041000	Sophomore lab seminar I	2	2	Spring/(Fall)		1	Graduation Research	A-2,B
	M0045000	Sophomore lab seminar II	2	2	(Spring)/Fall		1	Graduation Research	A-2,B
	M0049000	Junior lab seminar I	2	3	Spring/(Fall)		1	Graduation Research	A-2,B
	M0053000	Junior lab seminar II	2	3	(Spring)/Fall		1	Graduation Research	A-2,B
	M0057000	Senior lab seminar I	2	4	Spring/(Fall)		1	Graduation Research	A-2,D
	M0061000	Senior lab seminar II	2	4	(Spring)/Fall		1	Graduation Research	A-2,D
Introduction to Advanced Engineering Courses	M0065000	Advanced Course on Mechanical Engineering	2	1	Spring	○	1	Lecture	A-2
	M0069000	Advanced Course on Engineering Science & Mechanics	2	1	Fall	○	1	Lecture	A-2
	M0073000	Advanced Course on Materials Science and Engineering	2	1	Spring	○	1	Lecture	A-2
	M0077000	Introduction to Applied Chemistry	2	1	Spring	○	1	Lecture	A-2
	M0081000	Introduction of Electrical Engineering Research	2	1	Fall	○	1	Lecture	A-2
	M0085000	Introduction to Advanced Electronics	2	1	Fall	○	1	Lecture	A-2
	M0089000	Introduction to Information and Communications Engineering	2	1	Spring	○	1	Lecture	A-2
	M0093000	Introduction to Computer Science and Engineering	2	1	Fall	○	1	Lecture	A-2
	M0097000	Lectures on Civil Engineering	2	1	Fall	○	1	Lecture	A-2
	M0101000	Introduction to Advanced Science and Technology	2	1	Fall	○	1	Lecture	A-2
Specialized Courses	M0105000	Hydrodynamics	2	2	Spring	○	1	Lecture	A-1
	M0109000	Combustion Engineering	2	2	Spring	○	1	Lecture	A-1
	M0113000	Semiconductor Materials	2	2	Spring	○	1	Lecture	A-1
	M0117000	Applied Chemistry Laboratory	3	2	Spring	○	2	Experiment	A-1
	M0121000	Applied Mathematics	2	2	Spring	○	2	Lecture	A-1
	M0125000	Experiments in electronic engineering course	2	2	Spring	○	2	Experiment	A-1
	M0129000	Seminar on Information and Communications Engineering	2	2	Fall	○	1	Seminar	A-1
	M0133000	Interaction Design	2	2	Spring	○	1	Lecture	A-1
	M0137000	Soil Mechanics	2	2	Spring	○	1	Lecture	A-1
	M0141000	Advanced Techniques for Materials Characterization	2	2	Fall	○	1	Lecture	A-1
	M0145000	Biophysics	4	2	Spring	○	2	Lecture	A-1
	M0149000	Introduction to Relativity	2	3	Fall	○	1	Lecture	A-1
	M0153000	Biophotonics	2	2	Fall	○	1	Lecture	A-1
	M0157000	Nanostructure Physics I	2	2	Fall	○	1	Lecture	A-1

授 業 科 目

工学部

専門科目群【先進国際課程】

系列	科目コード	科目名	単位数	年次	開講期	単位区分	単位数	講義区分	学修・教育到達目標
Specialized Courses	M0161000	Functional Materials	2	2	Fall	○	1	Lecture	A-1
	M0165000	Nanostructure Physics II	2	2	Spring	○	1	Lecture	A-1
	M0169000	Magnetism and Magnetic Materials	2	2	Spring	○	1	Lecture	A-1
	M0173000	Practical Materialography	2	2	Spring	○	1	Lecture	A-1
	M0177000	Fundamentals of Inorganic Chemistry	2	2	Fall	○	1	Lecture	A-1
	M0181000	Fundamentals of Organic Chemistry	2	2	Fall	○	1	Lecture	A-1
	M0185000	Fundamentals of Analytical Chemistry	2	2	Spring	○	1	Lecture	A-1
	M0189000	Fundamentals of Physical Chemistry	2	2	Spring	○	1	Lecture	A-1
	M0193000	Biochemistry	2	2	Fall	○	1	Lecture	A-1
	M0197000	Materials Science	2	2	Fall	○	1	Lecture	A-1
	M0201000	Materials for Energy	2	2	Fall	○	1	Lecture	A-1
	M0205000	Solid State Chemistry	2	2	Spring	○	1	Lecture	A-1
	M0209000	Nanotechnology	2	2	Spring	○	1	Lecture	A-1
	M0213000	Polymer Chemistry	2	2	Spring	○	1	Lecture	A-1
	M0217000	Techniques of Analysis for Urban Planning Research	2	2	Fall	○	1	Lecture	A-1
	M0261000	Global PBL 1	2	1	Spring/ Fall	○	2	Seminar	D
	M0262000	Global PBL 2	2	1	Spring/ Fall	○	2	Seminar	D
	M0263000	Global PBL 3	2	1	Spring/ Fall	○	2	Seminar	D

授 業 科 目

工学部

数理基礎科目・情報科目【先進国際課程】

系列	科目コード	科目名	単位数	年次	開講期	単位区分	単位数	講義区分	学修・教育到達目標
Physics	M2030000	Mathematical Methods in Physics and Engineering	2	1	Fall	○	1	Lecture	A-1
	M2041000	Physics: Electromagnetism	4	2	Fall	○	2	Lecture	A-1
	M2025000	Basic Physics	2	1	Fall	○	1	Lecture	A-1
	M2029000	Methodics in Physics	2	1	Fall	○	1	Lecture	A-1
	M2033000	Physics: Mechanics	2	1	Spring	○	1	Lecture	A-1
	M2037000	Physics: Thermodynamics	2	1	Spring	○	1	Lecture	A-1
	M2045000	Physics: Fluidodynamics, Oscillations and Waves	2	2	Fall	○	1	Lecture	A-1
	M2049000	Physics: Optics	2	2	Spring	○	1	Lecture	A-1
	M2053000	Materials Physics	2	2	Spring	○	1	Lecture	A-1
Mathematics	M2001000	Pre-calculus	2	1	Fall	○	1	Lecture	A-1
	M2005000	Calculus I	4	1	Fall	○	2	Lecture	A-1
	M2009000	Calculus II	4	1	Spring	○	2	Lecture	A-1
	M2017000	Linear Algebra	4	1	Spring	○	2	Lecture	A-1
	M2013000	Calculus III	4	2	Fall	○	2	Lecture	A-1
	M2021000	Probability and Statistics	2	2	Spring	○	1	Lecture	A-1
	M3066000	Basic Satistics	1	1	Fall	○	1	Seminar	A-1
Chemistry	M2057000	Basic Chemistry	2	1	Fall	○	1	Lecture	A-1
	M2061000	General Chemistry A	2	1	Fall	○	1	Lecture	A-1
	M2065000	Instrumental Analysis	2	1	Spring	○	1	Lecture	A-1
	M2069000	General Chemistry B	2	1	Spring	○	1	Lecture	A-1
Computer Science	M2073000	Introduction to Multimedia technology	3	3	Fall	○	2	Lecture	A-1
	M2081000	Web design and programming	3	1	Spring	○	2	Lecture	A-1
	M2085000	Introduction to Computer Networks	3	1	Fall	○	2	Lecture	A-1
	M2089000	Information Literacy	2	1	Fall	○	1	Lecture	A-1
	M2093000	Introduction to Information Processing	2	1	Spring	○	1	Lecture	A-1
	M2077000	Introduction to Computer Programming (Python, R, C, Java)	2	1	Fall	○	1	Lecture	A-1
	M3067000	Data Science Literacy	1	1	Fall	○	1	Lecture	A-1

授 業 科 目

工学部

教養科目【先進国際課程】

系列	科目コード	科目名	単位数	年次	開講期	単位区分	単位数	講義区分	学修・教育到達目標
Communication, Social Science and Humanities	M3025000	Science and Religion in Japan	2	1	Spring	○	1	Lecture	B,E
	M3017000	Contemporary Society : Changes in Japanese Work Culture	2	1	Spring	○	1	Lecture	B,E
	M3021000	Career Design : Developing yourself for your future career	2	1	Spring	○	1	Lecture	B,E
	M3001000	Usage of Research Tools & Research Writing	2	1	Spring	○	1	Lecture	A-1
	M3005000	Academic English Writing for University Coursework	2	1	Fall	○	1	Lecture	A-1
	M3009000	Making Effective Presentations	2	1	Spring	○	1	Lecture	A-1
	M3013000	Diversity and Cultures of other countries	2	1	Fall	○	1	Lecture	B
	M3029000	Engineering Ethics	1	1	Spring		1	Practical Training	C
	M3057000	Japanese Language I	2	1	Spring/ Fall	○	1	Lecture	B
	M3061000	Japanese Language II	2	1	Spring/ Fall	○	1	Lecture	B
	M3065000	Japanese Language III	2	1	Spring/ Fall	○	1	Lecture	B
	M3069000	Japanese Language IV	2	1	Spring/ Fall	○	1	Lecture	B
Physical Education and Health	M4001000	Sport fitness and health 1	1	1	Spring/ Fall	○	1	Practical	E
	M4004000	Sport fitness and health 2	1	1	Spring/ Fall	○	1	Practical	E
	M4007000	Sport fitness and health 3	1	1	Spring/ Fall	□	1	Practical	E
	M4010000	Sport fitness and health 4	1	1	Spring/ Fall	□	1	Practical	E
	M4013000	Sports Biomechanics	2	1	Spring/ Fall	○	2	Practical	E

授　業　科　目

工学部

【教職課程】

工学部　物質化学課程　電気電子工学課程　情報・通信工学課程　土木工学課程

授業科目		単位数			摘要
		必修	選択	自由	
教育の基礎的理解に関する科目	教育原論		2		人文社会系教養科目
	教育の近現代史		2		人文社会系教養科目
	教育心理学		2		人文社会系教養科目
	教育社会学		2		人文社会系教養科目
	教職論		2		
	特別支援教育論		1		
	教育課程論		2		
	総合的な学習の時間の指導法			1	
	道徳の理論及び指導法			2	
	特別活動の指導法			1	
	教育の方法及び技術			1	
	教育におけるICT活用			1	
	生徒・進路指導論			2	
	教育相談論		2		
	事前・事後指導		1		
	教育実習1		2		
	教育実習2		2		
	教職実践演習（中・高）		2		
教科及び教科の指導法に関する科目	数学科指導法1			2	
	数学科指導法2			2	
	数学科指導法3			2	
	数学科指導法4			2	
	理科指導法1			2	
	理科指導法2			2	
	理科指導法3			2	
	理科指導法4			2	
	工業科指導法1			2	
	工業科指導法2			2	
	情報科指導法1			2	
	情報科指導法2			2	
大学が独自に設定する科目	道徳の理論及び指導法			2	高等学校免許状の課程のみ適用
	人間関係論		2		人文社会系教養科目
施行規則第66条の6に定める科目	情報機器の操作			2	

教育職員免許状の種類・教職課程開設科目及び修得単位数

1. 教育職員免許状の種類・教科

学部	学科名	免許状の種類	教科名
工学部	物質化学課程	中学校教諭一種免許状	理科
		高等学校教諭一種免許状	理科
	電気電子工学課程	中学校教諭一種免許状	数学
		高等学校教諭一種免許状	数学
	情報・通信工学課程	中学校教諭一種免許状	数学
		高等学校教諭一種免許状	数学・情報・工業
	土木工学課程	中学校教諭一種免許状	数学
		高等学校教諭一種免許状	数学・工業

２．教員免許状取得に要する教科別単位数

所要資格等 ＼ 免許状の種類	基礎資格	状取			
		教科及び教科の指導法に関する科目		教育の基礎的理解に関する科目	大学が独自に設定する科目
		教科名	単位数		
中学校教諭一種免許状	学士の学位を有すること 日本国憲法 体育 外国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ 情報機器の操作 それぞれ２単位取得を要する	数学	２８単位以上	２８単位	３単位
		理科	２８単位以上		
高等学校教諭一種免許状	学士の学位を有すること 日本国憲法 体育 外国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ 情報機器の操作 それぞれ２単位取得を要する	数学	２４単位以上	２４単位	１１単位
		理科	２４単位以上		
		情報	２４単位以上		
		工業	２４単位以上		

３．教育の基礎的理解に関する科目および大学が独自に設定する科目

資格・教科 / 授業科目名	中学校教諭一種免許状		高等学校教諭一種免許状			
	数学	理科	数学	理科	情報	工業
教職論	２単位	２単位	２単位	２単位	２単位	２単位
教育原論 ○	２単位	２単位	２単位	２単位	２単位	２単位
教育の近現代史 ○	２単位	２単位	２単位	２単位	２単位	２単位
教育心理学 ○	２単位	２単位	２単位	２単位	２単位	２単位
特別支援教育論	１単位	１単位	１単位	１単位	１単位	１単位
教育社会学 ○	２単位	２単位	２単位	２単位	２単位	２単位
教育課程論	２単位	２単位	２単位	２単位	２単位	２単位
道徳の理論及び指導法	２単位	２単位	２単位＊	２単位＊	２単位＊	２単位＊
総合的な学習の時間の指導法	１単位	１単位	１単位	１単位	１単位	１単位
特別活動の指導法	１単位	１単位	１単位	１単位	１単位	１単位
教育の方法及び技術	１単位	１単位	１単位	１単位	１単位	１単位
教育における ICT 活用	１単位	１単位	１単位	１単位	１単位	１単位
生徒・進路指導論	２単位	２単位	２単位	２単位	２単位	２単位
教育相談論	２単位	２単位	２単位	２単位	２単位	２単位
人間関係論 ○	２単位＊	２単位＊	２単位＊	２単位＊	２単位＊	２単位＊
事前・事後指導	１単位	１単位	１単位	１単位	１単位	１単位
教育実習 1	２単位	２単位	２単位	２単位	２単位	２単位
教育実習 2	２単位	２単位	２単位	２単位	２単位	２単位
教職実践演習（中・高）	２単位	２単位	２単位	２単位	２単位	２単位

○人文社会系教養科目

＊大学が独自に設定する科目

４．教科及び教科の指導法に関する科目

教科名	施行規則に定める科目区分等	修得単位数	
		中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状
数学	代数学 幾何学 解析学 確率論、統計学 コンピュータ	計２０単位以上	計２０単位以上
	各教科の指導法	計８単位	計４単位以上
理科	物理学 化学 生物学 地学 物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験	計２０単位以上	計２０単位以上
	各教科の指導法	計８単位	計４単位以上
情報	情報社会（職業に関する内容を含む。）・情報倫理 ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ・情報処理 情報システム 情報通信ネットワーク ﾏﾙﾁﾒﾃﾞｨｱ表現・ﾏﾙﾁﾒﾃﾞｨｱ技術		計２０単位以上
	各教科の指導法		計４単位
工業	職業指導 工業の関係科目		計２０単位以上
	各教科の指導法		計４単位

別表４

授　業　科　目

システム理工学部

【全学科共通】

授業科目		単位数			適要
		必修	選択	自由	
全学共通科目	ダイバーシティ入門		2		
	アントレプレナーシップ入門		2		
	アントレプレナーシップ応用		2		
	芝浦工業大学通論		2		
	消費者行動論		2		
	マーケティング概論		2		
	デジタルプレゼンテーション		2		
	Japanese Language Ⅰ			2	
	Japanese Language Ⅱ			2	
	Japanese Language Ⅲ			2	
	Japanese Language Ⅳ			2	

授 業 科 目

システム理工学部

【各学科共通】

授業科目				単位数			適要
				必修	選択	自由	
共通科目	教職科目		教職論		2		
			人間関係論		2		
			教育の方法及び技術		1		
			教育におけるICT活用		1		
			特別支援教育論		1		
			生徒・進路指導論		2		
	総合科目	英語科目以外	社会ニーズ調査法		2		
			ソーシャル・イノベーション		2		
			文章論		2		
			科学技術史		2		
			科学技術と社会		2		
			SIT Buddy			1	
			統計学基礎	1			
			SDGs入門		2		
			行政学		2		
			政治学		2		
			社会福祉論		2		
			□情報社会と法		2		
			日本国憲法		2		
			経済学Ⅰ		2		
			経済学Ⅱ		2		
			意思決定論		2		
			経営戦略論		2		
			マーケティング論		2		
			先端技術とビジネス		2		
			□知的財産入門		2		
			社会学概論		2		
			教育社会学		2		
			SDGsとサステナビリティ		2		
			人間と自然環境		2		
			□クリエイティブ産業論		2		
			□サイバーセキュリティと社会		2		
			哲学Ⅰ		2		
			哲学Ⅱ		2		
			倫理学		2		
			生命倫理概論		2		
			□技術者と倫理		2		
			世界史A		2		
			世界史B		2		
			国際デザイン史		2		
			認知心理学		2		
			組織心理学		2		
			教育心理学		2		
			教育の近現代史		2		
			教育原論		2		
			教育課程論		2		
			教育相談論		2		

□…教科及び教科の指導法に関する科目(情報)

授 業 科 目

システム理工学部

【各学科共通】

授業科目					単位数			適要
					必修	選択	自由	
共通科目	総合科目	英語科目以外	保健・体育系科目	体育実技(フライングディスク)		1		
				体育実技（テニス）		1		
				体育実技（卓球）		1		
				体育実技（バドミントン）		1		
				体育実技（ソフトボール）		1		
				体育実技（バレーボール）		1		
				体育実技(バスケットボール)		1		
				体育実技（ゴルフⅠ）		1		
				体育実技（ゴルフⅡ）		1		
				体育実技（スキー）		1		
				体育実技（フットサル）		1		
				体育実技（軟式野球）		1		
				からだの仕組みと運動		2		
				身体運動のメカニズム		2		
				健康科学論A		2		
				健康科学論B		2		
			外国語科目（英語以外）	ドイツ語Ⅰ		2		
				ドイツ語Ⅱ		2		
				中国語Ⅰ		2		
				中国語Ⅱ		2		
				韓国語（朝鮮語）Ⅰ		2		
				韓国語（朝鮮語）Ⅱ		2		
				フランス語Ⅰ		2		
				フランス語Ⅱ		2		
				スペイン語Ⅰ		2		
				スペイン語Ⅱ		2		
		英語科目	外国語科目（英語）	English Basic Skills Ⅰ		2		
				English Basic Skills Ⅱ		2		
				English Advanced Skills Ⅰ		2		
				English Advanced Skills Ⅱ		2		
				English Remedial Course Ⅰ			2	
				English Remedial Course Ⅱ			2	
				Basic English for Science and Technology Ⅰ		2		
				Basic English for Science and Technology Ⅱ		2		
				Advanced English for Science and Technology Ⅰ		2		
				Advanced English for Science and Technology Ⅱ		2		
				理工系英語プレゼンテーション		2		
				語学検定対策講座		2		
				海外英語研修Ⅰ		2		
				海外英語研修Ⅱ		2		
				学外英語検定Ⅰ		2		
				学外英語検定Ⅱ		2		
				海外短期英語研修Ⅰ		1		
				海外短期英語研修Ⅱ		1		

授　業　科　目

システム理工学部

【電子情報システム学科】

	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	適要
基礎科目	微分積分Ⅰ	2			
	微分積分Ⅱ		2		
	線形代数Ⅰ	2			
	線形代数Ⅱ		2		
	微分方程式	2			
	ベクトル解析	2			
	力学Ⅰ	2			
	力学Ⅱ		2		
	波動・熱力学		2		
	電磁気学		2		
	生物学Ⅰ		2		
	生物学Ⅱ		2		
	化学Ⅰ		2		
	化学Ⅱ		2		
	現代物理学概論		2		
システム・報科	□ 情報処理Ⅰ	2			
	□ 情報処理Ⅱ	2			□…教科及び教科の指導法に関する科目(情報)
	□ 情報処理演習Ⅰ	1			
	□ 情報処理演習Ⅱ	1			
	□ ｼｽﾃﾑ工学A(ｼｽﾃﾑ計画方法論)	2			
	ｼｽﾃﾑ工学B(数理計画法)	2			
	□ ｼｽﾃﾑ工学C(データサイエンス)		2		
	□ システム工学演習A	1			
	システム工学演習B	1			
	□ システム工学演習C		2		
	創る		2		
	信頼性工学		2		
	人間工学		2		
	システム理工学入門		2		
	データサイエンス(応用)		2		
	AI基礎		1		
	データサイエンスリテラシー		1		
	Advanced Systems Science and Engineering		2		
	システム科学		2		

授　業　科　目

システム理工学部
【電子情報システム学科】

	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	適要
専門科目	Introduction to Embedded Programming (International Training)		2		□…教科及び教科の指導法に関する科目(情報)
	□ 離散数学	2			
	□ データ構造とアルゴリズムⅠ	2			
	□ データ構造とアルゴリズムⅡ		2		
	□ ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ演習Ⅰ		1		
	□ ｵﾌﾞｼﾞｪｸﾄ指向ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞⅠ		2		
	□ ｵﾌﾞｼﾞｪｸﾄ指向ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞⅡ		2		
	□ ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ演習Ⅱ		1		
	□ Embedded Systems		2		
	□ データベース		2		
	Embedded Control Systems (International Training)		2		
	□ ソフトウェア設計論		2		
	□ オペレーティングシステム		2		
	□ 言語処理系		2		
	□ 人工知能基礎		2		
	□ Computer Simulation		2		
	□ 自然言語処理		2		
	□ パターン認識		2		
	□ Programming Language Processor		2		
	□ メディア処理基礎		2		
	□ 情報通信基礎	2			
	□ 通信網工学		2		
	計測工学		2		
	□ 情報理論	2			
	□ コミュニケーションシステム		2		
	□ ネットワークアプリケーション		2		
	電子計測		2		
	ＶＲ／ＡＲ		2		
	信号解析		2		
	□ 画像情報処理		2		
	□ グラフ理論とネットワーク		2		
	ディジタル信号処理		2		
	宇宙観測技術		2		
	□ 符号理論		2		
	□ ICT Systems Design		2		
	□ ハードウェア基礎		2		
	電気回路	2			
	電気回路演習	1			
	電気磁気学Ⅰ		2		
	電気磁気学Ⅱ		2		
	□ 論理回路		2		
	電子回路Ⅰ		2		
	電子回路Ⅱ		2		
	回路理論		2		
	システム制御		2		
	□ LSI設計基礎		2		
	半導体工学		2		
	電子デバイス		2		
	□ LSI設計		2		
	□ 電子情報基礎実験		2		

	授業科目	単位数			適要
		必修	選択	自由	
専門科目	○ Introduction to Control Engineering		2		
	□ 電子情報システム総論	2			
	□ 情報実験Ⅰ		2		
	□ 情報実験Ⅱ		2		
	□ 電子情報実験Ⅰ		2		
	□ 電子情報実験Ⅱ		2		
	テクニカルセミナー		1		
	Global PBL		2		
	国際電子情報システム実験Ⅰ		2		
	国際電子情報システム実験Ⅱ		2		
	□ Recent Trends on Electronic Systems		2		
	□ Recent Trends on Information Systems		2		
	□ マイクロプロセッサ		2		
	□ 情報セキュリティ		2		
	○ Basic Control Engineering		2		
	総合研究Ⅰ	4			
	総合研究Ⅱ	4			
	□ 情報科指導法1		2		
	□ 情報科指導法2		2		

授　業　科　目

システム理工学部

【機械制御システム学科】

	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	適要
基礎科目	微分積分Ⅰ	2			
	微分積分Ⅱ	2			△…教科及び教科の指導法に関する科目(工業)
	線形代数Ⅰ	2			
	線形代数Ⅱ		2		
	微分方程式	2			
	ベクトル解析		2		
	△力学Ⅰ	2			
	△力学Ⅱ		2		
	△波動・熱力学	2			
	△電磁気学		2		
	△生物学Ⅰ		2		
	△生物学Ⅱ		2		
	化学Ⅰ		2		
	化学Ⅱ		2		
	現代物理学概論		2		
システム・情報科目	△情報処理Ⅰ（データサイエンス）	2			
	△情報処理Ⅱ	2			△…教科及び教科の指導法に関する科目(工業)
	△情報処理演習Ⅰ（データサイエンス）	1			
	△情報処理演習Ⅱ	1			
	△ｼｽﾃﾑ工学A(ｼｽﾃﾑ計画方法論)	2			
	△ｼｽﾃﾑ工学B(数理計画法)	2			
	ｼｽﾃﾑ工学C(データサイエンス)		2		
	△システム工学演習A	1			
	△システム工学演習B	1			
	システム工学演習C		2		
	創る		2		
	△信頼性工学		2		
	人間工学		2		
	△システム理工学入門		2		
	データサイエンス(応用)		2		
	AI基礎		1		
	データサイエンスリテラシー		1		
	Advanced Systems Science and Engineering		2		
	システム科学		2		

授　業　科　目

システム理工学部
【機械制御システム学科】

	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	適要
専門科目	△機械力学	2			
	振動工学	2			△…教科及び教科の指導法に関する科目(工業)
	△材料力学	2			
	△応用材料力学		2		
	△流れ学	2			
	△熱力学	2			
	△機械工学実験Ⅰ		2		
	△機械工学実験Ⅱ		2		
	△数値流体力学概論		2		
	△機械システム基礎数学	2			
	△計測工学		2		
	△基礎エレクトロニクス		2		
	Introduction to Control Engineering		2		
	△制御工学	2			
	Basic Control Engineering		2		
	△線形システム基礎論		2		
	△機構学	2			
	△機械材料		2		
	△加工工学		2		
	△基礎製図	2			
	△設計製図	2			
	△応用設計		2		
	△応用設計演習		1		
	△機械工学実習	2			
	Introduction to Embedded Programming (International Training)		2		
	△メカトロニクス		2		
	△自動車工学		2		
	△ロボティクス		2		
	Introduction of Bioengineering		2		
	Assistive Technology		2		
	Biomedical Measurements		2		
	Embedded Control Systems (International Training)		2		
	Introduction to Industrial Design		2		
	△デザインエルゴノミクス		2		
	△工業デザイン演習		2		
	△創生設計		2		
	△創生設計演習		1		
	△伝熱工学		2		
	△工業科指導法1		2		
	△工業科指導法2		2		
	△ものづくり工学		2		
	ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ・ﾌﾟﾗｸﾃｨｽⅠ		1		
	ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ・ﾌﾟﾗｸﾃｨｽⅡ		2		
	△機械システムセミナー		2		
	総合研究Ⅰ	4			
	総合研究Ⅱ	4			

授　業　科　目

システム理工学部

【環境システム学科】

	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	適要
基礎科目	微分積分Ⅰ	2			
	微分積分Ⅱ		2		
	線形代数Ⅰ	2			
	線形代数Ⅱ		2		
	微分方程式	2			
	ベクトル解析		2		
	力学Ⅰ		2		
	力学Ⅱ		2		
	波動・熱力学		2		
	電磁気学		2		
	生物学Ⅰ		2		
	生物学Ⅱ		2		
	化学Ⅰ		2		
	化学Ⅱ		2		
	現代物理学概論		2		
システム・情報科目	情報処理Ⅰ（データサイエンス）	2			
	情報処理Ⅱ	2			
	情報処理演習Ⅰ（データサイエンス）	1			
	情報処理演習Ⅱ	1			
	ｼｽﾃﾑ工学A(ｼｽﾃﾑ計画方法論)	2			
	ｼｽﾃﾑ工学B(数理計画法)	2			
	ｼｽﾃﾑ工学C(データサイエンス)		2		
	システム工学演習A	1			
	システム工学演習B	1			
	システム工学演習C		2		
	創る		2		
	信頼性工学		2		
	人間工学		2		
	システム理工学入門		2		
	データサイエンス(応用)		2		
	AI基礎		1		
	データサイエンスリテラシー		1		
	Advanced Systems Science and Engineering		2		
	システム科学		2		

授　業　科　目

システム理工学部

【環境システム学科】

	授業科目	単位数			適要
		必修	選択	自由	
専門科目	環境システム入門		2		
	建築基礎演習		1		
	環境・都市基礎演習		1		
	International Environmental Field Experience 1		2		
	International Environmental Field Experience 2		2		
	環境システム応用演習A		3		
	環境システム応用演習B		3		
	環境システム総論	2			
	建設プロジェクトマネジメント		2		
	International Workshop on Environmental Planning and Design 1		2		
	International Workshop on Environmental Planning and Design 2		2		
	社会実習Ⅰ		1		
	社会実習Ⅱ		2		
	総合研究Ⅰ	4			
	総合研究Ⅱ	4			
	Environmental Research Seminar 1		2		
	Environmental Research Seminar 2		2		
	建築史		2		
	建築計画基礎	2			
	建築設計情報演習		2		
	建築デジタルデザイン		2		
	居住環境デザイン論		2		
	居住環境デザイン演習		2		
	建築構造基礎	2			
	建築構造力学Ⅰ		2		
	建築構造力学Ⅱ		2		
	建築構造設計		2		
	建築構造システム演習		1		
	建築材料		2		
	建築生産・施工		2		
	都市及び都市計画史		2		
	都市計画基礎	2			
	都市計画演習		1		
	土地利用計画演習		2		
	都市・地域システム計画		2		
	交通システム計画		2		
	Planning for Community Resilience		2		
	環境システム解析演習		1		

授　業　科　目

システム理工学部

【環境システム学科】

	授業科目	単位数			適要
		必修	選択	自由	
専門科目	建築ﾃﾞｼﾞﾀﾙ・ﾌｧﾌﾞﾘｹｰｼｮﾝ		3		
	脱炭素と地域創発		2		
	環境政策		2		
	資源・ｴﾈﾙｷﾞｰｼｽﾃﾑ論		2		
	地理情報科学		2		
	都市住宅論		2		
	都市環境デザイン	2			
	都市環境デザイン演習		2		
	建築・都市法規		2		
	Architecture and Environmental Design		2		
	Architectural Design Studio		2		
	建築・環境デザイン演習		2		
	環境フィールド実習		2		
	Basic Urban Infrastructure Engineering		2		
	景観・ランドスケープデザイン		2		
	都市環境基盤計画	2			
	Life Cycle Assessment		2		
	Global Governance and Sustainable Strategy		2		
	Environmental Land Use Planning		2		
	Environmental Field Survey A		1		
	Environmental Field Survey B		1		
	Urban and Regional Studies		2		
	History of Housing and Interior Design		2		
	Architectural Planning and Design		2		
	Sustainable Business Practices		2		
	Workshop on Planning, Architecture and Environmental Systems C		3		
	Introduction to Embedded Programming (International Training)		2		
	建築環境工学	2			
	建築設備学		3		
	観光建築デザイン論		2		

	授業科目	単位数			適要
		必修	選択	自由	
	Introduction to Embedded Programming (International Training)		2		
☆	Introduction of Bioengineering		2		
	Basic Control Engineering		2		
	Introduction to Control Engineering		2		
	Embedded Control Systems (International Training)		2		
	理科指導法1		2		
	理科指導法2		2		

【生命科学課程】

科目区分		授業科目の名称	単位数			適要
			必修	選択	自由	
学際科目	SDGs・キャリアデザイン	△ SDGs入門	2			☆…教科及び教科の指導法に関する科目(理科) □…教科及び教科の指導法に関する科目(情報) △…教科及び教科の指導法に関する科目(工業) ○…教科及び教科の指導法に関する科目(数学) ◇…教科及び教科の指導法に関する科目(技術)
		△ 未来を創る1	2			
		△ 未来を創る2	1			
		ダイバーシティ入門		2		
		インターンシップ		2		
		芝浦工業大学通論		2		
	アントレプレナーシップ	△ アントレプレナーシップA（価値創造）	2			
		△ アントレプレナーシップB（事業創出）		2		
		△ 経営工学		2		
		産学官金連携PBL		2		
		会計簿記		2		
	システム工学	△ システム工学Ａ（システム計画方法論）	3			
		△ システム工学Ｂ（数理計画法）	3			
		プロジェクトマネジメント		2		
		Advanced Systems Science and Engineering1		2		
		Advanced Systems Science and Engineering2		2		
		信頼性工学		2		
		人間工学		2		
		△ サイバーセキュリティと社会		2		
		微分積分１		2		
		微分積分２		2		
		線形代数1		2		
		線形代数2		2		
		☆ 力学1		2		
		力学2		2		

基礎教養科目	理数・情報	☆ 波動・熱力学		2		
		☆ 電磁気学		2		
		☆ 生物学		2		
		☆ 化学		2		
		☆ 現代物理学概論		2		
		△ 情報基礎	3			
		△ AI基礎	1			
		△ 統計学基礎	1			
		△ データサイエンスリテラシー	1			
	社会科学	科学技術史		2		
		科学技術と社会		2		
		行政学		2		
		政治学		2		
		社会福祉論		2		
		情報社会と法		2		
		日本国憲法		2		
		社会学概論		2		
		人間と自然環境		2		
		教育社会学		2		
	人文科学	哲学1		2		
		哲学2		2		
		倫理学		2		
		生命倫理概論		2		
		技術者と倫理		2		
		世界史A		2		
		世界史B		2		
		△ 国際デザイン史		2		
		認知心理学		2		
		組織心理学		2		
		教育の近現代史		2		
		教育原論		2		
		人間関係論		2		

	保健体育	体育実技１		1		
		体育実技２		1		
		からだの仕組みと運動		2		
		身体運動のメカニズム		2		
		健康科学論Ａ		2		
		健康科学論Ｂ		2		
	英語	English Basic Skills 1		2		
		English Basic Skills 2		2		
		English Advanced Skills 1		2		
		English Advanced Skills 2		2		
		English Remedial Course 1			2	
		English Remedial Course 2			2	
		Basic English for Science and Technology 1		2		
		Basic English for Science and Technology 2		2		
		Advanced English for Science and Technology 1		2		
		Advanced English for Science and Technology 2		2		
		理工系英語プレゼンテーション		2		
		海外英語研修1		2		
		海外英語研修2		2		
		海外短期英語研修1		1		
		海外短期英語研修2		1		
		学外英語検定1		2		
		学外英語検定2		2		
教職課程		事前・事後指導			1	
		教育実習１			2	
		教育実習２			2	
		教職実践演習（中・高）			2	
		教職インターンシップ１			1	
		教職インターンシップ２			1	
		Advanced Bioscience		2		
		Basic Bioscience		2		
		Basic Control Engineering		2		
		△ CAD/CAM演習		3		
		Genetic Engineering		2		

		△ 医工学概論		1			
		Introduction to Biomedical-Engineering		1			
		Introduction to Control Engineering		2			
		Introduction to Embedded Programming		2			
		Global Project-Based Learning 1		2			
		Global Project-Based Learning 2		2			
		Global Project-Based Learning 3		2			
		健康データサイエンス		2			
		☆ 健康長寿学		2			
		☆ スポーツ工学実験演習1		3			
		△ スポーツ工学実験演習2		3			
		健康行動栄養学		2			
		スポーツ画像工学		2			
		△ スポーツ信号処理		2			
		△ 応用バイオメカニクス		2			
		映像メディア解析		2			
		△ スポーツ工学とSDGs		2			
		△ スポーツ工学概論		2			
		△ スポーツ工学研究法		2			
		☆ 生理学		2			
		☆ 体力医科学		2			
		データ解析		2			
		データサイエンス入門		1			
		△ バイオイメージング		2			
		△ バイオエレクトロニクス		2			
		☆ バイオエンジニアリング実験		2			
		☆ バイオマテリアル		2			
		△ バイオメカニカルエンジニアリング		2			
		△ バイオメカニクス		2			
		Python入門		1			
		△ Pythonプログラミング		3			
		☆ バイオレオロジー		2			
		△ メカトロニクス		2			
		メディア認知心理・人間工学		2			

		△ メディカルエンジニアリング実験		2			
		△ ものづくり工学		2			
		△ ロボティクス		2			
		△ 医学・医療概論		2			
		△ 医工学エレクトロニクス演習		2			
		△ 医工学セミナー		2			
		△ 医工学プログラミング演習		2			
		☆ 運動生理学		2			
	主専攻	☆ 解剖学		2			
		☆ 環境化学		2			
		機械・電気基礎数学		2			
		△ 機械設計製作演習		3			
		△ 機械力学		2			
		△ 機構学		2			
		☆ 機能解剖学		2			
		△ 公衆衛生学		2			
		☆ 構造解析学		2			
		☆ 細胞生理学		2			
		△ 材料力学		2			
		△ 食品栄養学		2			
		☆ 神経生理学		2			
		人工知能基礎		2			
		△ 制御工学		2			
		☆ 生化学		2			
		△ 生体計測学		2			
		☆ 生物地球化学		2			
		☆ 生物物理学		2			
		☆ 生命科学概論		2			
		☆ 生命科学実験（基礎）		4			
		☆ 生命科学実験（応用）		4			
		☆ 生命科学実験（発展）		4			
		△ 生命統計学		2			
		△ 創薬化学		2			
		△ 電気電子回路		2			

		△ 脳機能計測学		2		
		☆ 発生生物学		2		
		☆ 微生物学		2		
		☆ 分子遺伝学		2		
		☆ 分子生物学		2		
		☆ 分析化学		2		
		保健医療福祉政策概論		2		
		△ 薬理学		2		
		☆ 有機化学		2		
		△ 流れ学 2				
		Cross-cultural Student Support		1		
		☆ 理科指導法1		2		
		☆ 理科指導法2		2		
		☆ 理科指導法3		2		
		☆ 理科指導法4		2		
		△ 工業科指導法１		2		
		△ 工業科指導法2		2		
		△ 職業指導		2		
		△ 工学基礎概論		1		
		教育におけるICT活用		1		
		教育の方法及び技術		1		
		☆ 総合科学実験		1		
		教職論		2		
		特別活動の指導法		1		
		総合的な学習の時間の指導法		1		
		道徳の理論及び指導法		2		
		生徒・進路指導論		2		
		教育課程論		2		
		教育相談論		2		
		教育心理学		2		
		特別支援教育論		1		
専門科目		IoT基礎		2		
		IoT設計論		2		
		電気回路		2		

		フロントエンドとインタフェース基礎		2			
		センサとアクチュエータ		2			
		ディジタル信号処理		2			
		数値解析		2			
		電子回路		3			
		プログラミング入門		1			
		Python入門		1			
		Cプログラミング(情報)		3			
		データ構造とアルゴリズム		3			
		オブジェクト指向言語		2			
		モバイルプログラミング		2			
		ネットワークプログラミング		2			
		Computer Simulation		2			
		ソフトウェア設計論		2			
		ソフトウェア開発管理		2			
		現代的ソフトウェア構築技法		2			
		ゲームプログラミング		2			
		データベース		2			
		情報セキュリティ		2			
		インターネットプロトコル		2			
		情報理論		2			
		符号理論		2			
		ネットワークアプリケーション		2			
		ICT Systems Design		2			
		クラウドコンピューティング		2			
		メディア処理基礎		2			
		メディア処理1		2			
		メディア処理2		2			
		音声音響情報処理		2			
		自然言語処理		2			
		画像情報処理		2			
		コンピュータグラフィックス		2			
		VR/AR1		2			
		VR/AR2		2			

		ヒューマンコンピュータインタラクション		2			
		サイバーセキュリティ		2			
		エンタテインメントコンピューティング		2			
		メディアデザイン1		2			
		メディアデザイン2		2			
		メディア表現基礎		2			
		メディア表現応用		2			
		メディアコンテンツビジネス		2			
		社会システム入門		1			
	副専攻	システム科学		2			
		社会システム実践演習		3			
		データサイエンス応用		3			
		数理シミュレーション		3			
		シミュレーション&ゲーミング		2			
		消費者行動論		2			
		社会調査法		2			
		ビジネスエコノミクス		2			
		金融・経済リテラシー		2			
		マーケティング論		2			
		クリエイティブ産業論		2			
		機械・電気システムセミナー		2			
		電気機器システム		2			
		材料・加工学		2			
		Introduction to Industrial Design		2			
		機械計測工学		2			
		自動車工学		2			
		建築史		2			
		建築基礎演習		2			
		建築構造基礎		2			
		建築計画基礎		2			
		建築環境設備基礎		2			
		建築設計情報演習		2			
		建設プロジェクトマネジメント		2			
		建築材料		2			

		建築生産・施工		2		
		建築環境工学		2		
		建築構造設計		3		
		建築構造力学1		2		
		建築構造力学2		2		
		環境・都市基礎		2		
		環境・都市基礎演習		1		
		SDGsと環境		2		
		都市計画基礎		2		
		都市計画演習		1		
		都市環境デザイン		2		
		都市及び都市計画史		2		
		都市・地域システム計画		2		
		Global Governance and Sustainable Strategy		2		
		土地利用計画		3		
		景観・ランドスケープデザイン		2		
		資源・エネルギーシステム論		3		
		環境政策		2		
		環境ビジネス		3		
		脱炭素と地域創発		2		
		論理と集合		2		
		解析基礎		2		
		代数学1		2		
		幾何学1		2		
		ベクトル解析		2		
		複素解析		2		
		数値解析1		2		
		数理計画法		2		
		現象の数理		2		
		数理科学概論		2		
		金融工学		2		
		保険数学		2		

	総合研究	総合研究１	2			
		総合研究２	2			
		総合研究３	4			
		総合研究４	4			

授　業　科　目

システム理工学部

【数理科学科】

	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	適要
基礎科目	○ 微分積分Ⅰ	2			○…教科及び教科の指導法に関する科目(数学)
	○ 微分積分Ⅱ		2		
	○ 線形代数Ⅰ	2			
	○ 線形代数Ⅱ		2		
	○ 微分方程式	2			
	○ ベクトル解析	2			
	力学Ⅰ	2			
	力学Ⅱ		2		
	波動・熱力学		2		
	電磁気学		2		
	生物学Ⅰ		2		
	生物学Ⅱ		2		
	化学Ⅰ		2		
	化学Ⅱ		2		
	現代物理学概論		2		
システム情報科目	□ ○ 情報処理Ⅰ	2			○…教科及び教科の指導法に関する科目(数学) □…教科及び教科の指導法に関する科目(情報)
	□ ○ 情報処理Ⅱ	2			
	□ ○ 情報処理演習Ⅰ	1			
	□ ○ 情報処理演習Ⅱ	1			
	□ ｼｽﾃﾑ工学A(ｼｽﾃﾑ計画方法論)	2			
	ｼｽﾃﾑ工学B(数理計画法)	2			
	ｼｽﾃﾑ工学C(データサイエンス)		2		
	□ システム工学演習A	1			
	システム工学演習B	1			
	システム工学演習C		2		
	創る		2		
	信頼性工学		2		
	人間工学		2		
	システム理工学入門		2		
	データサイエンス(応用)		2		
	AI基礎		1		
	データサイエンスリテラシー		1		
	Advanced Systems Science and Engineering		2		
	システム科学		2		

授 業 科 目

システム理工学部

【数理科学科】

		授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	適要
専門科目		基礎数理セミナー	2			○…教科及び教科の指導法に関する科目(数学)
	○	数学基礎	2			□…教科及び教科の指導法に関する科目(情報)
		Practical English in Mathematical Sciences		2		
		国際数理科学実習Ⅰ		2		
		国際数理科学実習Ⅱ		2		
	○	Topics in Pure and Applied Mathematics		2		
	○	数理科学特論A		1		
	○	数理科学特論B		1		
	○	数理科学特論C		1		
	○	数理科学特論D		1		
		数理科学セミナー	2			
		数学科指導法1		2		
		数学科指導法2		2		
		情報科指導法1		2		
		情報科指導法2		2		
		総合研究Ⅰ	4			
		総合研究Ⅱ	4			
	○	代数学Ⅰ	2			
	○	代数学Ⅱ		2		
	○	代数学Ⅲ		2		
	○	Introduction to Applied Algebra		2		
	○	幾何学Ⅰ	2			
	○	幾何学Ⅱ		2		
	○	幾何学Ⅲ		2		
	○	Introduction to Advanced Mathematics		2		
	○	解析基礎		2		
	○	複素解析		2		
	○	Calculus with Differential Equations		2		
	○	Linear Space and Vector Calculus		2		
	○	関数方程式論		2		
	○	関数解析Ⅰ		2		
	○	関数解析Ⅱ		2		
□	○	Topics in Numerical Analysis		2		
	○	応用解析		2		
□	○	数値解析Ⅰ		2		
□	○	数値解析Ⅱ		2		
□	○	制御理論基礎		2		
	○	数理計画法		2		
	○	現象の数理		2		
□	○	Advanced Control Theory		2		
□	○	シミュレーション		2		
	○	数理科学特別講義		2		
□	○	データ構造とアルゴリズム		2		
□	○	Javaプログラミング		3		
□	○	記号処理		2		
□	○	計算理論基礎		2		
□	○	Theory of Computation		2		
	○	計算機代数		2		
	○	確率統計		2		
	○	多変量解析		2		
	○	確率統計学特論		2		
	○	金融・保険数理		2		

授　業　科　目

システム理工学部

【教職課程】

システム理工学部　電子情報システム学科　機械制御システム学科

生命科学課程　数理科学科

	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	摘要
教育の基礎的理解に関する科目	教育原論		2		共通科目（総合科目）
	教育の近現代史		2		共通科目（総合科目）
	教育心理学		2		共通科目（総合科目）
	教育社会学		2		共通科目（総合科目）
	教職論		2		共通科目（教職科目）
	特別支援教育論		1		共通科目（教職科目）
	教育課程論		2		共通科目（総合科目）
	総合的な学習の時間の指導法			1	
	道徳の理論及び指導法			2	
	特別活動の指導法			1	
	教育の方法及び技術		1		共通科目（教職科目）
	教育におけるICT活用		1		共通科目（教職科目）
	生徒・進路指導論		2		共通科目（教職科目）
	教育相談論		2		共通科目（総合科目）
	事前・事後指導			1	
	教職インターンシップ1			1	
	教職インターンシップ2			1	
	教育実習　1			2	
	教育実習　2			2	
	教職実践演習（中・高）			2	
教科及び教科の指導法に関する科目	○ 数学科指導法1		2		
	○ 数学科指導法2		2		
	○ 数学科指導法3			2	
	○ 数学科指導法4			2	
	☆ 理科指導法1		2		
	☆ 理科指導法2		2		
	☆ 理科指導法3			2	○…教科及び教科の指導法に関する科目(数学)
	☆ 理科指導法4			2	☆…教科及び教科の指導法に関する科目(理科)
	☆ 総合科学実験			1	△…教科及び教科の指導法に関する科目(工業)
	△ 工業科指導法1		2		□…教科及び教科の指導法に関する科目(情報)
	△ 工業科指導法2		2		
	△ 職業指導			2	
	□ 情報科指導法1		2		
	□ 情報科指導法2		2		
	道徳の理論及び指導法			2	高等学校免許状の課程のみ適用
大学が独自に設定する科目	人間関係論		2		共通科目（教職科目）

教育職員免許状の種類・教職課程開設科目及び修得単位数

１．教育職員免許状の種類・教科

学部	学科名	免許状の種類	教科名
システム理工学部	電子情報システム学科	高等学校教諭一種免許状	情報
	機械制御システム学科	高等学校教諭一種免許状	工業
	生命科学課程	中学校教諭一種免許状	理科
		高等学校教諭一種免許状	理科・工業
	数理科学科	中学校教諭一種免許状	数学
		高等学校教諭一種免許状	数学・情報

２．教員免許状取得に要する教科別単位数

所要資格等／免許状の種類	基礎資格	免許状取得に必要な最低修得単位数			
		教科及び教科の指導法に関する科目		教育の基礎的理解に関する科目	大学が独自に設定する科目
		教科名	単位数		
中学校教諭一種免許状	学士の学位を有すること 日本国憲法／体育／外国語コミュニケーション／情報機器の操作 それぞれ２単位取得を要する	数学	２８単位以上	２８単位	３単位
		理科	２８単位以上		
高等学校教諭一種免許状	学士の学位を有すること 日本国憲法／体育／外国語コミュニケーション／情報機器の操作 それぞれ２単位取得を要する	数学	２４単位以上	２４単位	１１単位
		理科	２４単位以上		
		情報	２４単位以上		
		工業	２４単位以上		

３．教育の基礎的理解に関する科目および大学が独自に設定する科目

資格・教科 / 授業科目名	中学校教諭一種免許状		高等学校教諭一種免許状			
	数学	理科	数学	理科	情報	工業
教職論 ●	２単位	２単位	２単位	２単位	２単位	２単位
教育原論 ○	２単位	２単位	２単位	２単位	２単位	２単位
教育の近現代史 ○	２単位	２単位	２単位	２単位	２単位	２単位
教育心理学 ○	２単位	２単位	２単位	２単位	２単位	２単位
特別支援教育論 ●	１単位	１単位	１単位	１単位	１単位	１単位
教育社会学 ○	２単位	２単位	２単位	２単位	２単位	２単位
教育課程論 ○	２単位	２単位	２単位	２単位	２単位	２単位
道徳の理論及び指導法	２単位	２単位	２単位＊	２単位＊	２単位＊	２単位＊
総合的な学習の時間の指導法	１単位	１単位	１単位	１単位	１単位	１単位
特別活動の指導法	１単位	１単位	１単位	１単位	１単位	１単位
教育の方法及び技術 ●	１単位	１単位	１単位	１単位	１単位	１単位
教育における ICT 活用 ●	１単位	１単位	１単位	１単位	１単位	１単位
生徒・進路指導論 ●	２単位	２単位	２単位	２単位	２単位	２単位
教育相談論 ○	２単位	２単位	２単位	２単位	２単位	２単位
人間関係論 ●	２単位＊	２単位＊	２単位＊	２単位＊	２単位＊	２単位＊
事前・事後指導	１単位	１単位	１単位	１単位	１単位	１単位
教育実習 1	２単位	２単位	２単位	２単位	２単位	２単位
教育実習 2	２単位	２単位	２単位	２単位	２単位	２単位
教職実践演習（中・高）	２単位	２単位	２単位	２単位	２単位	２単位

○共通科目（総合科目）

●共通科目（教職科目）

＊大学が独自に設定する科目

４．教科及び教科の指導法に関する科目

教科名	施行規則に定める科目区分等	修得単位数	
		中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状
数学	代数学 幾何学 解析学 確率論・統計学 コンピュータ	計２０単位以上	計２０単位以上
	各教科の指導法	計８単位	計４単位以上
理科	物理学 化学 生物学 地学 物理学実験 化学実験 生物学実験 地学実験	計２０単位以上	計２０単位以上
	各教科の指導法	計８単位	計４単位以上
情報	情報社会(職業に関する内容を含む)・情報倫理 ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ・情報処理 情報システム 情報通信ネットワーク ﾏﾙﾁﾒﾃﾞｨｱ表現・ﾏﾙﾁﾒﾃﾞｨｱ技術		計２０単位以上
	各教科の指導法		計４単位
工業	職業指導 工業の関係科目		計２０単位以上
	各教科の指導法		計４単位

別表５

授　業　科　目

デザイン工学部
【デザイン工学科】

◎必修科目　△選択科目　□自由科目

系列	科目番号	科目名称	単位数	1年次		2年次		3年次		4年次		週コマ数	授業形態	学修・教育到達目標	備考
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
全学共通科目	10017004	ダイバーシティ入門	2	△	△							1	講義	A	
	40072600	芝浦工業大学通論	2	△	△							1	講義	A	
	40211100	消費者行動論	2	△	△							1	講義	A	
	40211200	マーケティング概論	2	△	△							1	講義	A	
	40211300	デジタルプレゼンテーション	2	△	△							1	講義	A	
	40076100	Ｊａｐａｎｅｓｅ　Ｌａｎｇｕａｇｅ　Ⅰ	2	□	□							1	講義	−	
	40076200	Ｊａｐａｎｅｓｅ　Ｌａｎｇｕａｇｅ　Ⅱ	2	□	□							1	講義	−	
	40076300	Ｊａｐａｎｅｓｅ　Ｌａｎｇｕａｇｅ　Ⅲ	2	□	□							1	講義	−	
	40076400	Ｊａｐａｎｅｓｅ　Ｌａｎｇｕａｇｅ　Ⅳ	2	□	□							1	講義	−	

系列		科目番号	科目名称	単位数	1年次		2年次		3年次		4年次		週コマ数	授業形態	学修・教育到達目標	備考
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
共通教養科目	人文系	40003000	哲学（存在と心）	2	△								1	講義	A	
		40003700	工学倫理	2	△								1	講義	A,B	
		40005500	民俗学	2	△								1	講義	A	
		40049000	環境学	2	△								1	講義	A	
		40075000	科学技術論	2	△								1	講義	A,B	
		40075450	近現代史	2	△								1	講義	A	
		40061200	体育講義	2	△	△							1	講義	A	
		40062300	体育実技	1	△	△							1	実技	A	
		40006400	比較文化論	2		△							1	講義	A	
		40050900	エコロジー	2		△							1	講義	A,B	
		40075200	哲学（知識と言語）	2		△							1	講義	A	
		40075350	美学・美術史	2		△							1	講義	A	
		40075500	現代文芸論	2		△							1	講義	A	
		40216000	Engineering Ethics	2						△			1	講義	A,B	
	社会科学系	40046200	経済学	2	△								1	講義	A	
		40024400	社会学／社会情報学	2		△							1	講義	A	
		40025500	行動科学	2		△							1	講義	A	
		40041800	法学	2		△							1	講義	A	
		40042700	日本国憲法	2		△							1	講義	A	
		40048500	政治と国際関係	2						△			1	講義	A	
		10019004	アントレプレナーシップ入門	2	△	△							1	講義	A	※1
		10023004	アントレプレナーシップ応用	2			△	△					1	講義	A	※1
		40078400	地域志向型デザイン	1	△（不定）								1	演習	A	集中
		40078500	地域創生インターンシップ	2			□（不定）						2	実習	A	集中
	キャリア系	40073600	キャリアプラン	1				△					2	演習	A	
		40074700	キャリア・デザイン	1					△				2	演習	A	
		40077000	海外工学英語研修	1	△（不定）								1	演習	A	集中
		40078100	グローバルPBL1	1	△（不定）								1	演習	A	集中
		40078200	グローバルPBL2	1	△（不定）								1	演習	A	集中
		40078300	グローバルPBL3	1	△（不定）								1	演習	A	集中
	教育系	40096010	教育原論	2	△	△							1	講義	A	
		40096040	教育心理学	2	△	△							1	講義	A	
		40096060	教育の近現代史	2	△	△							1	講義	A	
		40096080	人間関係論	2	△	△							1	講義	A	※1
		Z4041700	教職論	2	△	△							1	講義	A	※1
		Z4045800	特別活動の指導法	1			△	△					1	講義	A	※1
		Z4060700	道徳の理論及び指導法	2			△	△					1	講義	A	
		Z4060800	総合的な学習の時間の指導法	1			△	△					1	講義	A	※1
		Z4070600	工業科指導法１	2			△	△					1	講義	A	※1
		Z4071400	工業科指導法２	2			△	△					1	講義	A	※1
		Z4260300	教育課程論	2			△	△					1	講義	A	
		Z4012810	教育の方法及び技術	1			△	△					1	講義	A	※1
		Z4012820	教育におけるICT活用	1			△	△					1	講義	A	※1
		40096050	教育社会学	2					△	△			1	講義	A	
		Z4025000	生徒・進路指導論	2					△	△			1	講義	A	※1
		Z4026800	教育相談論	2					△	△			1	講義	A	※1
		Z4060900	特別支援教育論	1					△	△			1	講義	A	集中
	他（外国の語）	40091300	基礎中国語	2	△								1	講義	A	
		40092400	中国語表現	2		△							1	講義	A	
	外国語（英語）	40081700	総合英語	2	△								1	講義	A	
		40082600	英語表現	2		△							1	講義	A	
		40083500	英語講読１	2			△						1	講義	A	
		40084400	英語講読２	2				△					1	講義	A	
		40086200	ライティング	2			△						1	講義	A	
		40087500	テクニカルイングリッシュ	2				△					1	講義	A	
		40088000	英語プレゼンテーション	2					△				1	講義	A	
		40087000	ビジネス英語	2						△			1	講義	A	
		40095000	英語圏の言語と文化	2	△（不定）								1	講義	A	集中
		40095500	英語圏の言語と文化(短期プログラム)	1	△（不定）								1	講義	A	集中

※1　前期または後期のいずれかに開講

授　業　科　目

デザイン工学部
【デザイン工学科】

◎必修科目　○選択必修科目　△選択科目

系列		科目番号	科目名称	単位数	1年次		2年次		3年次		4年次		週コマ数	授業形態	学修・教育到達目標	備考
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
データ・サイエンス科目	データ解析	40101600	線形代数１	2	◎								1	講義	C	
		40105200	微積分学１	2	◎								1	講義	C	
		Y0211100	統計学基礎	1		◎							1	演習	C,D2	
		40206000	数理計画法	2			△						1	講義	C	
		Y0211110	数理モデリング	2			△						1	講義	C,D2	
		40113040	数値解析	2				△					2	講義	C,D2	
		40047200	計量経済学	2					△				1	講義	C,D2	
		40215080	シミュレーション工学	2					△				1	講義	C	
		Y0071030	マーケティング・リサーチ	2						△			2	演習	C,D2	
		Y0150800	データマイニング	2						△			1	講義	C,D2	
	データ・サイエンス	Y0211200	データ・サイエンス入門	1	◎								1	講義	C	
		40121400	基礎力学	2	△								1	講義	C	
		40126900	集合と論理	2	△								1	講義	C	
		40103400	線形代数２	2		△							1	講義	C	
		40107000	微積分学２	2		△							1	講義	C	
		40124700	物理学（電磁気）	2		△							1	講義	C	
		Y0211210	工業力学・静力学	2		△							1	講義	C	
		Y0211220	データサイエンスリテラシー	1		△							1	講義	C	集中
		Y0211230	工業力学・動力学	2			△						1	講義	C	
		Y0211240	データ・サイエンス演習	1			△						1	演習	C	
		40110700	ベクトル解析	2					△				1	講義	C	
		Y0211250	フーリエ変換	1					△				1	講義	C	
		Y0073090	ゲーム理論	2						△			1	講義	C	
デザイン科目	デザインリテラシー	Y0002600	ものづくり概論	2	◎								1	講義	E	
		Y0027100	デザイン基礎表現演習	2	◎								2	演習	E	
		Y0212100	構想デザイン入門	2	◎								1	講義	D1	
		Y0006000	構想デザイン論	2			◎						1	講義	D1	
		40021100	認知心理学入門	2		△							1	講義	E	
		Y0004800	デザイン史	2		△							1	講義	E	
		Y0102000	ユニバーサルデザイン	2			△						1	講義	E	
		40026600	人間工学	1				△					1	講義	E	
		Y0104600	インターフェースデザイン	1				△					1	講義	E	
		Y0106400	サービスデザイン	2					△				1	講義	E	
		Y0212110	論文作成演習	2					△				1	演習	F	
		Y0107100	デザインマネージメント	2						△			1	講義	E	
		Y0150400	プロモーション計画論	2						△			1	講義	E	
	ビジネスメイキング	40022200	組織心理学	2	△								1	講義	A	
		40048100	経営学	2	△								1	講義	D1	
		40071400	プレゼンテーション	2		△							1	講義	F	
		40004600	企業倫理	2			△						1	講義	B	
		Y0070400	マーケティング	2			△						1	講義	D1	
		Y0068600	財務会計	2				△					1	講義	A	
		Y0074070	ビジネスモデル論	2					△				1	講義	D1	
エンジニアリング科目	プロダクトデザイン	Y0027200	造形基礎演習	2		○							2	演習	E	
		Y0213100	構成基礎演習	2	△								2	演習	E	
		Y0022300	プロダクトデザイン	2		△							1	講義	E	
		Y0108900	プロダクトデザイン演習1	2			△						2	演習	E	
		Y0109700	プロダクトデザイン演習2	2				△					2	演習	E	
		Y0103800	エモーショナルデザイン	2						△			1	講義	E	
	機能デザイン	40207000	SDGs入門	2		△							1	講義	B,E	
		Y0026900	3D CAD	2		△							1	講義	E	
		Y0027800	機構設計学	2				△					1	講義	E	
		Y0213200	有限要素法	2				△					2	講義	E	
		Y0213200	基礎熱力学	2					△				1	講義	E	
		Y0213220	基礎流体力学	2					△				1	講義	E	
		Y0213230	熱流体シミュレーション	2						△			1	講義	E	
		Y0213240	機械要素設計	2						△			1	講義	E	

授 業 科 目

デザイン工学部
【デザイン工学科】

◎必修科目　○選択必修科目　△選択科目

系列		科目番号	科目名称	単位数	1年次		2年次		3年次		4年次		週コマ数	授業形態	学修・教育到達目標	備考
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
エンジニアリング科目	メカニカルデザイン	Y0213300	基礎製図演習	2		○							2	演習	E	
		40125800	化学	2	△								1	講義	E	
		40213020	材料力学	2			△						1	講義	E	
		Y0145300	材料工学	2			△						1	講義	E	
		Y0213310	ものづくり実習	2			△						2	実習	E	
		40209700	機械力学	2				△					1	講義	E	
		Y0063100	金型工学	2				△					1	講義	E	
		Y0066800	生産加工学	2					△				1	講義	E	
		Y0213320	エコマテリアル	2						△			1	講義	E	
	UI/UXデザイン	40302000	情報表現基礎演習	2		○							2	演習	E	
		Y0154000	UXデザイン	2			△						1	講義	E	
		Y0154400	UXデザイン演習	2			△						2	演習	E	
		Y0007100	色彩論	2				△					1	講義	E	
			Color Theory	2				△					1	講義		英語開講
		Y0153200	コンテンツデザイン	2				△					1	講義	E	
		Y0153600	コンテンツデザイン演習	2				△					2	演習	E	
		40303000	情報デザイン論	2					△				1	講義	E	
			Information Design	2					△				1	講義	E	英語開講
	ソフトウェア	40203300	情報処理演習	2		○							2	演習	E	
		Y0201100	プログラミング１	2			△						3	演習	E	
		Y0201200	プログラミング２	2			△						3	演習	E	
		Y0045000	コンピュータアーキテクチャ	2				△					1	講義	E	
		Y0122600	データ構造とアルゴリズム	2				△					1	講義	E	
		Y0123400	オブジェクト指向プログラミング	2				△					1	講義	E	
		Y0124200	オブジェクト指向プログラミング演習	1				△					1	演習	E	
		Y0127700	ソフトウェア設計論	2					△				1	講義	E	
		Y0128500	ソフトウェア設計論演習	1					△				1	演習	E	
		Y0155600	要求工学	2						△			1	講義	E	
	ロボティクス	40205100	電気回路	2		△							1	講義	E	
		40212040	基礎エレクトロニクス	2			△						1	講義	E	
		Y0041600	ディジタル回路	2			△						1	講義	E	
		Y0156400	ロボット製作演習	2				△					2	実習	E	
		Y0213600	計測工学	1				△					1	講義	E	
		Y0213610	制御工学	1				△					1	講義	E	
		Y0240010	信号処理	1					△				1	講義	E	
		Y0133050	モーションコントロール	2					△				1	講義	E	
		Y0156000	人工知能	2					△				1	講義	E	
		Y0132070	ロボティクス	2						△			1	講義	E	
プロジェクト科目		Y0170001	プロジェクト演習１	2					△	△			3	演習	D2,E,F	
		Y0170002	プロジェクト演習２	2					△	△			3	演習	D2,E,F	
		Y0170003	プロジェクト演習３	2					△	△			3	演習	D2,E,F	
		Y0170004	プロジェクト演習４	2					△	△			3	演習	D2,E,F	
		Y0170005	プロジェクト演習５	2					△	△			3	演習	D2,E,F	
		Y0170006	プロジェクト演習６	2					△	△			3	演習	D2,E,F	
		Y0170007	プロジェクト演習７	2					△	△			3	演習	D2,E,F	
		Y0170008	プロジェクト演習８	2					△	△			3	演習	D2,E,F	
		Y0170009	プロジェクト演習９	2					△	△			3	演習	D2,E,F	
		Y0170010	プロジェクト演習１０	2					△	△			3	演習	D2,E,F	
		Y0170011	プロジェクト演習１１	2					△	△			3	演習	D2,E,F	
		Y0170012	プロジェクト演習１２	2					△	△			3	演習	D2,E,F	
		Y0170013	プロジェクト演習１３	2					△	△			3	演習	D2,E,F	
		Y0170014	プロジェクト演習１４	2					△	△			3	演習	D2,E,F	
		Y0170015	プロジェクト演習１５	2					△	△			3	演習	D2,E,F	
		Y0170016	プロジェクト演習１６	2					△	△			3	演習	D2,E,F	
		Y0170017	プロジェクト演習１７	2					△	△			3	演習	D2,E,F	
		Y0170018	プロジェクト演習１８	2					△	△			3	演習	D2,E,F	
		Y0170019	プロジェクト演習１９	2					△	△			3	演習	D2,E,F	
		Y0214000	プロジェクト研究	2						◎			2	演習	B,D1,D2,E,F	
		Y0214010	総合プロジェクト1	6							◎	◎	2	卒研	D1,D2,E,F	
		Y0214020	総合プロジェクト2	6							◎	◎	2	卒研	D2,E,F	

授　業　科　目

デザイン工学部
【教職課程】
デザイン工学部　デザイン工学科

◎必修科目　△選択科目

系　列	科目番号	科目名称	単位数	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		週コマ数	授業形態	免許科目	備 考
				前	後	前	後	前	後	前	後				
教育の基礎的理解に関する科目	Z4041700	教職論	2	◎	◎							1	講義		
	40096010	教育原論	2	◎	◎							1	講義		
	40096040	教育心理学	2	◎	◎							1	講義		
	40096060	教育の近現代史	2	△	△							1	講義		※1
	Z4260300	教育課程論	2			◎	◎					1	講義		
	40096050	教育社会学	2					◎	◎			1	講義		
	Z4060900	特別支援教育論	1					◎	◎			1	講義		
道徳、総合的な学習の時間の指導法及び生徒指導、教育相談などに関する科目	Z4012810	教育の方法及び技術	1			◎	◎					1	講義		
	Z4012820	教育におけるICT活用	1			◎	◎					1	講義		
	Z4045800	特別活動の指導法	1			◎	◎					1	講義		
	Z4060700	道徳の理論及び指導法	2			△	△					1	講義		※1
	Z4025000	生徒・進路指導論	2					◎	◎			1	講義		
	Z4026800	教育相談論	2					◎	◎			1	講義		
	Z4060800	総合的な学習の時間の指導法	1			◎	◎					1	講義		
教育実践に関する科目	Z4182900	事前・事後指導	1							◎		1	講義		
	Z4183700	教育実習1	2							◎		－	実習		集中
	Z4184600	教育実習2	2							△		－	実習		集中
	Z4780000	教職実践演習（中・高）	2								◎	1	演習		
大学が独自に設置する科目	40096080	人間関係論	2	△	△							1	講義		※1
教科及び教育の指導法に関する科目	Y0240030	ラボ探究	1				◎					1	講義	工業	
	Z4070600	工業科指導法1	2			◎	◎					1	講義	工業	※1
	Z4071400	工業科指導法2	2			◎	◎					1	講義	工業	
職業指導	Z4051700	職業指導	2					◎				1	講義	工業	
情報機器の操作	Z4021100	情報機器の操作	2		◎							1	講義		

備考欄「※ 1 」の科目は共通教養科目として取得単位は卒業要件単位数に参入されますが、教職課程履修者以外の履修は制限されることがあります。それ以外の科目は自由科目となり、卒業要件単位数に参入されません。

教育職員免許状の種類・教職課程開設科目及び修得単位数

１．教育職員免許状の種類・教科

学　部	学　科　名	免　許　状　の　種　類	教 科 名
デザイン工学部	デザイン工学科	高 等 学 校 教 諭 一 種 免 許 状	工業

２．教員免許状取得に要する教科別単位数

所要資格等 ／ 免許状の種類	基　礎　資　格	専門教育科目の最低単位数			
		教科及び教科の指導法に関する科目		教育の基礎的理解に関する科目	大学が独自に設定する科目
		教科名	単位数		
高等学校教諭一種免許状	学士の称号を有すること 日本国憲法 体育 外国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ 情報機器の操作 （それぞれ２単位取得を要する）	工　業	２４単位以上	２４単位	１１単位

３．教育の基礎的理解に関する科目及び大学が独自に設定する科目

授業科目名 ＼ 資格・教科	高等学校教諭一種免許状
	工　業
教育原論※	２単位
教育の近現代史※	２単位
教職論※	２単位
教育社会学※	２単位
教育心理学※	２単位
特別支援教育論※	１単位
教育課程論※	２単位
道徳の理論及び指導法※	２単位
総合的な学習の時間の指導法※	１単位
特別活動の指導法※	１単位
教育の方法及び技術※	１単位
教育におけるＩＣＴ活用※	１単位
生徒・進路指導論※	２単位
教育相談論※	２単位
事前・事後指導	１単位
教育実習１	２単位
教育実習２	２単位
教職実践演習（中・高）	２単位
人間関係論※	２単位

※共通教養科目

４．教科及び教科の指導法に関する科目

教科名	施行規則に定める科目区分等	修得単位数
		高等学校教諭一種免許状
工業	職業指導 工業の関係科目 各教科の指導法	計２０単位以上 ４単位
	計	２４単位以上

別表６

授　業　科　目

建築学部

【建築学科　基礎・教養科目群】

◎ 必修科目 △ 選択科目 □ 自由科目

系列		科目番号	科目名称	単位数	1年次		2年次		3年次		4年次		週コマ数	授業形態	学修・教育到達目標	備考
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
数理基礎科目	数学科目	S2014000	線形代数1	2	△	△							1	講義	3	
		S2020000	線形代数2	2		△							1	講義	3	
		S2027000	微分積分及び演習1	3	△	△							2	講義	3	
		S2033000	微分積分及び演習2	3		△							2	講義	3	
		S2045000	統計学基礎	1		◎							1	演習	3	
		S2050000	微分方程式	2			△	△					1	講義	3	
		S2056000	ベクトル解析	2			△	△					1	講義	3	
		S2063000	応用解析概論	2				△					1	講義	3	
	理科科目	S2076000	物理学入門	2	△								2	講義	3	
		S2079000	基礎力学	2		△							1	講義	3	
		S2082000	基礎力学演習	2		△							1	演習	3	
		S2085000	基礎環境化学	2	△	△							1	講義	3	
		S2094000	基礎熱統計力学	2			△						1	講義	3	
		S2097000	基礎熱統計力学演習	2			△						1	演習	3	
外国語科目	英語科目	S2210000	Listening and Speaking	2	△								1	講義	6	
		S2213000	Reading and Writing	2		△							1	講義	6	
		S2220000	Reading	2			△	△					1	講義	6	
		S2226000	Writing	2			△	△					1	講義	6	
		S2228000	Presentation Ⅰ	2			△	△					1	講義	6	
		S2231000	Presentation Ⅱ	2			△	△					1	講義	6	
		S2241000	TOEIC1	2			△	△					1	講義	6	
		S2243000	TOEIC2	2			△	△					1	講義	6	
人文社会・情報系教養科目		S2410000	情報リテラシ	2	△								1	講義	3,5	
		S2412000	データサイエンスリテラシー	1		△							1	講義	3,5	集中
		S2419000	情報時代の地域・都市	2			△	△					1	講義	3,5	
		S2423000	哲学・倫理学	2					△	△			1	講義	3,5	
		S2428000	技術者の倫理	2	△	△							1	講義	3,5	
		S2434000	生命倫理	2	△	△							1	講義	3,5	
		S2437000	日本国憲法	2	△	△							1	講義	3,5	
		S2440000	知的財産法	2					△	△			1	講義	3,5	
		S2443000	法学入門	2	△	△							1	講義	3,5	
		S2446000	民法	2			△	△					1	講義	3,5	
		S2449000	地方自治論	2			△	△					1	講義	3,5	
		S2452000	社会学	2	△	△							1	講義	3,5	
		S2455000	ジェンダー論	2			△	△					1	講義	3,5	
		S2458000	地域社会学	2			△	△					1	講義	3,5	
		S2461000	生産と消費の環境論	2			△	△					1	講義	3,5	
		S2473000	人間社会と環境問題	2	△	△							1	講義	3,5	
		S2476000	地域と環境	2			△	△					1	講義	3,5	
		S2479000	福祉と技術	2	△	△							1	講義	3,5	
		S2485000	都市と文学	2	△	△							1	講義	3,5	
		S2488000	現代日本の社会	2	△	△							1	講義	3,5	
		S2489000	グローバリゼーション論	2			△	△					1	講義	3,5	
		S2491000	芸術学	2	△	△							1	講義	3,5	
		S2494000	文化人類学	2	△	△							1	講義	3,5	
		S2497000	比較文化論	2					△	△			1	講義	3,5	
		S2503000	現代の日本経済	2	△	△							1	講義	3,5	
		S2505000	経済学	2	△	△							1	講義	3,5	
		S2512000	応用経済学	2					△	△			1	講義	3,5	
		S2518000	プレゼンテーション入門	2	△	△							1	講義	3,5	
		S2521000	レポートライティング	2	△	△							1	演習	3,5	
		S2524000	地域・社会調査入門	2			△	△					1	講義	3,5	
		S2527000	地域と経済	2			△	△					1	講義	3,5	
体育・健康科目	コミュニケーション科目（実技）	S2611000	スポーツ科学実技1	1	△	△							1	実技	9	
		S2621000	スポーツ科学実技2	1	△	△							1	実技	9	
		S2632000	スポーツ科学実技3	1	□	□							1	実技	9	
		S2642000	スポーツ科学実技4	1	□	□							1	実技	9	
	理論科目	S2682000	スポーツバイオメカニクス	2	△								1	講義	9	
		S2688000	スポーツ健康学	2	△	△							1	講義	9	
		S2694000	コンディショニング演習	2	△	△							1	演習	9	
その他の基礎教養科目		10099002	芝浦工業大学通論	2	□	□							1	講義	1	
		10017002	ダイバーシティ入門	2	□	□							1	講義	6	
		10099042	アントレプレナーシップ入門	2	□	□							1	講義	3,5	
		10099072	アントレプレナーシップ応用	2			□	□					1	講義	3,5	
		10017102	消費者行動論	2	□	□							1	講義	3,5	
		10017202	マーケティング概論	2	□	□							1	講義	3,5	
		10017302	デジタルプレゼンテーション	2	□	□							1	講義	3,5	
		10099012	Japanese Language Ⅰ	2	□	□							1	講義	6	
		10099022	Japanese Language Ⅱ	2	□	□							1	講義	6	
		10099032	Japanese LanguageⅢ	2	□	□							1	講義	6	
		10099062	Japanese LanguageⅣ	2	□	□							1	講義	6	
学科課程外		W0000001	学外英語検定	2	△不定								1	その他	6	
		W0000002	海外語学演習（短期）１	1	△不定								1	演習	6	
		W0000003	海外語学演習（短期）２	1	△不定								1	演習	6	
		W0000004	海外語学演習（短期）３	1	△不定								1	演習	6	
		W0000005	海外語学演習（短期）４	1	△不定								1	演習	6	
		W0000006	海外語学演習１	2	△不定								2	演習	6	
		W0000007	海外語学演習２	2	△不定								2	演習	6	
		W0000008	海外語学演習３	2	△不定								2	演習	6	
		W0000009	海外語学演習４	2	△不定								2	演習	6	

※「学外英語検定」(２単位)は学科課程外科目。なお、学科課程外科目のうち「海外語学演習(短期)１」(１単位)、「海外語学演習(短期)２」(１単位)、「海外語学演習(短期)３」(１単位)、「海外語学演習（短期）４」（1単位）、「海外語学演習１」(２単位)、「海外語学演習２」(２単位)、「海外語学演習３」(２単位)、「海外語学演習４」(２単位)は、４単位を上限に卒業要件に算入されます。

授　業　科　目

建築学部

【建築学科 APコース　専門科目群】

◎ 必修科目　　○ コース必修

1 選択必修科目（1群）　　2 選択必修科目（2群）　　△ 選択科目

科目番号	科目名称	単位数	1年次		2年次		3年次		4年次		週コマ数	授業形態	学修・教育到達目標	備考
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
S0010000	建築デザイン基礎1	2	◎								3	演習	4	
S0013000	建築デザイン入門	2	△								1	講義	2,4	
S0016000	居住空間史	2	△								1	講義	1	
S0022000	デザイン史	2		△							1	講義	1	
S0025000	建築デザイン基礎2	2		◎							3	演習	4	
S0034000	建築スタジオ演習1	2		△							2	演習	4,5	APコースのみ
S0037000	建築の形態と空間	2		△							1	講義	4	
S0040000	建築ものづくり	2		△							1	講義	4	
S0043000	建築環境工学1	2		◎							1	講義	2,4	
S0046000	構造力学・演習	3		◎							2	講義	3,4	
S0210000	住生活論	2			△						1	講義	1	
S0219000	建築スタジオ演習2	2			○						3	演習	4,5	APコースのみ
S0221099 S0222000	CAD・CG演習	2			△						2	演習	4	
S0225000	建築設計計画論	2			△						1	講義	4	
S0228000	建築計画1	2			△						1	講義	4	
S0231000	都市地域計画	2			△						1	講義	4	
S0234000	西洋建築史	2			△						1	講義	1	
S0237000	建築環境工学2	2			△						1	講義	2,4	
S0240000	材料力学・演習	3			△						2	講義	3,4	
S0243000	建築構造計画	2			△						1	講義	3,4	
S0246000	構造材料	2			△						1	講義	4	
S0249000	色彩・素材論	2				△					1	講義	4	
S0252000	建築環境心理学	2				△					1	講義	4	
S0261000	建築スタジオ演習3	2				○					3	演習	4,5	APコースのみ
S0270000	地域マネジメント	2				△					1	講義	4	
S0273000	地域設計論	2				△					1	講義	4	
S0282000	日本建築史	2				△					1	講義	1	
S0285000	木造建築	2				△					1	講義	4	
S0288000	BIM演習1	2				△					2	演習	4	
S0291000	建築設備	2				△					1	講義	4	
S0294000	建築構造解析・演習	3				△					2	講義	3,4	
S0297000	仕上げ材料	2				△					1	講義	4	
S0300000	建築エネルギー計画	2				△					1	講義	4	
S0410000	空調システム計画	2					△				1	講義	4	
S0413000	都市環境設備計画	2					△				1	講義	2,4	
S0422000	建築スタジオ演習4A	1					△				3	演習	4,5	APコースのみ
S0422500	建築スタジオ演習4B	1					△				3	演習	4,5	APコースのみ
S0428000	空間情報デザイン演習	2					△				2	演習	4,5	APコースのみ
S0431000	近代建築と技術	2					△				1	講義	1,4	
S0434000	近代建築作家論	2					△				1	講義	1,4	
S0438000	ユニバーサル施設計画論	2					△				1	講義	4	
S0440000	建築法規	2					△				1	講義	2,4	
S0443000	都市住宅論	2					△				1	講義	4	
S0446000	都市デザイン論	2					△				1	講義	4	
S0539000	建築文化史	2					△				1	講義	1	
S0452000	建築生産	2					△				1	講義	4	
S0455000	建築プロジェクトマネジメント	2					△				1	講義	4	
S0458000	BIM演習2	2					△				2	演習	4	
S0461000	建築構工法1	2					△				1	講義	4	
S0466999 S0467000	鉄筋コンクリート造の設計1	2					△				1	講義	3,4	
S0469999 S0470000	鋼構造の設計	2					△				1	講義	3,4	
S0473000	建築環境実験	2					△				3	実験	8,9	
S0476000	建築材料施工実験	2					△				3	実験	8,9	
S0479000	建築構造実験	2					△				3	実験	8,9	
S0482000	建築材料構造実験	2					△				3	実験	8,9	
S0485000	プロジェクトゼミ	2						○			2	実習	3,4,5,7,8,9	
S0488000	建築英語	2						△			1	講義	6	
S0491000	GIS演習	2						△			2	演習	4	
S0494000	建築音響計画	2						△			1	講義	4	
S0497000	給排水システム計画	2						△			1	講義	4	
S0500000	光環境計画	2						△			1	講義	4	

授　業　科　目

建築学部

【建築学科 APコース　専門科目群】

◎ 必修科目　　○ コース必修

1 選択必修科目（1群）　　2 選択必修科目（2群）　　△ 選択科目

科目番号	科目名称	単位数	1年次		2年次		3年次		4年次		週コマ数	授業形態	学修・教育到達目標	備考
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
S0503000	基礎構造	2						△			1	講義	3,4	
S0506000	鉄筋コンクリート造の設計2	2						△			1	講義	3,4	
S0509000	マトリックス構造解析	2						△			1	講義	3,4	
S0463999 S0464000	建築振動解析	2						△			1	講義	3,4	
S0512000	建築防災	2						△			1	講義	2,4	
S0515000	維持保全・改修	2						△			1	講義	2,4	
S0521000	ランドスケープ論	2						△			1	講義	4	
S0524000	建築計画2	2						△			1	講義	4	
S0528000	建築保全再生計画	2						△			1	講義	2,4	
S0530000	建築・都市法規	2						△			1	講義	2,4	
S0533000	都市再生マネジメント	2						△			1	講義	4	
S0536000	都市防災計画	2						△			1	講義	2,4	
S0542000	近代建築史	2						△			1	講義	1	
S0545000	施工計画・管理	2						△			1	講義	4	
S0548000	建築経済	2						△			1	講義	4	
S0551000	木造建築の設計	2						△			1	講義	4	
S0554000	建築構工法2	2						△			1	講義	4	
S0557000	建築環境学	2						△			1	講義	4	
S0610000	建築家職能論	2							△		1	講義	2,4	
S0613000	卒業研究1	2							◎	◎	2	実習	1,2,3,4,5,6,7,8,9	
S0616000	卒業研究2	2							◎	◎	2	実習	1,2,3,4,5,6,7,8,9	
S0810000	国際ワークショップ1A	1	2（不定）								1	実習	6,7,8,9	集中
S0810100	国際ワークショップ2A	1	2（不定）								1	実習	6,7,8,9	集中
S0810200	国際ワークショップ3A	1	2（不定）								1	実習	6,7,8,9	集中
S0810300	国際ワークショップ4A	1	2（不定）								1	実習	6,7,8,9	集中
S0813000	国際ワークショップ1B	1	2（不定）								1	実習	6,7,8,9	集中
S0813100	国際ワークショップ2B	1	2（不定）								1	実習	6,7,8,9	集中
S0813200	国際ワークショップ3B	1	2（不定）								1	実習	6,7,8,9	集中
S0813300	国際ワークショップ4B	1	2（不定）								1	実習	6,7,8,9	集中
S0816000	インターンシップ1	1					△（不定）				1	実習	6,7,8,9	集中
S0819000	インターンシップ2	1					△（不定）				1	実習	6,7,8,9	集中
S0822000	海外建築研修	2				2					2	実習	6,7,9	集中
S0825000	国内プロジェクト1	1	1（不定）								1	実習	8,9	集中 APコースのみ
S0828000	国内プロジェクト2	1	1（不定）								1	実習	8,9	集中 APコースのみ
S0831000	国内プロジェクト3	1	1（不定）								1	実習	8,9	集中 APコースのみ
S0834000	国内プロジェクト4	1	1（不定）								1	実習	8,9	集中 APコースのみ
S0853000	イタリア・ローマ建築実習Ａ	2			2（不定）						2	実習	6,7,9	集中 APコースのみ
S0854000	イタリア・ローマ建築実習Ｂ	2			2（不定）						2	実習	6,7,9	集中 APコースのみ
S0837000	韓国建築実習A	2					2（不定）				2	実習	6,7,9	集中
S0840000	韓国建築実習B	2					2（不定）				2	実習	6,7,9	集中
S0843000	フランス建築実習A	2					2（不定）				2	実習	6,7,9	集中
S0846000	フランス建築実習B	2					2（不定）				2	実習	6,7,9	集中
S0849000	イタリア・ラクイラ建築実習Ａ	2					2（不定）				2	実習	6,7,9	集中
S0852000	イタリア・ラクイラ建築実習Ｂ	2					2（不定）				2	実習	6,7,9	集中
S0855000	ロシア建築実習A	2					2（不定）				2	実習	6,7,9	集中 APコースのみ
S0858000	ロシア建築実習B	2					2（不定）				2	実習	6,7,9	集中 APコースのみ
S0861000	プロジェクト研究1	2			△						1	講義	7,8,9	集中 APコースのみ
S0864000	プロジェクト研究2	2				△					1	講義	7,8,9	集中 APコースのみ

授　業　科　目

建築学部

【建築学科 APコース　専門科目群】

◎ 必修科目　　○ コース必修

1 選択必修科目（１群）　　2 選択必修科目（2群）　　△ 選択科目

科目番号	科目名称	単位数	1年次		2年次		3年次		4年次		週コマ数	授業形態	学修・教育到達目標	備考
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
S0867000	プロジェクト研究3	2			△						1	講義	7,8,9	集中 APコースのみ
S0871000	国内ワークショップ1	1	△（不定）								1	実習	8,9	集中
S0872000	国内ワークショップ2	1	△（不定）								1	実習	8,9	集中
S0873000	国内ワークショップ3	1	△（不定）								1	実習	8,9	集中
S0874000	国内ワークショップ4	1	△（不定）								1	実習	8,9	集中

授　業　科　目

建築学部

【建築学科 SAコース　専門科目群】

◎ 必修科目　　○ コース必修

3 選択必修科目（3群）　　△ 選択科目

科目番号	科目名称	単位数	1年次		2年次		3年次		4年次		週コマ数	授業形態	学修・教育到達目標	備考
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
S0010001	建築デザイン基礎1	2	◎								3	演習	4	
S0013001	建築デザイン入門	2	△								1	講義	2,4	
S0016001	居住空間史	2	△								1	講義	1	
S0022000	デザイン史	2		△							1	講義	1	
S0025001	建築デザイン基礎2	2		◎							3	演習	4	
S0028001	空間建築デザイン演習1	2		△							2	演習	4,5	SAコースのみ
S0037001	建築の形態と空間	2		△							1	講義	4	
S0043001	建築環境工学1	2		◎							1	講義	2,4	
S0046001	構造力学・演習	3		◎							2	講義	3,4	
S0049001	建築計画	2		△							1	講義	4	
S0210000	住生活論	2			△						1	講義	1	
S0213001	空間建築デザイン演習2	2			○						3	演習	4,5	SAコースのみ
S0222001	CAD・CG演習	2			△						2	演習	4	
S0225001	建築設計計画論	2			△						1	講義	4	
S0231001	都市地域計画	2			△						1	講義	4	
S0234001	西洋建築史	2			△						1	講義	1	
S0237001	建築環境工学2	2			△						1	講義	2,4	
S0240001	材料力学・演習	3			△						2	講義	3,4	
S0243001	建築構造計画	2			△						1	講義	3,4	
S0246001	構造材料	2			△						1	講義	4	
S0249000	色彩・素材論	2				△					1	講義	4	
S0252000	建築環境心理学	2				△					1	講義	4	
S0255001	空間建築デザイン演習3	2				○					3	演習	4,5	SAコースのみ
S0267001	建築設計論	2				△					1	講義	4	SAコースのみ
S0273001	地域設計論	2				△					1	講義	4	
S0279001	建築構法	2				△					1	講義	4	SAコースのみ
S0282001	日本建築史	2				△					1	講義	1	
S0288001	BIM演習1	2				△					2	演習	4	
S0291001	建築設備	2				△					1	講義	4	
S0294001	建築構造解析・演習	3				△					2	講義	3,4	
S0297001	仕上げ材料	2				△					1	講義	4	
S0300001	建築エネルギー計画	2				△					1	講義	4	
S0410001	空調システム計画	2					△				1	講義	4	
S0413000	都市環境設備計画	2					△				1	講義	2,4	
S0416001	空間建築デザイン演習4A	1					△				3	演習	4,5	SAコースのみ
S0416501	空間建築デザイン演習4B	1					△				3	演習	4,5	SAコースのみ
S0518001	空間地域デザイン演習	1					△				3	演習	4,5	SAコースのみ
S0431001	近代建築と技術	2					△				1	講義	1,4	
S0438001	ユニバーサル施設計画論	2					△				1	講義	4	
S0440001	建築法規	2					△				1	講義	2,4	
S0443001	都市住宅論	2					△				1	講義	4	
S0539001	建築文化史	2					△				1	講義	1	
S0452001	建築生産	2					△				1	講義	4	
S0458001	BIM演習2	2					△				2	演習	4	
S0467001	鉄筋コンクリート造の設計1	2					△				1	講義	3,4	
S0470001	鋼構造の設計	2					△				1	講義	3,4	
S0473001	建築環境実験	2					3				3	実験	8,9	
S0476001	建築材料施工実験	2					3				3	実験	8,9	
S0479001	建築構造実験	2					3				3	実験	8,9	
S0485001	プロジェクトゼミ	2						○			2	実習	3,4,5,7,8,9	
S0488000	建築英語	2						△			1	講義	6	
S0491000	GIS演習	2						△			2	演習	4	
S0494000	建築音響計画	2						△			1	講義	4	
S0497000	給排水システム計画	2						△			1	講義	4	
S0500000	光環境計画	2						△			1	講義	4	
S0503000	基礎構造	2						△			1	講義	3,4	
S0506000	鉄筋コンクリート造の設計2	2						△			1	講義	3,4	
S0509000	マトリックス構造解析	2						△			1	講義	3,4	
S0464001	建築振動解析	2						△			1	講義	3,4	
S0512000	建築防災	2						△			1	講義	2,4	
S0515000	維持保全・改修	2						△			1	講義	2,4	
S0521001	ランドスケープ論	2						△			1	講義	4	
S0542001	近代建築史	2						△			1	講義	1	
S0545001	施工計画・管理	2						△			1	講義	4	

授　業　科　目

建築学部

【建築学科 SAコース　専門科目群】

◎ 必修科目　　○ コース必修

3 選択必修科目（3群）　　△ 選択科目

科目番号	科目名称	単位数	1年次		2年次		3年次		4年次		週コマ数	授業形態	学修・教育到達目標	備考
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
S0548001	建築経済	2						△			1	講義	4	
S0551001	木造建築の設計	2						△			1	講義	4	
S0557001	建築環境学	2						△			1	講義	4	
S0610001	建築家職能論	2							△		1	講義	2,4	
S0613000	卒業研究1	2							◎	◎	2	実習	1,2,3,4,5,6,7,8,9	
S0616000	卒業研究2	2							◎	◎	2	実習	1,2,3,4,5,6,7,8,9	
S0810001	国際ワークショップ1A	1	△（不定）								1	実習	6,7,8,9	集中
S0810101	国際ワークショップ2A	1	△（不定）								1	実習	6,7,8,9	集中
S0810201	国際ワークショップ3A	1	△（不定）								1	実習	6,7,8,9	集中
S0810301	国際ワークショップ4A	1	△（不定）								1	実習	6,7,8,9	集中
S0813001	国際ワークショップ1B	1	△（不定）								1	実習	6,7,8,9	集中
S0813101	国際ワークショップ2B	1	△（不定）								1	実習	6,7,8,9	集中
S0813201	国際ワークショップ3B	1	△（不定）								1	実習	6,7,8,9	集中
S0813301	国際ワークショップ4B	1	△（不定）								1	実習	6,7,8,9	集中
S0816000	インターンシップ1	1					△（不定）				1	実習	6,7,8,9	集中
S0819000	インターンシップ2	1					△（不定）				1	実習	6,7,8,9	集中
S0822001	海外建築研修	2				△					2	実習	6,7,9	集中
S0871001	国内ワークショップ1	1	△（不定）								1	実習	8,9	集中
S0872001	国内ワークショップ2	1	△（不定）								1	実習	8,9	集中
S0873001	国内ワークショップ3	1	△（不定）								1	実習	8,9	集中
S0874001	国内ワークショップ4	1	△（不定）								1	実習	8,9	集中

授　業　科　目

建築学部

【建築学科 UAコース　専門科目群】

◎ 必修科目　　○ コース必修

4 選択必修科目（4群）　　△ 選択科目

科目番号	科目名称	単位数	1年次		2年次		3年次		4年次		週コマ数	授業形態	学修・教育到達目標	備考
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
S0010002	建築デザイン基礎1	2	◎								3	演習	4	
S0013002	建築デザイン入門	2	△								1	講義	2,4	
S0016002	居住空間史	2	△								1	講義	1	
S0022000	デザイン史	2		△							1	講義	1	
S0025002	建築デザイン基礎2	2		◎							3	演習	4	
S0031002	都市建築デザイン演習1	2		△							2	演習	4,5	UAコースのみ
S0037002	建築の形態と空間	2		△							1	講義	4	
S0040002	建築ものづくり	2		△							1	講義	4	
S0043002	建築環境工学1	2		◎							1	講義	2,4	
S0046002	構造力学・演習	3		◎							2	講義	3,4	
S0210000	住生活論	2			△						1	講義	1	
S0216002	都市建築デザイン演習2	2			○						3	演習	4,5	UAコースのみ
S0222002	CAD・CG演習	2			△						2	演習	4	
S0228002	建築計画1	2			△						1	講義	4	
S0231002	都市地域計画	2			△						1	講義	4	
S0234002	西洋建築史	2			△						1	講義	1	
S0237002	建築環境工学2	2			△						1	講義	2,4	
S0240002	材料力学・演習	3			△						2	講義	3,4	
S0243002	建築構造計画	2			△						1	講義	3,4	
S0246002	構造材料	2			△						1	講義	4	
S0249000	色彩・素材論	2				△					1	講義	4	
S0252000	建築環境心理学	2				△					1	講義	4	
S0258002	都市建築デザイン演習3	2				○					3	演習	4,5	UAコースのみ
S0270002	地域マネジメント	2				△					1	講義	4	
S0282002	日本建築史	2				△					1	講義	1	
S0285002	木造建築	2				△					1	講義	4	
S0288002	BIM演習1	2				△					2	演習	4	
S0291002	建築設備	2				△					1	講義	4	
S0294002	建築構造解析・演習	3				△					2	講義	3,4	
S0297002	仕上げ材料	2				△					1	講義	4	
S0300002	建築エネルギー計画	2				△					1	講義	4	
S0539002	建築文化史	2					△				1	講義	1	
S0410002	空調システム計画	2					△				1	講義	4	
S0413000	都市環境設備計画	2					△				1	講義	2,4	
S0419002	都市建築デザイン演習4A	1					△				3	演習	4,5	UAコースのみ
S0419502	都市建築デザイン演習4B	1					△				3	演習	4,5	UAコースのみ
S0425002	都市地域デザイン演習	2					△				3	演習	4,5	UAコースのみ
S0434002	近代建築作家論	2					△				1	講義	1,4	
S0446002	都市デザイン論	2					△				1	講義	4	
S0455002	建築プロジェクトマネジメント	2					△				1	講義	4	
S0458002	BIM演習2	2					△				2	演習	4	
S0461002	建築構工法1	2					△				1	講義	4	
S0464002	建築振動解析	2						△			1	講義	3,4	
S0467002	鉄筋コンクリート造の設計1	2					△				1	講義	3,4	
S0470002	鋼構造の設計	2					△				1	講義	3,4	
S0473002	建築環境実験	2					4				3	実験	8,9	
S0482002	建築材料構造実験	2					4				3	実験	8,9	
S0485002	プロジェクトゼミ	2						○			2	実習	3,4,5,7,8,9	
S0488000	建築英語	2						△			1	講義	6	
S0491000	GIS演習	2						△			2	演習	4	
S0494000	建築音響計画	2						△			1	講義	4	
S0497000	給排水システム計画	2						△			1	講義	4	
S0500000	光環境計画	2						△			1	講義	4	
S0503000	基礎構造	2						△			1	講義	3,4	
S0506000	鉄筋コンクリート造の設計2	2						△			1	講義	3,4	
S0509000	マトリックス構造解析	2						△			1	講義	3,4	
S0512000	建築防災	2						△			1	講義	2,4	
S0515000	維持保全・改修	2						△			1	講義	2,4	
S0521002	ランドスケープ論	2						△			1	講義	4	
S0524002	建築計画2	2						△			1	講義	4	
S0528002	建築保全再生計画	2						△			1	講義	2,4	
S0530002	建築・都市法規	2						△			1	講義	2,4	
S0533002	都市再生マネジメント	2						△			1	講義	4	
S0536002	都市防災計画	2						△			1	講義	2,4	

授　業　科　目

建築学部

【建築学科 UAコース　専門科目群】

◎ 必修科目　　○ コース必修

4 選択必修科目（4群）　　△ 選択科目

科目番号	科目名称	単位数	1年次		2年次		3年次		4年次		週コマ数	授業形態	学修・教育到達目標	備考
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
S0542002	近代建築史	2						△			1	講義	1	
S0545002	施工計画・管理	2						△			1	講義	4	
S0548002	建築経済	2						△			1	講義	4	
S0554002	建築構工法2	2						△			1	講義	4	
S0557002	建築環境学	2						△			1	講義	4	
S0613000	卒業研究1	2							◎	◎	2	実習	1,2,3,4,5,6,7,8,9	
S0616000	卒業研究2	2							◎	◎	2	実習	1,2,3,4,5,6,7,8,9	
S0810002	国際ワークショップ1A	1	△（不定）								1	実習	6,7,8,9	集中
S0810102	国際ワークショップ2A	1	△（不定）								1	実習	6,7,8,9	集中
S0810202	国際ワークショップ3A	1	△（不定）								1	実習	6,7,8,9	集中
S0810302	国際ワークショップ4A	1	△（不定）								1	実習	6,7,8,9	集中
S0813002	国際ワークショップ1B	1	△（不定）								1	実習	6,7,8,9	集中
S0813102	国際ワークショップ2B	1	△（不定）								1	実習	6,7,8,9	集中
S0813202	国際ワークショップ3B	1	△（不定）								1	実習	6,7,8,9	集中
S0813302	国際ワークショップ4B	1	△（不定）								1	実習	6,7,8,9	集中
S0816000	インターンシップ1	1					△（不定）				1	実習	6,7,8,9	集中
S0819000	インターンシップ2	1					△（不定）				1	実習	6,7,8,9	集中
S0822002	海外建築研修	2				△					2	実習	6,7,9	集中
S0837002	韓国建築実習A	2					△（不定）				2	実習	6,7,9	集中
S0840002	韓国建築実習B	2					△（不定）				2	実習	6,7,9	集中
S0843002	フランス建築実習A	2					△（不定）				2	実習	6,7,9	集中
S0846002	フランス建築実習B	2					△（不定）				2	実習	6,7,9	集中
S0849002	イタリア・ラクイラ建築実習Ａ	2					△（不定）				2	実習	6,7,9	集中
S0852002	イタリア・ラクイラ建築実習Ｂ	2					△（不定）				2	実習	6,7,9	集中
S0871002	国内ワークショップ1	1	△（不定）								1	実習	8,9	集中
S0872002	国内ワークショップ2	1	△（不定）								1	実習	8,9	集中
S0873002	国内ワークショップ3	1	△（不定）								1	実習	8,9	集中
S0874002	国内ワークショップ4	1	△（不定）								1	実習	8,9	集中

別表７

学部・課程・学科別卒業要件（取得単位数）

工学部卒業要件

卒業要件は原則として入学年度の学則に従う。

但し、学士・編入及び再入学者は、原則として入学する学年の卒業要件を適用する。

以下の条件を満たした学生のみが卒業することができる。

・卒業要件に含む単位を124単位以上取得していること。

・各科目系列について、少なくとも以下の表において定められている単位数を取得していること。

・累積のGPAは 2.0 以上であること

機械工学課程　基幹機械コース

科目系列			各科目系列において 最低限取得すべき単位数	（参考）必修科目の内訳
基礎・教養科目	数理基礎科目	数学科目	必修19単位を含み27単位	・線形代数1（2単位） ・線形代数2（2単位） ・微分積分1（4単位） ・微分積分2（4単位）
		物理学科目		・物理学実験（3単位） ・基礎力学（2単位）
		化学科目		・化学の基礎と実験（2単位）
	英語科目		必修4単位を含み8単位	・Reading & Writing 1（2単位） ・Listening & Speaking 1（2単位）
	情報科目		必修2単位	・データサイエンス演習（2単位）
	人文社会系教養科目		必修2単位と選択必修4単位	・技術者の倫理（2単位）
	体育健康科目		必修1単位	・スポーツ科学実技1（1単位）
	工学部共通教養科目		ー	ー
専門科目	工学部共通専門科目		必修2単位	・社会の中の工学（1単位） ・工学研究探訪1（1単位）
	自コース専門科目		必修26単位 選択必修A群から12単位 選択必修B群から12単位 を含み62単位	・材料力学1（2単位） ・流体力学1（2単位） ・熱力学1（2単位） ・振動工学1（2単位） ・機械設計製図1（3単位） ・機械設計製図2（3単位） ・卒業研究1（2単位） ・卒業研究2（2単位） ・卒業研究3（4単位） ・卒業研究4（4単位）
	他コース専門科目		ー	ー
コース外科目			ー	ー
教職科目			ー	ー
総単位数			124単位	

学部・課程・学科別卒業要件（取得単位数）

工学部卒業要件

卒業要件は原則として入学年度の学則に従う。

但し、学士・編入及び再入学者は、原則として入学する学年の卒業要件を適用する。

以下の条件を満たした学生のみが卒業することができる。

・卒業要件に含む単位を124単位以上取得していること。

・各科目系列について、少なくとも以下の表において定められている単位数を取得していること。

・累積のGPAは 2.0 以上であること

機械工学課程　先進機械コース

科目系列			各科目系列において 最低限取得すべき単位数	（参考）必修科目の内訳
基礎・教養科目	数理基礎科目	数学科目	必修19単位を含み27単位	・線形代数1（2単位） ・線形代数2（2単位） ・微分積分1（4単位） ・微分積分2（4単位）
		物理学科目		・物理学実験（3単位） ・基礎力学（2単位）
		化学科目		・化学の基礎と実験（2単位）
	英語科目		必修4単位を含み8単位	・Reading & Writing 1（2単位） ・Listening & Speaking 1（2単位）
	情報科目		必修3単位	・C言語入門（3単位）
	人文社会系教養科目		必修2単位と選択必修4単位	・技術者の倫理（2単位）
	体育健康科目		必修1単位	・スポーツ科学実技1（1単位）
	工学部共通教養科目		ー	ー
専門科目	工学部共通専門科目		必修2単位	・社会の中の工学（1単位） ・工学研究探訪1（1単位）
	自コース専門科目		必修28単位 選択必修A群から12単位 選択必修B群から4単位 を含み60単位	・先進機械基礎1（2単位） ・材料力学1（2単位） ・機械工学概論1（2単位） ・流体力学1（2単位） ・熱力学1（2単位） ・振動工学1（2単位） ・機械工学概論2（2単位） ・機械工学概論3（2単位） ・卒業研究1（2単位） ・卒業研究2（2単位） ・卒業研究3（4単位） ・卒業研究4（4単位）
	他コース専門科目		ー	ー
コース外科目			ー	ー
教職科目			ー	ー
総単位数			124単位	

学部・課程・学科別卒業要件（取得単位数）

工学部卒業要件

卒業要件は原則として入学年度の学則に従う。

但し、学士・編入及び再入学者は、原則として入学する学年の卒業要件を適用する。

以下の条件を満たした学生のみが卒業することができる。

・卒業要件に含む単位を124単位以上取得していること。

・各科目系列について、少なくとも以下の表において定められている単位数を取得していること。

・累積のGPAは 2.0 以上であること

物質化学課程　環境・物質工学コース

科目系列			各科目系列において 最低限取得すべき単位数	（参考）必修科目の内訳
基礎・教養科目	数理基礎科目	数学科目	必修2単位を含み12単位	ー
		物理学科目		ー
		化学科目		・化学実験（2単位）
	英語科目		必修4単位を含み8単位	・Reading & Writing 1（2単位） ・Listening ＆ Speaking 1（2単位）
	情報科目		1単位	ー
	人文社会系教養科目		必修2単位を含み8単位	・技術者の倫理（2単位）
	体育健康科目		必修1単位	・スポーツ科学実技1（1単位）
	工学部共通教養科目		ー	ー
専門科目	工学部共通専門科目		必修2単位	・社会の中の工学（1単位） ・工学研究探訪1（1単位）
	自コース専門科目		必修34単位 選択必修16単位 を含み70単位	・環境と化学（2単位） ・環境物質工学入門（2単位） ・熱力学（2単位） ・有機材料（2単位） ・状態図と金属組織（2単位） ・環境物質工学通論（2単位） ・生体材料化学（2単位） ・環境物質科学実験1（2単位） ・環境物質科学実験2（2単位） ・環境物質工学実験1（2単位） ・環境物質工学実験2（2単位） ・卒業研究1（2単位） ・卒業研究2（2単位） ・卒業研究3（4単位） ・卒業研究4（4単位）
	他コース専門科目		ー	ー
コース外科目			ー	ー
教職科目			ー	ー
総単位数			124単位	

学部・課程・学科別卒業要件（取得単位数）

工学部卒業要件

卒業要件は原則として入学年度の学則に従う。

但し、学士・編入及び再入学者は、原則として入学する学年の卒業要件を適用する。

以下の条件を満たした学生のみが卒業することができる。

・卒業要件に含む単位を124単位以上取得していること。

・各科目系列について、少なくとも以下の表において定められている単位数を取得していること。

・累積のGPAは 2.0 以上であること

物質化学課程　化学・生命工学コース

科目系列			各科目系列において 最低限取得すべき単位数	（参考）必修科目の内訳
基礎・教養科目	数理基礎科目	数学科目	8単位	ー
		物理学科目		ー
		化学科目	必修2単位	・化学実験（2単位）
	英語科目		必修4単位を含み10単位	・Reading & Writing 1（2単位） ・Listening & Speaking 1（2単位）
	情報科目		ー	ー
	人文社会系教養科目		必修2単位を含み8単位	・技術者の倫理（2単位）
	体育健康科目		必修1単位	・スポーツ科学実技1（1単位）
	工学部共通教養科目		ー	ー
専門科目	工学部共通専門科目		必修2単位	・社会の中の工学（1単位） ・工学研究探訪1（1単位）
	自コース専門科目		必修28単位 選択必修A群から8単位 選択必修B群から6単位 選択必修C群から6単位 を含み64単位	・工業化学概論（2単位） ・生物化学実験（2単位） ・分析化学実験（2単位） ・物理化学実験（2単位） ・化学工学実験（3単位） ・有機化学実験（3単位） ・化学工業総論（2単位） ・卒業研究1（2単位） ・卒業研究2（2単位） ・卒業研究3（4単位） ・卒業研究4（4単位）
	他コース専門科目		ー	ー
コース外科目			ー	ー
教職科目			ー	ー
総単位数			124単位	

学部・課程・学科別卒業要件（取得単位数）

工学部卒業要件

卒業要件は原則として入学年度の学則に従う。

但し、学士・編入及び再入学者は、原則として入学する学年の卒業要件を適用する。

以下の条件を満たした学生のみが卒業することができる。

・卒業要件に含む単位を124単位以上取得していること。

・各科目系列について、少なくとも以下の表において定められている単位数を取得していること。

・累積のGPAは 2.0 以上であること

電気電子工学課程　電気・ロボット工学コース

科目系列			各科目系列において 最低限取得すべき単位数	（参考）必修科目の内訳
基礎・教養科目	数理基礎科目	数学科目	必修14単位と選択必修2単位を含み20単位	・線形代数1（2単位） ・線形代数2（2単位） ・微分積分1（4単位） ・微分積分2（4単位） ・微分方程式（2単位）
		物理学科目		ー
		化学科目		ー
	英語科目		必修4単位を含み10単位	・Reading & Writing 1（2単位） ・Listening & Speaking 1（2単位）
	情報科目		必修6単位	・C言語入門（3単位） ・データサイエンス（3単位）
	人文社会系教養科目		必修4単位	・技術者の倫理（2単位） ・人間社会と環境問題（2単位）
	体育健康科目		必修1単位	・スポーツ科学実技1（1単位）
	工学部共通教養科目		ー	ー
専門科目	工学部共通専門科目		必修2単位	・社会の中の工学（1単位） ・工学研究探訪1（1単位）
	自コース専門科目		必修31単位 選択必修20単位 を含み66単位	・電気回路1A（2単位） ・電気回路1B（2単位） ・電気磁気学1A（2単位） ・電気磁気学1B（2単位） ・基礎実験1（1単位） ・基礎実験2（3単位） ・電気･ロボット工学研究概論（1単位） ・応用実験1（2単位） ・電気工学技術英語（2単位） ・応用実験2（2単位） ・卒業研究1（2単位） ・卒業研究2（2単位） ・卒業研究3（4単位） ・卒業研究4（4単位）
	他コース専門科目		ー	ー
コース外科目			ー	ー
教職科目			ー	ー
総単位数			124単位	

学部・課程・学科別卒業要件（取得単位数）

工学部卒業要件

卒業要件は原則として入学年度の学則に従う。

但し、学士・編入及び再入学者は、原則として入学する学年の卒業要件を適用する。

以下の条件を満たした学生のみが卒業することができる。

・卒業要件に含む単位を124単位以上取得していること。

・各科目系列について、少なくとも以下の表において定められている単位数を取得していること。

・累積のGPAは 2.0 以上であること

電気電子工学課程　先端電子工学コース

科目系列			各科目系列において 最低限取得すべき単位数	（参考）必修科目の内訳
基礎・教養科目	数理基礎科目	数学科目	6単位	―
		物理学科目	必修3単位を含み7単位	・物理学実験（3単位）
		化学科目	必修２単位を含み４単位	・化学実験（2単位）
	英語科目		必修4単位を含み 8 単位	・Reading & Writing 1（2単位） ・Listening & Speaking 1（2単位）
	情報科目		4単位	―
	人文社会系教養科目		8単位	―
	体育健康科目		必修1単位	・スポーツ科学実技1（1単位）
	工学部共通教養科目		―	―
専門科目	工学部共通専門科目		必修2単位	・社会の中の工学（1単位） ・工学研究探訪1（1単位）
	自コース専門科目		必修34単位 選択必修32単位 を含み70単位	・電気数学1（2単位） ・電気回路1（2単位） ・電気数学2（2単位） ・電気回路2（2単位） ・電磁気学1（2単位） ・電気回路3（2単位） ・電磁気学2（2単位） ・電磁気学3（2単位） ・電子工学基礎実験（2単位） ・先端技術1（2単位） ・電子工学倫理（2単位） ・卒業研究1（2単位） ・卒業研究2（2単位） ・卒業研究3（4単位） ・卒業研究4（4単位）
	他コース専門科目		―	―
コース外科目			―	―
教職科目			―	―
総単位数			124単位	

学部・課程・学科別卒業要件（取得単位数）

工学部卒業要件

卒業要件は原則として入学年度の学則に従う。

但し、学士・編入及び再入学者は、原則として入学する学年の卒業要件を適用する。

以下の条件を満たした学生のみが卒業することができる。

・卒業要件に含む単位を124単位以上取得していること。

・各科目系列について、少なくとも以下の表において定められている単位数を取得していること。

・累積のGPAは 2.0 以上であること

情報・通信工学課程　情報通信コース

科目系列			各科目系列において 最低限取得すべき単位数	（参考）必修科目の内訳
基礎・教養科目	数理基礎科目	数学科目	必修19単位	・線形代数1（2単位） ・線形代数2（2単位） ・微分積分1（4単位） ・微分積分2（4単位）
		物理学科目		・物理学入門（4単位） ・物理学実験（3単位）
		化学科目		ー
	英語科目		必修4単位を含み6単位	・Reading & Writing 1（2単位） ・Listening & Speaking 1（2単位）
	情報科目		ー	ー
	人文社会系教養科目		必修2単位を含み6単位	・技術者の倫理（2単位）
	体育健康科目		必修1単位	・スポーツ科学実技1（1単位）
	工学部共通教養科目		ー	ー
専門科目	工学部共通専門科目		必修2単位	・社会の中の工学（1単位） ・工学研究探訪1（1単位）
	自コース専門科目		必修26単位 を含み64単位	・情報通信ソフトウェア演習A（1単位） ・情報通信ハードウェア実験A（1単位） ・情報通信ソフトウェア演習B（1単位） ・情報通信ハードウェア実験B（1単位） ・情報通信ソフトウェア演習C（1単位） ・情報通信ハードウェア実験C（1単位） ・情報通信ソフトウェア演習D（1単位） ・情報通信ハードウェア実験D（1単位） ・情報通信応用実験Ａ（3単位） ・情報通信応用実験Ｂ（3単位） ・卒業研究1（2単位） ・卒業研究2（2単位） ・卒業研究3（4単位） ・卒業研究4（4単位）
	他コース専門科目		ー	ー
コース外科目			ー	ー
教職科目			ー	ー
総単位数			124単位	

学部・課程・学科別卒業要件（取得単位数）

工学部卒業要件

卒業要件は原則として入学年度の学則に従う。

但し、学士・編入及び再入学者は、原則として入学する学年の卒業要件を適用する。

以下の条件を満たした学生のみが卒業することができる。

・卒業要件に含む単位を124単位以上取得していること。

・各科目系列について、少なくとも以下の表において定められている単位数を取得していること。

・累積のGPAは 2.0 以上であること

情報・通信工学課程　情報工学コース

科目系列			各科目系列において最低限取得すべき単位数	（参考）必修科目の内訳
基礎・教養科目	数理基礎科目	数学科目	必修14単位	・線形代数1（2単位） ・微分積分1（4単位） ・確率と統計1（2単位）
		物理学科目		・物理学入門（4単位）
		化学科目		・基礎化学（2単位）
	英語科目		必修4単位を含み10単位	・Reading & Writing 1（2単位） ・Listening & Speaking 1（2単位）
	情報科目		―	―
	人文社会系教養科目		6単位	―
	体育健康科目		必修1単位	・スポーツ科学実技1（1単位）
	工学部共通教養科目		―	―
専門科目	工学部共通専門科目		必修2単位	・社会の中の工学（1単位） ・工学研究探訪1（1単位）
	自コース専門科目		必修34単位 選択必修6単位 を含み66単位	・コンピュータ科学序説（2単位） ・離散数学1（2単位） ・プログラミング入門1（2単位） ・情報工学通論（2単位） ・プログラミング入門2（2単位） ・コンピュータアーキテクチャ（2単位） ・データ構造とアルゴリズム1（2単位） ・基礎情報演習1Ａ（2単位） ・基礎情報演習1Ｂ（2単位） ・基礎情報演習2Ａ（2単位） ・基礎情報演習2Ｂ（2単位） ・卒業研究1（2単位） ・卒業研究2（2単位） ・卒業研究3（4単位） ・卒業研究4（4単位）
	他コース専門科目		―	―
コース外科目			―	―
教職科目			―	―
総単位数			124単位	

学部・課程・学科別卒業要件（取得単位数）

工学部卒業要件

卒業要件は原則として入学年度の学則に従う。

但し、学士・編入及び再入学者は、原則として入学する学年の卒業要件を適用する。

以下の条件を満たした学生のみが卒業することができる。

・卒業要件に含む単位を124単位以上取得していること。

・各科目系列について、少なくとも以下の表において定められている単位数を取得していること。

・累積のGPAは 2.0 以上であること

土木工学課程　都市・環境コース

科目系列			各科目系列において 最低限取得すべき単位数	（参考）必修科目の内訳
基礎・教養科目	数理基礎科目	数学科目	必修10単位を含み12単位	・線形代数1（2単位） ・線形代数2（2単位） ・微分積分1（4単位）
		物理学科目		ー
		化学科目		・基礎環境化学（2単位）
	英語科目		必修4 単位を含み8単位	・Reading & Writing 1（2単位） ・Listening & Speaking 1（2単位）
	情報科目		3単位	ー
	人文社会系教養科目		必修4単位を含み8単位	・技術者の倫理（2単位） ・土木と経済学（2単位）
	体育健康科目		必修1単位	・スポーツ科学実技1（1単位）
	工学部共通教養科目		ー	ー
専門科目	工学部共通専門科目		必修2単位	・社会の中の工学（1単位） ・工学研究探訪1（1単位）
	自コース専門科目		必修42単位を含み78単位	・導入ゼミナール（1単位） ・環境の科学（2単位） ・土木数学1（2単位） ・土木情報処理（2単位） ・地盤工学1（2単位） ・土木の力学（2単位） ・マテリアルデザイン（2単位） ・流れの力学（2単位） ・地盤工学2（2単位） ・都市計画（2単位） ・土木工学総合講義（2単位） ・水理学（2単位） ・材料実験（1単位） ・土質実験（1単位） ・水理実験（1単位） ・地盤工学演習（1単位） ・土木応用実験（1単位） ・土木キャリアセミナー（1単位） ・土木設計演習（1単位） ・卒業研究1（2単位） ・卒業研究2（2単位） ・卒業研究3（4単位） ・卒業研究4（4単位）
	他コース専門科目		ー	ー
コース外科目			ー	ー
教職科目			ー	ー
総単位数			124単位	

学部・課程・学科別卒業要件（取得単位数）

工学部卒業要件

卒業要件は原則として入学年度の学則に従う。
但し、学士・編入及び再入学者は、原則として入学する学年の卒業要件を適用する。
以下の条件を満たした学生のみが卒業することができる。
・卒業要件に含む単位を124単位以上取得していること。
・各科目系列について、少なくとも以下の表において定められている単位数を取得していること。
・累積のGPAは 2.0 以上であること

先進国際課程

<table>
<tr><td rowspan="3">専門
科目群</td><td>先端工学研究科目</td><td>必修　６４単位</td></tr>
<tr><td>先端工学概論科目</td><td>選択　６単位以上</td></tr>
<tr><td>専門科目</td><td>選択　６単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="2">数理基礎
科目・
情報科目</td><td>数理基礎科目</td><td rowspan="2">選択　６単位以上</td></tr>
<tr><td>情報科目</td></tr>
<tr><td rowspan="2">教養
科目</td><td>人文社会系教養科目</td><td rowspan="2">必修　１単位
６単位以上</td></tr>
<tr><td>体育・健康科目</td></tr>
<tr><td colspan="2">総単位</td><td>１２４単位</td></tr>
</table>

システム理工学部卒業要件

卒業要件の総取得単位数は１２４単位以上

<table>
<tr><td colspan="2">全学共通科目</td><td>電子情報システム学科
機械制御システム学科
環境システム学科
数理科学科</td><td colspan="2"></td><td rowspan="16">専門科目以外単位数</td><td rowspan="16">電子情報システム学科
６０単位以上

機械制御システム学科
６０単位以上

環境システム学科５０
単位以上

数理科学科
５４単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="15">共通科目</td><td>教職科目</td><td></td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="3">総合科目</td><td>エンジニア・リテラシー科目、社会科学系科目</td><td rowspan="3">電子情報システム学科
機械制御システム学科
環境システム学科
数理科学科</td><td>必修１単位　計５単位以上</td><td rowspan="2">１２単位以上</td></tr>
<tr><td>人文科学系科目、保健・体育系科目、第2外国語科目</td><td>６単位以上
（体育実技２単位迄 ）</td></tr>
<tr><td>英語科目</td><td colspan="2">８単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="5">基礎科目</td><td>電子情報システム学科</td><td colspan="2">必修１０単位　計１６単位以上</td></tr>
<tr><td>機械制御システム学科</td><td colspan="2">必修１２単位　計１８単位以上</td></tr>
<tr><td>環境システム学科</td><td colspan="2">必修４単位　計１０単位以上</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>数理科学科</td><td colspan="2">必修１４単位　計１６単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="5">システム・情報科目</td><td>電子情報システム学科</td><td colspan="2">必修１２単位　計１８単位以上</td></tr>
<tr><td>機械制御システム学科</td><td colspan="2">必修１２単位　計１８単位以上</td></tr>
<tr><td>環境システム学科</td><td colspan="2">必修１２単位　計１８単位以上</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">必修１２単位　計１６単位以上</td></tr>
<tr><td>数理科学科</td><td colspan="2">必修１２単位　計１６単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="5">専門科目</td><td>電子情報システム学科</td><td colspan="3">必修２１単位　計６０単位以上</td></tr>
<tr><td>機械制御システム学科</td><td colspan="3">必修３０単位　計５８単位以上</td></tr>
<tr><td>環境システム学科</td><td colspan="3">必修２２単位　計７０単位以上</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>数理科学科</td><td colspan="3">必修１８単位　計５８単位以上</td></tr>
</table>

システム理工学部　生命科学課程　卒業要件

卒業要件の総取得単位数は124単位以上

<table>
<tr><th colspan="2">科目系列</th><th>生命科学
課程</th><th>総単位数</th></tr>
<tr><td rowspan="4">学際科目</td><td>SDGs・キャリアデザイン
システム工学
アントレプレナーシップ</td><td>13単位以上</td><td rowspan="8">124単位
以上</td></tr>
<tr><td rowspan="3">基礎教養科目</td><td>理数・情報</td><td>10単位以上</td></tr>
<tr><td>社会科学
人文科学
保健体育</td><td>６単位以上</td></tr>
<tr><td>英語</td><td>８単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">(小計)単位数</td><td>48単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="3">専門科目</td><td>主専攻</td><td rowspan="2">主専攻５モジュールまたは主専攻４モジュール+副専攻１モジュール</td></tr>
<tr><td>副専攻</td></tr>
<tr><td colspan="2">(小計)単位数</td><td>60単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">専門科目</td><td>総合研究</td><td>12単位以上</td></tr>
</table>

モジュールとはある職能上で必要な知識と技術を修得するために必要な科目12単位以上のまとまりである

デザイン工学部卒業要件

卒業要件は原則として入学年度の学則に従う。
但し、学士・編入及び再入学者は、原則として入学する学年の卒業要件を適用する。

卒業要件の総取得単位数は１２４単位以上、ＧＰＡは２．０以上

<table>
<tr><td colspan="2">全学共通科目</td><td rowspan="2">１０単位以上</td><td rowspan="3">２２単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="2">共通教養科目</td><td>英語を除く共通教養科目</td></tr>
<tr><td>英語科目</td><td>８単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">データ・サイエンス科目</td><td>必修　６単位</td><td rowspan="3">必修　１４単位
選択必修　４単位
選択６４単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">デザイン科目</td><td>必修　８単位</td></tr>
<tr><td colspan="2">エンジニアリング科目</td><td>選択必修　４単位</td></tr>
<tr><td colspan="2">プロジェクト科目</td><td colspan="2">必修　１４単位
選択　　６単位</td></tr>
<tr><td colspan="2">総単位数</td><td colspan="2">１２４単位以上</td></tr>
</table>

建築学部卒業要件

卒業要件は原則として入学年度の学則に従う。
但し、学士・編入及び再入学者は、原則として入学する学年の卒業要件を適用する。
以下の卒業要件を満たし、かつGPAは、2.0以上であること。
卒業要件の総取得単位数は124単位以上

<table>
<tr><td>基礎・教養科目群</td><td colspan="3">基礎・教養科目群から３２単位以上
１．数理基礎科目
必修科目　１単位　を含み「数学科目」・「理科科目」から９単位以上を取得すること。
２．外国語科目
「英語科目」から８単位以上を取得すること。
３．人文社会・情報系教養科目
「人文社会・情報系教養科目」から１２単位以上を取得すること。
４．体育・健康科目</td></tr>
<tr><td>専門科目群</td><td>必修科目　１３単位　を含み　７２単位以上</td><td>総単位数</td><td>１２４単位以上</td></tr>
</table>

別表８

納　入　金

１．学　費　等

【工学部･システム理工学部･デザイン工学部･建築学部】

	1年次	2年次	3年次	4年次
入学金（一時金）	280,000 円			
維持料（年額）	283,000 円	283,000 円	283,000 円	283,000 円
授業料（年額）	1,199,000 円	1,199,000 円	1,299,000 円	1,299,000 円
休学在籍料（年額）	60,000 円	60,000 円	60,000 円	60,000 円

※再入学の入学金は免除する。

２．科目等履修生の学費等

(1)審査料　10,000 円　（ただし、本学卒業生は不要）
(2)入学金（一時金）　30,000 円　（ただし、本学卒業生は２分の１額）
(3)履修料（１単位につき）　15,000 円　（ただし、本学大学院生は２分の１額）
※本学大学院生が教員免許状取得を目的として必要な科目を履修する場合、履修料は不要

３．研究生の学費等

(1)検定料　35,000 円
(2)登録料　59,000 円　（ただし、本学卒業生は２分の１額）
(3)研究指導料（年額）　300,000 円　（半期　150,000円）
(4)実験実習料　実費

別表９

学　位　の　種　類

工学部

学科・課程名	学位の種類
機械工学課程	学士（工学）
物質化学課程	学士（工学）
電気電子工学課程	学士（工学）
情報・通信工学課程	学士（工学）
土木工学課程	学士（工学）
先進国際課程	学士（工学）

システム理工学部

学科名	学位の種類
電子情報システム学科	学士（工学）
機械制御システム学科	学士（工学）
環境システム学科	学士（工学）
生命科学課程	学士（生命科学）
数理科学科	学士（数理科学）

デザイン工学部

学科名	学位の種類
デザイン工学科	学士（デザイン工学）

建築学部

学科名	学位の種類
建築学科	学士（建築学）

学則の変更事項を記載した書類

【変更の事由】

芝浦工業大学システム理工学部生命科学課程設置認可に係る学則の変更

【変更箇所】

・学則条文の変更

第4条、第11条

・附則条項の追加

・学則中の別表部分の変更

別表1　収容定員

別表2-2　学部等における教育研究上の目的及び方針

別表4　システム理工学部授業科目(教職課程を含む)

別表7　学部・課程・学科別卒業要件

別表9　学位の種類

芝浦工業大学学則 新旧対照表

改定案	現行
○芝浦工業大学学則 昭和24年３月25日 制定 第1章　総則 (目的) 第1条　本学は教育基本法及び学校教育法の定めるところにより、学術の中心として深く工学の研究を行い世界文化に貢献し、併せて広く一般の学術教養と専門の工業教育を施すことにより、学生の人格を陶冶し、学理を究めさせ体位の向上を図り、もって優秀なる技術者を養成することを目的とする。 (自己点検・評価等) 第1条の2　本学は、教育研究水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表する。点検及び評価に関する必要事項は別に定める。 (認証評価) 第1条の3　本学は、第１条の２の措置に加え、学校教育法に則り、文部科学大臣の認証を受けた者による評価を受審し、その結果を公表するものとする。 (学校教育基本法施行規則第165条の２第１項に定める方針) 第1条の4　本学は、第１条の目的を踏まえた方針について、別表２―１のとおり定める。 (設置等) 第2条　本学は芝浦工業大学と称する。 第3条　本学は東京都江東区豊洲３丁目７番	○芝浦工業大学学則 昭和24年３月25日 制定 第1章　総則 (目的) 第1条　本学は教育基本法及び学校教育法の定めるところにより、学術の中心として深く工学の研究を行い世界文化に貢献し、併せて広く一般の学術教養と専門の工業教育を施すことにより、学生の人格を陶冶し、学理を究めさせ体位の向上を図り、もって優秀なる技術者を養成することを目的とする。 (自己点検・評価等) 第1条の2　本学は、教育研究水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表する。点検及び評価に関する必要事項は別に定める。 (認証評価) 第1条の3　本学は、第１条の２の措置に加え、学校教育法に則り、文部科学大臣の認証を受けた者による評価を受審し、その結果を公表するものとする。 (学校教育基本法施行規則第165条の２第１項に定める方針) 第1条の4　本学は、第１条の目的を踏まえた方針について、別表２―１のとおり定める。 (設置等) 第2条　本学は芝浦工業大学と称する。 第3条　本学は東京都江東区豊洲３丁目７番

５号に置く。	５号に置く。
(学部、課程、学科)	(学部、課程、学科)
第4条　本学に次の学部・課程・学科を置く。	第4条　本学に次の学部・課程・学科を置く。
【工学部】	【工学部】
機械工学課程	機械工学課程
物質化学課程	物質化学課程
電気電子工学課程	電気電子工学課程
情報・通信工学課程	情報・通信工学課程
土木工学課程	土木工学課程
先進国際課程	先進国際課程
【システム理工学部】	【システム理工学部】
電子情報システム学科	電子情報システム学科
機械制御システム学科	機械制御システム学科
環境システム学科	環境システム学科
生命科学課程	生命科学科
数理科学科	数理科学科
【デザイン工学部】	【デザイン工学部】
デザイン工学科	デザイン工学科
【建築学部】	【建築学部】
建築学科	建築学科
2　この学則に定めるもののほか、各学部に関する規則は別に定める。	2　この学則に定めるもののほか、各学部に関する規則は別に定める。
(大学院)	(大学院)
第5条　本学に大学院を置く。	第5条　本学に大学院を置く。
2　大学院に関する学則は、別に定める。	2　大学院に関する学則は、別に定める。
(学術情報センター)	(学術情報センター)
第6条　本学に学術情報センターを置く。	第6条　本学に学術情報センターを置く。
2　学術情報センターに関する規程は別に定める。	2　学術情報センターに関する規程は別に定める。
(研究所等)	(研究所等)
第7条　本学にSIT総合研究所を置く。	第7条　本学にSIT総合研究所を置く。
2　SIT総合研究所に関する規程は別に定める。	2　SIT総合研究所に関する規程は別に定める。
(教育イノベーション推進センター)	(教育イノベーション推進センター)
第8条　本学に教育イノベーション推進セン	第8条　本学に教育イノベーション推進セン

ターを置く。	ターを置く。
2　教育イノベーション推進センターに関する規程は別に定める。	2　教育イノベーション推進センターに関する規程は別に定める。
(収容定員)	(収容定員)
第9条　本学の収容定員は別表１のとおりとする。	第9条　本学の収容定員は別表１のとおりとする。
(学部等における教育研究上の目的及び方針)	(学部等における教育研究上の目的及び方針)
第10条　学部、課程、学科における人材養成に関する目的、その他の教育研究上の目的及び方針は、別表２―２のとおりとする。	第10条　学部、課程、学科における人材養成に関する目的、その他の教育研究上の目的及び方針は、別表２―２のとおりとする。
第2章　学部	第2章　学部
第1節　教育課程及び授業科目	第1節　教育課程及び授業科目
(教育課程の編成)	(教育課程の編成)
第11条　本学は学部等における教育研究上の目的を達成するために学位プログラムごとに教育課程を編成し、必要な授業科目を開設する。	第11条　本学は学部等における教育研究上の目的を達成するために学位プログラムごとに教育課程を編成し、必要な授業科目を開設する。
第11条の2　(削除)	
(主要授業科目)	（追加）
第11条の3　第１条の４の方針を達成すべき能力を育成するために必要な科目群を主要授業科目とする。（主要授業科目は別表３、別表４、別表５、別表６のとおりとする。）	（追加）
2　主要授業科目は、原則として基幹教員（教育課程の編成その他の学部の運営について責任を担う教員であって、当該学部の教育課程に係る主要授業科目を担当する者（専任教員に限る）、又は1年につき8単位以上の当該学部の教育課程に係る授業科目を担当する者）が担当する。	（追加）
3　主要授業科目に関する必要な事項は、別に定める。	（追加）
(指導補助者)	(指導補助者)

第11条の4　本学は、各授業科目について、当該授業科目を担当する教員以外の教員、学生その他の本学が定める者　（「授業補助者」という）を補助にあたらせることができる	第11条の3　本学は、各授業科目について、当該授業科目を担当する教員以外の教員、学生その他の本学が定める者　（「授業補助者」という）を補助にあたらせることができる
(成績評価基準等の明示等) 第12条　本学は、学生に対して、授業方法、内容並びに授業計画をあらかじめ明示するものとする。 2　学修の成果に係る評価及び卒業の認定にあたっては、客観性及び厳格性を保持するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに当該基準に従って適切に行うものとする。	(成績評価基準等の明示等) 第12条　本学は、学生に対して、授業方法、内容並びに授業計画をあらかじめ明示するものとする。 2　学修の成果に係る評価及び卒業の認定にあたっては、客観性及び厳格性を保持するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに当該基準に従って適切に行うものとする。
(教育課程) 第13条　本学の教育課程は各授業科目を必修科目、選択科目、自由科目に分け、これを各年次に配当し編成する。 各学部の授業科目、単位数は別表３、別表４、別表５、別表６のとおりとし、卒業要件は別表７のとおりとする。	(教育課程) 第13条　本学の教育課程は各授業科目を必修科目、選択科目、自由科目に分け、これを各年次に配当し編成する。 各学部の授業科目、単位数は別表３、別表４、別表５、別表６のとおりとし、卒業要件は別表７のとおりとする。
(修業年限) 第14条　学部の修業年限は４年とする。ただし、８年を越えて在籍することはできない。	(修業年限) 第14条　学部の修業年限は４年とする。ただし、８年を越えて在籍することはできない。
(教育内容等改善のための組織的研修等) 第15条　本学は各学部の授業の内容及び方法の改善等を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。	(教育内容等改善のための組織的研修等) 第15条　本学は各学部の授業の内容及び方法の改善等を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。
第2節　履修及び授業科目修了認定	第2節　履修及び授業科目修了認定
(単位) 第16条　本学所定の授業科目に対する課程を修了し、正規の試験その他の本学が定める 適切な方法により学修の成果を評価して、その授業科目所定の単位を与える。	(単位) 第16条　本学所定の授業科目に対する課程を修了し、正規の試験その他の本学が定める 適切な方法により学修の成果を評価して、その授業科目所定の単位を与える。

2　各授業科目の１単位は45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学習等を考慮して、次の基準によって単位数を計算する。	2　各授業科目の１単位は45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学習等を考慮して、次の基準によって単位数を計算する。
(1)　講義及び演習については、15時間から30時間までの授業をもって１単位とする。	(1)　講義及び演習については、15時間から30時間までの授業をもって１単位とする。
(2)　実験、実習及び実技等については、30時間から45時間の授業をもって１単位とする。	(2)　実験、実習及び実技等については、30時間から45時間の授業をもって１単位とする。
(3)　前項の各規定に関わらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して単位数を定めることができる。	(3)　前項の各規定に関わらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して単位数を定めることができる。
(4)　学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、卒業の要件として学生が修得すべき単位数について、学生が１年間または１学期に履修科目として登録することができる単位数の上限を別に定める。	(4)　学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、卒業の要件として学生が修得すべき単位数について、学生が１年間または１学期に履修科目として登録することができる単位数の上限を別に定める。
(5)　所定の単位を優れた成績をもって修得した学生については、別に定めるところにより上限を超えて履修科目の登録を認めることができる。	(5)　所定の単位を優れた成績をもって修得した学生については、別に定めるところにより上限を超えて履修科目の登録を認めることができる。
(各授業科目の授業期間)	(各授業科目の授業期間)
第16条の2　各授業科目の授業は、14週にわたる期間を単位として行うものとする。ただし、教育上必要があり、かつ、十分な教育効果をあげることができると認められる場合は、この限りでない。	第16条の2　各授業科目の授業は、14週にわたる期間を単位として行うものとする。ただし、教育上必要があり、かつ、十分な教育効果をあげることができると認められる場合は、この限りでない。
(授業の方法)	(授業の方法)

第16条の3　授業は講義、演習、実験、実習もしくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。	第16条の3　授業は講義、演習、実験、実習もしくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。
2　本学は前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。	2　本学は前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。
3　本学は本条第１項の授業を外国において履修することができる。また、前項の規定により多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても同様とする。	3　本学は本条第１項の授業を外国において履修することができる。また、前項の規定により多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても同様とする。
4　本学は本条第1項の授業を校舎及び附属施設以外の場所で行うことができる。	4　本学は本条第1項の授業を校舎及び附属施設以外の場所で行うことができる。
(学外単位等認定及び入学前の既修得単位等認定)	(学外単位等認定及び入学前の既修得単位等認定)
第17条　本学学生が本学在籍中に外国を含む他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位は、60単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。	第17条　本学学生が本学在籍中に外国を含む他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位は、60単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
2　本学学生が本学入学前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を認めることができる。	2　本学学生が本学入学前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を認めることができる。
3　前項により修得したものとみなし、又は認めることのできる単位数は、編入学、転学等の場合を除き、第１項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。	3　前項により修得したものとみなし、又は認めることのできる単位数は、編入学、転学等の場合を除き、第１項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。
4　本学に学士入学又は編入学を許可された者は、別に定めるところにより既修得単位の認定をうけることができる。	4　本学に学士入学又は編入学を許可された者は、別に定めるところにより既修得単位の認定をうけることができる。
5　本学に再入学した者は、別に定めるところにより既修得単位の認定をうけること	5　本学に再入学した者は、別に定めるところにより既修得単位の認定をうけること

ができる。	ができる。
6　本条第１項から前項で認定された単位は、本学で開講されている授業科目に振替えることができる。	6　本条第１項から前項で認定された単位は、本学で開講されている授業科目に振替えることができる。
(教育職員の免許状)	(教育職員の免許状)
第18条　教員の免許状授与の所要資格を取得しようとする者は、教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則に定める所要の単位を取得しなければならない。	第18条　教員の免許状授与の所要資格を取得しようとする者は、教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則に定める所要の単位を取得しなければならない。
2　本学の課程・学科において当該所要資格を取得できる教員免許状の種類・専門科目及び単位数は別表３、別表４、別表５に掲げるとおりとする。	2　本学の課程・学科において当該所要資格を取得できる教員免許状の種類・専門科目及び単位数は別表３、別表４、別表５に掲げるとおりとする。
(授業科目の修了認定)	(授業科目の修了認定)
第19条　授業科目履修修了の認定は試験等による。	第19条　授業科目履修修了の認定は試験等による。
(成績評価)	(成績評価)
第20条　成績評価はS・A・B・C・D・Fとし、C以上を合格とする。	第20条　成績評価はS・A・B・C・D・Fとし、C以上を合格とする。
第3節　卒業及び学位の授与	第3節　卒業及び学位の授与
(卒業認定)	(卒業認定)
第21条　別表７に定める所定の単位を取得した者につき、教授会の議を経て学長が認定する。	第21条　別表７に定める所定の単位を取得した者につき、教授会の議を経て学長が認定する。
2　卒業の要件として修得すべき単位のうち、第16条の３第２項の授業の方法により修得する単位数は60単位を超えないものとする。	2　卒業の要件として修得すべき単位のうち、第16条の３第２項の授業の方法により修得する単位数は60単位を超えないものとする。
(学位)	(学位)
第22条　本学を卒業した者には別表９に定める学位を授与する。	第22条　本学を卒業した者には別表９に定める学位を授与する。
第4節　入学、退学、休学及び転学	第4節　入学、退学、休学及び転学
(入学時期)	(入学時期)
第23条　入学の時期は、４月又は10月とする。	第23条　入学の時期は、４月又は10月とする。
(入学資格)	(入学資格)

第24条　本学に入学することのできる者は、次の各号の一つに該当する者でなければならない。

(1)　高等学校、若しくは中等教育学校を卒業した者

(2)　通常の課程による12年の学校教育を修了した者(通常の課程以外の課程により、これに相当する学校を修了したと文部科学大臣が認めた者を含む。)

(3)　文部科学大臣が指定した者

(4)　高等学校卒業程度認定試験規則により高等学校卒業程度認定試験に合格した者(大学入学資格検定規程による大学入学資格検定に合格した者を含む)

(5)　外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣が指定した者

(6)　文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

(7)　本学が、相当の年齢に達し高等学校、若しくは中等教育学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

(入学許可)

第25条　前条の者のうち本学が行う選考に合格した者につき、教授会の議を経て学長が入学を許可する。

(学士入学)

第26条　大学を卒業した者及びこれと同等以上の資格を有する者で、本学に入学すること(学士入学と称する。)を希望する者があるときは、別に定めるところにより教授会の議を経て入学を許可することができる。

(編入学)

第27条　本学の各学部に編入学を志願する

第24条　本学に入学することのできる者は、次の各号の一つに該当する者でなければならない。

(1)　高等学校、若しくは中等教育学校を卒業した者

(2)　通常の課程による12年の学校教育を修了した者(通常の課程以外の課程により、これに相当する学校を修了したと文部科学大臣が認めた者を含む。)

(3)　文部科学大臣が指定した者

(4)　高等学校卒業程度認定試験規則により高等学校卒業程度認定試験に合格した者(大学入学資格検定規程による大学入学資格検定に合格した者を含む)

(5)　外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣が指定した者

(6)　文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

(7)　本学が、相当の年齢に達し高等学校、若しくは中等教育学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

(入学許可)

第25条　前条の者のうち本学が行う選考に合格した者につき、教授会の議を経て学長が入学を許可する。

(学士入学)

第26条　大学を卒業した者及びこれと同等以上の資格を有する者で、本学に入学すること(学士入学と称する。)を希望する者があるときは、別に定めるところにより教授会の議を経て入学を許可することができる。

(編入学)

第27条　本学の各学部に編入学を志願する

者があるときは、志願先課程、学科及び在学生の学修に支障のない限り、別に定めるところにより選考の上、当該学部教授会の議を経て、入学を許可することができる。

(外国人特別入学・帰国子女特別入学)

第28条　本学の各学部に入学を志願する外国人志願者及び帰国子女志願者があるときは、志願先課程、学科及び在学生の学修に支障のない限り、別に定めるところにより選考の上、当該学部教授会の議を経て、入学を許可することができる。

(出願書類等)

第29条　本学に入学を志願する者は、所定の入学願書、出身学校長の提出する調査書又はこれに代わるものと認められる証明書及び写真に入学検定料を添えて提出しなければならない。

(入学手続)

第30条　入学を許可された者は、本学所定の誓約書に保証人と連署の上、住民票その他所定の書類に学費を添えて指定日までに提出しなければならない。

(保証人)

第31条　保証人は父母又は独立生計を営む成年者で、確実に保証人としての責を果たし得る者でなければならない。保証人として不適当と認めたときは変更を命ずることがある。なお、その身分及び住所に変更があったときは速やかに届け出なければならない。

(休学)

第32条　病気又はその他の理由によって出席できない者は、その理由(兵役の場合は、徴兵に関する証明書等)を記して保証人連署の休学願を提出し、学長の許可を

者があるときは、志願先課程、学科及び在学生の学修に支障のない限り、別に定めるところにより選考の上、当該学部教授会の議を経て、入学を許可することができる。

(外国人特別入学・帰国子女特別入学)

第28条　本学の各学部に入学を志願する外国人志願者及び帰国子女志願者があるときは、志願先課程、学科及び在学生の学修に支障のない限り、別に定めるところにより選考の上、当該学部教授会の議を経て、入学を許可することができる。

(出願書類等)

第29条　本学に入学を志願する者は、所定の入学願書、出身学校長の提出する調査書又はこれに代わるものと認められる証明書及び写真に入学検定料を添えて提出しなければならない。

(入学手続)

第30条　入学を許可された者は、本学所定の誓約書に保証人と連署の上、住民票その他所定の書類に学費を添えて指定日までに提出しなければならない。

(保証人)

第31条　保証人は父母又は独立生計を営む成年者で、確実に保証人としての責を果たし得る者でなければならない。保証人として不適当と認めたときは変更を命ずることがある。なお、その身分及び住所に変更があったときは速やかに届け出なければならない。

(休学)

第32条　病気又はその他の理由によって出席できない者は、その理由(兵役の場合は、徴兵に関する証明書等)を記して保証人連署の休学願を提出し、学長の許可を

経て休学することができる。ただし、入学初年度の１年前期は、休学することはできない。	経て休学することができる。ただし、入学初年度の１年前期は、休学することはできない。
2　休学の願い出に際しては、休学開始日の前日の属する期までの学費等を納入していなければならない。	2　休学の願い出に際しては、休学開始日の前日の属する期までの学費等を納入していなければならない。
3　休学は１ヵ年以内とする。ただし、特別の理由のある者は休学延期の願い出により引き続き休学することができる。	3　休学は１ヵ年以内とする。ただし、特別の理由のある者は休学延期の願い出により引き続き休学することができる。
4　休学期間は、連続して２年を超えることはできない。また、通算して４年を越えることはできない。	4　休学期間は、連続して２年を超えることはできない。また、通算して４年を越えることはできない。
5　休学期間は在学年数に算入しないが、在籍年数には算入する。	5　休学期間は在学年数に算入しないが、在籍年数には算入する。
6　休学者は休学した学期の単位を取得することはできない。	6　休学者は休学した学期の単位を取得することはできない。
(休学期間中の学費)	(休学期間中の学費)
第33条　休学期間中の学費は、許可された期の翌期から、休学する期に限り、授業料および維持料を免除し、休学在籍料を徴収する。ただし、兵役による休学の場合は、兵役期間に限り授業料および維持料に加え、休学在籍料を免除する。	第33条　休学期間中の学費は、許可された期の翌期から、休学する期に限り、授業料および維持料を免除し、休学在籍料を徴収する。ただし、兵役による休学の場合は、兵役期間に限り授業料および維持料に加え、休学在籍料を免除する。
(復学)	(復学)
第34条　休学者が復学しようとするときはその理由を記し、保証人連署の復学願を提出し、学長の許可を経て復学することができる。	第34条　休学者が復学しようとするときはその理由を記し、保証人連署の復学願を提出し、学長の許可を経て復学することができる。
(退学)	(退学)
第35条　退学しようとする者は、保証人連署の上、その理由を記して願い出て学長の許可を受けなければならない。	第35条　退学しようとする者は、保証人連署の上、その理由を記して願い出て学長の許可を受けなければならない。
2　退学の願い出に際しては、退学の日の属する期までの学費等を納入していなければならない。	2　退学の願い出に際しては、退学の日の属する期までの学費等を納入していなければならない。
(再入学)	(再入学)

第36条　正当な理由により退学した者、又は第71条第１項第２号若しくは第４号により除籍された者が再入学を願い出た時は、第14条ただし書に定める在籍年数(通算年数とする。)内に卒業見込みのある者に限り、選考の上、教授会の議を経て入学許可することがある。

(転学)

第37条　本学の学生が他に転学を志望するときは、その理由を記して願い出て学長の許可を受けなければならない。

第5節　学費等

(学費等)

第38条　学費は別表８に定めるところによる。

2　学費とは入学金、維持料、授業料をいう。

3　入学検定料は、諸納入金に関する内規に定めるところによる。

(学費の納付)

第39条　学費その他の納入金は指定の期日までに納入しなければならない。

(転部・転課程・転科生等の学費)

第40条　転部、転課程・コース、転科、又は再入学の許可を受けた者は、新たに所属する学年の学費を納入するものとする。

(学費の取扱)

第41条　既に納入した学費は、事情のいかんにかかわらず一切返還しない。

第6節　職員組織

(職員)

第42条　本学に次の職員を置く。

学長、副学長、学部長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員、その他必要な職員

第36条　正当な理由により退学した者、又は第71条第１項第２号若しくは第４号により除籍された者が再入学を願い出た時は、第14条ただし書に定める在籍年数(通算年数とする。)内に卒業見込みのある者に限り、選考の上、教授会の議を経て入学許可することがある。

(転学)

第37条　本学の学生が他に転学を志望するときは、その理由を記して願い出て学長の許可を受けなければならない。

第5節　学費等

(学費等)

第38条　学費は別表８に定めるところによる。

2　学費とは入学金、維持料、授業料をいう。

3　入学検定料は、諸納入金に関する内規に定めるところによる。

(学費の納付)

第39条　学費その他の納入金は指定の期日までに納入しなければならない。

(転部・転課程・転科生等の学費)

第40条　転部、転課程・コース、転科、又は再入学の許可を受けた者は、新たに所属する学年の学費を納入するものとする。

(学費の取扱)

第41条　既に納入した学費は、事情のいかんにかかわらず一切返還しない。

第6節　職員組織

(職員)

第42条　本学に次の職員を置く。

学長、副学長、学部長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員、その他必要な職員

第7節　学長、学部長、教授会及び学部長・研究科長会議

(学長・副学長)

第43条　学長は校務をつかさどり、所属職員を統督するとともに本学を代表する。

2　学長は、校務における決定権を有し、最終的な責任を負う。

第43条の2　副学長は、学長を助け、命を受けて校務をつかさどる。

(学部長)

第44条　学部長は当該学部の校務をつかさどり、当該学部を代表する。

(教授会)

第45条　各学部に教授会を置く。

2　教授会に関する事項は本学則によるほか、各学部教授会規則の定めるところによる。

第46条　学部長は教授会を招集する。

第47条　教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり、意見を述べるものとする。

(1)　学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項

(2)　学位の授与に関する事項

(3)　教育及び研究組織に関する事項

(4)　課程、学科、学科目及び授業に関する事項

(5)　教員の研究育成及び留学に関する事項

(6)　教育研究予算の配分の方針に関する事項

(7)　教員の任用に関する事項

(8)　学生の指導育成に関する事項

(9)　学生の賞罰に関する事項

(10)　教員の資格審査に関する事項

(11)　学則に関する事項

第7節　学長、学部長、教授会及び学部長・研究科長会議

(学長・副学長)

第43条　学長は校務をつかさどり、所属職員を統督するとともに本学を代表する。

2　学長は、校務における決定権を有し、最終的な責任を負う。

第43条の2　副学長は、学長を助け、命を受けて校務をつかさどる。

(学部長)

第44条　学部長は当該学部の校務をつかさどり、当該学部を代表する。

(教授会)

第45条　各学部に教授会を置く。

2　教授会に関する事項は本学則によるほか、各学部教授会規則の定めるところによる。

第46条　学部長は教授会を招集する。

第47条　教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり、意見を述べるものとする。

(1)　学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項

(2)　学位の授与に関する事項

(3)　教育及び研究組織に関する事項

(4)　課程、学科、学科目及び授業に関する事項

(5)　教員の研究育成及び留学に関する事項

(6)　教育研究予算の配分の方針に関する事項

(7)　教員の任用に関する事項

(8)　学生の指導育成に関する事項

(9)　学生の賞罰に関する事項

(10)　教員の資格審査に関する事項

(11)　学則に関する事項

(12)　その他学長から意見を求められた事項	(12)　その他学長から意見を求められた事項
第48条　教授会は、前条各号に定める事項のほか、学長及び学部長その他の教授会等が置かれる組織の長(以下「学長等」という)がつかさどる次の事項について審議し、及び学長等の求めに応じて意見を述べることができる。	第48条　教授会は、前条各号に定める事項のほか、学長及び学部長その他の教授会等が置かれる組織の長(以下「学長等」という)がつかさどる次の事項について審議し、及び学長等の求めに応じて意見を述べることができる。
(1)　教授会の運営に関する事項	(1)　教授会の運営に関する事項
(2)　図書、設備及び施設に関する事項	(2)　図書、設備及び施設に関する事項
(3)　学生の試験、進級、転科、転課程・コース、転部に関する事項	(3)　学生の試験、進級、転科、転課程・コース、転部に関する事項
(4)　授業日数及び休業に関する事項	(4)　授業日数及び休業に関する事項
(5)　学生団体及び学生活動、並びに学生生活に関する事項	(5)　学生団体及び学生活動、並びに学生生活に関する事項
(6)　学部規則に関する事項	(6)　学部規則に関する事項
(7)　その他学長等から意見を求められた事項	(7)　その他学長等から意見を求められた事項
2　第１項にいう審議とは、議論・検討することを意味し、決定権を含意するものではない。	2　第１項にいう審議とは、議論・検討することを意味し、決定権を含意するものではない。
第49条　学長が必要と認める時は、他の学部の教授会と共同して合同の委員会を設けることができる。	第49条　学長が必要と認める時は、他の学部の教授会と共同して合同の委員会を設けることができる。
(学部長・研究科長会議)	(学部長・研究科長会議)
第50条　本学に学部長・研究科長会議を置き、学長が求める教学に関する重要な事項を審議する。	第50条　本学に学部長・研究科長会議を置き、学長が求める教学に関する重要な事項を審議する。
2　学部長・研究科長会議について必要な事項は別に定める。	2　学部長・研究科長会議について必要な事項は別に定める。
第51条　(削除)	第51条　(削除)
第8節　科目等履修生、研究生、特別聴講生、外国人学生及び特別留学生	第8節　科目等履修生、研究生、特別聴講生、外国人学生及び特別留学生
(科目等履修生)	(科目等履修生)
第52条　本学学生以外の者が、本学所定の	第52条　本学学生以外の者が、本学所定の

授業科目を一又は複数選択して履修する者を科目等履修生とする。	授業科目を一又は複数選択して履修する者を科目等履修生とする。
2　科目等履修生に出願できる者は、高校卒業又はこれと同等以上の学力を有する者とする。	2　科目等履修生に出願できる者は、高校卒業又はこれと同等以上の学力を有する者とする。
3　科目等履修生は、本学学生の授業に支障のない限り教授会の議を経て、学長が入学を許可する。	3　科目等履修生は、本学学生の授業に支障のない限り教授会の議を経て、学長が入学を許可する。
4　科目等履修生の学費等は、別表８のとおりとする。	4　科目等履修生の学費等は、別表８のとおりとする。
5　科目等履修生について必要な事項は、別に定める。	5　科目等履修生について必要な事項は、別に定める。
(研究生)	(研究生)
第53条　一定の研究課題について研究する者を研究生とする。	第53条　一定の研究課題について研究する者を研究生とする。
2　研究生の入学資格は、大学卒業又はこれと同等以上の学力があると認められた者とする。	2　研究生の入学資格は、大学卒業又はこれと同等以上の学力があると認められた者とする。
3　選考は、研究内容の該当する課程・学科等が志願者の学力および希望と芝浦工業大学の受け入れ能力を検討し、教授会の議を経るものとする。	3　選考は、研究内容の該当する課程・学科等が志願者の学力および希望と芝浦工業大学の受け入れ能力を検討し、教授会の議を経るものとする。
4　研究生は、本学学生の授業、研究に支障のない限り教授会の議を経て、学長が入学を許可する。	4　研究生は、本学学生の授業、研究に支障のない限り教授会の議を経て、学長が入学を許可する。
5　研究生の研究期間は６ヶ月以上２年以内とする。	5　研究生の研究期間は６ヶ月以上２年以内とする。
6　研究生は、研究終了後、研究成果を指導教員を経て学長に報告しなければならない。	6　研究生は、研究終了後、研究成果を指導教員を経て学長に報告しなければならない。
7　研究生はその研究成果についての研究証明書の交付を受けることができる。	7　研究生はその研究成果についての研究証明書の交付を受けることができる。
8　研究生の学費等は、別表８のとおりとする。	8　研究生の学費等は、別表８のとおりとする。
(特別聴講生)	(特別聴講生)
第54条　国内の他の大学と本大学との間で	第54条　国内の他の大学と本大学との間で

締結した協定に基づき、当該大学に在学する学生のうち、本大学における授業科目の履修を許可された者を特別聴講生とする。	締結した協定に基づき、当該大学に在学する学生のうち、本大学における授業科目の履修を許可された者を特別聴講生とする。
2　特別聴講生について必要な事項は、別に定める。	2　特別聴講生について必要な事項は、別に定める。
(外国人学生)	(外国人学生)
第55条　日本国籍を有さず外国において通常の課程による12年の学校教育を修了した者は又はこれに準ずる者で、本学での学位取得を目的として入学を志願する者を外国人学生とする。	第55条　日本国籍を有さず外国において通常の課程による12年の学校教育を修了した者は又はこれに準ずる者で、本学での学位取得を目的として入学を志願する者を外国人学生とする。
第55条の2　外国人学生は、特別に選考の上、教授会の議を経て学長が入学を許可する。	第55条の2　外国人学生は、特別に選考の上、教授会の議を経て学長が入学を許可する。
2　外国人学生について必要な事項は、別に定める。	2　外国人学生について必要な事項は、別に定める。
(特別留学生)	(特別留学生)
第56条　日本国籍を有さず、外国において通常の課程による12年の学校教育を修了した者は又はこれに準ずる者で、本学での学位取得を目的とせず、１年以内の留学を希望する者を特別留学生とする。	第56条　日本国籍を有さず、外国において通常の課程による12年の学校教育を修了した者は又はこれに準ずる者で、本学での学位取得を目的とせず、１年以内の留学を希望する者を特別留学生とする。
第56条の2　特別留学生とは次の各号の一つに該当するものでなければならない。	第56条の2　特別留学生とは次の各号の一つに該当するものでなければならない。
(1)　本学との海外学術協定校に在籍する者	(1)　本学との海外学術協定校に在籍する者
(2)　学位授与権をもつ外国の大学に在籍する者	(2)　学位授与権をもつ外国の大学に在籍する者
(3)　その他、学部長・研究科長会議で認めた者	(3)　その他、学部長・研究科長会議で認めた者
2　特別留学生は、学部長・研究科長会議の議を経て、学長が入学を許可する。	2　特別留学生は、学部長・研究科長会議の議を経て、学長が入学を許可する。
3　特別留学生について必要な事項は、別に定める。	3　特別留学生について必要な事項は、別に定める。
第57条　科目等履修生、研究生、特別聴講	第57条　科目等履修生、研究生、特別聴講

生、外国人学生及び特別留学生については、本章に規定するもののほか本学則の各章の規定を準用する。	生、外国人学生及び特別留学生については、本章に規定するもののほか本学則の各章の規定を準用する。
第9節　公開講座	第9節　公開講座
(公開講座)	(公開講座)
第58条　本学は、技術者の再教育及び一般公衆の文化向上を期して講座を公開することがある。	第58条　本学は、技術者の再教育及び一般公衆の文化向上を期して講座を公開することがある。
第59条　(削除)	第59条　(削除)
第60条　公開講座の聴講料は、必要に応じ適当と認める額を納入させることがある。	第60条　公開講座の聴講料は、必要に応じ適当と認める額を納入させることがある。
第10節　学年・学期及び休業日	第10節　学年・学期及び休業日
(学年)	(学年)
第61条　本学の学年は４月１日に始まり、翌年３月31日に終わる。	第61条　本学の学年は４月１日に始まり、翌年３月31日に終わる。
(学期)	(学期)
第62条　学年を分けて、次の２学期とする。	第62条　学年を分けて、次の２学期とする。
(1)　春学期　４月１日より９月30日まで	(1)　春学期　４月１日より９月30日まで
(2)　秋学期　10月１日より３月31日まで	(2)　秋学期　10月１日より３月31日まで
2　各学期における授業開始日及び授業終了日等は、年度毎に定める学年暦による。	2　各学期における授業開始日及び授業終了日等は、年度毎に定める学年暦による。
(休業日)	(休業日)
第63条　本学の休業日は次のとおりとする。	第63条　本学の休業日は次のとおりとする。
(1)　日曜日	(1)　日曜日
(2)　国民の祝日に関する法律に規定する休日	(2)　国民の祝日に関する法律に規定する休日
(3)　創立記念日(11月４日)	(3)　創立記念日(11月４日)
(4)　春季休業	(4)　春季休業
(5)　夏季休業	(5)　夏季休業
(6)　冬季休業	(6)　冬季休業
2　学長は教授会の議を経て休業日を変更	2　学長は教授会の議を経て休業日を変更

し、又は臨時に休業日を定めることができる。

3　第１項の休業日のうち春季、夏季及び冬季の休業日期間は別に定める。

第11節　寮及び厚生保健

(学生寮)

第64条　必要に応じ学生寮を置き、本学が管理する。学生寮に関する規則は別に定める。

(厚生寮等)

第65条　本学に教職員学生のための寮、セミナーハウス等を置く。寮、セミナーハウス等に関する規則は別に定める。

(学校医・健康診断)

第66条　本学は、学生の保健衛生に留意し体位向上を期するため、学校医を委嘱する。また、毎年度定期に健康診断を行う。

第12節　賞罰

(授業料免除)

第67条　品行方正、学力優秀、精勤で学生の範と認められた者には特待生として賞状を授け、授業料を免除することがある。ただし、特待生としての資格に欠けた場合は、その待遇は解かれるものとする。

(表彰)

第68条　在学期間中、品行方正、学力優秀等で学生の範と認められた者には表彰することができる。

(懲戒)

第69条　学生にして本学則にそむき、又は学生の本分に反する行為があった場合は、教育目的のために懲戒する。懲戒処分はその事情によって譴責、停学及び退学とする。

し、又は臨時に休業日を定めることができる。

3　第１項の休業日のうち春季、夏季及び冬季の休業日期間は別に定める。

第11節　寮及び厚生保健

(学生寮)

第64条　必要に応じ学生寮を置き、本学が管理する。学生寮に関する規則は別に定める。

(厚生寮等)

第65条　本学に教職員学生のための寮、セミナーハウス等を置く。寮、セミナーハウス等に関する規則は別に定める。

(学校医・健康診断)

第66条　本学は、学生の保健衛生に留意し体位向上を期するため、学校医を委嘱する。また、毎年度定期に健康診断を行う。

第12節　賞罰

(授業料免除)

第67条　品行方正、学力優秀、精勤で学生の範と認められた者には特待生として賞状を授け、授業料を免除することがある。ただし、特待生としての資格に欠けた場合は、その待遇は解かれるものとする。

(表彰)

第68条　在学期間中、品行方正、学力優秀等で学生の範と認められた者には表彰することができる。

(懲戒)

第69条　学生にして本学則にそむき、又は学生の本分に反する行為があった場合は、教育目的のために懲戒する。懲戒処分はその事情によって譴責、停学及び退学とする。

(退学)

第70条　次の各号の一つに該当する者は、教授会の議を経て学長が退学を命ずる。

(1)　入学誓約書に違反した者

(2)　性行不良で学生の品位を乱し、改善の見込みがないと認められた者

(3)　学力劣等で成業の見込みがないと認められた者

(4)　正当な理由がなく常に出席しない者

(5)　学校の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

第13節　除籍

(除籍)

第71条　学長は、次の各号の一つに該当する者について除籍する。

(1)　行方不明の届け出のあった者

(2)　学費の納入を怠り、督促を受けても納入しない者

(3)　第14条ただし書きに定める在籍年数を超えた者

(4)　休学期間満了となっても復学等の手続きをしない者

第3章　雑則

(雑則)

第72条　この学則の改廃は、教授会で審議し、学部長・研究科長会議の議を経て学長が行う。

附　則

昭和24年３月25日(機械工学科・土木工学科設置)

昭和25年３月１日(電気工学科増設)

昭和27年３月１日(教職課程設置)

昭和29年２月15日(建築学科・工業化学科増設)

昭和29年４月１日(教育職員免許状授与認定)

(退学)

第70条　次の各号の一つに該当する者は、教授会の議を経て学長が退学を命ずる。

(1)　入学誓約書に違反した者

(2)　性行不良で学生の品位を乱し、改善の見込みがないと認められた者

(3)　学力劣等で成業の見込みがないと認められた者

(4)　正当な理由がなく常に出席しない者

(5)　学校の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

第13節　除籍

(除籍)

第71条　学長は、次の各号の一つに該当する者について除籍する。

(1)　行方不明の届け出のあった者

(2)　学費の納入を怠り、督促を受けても納入しない者

(3)　第14条ただし書きに定める在籍年数を超えた者

(4)　休学期間満了となっても復学等の手続きをしない者

第3章　雑則

(雑則)

第72条　この学則の改廃は、教授会で審議し、学部長・研究科長会議の議を経て学長が行う。

附　則

昭和24年３月25日(機械工学科・土木工学科設置)

昭和25年３月１日(電気工学科増設)

昭和27年３月１日(教職課程設置)

昭和29年２月15日(建築学科・工業化学科増設)

昭和29年４月１日(教育職員免許状授与認定)

昭和29年４月１日(同上。聴講生制度認定)
昭和30年１月20日(機械工学科・電気工学科定員増)
昭和31年３月１日(二部機械工学科・電気工学科増設)
昭和34年３月１日(金属工学科・電子工学科増設)
昭和40年12月27日(機械工学第二学科・通信工学科・建築工学科・工業経営学科増設)
(機械工学科・電気工学科定員変更)
昭和43年６月21日(教授会構成員・卒業単位数変更)
昭和44年５月16日(教授会構成員変更)
昭和47年11月17日(講座制・教授会その他変更)
昭和49年４月１日(全学科定員変更及び教育職員免許状取得に関する授業科目変更)
本改正学則は昭和49年４月１日より実施する。ただし、入学検定料は昭和49年１月21日より実施し、学費は昭和49年度入学生に適用する。
昭和50年４月１日(大学院及び研究生の制度並びに抹籍処理の付加、別表１の授業科目、単位数の一部変更、一部学費の改訂及び休学中の授業料免除額の規定)
本改正学則は、昭和50年４月１日より実施する。ただし、学費及び休学中の授業料の免除額については、昭和50年度以降の入学生に適用する。
昭和51年４月１日(教育職員免許状授与に関する記載事項の修正並びに入学検定料の変更)
本改正学則は、昭和51年４月１日より実施する。ただし、入学検定料は昭和51年１月10日より実施する。

昭和29年４月１日(同上。聴講生制度認定)
昭和30年１月20日(機械工学科・電気工学科定員増)
昭和31年３月１日(二部機械工学科・電気工学科増設)
昭和34年３月１日(金属工学科・電子工学科増設)
昭和40年12月27日(機械工学第二学科・通信工学科・建築工学科・工業経営学科増設)
(機械工学科・電気工学科定員変更)
昭和43年６月21日(教授会構成員・卒業単位数変更)
昭和44年５月16日(教授会構成員変更)
昭和47年11月17日(講座制・教授会その他変更)
昭和49年４月１日(全学科定員変更及び教育職員免許状取得に関する授業科目変更)
本改正学則は昭和49年４月１日より実施する。ただし、入学検定料は昭和49年１月21日より実施し、学費は昭和49年度入学生に適用する。
昭和50年４月１日(大学院及び研究生の制度並びに抹籍処理の付加、別表１の授業科目、単位数の一部変更、一部学費の改訂及び休学中の授業料免除額の規定)
本改正学則は、昭和50年４月１日より実施する。ただし、学費及び休学中の授業料の免除額については、昭和50年度以降の入学生に適用する。
昭和51年４月１日(教育職員免許状授与に関する記載事項の修正並びに入学検定料の変更)
本改正学則は、昭和51年４月１日より実施する。ただし、入学検定料は昭和51年１月10日より実施する。

昭和52年４月１日(授業料目・単位数の一部変更並びに入学検定料の変更)

本改正学則は、昭和52年４月１日より実施する。ただし、入学検定料は昭和52年１月10日より実施する。

昭和53年４月１日(授業料目・単位数の一部の変更並びに学費の変更)

本改正学則は、昭和53年４月１日より実施する。ただし、学費は昭和53年度以降の入学生に適用する。

昭和54年４月１日(編入学・休学・復学等の条文並びに授業料目・単位数の一部変更)

昭和55年４月１日(授業料目・単位数の一部変更並びに入学検定料の変更)

本改正学則は、昭和55年４月１日より実施する。ただし、入学検定料は昭和55年１月10日より実施する。

昭和56年４月１日(授業料目・単位数の一部変更並びに学費の変更)

本改正学則は、昭和56年４月１日より実施する。ただし、学費は昭和56年度以降の入学生に適用する。

昭和57年４月１日(授業料目・単位数の一部変更、学費納入に関する条文の修正並びに入学検定料の変更)

本改正学則は昭和57年４月１日より実施する。ただし、入学検定料は昭和57年１月10日より実施する。

昭和58年４月１日(授業科目・単位数の一部変更、教育職員免許状の資格取得に関する記載事項の修正)

昭和59年４月１日(授業料目・単位数の一部変更並びに入学検定料、学費の変更)

本改正学則は、昭和59年４月１日より実施する。ただし、入学検定料は昭和59年１月10日より実施し、学費は昭和59年

昭和52年４月１日(授業料目・単位数の一部変更並びに入学検定料の変更)

本改正学則は、昭和52年４月１日より実施する。ただし、入学検定料は昭和52年１月10日より実施する。

昭和53年４月１日(授業料目・単位数の一部の変更並びに学費の変更)

本改正学則は、昭和53年４月１日より実施する。ただし、学費は昭和53年度以降の入学生に適用する。

昭和54年４月１日(編入学・休学・復学等の条文並びに授業料目・単位数の一部変更)

昭和55年４月１日(授業料目・単位数の一部変更並びに入学検定料の変更)

本改正学則は、昭和55年４月１日より実施する。ただし、入学検定料は昭和55年１月10日より実施する。

昭和56年４月１日(授業料目・単位数の一部変更並びに学費の変更)

本改正学則は、昭和56年４月１日より実施する。ただし、学費は昭和56年度以降の入学生に適用する。

昭和57年４月１日(授業料目・単位数の一部変更、学費納入に関する条文の修正並びに入学検定料の変更)

本改正学則は昭和57年４月１日より実施する。ただし、入学検定料は昭和57年１月10日より実施する。

昭和58年４月１日(授業科目・単位数の一部変更、教育職員免許状の資格取得に関する記載事項の修正)

昭和59年４月１日(授業料目・単位数の一部変更並びに入学検定料、学費の変更)

本改正学則は、昭和59年４月１日より実施する。ただし、入学検定料は昭和59年１月10日より実施し、学費は昭和59年

度入学生に適用する。

昭和60年４月１日(授業料目・単位数の一部変更並びに学費の変更)

本改正学則は、昭和60年４月１日より実施する。ただし、学費は昭和60年度以降の入学生に適用する。

昭和60年12月25日(全学科定員変更)

本改正学則は、昭和61年４月１日より実施する。

昭和61年４月１日(定員の変更、授業料目・単位数の一部変更、一部廃寮に伴う条文修正及び入学検定料の変更)

本改正学則は、昭和61年４月１日より実施する。ただし、入学検定料は、昭和61年１月10日より実施する。

昭和62年４月１日(授業科目・単位数の一部変更)

本改正学則は、昭和62年４月１日より実施する。

昭和63年４月１日(授業料目・単位数の一部変更。)

本改正学則は、昭和63年４月１日より実施する。

平成元年４月１日(他大学等における既修得単位の認定に関する条項の追加、入学手続き時の提出書類に関する条文修正、抹籍及び再入学に関する条文の修正、授業料目の一部変更、学費・入学検定料等の変更)

本改正学則は、平成元年４月１日より実施する。

ただし、入学検定料は、平成元年１月10日より実施する。

平成２年４月１日(条文(第９条第２項、第21条)、授業科目・単位数の一部、教職課程に関する授業科目等及び学費の変更)

度入学生に適用する。

昭和60年４月１日(授業料目・単位数の一部変更並びに学費の変更)

本改正学則は、昭和60年４月１日より実施する。ただし、学費は昭和60年度以降の入学生に適用する。

昭和60年12月25日(全学科定員変更)

本改正学則は、昭和61年４月１日より実施する。

昭和61年４月１日(定員の変更、授業料目・単位数の一部変更、一部廃寮に伴う条文修正及び入学検定料の変更)

本改正学則は、昭和61年４月１日より実施する。ただし、入学検定料は、昭和61年１月10日より実施する。

昭和62年４月１日(授業科目・単位数の一部変更)

本改正学則は、昭和62年４月１日より実施する。

昭和63年４月１日(授業料目・単位数の一部変更。)

本改正学則は、昭和63年４月１日より実施する。

平成元年４月１日(他大学等における既修得単位の認定に関する条項の追加、入学手続き時の提出書類に関する条文修正、抹籍及び再入学に関する条文の修正、授業料目の一部変更、学費・入学検定料等の変更)

本改正学則は、平成元年４月１日より実施する。

ただし、入学検定料は、平成元年１月10日より実施する。

平成２年４月１日(条文(第９条第２項、第21条)、授業科目・単位数の一部、教職課程に関する授業科目等及び学費の変更)

本改正学則は、平成２年４月１日より実施する。

ただし、学費は平成２年度入学生に適用する。

平成３年４月１日(新学部設置による変更)

学則条文の整理、別表(入学定員、授業科目等、卒業要件、学費等)の変更。

この学則(改正)は、平成３年４月１日から施行する。ただし、学費および入学検定料は平成３年度入学生より適用する。

平成３年10月１日(学費の一部変更)

本改正学則は平成３年10月１日より実施する。

平成４年４月１日(大学設置基準の改正に伴う学則条文の一部改正、別表の収容定員、授業科目・単位数、卒業要件及び学費等の一部変更)

この学則(改正)は、平成４年４月１日から実施する。

ただし、第９条、第18条、第34条に係る事項は次の通りとする。

１．第９条の別表１は、この規程にかかわらず、平成４年度から平成11年度までの入学定員を次表の通りとする。

期間付入学定員

工学部	学科名	入学定員
一部	機械工学科	90名
	機械工学第二学科	90名
	材料工学科	90名
	工業化学科	90名
	電気工学科	90名
	通信工学科	90名
	電子工学科	90名
	土木工学科	90名
	建築学科	90名

本改正学則は、平成２年４月１日より実施する。

ただし、学費は平成２年度入学生に適用する。

平成３年４月１日(新学部設置による変更)

学則条文の整理、別表(入学定員、授業科目等、卒業要件、学費等)の変更。

この学則(改正)は、平成３年４月１日から施行する。ただし、学費および入学検定料は平成３年度入学生より適用する。

平成３年10月１日(学費の一部変更)

本改正学則は平成３年10月１日より実施する。

平成４年４月１日(大学設置基準の改正に伴う学則条文の一部改正、別表の収容定員、授業科目・単位数、卒業要件及び学費等の一部変更)

この学則(改正)は、平成４年４月１日から実施する。

ただし、第９条、第18条、第34条に係る事項は次の通りとする。

１．第９条の別表１は、この規程にかかわらず、平成４年度から平成11年度までの入学定員を次表の通りとする。

期間付入学定員

工学部	学科名	入学定員
一部	機械工学科	90名
	機械工学第二学科	90名
	材料工学科	90名
	工業化学科	90名
	電気工学科	90名
	通信工学科	90名
	電子工学科	90名
	土木工学科	90名
	建築学科	90名

	建築工学科	90名
	工業経営学科	90名
	合計	990名

２．第18条は、平成４年３月18日より実施する。

３．第34条の別表第５は、平成４年度入学生より適用する。

平成５年４月１日(別表の授業科目・単位数、卒業要件、学費等の一部変更)

この学則(改正)は、平成５年４月１日から実施する。

ただし、第34条の別表第５は、平成５年度入学生より適用する。

平成６年４月１日(学則条文第13条、第24条、第46条、第48条、第49条、第50条、第51条、第52条、第53条の一部改正、別表の授業科目・単位数、学部・学科別卒業要件、納入金等の一部変更)

この学則(改正)は、平成６年４月１日から実施する。

平成７年４月１日(二部新学科設置に係る学則条文第４条、収容定員の減少(修学年数の変更)に係る学則条文第11条、第28条の一部改正。別表の収容定員、授業科目・単位数、学部・学科別卒業要件、納入金等の一部変更)

この学則(改正)は、平成７年４月１日入学生より適用する。

ただし、第９条の別表１は、この規程にかかわらず、平成７年度から平成10年度までの工学部二部機械工学科・電気工学科の収容定員は、次の通りとする。

学部	年度	機械工学科	電気工学科
工学部二部	平成7年度	400名	400名
	平成8年度	400名	400名
	平成9年度	400名	400名

	建築工学科	90名
	工業経営学科	90名
	合計	990名

２．第18条は、平成４年３月18日より実施する。

３．第34条の別表第５は、平成４年度入学生より適用する。

平成５年４月１日(別表の授業科目・単位数、卒業要件、学費等の一部変更)

この学則(改正)は、平成５年４月１日から実施する。

ただし、第34条の別表第５は、平成５年度入学生より適用する。

平成６年４月１日(学則条文第13条、第24条、第46条、第48条、第49条、第50条、第51条、第52条、第53条の一部改正、別表の授業科目・単位数、学部・学科別卒業要件、納入金等の一部変更)

この学則(改正)は、平成６年４月１日から実施する。

平成７年４月１日(二部新学科設置に係る学則条文第４条、収容定員の減少(修学年数の変更)に係る学則条文第11条、第28条の一部改正。別表の収容定員、授業科目・単位数、学部・学科別卒業要件、納入金等の一部変更)

この学則(改正)は、平成７年４月１日入学生より適用する。

ただし、第９条の別表１は、この規程にかかわらず、平成７年度から平成10年度までの工学部二部機械工学科・電気工学科の収容定員は、次の通りとする。

学部	年度	機械工学科	電気工学科
工学部二部	平成7年度	400名	400名
	平成8年度	400名	400名
	平成9年度	400名	400名

	平成10年度	400名	400名

平成８年４月１日(学科名称変更に係る学則条文第４条の一部変更。学則条文第13条の一部改正。別表の収容定員。工学部授業科目(教職課程を含む)単位数、学部・学科別卒業要件、納入金等の一部変更)

(経過措置)

工学部一部金属工学科は、平成８年３月31日に当該学科に在学するものが当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

この学則(改正)は、平成８年４月１日から実施する。

平成９年４月１日(学則条文第７条の一部改正、第８条の削除、別表の授業科目、単位数、学部・学科別卒業要件、納入金等の一部変更)

この学則(改正)は、平成９年４月１日から実施する。

ただし、第34条の別表５は平成９年度入学生より適用する。

平成10年４月１日(学則条文第６条並びに第46条の一部改正、別表の授業科目、単位数、学部・学科別卒業要件、納入金等の一部変更)

この学則(改正)は、平成10年４月１日から実施する。

ただし、第34条の別表５は平成10年度入学生より適用する。

また、第６条の学術情報センターについては平成10年２月１日より適用する。

平成11年４月１日(別表の授業科目・単位数、卒業要件、学費等の一部変更)

この学則(改正)は、平成11年４月１日から実施する。

ただし、第34条の別表５は平成11年度

	平成10年度	400名	400名

平成８年４月１日(学科名称変更に係る学則条文第４条の一部変更。学則条文第13条の一部改正。別表の収容定員。工学部授業科目(教職課程を含む)単位数、学部・学科別卒業要件、納入金等の一部変更)

(経過措置)

工学部一部金属工学科は、平成８年３月31日に当該学科に在学するものが当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

この学則(改正)は、平成８年４月１日から実施する。

平成９年４月１日(学則条文第７条の一部改正、第８条の削除、別表の授業科目、単位数、学部・学科別卒業要件、納入金等の一部変更)

この学則(改正)は、平成９年４月１日から実施する。

ただし、第34条の別表５は平成９年度入学生より適用する。

平成10年４月１日(学則条文第６条並びに第46条の一部改正、別表の授業科目、単位数、学部・学科別卒業要件、納入金等の一部変更)

この学則(改正)は、平成10年４月１日から実施する。

ただし、第34条の別表５は平成10年度入学生より適用する。

また、第６条の学術情報センターについては平成10年２月１日より適用する。

平成11年４月１日(別表の授業科目・単位数、卒業要件、学費等の一部変更)

この学則(改正)は、平成11年４月１日から実施する。

ただし、第34条の別表５は平成11年度

入学生より適用する。

平成12年４月１日(システム工学部電子情報システム学科の定員の変更、工学部一部の臨時定員の延長および恒常化入学定員の変更、授業科目・単位数、卒業要件及び学費等の一部変更)

この学則は、平成12年４月１日から実施する。

ただし、第９条、第34条に係わる事項は次の通りとする。

１．第９条の別表１は、この規程にかかわらず、平成12年度から平成15年度までの入学定員を次表の通りとする。

期間付入学定員

工学部一部	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度
機械工学科	89名	88名	87名	86名
機械工学第二学科	89名	88名	87名	86名
材料工学科	89名	88名	87名	86名
工業化学科	89名	88名	87名	86名
電気工学科	89名	88名	87名	86名
通信工学科	89名	88名	87名	86名
電子工学科	89名	88名	87名	86名
土木工学科	89名	88名	87名	86名
建築学科	89名	88名	87名	86名
建築工学科	89名	88名	87名	86名

入学生より適用する。

平成12年４月１日(システム工学部電子情報システム学科の定員の変更、工学部一部の臨時定員の延長および恒常化入学定員の変更、授業科目・単位数、卒業要件及び学費等の一部変更)

この学則は、平成12年４月１日から実施する。

ただし、第９条、第34条に係わる事項は次の通りとする。

１．第９条の別表１は、この規程にかかわらず、平成12年度から平成15年度までの入学定員を次表の通りとする。

期間付入学定員

工学部一部	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度
機械工学科	89名	88名	87名	86名
機械工学第二学科	89名	88名	87名	86名
材料工学科	89名	88名	87名	86名
工業化学科	89名	88名	87名	86名
電気工学科	89名	88名	87名	86名
通信工学科	89名	88名	87名	86名
電子工学科	89名	88名	87名	86名
土木工学科	89名	88名	87名	86名
建築学科	89名	88名	87名	86名
建築工学科	89名	88名	87名	86名

工業経営学科	89名	88名	87名	86名

２．第34条の別表５は、平成12年度入学生から適用する。

平成13年４月１日(学科名称変更に係る学則条文第４条の一部変更。別表の収容定員。授業科目(教職課程を含む)、単位数、学部・学科別卒業要件、納入金等の一部変更)

(経過措置)

工学部一部工業化学科及び工業経営学科は、平成13年３月31日に当該学科に在学するものが当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

この学則(改正)は、平成13年４月１日から実施する。

ただし、第34条の別表５は平成13年度入学生より適用する。

平成14年４月１日(学則条文第32条、第38条、第46条、第67条の一部改正。別表の授業科目(教職課程を含む)、単位数、学部・学科別卒業要件、納入金等の一部変更。)

この学則(改正)は、平成14年４月１日から実施する。

ただし、第34条の別表５は平成14年度入学生より適用する。

平成15年４月１日(工学部の収容定員の増加に係る学則条文第４条の一部変更。別表の収容定員。工学部の名称及び入学定員の変更、工学部二部２学科の廃止、授業科目・単位数、学部・学科別卒業要件、教育職員免許状の種類・教科の一部変更。学則条文第10条、第24条の一部改正、別表の納入金等の一部変更。)

(経過措置)

工業経営学科	89名	88名	87名	86名

２．第34条の別表５は、平成12年度入学生から適用する。

平成13年４月１日(学科名称変更に係る学則条文第４条の一部変更。別表の収容定員。授業科目(教職課程を含む)、単位数、学部・学科別卒業要件、納入金等の一部変更)

(経過措置)

工学部一部工業化学科及び工業経営学科は、平成13年３月31日に当該学科に在学するものが当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

この学則(改正)は、平成13年４月１日から実施する。

ただし、第34条の別表５は平成13年度入学生より適用する。

平成14年４月１日(学則条文第32条、第38条、第46条、第67条の一部改正。別表の授業科目(教職課程を含む)、単位数、学部・学科別卒業要件、納入金等の一部変更。)

この学則(改正)は、平成14年４月１日から実施する。

ただし、第34条の別表５は平成14年度入学生より適用する。

平成15年４月１日(工学部の収容定員の増加に係る学則条文第４条の一部変更。別表の収容定員。工学部の名称及び入学定員の変更、工学部二部２学科の廃止、授業科目・単位数、学部・学科別卒業要件、教育職員免許状の種類・教科の一部変更。学則条文第10条、第24条の一部改正、別表の納入金等の一部変更。)

(経過措置)

工学部一部及び工学部二部機械工学科・電気工学科は、平成15年３月31日に当該学部・学科に在学するものが当該学部・学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

この学則(改正)は、平成16年４月１日から実施する。

ただし、第34条の別表５は平成15年度入学生より適用する。

平成16年４月１日(工学部の収容定員の増加に係る学則条文第４条の一部変更。別表１の収容定員、入学定員の変更。工学部二部１学科の廃止に係わる学則第29条、第34条、別表２の授業科目・別表４の単位数等の一部変更。学費に係わる別表５の一部変更。)

(経過措置)

工学部二部電気設備学科は、平成16年３月31日に当該学部・学科に在学するものが当該学部・学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

この学則(改正)は、平成16年４月１日から実施する。ただし、第34条の別表５は平成16年度入学生より適用する。

平成17年４月１日(学則条文第８条の追加、第29条の一部改正。別表５の納入金等の一部改正。)

この学則(改正)は、平成17年４月１日から実施する。ただし、第29条の休学期間中の学費の取扱は、平成17年度の在籍者から適用する。

平成18年４月１日(学則条文第３条の変更、第10条、第46条の一部改正。別表２の工学部授業科目、別表３のシステム工学部授業科目、別表４の学部・学科別卒業要

工学部一部及び工学部二部機械工学科・電気工学科は、平成15年３月31日に当該学部・学科に在学するものが当該学部・学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

この学則(改正)は、平成16年４月１日から実施する。

ただし、第34条の別表５は平成15年度入学生より適用する。

平成16年４月１日(工学部の収容定員の増加に係る学則条文第４条の一部変更。別表１の収容定員、入学定員の変更。工学部二部１学科の廃止に係わる学則第29条、第34条、別表２の授業科目・別表４の単位数等の一部変更。学費に係わる別表５の一部変更。)

(経過措置)

工学部二部電気設備学科は、平成16年３月31日に当該学部・学科に在学するものが当該学部・学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

この学則(改正)は、平成16年４月１日から実施する。ただし、第34条の別表５は平成16年度入学生より適用する。

平成17年４月１日(学則条文第８条の追加、第29条の一部改正。別表５の納入金等の一部改正。)

この学則(改正)は、平成17年４月１日から実施する。ただし、第29条の休学期間中の学費の取扱は、平成17年度の在籍者から適用する。

平成18年４月１日(学則条文第３条の変更、第10条、第46条の一部改正。別表２の工学部授業科目、別表３のシステム工学部授業科目、別表４の学部・学科別卒業要

件、別表５の納入金等の一部改正。）

この学則(改正)は、平成18年４月１日から実施する。

平成19年４月１日(学則条文第38条並びに第43条の一部改正。別表２の工学部授業科目、別表３のシステム工学部授業科目、別表４の学部・学科別卒業要件、別表５の納入金等の一部改正。）

この学則(改正)は、平成19年４月１日から実施する。

平成20年４月１日(学則条文第１条、第４条、第18条、第34条、第36条、の一部改正。別表１収容定員、別表２の工学部授業科目、別表３システム工学部授業科目、別表４の学部学科別・卒業要件の変更、別表５の納入金の一部改正、別表６学位の種類の追加。）

この学則(改正)は、平成20年４月１日から施行する。

平成21年４月１日(学則条文第29条、第46条、別表６の一部改正。デザイン工学部設置、システム工学部数理科学科設置、工学部機械工学第二学科名称変更、システム工学部名称変更、収容定員の変更に係る学則第４条、第10条、第17条、第18条、第34条、第51条の一部改正。別表１収容定員、別表２の工学部授業科目、別表３システムの工学部授業科目、別表４のデザイン工学部授業科目、別表５学部学科別・卒業要件の変更、別表７学位の種類の一部追加ならびに改正。）

工学部機械工学第二学科は、平成21年３月31日に当該学科に在学するものが当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

システム工学部は、平成21年３月31日

件、別表５の納入金等の一部改正。）

この学則(改正)は、平成18年４月１日から実施する。

平成19年４月１日(学則条文第38条並びに第43条の一部改正。別表２の工学部授業科目、別表３のシステム工学部授業科目、別表４の学部・学科別卒業要件、別表５の納入金等の一部改正。）

この学則(改正)は、平成19年４月１日から実施する。

平成20年４月１日(学則条文第１条、第４条、第18条、第34条、第36条、の一部改正。別表１収容定員、別表２の工学部授業科目、別表３システム工学部授業科目、別表４の学部学科別・卒業要件の変更、別表５の納入金の一部改正、別表６学位の種類の追加。）

この学則(改正)は、平成20年４月１日から施行する。

平成21年４月１日(学則条文第29条、第46条、別表６の一部改正。デザイン工学部設置、システム工学部数理科学科設置、工学部機械工学第二学科名称変更、システム工学部名称変更、収容定員の変更に係る学則第４条、第10条、第17条、第18条、第34条、第51条の一部改正。別表１収容定員、別表２の工学部授業科目、別表３システムの工学部授業科目、別表４のデザイン工学部授業科目、別表５学部学科別・卒業要件の変更、別表７学位の種類の一部追加ならびに改正。）

工学部機械工学第二学科は、平成21年３月31日に当該学科に在学するものが当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

システム工学部は、平成21年３月31日

に在学するものが、当該学部に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

この学則(改正)は、平成21年４月１日から実施する。

ただし、別表６納入金の取り扱いは、平成21年度の在籍者から適用する。

平成22年４月１日(条項に項目(見出し)を追加。認証評価に係る学則第１条の３の追加。SIT総合研究所に係る学則第７条の２の追加。学部等における教育研究上の目に係る学則第10条の追加。教育課程編成方針に係る学則第11条の追加。成績評価基準等の明示等に係る学則第12条の追加。教育内容等改善のための組織的研修等に係る学則第15条の追加。学則条文第21条、第30条、第63条の一部改正。学則第65条と第66条の入れ替え。学部等における教育研究上の目に係る別表２の追加。別表３工学部授業科目、別表４システム理工学部授業科目、別表５のデザイン工学部授業科目、別表６学部学科別・卒業要件の変更。)

この学則(改正)は、平成22年４月１日から適用する。

平成23年４月１日(学長に係る学則第43条の追加。公開講座に係る学則第59条の削除。学期係る学則第62条第２項の追加。別表２芝浦工業大学における教育研究上の目的、別表３工学部授業科目、別表４システム理工学部授業科目、別表５デザイン工学部授業科目、別表６学部学科別・卒業要件の変更。)

この学則(改正)は、平成23年４月１日から適用する。

平成24年４月１日(学則条文第８条の変更。別表２学部等における教育研究上の目

に在学するものが、当該学部に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

この学則(改正)は、平成21年４月１日から実施する。

ただし、別表６納入金の取り扱いは、平成21年度の在籍者から適用する。

平成22年４月１日(条項に項目(見出し)を追加。認証評価に係る学則第１条の３の追加。SIT総合研究所に係る学則第７条の２の追加。学部等における教育研究上の目に係る学則第10条の追加。教育課程編成方針に係る学則第11条の追加。成績評価基準等の明示等に係る学則第12条の追加。教育内容等改善のための組織的研修等に係る学則第15条の追加。学則条文第21条、第30条、第63条の一部改正。学則第65条と第66条の入れ替え。学部等における教育研究上の目に係る別表２の追加。別表３工学部授業科目、別表４システム理工学部授業科目、別表５のデザイン工学部授業科目、別表６学部学科別・卒業要件の変更。)

この学則(改正)は、平成22年４月１日から適用する。

平成23年４月１日(学長に係る学則第43条の追加。公開講座に係る学則第59条の削除。学期係る学則第62条第２項の追加。別表２芝浦工業大学における教育研究上の目的、別表３工学部授業科目、別表４システム理工学部授業科目、別表５デザイン工学部授業科目、別表６学部学科別・卒業要件の変更。)

この学則(改正)は、平成23年４月１日から適用する。

平成24年４月１日(学則条文第８条の変更。別表２学部等における教育研究上の目

的、別表３工学部授業科目、別表４システム理工学部授業科目、別表５デザイン工学部授業科目、別表６学部学科別・卒業要件の変更。)

この学則(改正)は、平成24年４月１日から実施する。

教育イノベーション推進センター設置にともない教育支援センターは廃止する。

平成25年４月１日別表２学部等における教育研究上の目的、別表３工学部授業科目、別表４システム理工学部授業科目、別表５デザイン工学部授業科目、別表６学部学科別・卒業要件の変更。学則条文第８条の変更)

この学則(改正)は、平成25年４月１日から実施する。

平成26年４月１日(学則第11条の２に副専攻プログラムを追加。学則第16条の一部改正。学則第23条入学時期の一部改正。別表２学部等における教育研究上の目的、別表３工学部授業科目、別表４システム理工学部授業科目、別表５デザイン工学部授業科目、別表６学部学科別・卒業要件の変更。)

この学則(改正)は、平成26年４月１日から実施する。

平成27年４月１日(学校教育法および同施行規則改正に伴う変更)学則第43条学長の権限と責任、及び同第43条の２副学長職務についての追加。同44条から同48条まで教授会の役割について改正および一部削除。同50条大学協議会の役割について一部改正。

この学則(改正)は、平成27年４月１日から実施する。

的、別表３工学部授業科目、別表４システム理工学部授業科目、別表５デザイン工学部授業科目、別表６学部学科別・卒業要件の変更。)

この学則(改正)は、平成24年４月１日から実施する。

教育イノベーション推進センター設置にともない教育支援センターは廃止する。

平成25年４月１日別表２学部等における教育研究上の目的、別表３工学部授業科目、別表４システム理工学部授業科目、別表５デザイン工学部授業科目、別表６学部学科別・卒業要件の変更。学則条文第８条の変更)

この学則(改正)は、平成25年４月１日から実施する。

平成26年４月１日(学則第11条の２に副専攻プログラムを追加。学則第16条の一部改正。学則第23条入学時期の一部改正。別表２学部等における教育研究上の目的、別表３工学部授業科目、別表４システム理工学部授業科目、別表５デザイン工学部授業科目、別表６学部学科別・卒業要件の変更。)

この学則(改正)は、平成26年４月１日から実施する。

平成27年４月１日(学校教育法および同施行規則改正に伴う変更)学則第43条学長の権限と責任、及び同第43条の２副学長職務についての追加。同44条から同48条まで教授会の役割について改正および一部削除。同50条大学協議会の役割について一部改正。

この学則(改正)は、平成27年４月１日から実施する。

平成28年４月１日(学則第３条の変更。先端工学研究機構に係る学則第７条の１及び２の削除。学則第16条を単位、各授業科目の授業期間、授業の方法に分類。学則第16条２に卒業論文等の授業科目に係わる単位数及び履修科目として登録できる単位数上限を追加。学則第16条の３に授業の方法を追加。学則第17条の一部改正。学則第18条の２の一部改正。学則第21条の一部改正。学則第24条の一部改正。学則第27条の一部改正。学則第28条の一部改正。学則第31条の一部改正。別表３工学部授業科目、別表４システム理工学部授業科目、別表５デザイン工学部授業科目の変更。)

この学則(改正)は、平成28年４月１日から実施する。

平成28年６月15日(学則第43条の３を追加)

この学則(改正)は、平成28年６月15日から実施する。

平成28年６月15日(学則第44条の２を追加)

この学則(改正)は、平成28年６月15日から実施する。

平成28年６月15日(学則第48条の(6)学部長選挙に関する事項の削除)

この学則(改正)は、平成28年６月15日から実施する。

平成29年４月１日(建築学部設置及び収容定員の変更に係る学則第４条、第13条、第21条、第22条、第38条、第50条の２、第55条の改正。別表１収容定員、別表２教育研究上の目的、別表６建築学部授業科目、別表７学部・学科別卒業要件、別表８納入金、別表９学位の種類の一部追加ならびに改正。)

工学部建築学科及び建築工学科は、平

平成28年４月１日(学則第３条の変更。先端工学研究機構に係る学則第７条の１及び２の削除。学則第16条を単位、各授業科目の授業期間、授業の方法に分類。学則第16条２に卒業論文等の授業科目に係わる単位数及び履修科目として登録できる単位数上限を追加。学則第16条の３に授業の方法を追加。学則第17条の一部改正。学則第18条の２の一部改正。学則第21条の一部改正。学則第24条の一部改正。学則第27条の一部改正。学則第28条の一部改正。学則第31条の一部改正。別表３工学部授業科目、別表４システム理工学部授業科目、別表５デザイン工学部授業科目の変更。)

この学則(改正)は、平成28年４月１日から実施する。

平成28年６月15日(学則第43条の３を追加)

この学則(改正)は、平成28年６月15日から実施する。

平成28年６月15日(学則第44条の２を追加)

この学則(改正)は、平成28年６月15日から実施する。

平成28年６月15日(学則第48条の(6)学部長選挙に関する事項の削除)

この学則(改正)は、平成28年６月15日から実施する。

平成29年４月１日(建築学部設置及び収容定員の変更に係る学則第４条、第13条、第21条、第22条、第38条、第50条の２、第55条の改正。別表１収容定員、別表２教育研究上の目的、別表６建築学部授業科目、別表７学部・学科別卒業要件、別表８納入金、別表９学位の種類の一部追加ならびに改正。)

工学部建築学科及び建築工学科は、平

成29年３月31日に在学するものが、当該学部に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

この学則(改正)は、平成29年４月１日から実施する。

平成30年４月１日(工学部通信工学科名称変更に係る学則条文第４条の一部変更。別表の収容定員、授業科目(教職課程を含む)、単位数、学部・学科別卒業要件、納入金等の一部変更)、当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。第７節　大学協議会廃止に係わる学部長・研究科長会議の役割について一部改正。第８節　科目等履修生・委託生・研究生の一部改正および項目削除。

この学則(改正)は、平成30年４月１日から実施する。

平成31年４月１日(兵役義務により休学する場合の学費免除に係る第32条第１項、第33条の一部改正)

この学則(改正)は、平成31年４月１日から実施する。

令和２年４月１日(工学部先進国際課程の設置に係わる学則条文第４条、10条、27条、28条、別表１収容定員、別表２芝浦工業大学における教育研究上の目的、別表３工学部授業科目(教職課程含む)、別表７学部・学科別卒業要件、別表８納入金、別表９学位の種類の一部追加ならびに改正)

この学則(改正)は、令和２年４月１日から実施する。

令和３年４月１日(別表７工学部・システム理工学部・建築学部卒業要件の一部追加ならびに改正)

この学則(改正)は、令和３年４月１日か

成29年３月31日に在学するものが、当該学部に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

この学則(改正)は、平成29年４月１日から実施する。

平成30年４月１日(工学部通信工学科名称変更に係る学則条文第４条の一部変更。別表の収容定員、授業科目(教職課程を含む)、単位数、学部・学科別卒業要件、納入金等の一部変更)、当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。第７節　大学協議会廃止に係わる学部長・研究科長会議の役割について一部改正。第８節　科目等履修生・委託生・研究生の一部改正および項目削除。

この学則(改正)は、平成30年４月１日から実施する。

平成31年４月１日(兵役義務により休学する場合の学費免除に係る第32条第１項、第33条の一部改正)

この学則(改正)は、平成31年４月１日から実施する。

令和２年４月１日(工学部先進国際課程の設置に係わる学則条文第４条、10条、27条、28条、別表１収容定員、別表２芝浦工業大学における教育研究上の目的、別表３工学部授業科目(教職課程含む)、別表７学部・学科別卒業要件、別表８納入金、別表９学位の種類の一部追加ならびに改正)

この学則(改正)は、令和２年４月１日から実施する。

令和３年４月１日(別表７工学部・システム理工学部・建築学部卒業要件の一部追加ならびに改正)

この学則(改正)は、令和３年４月１日か

ら実施する。

令和４年４月１日(休学に係わる学則条文第32条、休学期間中の学費に係わる学則条文第33条の一部変更。別表３工学部授業科目、別表４システム理工学部授業科目、別表５デザイン工学部授業科目、別表６建築学部授業科目、別表７工学部・システム理工学部・デザイン工学部・建築学部卒業要件、別表８納入金の一部追加ならびに改正)

この学則(改正)は、令和４年４月１日から実施する。ただし、第33条休学期間中の学費の取扱は、令和４年度の在籍者から適用する。

令和５年４月１日(自己点検・評価等に係わる学則条文第１条の２、設置等に係わる学則条文第３条の住所、教育課程に係わる学則条文第13条別表３工学部授業科目、別表４システム理工学部授業科目、別表５デザイン工学部授業科目、別表６建築学部授業科目、卒業認定に係る学則条文第21条別表７システム理工学部卒業要件、学費等に係る学則条文第38条別表８科目等履修生の学費等の一部改正)

この学則(改定)は、令和５年４月１日から実施する。

令和６年４月１日(学校教育法施行規則第165条の２第１項に定める方針に係わる学則条文第１条の４、学部等における教育研究上の目的及び方針に係わる学則条文第10条、教育課程の編成に係わる学則条文第11条、授業期間に係わる学則条文第16条の２、芝浦工業大学における三つの方針に係わる別表２―１、学部等における教育研究上の目的及び方針に係わる別表２―２、工学部５課程の設置に係わる学則

ら実施する。

令和４年４月１日(休学に係わる学則条文第32条、休学期間中の学費に係わる学則条文第33条の一部変更。別表３工学部授業科目、別表４システム理工学部授業科目、別表５デザイン工学部授業科目、別表６建築学部授業科目、別表７工学部・システム理工学部・デザイン工学部・建築学部卒業要件、別表８納入金の一部追加ならびに改正)

この学則(改正)は、令和４年４月１日から実施する。ただし、第33条休学期間中の学費の取扱は、令和４年度の在籍者から適用する。

令和５年４月１日(自己点検・評価等に係わる学則条文第１条の２、設置等に係わる学則条文第３条の住所、教育課程に係わる学則条文第13条別表３工学部授業科目、別表４システム理工学部授業科目、別表５デザイン工学部授業科目、別表６建築学部授業科目、卒業認定に係る学則条文第21条別表７システム理工学部卒業要件、学費等に係る学則条文第38条別表８科目等履修生の学費等の一部改正)

この学則(改定)は、令和５年４月１日から実施する。

令和６年４月１日(学校教育法施行規則第165条の２第１項に定める方針に係わる学則条文第１条の４、学部等における教育研究上の目的及び方針に係わる学則条文第10条、教育課程の編成に係わる学則条文第11条、授業期間に係わる学則条文第16条の２、芝浦工業大学における三つの方針に係わる別表２―１、学部等における教育研究上の目的及び方針に係わる別表２―２、工学部５課程の設置に係わる学則

条文第４条、別表１収容定員、別表３工学部授業科目(教職課程含む)、別表７学部・課程・学科別卒業要件、別表９学位の種類の一部追加ならびに改正)工学部機械工学科及び機械機能工学科・材料工学科・応用化学科・電気工学科・情報通信工学科・電子工学科・土木工学科・情報工学科は、令和６年３月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

この学則(改定)は、令和６年４月１日から実施する。

この学則(改定)は、令和７年４月１日から実施する。

この学則(改定)は、令和８年４月１日から実施する。

別表

別表1……収容定員

別表2―1……芝浦工業大学における三つの方針

別表2―2……学部等における教育研究上の目的及び方針

別表3……工学部授業科目(教職課程含む)

別表4……システム理工学部授業科目(教職課程含む)

別表5……デザイン工学部授業科目(教職課程含む)

別表6……建築学部授業科目

別表7……学部・課程・学科別卒業要件

別表8……納入金

別表9……学位の種類

別表1

収容定員

学部	課程・学科名	入学定員	収容定員
工学部	機械工学課	228	912

条文第４条、別表１収容定員、別表３工学部授業科目(教職課程含む)、別表７学部・課程・学科別卒業要件、別表９学位の種類の一部追加ならびに改正)工学部機械工学科及び機械機能工学科・材料工学科・応用化学科・電気工学科・情報通信工学科・電子工学科・土木工学科・情報工学科は、令和６年３月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

この学則(改定)は、令和６年４月１日から実施する。

この学則(改定)は、令和７年４月１日から実施する。

（追加）

別表

別表1……収容定員

別表2―1……芝浦工業大学における三つの方針

別表2―2……学部等における教育研究上の目的及び方針

別表3……工学部授業科目(教職課程含む)

別表4……システム理工学部授業科目(教職課程含む)

別表5……デザイン工学部授業科目(教職課程含む)

別表6……建築学部授業科目

別表7……学部・課程・学科別卒業要件

別表8……納入金

別表9……学位の種類

別表1

収容定員

学部	課程・学科名	入学定員	収容定員
工学部	機械工学課	228	912

	程		
	物資化学課程	208	832
	電気電子工学課程	208	832
	情報・通信工学課程	218	872
	土木工学課程	104	416
	先進国際課程	9	36
	合計	975名	3,900名
システム理工学部	電子情報システム学科	115	460
	機械制御システム学科	90	360
	環境システム学科	90	360
	生命科学課程	180	720
	数理科学科	75	300
	合計	550名	2,200名
デザイン工学部	デザイン工学科	160	640
	合計	160名	640名
建築学部	建築学科	240	960
	合計	240名	960名

別表2―1

芝浦工業大学における三つの方針

大学の目的

本学は教育基本法及び学校教育法の定めるところにより、学術の中心として深く工学の研究を行い世界文化に貢献し、併せて広く一般の学術教養と専門の工業教育を施すことにより、学生の人格を陶冶し、学理

	程		
	物資化学課程	208	832
	電気電子工学課程	208	832
	情報・通信工学課程	218	872
	土木工学課程	104	416
	先進国際課程	9	36
	合計	975名	3,900名
システム理工学部	電子情報システム学科	115	460
	機械制御システム学科	90	360
	環境システム学科	90	360
	生命科学科	115	460
	数理科学科	75	300
	合計	485名	1,940名
デザイン工学部	デザイン工学科	160	640
	合計	160名	640名
建築学部	建築学科	240	960
	合計	240名	960名

別表2―1

芝浦工業大学における三つの方針

大学の目的

本学は教育基本法及び学校教育法の定めるところにより、学術の中心として深く工学の研究を行い世界文化に貢献し、併せて広く一般の学術教養と専門の工業教育を施すことにより、学生の人格を陶冶し、学理

を究めさせ体位の向上を図り、もって優秀なる技術者を養成することを目的とする。 (芝浦工業大学学則第１条第１項)	
三つの方針	
卒業の認定に関する方針 (ディプロマ・ポリシー)	芝浦工業大学は、理工学の基礎知識及び幅広い専門分野の知識を活用して、持続型社会の実現のために世界の諸問題を解決できるとともに、建学の精神に謳われる社会に貢献する理工学人材にふさわしい能力を有し、卒業要件を満たしたものに学位を授与します。 (学修・教育目標) ・世界と社会の多様性を認識し、高い倫理観を持った理工学人材として行動できる。 ・問題を特定し、問題解決に必要な知識・スキルを認識し、不足分を自己学修し、社会・経済的制約条件を踏まえ、基礎科学と専門知識を運用し、問題を解決できる。 ・関係する人々とのコミュニケーションを図り、チームで仕事ができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	芝浦工業大学は、学位授与の方針に掲げる知識・スキル・能力・態度を修得させるため、講義、演習、実験、実習により体系的にカリキュラムを編成します。学生の主体的・能動的な学修・研究を促す教育方法を実施し、その学修成果を多面的に評価し、学生の振り返りを促すことにより、学修・教育到達目標を達成します。
入学者の受入	芝浦工業大学へ入学を志望する受験生は、本学の建学の精神と以下に

を究めさせ体位の向上を図り、もって優秀なる技術者を養成することを目的とする。 (芝浦工業大学学則第１条第１項)	
三つの方針	
卒業の認定に関する方針 (ディプロマ・ポリシー)	芝浦工業大学は、理工学の基礎知識及び幅広い専門分野の知識を活用して、持続型社会の実現のために世界の諸問題を解決できるとともに、建学の精神に謳われる社会に貢献する理工学人材にふさわしい能力を有し、卒業要件を満たしたものに学位を授与します。 (学修・教育目標) ・世界と社会の多様性を認識し、高い倫理観を持った理工学人材として行動できる。 ・問題を特定し、問題解決に必要な知識・スキルを認識し、不足分を自己学修し、社会・経済的制約条件を踏まえ、基礎科学と専門知識を運用し、問題を解決できる。 ・関係する人々とのコミュニケーションを図り、チームで仕事ができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	芝浦工業大学は、学位授与の方針に掲げる知識・スキル・能力・態度を修得させるため、講義、演習、実験、実習により体系的にカリキュラムを編成します。学生の主体的・能動的な学修・研究を促す教育方法を実施し、その学修成果を多面的に評価し、学生の振り返りを促すことにより、学修・教育到達目標を達成します。
入学者の受入	芝浦工業大学へ入学を志望する受験生は、本学の建学の精神と以下に

れに関する方針(アドミッション・ポリシー)	挙げる「求める人物像」を理解し、さらに各学部の教育方針、学科のカリキュラム、教育および研究の内容をよく理解して出願することが望まれます。 本学が求める人物像を以下に示します。 ・本学での学修、研究を強く希望し、本学で自己成長・自己実現を成そうと希望する人。 ・数学および自然科学(物理学、化学、生物学などの科目)の基礎を学び、理工学と科学技術に対して強い興味関心を持ち、将来この学問を通じて我が国と世界の持続的発展に貢献しようという意思を持つ人。 ・大学において幅広い教養と経験、さらにコミュニケーション能力を身につけ、世界が多様であることを意識しながら市民社会の一員としての責務を自覚し、人類の進歩と地球環境の保全に尽くすとの気概を持つ人 上記に賛同し、本学への入学を希望する人は、高等学校等において以下の能力等を身につけておくことが望まれます。 (1) 高等学校等の課程で学ぶ知識・技能(特に外国語、数学、理科) (2) 思考力・判断力・表現力等の能力 (3) 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度 ・一般選抜の前期日程、英語資格・	れに関する方針(アドミッション・ポリシー)	挙げる「求める人物像」を理解し、さらに各学部の教育方針、学科のカリキュラム、教育および研究の内容をよく理解して出願することが望まれます。 本学が求める人物像を以下に示します。 ・本学での学修、研究を強く希望し、本学で自己成長・自己実現を成そうと希望する人。 ・数学および自然科学(物理学、化学、生物学などの科目)の基礎を学び、理工学と科学技術に対して強い興味関心を持ち、将来この学問を通じて我が国と世界の持続的発展に貢献しようという意思を持つ人。 ・大学において幅広い教養と経験、さらにコミュニケーション能力を身につけ、世界が多様であることを意識しながら市民社会の一員としての責務を自覚し、人類の進歩と地球環境の保全に尽くすとの気概を持つ人 上記に賛同し、本学への入学を希望する人は、高等学校等において以下の能力等を身につけておくことが望まれます。 (1) 高等学校等の課程で学ぶ知識・技能(特に外国語、数学、理科) (2) 思考力・判断力・表現力等の能力 (3) 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度 ・一般選抜の前期日程、英語資格・

	検定試験利用方式、全学統一日程、後期日程では、(1)及び(2)を評価します。 ・一般入試の大学入学共通テスト利用方式では、多科目の成績により(1)及び(2)を評価します。 ・総合型選抜では、筆記試験や外部検定試験などにより(1)及び(2)を評価し、面接や口頭試問などにより(1)及び(2)、(3)を総合的に評価します。 ・学校推薦型選抜では、調査書や外部検定試験などにより(1)及び(2)を評価し、面接や口頭試問などにより(1)及び(2)、(3)を総合的に評価します。

別表2―2

学部等における教育研究上の目的及び方針

1　工学部

人材の育成及び教育研究上の目的
工学部では、現代社会が抱える様々な課題を自ら発見、解決する工学技術者を養成するため、確かな基礎学力に基づく各専門分野の高い専門能力に加え、工学部内の多彩な専門分野を横断的に学べる新たな教育プログラムにより学際的な思考能力を涵養する。さらに、修得した分野横断的知識に加え、研究を軸とした実践型教育により課題解決能力を高め、様々な課題の本質を捉え、学際的アプローチにより解決する能力を涵養し、持続可能な社会の発展に、多様な価値観と高い倫理観をもって貢献する創造性豊かな人材を養成する。 具体的には、卒業までに以下に挙げる能力を持った人材を養成することを教育研究上の目

	検定試験利用方式、全学統一日程、後期日程では、(1)及び(2)を評価します。 ・一般入試の大学入学共通テスト利用方式では、多科目の成績により(1)及び(2)を評価します。 ・総合型選抜では、筆記試験や外部検定試験などにより(1)及び(2)を評価し、面接や口頭試問などにより(1)及び(2)、(3)を総合的に評価します。 ・学校推薦型選抜では、調査書や外部検定試験などにより(1)及び(2)を評価し、面接や口頭試問などにより(1)及び(2)、(3)を総合的に評価します。

別表2―2

学部等における教育研究上の目的及び方針

1　工学部

人材の育成及び教育研究上の目的
工学部では、現代社会が抱える様々な課題を自ら発見、解決する工学技術者を養成するため、確かな基礎学力に基づく各専門分野の高い専門能力に加え、工学部内の多彩な専門分野を横断的に学べる新たな教育プログラムにより学際的な思考能力を涵養する。さらに、修得した分野横断的知識に加え、研究を軸とした実践型教育により課題解決能力を高め、様々な課題の本質を捉え、学際的アプローチにより解決する能力を涵養し、持続可能な社会の発展に、多様な価値観と高い倫理観をもって貢献する創造性豊かな人材を養成する。 具体的には、卒業までに以下に挙げる能力を持った人材を養成することを教育研究上の目

的とする。 ・工学専門教育の修得に必要な基礎学力・教養を身に付けている。 (豊かな教養を涵養する学修) ・工学の専門知識と論理的思考法を体系的に学び、身に付けている。 (工学知識の体系的学修) ・複数分野の知識を修得し、学際的な思考能力を身に付けている。 (分野横断的知識の修得) ・研究を通じ、課題を発見・解決し、未踏分野に挑戦できる力を身に付けている。 (創造性の育成) ・社会の要求、多様な価値観を理解し、他者と協働して主体的に行動できる能力を身に付けている。(他者との共生)	的とする。 ・工学専門教育の修得に必要な基礎学力・教養を身に付けている。 (豊かな教養を涵養する学修) ・工学の専門知識と論理的思考法を体系的に学び、身に付けている。 (工学知識の体系的学修) ・複数分野の知識を修得し、学際的な思考能力を身に付けている。 (分野横断的知識の修得) ・研究を通じ、課題を発見・解決し、未踏分野に挑戦できる力を身に付けている。 (創造性の育成) ・社会の要求、多様な価値観を理解し、他者と協働して主体的に行動できる能力を身に付けている。(他者との共生)
三つの方針	三つの方針
卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)	工学部は、確かな基礎学力に基づく高い専門能力を備え、社会が抱えるさまざまな課題を発見・解決することで、持続可能な社会の発展に貢献する創造性豊かな人材を育成します。そして以下の能力を身に付けて卒業要件を満たした者に、学位を授与します。 1. 豊かな人格形成の基本と基礎的な学力を備え、課題を自ら発見し、関係する人々と意思疎通を図りながら協働できる。 2. 工学の本質の体系的な理解に加え、分野横断的な知識による多様な手法によって課題の核心に迫り、その解決方法を導き出せる。 3. 工学技術者教育や研究を軸とした実践型教育を通じ、社会の多
卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)	工学部は、確かな基礎学力に基づく高い専門能力を備え、社会が抱えるさまざまな課題を発見・解決することで、持続可能な社会の発展に貢献する創造性豊かな人材を育成します。そして以下の能力を身に付けて卒業要件を満たした者に、学位を授与します。 1. 豊かな人格形成の基本と基礎的な学力を備え、課題を自ら発見し、関係する人々と意思疎通を図りながら協働できる。 2. 工学の本質の体系的な理解に加え、分野横断的な知識による多様な手法によって課題の核心に迫り、その解決方法を導き出せる。 3. 工学技術者教育や研究を軸とした実践型教育を通じ、社会の多

	様性を認識して高い倫理観を持った理工学人材として行動できる。		様性を認識して高い倫理観を持った理工学人材として行動できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)	工学部ではディプロマ・ポリシーに掲げる能力を身に付けるため、以下の教育課程の編成、教育内容・方法および学修成果の評価に基づいた教育を実施します。 教育課程の編成 教育課程を「基礎・教養科目」と「専門科目」に区分し、工学を体系的に学修できるように科目を以下のように配置する。 「基礎・教養科目」は、「数理基礎科目」「英語科目」「情報科目」「人文社会系教養科目」「体育健康科目」「工学部共通教養科目」の細区分で構成した科目を配置する。また「専門科目」は、「工学部共通専門科目」「自コース専門科目」「他コース専門科目」の細区分で構成した科目を配置する。 教育内容・方法の実施 ・技術者として必要な基礎能力を得るため、各科目で質の高い授業を展開する。 ・「数理基礎科目」「英語科目」「情報科目」「人文社会系教養科目」により、工学の専門教育の修得に必要な基礎学力・教養・倫理観を涵養する。 「体育健康科目」「工学部共通教養科目」により社会の要求、多様な価値観を理解し、他者と協働して主体的に行動できる能力	教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)	工学部ではディプロマ・ポリシーに掲げる能力を身に付けるため、以下の教育課程の編成、教育内容・方法および学修成果の評価に基づいた教育を実施します。 教育課程の編成 教育課程を「基礎・教養科目」と「専門科目」に区分し、工学を体系的に学修できるように科目を以下のように配置する。 「基礎・教養科目」は、「数理基礎科目」「英語科目」「情報科目」「人文社会系教養科目」「体育健康科目」「工学部共通教養科目」の細区分で構成した科目を配置する。また「専門科目」は、「工学部共通専門科目」「自コース専門科目」「他コース専門科目」の細区分で構成した科目を配置する。 教育内容・方法の実施 ・技術者として必要な基礎能力を得るため、各科目で質の高い授業を展開する。 ・「数理基礎科目」「英語科目」「情報科目」「人文社会系教養科目」により、工学の専門教育の修得に必要な基礎学力・教養・倫理観を涵養する。 「体育健康科目」「工学部共通教養科目」により社会の要求、多様な価値観を理解し、他者と協働して主体的に行動できる能力

	を育成する。 ・「専門科目」では工学の専門知識と論理的思考法を体系的に学び、身に付ける。また未踏分野に挑戦し、社会における課題を自ら発見、社会の多様性を認識しながら他者と協働して解決できる創造性豊かな技術者を養成するため、研究を軸とした実践型教育を実施する。 ・複数分野の知識を修得した学際的な思考能力を養成するため、技術者に必要な分野横断的知識を学修する。具体的には、所属するコースの専門科目に加えて所属するコース以外の専門科目履修も可能とする。 ・カリキュラムツリーを示し、学修・教育到達目標に応じた科目履修の理解を促す。 学修成果の評価 ・単位制を採用し、学修成果を総合的に評価する。 ・各コースに設定した学修・教育到達目標、各授業科目の達成目標に対して、学修成果が一定のレベルに達した際に単位を付与する。 ・所属するコース以外からの専門科目を履修し、所定の条件を満たした場合に副コース認定を行う。		を育成する。 ・「専門科目」では工学の専門知識と論理的思考法を体系的に学び、身に付ける。また未踏分野に挑戦し、社会における課題を自ら発見、社会の多様性を認識しながら他者と協働して解決できる創造性豊かな技術者を養成するため、研究を軸とした実践型教育を実施する。 ・複数分野の知識を修得した学際的な思考能力を養成するため、技術者に必要な分野横断的知識を学修する。具体的には、所属するコースの専門科目に加えて所属するコース以外の専門科目履修も可能とする。 ・カリキュラムツリーを示し、学修・教育到達目標に応じた科目履修の理解を促す。 学修成果の評価 ・単位制を採用し、学修成果を総合的に評価する。 ・各コースに設定した学修・教育到達目標、各授業科目の達成目標に対して、学修成果が一定のレベルに達した際に単位を付与する。 ・所属するコース以外からの専門科目を履修し、所定の条件を満たした場合に副コース認定を行う。
入学者の受入れに関する方針	工学部では知識偏重教育ではなく、実践型教育による課題解決型人材の輩出に力点を置いた教育を行なっています。そのため、本学	入学者の受入れに関する方針	工学部では知識偏重教育ではなく、実践型教育による課題解決型人材の輩出に力点を置いた教育を行なっています。そのため、本学

(アドミッション・ポリシー)	の建学の精神と工学部の教育方針、各コースのカリキュラム、教育・研究の内容をよく理解した、以下のような学生を求めます。 (工学部が求める人物像) ・工学部での学修・研究を強く志望し、関連する教育分野における基礎学力を身に付けた人 ・工学各分野における技術と、その基礎・応用に興味がある人 ・実際に対象に触れ、実践的に学修・研究することに価値を見出す人 ・国際的な視野を持って社会の課題解決に主体的に取り組み、人類や社会の持続的発展に貢献しようという意志を持つ人

課程

課程名	人材の育成及び教育研究上の目的
機械工学課程	科学技術の現状や社会の要望をグローバルな視点で捉え、環境や感性との調和に配慮しながら、機械工学の学理を用いて有用な機械やシステムを創成できる人材を養成する。 具体的には、卒業までに以下のような人材を養成することを教育研究上の目的とする。 ・機械工学に関わる数理知識を用いて機械のメカニズムを理解する能力と、それらを活用して有用な機能を創成できる設計能力を身に付けている。 ・社会や環境との関わりに配慮して機械工学の必要性を常に見直すことができる倫理観および責

(アドミッション・ポリシー)	の建学の精神と工学部の教育方針、各コースのカリキュラム、教育・研究の内容をよく理解した、以下のような学生を求めます。 (工学部が求める人物像) ・工学部での学修・研究を強く志望し、関連する教育分野における基礎学力を身に付けた人 ・工学各分野における技術と、その基礎・応用に興味がある人 ・実際に対象に触れ、実践的に学修・研究することに価値を見出す人 ・国際的な視野を持って社会の課題解決に主体的に取り組み、人類や社会の持続的発展に貢献しようという意志を持つ人

課程

課程名	人材の育成及び教育研究上の目的
機械工学課程	科学技術の現状や社会の要望をグローバルな視点で捉え、環境や感性との調和に配慮しながら、機械工学の学理を用いて有用な機械やシステムを創成できる人材を養成する。 具体的には、卒業までに以下のような人材を養成することを教育研究上の目的とする。 ・機械工学に関わる数理知識を用いて機械のメカニズムを理解する能力と、それらを活用して有用な機能を創成できる設計能力を身に付けている。 ・社会や環境との関わりに配慮して機械工学の必要性を常に見直すことができる倫理観および責

	任感を持ち、グローバルな視点から多面的に科学技術を捉える能力を身に付けている。 ・工学的な問題に対して機械工学の見地から取り組むべき事柄を整理し、与えられた条件の下で様々な分野の知識を関連付けて課題解決に適用できる能力を身に付けている。 ・地球的視野から科学技術の現状を捉えて能動的に考え分析し、社会の発展に向けて行動することができる研究推進能力を身に付けている。 ・多様性を尊重し他者と協調して活動できる能力と、意思疎通を図りながら自らの判断や意見について説明できるコミュニケーション能力を身に付けている。 ・技術的課題の探求に関心を持ち、情報環境等を利用して継続的に自己学修できる能力を身に付けている。		任感を持ち、グローバルな視点から多面的に科学技術を捉える能力を身に付けている。 ・工学的な問題に対して機械工学の見地から取り組むべき事柄を整理し、与えられた条件の下で様々な分野の知識を関連付けて課題解決に適用できる能力を身に付けている。 ・地球的視野から科学技術の現状を捉えて能動的に考え分析し、社会の発展に向けて行動することができる研究推進能力を身に付けている。 ・多様性を尊重し他者と協調して活動できる能力と、意思疎通を図りながら自らの判断や意見について説明できるコミュニケーション能力を身に付けている。 ・技術的課題の探求に関心を持ち、情報環境等を利用して継続的に自己学修できる能力を身に付けている。
物質化学課程	環境・物質工学分野ならびに化学・生命工学分野における広範囲な産業界に適用し、柔軟な対応力に加え、即戦力、実践力を持って活躍できる人材、社会の財産となりうる人材を養成する。 具体的には、卒業までに以下のような人材を養成することを教育研究上の目的とする。 ・物質化学を基盤とする自然科学ならびに工学にかかわる幅広い視野を育み、広範囲な領域の課題を探求する姿勢と技術を身に	物質化学課程	環境・物質工学分野ならびに化学・生命工学分野における広範囲な産業界に適用し、柔軟な対応力に加え、即戦力、実践力を持って活躍できる人材、社会の財産となりうる人材を養成する。 具体的には、卒業までに以下のような人材を養成することを教育研究上の目的とする。 ・物質化学を基盤とする自然科学ならびに工学にかかわる幅広い視野を育み、広範囲な領域の課題を探求する姿勢と技術を身に

	付けている。 ・物質化学の体系的な理解・整理と生産技術の開発・管理を基に、環境保全や生命工学を含めた分野における課題を見出し、問題を解決する能力を身に付けている。 ・物質化学の幅広い分野において、境界領域や融合領域および未踏科学分野に、創造力を持って積極的に取り組む姿勢や能力を身に付けている。 ・高度な知性に加え、産業界での即戦力となる創造性豊かな実践力を身に付けている。 ・社会における責任感と倫理感、他者との協力・協働の姿勢を基に、社会貢献できる能力を身に付けている。		付けている。 ・物質化学の体系的な理解・整理と生産技術の開発・管理を基に、環境保全や生命工学を含めた分野における課題を見出し、問題を解決する能力を身に付けている。 ・物質化学の幅広い分野において、境界領域や融合領域および未踏科学分野に、創造力を持って積極的に取り組む姿勢や能力を身に付けている。 ・高度な知性に加え、産業界での即戦力となる創造性豊かな実践力を身に付けている。 ・社会における責任感と倫理感、他者との協力・協働の姿勢を基に、社会貢献できる能力を身に付けている。
電気電子工学課程	技術の進歩に対応して主体的に活動できる人間性豊かな人材、電気電子分野の技術をもって、持続的な社会の構築に貢献できる人材を養成する。 具体的には、卒業までに以下のような人材を養成することを教育研究上の目的とする。 ・電気電子工学に関わる専門分野の基本知識を有し、これらを用いて、技術者として当該分野の問題を分析し、その問題解決のために応用できる力を身に付けている。 ・自らの意見を文書あるいは口頭説明で他者に論理的に説明する、他者が発信した情報や意見	電気電子工学課程	技術の進歩に対応して主体的に活動できる人間性豊かな人材、電気電子分野の技術をもって、持続的な社会の構築に貢献できる人材を養成する。 具体的には、卒業までに以下のような人材を養成することを教育研究上の目的とする。 ・電気電子工学に関わる専門分野の基本知識を有し、これらを用いて、技術者として当該分野の問題を分析し、その問題解決のために応用できる力を身に付けている。 ・自らの意見を文書あるいは口頭説明で他者に論理的に説明する、他者が発信した情報や意見

	を理解することができ、自らの意図を実現できるプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を身に付けている。 ・チームの一員として自己のなすべき行動を理解し実行できる協調性、自らの活動の結果が社会および環境に及ぼす影響を認識できる倫理観、および社会から付託されている責任を理解し実務の場で技術者倫理に基づいた行動ができる責任感を身に付けている。		を理解することができ、自らの意図を実現できるプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を身に付けている。 ・チームの一員として自己のなすべき行動を理解し実行できる協調性、自らの活動の結果が社会および環境に及ぼす影響を認識できる倫理観、および社会から付託されている責任を理解し実務の場で技術者倫理に基づいた行動ができる責任感を身に付けている。
情報・通信工学課程	コンピュータと情報通信を利用して人間の社会と生活を豊かにする技術を体系的に広く学ぶことを教育の目的とし、時代に左右されない技術の基盤を支える普遍的な基礎学力を身に付けた技術者を養成する。 具体的には、卒業までに以下のような人材を養成することを教育研究上の目的とする。 ・技術の基盤を支える数学と物理などの自然科学の基礎学力を身に付けている。 ・情報・通信工学の基本的な考え方と基礎技術、およびそれらを創造的に応用して課題を解決する能力を身に付けている。 ・情報技術・情報通信技術が社会に及ぼす影響や制約条件を考えながらシステムの設計・実装を行うことで課題を解決する能力を身に付けている。 ・幅広い教養と豊かな人間性を基	情報・通信工学課程	コンピュータと情報通信を利用して人間の社会と生活を豊かにする技術を体系的に広く学ぶことを教育の目的とし、時代に左右されない技術の基盤を支える普遍的な基礎学力を身に付けた技術者を養成する。 具体的には、卒業までに以下のような人材を養成することを教育研究上の目的とする。 ・技術の基盤を支える数学と物理などの自然科学の基礎学力を身に付けている。 ・情報・通信工学の基本的な考え方と基礎技術、およびそれらを創造的に応用して課題を解決する能力を身に付けている。 ・情報技術・情報通信技術が社会に及ぼす影響や制約条件を考えながらシステムの設計・実装を行うことで課題を解決する能力を身に付けている。 ・幅広い教養と豊かな人間性を基

	に、地球的視点からの広い視野を持って課題に自律的に取り組み探求する能力を身に付けている。 ・技術者として必要な他者とのコミュニケーションの能力を身に付けている。		に、地球的視点からの広い視野を持って課題に自律的に取り組み探求する能力を身に付けている。 ・技術者として必要な他者とのコミュニケーションの能力を身に付けている。
土木工学課程	グローバルな視点で持続可能な社会に貢献できる創造性豊かな土木技術者の育成を目指す。土木工学の対象である「人」、「自然」、「モノ」が相互に影響する社会基盤システムを大局的に捉える能力と集団の中での自己の役割と責任の自覚をもつ人材を養成する。 具体的には、卒業までに以下のような人材を養成することを教育研究上の目的とする。 ・真に市民の立場に立った都市づくりを行える姿勢や能力を身に付けている。 ・科学技術と土木工学の専門知識を基礎とした問題を分析、洞察、解決する能力を身に付けている。 ・自然や社会の環境変化に対処する能力と創造力を身に付けている。 ・日本のみならず国際社会での指導力と倫理観に基づく行動力を身に付けている。	土木工学課程	グローバルな視点で持続可能な社会に貢献できる創造性豊かな土木技術者の育成を目指す。土木工学の対象である「人」、「自然」、「モノ」が相互に影響する社会基盤システムを大局的に捉える能力と集団の中での自己の役割と責任の自覚をもつ人材を養成する。 具体的には、卒業までに以下のような人材を養成することを教育研究上の目的とする。 ・真に市民の立場に立った都市づくりを行える姿勢や能力を身に付けている。 ・科学技術と土木工学の専門知識を基礎とした問題を分析、洞察、解決する能力を身に付けている。 ・自然や社会の環境変化に対処する能力と創造力を身に付けている。 ・日本のみならず国際社会での指導力と倫理観に基づく行動力を身に付けている。
先進国際課程	工学、理学など広く学問を統合することをもって、持続的社会の構築に貢献できる人材を育成することを目的とする。特に、多様な価値観のもと産業と技術革新基盤を	先進国際課程	工学、理学など広く学問を統合することをもって、持続的社会の構築に貢献できる人材を育成することを目的とする。特に、多様な価値観のもと産業と技術革新基盤を

	創造できる人材の育成に重点を置く。

2　システム理工学部

人材の育成及び教育研究上の目的
システム理工学部は、幅広い教養、国際性及び理工学に対する体系的な知識を身に付け、 総合的問題解決のためのシステム工学の思考と手法を活用して持続可能な社会の構築に貢献できる人材を養成することを目的とする。

三つの方針	
卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)	システム理工学部は、理工学の基礎知識と幅広い専門分野の知識に加え、学問体系を横断し関連づけるシステム工学の手法、すなわち総合的解決策を追求する「システム思考」、目標達成の機能を作る「システム手法」、および問題解決の人・知識・技術を統合する「システムマネジメント」を修得し、地域と人類社会の発展に貢献する高い倫理観を持ち、卒業要件を満たしたものに学位を授与します。 (学修・教育到達目標) 1．地球的観点から多面的に物事を考える幅広い教養を備え、他分野・異文化と相互理解・交流し、社会や世界の問題解決に取り組み、高い倫理観を持った理工学人材として行動できる。 2．科学技術の知識を修得するとともに、これを総合して問題解決するまでの行動計画を推進するためのシステム思考を修得し、

	創造できる人材の育成に重点を置く。

2　システム理工学部

人材の育成及び教育研究上の目的
システム理工学部は、幅広い教養、国際性及び理工学に対する体系的な知識を身に付け、 総合的問題解決のためのシステム工学の思考と手法を活用して持続可能な社会の構築に貢献できる人材を養成することを目的とする。

三つの方針	
卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)	システム理工学部は、理工学の基礎知識と幅広い専門分野の知識に加え、学問体系を横断し関連づけるシステム工学の手法、すなわち総合的解決策を追求する「システム思考」、目標達成の機能を作る「システム手法」、および問題解決の人・知識・技術を統合する「システムマネジメント」を修得し、地域と人類社会の発展に貢献する高い倫理観を持ち、卒業要件を満たしたものに学位を授与します。 (学修・教育到達目標) 1．地球的観点から多面的に物事を考える幅広い教養を備え、他分野・異文化と相互理解・交流し、社会や世界の問題解決に取り組み、高い倫理観を持った理工学人材として行動できる。 2．科学技術の知識を修得するとともに、これを総合して問題解決するまでの行動計画を推進するためのシステム思考を修得し、

	問題を発見し、総合的解決策を導き出すことができる。 3. 社会の問題解決に必要なシステム工学の理論とその運用能力を備え、人・知識・技術をマネジメントし、関係する人々とのコミュニケーションを図りながらチームで仕事ができる。 4. 専門的知識とその運用能力を備え、問題解決に必要な知識・スキルを認識し、不足分を自己学修し、問題を解決できる。		問題を発見し、総合的解決策を導き出すことができる。 3. 社会の問題解決に必要なシステム工学の理論とその運用能力を備え、人・知識・技術をマネジメントし、関係する人々とのコミュニケーションを図りながらチームで仕事ができる。 4. 専門的知識とその運用能力を備え、問題解決に必要な知識・スキルを認識し、不足分を自己学修し、問題を解決できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	システム理工学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、学問体系を横断し関連づけるシステム工学の手法と、専門的知識を深めるための学科専門教育を体系的に学修・研究するための手法により、教育プログラムを実施しています。この教育プログラムは、全学共通科目、共通科目、専門科目の講義、演習、実験、実習で構成されています。学部理念の核となる共通科目のシステム工学教育では、学生の主体的・能動的な学修を促すために、プロジェクトを通した演習と講義の組み合わせにより実践と経験を繰り返して学修していくカリキュラムを編成しています。カリキュラムは、次の科目群で編成され、その学修成果を多面的に評価し、学生の振り返りを促すことで学修・教育到達目標を達成します。 1. 全学共通科目　建学の精神に則	教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	システム理工学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、学問体系を横断し関連づけるシステム工学の手法と、専門的知識を深めるための学科専門教育を体系的に学修・研究するための手法により、教育プログラムを実施しています。この教育プログラムは、全学共通科目、共通科目、専門科目の講義、演習、実験、実習で構成されています。学部理念の核となる共通科目のシステム工学教育では、学生の主体的・能動的な学修を促すために、プロジェクトを通した演習と講義の組み合わせにより実践と経験を繰り返して学修していくカリキュラムを編成しています。カリキュラムは、次の科目群で編成され、その学修成果を多面的に評価し、学生の振り返りを促すことで学修・教育到達目標を達成します。 1. 全学共通科目　建学の精神に則

	り教養を養う。 2. 共通科目　システム理工学部生として共通に有すべき基礎力の育成 2―1　教職科目　教育職に関する専門的知識と技能、実践的指導力を修得し、豊かな人間性を養う。 2―2　総合科目　幅広い教養と他分野・異文化の理解力を修得 2―3　基礎科目　理工学人材の基盤となる数学、物理、化学、生物学の修得 2―4　システム・情報科目　社会の問題解決に必要な情報リテラシーとシステム工学理論を　修め、グループワークによる解決力を養成 3. 専門科目　専門的知識を深める。 3―1　学科専門科目　学科特有の専門的知識を深める。 3―2　総合研究　各自が設定したテーマを解明、解決策を導く。		り教養を養う。 2. 共通科目　システム理工学部生として共通に有すべき基礎力の育成 2―1　教職科目　教育職に関する専門的知識と技能、実践的指導力を修得し、豊かな人間性を養う。 2―2　総合科目　幅広い教養と他分野・異文化の理解力を修得 2―3　基礎科目　理工学人材の基盤となる数学、物理、化学、生物学の修得 2―4　システム・情報科目　社会の問題解決に必要な情報リテラシーとシステム工学理論を　修め、グループワークによる解決力を養成 3. 専門科目　専門的知識を深める。 3―1　学科専門科目　学科特有の専門的知識を深める。 3―2　総合研究　各自が設定したテーマを解明、解決策を導く。
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	システム理工学部は、分野横断教育を特徴としています。本学部への入学を志望する受験生は、以下に挙げる「求める人物像」及び本学部の教育方針、学科のカリキュラム、教育・研究の内容をよく理解して出願することが望まれます。 (システム理工学部が求める人物像) 1.　身の回りにあるさまざまな	入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	システム理工学部は、分野横断教育を特徴としています。本学部への入学を志望する受験生は、以下に挙げる「求める人物像」及び本学部の教育方針、学科のカリキュラム、教育・研究の内容をよく理解して出願することが望まれます。 (システム理工学部が求める人物像) 1.　身の回りにあるさまざまな

	「もの」や「こと」の仕組みや成り立ちに関心を持ち、それについて深く考え、問題点を解明することに興味を持っている人。 2.　他学科の学生とチームを組んで課題に取り組むなど、システム理工学部における学科の枠を超えた演習科目に興味を持ち、主体的であり積極的に学修することに強い意欲を持っている人。 3.　システムを構成する要素のつながりを重視した付加価値のある「ものづくり」や「新たな枠組みづくり」に携わることを通じて社会に貢献する意志を持っている人。 上記に賛同し、本学部への入学を志望する人は、高等学校等において芝浦工業大学アドミッション・ポリシーに定める(1)～(3)の能力を身につけておくことが望まれます。

システム理工学部　課程
養成する人材像
持続可能な社会の実現に貢献するために、科学技術が社会や自然に及ぼす利点と欠点を見据えて、ひと・もの・ことが関係する現象をシステムと捉え（システム思考）、総合的、学際的に問題解決できる知識やスキルを修得し、世界に貢献する職業人としての倫理観をもつグローバル理工系人材を養成する。
教育研究上の目的
地球規模で複雑化、多様化する現代社会において、諸問題を総合的、学際的に解決でき

	「もの」や「こと」の仕組みや成り立ちに関心を持ち、それについて深く考え、問題点を解明することに興味を持っている人。 2.　他学科の学生とチームを組んで課題に取り組むなど、システム理工学部における学科の枠を超えた演習科目に興味を持ち、主体的であり積極的に学修することに強い意欲を持っている人。 3.　システムを構成する要素のつながりを重視した付加価値のある「ものづくり」や「新たな枠組みづくり」に携わることを通じて社会に貢献する意志を持っている人。 上記に賛同し、本学部への入学を志望する人は、高等学校等において芝浦工業大学アドミッション・ポリシーに定める(1)～(3)の能力を身につけておくことが望まれます。

る力が必要とされている。 システム理工学部は、複数の学問体系を横断し関連付けるシステム思考とシステム工学の知識と手法を生かし、新たな時代の要請に応え、地域と人類社会の発展に寄与する教育研究を行う。幅広い教養と国際性を礎にした分野横断型の教育を通して、体系的な理工学の知識や自ら行動し多様な人々と共創できる能力を身につけたグローバル理工系人材を養成することを目的とする。	
三つの方針	
卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)	システム理工学部は、持続可能な社会の実現に貢献するために、科学技術が社会や自然に及ぼす利点と欠点を見据えて、ひと・もの・ことが関係する現象をシステムと捉え（システム思考）、総合的、学際的に問題解決できる知識やスキルを修得し、世界に貢献する職業人としての倫理観を持ち、卒業要件を満たした者に学位を授与します。学修・教育到達目標 以下に示す能力と行動特性を有した世界に貢献するグローバル理工系人材を養成するために、学修・教育到達目標を定めます。 総合的、学際的な知識や能力 ・目的の達成へ向けて取り組むべき具体的な課題を設定し、対象とするひと・もの・ことが関係する現象をシステムとして捉えることができる。（システム思考） ・システム思考を用いて、包括的な解決策を導き出すことができる。（システム工学） ・社会の具体的な課題を解決する

	アイデアをかたちにし、社会実装に向けて行動できる。（アントレプレナーシップ） ・新たな課題の解決に必要な知識やスキルを認識し、自らの可能性を広げる学習を継続できる。（生涯学習能力） 基礎教養力 ・自然科学、人文・社会科学、情報技術等に関する知識を修得し、課題の解決に応用できる。 ・グローバルな視点から多面的にひと・もの・ことを考える幅広い視野と教養を身につけ、諸問題を多面的かつ客観的に扱うことができる。 ・科学技術が社会や自然に及ぼす便益とリスク、技術者・科学者が社会に対し負うべき責任を理解し、社会に貢献する職業人としての倫理観に基づき行動できる。 専門知識を応用できる能力 ・主軸となる分野の専門知識を修得し、問題解決に応用できる。 ・主軸となる分野の専門知識を他分野と関連付ける分野横断型の知識と行動力を修得し、社会で活用できる。 コミュニケーション能力 ・目標を達成するために、関係する人々と相互の知識や技術を関連付け合いながら、一人ひとりが最大の力を発揮するチームを形成し活動できる。 ・技術文書の作成、口頭発表、討論等のコミュニケーションができ	

	る。 ・英語の技術文書を理解、作成し、技術者・科学者と英語でコミュニケーションができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	システム理工学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、学問体系を横断し関連付けるシステム思考とシステム工学の知識、学修者の主軸となる専門知識と他分野を関連付ける分野横断型の知識、そして自ら行動し多様な人々と共創できる能力を修得します。カリキュラムは、「学際科目」、「基礎教養科目」、「専門科目」で構成しています。専門科目は、新たな価値を創生し、社会に貢献する職業人としてのキャリア形成に必要となるスキルに紐づけられます。スキルに紐づけられた科目のセット（モジュール）を組み合わせることで、主軸となる分野の専門知識と他分野を関連付け問題解決するための能力を修得することもできます。 各科目の学修成果を多面的に評価し、学生の振り返りを促すことで学修・教育到達目標を達成します １．学際科目 ・システム工学 取り組むべき具体的な課題を設定し、目的達成に向けて、関連するひと・もの・ことの諸現象をシステムと捉え（システム思考）、

	総合的、学際的に解決策を導き出すためのシステムズアプローチの方法論と、プロジェクト活動によりチームで共同 して活動できる能力を養成する。 ・SDGs・キャリアデザイン 持続可能な社会の構成員としての職業人生を主体的・能動的にデザインし、実現に向けて行動するためのスキルを養成する。 ・アントレプレナーシップ 社会の具体的な課題を解決するアイデアをかたちにし、社会実装に向けて行動できるスキルを養成する。 ２．基礎教養科目 ・理数・情報 自然科学、情報技術等に関する基礎知識を養成する。 ・社会科学・人文科学・保健体育・英語 英語、職業倫理 、幅広い視野と教養を養成する。 ３．専門科目 ・主軸となる分野の専門知識を修得し、課題の解決に応用できる能力を養成する。 ・主軸となる分野の専門知識を他分野と関連付ける能力を養成する。 ・総合研究では、各自が設定したテーマについての問題を解明し、具体的な解決策を導く能力を修得し、総合的、学際的に問題解決で	

	きる能力を養成する。システム理工学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、学問体系を横断し関連づけるシステム工学の手法と、専門的知識を深めるための学科専門教育を体系的に学修・研究するための手法により、教育プログラムを実施しています。この教育プログラムは、全学共通科目、共通科目、専門科目の講義、演習、実験、実習で構成されています。学部理念の核となる共通科目のシステム工学教育では、学生の主体的・能動的な学修を促すために、プロジェクトを通した演習と講義の組み合わせにより実践と経験を繰り返して学修していくカリキュラムを編成しています。カリキュラムは、次の科目群で編成され、その学修成果を多面的に評価し、学生の振り返りを促すことで学修・教育到達目標を達成します。
入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)	本学部への入学を志望する者は、本学の建学の精神と以下に挙げる「求める人物像」及び教育方針、課程のカリキュラム、教育・研究の内容をよく理解して出願することを求めます。 (システム理工学部が求める人物像) 1. 身の回りのさまざまなひと・こと・ものの仕組みや成り立ちについて深く考え、課題を解決することに興味や関心を

	持つ者。 2. 総合的、学際的に課題を解決することで、新たな価値を創生し、社会に貢献する意志を持つ者。 3. 他分野の学生とチームを組んで課題に取り組む等、システム理工学部における分野の枠を超えたプロジェクト演習に興味を持ち、主体的かつ積極的に行動することに強い意欲を持つ者

課程・学科

学科名	人材の育成及び教育研究上の目的
電子情報システム学科	電子情報システム学科は、ソフトウェア、メディア・ネットワーク、及びハードウェア技術分野の専門的知識の習得と、問題を自ら発見し解決できるシステム志向のエンジニアを目指し、技術者としての倫理観をもち、多様性を尊重し、持続可能な社会の構築に貢献できる人材を養成することを的とする。
機械制御システム学科	機械制御システム学科では、機械システムを開発するための機械工学の基礎と多要素を組合せて有機的に制御するために必要な理論を身に付け、もの・人・環境を総合した新たな価値創造と社会の持続的発展を担う「ものづくり」「ことづくり」ができる人材の育成を目的とする。

学科

学科名	人材の育成及び教育研究上の目的
電子情報システム学科	電子情報システム学科は、ソフトウェア、メディア・ネットワーク、及びハードウェア技術分野の専門的知識の習得と、問題を自ら発見し解決できるシステム志向のエンジニアを目指し、技術者としての倫理観をもち、多様性を尊重し、持続可能な社会の構築に貢献できる人材を養成することを的とする。
機械制御システム学科	機械制御システム学科では、機械システムを開発するための機械工学の基礎と多要素を組合せて有機的に制御するために必要な理論を身に付け、もの・人・環境を総合した新たな価値創造と社会の持続的発展を担う「ものづくり」「ことづくり」ができる人材の育成を目的とする。

環境システム学科	環境システム学科は、建築や都市、環境分野を中心とする専門的な知識と実践的な技術や、これらを横断的に関連づける手法、多様なステークホルダーと協働し、国際社会や地域における諸問題を解決できる能力を修得し、持続可能な社会の形成に貢献することができる人材を育成することを目的とする。

生命科学課程

養成する人材像
生命科学や健康科学、工学に関する職業倫理を身につけ、生命の複雑なシステム、生命現象、および個々の生命機能を理解し、ヒトの発達や加齢を科学的に洞察し、生命・健康を体系的に捉え、システム思考に基づく創造的な発想から人の健康に関する諸問題を解決できる人材を養成する。

教育研究上の目的
生命科学や健康科学、工学に関する専門知識・技術、研究倫理観を修得させ、システム思考とシステム工学の知識と手法を活用し、すべての人が健康な生活を享受できる社会の実現に貢献できる人材を養成する。研究においては、分子や遺伝子レベルから細胞、個体に至るまで、様々な観点から発達や加齢といった生命現象の機序を解明する研究をはじめとし、医療や人々の生活を支援する科学技術の開発を通して、健康寿命の延伸と人々のQOL（Quality of life）向上に貢献することを目的とする。

数理科学科	「数学に強く、幅広い応用分野に対応でき自ら考える学生を育てる」ことを教育の基本目標とし

環境システム学科	環境システム学科は、建築や都市、環境分野を中心とする専門的な知識と実践的な技術や、これらを横断的に関連づける手法、多様なステークホルダーと協働し、国際社会や地域における諸問題を解決できる能力を修得し、持続可能な社会の形成に貢献することができる人材を育成することを目的とする。
生命科学科	生命科学科は、生命科学に対する体系的な知識を身に付け、生命現象の科学的解明、健康の回復・増進や生活支援を実現する新しい技術の開発を通して、健康寿命の延伸と活気あふれる持続可能な社会の実現に貢献できる人材を養成することを目的とする。
数理科学科	「数学に強く、幅広い応用分野に対応でき自ら考える学生を育てる」ことを教育の基本目標とし

	て、実社会で数理科学的手法を実践し、持続可能な社会の構築の基盤技術・理論の進展に貢献し得る人材を育成していく。

3　デザイン工学部

人材の育成及び教育研究上の目的	
デザイン工学部は、幅広い工学の素養をもち、コンセプトが明確になっていない段階からアイディアを生み出し、人間の感性及び社会との調和・融合を図りながら創造的なものづくりをすることによって、持続可能な社会の構築に貢献できる実践的な人材を育成することを目的とする。	
三つの方針	
卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)	デザイン工学部は、社会が求める「あるべき姿(当為)を構築する設計科学技術」を身につけ、工学的知識と技術を基礎として、人間の感性および社会との調和・融合を図り、創造的ものづくり能力、すなわちものづくり全体を表現するための　1)認識力、2)構想力、3)計画力、4)意匠・設計力というデザイン能力を有し、卒業要件を満たしたものに学位を授与します。 【学修・教育到達目標】 A.　幅広い教養を身につけ、地球的視点から多面的に物事を考えることができる。 B.　技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者の社会に対する貢献と責任を理解し、行動できる。 C.　数学、自然科学、および情報技術の基礎的な考え方を理解

	て、実社会で数理科学的手法を実践し、持続可能な社会の構築の基盤技術・理論の進展に貢献し得る人材を育成していく。

3　デザイン工学部

人材の育成及び教育研究上の目的	
デザイン工学部は、幅広い工学の素養をもち、コンセプトが明確になっていない段階からアイディアを生み出し、人間の感性及び社会との調和・融合を図りながら創造的なものづくりをすることによって、持続可能な社会の構築に貢献できる実践的な人材を育成することを目的とする。	
三つの方針	
卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)	デザイン工学部は、社会が求める「あるべき姿(当為)を構築する設計科学技術」を身につけ、工学的知識と技術を基礎として、人間の感性および社会との調和・融合を図り、創造的ものづくり能力、すなわちものづくり全体を表現するための　1)認識力、2)構想力、3)計画力、4)意匠・設計力というデザイン能力を有し、卒業要件を満たしたものに学位を授与します。 【学修・教育到達目標】 A.　幅広い教養を身につけ、地球的視点から多面的に物事を考えることができる。 B.　技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者の社会に対する貢献と責任を理解し、行動できる。 C.　数学、自然科学、および情報技術の基礎的な考え方を理解

	し、それらを応用することができる。 D.　種々の科学、技術及び情報を活用して、人間の感性や社会との調和・融合を図ったうえで、社会の要求を解決するためのデザインをすることができる。 D―1　社会的要請や利用者からの要望を認識・理解し、求められている姿・あるべき姿を見い出し、目標を設定するという全体を構想することができる。 D―2　目標に対して情報を収集・分析し課題設定を行い、計画を立案し、他者と協力して進め、結果をまとめることができる。 E.　専門分野の知識・技術を継続的・自主的に修得して、意匠・設計力を身に付け、それらを応用して課題を解決できる。 F.　論理的な記述、口頭発表、ならびに討議等のコミュニケーションができる。		し、それらを応用することができる。 D.　種々の科学、技術及び情報を活用して、人間の感性や社会との調和・融合を図ったうえで、社会の要求を解決するためのデザインをすることができる。 D―1　社会的要請や利用者からの要望を認識・理解し、求められている姿・あるべき姿を見い出し、目標を設定するという全体を構想することができる。 D―2　目標に対して情報を収集・分析し課題設定を行い、計画を立案し、他者と協力して進め、結果をまとめることができる。 E.　専門分野の知識・技術を継続的・自主的に修得して、意匠・設計力を身に付け、それらを応用して課題を解決できる。 F.　論理的な記述、口頭発表、ならびに討議等のコミュニケーションができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	デザイン工学部は、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、工学と人間の感性および社会との調和・融合を図り、創造的なものづくり能力を素養にもつ、実践的な人材を育成するため、次のように科目を編成しています。幅広い工学の素養や技術を身につけるため、共通教養科目とデータ・サイエンス科目を置きます。また、コンセプトが明確になっていない段階からアイディアを	教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	デザイン工学部は、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、工学と人間の感性および社会との調和・融合を図り、創造的なものづくり能力を素養にもつ、実践的な人材を育成するため、次のように科目を編成しています。幅広い工学の素養や技術を身につけるため、共通教養科目とデータ・サイエンス科目を置きます。また、コンセプトが明確になっていない段階からアイディアを

	生み出し、リーダーシップをもって個々の要求を整理・統合化し、ものづくりができるようになるためのデザイン科目とエンジニアリング科目を置きます。さらに知識を実践的に修得するためのプロジェクト科目を置きます。これらの科目を講義、演習、実験、実習により体系的に編成します。学生の主体的・能動的な学修・研究を促す教育方法を実施し、その学修成果を多面的に評価し、学生の振り返りを促すことにより、教育目標を達成します。		生み出し、リーダーシップをもって個々の要求を整理・統合化し、ものづくりができるようになるためのデザイン科目とエンジニアリング科目を置きます。さらに知識を実践的に修得するためのプロジェクト科目を置きます。これらの科目を講義、演習、実験、実習により体系的に編成します。学生の主体的・能動的な学修・研究を促す教育方法を実施し、その学修成果を多面的に評価し、学生の振り返りを促すことにより、教育目標を達成します。
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	デザイン工学部は、デザイン能力醸成教育を特徴としています。本学部への入学を志望する受験生は、以下に挙げる「求める人物像」及び本学部の教育方針、学科のカリキュラム、教育・研究の内容をよく理解して出願することが望まれます。 (デザイン工学部が求める人物像) 1. 十分な基礎学力に加えて、21世紀における社会と産業が求める技術者をめざす人。 2. 創造的な発想と、問題発見・解決能力、そして総合的な視野に立ち自律的に思考できる素養を持つ人。 3. 多彩な才能と可能性を秘め、国際社会、産業、個人の生活・関心の変化に対して敏感に適応できる人。 上記に賛同し、本学部への入学を志望する人は、高等学校等にお	入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	デザイン工学部は、デザイン能力醸成教育を特徴としています。本学部への入学を志望する受験生は、以下に挙げる「求める人物像」及び本学部の教育方針、学科のカリキュラム、教育・研究の内容をよく理解して出願することが望まれます。 (デザイン工学部が求める人物像) 1. 十分な基礎学力に加えて、21世紀における社会と産業が求める技術者をめざす人。 2. 創造的な発想と、問題発見・解決能力、そして総合的な視野に立ち自律的に思考できる素養を持つ人。 3. 多彩な才能と可能性を秘め、国際社会、産業、個人の生活・関心の変化に対して敏感に適応できる人。 上記に賛同し、本学部への入学を志望する人は、高等学校等にお

	いて芝浦工業大学アドミッション・ポリシーに定める(1)～(3)の能力を身につけておくことが望まれます。

4　建築学部

人材の育成及び教育研究上の目的
建築学部は、これからの時代に建築を「いかにつくるか」だけでなく「何のためにつくるか」を重視します。そのために、自然科学や人文社会科学なども含んだ学際的視点を持ち、持続可能な社会における豊かな建築や都市空間を創造する力を持った人材を育てます。また、多様な価値観が共存する21世紀の世界に適応できる、建築をベースにした特色ある人材を育てます。具体的には、卒業までに以下に挙げる能力を持った人材を養成します。 1　歴史的発展を踏まえてさまざまな側面を理解し、現代の建築の技術的・社会的問題点を理解することができる。 2　人々の生命や財産に深く関連する建築に、技術者や設計者としてたずさわるための倫理観を身に付ける。 3　普遍的法則である科学に関する基礎知識を身に付け、なおかつ建築設計や建築技術に関する幅広い専門知識を身に付ける。 4　それらの幅広い知識を統合、駆使し、建築や都市をめぐる現在的課題に対して自らの役割や責任を認識しつつ、解決に導くことができる 5　豊富なコミュニケーション能力を使って他者や他集団とのあいだに適切な社会関係を築くことができ、さらにそれを踏まえて21世紀のグローバル社会で活躍できる。

三つの方針	
卒業の認	建築学部は、自然科学や人文社

	いて芝浦工業大学アドミッション・ポリシーに定める(1)～(3)の能力を身につけておくことが望まれます。

4　建築学部

人材の育成及び教育研究上の目的
建築学部は、これからの時代に建築を「いかにつくるか」だけでなく「何のためにつくるか」を重視します。そのために、自然科学や人文社会科学なども含んだ学際的視点を持ち、持続可能な社会における豊かな建築や都市空間を創造する力を持った人材を育てます。また、多様な価値観が共存する21世紀の世界に適応できる、建築をベースにした特色ある人材を育てます。具体的には、卒業までに以下に挙げる能力を持った人材を養成します。 1　歴史的発展を踏まえてさまざまな側面を理解し、現代の建築の技術的・社会的問題点を理解することができる。 2　人々の生命や財産に深く関連する建築に、技術者や設計者としてたずさわるための倫理観を身に付ける。 3　普遍的法則である科学に関する基礎知識を身に付け、なおかつ建築設計や建築技術に関する幅広い専門知識を身に付ける。 4　それらの幅広い知識を統合、駆使し、建築や都市をめぐる現在的課題に対して自らの役割や責任を認識しつつ、解決に導くことができる 5　豊富なコミュニケーション能力を使って他者や他集団とのあいだに適切な社会関係を築くことができ、さらにそれを踏まえて21世紀のグローバル社会で活躍できる。

三つの方針	
卒業の認	建築学部は、自然科学や人文社

定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)	会科学を含んだ学際的視点を持ち、豊かな建築・都市空間の創造により社会に貢献できる能力、また、多様な価値観が共存する21世紀の世界に適応できる能力を有し、卒業要件を満たしたものに学位を授与します。 (学修・教育到達目標) ① 歴史的発展を踏まえて建築を捉え、現代の建築を取り巻く技術的・社会的問題を理解できる。 ② 自然・社会・人間に深く関わる建築に、専門家としてたずさわるための高い倫理観を身につけている。 ③ 自然科学や人文社会科学に関する基礎知識と、建築設計や建築技術に関する幅広い専門知識を身につけている。 ④ 世界と社会の多様性を認識し、高いコミュニケーション能力を持ち、21世紀のグローバル社会で活躍できる国際感覚とチームで仕事ができる能力を身につけている。 ⑤ 豊富な教養と幅広い知識を統合・駆使し、建築や都市をめぐる現代的課題を解決できる。 ⑥ 課題の発見・解決のために、建築に関わる広範な知識・技術を自ら進んで探求し、理解しようとする姿勢を身につけている。
教育課程の編成及	・建築学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成する

定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)	会科学を含んだ学際的視点を持ち、豊かな建築・都市空間の創造により社会に貢献できる能力、また、多様な価値観が共存する21世紀の世界に適応できる能力を有し、卒業要件を満たしたものに学位を授与します。 (学修・教育到達目標) ① 歴史的発展を踏まえて建築を捉え、現代の建築を取り巻く技術的・社会的問題を理解できる。 ② 自然・社会・人間に深く関わる建築に、専門家としてたずさわるための高い倫理観を身につけている。 ③ 自然科学や人文社会科学に関する基礎知識と、建築設計や建築技術に関する幅広い専門知識を身につけている。 ④ 世界と社会の多様性を認識し、高いコミュニケーション能力を持ち、21世紀のグローバル社会で活躍できる国際感覚とチームで仕事ができる能力を身につけている。 ⑤ 豊富な教養と幅広い知識を統合・駆使し、建築や都市をめぐる現代的課題を解決できる。 ⑥ 課題の発見・解決のために、建築に関わる広範な知識・技術を自ら進んで探求し、理解しようとする姿勢を身につけている。
教育課程の編成及	・建築学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成する

び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)	ため、これからの時代に建築を「いかにつくるか」だけでなく「何のためにつくるか」を重視します。そのため、建築の専門科目に加えて多様な基礎・教養科目によってカリキュラムを構成し教育を行います。 ・専門科目が建築学の専門性を高めるための科目であるのに対し、基礎・教養科目は自然科学の一般法則の知識とその運用方法、基本的な外国語・コミュニケーション能力、社会・文化に関する教養などを身につけるための科目です。また、「建築デザイン」、「工学」、「幅広い教養」の融合を実現するため、専門性の高い科目と基礎・教養科目の横断的な学修を促し、各科目間の相乗効果を生むようカリキュラムを設計しています。これらの教育課程編成方針に基づき、以下の科目構成により授業を実施します。 ① 専門科目では建築設計や建築技術に関する幅広い専門知識と倫理観を身につけることを狙いとした科目を配置しています。 ② 基礎・教養科目では、数学・理科・英語のほか、幅広い分野を持つ人文社会系科目を中心に構成し、年次を通じて履修可能とすることで専門教育との横断的融合を実現します。 ③ 講義科目で学んだ知識を演	び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)	ため、これからの時代に建築を「いかにつくるか」だけでなく「何のためにつくるか」を重視します。そのため、建築の専門科目に加えて多様な基礎・教養科目によってカリキュラムを構成し教育を行います。 ・専門科目が建築学の専門性を高めるための科目であるのに対し、基礎・教養科目は自然科学の一般法則の知識とその運用方法、基本的な外国語・コミュニケーション能力、社会・文化に関する教養などを身につけるための科目です。また、「建築デザイン」、「工学」、「幅広い教養」の融合を実現するため、専門性の高い科目と基礎・教養科目の横断的な学修を促し、各科目間の相乗効果を生むようカリキュラムを設計しています。これらの教育課程編成方針に基づき、以下の科目構成により授業を実施します。 ① 専門科目では建築設計や建築技術に関する幅広い専門知識と倫理観を身につけることを狙いとした科目を配置しています。 ② 基礎・教養科目では、数学・理科・英語のほか、幅広い分野を持つ人文社会系科目を中心に構成し、年次を通じて履修可能とすることで専門教育との横断的融合を実現します。 ③ 講義科目で学んだ知識を演

	習・実習科目で実践することで理解を深めていくことを基本としますが、実社会や現場の体験から得られる視点やコミュニケーション能力も重視しています。そのため、国内外でのプロジェクト型実習科目も豊富に配置しています。 ・上記の各授業科目においては知識の伝達のみならず、学生同士や教員との双方向のやり取りを通じて専門知識の深化とコミュニケーション能力の向上を図ります。なお、建築学部では学生が無理のない学修計画を立てられるよう、年間に履修できる科目数に制限を設けています。 ・各授業科目に評価方法・評価基準を設定し、学修成果を多面的に評価し、学生の振り返りを促すことにより、建築学部の学修・教育到達目標を達成します。		習・実習科目で実践することで理解を深めていくことを基本としますが、実社会や現場の体験から得られる視点やコミュニケーション能力も重視しています。そのため、国内外でのプロジェクト型実習科目も豊富に配置しています。 ・上記の各授業科目においては知識の伝達のみならず、学生同士や教員との双方向のやり取りを通じて専門知識の深化とコミュニケーション能力の向上を図ります。なお、建築学部では学生が無理のない学修計画を立てられるよう、年間に履修できる科目数に制限を設けています。 ・各授業科目に評価方法・評価基準を設定し、学修成果を多面的に評価し、学生の振り返りを促すことにより、建築学部の学修・教育到達目標を達成します。
入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)	建築学部は、豊かな感性と技術力を身につけた高い志を持つ建築の専門家を養成します。本学部への入学を志望する受験生は、以下に挙げる「求める人物像」及び本学部の教育方針、カリキュラム、教育・研究の内容をよく理解して出願することが望まれます。 (建築学部が求める人物像) 1. 建築・都市におけるさまざまな課題に対して積極的な興味・関心を持つ人	入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)	建築学部は、豊かな感性と技術力を身につけた高い志を持つ建築の専門家を養成します。本学部への入学を志望する受験生は、以下に挙げる「求める人物像」及び本学部の教育方針、カリキュラム、教育・研究の内容をよく理解して出願することが望まれます。 (建築学部が求める人物像) 1. 建築・都市におけるさまざまな課題に対して積極的な興味・関心を持つ人

	2. 本学部での学修、研究を強く志望し、自らの意思と行動力を持って人々の暮らしを支え喜びをもたらす建築を生み出すことに、情熱を持つ人 3. 建築をベースに、社会や時代・環境の変化を見据え、多様な価値観を受け入れ、場所・地域・国を問わずに活躍することを志向する人上記に賛同し、本学部への入学を志望する人は、高等学校等において以下の能力を身につけていることが望まれます。 上記に賛同し、本学部への入学を志望する人は、高等学校等において、以下の能力を身につけていることが望まれます。 (1) 科学的な思考・判断をするための基礎学力(特に数学・物理・化学・英語) (2) 論理的な思考にもとづく、判断力、読解力、表現力 (3) 建築・都市を取り巻く社会や文化について、その歴史をふまえて理解するための基礎的知識 (4) 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度 (5) 独自の視点により空間や思考を表現する能力

別表3

（略）

別表4

授業科目

システム理工学部

	2. 本学部での学修、研究を強く志望し、自らの意思と行動力を持って人々の暮らしを支え喜びをもたらす建築を生み出すことに、情熱を持つ人 3. 建築をベースに、社会や時代・環境の変化を見据え、多様な価値観を受け入れ、場所・地域・国を問わずに活躍することを志向する人上記に賛同し、本学部への入学を志望する人は、高等学校等において以下の能力を身につけていることが望まれます。 上記に賛同し、本学部への入学を志望する人は、高等学校等において、以下の能力を身につけていることが望まれます。 (1) 科学的な思考・判断をするための基礎学力(特に数学・物理・化学・英語) (2) 論理的な思考にもとづく、判断力、読解力、表現力 (3) 建築・都市を取り巻く社会や文化について、その歴史をふまえて理解するための基礎的知識 (4) 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度 (5) 独自の視点により空間や思考を表現する能力

別表3

（略）

別表4

授業科目

システム理工学部

【全学科共通】

授業科目		単位数			適要
		必修	選択	自由	
全学共通科目	ダイバーシティ入門		2		
	アントレプレナーシップ入門		2		
	アントレプレナーシップ応用		2		
	芝浦工業大学通論		2		
	消費者行動論		2		
	マーケティング概論		2		
	デジタルプレゼンテーション		2		
	Japanese Language Ⅰ			2	
	Japanese LanguageⅡ			2	
	Japanese LanguageⅢ			2	
	Japanese LanguageⅣ			2	

システム理工学部

【各学科共通】

授業科目			単位数			適要
			必修	選択	自由	
共通科	教職科目	教職論		2		
		人間関係論		2		

【全学科共通】

授業科目		単位数			適要
		必修	選択	自由	
全学共通科目	ダイバーシティ入門		2		
	アントレプレナーシップ入門		2		
	アントレプレナーシップ応用		2		
	芝浦工業大学通論		2		
	消費者行動論		2		
	マーケティング概論		2		
	デジタルプレゼンテーション		2		
	Japanese Language Ⅰ			2	
	Japanese LanguageⅡ			2	
	Japanese LanguageⅢ			2	
	Japanese LanguageⅣ			2	

システム理工学部

【各学科共通】

授業科目			単位数			適要
			必修	選択	自由	
共通科	教職科目	教職論		2		
		人間関係論		2		

目			教育の方法及び技術		1			
			教育におけるICT活用		1			
			特別支援教育論		1			
			生徒・進路指導論		2			
	総合科目	英語科目以外	エンジニアリテラシー科目	社会ニーズ調査法	2			
				ソーシャル・イノベーション	2			
				文章論	2			
				科学技術史	2			
				科学技術と社会	2			
				SITBuddy		1		
				統計学基礎	1		□…教科及び教科の指導法に関する科目(情報)	
				SDGs入門		2		
			社会科学系科目	行政学		2		
				政治学		2		
				社会福祉論		2		
				□情報社会と法		2		
				日本国憲		2		

目			教育の方法及び技術		1			
			教育におけるICT活用		1			
			特別支援教育論		1			
			生徒・進路指導論		2			
	総合科目	英語科目以外	エンジニアリテラシー科目	社会ニーズ調査法	2			
				ソーシャル・イノベーション	2			
				文章論	2			
				科学技術史	2			
				科学技術と社会	2			
				SITBuddy		1		
				統計学基礎	1		□…教科及び教科の指導法に関する科目(情報)	
				SDGs入門		2		
			社会科学系科目	行政学		2		
				政治学		2		
				社会福祉論		2		
				□情報社会と法		2		
				日本国憲		2		

| | | |

				目	倫理				
					世界史A		2		
					世界史B		2		
					国際デザイン史		2		
					認知心理学		2		
					組織心理学		2		
					教育心理学		2		
					教育の近現代史		2		
					教育原論		2		
					教育課程論		2		
					教育相談論		2		

システム理工学部

【各学科共通】

授業科目					単位数			適要
					必修	選択	自由	
共通科目	総合科目	英語科目	保健体育系科目	体育実技(フライング・グディスク)		1		
			以外	体育実技(テニス)		1		
				体育実技(卓球)		1		
				体育実技(バドミントン)		1		
				体育実技(ソフトボ		1		

				目	倫理				
					世界史A		2		
					世界史B		2		
					国際デザイン史		2		
					認知心理学		2		
					組織心理学		2		
					教育心理学		2		
					教育の近現代史		2		
					教育原論		2		
					教育課程論		2		
					教育相談論		2		

システム理工学部

【各学科共通】

授業科目					単位数			適要
					必修	選択	自由	
共通科目	総合科目	英語科目	保健体育系科目	体育実技(フライング・グディスク)		1		
			以外	体育実技(テニス)		1		
				体育実技(卓球)		1		
				体育実技(バドミントン)		1		
				体育実技(ソフトボ		1		

| | | |

| | | |

				glish for Science and Technology Ⅱ												glish for Science and Technology Ⅱ							
				Advanced English for Science and Technology Ⅰ		2										Advanced English for Science and Technology Ⅰ		2					
				Advanced English for Science and Technology Ⅱ		2										Advanced English for Science and Technology Ⅱ		2					
				理工系英語プレゼンテーション		2										理工系英語プレゼンテーション		2					
				語学検定対策講座		2										語学検定対策講座		2					
				海外英語研修 Ⅰ		2										海外英語研修 Ⅰ		2					
				海外英語研修 Ⅱ		2										海外英語研修 Ⅱ		2					
				学外英語検定 Ⅰ		2										学外英語検定 Ⅰ		2					
				学外英語検定 Ⅱ		2										学外英語検定 Ⅱ		2					
				海外短期英語研修 Ⅰ		1										海外短期英語研修 Ⅰ		1					
				海外短期英語研修 Ⅱ		1										海外短期英語研修 Ⅱ		1					

システム理工学部

【電子情報システム学科】

授業科目		単位数			適要
		必修	選択	自由	
基礎科目	微分積分Ⅰ	2			
	微分積分Ⅱ		2		
	線形代数Ⅰ	2			
	線形代数Ⅱ		2		
	微分方程式	2			
	ベクトル解析	2			
	力学Ⅰ	2			
	力学Ⅱ		2		
	波動・熱力学		2		
	電磁気学		2		
	生物学Ⅰ		2		
	生物学Ⅱ		2		
	化学Ⅰ		2		
	化学Ⅱ		2		
	現代物理学概論		2		
システム・情報科	□情報処理Ⅰ	2			□…教科及び教科の指導法に関する科目(情報)
	□情報処理Ⅱ	2			
	□情報処理演習Ⅰ	1			
	□情報処理演習Ⅱ	1			
	□システム工学A(システム計画方	2			

システム理工学部

【電子情報システム学科】

授業科目		単位数			適要
		必修	選択	自由	
基礎科目	微分積分Ⅰ	2			
	微分積分Ⅱ		2		
	線形代数Ⅰ	2			
	線形代数Ⅱ		2		
	微分方程式	2			
	ベクトル解析	2			
	力学Ⅰ	2			
	力学Ⅱ		2		
	波動・熱力学		2		
	電磁気学		2		
	生物学Ⅰ		2		
	生物学Ⅱ		2		
	化学Ⅰ		2		
	化学Ⅱ		2		
	現代物理学概論		2		
システム・情報科	□情報処理Ⅰ	2			□…教科及び教科の指導法に関する科目(情報)
	□情報処理Ⅱ	2			
	□情報処理演習Ⅰ	1			
	□情報処理演習Ⅱ	1			
	□システム工学A(システム計画方	2			

	法論)				
	システム工学B(数理計画法)	2			
	［システム工学C(データサイエンス)		2		
	［システム工学演習A	1			
	システム工学演習B	1			
	［システム工学演習C		2		
	創る		2		
	信頼性工学		2		
	人間工学		2		
	システム理工学入門		2		
	データサイエンス(応用)		2		
	AI基礎		1		
	データサイエンスリテラシー		1		
	Advanced Systems Science and Engineering		2		
	システム科学		2		

システム理工学部

【電子情報システム学科】

授業科目	単位数	適要

	法論)				
	システム工学B(数理計画法)	2			
	［システム工学C(データサイエンス)		2		
	［システム工学演習A	1			
	システム工学演習B	1			
	［システム工学演習C		2		
	創る		2		
	信頼性工学		2		
	人間工学		2		
	システム理工学入門		2		
	データサイエンス(応用)		2		
	AI基礎		1		
	データサイエンスリテラシー		1		
	Advanced Systems Science and Engineering		2		
	システム科学		2		

システム理工学部

【電子情報システム学科】

授業科目	単位数	適要

		必修	選択	自由	
専門科目	Introduction to Embedded Programming(International Training)		2		□…教科及び教科の指導法に関する科目(情報)
	□離散数学	2			
	□データ構造とアルゴリズムⅠ	2			
	□データ構造とアルゴリズムⅡ		2		
	□プログラミング演習Ⅰ		1		
	□オブジェクト指向プログラミングⅠ		2		
	□オブジェクト指向プログラミングⅡ		2		
	□プログラミング演習Ⅱ		1		
	□Embedded Systems		2		
	□データベース		2		
	Embedded Control Systems(Internation		2		

		必修	選択	自由	
専門科目	Introduction to Embedded Programming(International Training)		2		□…教科及び教科の指導法に関する科目(情報)
	□離散数学	2			
	□データ構造とアルゴリズムⅠ	2			
	□データ構造とアルゴリズムⅡ		2		
	□プログラミング演習Ⅰ		1		
	□オブジェクト指向プログラミングⅠ		2		
	□オブジェクト指向プログラミングⅡ		2		
	□プログラミング演習Ⅱ		1		
	□Embedded Systems		2		
	□データベース		2		
	Embedded Control Systems(Internation		2		

		al Training)																					
		・ソフトウェア設計論	2																				
		・オペレーティングシステム	2																				
		・言語処理系	2																				
		・人工知能基礎	2																				
		・Computer Simulation	2																				
		・自然言語処理	2																				
		・パターン認識	2																				
		・Programming Language Processor	2																				
		・メディア処理基礎	2																				
		・情報通信基礎	2																				
		・通信網工学	2																				
		計測工学	2																				
		・情報理論	2																				
		・コミュニケーションシステム	2																				
		・ネットワークアプリケーション	2																				
		電子計測	2																				
		VR／AR	2																				

		信号解析	2							信号解析	2								
		□画像情報処理	2							□画像情報処理	2								
		□グラフ理論とネットワーク	2							□グラフ理論とネットワーク	2								
		ディジタル信号処理	2							ディジタル信号処理	2								
		宇宙観測技術	2							宇宙観測技術	2								
		□符号理論	2							□符号理論	2								
		□ICT Systems Design	2							□ICT Systems Design	2								
		□ハードウェア基礎	2							□ハードウェア基礎	2								
		電気回路	2							電気回路	2								
		電気回路演習	1							電気回路演習	1								
		電気磁気学Ⅰ	2							電気磁気学Ⅰ	2								
		電気磁気学Ⅱ	2							電気磁気学Ⅱ	2								
		□論理回路	2							□論理回路	2								
		電子回路Ⅰ	2							電子回路Ⅰ	2								
		電子回路Ⅱ	2							電子回路Ⅱ	2								
		回路理論	2							回路理論	2								
		システム制御	2							システム制御	2								
		□LSI設計基礎	2							□LSI設計基礎	2								
		半導体工学	2							半導体工学	2								
		電子デバイス	2							電子デバイス	2								
		□LSI設計	2							□LSI設計	2								

		□電子情報基礎実験	2					□電子情報基礎実験	2		
		○Introduction to Control Engineering	2					○Introduction to Control Engineering	2		
		□電子情報システム総論	2					□電子情報システム総論	2		
		□情報実験Ⅰ	2					□情報実験Ⅰ	2		
		□情報実験Ⅱ	2					□情報実験Ⅱ	2		
		□電子情報実験Ⅰ	2					□電子情報実験Ⅰ	2		
		□電子情報実験Ⅱ	2					□電子情報実験Ⅱ	2		
		テクニカルセミナー	1					テクニカルセミナー	1		
		Global PBL	2					Global PBL	2		
		国際電子情報システム実験Ⅰ	2					国際電子情報システム実験Ⅰ	2		
		国際電子情報システム実験Ⅱ	2					国際電子情報システム実験Ⅱ	2		
		□Recent Trends on Electronic Systems	2					□Recent Trends on Electronic Systems	2		
		□Recent Trends on Information Systems	2					□Recent Trends on Information Systems	2		
		□マイクロプロセッサ	2					□マイクロプロセッサ	2		
		□情報セキュリティ	2					□情報セキュリティ	2		

	○Basic Control Engineering		2		
	総合研究Ⅰ	4			
	総合研究Ⅱ	4			
	□情報科指導法1		2		
	□情報科指導法2		2		

システム理工学部

【機械制御システム学科】

授業科目		単位数			適要
		必修	選択	自由	
基礎科目	微分積分Ⅰ	2			△…教科及び教科の指導法に関する科目(工業)
	微分積分Ⅱ	2			
	線形代数Ⅰ	2			
	線形代数Ⅱ		2		
	微分方程式	2			
	ベクトル解析		2		
	∠力学Ⅰ	2			
	∠力学Ⅱ		2		
	∠波動・熱力学	2			
	∠電磁気学		2		
	∠生物学Ⅰ		2		
	∠生物学Ⅱ		2		
	化学Ⅰ		2		
	化学Ⅱ		2		
	現代物理学概論		2		

	○Basic Control Engineering		2		
	総合研究Ⅰ	4			
	総合研究Ⅱ	4			
	□情報科指導法1		2		
	□情報科指導法2		2		

システム理工学部

【機械制御システム学科】

授業科目		単位数			適要
		必修	選択	自由	
基礎科目	微分積分Ⅰ	2			△…教科及び教科の指導法に関する科目(工業)
	微分積分Ⅱ	2			
	線形代数Ⅰ	2			
	線形代数Ⅱ		2		
	微分方程式	2			
	ベクトル解析		2		
	∠力学Ⅰ	2			
	∠力学Ⅱ		2		
	∠波動・熱力学	2			
	∠電磁気学		2		
	∠生物学Ⅰ		2		
	∠生物学Ⅱ		2		
	化学Ⅰ		2		
	化学Ⅱ		2		
	現代物理学概論		2		

システム・情報科目	∠情報処理Ⅰ(データサイエンス)	2			△…教科及び教科の指導法に関する科目(工業)			システム・情報科目	∠情報処理Ⅰ(データサイエンス)	2			△…教科及び教科の指導法に関する科目(工業)					
	∠情報処理Ⅱ	2							∠情報処理Ⅱ	2								
	∠情報処理演習Ⅰ(データサイエンス)	1							∠情報処理演習Ⅰ(データサイエンス)	1								
	∠情報処理演習Ⅱ	1							∠情報処理演習Ⅱ	1								
	∠システム工学A(システム計画方法論)	2							∠システム工学A(システム計画方法論)	2								
	∠システム工学B(数理計画法)	2							∠システム工学B(数理計画法)	2								
	システム工学C(データサイエンス)		2						システム工学C(データサイエンス)		2							
	∠システム工学演習A	1							∠システム工学演習A	1								
	∠システム工学演習B	1							∠システム工学演習B	1								
	システム工学演習C		2						システム工学演習C		2							
	創る		2						創る		2							
	∠信頼性工学		2						∠信頼性工学		2							
	人間工学		2						人間工学		2							
	∠システム理工学入門		2						∠システム理工学入門		2							
	データサイ		2						データサイ		2							

	エンス(応用)				
	AI基礎		1		
	データサイエンスリテラシー		1		
	Advanced Systems Science and Engineering		2		
	システム科学		2		

システム理工学部

【機械制御システム学科】

授業科目		単位数			適要
		必修	選択	自由	
専門科目	∠機械力学	2			△…教科及び教科の指導法に関する科目(工業)
	振動工学	2			
	∠材料力学	2			
	∠応用材料力学		2		
	∠流れ学	2			
	∠熱力学	2			
	∠機械工学実験Ⅰ		2		
	∠機械工学実験Ⅱ		2		
	∠数値流体力学概論		2		
	∠機械システム基礎数学	2			

	エンス(応用)				
	AI基礎		1		
	データサイエンスリテラシー		1		
	Advanced Systems Science and Engineering		2		
	システム科学		2		

システム理工学部

【機械制御システム学科】

授業科目		単位数			適要
		必修	選択	自由	
専門科目	∠機械力学	2			△…教科及び教科の指導法に関する科目(工業)
	振動工学	2			
	∠材料力学	2			
	∠応用材料力学		2		
	∠流れ学	2			
	∠熱力学	2			
	∠機械工学実験Ⅰ		2		
	∠機械工学実験Ⅱ		2		
	∠数値流体力学概論		2		
	∠機械システム基礎数学	2			

		∠計測工学		2						∠計測工学		2							
		∠基礎エレクトロニクス		2						∠基礎エレクトロニクス		2							
		Introduction to Control Engineering		2						Introduction to Control Engineering		2							
		∠制御工学	2							∠制御工学	2								
		Basic Control Engineering		2						Basic Control Engineering		2							
		∠線形システム基礎論		2						∠線形システム基礎論		2							
		∠機構学	2							∠機構学	2								
		∠機械材料		2						∠機械材料		2							
		∠加工工学		2						∠加工工学		2							
		∠基礎製図	2							∠基礎製図	2								
		∠設計製図	2							∠設計製図	2								
		∠応用設計		2						∠応用設計		2							
		∠応用設計演習		1						∠応用設計演習		1							
		∠機械工学実習	2							∠機械工学実習	2								
		Introduction to Embedded Programming(International Training)		2						Introduction to Embedded Programming(International Training)		2							
		∠メカトロニクス		2						∠メカトロニクス		2							
		∠自動車工学		2						∠自動車工学		2							
		∠ロボティクス		2						∠ロボティクス		2							
		Introducti		2						Introducti		2							

| | | |

	Ⅰ				
	エンジニアリング・プラクティスⅡ		2		
	∠機械システムセミナー		2		
	総合研究Ⅰ	4			
	総合研究Ⅱ	4			

システム理工学部

【環境システム学科】

授業科目		単位数			適要
		必修	選択	自由	
基礎科目	微分積分Ⅰ	2			
	微分積分Ⅱ		2		
	線形代数Ⅰ	2			
	線形代数Ⅱ		2		
	微分方程式	2			
	ベクトル解析		2		
	力学Ⅰ		2		
	力学Ⅱ		2		
	波動・熱力学		2		
	電磁気学		2		
	生物学Ⅰ		2		
	生物学Ⅱ		2		
	化学Ⅰ		2		
	化学Ⅱ		2		
	現代物理学概論		2		
システ	情報処理Ⅰ(データサイエンス)	2			

	Ⅰ				
	エンジニアリング・プラクティスⅡ		2		
	∠機械システムセミナー		2		
	総合研究Ⅰ	4			
	総合研究Ⅱ	4			

システム理工学部

【環境システム学科】

授業科目		単位数			適要
		必修	選択	自由	
基礎科目	微分積分Ⅰ	2			
	微分積分Ⅱ		2		
	線形代数Ⅰ	2			
	線形代数Ⅱ		2		
	微分方程式	2			
	ベクトル解析		2		
	力学Ⅰ		2		
	力学Ⅱ		2		
	波動・熱力学		2		
	電磁気学		2		
	生物学Ⅰ		2		
	生物学Ⅱ		2		
	化学Ⅰ		2		
	化学Ⅱ		2		
	現代物理学概論		2		
システ	情報処理Ⅰ(データサイエンス)	2			

| | | |

	Advanced Systems Science and Engineering		2		
	システム科学		2		

システム理工学部

【環境システム学科】

授業科目		単位数			適要
		必修	選択	自由	
専門科目	環境システム入門		2		
	建築基礎演習		1		
	環境・都市基礎演習		1		
	International Environmental Field Experience 1		2		
	International Environmental Field Experience 2		2		
	環境システム応用演習A		3		
	環境システム応用演習B		3		
	環境システム総論	2			

	Advanced Systems Science and Engineering		2		
	システム科学		2		

システム理工学部

【環境システム学科】

授業科目		単位数			適要
		必修	選択	自由	
専門科目	環境システム入門		2		
	建築基礎演習		1		
	環境・都市基礎演習		1		
	International Environmental Field Experience 1		2		
	International Environmental Field Experience 2		2		
	環境システム応用演習A		3		
	環境システム応用演習B		3		
	環境システム総論	2			

		建設プロジェクトマネジメント	2					建設プロジェクトマネジメント	2		
		International Workshop on Environmental Planning and Design 1	2					International Workshop on Environmental Planning and Design 1	2		
		International Workshop on Environmental Planning and Design 2	2					International Workshop on Environmental Planning and Design 2	2		
		社会実習Ⅰ	1					社会実習Ⅰ	1		
		社会実習Ⅱ	2					社会実習Ⅱ	2		
		総合研究Ⅰ	4					総合研究Ⅰ	4		
		総合研究Ⅱ	4					総合研究Ⅱ	4		
		Environmental Research Seminar 1	2					Environmental Research Seminar 1	2		
		Environmental Research Seminar 2	2					Environmental Research Seminar 2	2		
		建築史	2					建築史	2		
		建築計画基礎	2					建築計画基礎	2		
		建築設計情報演習	2					建築設計情報演習	2		
		建築デジタルデザイン	2					建築デジタルデザイン	2		

		居住環境デザイン論	2					居住環境デザイン論	2		
		居住環境デザイン演習	2					居住環境デザイン演習	2		
		建築構造基礎	2					建築構造基礎	2		
		建築構造力学Ⅰ	2					建築構造力学Ⅰ	2		
		建築構造力学Ⅱ	2					建築構造力学Ⅱ	2		
		建築構造設計	2					建築構造設計	2		
		建築構造システム演習	1					建築構造システム演習	1		
		建築材料	2					建築材料	2		
		建築生産・施工	2					建築生産・施工	2		
		都市及び都市計画史	2					都市及び都市計画史	2		
		都市計画基礎	2					都市計画基礎	2		
		都市計画演習	1					都市計画演習	1		
		土地利用計画演習	2					土地利用計画演習	2		
		都市・地域システム計画	2					都市・地域システム計画	2		
		交通システム計画	2					交通システム計画	2		
		Planning for Community Resilience	2					Planning for Community Resilience	2		
		環境システム解析演習	1					環境システム解析演習	1		

システム理工学部

【環境システム学科】

授業科目		単位数			適要
		必修	選択	自由	
専門科目	建築デジタル・ファブリケーション		3		
	脱炭素と地域創発		2		
	環境政策		2		
	資源・エネルギーシステム論		2		
	地理情報科学		2		
	都市住宅論		2		
	都市環境デザイン	2			
	都市環境デザイン演習		2		
	建築・都市法規		2		
	Architecture and Environmental Design		2		
	Architectural Design Studio		2		
	建築・環境デザイン演習		2		
	環境フィールド実習		2		

システム理工学部

【環境システム学科】

授業科目		単位数			適要
		必修	選択	自由	
専門科目	建築デジタル・ファブリケーション		3		
	脱炭素と地域創発		2		
	環境政策		2		
	資源・エネルギーシステム論		2		
	地理情報科学		2		
	都市住宅論		2		
	都市環境デザイン	2			
	都市環境デザイン演習		2		
	建築・都市法規		2		
	Architecture and Environmental Design		2		
	Architectural Design Studio		2		
	建築・環境デザイン演習		2		
	環境フィールド実習		2		

		Basic Urban Infrastructure Engineering	2							Basic Urban Infrastructure Engineering	2								
		景観・ランドスケープデザイン	2							景観・ランドスケープデザイン	2								
		都市環境基盤計画	2							都市環境基盤計画	2								
		Life Cycle Assessment	2							Life Cycle Assessment	2								
		Global Governance and Sustainable Strategy	2							Global Governance and Sustainable Strategy	2								
		Environmental Land Use Planning	2							Environmental Land Use Planning	2								
		Environmental Field Survey A	1							Environmental Field Survey A	1								
		Environmental Field Survey B	1							Environmental Field Survey B	1								
		Urban and Regional Studies	2							Urban and Regional Studies	2								
		History of Housing and Interior Design	2							History of Housing and Interior Design	2								

	Architectural Planning and Design		2		
	Sustainable Business Practices		2		
	Workshop on Planning, Architecture and Environmental Systems C		3		
	Introduction to Embedded Programming (International Training)		2		
	建築環境工学	2			
	建築設備学		3		
	観光建築デザイン論		2		

システム理工学部

【生命科学科】

	Architectural Planning and Design		2		
	Sustainable Business Practices		2		
	Workshop on Planning, Architecture and Environmental Systems C		3		
	Introduction to Embedded Programming (International Training)		2		
	建築環境工学	2			
	建築設備学		3		
	観光建築デザイン論		2		

システム理工学部

【生命科学科】

授業科目		単位数			適要
		必修	選択	自由	
基礎科目	微分積分Ⅰ	2			
	微分積分Ⅱ		2		
	線形代数Ⅰ	2			☆…教科及び教科の指導法に

							関する科目(理科)
		線形代数Ⅱ		2			
		微分方程式		2			
		ベクトル解析		2			
		力学Ⅰ		2			
		力学Ⅱ		2			
		波動・熱力学		2			
		電磁気学		2			
		生物学Ⅰ		2			
		生物学Ⅱ		2			
		化学Ⅰ		2			
		化学Ⅱ		2			
		現代物理学概論		2			
	システム・情報科目	情報処理Ⅰ	2				
		情報処理Ⅱ	2				
		情報処理演習Ⅰ	1				
		情報処理演習Ⅱ	1				
		システム工学A(システム計画方法論)	2				
		システム工学B(数理計画法)	2				
		システム工学C(データサイエンス)		2			
		システム工	1				

	学演習A				
	システム工学演習B	1			
	システム工学演習C		2		
	創る		2		
	信頼性工学		2		
	人間工学		2		
	システム理工学入門		2		
	データサイエンス(応用)		2		
	AI基礎		1		
	データサイエンスリテラシー		1		
	Advanced Systems Science and Engineering		2		
	システム科学		2		

【生命科学科】

授業科目			単位数			適要
			必修	選択	自由	
	☆	生命科学概論		2		☆…教科及び教科の指導法に関する科目(理科)
	☆	解剖学		2		
	☆	生理学Ⅰ		2		
	☆	生理学Ⅱ		2		
	☆	分子生物学		2		
	☆	医学概論		2		
	☆	微生物学		2		
	☆	発生遺伝学		2		
	☆	環境化学		2		
	☆	公衆衛生学		2		
	☆	生命倫理		2		
		生命統計学		2		
	☆	生化学		2		
	☆	生体計測学		2		

	☆	Advanced Bioscience		2			
		Assistive Technology		2			
	☆	Genetic Engineering		2			
	☆	Basic Biology		2			
		グローバル課題解決実習1		1			
		グローバル課題解決実習2		1			
		グローバル課題解決実習3		1			
		キャリアデザイン		2			
		インターンシップ		1			
		総合研究Ⅰ	4				
		総合研究Ⅱ	4				
	☆	無機化学		2			
	☆	物理化学		2			
	☆	分析化学		2			
	☆	有機化学Ⅰ		2			
	☆	有機化学Ⅱ		2			

専門科目	☆	生体高分子工学		2		
	☆	食品栄養学		2		
	☆	細胞生理学		2		
	☆	環境生物学		2		
	☆	応用生物工学		2		
	☆	医薬化学概論		2		
	☆	生命科学実験A		3		
	☆	生命科学実験B		3		
	☆	生命科学実験C		3		
	☆	応用生命科学実験		2		
	☆	機械力学		2		
	☆	材料力学		2		
	☆	流れ学		2		
	☆	電気回路		2		
	☆	生体力学		2		
		機械設計製作演習		3		

		制御工学		2		
	☆	電子回路		2		
		メカトロニクス		2		
		医工学プログラミング演習		2		
		医療福祉機器設計演習		3		
	☆	生体材料学		2		
	☆	生物物理学		2		
		CAD／CAM演習		2		
		福祉リハビリテーション工学		2		
		医用画像工学		2		
		生命医工学セミナー		2		
	☆	生命医工学実験Ⅰ		3		
	☆	生命医工学実験Ⅱ		3		
		Introduction to Embedded Programming(Into		2		
	☆	Introduction of Bioengineering		2		
		Basic Control Engineering		2		

		Introduction to Control Engineering		2		
		Control Systems(International		2		
		理科指導法1		2		
		理科指導法2		2		

【生命科学課程】

科目区分		授業科目の名称	単位数			適要
			必修	選択	自由	
	SDGs・キャリアデザイン	△SDGs入門	2			☆…教科及び教科の指導法に関する科目(理科) □…教科及び教科の指導法に関する科目(情報) △…教科及び教科の指導法に関する科目(工業) ○…教科及び教科の指導法に関する科目(数学) ◇…教科及び教科の指導法に関する科目(技術)
		△未来を創る1	2			
		△未来を創る2	1			
		ダイバーシティ入門		2		
		インターンシップ		2		
		芝浦工業大学通論		2		
	アントレプレナー	△アントレプレナーシップA（価値創造）	2			
		△アントレプレナーシップB（事業創出）		2		
		△経営工学		2		

学際科目	・シップ	産学官金連携PBL		2		
		会計簿記		2		
	システム工学	△システム工学A（システム計画方法論）	3			
		△システム工学B（数理計画法）	3			
		プロジェクトマネジメント		2		
		Advanced Systems Science and Engineering1		2		
		Advanced Systems Science and Engineering2		2		
		信頼性工学		2		
		人間工学		2		
		△サイバーセキュリティと社会		2		
		微分積分１		2		
		微分積分２		2		
		線形代数1		2		
		線形代数2		2		
		☆力学1		2		
		力学2		2		

	理数・情報	☆波動・熱力学		2		
		☆電磁気学		2		
		☆生物学		2		
		☆化学		2		
		☆現代物理学概論		2		
		△情報基礎	3			
		△AI基礎	1			
		△統計学基礎	1			
		△データサイエンスリテラシー	1			
	社会科学	科学技術史		2		
		科学技術と社会		2		
		行政学		2		
		政治学		2		
		社会福祉論		2		
		情報社会と法		2		
		日本国憲法		2		

基礎教養科目		社会学概論		2		
		人間と自然環境		2		
		教育社会学		2		
	人文科学	哲学1		2		
		哲学2		2		
		倫理学		2		
		生命倫理概論		2		
		技術者と倫理		2		
		世界史A		2		
		世界史B		2		
		△ 国際デザイン史		2		
		認知心理学		2		
		組織心理学		2		
		教育の近現代史		2		
		教育原論		2		
		人間関係論		2		

	保健体育	体育実技１		1		
		体育実技２		1		
		からだの仕組みと運動		2		
		身体運動のメカニズム		2		
		健康科学論Ａ		2		
		健康科学論Ｂ		2		
	英語	English Basic Skills 1		2		
		English Basic Skills 2		2		
		English Advanced Skills 1		2		
		English Advanced Skills 2		2		
		English Remedial Course 1			2	
		English Remedial Course 2			2	
		Basic English for Science and Technology 1		2		
		Basic English for Science and Technology 2		2		
		Advanced English for Science and Technology 1		2		
		Advanced English for Science and Technology 2		2		

		理工系英語プレゼンテーション		2		
		海外英語研修1		2		
		海外英語研修2		2		
		海外短期英語研修1		1		
		海外短期英語研修2		1		
		学外英語検定1		2		
		学外英語検定2		2		
教職課程		事前・事後指導			1	
		教育実習１			2	
		教育実習２			2	
		教職実践演習（中・高）			2	
		教職インターンシップ１			1	
		教職インターンシップ２			1	
		Advanced Bioscience		2		
		Basic Bioscience		2		
		Basic Control Engineering		2		

		△ CAD/CAM演習		3		
		Genetic Engineering		2		
		△ 医工学概論		1		
		Introduction to Biomedical-Engineering		1		
		Introduction to Control Engineering		2		
		Introduction to Embedded Programming		2		
		Global Project-Based Learning 1		2		
		Global Project-Based Learning 2		2		
		Global Project-Based Learning 3		2		
		健康データサイエンス		2		
		☆ 健康長寿学		2		
		☆ スポーツ工学実験演習1		3		
		△ スポーツ工学実験演習2		3		
		健康行動栄養学		2		
		スポーツ画像工学		2		
		△ スポーツ信号処理		2		

		△	応用バイオメカニクス		2		
			映像メディア解析		2		
		△	スポーツ工学とSDGs		2		
		△	スポーツ工学概論		2		
		△	スポーツ工学研究法		2		
		☆	生理学		2		
		☆	体力医科学		2		
			データ解析		2		
			データサイエンス入門		1		
		△	バイオイメージング		2		
		△	バイオエレクトロニクス		2		
		☆	バイオエンジニアリング実験		2		
		☆	バイオマテリアル		2		
		△	バイオメカニカルエンジニアリング		2		
		△	バイオメカニクス		2		
			Python入門		1		

		△ Pythonプログラミング		3			
		☆ バイオレオロジー		2			
		△ メカトロニクス		2			
		メディア認知心理・人間工学		2			
		△ メディカルエンジニアリング実験		2			
		△ ものづくり工学		2			
		△ ロボティクス		2			
		△ 医学・医療概論		2			
		△ 医工学エレクトロニクス演習		2			
		△ 医工学セミナー		2			
		△ 医工学プログラミング演習		2			
		☆ 運動生理学		2			
	主専攻	☆ 解剖学		2			
		☆ 環境化学		2			
		機械・電気基礎数学		2			
		△ 機械設計製作演習		3			

		△ 機械力学		2		
		△ 機構学		2		
		☆ 機能解剖学		2		
		△ 公衆衛生学		2		
		☆ 構造解析学		2		
		☆ 細胞生理学		2		
		△ 材料力学		2		
		△ 食品栄養学		2		
		☆ 神経生理学		2		
		人工知能基礎		2		
		△ 制御工学		2		
		☆ 生化学		2		
		△ 生体計測学		2		
		☆ 生物地球化学		2		
		☆ 生物物理学		2		
		☆ 生命科学概論		2		

		☆ 生命科学実験（基礎）	4			
		☆ 生命科学実験（応用）	4			
		☆ 生命科学実験（発展）	4			
		△ 生命統計学	2			
		△ 創薬化学	2			
		△ 電気電子回路	2			
		△ 脳機能計測学	2			
		☆ 発生生物学	2			
		☆ 微生物学	2			
		☆ 分子遺伝学	2			
		☆ 分子生物学	2			
		☆ 分析化学	2			
		保健医療福祉政策概論	2			
		△ 薬理学	2			
		☆ 有機化学	2			
		△ 流れ学	2			

	Cross-cultural Student Support		1		
	☆ 理科指導法1		2		
	☆ 理科指導法2		2		
	☆ 理科指導法3		2		
	☆ 理科指導法4		2		
	△ 工業科指導法1		2		
	△ 工業科指導法2		2		
	△ 職業指導		2		
	△ 工学基礎概論		1		
	教育におけるICT活用		1		
	教育の方法及び技術		1		
	☆ 総合科学実験		1		
	教職論		2		
	特別活動の指導法		1		
	総合的な学習の時間の指導法		1		
	道徳の理論及び指導法		2		

専門科目		生徒・進路指導論		2		
		教育課程論		2		
		教育相談論		2		
		教育心理学		2		
		特別支援教育論		1		
		IoT基礎		2		
		IoT設計論		2		
		電気回路		2		
		フロントエンドとインタフェース基礎		2		
		センサとアクチュエータ		2		
		ディジタル信号処理		2		
		数値解析		2		
		電子回路		3		
		プログラミング入門		1		
		Python入門		1		
		Cプログラミング(情報)		3		

		データ構造とアルゴリズム	3			
		オブジェクト指向言語	2			
		モバイルプログラミング	2			
		ネットワークプログラミング	2			
		Computer Simulation	2			
		ソフトウェア設計論	2			
		ソフトウェア開発管理	2			
		現代的ソフトウェア構築技法	2			
		ゲームプログラミング	2			
		データベース	2			
		情報セキュリティ	2			
		インターネットプロトコル	2			
		情報理論	2			
		符号理論	2			
		ネットワークアプリケーション	2			
		ICT Systems Design	2			

		クラウドコンピューティング	2			
		メディア処理基礎	2			
		メディア処理1	2			
		メディア処理2	2			
		音声音響情報処理	2			
		自然言語処理	2			
		画像情報処理	2			
		コンピュータグラフィックス	2			
		VR/AR1	2			
		VR/AR2	2			
		ヒューマンコンピュータインタラクション	2			
		サイバーセキュリティ	2			
		エンタテインメントコンピューティング	2			
		メディアデザイン1	2			
		メディアデザイン2	2			
		メディア表現基礎	2			

	副専攻	メディア表現応用		2			
		メディアコンテンツビジネス		2			
		社会システム入門		1			
		システム科学		2			
		社会システム実践演習		3			
		データサイエンス応用		3			
		数理シミュレーション		3			
		シミュレーション＆ゲーミング		2			
		消費者行動論		2			
		社会調査法		2			
		ビジネスエコノミクス		2			
		金融・経済リテラシー		2			
		マーケティング論		2			
		クリエイティブ産業論		2			
		機械・電気システムセミナー		2			
		電気機器システム		2			

		材料・加工学		2		
		Introduction to Industrial Design		2		
		機械計測工学		2		
		自動車工学		2		
		建築史		2		
		建築基礎演習		2		
		建築構造基礎		2		
		建築計画基礎		2		
		建築環境設備基礎		2		
		建築設計情報演習		2		
		建設プロジェクトマネジメント		2		
		建築材料		2		
		建築生産・施工		2		
		建築環境工学		2		
		建築構造設計		3		
		建築構造力学1		2		

		建築構造力学2	2			
		環境・都市基礎	2			
		環境・都市基礎演習	1			
		SDGsと環境	2			
		都市計画基礎	2			
		都市計画演習	1			
		都市環境デザイン	2			
		都市及び都市計画史	2			
		都市・地域システム計画	2			
		Global Governance and Sustainable Strategy	2			
		土地利用計画	3			
		景観・ランドスケープデザイン	2			
		資源・エネルギーシステム論	3			
		環境政策	2			
		環境ビジネス	3			
		脱炭素と地域創発	2			

		論理と集合		2		
		解析基礎		2		
		代数学1		2		
		幾何学1		2		
		ベクトル解析		2		
		複素解析		2		
		数値解析1		2		
		数理計画法		2		
		現象の数理		2		
		数理科学概論		2		
		金融工学		2		
		保険数学		2		
	総合研究	総合研究１	2			
		総合研究２	2			
		総合研究３	4			
		総合研究４	4			

システム理工学部

【数理科学科】

授業科目		単位数			適要
		必修	選択	自由	
基礎科目	㋐微分積分Ⅰ	2			○…教科及び教科の指導法に関する科目(数学)
	㋑微分積分Ⅱ		2		
	㋒線形代数Ⅰ	2			
	㋓線形代数Ⅱ		2		
	㋔微分方程式	2			
	㋕ベクトル解析	2			
	力学Ⅰ	2			
	力学Ⅱ		2		
	波動・熱力学		2		
	電磁気学		2		
	生物学Ⅰ		2		
	生物学Ⅱ		2		
	化学Ⅰ		2		
	化学Ⅱ		2		
	現代物理学概論		2		
システム情報	㋐情報処理Ⅰ	2			○…教科及び教科の指導法に関する科目(数学)
	㋑情報処理	2			□…教科及び教

システム理工学部

【数理科学科】

授業科目		単位数			適要
		必修	選択	自由	
基礎科目	㋐微分積分Ⅰ	2			○…教科及び教科の指導法に関する科目(数学)
	㋑微分積分Ⅱ		2		
	㋒線形代数Ⅰ	2			
	㋓線形代数Ⅱ		2		
	㋔微分方程式	2			
	㋕ベクトル解析	2			
	力学Ⅰ	2			
	力学Ⅱ		2		
	波動・熱力学		2		
	電磁気学		2		
	生物学Ⅰ		2		
	生物学Ⅱ		2		
	化学Ⅰ		2		
	化学Ⅱ		2		
	現代物理学概論		2		
システム情報	㋐情報処理Ⅰ	2			○…教科及び教科の指導法に関する科目(数学)
	㋑情報処理	2			□…教科及び教

| | | |

	(応用)				
	AI基礎		1		
	データサイエンスリテラシー		1		
	Advanced Systems Science and Engineering		2		
	システム科学		2		

システム理工学部

【数理科学科】

授業科目		単位数			適要
		必修	選択	自由	
専門科目	基礎数理セミナー	2			○…教科及び教科の指導法に関する科目(数学)
	○数学基礎	2			□…教科及び教科の指導法に関する科目(情報)
	Practical English in Mathematical Sciences		2		
	国際数理科学実習Ⅰ		2		
	国際数理		2		

	(応用)				
	AI基礎		1		
	データサイエンスリテラシー		1		
	Advanced Systems Science and Engineering		2		
	システム科学		2		

システム理工学部

【数理科学科】

授業科目		単位数			適要
		必修	選択	自由	
専門科目	基礎数理セミナー	2			○…教科及び教科の指導法に関する科目(数学)
	○数学基礎	2			□…教科及び教科の指導法に関する科目(情報)
	Practical English in Mathematical Sciences		2		
	国際数理科学実習Ⅰ		2		
	国際数理		2		

| | | |

| | | |

○数理計画法	2			
○現象の数理	2			
□○Advanced Control Theory	2			
□○シミュレーション	2			
○数理科学特別講義	2			
□○データ構造とアルゴリズム	2			
□○Javaプログラミング	3			
□○記号処理	2			
□○計算理論基礎	2			
□○Theory of Computation	2			
○計算機代数	2			
○確率統計	2			
○多変量解析	2			
○確率統計学特論	2			
○金融・保険数理	2			

システム理工学部

【教職課程】

システム理工学部　電子情報システム学科

機械制御システム学科　数理科学科

○数理計画法	2			
○現象の数理	2			
□○Advanced Control Theory	2			
□○シミュレーション	2			
○数理科学特別講義	2			
□○データ構造とアルゴリズム	2			
□○Javaプログラミング	3			
□○記号処理	2			
□○計算理論基礎	2			
□○Theory of Computation	2			
○計算機代数	2			
○確率統計	2			
○多変量解析	2			
○確率統計学特論	2			
○金融・保険数理	2			

システム理工学部

【教職課程】

システム理工学部　電子情報システム学科

機械制御システム学科　生命科学科　数理科

授業科目		単位数			摘要
		必修	選択	自由	
教育の基礎的理解に関する科目	教育原論		2		共通科目(総合科目)
	教育の近現代史		2		共通科目(総合科目)
	教育心理学		2		共通科目(総合科目)
	教育社会学		2		共通科目(総合科目)
	教職論		2		共通科目(教職科目)
	特別支援教育論		1		共通科目(教職科目)
	教育課程論		2		共通科目(総合科目)
	総合的な学習の時間の指導法			1	
	道徳の理論及び指導法			2	
	特別活動の指導法			1	
	教育の方法及び技術		1		共通科目(教職科目)
	教育におけるICT活用		1		共通科目(教職科目)
	生徒・進路指導論		2		共通科目(教職科目)
	教育相談論		2		共通科目(総合科目)
	事前・事後指導			1	
	教職インタ			1	

学科

授業科目		単位数			摘要
		必修	選択	自由	
教育の基礎的理解に関する科目	教育原論		2		共通科目(総合科目)
	教育の近現代史		2		共通科目(総合科目)
	教育心理学		2		共通科目(総合科目)
	教育社会学		2		共通科目(総合科目)
	教職論		2		共通科目(教職科目)
	特別支援教育論		1		共通科目(教職科目)
	教育課程論		2		共通科目(総合科目)
	総合的な学習の時間の指導法			1	
	道徳の理論及び指導法			2	
	特別活動の指導法			1	
	教育の方法及び技術		1		共通科目(教職科目)
	教育におけるICT活用		1		共通科目(教職科目)
	生徒・進路指導論		2		共通科目(教職科目)
	教育相談論		2		共通科目(総合科目)
	事前・事後指導			1	
	教職インタ			1	

	ーンシップ1						ーンシップ1				
	教職インターンシップ2		1				教職インターンシップ2		1		
	教育実習1		2				教育実習1		2		
	教育実習2		2				教育実習2		2		
	教職実践演習(中・高)		2				教職実践演習(中・高)		2		
教科及び教科の指導法に関する科目	○数学科指導法1	2				教科及び教科の指導法に関する科目	○数学科指導法1	2			
	○数学科指導法2	2					○数学科指導法2	2			
	○数学科指導法3		2				○数学科指導法3		2		
	○数学科指導法4		2				○数学科指導法4		2		
	☆理科指導法1	2					☆理科指導法1	2			
	☆理科指導法2	2					☆理科指導法2	2			
	☆理科指導法3		2	○…教科及び教科の指導法に関する科目(数学)			☆理科指導法3		2	○…教科及び教科の指導法に関する科目(数学)	
	☆理科指導法4		2	☆…教科及び教科の指導法に関する科目(理科)			☆理科指導法4		2	☆…教科及び教科の指導法に関する科目(理科)	
	☆総合科実験		1	△…教科及び教科の指導法に関する科目(工業)			☆総合科実験		1	△…教科及び教科の指導法に関する科目(工業)	
	◿工業科指導法1	2		□…教科及び教科の指導法に関する科目			◿工業科指導法1	2		□…教科及び教科の指導法に関する科目	

					(情報)
	∠工業科指導法2		2		
	∠職業指導			2	
	⊏情報科指導法1		2		
	⊏情報科指導法2		2		
	道徳の理論及び指導法			2	高等学校免許状の課程のみ適用
大学が独自に設定する科目	人間関係論		2		共通科目(教職科目)

教育職員免許状の種類・教職課程開設科目及び修得単位数

１．教育職員免許状の種類・教科

学部	学科名	免許状の種類	教科名
システム理工学部	電子情報システム学科	高等学校教諭一種免許状	情報
	機械制御システム学科	高等学校教諭一種免許状	工業
	生命科学課程	中学校教諭一種免許状	理科

					(情報)
	∠工業科指導法2		2		
	∠職業指導			2	
	⊏情報科指導法1		2		
	⊏情報科指導法2		2		
	道徳の理論及び指導法			2	高等学校免許状の課程のみ適用
大学が独自に設定する科目	人間関係論		2		共通科目(教職科目)

教育職員免許状の種類・教職課程開設科目及び修得単位数

１．教育職員免許状の種類・教科

学部	学科名	免許状の種類	教科名
システム理工学部	電子情報システム学科	高等学校教諭一種免許状	情報
	機械制御システム学科	高等学校教諭一種免許状	工業
	生命科学科	中学校教諭一種免許状	理科

		高等学校教諭一種免許状	理科・工業
	数理科学科	中学校教諭一種免許状	数学
		高等学校教諭一種免許状	数学・情報

２．教員免許状取得に要する教科別単位数

所要資格等／免許状の種類	基礎資格	免許状取得に必要な最低修得単位数			
		教科及び教科の指導法に関する科目		教育の基礎的理解に関する科目	大学が独自に設定する科目
		教科名	単位数		
中学校教諭一種免許状	学士の学位を有すること 日本国憲法 体育 外国語コミュニケーション 情報機器の操作 それぞれ2単位取得を要する	数学	28単位以上	28単位	3単位
		理科	28単位以上		
高等学校教諭	学士の学位を有すること	数学	24単	24単位	11単位

		高等学校教諭一種免許状	理科
	数理科学科	中学校教諭一種免許状	数学
		高等学校教諭一種免許状	数学・情報

２．教員免許状取得に要する教科別単位数

所要資格等／免許状の種類	基礎資格	免許状取得に必要な最低修得単位数			
		教科及び教科の指導法に関する科目		教育の基礎的理解に関する科目	大学が独自に設定する科目
		教科名	単位数		
中学校教諭一種免許状	学士の学位を有すること 日本国憲法 体育 外国語コミュニケーション 情報機器の操作 それぞれ2単位取得を要する	数学	28単位以上	28単位	3単位
		理科	28単位以上		
高等学校教諭	学士の学位を有すること	数学	24単	24単位	11単位

一種免許状	日本国憲法 体育 外国語コミュニケーション 情報機器の操作	それぞれ2単位取得を要する	理科	24単位以上		
			情報	24単位以上		
			工業	24単位以上		

3．教育の基礎的理解に関する科目および大学が独自に設定する科目

資格・教科 授業科目名	中学校教諭一種免許状		高等学校教諭一種免許状			
	数学	理科	数学	理科	情報	工業
教職論●	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位
教育原論○	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位
教育の近現代史○	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位
教育心理学○	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位
特別支援教育論●	1単位	1単位	1単位	1単位	1単位	1単位
教育社会学○	2単	2単	2単	2単	2単	2単

一種免許状	日本国憲法 体育 外国語コミュニケーション 情報機器の操作	それぞれ2単位取得を要する	理科	24単位以上		
			情報	24単位以上		
			工業	24単位以上		

3．教育の基礎的理解に関する科目および大学が独自に設定する科目

資格・教科 授業科目名	中学校教諭一種免許状		高等学校教諭一種免許状			
	数学	理科	数学	理科	情報	工業
教職論●	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位
教育原論○	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位
教育の近現代史○	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位
教育心理学○	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位
特別支援教育論●	1単位	1単位	1単位	1単位	1単位	1単位
教育社会学○	2単	2単	2単	2単	2単	2単

	位	位	位	位	位	位
教育課程論○	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位
道徳の理論及び指導法	2単位	2単位	2単位＊	2単位＊	2単位＊	2単位＊
総合的な学習の時間の指導法	1単位	1単位	1単位	1単位	1単位	1単位
特別活動の指導法	1単位	1単位	1単位	1単位	1単位	1単位
教育の方法及び技術●	1単位	1単位	1単位	1単位	1単位	1単位
教育におけるICT活用●	1単位	1単位	1単位	1単位	1単位	1単位
生徒・進路指導論●	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位
教育相談論○	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位
人間関係論●	2単位＊	2単位＊	2単位＊	2単位＊	2単位＊	2単位＊
事前・事後指導	1単位	1単位	1単位	1単位	1単位	1単位
教育実習1	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位
教育実習2	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位
教職実践演習(中・高)	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位

○共通科目(総合科目)

●共通科目(教職科目)

＊大学が独自に設定する科目

４．教科及び教科の指導法に関する科目

教科	施行規則に定める	修得単位数	
		中学校教諭	高等学校教諭一種

	位	位	位	位	位	位
教育課程論○	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位
道徳の理論及び指導法	2単位	2単位	2単位＊	2単位＊	2単位＊	2単位＊
総合的な学習の時間の指導法	1単位	1単位	1単位	1単位	1単位	1単位
特別活動の指導法	1単位	1単位	1単位	1単位	1単位	1単位
教育の方法及び技術●	1単位	1単位	1単位	1単位	1単位	1単位
教育におけるICT活用●	1単位	1単位	1単位	1単位	1単位	1単位
生徒・進路指導論●	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位
教育相談論○	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位
人間関係論●	2単位＊	2単位＊	2単位＊	2単位＊	2単位＊	2単位＊
事前・事後指導	1単位	1単位	1単位	1単位	1単位	1単位
教育実習1	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位
教育実習2	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位
教職実践演習(中・高)	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位

○共通科目(総合科目)

●共通科目(教職科目)

＊大学が独自に設定する科目

４．教科及び教科の指導法に関する科目

教科	施行規則に定める	修得単位数	
		中学校教諭	高等学校教諭一種

名	科目区分等	一種免許状	免許状
数学	代数学 幾何学 解析学 確率論・統計学 コンピュータ	計20単位以上	計20単位以上
	各教科の指導法	計8単位	計4単位以上
理科	物理学 化学 生物学 地学 物理学実験 化学実験 生物学実験 地学実験	計20単位以上	計20単位以上
	各教科の指導法	計8単位	計4単位以上
情報	情報社会(職業に関する内容を含む)・情報倫理 コンピュータ・情報処理 情報シス		計20単位以上

名	科目区分等	一種免許状	免許状
数学	代数学 幾何学 解析学 確率論・統計学 コンピュータ	計20単位以上	計20単位以上
	各教科の指導法	計8単位	計4単位以上
理科	物理学 化学 生物学 地学 物理学実験 化学実験 生物学実験 地学実験	計20単位以上	計20単位以上
	各教科の指導法	計8単位	計4単位以上
情報	情報社会(職業に関する内容を含む)・情報倫理 コンピュータ・情報処理 情報シス		計20単位以上

	テム 情報通信ネットワーク マルチメディア表現・マルチメディア技術 各教科の指導法		計4単位
工業	職業指導 工業の関係科目 各教科の指導法		計20単位以上 計4単位

別表5

授業科目

デザイン工学部

【デザイン工学科】

◎必修科目　△選択科目　□自由科目

系列	科目番号	科目名称	単位数	1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期	週コマ数	授業形態	学修・教育到達目標	備考
全学共通科	1001704	ダイバーシティ入門	2	△	△							1	講義	A	
	40	芝浦工	2	△	△							1	講	A	

	テム 情報通信ネットワーク マルチメディア表現・マルチメディア技術 各教科の指導法		計4単位
工業	職業指導 工業の関係科目 各教科の指導法		計20単位以上 計4単位

別表5

授業科目

デザイン工学部

【デザイン工学科】

◎必修科目　△選択科目　□自由科目

系列	科目番号	科目名称	単位数	1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期	週コマ数	授業形態	学修・教育到達目標	備考
全学共通科	1001704	ダイバーシティ入門	2	△	△							1	講義	A	
	40	芝浦工	2	△	△							1	講	A	

系列	科目番号	科目名称	単位数	1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期	週コマ数	授業形態	学修・教	備考
目	0726000	業大学通論											講義		
	4021110000	消費者行動論	2	△	△							1	講義	A	
	4021120000	マーケティング概論	2	△	△							1	講義	A	
	4021130000	デジタルプレゼンテーション	2	△	△							1	講義	A	
	4007610000	Japanese Language Ⅰ	2	□	□							1	講義	—	
	4007620000	Japanese Language Ⅱ	2	□	□							1	講義	—	
	4007630000	Japanese Language Ⅲ	2	□	□							1	講義	—	
	4007640000	Japanese Language Ⅳ	2	□	□							1	講義	—	

系列	科目番号	科目名称	単位数	1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期	週コマ数	授業形態	学修・教	備考
目	0726000	業大学通論											講義		
	4021110000	消費者行動論	2	△	△							1	講義	A	
	4021120000	マーケティング概論	2	△	△							1	講義	A	
	4021130000	デジタルプレゼンテーション	2	△	△							1	講義	A	
	4007610000	Japanese Language Ⅰ	2	□	□							1	講義	—	
	4007620000	Japanese Language Ⅱ	2	□	□							1	講義	—	
	4007630000	Japanese Language Ⅲ	2	□	□							1	講義	—	
	4007640000	Japanese Language Ⅳ	2	□	□							1	講義	—	

														育到達目標	
共通教養科目	40000300	哲学(存在と心)	2	△						1	講義	A			
	40000370	工学倫理	2	△						1	講義	A, B			
	40000550	民俗学	2	△						1	講義	A			
	40049000	環境学	2	△						1	講義	A			
	40075000	科学技術論	2	△						1	講義	A, B			
	40075450	近現代史	2	△						1	講義	A			
	40061200	体育講義	2	△	△					1	講義	A			
	40061223	体育実技	1	△	△					1	実技	A			

														育到達目標	
共通教養科目	40000300	哲学(存在と心)	2	△						1	講義	A			
	40000370	工学倫理	2	△						1	講義	A, B			
	40000550	民俗学	2	△						1	講義	A			
	40049000	環境学	2	△						1	講義	A			
	40075000	科学技術論	2	△						1	講義	A, B			
	40075450	近現代史	2	△						1	講義	A			
	40061200	体育講義	2	△	△					1	講義	A			
	40061223	体育実技	1	△	△					1	実技	A			

| | | |

| | | |

		0747000	ア・デザイン															習			
		4007700	海外工学英語研修	1	△(不定)												1	演習	A	集中	
		4007810	グローバルPBL1	1	△(不定)												1	演習	A	集中	
		4007820	グローバルPBL2	1	△(不定)												1	演習	A	集中	
		4007830	グローバルPBL3	1	△(不定)												1	演習	A	集中	
	教育系	4009601	教育原論	2	△	△											1	講義	A		
		4009604	教育心理学	2	△	△											1	講義	A		
		4009606	教育の近現代史	2	△	△											1	講義	A		
		4009608	人間関係論	2	△	△											1	講義	A	※1	
		Z4	教職論	2	△	△											1	講	A	※1	

		0747000	ア・デザイン															習			
		4007700	海外工学英語研修	1	△(不定)												1	演習	A	集中	
		4007810	グローバルPBL1	1	△(不定)												1	演習	A	集中	
		4007820	グローバルPBL2	1	△(不定)												1	演習	A	集中	
		4007830	グローバルPBL3	1	△(不定)												1	演習	A	集中	
	教育系	4009601	教育原論	2	△	△											1	講義	A		
		4009604	教育心理学	2	△	△											1	講義	A		
		4009606	教育の近現代史	2	△	△											1	講義	A		
		4009608	人間関係論	2	△	△											1	講義	A	※1	
		Z4	教職論	2	△	△											1	講	A	※1	

| | | |

| | | |

		40084400	英語講読2	2			△				1	講義	A		
		40086200	ライティング	2		△					1	講義	A		
		40087500	テクニカルイングリッシュ	2			△				1	講義	A		
		40088000	英語プレゼンテーション	2				△			1	講義	A		
		40087000	ビジネス英語	2					△		1	講義	A		
		40095000	英語圏の言語と文化	2	△(不定)						1	講義	A	集中	
		40095500	英語圏の言語と文化(短期プログラム)	1	△(不定)						1	講義	A	集中	

※１　前期または後期のいずれかに開講

授業科目

デザイン工学部

【デザイン工学科】

◎必修科目　○選択必修科目　△選択科目

系	科	科目名	単	1年	2年	3年	4年	週	授	学	備

		40084400	英語講読2	2			△				1	講義	A		
		40086200	ライティング	2		△					1	講義	A		
		40087500	テクニカルイングリッシュ	2			△				1	講義	A		
		40088000	英語プレゼンテーション	2				△			1	講義	A		
		40087000	ビジネス英語	2					△		1	講義	A		
		40095000	英語圏の言語と文化	2	△(不定)						1	講義	A	集中	
		40095500	英語圏の言語と文化(短期プログラム)	1	△(不定)						1	講義	A	集中	

※１　前期または後期のいずれかに開講

授業科目

デザイン工学部

【デザイン工学科】

◎必修科目　○選択必修科目　△選択科目

系	科	科目名	単	1年	2年	3年	4年	週	授	学	備

列	目番号	称	位数	次前期	次後期	次前期	次後期	次前期	次後期	次前期	次後期	コマ数	業形態	修・教育到達目標	考
テーデータ・解析イエンス科目	4010160000	線形代数1	2	◎								1	講義	C	
	4010520000	微積分学1	2	◎								1	講義	C	
	Y021110000	統計学基礎	1		◎							1	演習	C, D2	
	4020600000	数理計画法	2			△						1	講義	C	
	Y021111010	数理モデリング	2			△						1	講義	C, D2	
	4011303040	数値解析	2				△					2	講義	C, D2	
	4004720000	計量経済学	2					△				1	講義	C, D2	

列	目番号	称	位数	次前期	次後期	次前期	次後期	次前期	次後期	次前期	次後期	コマ数	業形態	修・教育到達目標	考
テーデータ・解析イエンス科目	4010160000	線形代数1	2	◎								1	講義	C	
	4010520000	微積分学1	2	◎								1	講義	C	
	Y021110000	統計学基礎	1		◎							1	演習	C, D2	
	4020600000	数理計画法	2			△						1	講義	C	
	Y021111010	数理モデリング	2			△						1	講義	C, D2	
	4011303040	数値解析	2				△					2	講義	C, D2	
	4004720000	計量経済学	2					△				1	講義	C, D2	

		4021 5080	シミュレーション工学	2				△			1	講義	C				
		Y007 1030	マーケティング・リサーチ	2				△			2	演習	C, D2				
		Y015 0800	データマイニング	2				△			1	講義	C, D2				
	データ・サイエンス	Y021 2000	データ・サイエンス入門	1	◎						1	講義	C				
		4012 1400	基礎力学	2	△						1	講義	C				
		4012 6900	集合と論理	2	△						1	講義	C				
		4010 3400	線形代数2	2		△					1	講義	C				
		4010 7000	微積分学2	2		△					1	講義	C				
		4012 4700	物理学(電磁気)	2		△					1	講義	C				

		4021 5080	シミュレーション工学	2				△			1	講義	C				
		Y007 1030	マーケティング・リサーチ	2				△			2	演習	C, D2				
		Y015 0800	データマイニング	2				△			1	講義	C, D2				
	データ・サイエンス	Y021 2000	データ・サイエンス入門	1	◎						1	講義	C				
		4012 1400	基礎力学	2	△						1	講義	C				
		4012 6900	集合と論理	2	△						1	講義	C				
		4010 3400	線形代数2	2		△					1	講義	C				
		4010 7000	微積分学2	2		△					1	講義	C				
		4012 4700	物理学(電磁気)	2		△					1	講義	C				

		Y021210	工業力学・静力学	2		△						1	講義	C			
		Y021220	データサイエンスリテラシー	1		△						1	講義	C	集中		
		Y021230	工業力学・動力学	2			△					1	講義	C			
		Y021240	データ・サイエンス演習	1			△					1	演習	C			
		4011070000	ベクトル解析	2				△				1	講義	C			
		Y021250	フーリエ変換	1				△				1	講義	C			
		Y0073090	ゲーム理論	2					△			1	講義	C			
テサイン科目	テサイリテラ	Y0002600	ものづくり概論	2	◎							1	講義	E			
		Y002171	デザイン基礎表現演	2	◎							2	演習	E			

		Y021210	工業力学・静力学	2		△						1	講義	C			
		Y021220	データサイエンスリテラシー	1		△						1	講義	C	集中		
		Y021230	工業力学・動力学	2			△					1	講義	C			
		Y021240	データ・サイエンス演習	1			△					1	演習	C			
		4011070000	ベクトル解析	2				△				1	講義	C			
		Y021250	フーリエ変換	1				△				1	講義	C			
		Y0073090	ゲーム理論	2					△			1	講義	C			
テサイン科目	テサイリテラ	Y0002600	ものづくり概論	2	◎							1	講義	E			
		Y002171	デザイン基礎表現演	2	◎							2	演習	E			

シ	00	習															
ー	Y021 2100 00	構想デザイン入門	2	◎							1	講義	D1				
	Y000 6000 00	構想デザイン論	2			◎					1	講義	D1				
	4002 1100 00	認知心理学入門	2		△						1	講義	E				
	Y000 4800 00	デザイン史	2		△						1	講義	E				
	Y010 2000 00	ユニバーサルデザイン	2			△					1	講義	E				
	4002 6600 00	人間工学	1				△				1	講義	E				
	Y010 4600 00	インターフェースデザイン	1				△				1	講義	E				
	Y010 6400 00	サービスデザイン	2					△			1	講義	E				
	Y021 2121	論文作成演習	2					△			1	演習	F				

シ	00	習															
ー	Y021 2100 00	構想デザイン入門	2	◎							1	講義	D1				
	Y000 6000 00	構想デザイン論	2			◎					1	講義	D1				
	4002 1100 00	認知心理学入門	2		△						1	講義	E				
	Y000 4800 00	デザイン史	2		△						1	講義	E				
	Y010 2000 00	ユニバーサルデザイン	2			△					1	講義	E				
	4002 6600 00	人間工学	1				△				1	講義	E				
	Y010 4600 00	インターフェースデザイン	1				△				1	講義	E				
	Y010 6400 00	サービスデザイン	2					△			1	講義	E				
	Y021 2121	論文作成演習	2					△			1	演習	F				

		10															
		Y0107100	デザインマネージメント	2					△			1	講義	E			
		Y0150400	プロモーション計画論	2					△			1	講義	E			
	ビジネスメイキング	4002220	組織心理学	2	△							1	講義	A			
		4004810	経営学	2	△							1	講義	D1			
		4007140	プレゼンテーション	2		△						1	講義	F			
		4000046	企業倫理	2			△					1	講義	B			
		Y0070400	マーケティング	2			△					1	講義	D1			
		Y0068600	財務会計	2				△				1	講義	A			
		Y0074000	ビジネスモデル論	2					△			1	講義	D1			

		10															
		Y0107100	デザインマネージメント	2					△			1	講義	E			
		Y0150400	プロモーション計画論	2					△			1	講義	E			
	ビジネスメイキング	4002220	組織心理学	2	△							1	講義	A			
		4004810	経営学	2	△							1	講義	D1			
		4007140	プレゼンテーション	2		△						1	講義	F			
		4000046	企業倫理	2			△					1	講義	B			
		Y0070400	マーケティング	2			△					1	講義	D1			
		Y0068600	財務会計	2				△				1	講義	A			
		Y0074000	ビジネスモデル論	2					△			1	講義	D1			

		70															
エンロシタニクアトリテンサクイ科ンプタ目		Y002 7200	造形基礎演習	2		○						2	演習	E			
		Y021 3100	構成基礎演習	2	△							2	演習	E			
		Y002 2300	プロダクトデザイン	2		△						1	講義	E			
		Y010 8900	プロダクトデザイン演習1	2			△					2	演習	E			
		Y010 9700	プロダクトデザイン演習2	2				△				2	演習	E			
		Y010 3800	エモーショナルデザイン	2					△			1	講義	E			
	機能デザイン	4020 7000	SDGs入門	2		△						1	講義	B, E			
		Y002 6900	3D CAD	2		△						1	講義	E			
		Y002 7800	機構設計学	2				△				1	講義	E			

		70															
エンロシタニクアトリテンサクイ科ンプタ目		Y002 7200	造形基礎演習	2		○						2	演習	E			
		Y021 3100	構成基礎演習	2	△							2	演習	E			
		Y002 2300	プロダクトデザイン	2		△						1	講義	E			
		Y010 8900	プロダクトデザイン演習1	2			△					2	演習	E			
		Y010 9700	プロダクトデザイン演習2	2				△				2	演習	E			
		Y010 3800	エモーショナルデザイン	2					△			1	講義	E			
	機能デザイン	4020 7000	SDGs入門	2		△						1	講義	B, E			
		Y002 6900	3D CAD	2		△						1	講義	E			
		Y002 7800	機構設計学	2				△				1	講義	E			

		00															
		Y021 3200	有限要素法	2			△				2	講義	E		
		Y021 3200	基礎熱力学	2				△			1	講義	E		
		Y021 3220	基礎流体力学	2				△			1	講義	E		
		Y021 3230	熱流体シミュレーション	2					△		1	講義	E		
		Y021 3240	機械要素設計	2					△		1	講義	E		

授業科目

デザイン工学部

【デザイン工学科】

◎必修科目　○選択必修科目　△選択科目

系列	科目番号	科目名称	単位数	1年次		2年次		3年次		4年次		週コマ数	授業形態	学修・教育到達目標	備考
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
コンカ	Y021	基礎製図演習	2		○							2	演習	E	

		00															
		Y021 3200	有限要素法	2			△				2	講義	E		
		Y021 3200	基礎熱力学	2				△			1	講義	E		
		Y021 3220	基礎流体力学	2				△			1	講義	E		
		Y021 3230	熱流体シミュレーション	2					△		1	講義	E		
		Y021 3240	機械要素設計	2					△		1	講義	E		

授業科目

デザイン工学部

【デザイン工学科】

◎必修科目　○選択必修科目　△選択科目

系列	科目番号	科目名称	単位数	1年次		2年次		3年次		4年次		週コマ数	授業形態	学修・教育到達目標	備考
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
コンカ	Y021	基礎製図演習	2		○							2	演習	E	

シニアプロフェッショナル科目		3300														
		4012585800	化学	2	△							1	講義	E		
		4021303020	材料力学	2		△						1	講義	E		
		Y0145300	材料工学	2		△						1	講義	E		
		Y0213310	ものづくり実習	2		△						2	実習	E		
		4020970	機械力学	2			△					1	講義	E		
		Y0063100	金型工学	2			△					1	講義	E		
		Y0066800	生産加工学	2				△				1	講義	E		
		Y0213320	エコマテリアル	2					△			1	講義	E		
	UI	4030	情報表現基礎	2	○							2	演習	E		

シニアプロフェッショナル科目		3300														
		4012585800	化学	2	△							1	講義	E		
		4021303020	材料力学	2		△						1	講義	E		
		Y0145300	材料工学	2		△						1	講義	E		
		Y0213310	ものづくり実習	2		△						2	実習	E		
		4020970	機械力学	2			△					1	講義	E		
		Y0063100	金型工学	2			△					1	講義	E		
		Y0066800	生産加工学	2				△				1	講義	E		
		Y0213320	エコマテリアル	2					△			1	講義	E		
	UI	4030	情報表現基礎	2	○							2	演習	E		

ノ	20	演習													
UXデザインコース	Y015400	UXデザイン	2		△					1	講義	E			
	Y015440	UXデザイン演習	2		△					2	演習	E			
	Y00071	色彩論	2			△				1	講義	E			
	00	Color Theory	2			△				1	講義		英語開講		
	Y015320	コンテンツデザイン	2			△				1	講義	E			
	Y015360	コンテンツデザイン演習	2			△				2	演習	E			
	40303	情報デザイン論	2				△			1	講義	E			
	00	Information Design	2				△			1	講義	E	英語開講		
ソフトウェアコース	40203	情報処理演習	2		○					2	演習	E			
	Y0	プログ	2			△				3	演	E			

ノ	20	演習													
UXデザインコース	Y015400	UXデザイン	2		△					1	講義	E			
	Y015440	UXデザイン演習	2		△					2	演習	E			
	Y00071	色彩論	2			△				1	講義	E			
	00	Color Theory	2			△				1	講義		英語開講		
	Y015320	コンテンツデザイン	2			△				1	講義	E			
	Y015360	コンテンツデザイン演習	2			△				2	演習	E			
	40303	情報デザイン論	2				△			1	講義	E			
	00	Information Design	2				△			1	講義	E	英語開講		
ソフトウェアコース	40203	情報処理演習	2		○					2	演習	E			
	Y0	プログ	2			△				3	演	E			

ア	2011100	ラミング1										習					
	Y0201200	プログラミング2	2		△					3	演習	E					
	Y0045000	コンピュータアーキテクチャ	2			△				1	講義	E					
	Y0122600	データ構造とアルゴリズム	2			△				1	講義	E					
	Y0123400	オブジェクト指向プログラミング	2			△				1	講義	E					
	Y0124200	オブジェクト指向プログラミング演習	1			△				1	演習	E					
	Y0127700	ソフトウェア設計論	2				△			1	講義	E					
	Y0128500	ソフトウェア設計論演習	1				△			1	演習	E					
	Y0	要求工	2					△		1	講	E					

ア	2011100	ラミング1										習					
	Y0201200	プログラミング2	2		△					3	演習	E					
	Y0045000	コンピュータアーキテクチャ	2			△				1	講義	E					
	Y0122600	データ構造とアルゴリズム	2			△				1	講義	E					
	Y0123400	オブジェクト指向プログラミング	2			△				1	講義	E					
	Y0124200	オブジェクト指向プログラミング演習	1			△				1	演習	E					
	Y0127700	ソフトウェア設計論	2				△			1	講義	E					
	Y0128500	ソフトウェア設計論演習	1				△			1	演習	E					
	Y0	要求工	2					△		1	講	E					

| | | |

| | | |

| | | |

| | | |

| | | |

	20													E,F	

授業科目

デザイン工学部

【教職課程】

デザイン工学部　デザイン工学科

◎必修科目　△選択科目

系列	科目番号	科目名称	単位数	1年次		2年次		3年次		4年次		週コマ数	授業形態	免許科目	備考
				前	後	前	後	前	後	前	後				
教育の基礎的理解に関する科目	Z4041700	教職論	2	◎	◎							1	講義		※1
	4009601010	教育原論	2	◎	◎							1	講義		
	4009601040	教育心理学	2	◎	◎							1	講義		
	4009601060	教育の近現代史	2	△	△							1	講義		
	Z4260300	教育課程論	2			◎	◎					1	講義		
	4009	教育社会学	2					◎	◎			1	講義		

	20													E,F	

授業科目

デザイン工学部

【教職課程】

デザイン工学部　デザイン工学科

◎必修科目　△選択科目

系列	科目番号	科目名称	単位数	1年次		2年次		3年次		4年次		週コマ数	授業形態	免許科目	備考
				前	後	前	後	前	後	前	後				
教育の基礎的理解に関する科目	Z4041700	教職論	2	◎	◎							1	講義		※1
	4009601010	教育原論	2	◎	◎							1	講義		
	4009601040	教育心理学	2	◎	◎							1	講義		
	4009601060	教育の近現代史	2	△	△							1	講義		
	Z4260300	教育課程論	2			◎	◎					1	講義		
	4009	教育社会学	2					◎	◎			1	講義		

	6050														
	Z4060900	特別支援教育論	1				◎	◎			1	講義			
道徳、総合的な学習の時間の指導法及び生徒指導、教育相談などに関する科目	Z4012810	教育の方法及び技術	1			◎	◎				1	講義		※1	
	Z4012820	教育におけるICT活用	1			◎	◎				1	講義			
	Z4045800	特別活動の指導法	1			◎	◎				1	講義			
	Z4060700	道徳の理論及び指導法	2			△	△				1	講義			
	Z4025000	生徒・進路指導論	2				◎	◎			1	講義			
	Z4026880	教育相談論	2				◎	◎			1	講義			

	6050														
	Z4060900	特別支援教育論	1				◎	◎			1	講義			
道徳、総合的な学習の時間の指導法及び生徒指導、教育相談などに関する科目	Z4012810	教育の方法及び技術	1			◎	◎				1	講義		※1	
	Z4012820	教育におけるICT活用	1			◎	◎				1	講義			
	Z4045800	特別活動の指導法	1			◎	◎				1	講義			
	Z4060700	道徳の理論及び指導法	2			△	△				1	講義			
	Z4025000	生徒・進路指導論	2				◎	◎			1	講義			
	Z4026880	教育相談論	2				◎	◎			1	講義			

	0														
	Z406080	総合的な学習の時間の指導法	1			◎	◎				1	講義			
教育実践に関する科目	Z418290	事前・事後指導	1							◎	1	講義			
	Z418370	教育実習1	2							◎	―	実習		集中	
	Z418460	教育実習2	2							△	―	実習		集中	
	Z478000	教職実践演習(中・高)	2								◎	1	演習		
大学が独自に設置する科目	40096080	人間関係論	2	△	△						1	講義		※1	
教科及び教育の指	Y024003	ラボ探究	1				◎				1	講義	工業		

	0														
	Z406080	総合的な学習の時間の指導法	1			◎	◎				1	講義			
教育実践に関する科目	Z418290	事前・事後指導	1							◎	1	講義			
	Z418370	教育実習1	2							◎	―	実習		集中	
	Z418460	教育実習2	2							△	―	実習		集中	
	Z478000	教職実践演習(中・高)	2								◎	1	演習		
大学が独自に設置する科目	40096080	人間関係論	2	△	△						1	講義		※1	
教科及び教育の指	Y024003	ラボ探究	1				◎				1	講義	工業		

導法	0														
に関する科目	Z4070600	工業科指導法1	2			◎	◎				1	講義	工業	※1	
	Z4071400	工業科指導法2	2			◎	◎				1	講義	工業		
職業指導	Z4051700	職業指導	2					◎			1	講義	工業		
情報機器の操作	Z4021100	情報機器の操作	2		◎						1	講義			

備考欄「※　1」の科目は共通教養科目として取得単位は卒業要件単位数に参入されますが、教職課程履修者以外の履修は制限されることがあります。それ以外の科目は自由科目となり、卒業要件単位数に参入されません。

教育職員免許状の種類・教職課程開設科目及び修得単位数

1．教育職員免許状の種類・教科

学部	学科名	免許状の種類	教科名
デザイン工学部	デザイン工学科	高等学校教諭一種免許状	工業

2．教員免許状取得に要する教科別単位数

導法	0														
に関する科目	Z4070600	工業科指導法1	2			◎	◎				1	講義	工業	※1	
	Z4071400	工業科指導法2	2			◎	◎				1	講義	工業		
職業指導	Z4051700	職業指導	2					◎			1	講義	工業		
情報機器の操作	Z4021100	情報機器の操作	2		◎						1	講義			

備考欄「※　1」の科目は共通教養科目として取得単位は卒業要件単位数に参入されますが、教職課程履修者以外の履修は制限されることがあります。それ以外の科目は自由科目となり、卒業要件単位数に参入されません。

教育職員免許状の種類・教職課程開設科目及び修得単位数

1．教育職員免許状の種類・教科

学部	学科名	免許状の種類	教科名
デザイン工学部	デザイン工学科	高等学校教諭一種免許状	工業

2．教員免許状取得に要する教科別単位数

所要資格等 / 免許状の種類	基礎資格	専門教育科目の最低単位数			
		教科及び教科の指導法に関する科目		教育の基礎的理解に関する科目	大学が独自に設定する科目
		教科名	単位数		
高等学校教諭一種免許状	学士の称号を有すること 日本国憲法、体育、外国語コミュニケーション、情報機器の操作：それぞれ2単位取得を要する	工業	24単位以上	24単位	11単位

３．教育の基礎的理解に関する科目及び大学が独自に設定する科目

授業科目名 / 資格・教科	高等学校教諭一種免許状
	工業
教育原論※	2単位
教育の近現代史※	2単位
教職論※	2単位
教育社会学※	2単位
教育心理学※	2単位
特別支援教育論※	1単位
教育課程論※	2単位
道徳の理論及び指導法	2単位

所要資格等 / 免許状の種類	基礎資格	専門教育科目の最低単位数			
		教科及び教科の指導法に関する科目		教育の基礎的理解に関する科目	大学が独自に設定する科目
		教科名	単位数		
高等学校教諭一種免許状	学士の称号を有すること 日本国憲法、体育、外国語コミュニケーション、情報機器の操作：それぞれ2単位取得を要する	工業	24単位以上	24単位	11単位

３．教育の基礎的理解に関する科目及び大学が独自に設定する科目

授業科目名 / 資格・教科	高等学校教諭一種免許状
	工業
教育原論※	2単位
教育の近現代史※	2単位
教職論※	2単位
教育社会学※	2単位
教育心理学※	2単位
特別支援教育論※	1単位
教育課程論※	2単位
道徳の理論及び指導法	2単位

※	
総合的な学習の時間の指導法※	1単位
特別活動の指導法※	1単位
教育の方法及び技術※	1単位
教育におけるICT活用※	1単位
生徒・進路指導論※	2単位
教育相談論※	2単位
事前・事後指導	1単位
教育実習1	2単位
教育実習2	2単位
教職実践演習(中・高)	2単位
人間関係論※	2単位

※共通教養科目

４．教科及び教科の指導法に関する科目

教科名	施行規則に定める科目区分等	修得単位数
		高等学校教諭一種免許状
工業	職業指導 工業の関係科目	計20単位以上
	各教科の指導法	4単位
	計	24単位以上

別表6

授業科目

建築学部

【建築学科　基礎・教養科目群】

◎　必修科目　△　選択科目　　□　自由科目

系列	科目番号	科目名称	単位数	1年次		2年次		3年次		4年次		週コマ数	授業形態	学修・教育到達	備考
				前	後	前	後	前	後	前	後				

※	
総合的な学習の時間の指導法※	1単位
特別活動の指導法※	1単位
教育の方法及び技術※	1単位
教育におけるICT活用※	1単位
生徒・進路指導論※	2単位
教育相談論※	2単位
事前・事後指導	1単位
教育実習1	2単位
教育実習2	2単位
教職実践演習(中・高)	2単位
人間関係論※	2単位

※共通教養科目

４．教科及び教科の指導法に関する科目

教科名	施行規則に定める科目区分等	修得単位数
		高等学校教諭一種免許状
工業	職業指導 工業の関係科目	計20単位以上
	各教科の指導法	4単位
	計	24単位以上

別表6

授業科目

建築学部

【建築学科　基礎・教養科目群】

◎　必修科目　△　選択科目　　□　自由科目

系列	科目番号	科目名称	単位数	1年次		2年次		3年次		4年次		週コマ数	授業形態	学修・教育到達	備考
				前	後	前	後	前	後	前	後				

| | | |

	目	00																					
		S207900000	基礎力学	2		∠						1	講義	3									
		S208200000	基礎力学演習	2		∠						1	演習	3									
		S208500000	基礎環境化学	2		∠∠						1	講義	3									
		S209400000	基礎熱統計力学	2			∠					1	講義	3									
		S209700000	基礎熱統計力学演習	2			∠					1	演習	3									
	外国語科目	S221000000	Listening and Speaking	2		∠						1	講義	6									
		S221300000	Reading and Writing	2			∠					1	講義	6									
		S222000000	Reading	2				∠∠				1	講義	6									
		S222600000	Writing	2				∠∠				1	講義	6									

	目	00																					
		S207900000	基礎力学	2		∠						1	講義	3									
		S208200000	基礎力学演習	2		∠						1	演習	3									
		S208500000	基礎環境化学	2		∠∠						1	講義	3									
		S209400000	基礎熱統計力学	2			∠					1	講義	3									
		S209700000	基礎熱統計力学演習	2			∠					1	演習	3									
	外国語科目	S221000000	Listening and Speaking	2		∠						1	講義	6									
		S221300000	Reading and Writing	2		∠						1	講義	6									
		S222000000	Reading	2			∠∠					1	講義	6									
		S222600000	Writing	2			∠∠					1	講義	6									

		00																	
		S222800	Presentation Ⅰ	2			△△				1	講義	6		
		S223100	Presentation Ⅱ	2			△△				1	講義	6		
		S241000	TOEIC 1	2			△△				1	講義	6		
		S243000	TOEIC 2	2			△△				1	講義	6		
人文社会・情報系教養科目		S241000	情報リテラシ	2	△						1	講義	3，5		
		S241200	データサイエンスリテラシー	1		△					1	講義	3，5	集中	
		S241900	情報時代の地域・都市	2			△△				1	講義	3，5		
		S243000	哲学・倫理学	2					△△		1	講義	3，5		
		S242	技術者の倫理	2	△△						1	講義	3，5		

		00																	
		S222800	Presentation Ⅰ	2			△△				1	講義	6		
		S223100	Presentation Ⅱ	2			△△				1	講義	6		
		S241000	TOEIC 1	2			△△				1	講義	6		
		S243000	TOEIC 2	2			△△				1	講義	6		
人文社会・情報系教養科目		S241000	情報リテラシ	2	△						1	講義	3，5		
		S241200	データサイエンスリテラシー	1		△					1	講義	3，5	集中	
		S241900	情報時代の地域・都市	2			△△				1	講義	3，5		
		S243000	哲学・倫理学	2					△△		1	講義	3，5		
		S242	技術者の倫理	2	△△						1	講義	3，5		

| | | |

| | | |

| | | |

| | | |

| | | |

| | | |

		7															
		W000008	海外語学演習3	2	△不定							2	演習	6			
		W000009	海外語学演習4	2	△不定							2	演習	6			

※「学外英語検定」(２単位)は学科課程外科目。なお、学科課程外科目のうち「海外語学演習(短期)１」(１単位)、「海外語学演習(短期)２」(１単位)、「海外語学演習(短期)３」(１単位)、「海外語学演習(短期)４」(１単位)、「海外語学演習１」(２単位)、「海外語学演習２」(２単位)、「海外語学演習３」(２単位)、「海外語学演習４」(２単位)は、４単位を上限に卒業要件に算入されます。

建築学部

【建築学科　APコース　専門科目群】

◎　必修科目　　○　コース必修

１　選択必修科目(１群)　　２　選択必修科目(２群)　　△　選択科目

科目番号	科目名称	単位数	1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期	週コマ数	授業形態	学修・教育到達目標	備考
S001000	建築デザイン基礎1	2	◎								3	演習	4	
S001	建築デザイン	2	△								1	講義	2，4	

		7															
		W000008	海外語学演習3	2	△不定							2	演習	6			
		W000009	海外語学演習4	2	△不定							2	演習	6			

※「学外英語検定」(２単位)は学科課程外科目。なお、学科課程外科目のうち「海外語学演習(短期)１」(１単位)、「海外語学演習(短期)２」(１単位)、「海外語学演習(短期)３」(１単位)、「海外語学演習(短期)４」(１単位)、「海外語学演習１」(２単位)、「海外語学演習２」(２単位)、「海外語学演習３」(２単位)、「海外語学演習４」(２単位)は、４単位を上限に卒業要件に算入されます。

建築学部

【建築学科　APコース　専門科目群】

◎　必修科目　　○　コース必修

１　選択必修科目(１群)　　２　選択必修科目(２群)　　△　選択科目

科目番号	科目名称	単位数	1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期	週コマ数	授業形態	学修・教育到達目標	備考
S001000	建築デザイン基礎1	2	◎								3	演習	4	
S001	建築デザイン	2	△								1	講義	2，4	

3000	入門													
S001600	居住空間史	2	△						1	講義	1			
S002200	デザイン史	2		△					1	講義	1			
S002500	建築デザイン基礎2	2		◎					3	演習	4			
S003400	建築スタジオ演習1	2		△					2	演習	4，5	APコースのみ		
S003700	建築の形態と空間	2		△					1	講義	4			
S004000	建築ものづくり	2		△					1	講義	4			
S004300	建築環境工学1	2		◎					1	講義	2，4			
S004600	構造力学・演習	3		◎					2	講義	3，4			

3000	入門													
S001600	居住空間史	2	△						1	講義	1			
S002200	デザイン史	2		△					1	講義	1			
S002500	建築デザイン基礎2	2		◎					3	演習	4			
S003400	建築スタジオ演習1	2		△					2	演習	4，5	APコースのみ		
S003700	建築の形態と空間	2		△					1	講義	4			
S004000	建築ものづくり	2		△					1	講義	4			
S004300	建築環境工学1	2		◎					1	講義	2，4			
S004600	構造力学・演習	3		◎					2	講義	3，4			

| | | |

7000	2													
S0240000	材料力学・演習	3		△					2	講義	3，4			
S0243000	建築構造計画	2		△					1	講義	3，4			
S0246000	構造材料	2		△					1	講義	4			
S0249000	色彩・素材論	2			△				1	講義	4			
S0252000	建築環境心理学	2			△				1	講義	4			
S0261000	建築スタジオ演習3	2			○				3	演習	4，5	APコースのみ		
S0270000	地域マネジメント	2			△				1	講義	4			
S0273000	地域設計論	2			△				1	講義	4			

7000	2													
S0240000	材料力学・演習	3		△					2	講義	3，4			
S0243000	建築構造計画	2		△					1	講義	3，4			
S0246000	構造材料	2		△					1	講義	4			
S0249000	色彩・素材論	2			△				1	講義	4			
S0252000	建築環境心理学	2			△				1	講義	4			
S0261000	建築スタジオ演習3	2			○				3	演習	4，5	APコースのみ		
S0270000	地域マネジメント	2			△				1	講義	4			
S0273000	地域設計論	2			△				1	講義	4			

S0282000	日本建築史	2			△				1	講義	1		
S0285000	木造建築	2			△				1	講義	4		
S0288000	BIM演習1	2			△				2	演習	4		
S0291000	建築設備	2			△				1	講義	4		
S0294000	建築構造解析・演習	3			△				2	講義	3，4		
S0297000	仕上げ材料	2			△				1	講義	4		
S0300000	建築エネルギー計画	2			△				1	講義	4		
S0410000	空調システム計画	2				△			1	講義	4		
S0413000	都市環境設備計画	2				△			1	講義	2，4		

S0282000	日本建築史	2			△				1	講義	1		
S0285000	木造建築	2			△				1	講義	4		
S0288000	BIM演習1	2			△				2	演習	4		
S0291000	建築設備	2			△				1	講義	4		
S0294000	建築構造解析・演習	3			△				2	講義	3，4		
S0297000	仕上げ材料	2			△				1	講義	4		
S0300000	建築エネルギー計画	2			△				1	講義	4		
S0410000	空調システム計画	2				△			1	講義	4		
S0413000	都市環境設備計画	2				△			1	講義	2，4		

S0420200	建築スタジオ演習4A	1					△			3	演習	4，5	APコースのみ		S0420200	建築スタジオ演習4A	1					△			3	演習	4，5	APコースのみ
S0422500	建築スタジオ演習4B	1					△			3	演習	4，5	APコースのみ		S0422500	建築スタジオ演習4B	1					△			3	演習	4，5	APコースのみ
S0428000	空間情報デザイン演習	2					△			2	演習	4，5	APコースのみ		S0428000	空間情報デザイン演習	2					△			2	演習	4，5	APコースのみ
S0431000	近代建築と技術	2					△			1	講義	1，4			S0431000	近代建築と技術	2					△			1	講義	1，4	
S0434000	近代建築作家論	2					△			1	講義	1，4			S0434000	近代建築作家論	2					△			1	講義	1，4	
S0438000	ユニバーサル施設計画論	2					△			1	講義	4			S0438000	ユニバーサル施設計画論	2					△			1	講義	4	
S0440000	建築法規	2					△			1	講義	2，4			S0440000	建築法規	2					△			1	講義	2，4	
S044	都市住宅論	2					△			1	講義	4			S044	都市住宅論	2					△			1	講義	4	

3000														
S0446000	都市デザイン論	2				△			1	講義	4			
S0539000	建築文化史	2				△			1	講義	1			
S0452000	建築生産	2				△			1	講義	4			
S0455000	建築プロジェクトマネジメント	2				△			1	講義	4			
S0458000	BIM演習2	2				△			2	演習	4			
S0461000	建築構工法1	2				△			1	講義	4			
S0466999 S0467000	鉄筋コンクリート造の設計1	2				△			1	講義	3，4			
S0	鋼構造	2				△			1	講	3，4			

3000														
S0446000	都市デザイン論	2				△			1	講義	4			
S0539000	建築文化史	2				△			1	講義	1			
S0452000	建築生産	2				△			1	講義	4			
S0455000	建築プロジェクトマネジメント	2				△			1	講義	4			
S0458000	BIM演習2	2				△			2	演習	4			
S0461000	建築構工法1	2				△			1	講義	4			
S0466999 S0467000	鉄筋コンクリート造の設計1	2				△			1	講義	3，4			
S0	鋼構造	2				△			1	講	3，4			

| | | |

| | | |

00														
S0515000	維持保全・改修	2					△		1	講義	2，4			
S0521000	ランドスケープ論	2					△		1	講義	4			
S0524000	建築計画2	2					△		1	講義	4			
S0528000	建築保全再生計画	2					△		1	講義	2，4			
S0530000	建築・都市法規	2					△		1	講義	2，4			
S0533000	都市再生マネジメント	2					△		1	講義	4			
S0536000	都市防災計画	2					△		1	講義	2，4			
S0542000	近代建築史	2					△		1	講義	1			
S0545000	施工計画・管理	2					△		1	講義	4			

00														
S0515000	維持保全・改修	2					△		1	講義	2，4			
S0521000	ランドスケープ論	2					△		1	講義	4			
S0524000	建築計画2	2					△		1	講義	4			
S0528000	建築保全再生計画	2					△		1	講義	2，4			
S0530000	建築・都市法規	2					△		1	講義	2，4			
S0533000	都市再生マネジメント	2					△		1	講義	4			
S0536000	都市防災計画	2					△		1	講義	2，4			
S0542000	近代建築史	2					△		1	講義	1			
S0545000	施工計画・管理	2					△		1	講義	4			

00														
S0 5480 00	建築経済	2					△		1	講義	4			
S0 5510 00	木造建築の設計	2					△		1	講義	4			
S0 5540 00	建築構工法2	2					△		1	講義	4			
S0 5570 00	建築環境学	2					△		1	講義	4			
S0 6100 00	建築家職能論	2						△	1	講義	2，4			
S0 6130 00	卒業研究1	2						◎	◎ 2	実習	1，2，3，4，5，6，7，8，9			
S0 6160 00	卒業研究2	2						◎	◎ 2	実習	1，2，3，4，5，6，7，			

00														
S0 5480 00	建築経済	2					△		1	講義	4			
S0 5510 00	木造建築の設計	2					△		1	講義	4			
S0 5540 00	建築構工法2	2					△		1	講義	4			
S0 5570 00	建築環境学	2					△		1	講義	4			
S0 6100 00	建築家職能論	2						△	1	講義	2，4			
S0 6130 00	卒業研究1	2						◎	◎ 2	実習	1，2，3，4，5，6，7，8，9			
S0 6160 00	卒業研究2	2						◎	◎ 2	実習	1，2，3，4，5，6，7，			

| | | |

| | | |

00															コースのみ
S0853000	イタリア・ローマ建築実習A	2			2	(不定)					2	実習	6, 7, 9		集中APコースのみ
S0854000	イタリア・ローマ建築実習B	2			2	(不定)					2	実習	6, 7, 9		集中APコースのみ
S0837000	韓国建築実習A	2					2	(不定)			2	実習	6, 7, 9		集中
S0840000	韓国建築実習B	2					2	(不定)			2	実習	6, 7, 9		集中
S0843000	フランス建築実習A	2					2	(不定)			2	実習	6, 7, 9		集中
S08460	フランス建築実習B	2					2	(不定)			2	実習	6, 7, 9		集中

00															コースのみ
S0853000	イタリア・ローマ建築実習A	2			2	(不定)					2	実習	6, 7, 9		集中APコースのみ
S0854000	イタリア・ローマ建築実習B	2			2	(不定)					2	実習	6, 7, 9		集中APコースのみ
S0837000	韓国建築実習A	2					2	(不定)			2	実習	6, 7, 9		集中
S0840000	韓国建築実習B	2					2	(不定)			2	実習	6, 7, 9		集中
S0843000	フランス建築実習A	2					2	(不定)			2	実習	6, 7, 9		集中
S08460	フランス建築実習B	2					2	(不定)			2	実習	6, 7, 9		集中

| | | |

8640000	エクト研究2										義	8，9		中APコースのみ
S0867000	プロジェクト研究3	2			△					1	講義	7，8，9		集中APコースのみ
S0871000	国内ワークショップ1	1	△(不定)							1	実習	8，9		集中
S0872000	国内ワークショップ2	1	△(不定)							1	実習	8，9		集中
S0873000	国内ワークショップ3	1	△(不定)							1	実習	8，9		集中
S0874000	国内ワークショップ4	1	△(不定)							1	実習	8，9		集中

建築学部

【建築学科　SAコース　専門科目群】

◎　必修科目　　○　コース必修

3　選択必修科目(3群)　　△　選択科目

科	科目	単	1年	2年	3年	4年	週	授	学	備

8640000	エクト研究2										義	8，9		中APコースのみ
S0867000	プロジェクト研究3	2			△					1	講義	7，8，9		集中APコースのみ
S0871000	国内ワークショップ1	1	△(不定)							1	実習	8，9		集中
S0872000	国内ワークショップ2	1	△(不定)							1	実習	8，9		集中
S0873000	国内ワークショップ3	1	△(不定)							1	実習	8，9		集中
S0874000	国内ワークショップ4	1	△(不定)							1	実習	8，9		集中

建築学部

【建築学科　SAコース　専門科目群】

◎　必修科目　　○　コース必修

3　選択必修科目(3群)　　△　選択科目

科	科目	単	1年	2年	3年	4年	週	授	学	備

目番号	名称	位数	次		次		次		次		コマ数	業形態	修・教育到達目標	考
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
S0010001	建築デザイン基礎1	2	◎								3	演習	4	
S0013001	建築デザイン入門	2	△								1	講義	2，4	
S0016001	居住空間史	2	△								1	講義	1	
S0022000	デザイン史	2		△							1	講義	1	
S0025001	建築デザイン基礎2	2		◎							3	演習	4	
S0028001	空間建築デザイン演習1	2		△							2	演習	4，5	SAコースのみ
S0037001	建築の形態と空間	2		△							1	講義	4	
S004	建築環境	2		◎							1	講義	2，4	

目番号	名称	位数	次		次		次		次		コマ数	業形態	修・教育到達目標	考
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
S0010001	建築デザイン基礎1	2	◎								3	演習	4	
S0013001	建築デザイン入門	2	△								1	講義	2，4	
S0016001	居住空間史	2	△								1	講義	1	
S0022000	デザイン史	2		△							1	講義	1	
S0025001	建築デザイン基礎2	2		◎							3	演習	4	
S0028001	空間建築デザイン演習1	2		△							2	演習	4，5	SAコースのみ
S0037001	建築の形態と空間	2		△							1	講義	4	
S004	建築環境	2		◎							1	講義	2，4	

3001	工学1													
S0046001	構造力学・演習	3		◎					2	講義	3，4			
S0049001	建築計画	2		△					1	講義	4			
S0210000	住生活論	2			△				1	講義	1			
S0213001	空間建築デザイン演習2	2			○				3	演習	4，5	SAコースのみ		
S0222001	CAD・CG演習	2			△				2	演習	4			
S0225001	建築設計計画論	2			△				1	講義	4			
S0231001	都市地域計画	2			△				1	講義	4			
S0234001	西洋建築史	2			△				1	講義	1			

3001	工学1													
S0046001	構造力学・演習	3		◎					2	講義	3，4			
S0049001	建築計画	2		△					1	講義	4			
S0210000	住生活論	2			△				1	講義	1			
S0213001	空間建築デザイン演習2	2			○				3	演習	4，5	SAコースのみ		
S0222001	CAD・CG演習	2			△				2	演習	4			
S0225001	建築設計計画論	2			△				1	講義	4			
S0231001	都市地域計画	2			△				1	講義	4			
S0234001	西洋建築史	2			△				1	講義	1			

S0 2370 01	建築環境工学2	2		△					1	講義	2，4			
S0 2400 01	材料力学・演習	3		△					2	講義	3，4			
S0 2430 01	建築構造計画	2		△					1	講義	3，4			
S0 2460 01	構造材料	2		△					1	講義	4			
S0 2490 00	色彩・素材論	2			△				1	講義	4			
S0 2520 00	建築環境心理学	2			△				1	講義	4			
S0 2550 01	空間建築デザイン演習3	2			○				3	演習	4，5	SAコースのみ		
S0 2670 01	建築設計論	2			△				1	講義	4	SAコースのみ		

S0 2370 01	建築環境工学2	2		△					1	講義	2，4			
S0 2400 01	材料力学・演習	3		△					2	講義	3，4			
S0 2430 01	建築構造計画	2		△					1	講義	3，4			
S0 2460 01	構造材料	2		△					1	講義	4			
S0 2490 00	色彩・素材論	2			△				1	講義	4			
S0 2520 00	建築環境心理学	2			△				1	講義	4			
S0 2550 01	空間建築デザイン演習3	2			○				3	演習	4，5	SAコースのみ		
S0 2670 01	建築設計論	2			△				1	講義	4	SAコースのみ		

S0273001	地域設計論	2			△				1	講義	4			
S0279001	建築構法	2			△				1	講義	4			SAコースのみ
S0282001	日本建築史	2			△				1	講義	1			
S0288001	BIM演習1	2			△				2	演習	4			
S0291001	建築設備	2			△				1	講義	4			
S0294001	建築構造解析・演習	3			△				2	講義	3，4			
S0297001	仕上げ材料	2			△				1	講義	4			
S0300001	建築エネルギー計画	2			△				1	講義	4			

S0273001	地域設計論	2			△				1	講義	4			
S0279001	建築構法	2			△				1	講義	4			SAコースのみ
S0282001	日本建築史	2			△				1	講義	1			
S0288001	BIM演習1	2			△				2	演習	4			
S0291001	建築設備	2			△				1	講義	4			
S0294001	建築構造解析・演習	3			△				2	講義	3，4			
S0297001	仕上げ材料	2			△				1	講義	4			
S0300001	建築エネルギー計画	2			△				1	講義	4			

| | | |

| | | |

| | | |

| | | |

5480001	経済										義				
S0551001	木造建築の設計	2					△		1	講義	4				
S0557001	建築環境学	2					△		1	講義	4				
S0561000 1	建築家職能論	2						△	1	講義	2，4				
S0561300 0	卒業研究1	2						◎	◎2	実習	1，2，3，4，5，6，7，8，9				
S0561600 0	卒業研究2	2						◎	◎2	実習	1，2，3，4，5，6，7，8，9				
S0810001	国際ワークショップ1A	1	△(不定)						1	実習	6，7，8，9		集中		

5480001	経済										義				
S0551001	木造建築の設計	2					△		1	講義	4				
S0557001	建築環境学	2					△		1	講義	4				
S0561000 1	建築家職能論	2						△	1	講義	2，4				
S0561300 0	卒業研究1	2						◎	◎2	実習	1，2，3，4，5，6，7，8，9				
S0561600 0	卒業研究2	2						◎	◎2	実習	1，2，3，4，5，6，7，8，9				
S0810001	国際ワークショップ1A	1	△(不定)						1	実習	6，7，8，9		集中		

| | | |

81 60 00	ターンシップ1						(不定)				習	7, 8, 9		中
S0 81 90 00	インターンシップ2	1					△ (不定)			1	実習	6, 7, 8, 9		集中
S0 82 20 01	海外建築研修	2				△				2	実習	6, 7, 9		集中
S0 87 10 01	国内ワークショップ1	1	△ (不定)							1	実習	8, 9		集中
S0 87 20 01	国内ワークショップ2	1	△ (不定)							1	実習	8, 9		集中
S0 87 30 01	国内ワークショップ3	1	△ (不定)							1	実習	8, 9		集中
S0 87 40 01	国内ワークショップ4	1	△ (不定)							1	実習	8, 9		集中

建築学部

【建築学科　UAコース　専門科目群】

◎　必修科目　　○　コース必修

4　選択必修科目(4群)　　△　選択科目

科	科目名	単	1年	2年	3年	4年	週	授	学	備

81 60 00	ターンシップ1						(不定)				習	7, 8, 9		中
S0 81 90 00	インターンシップ2	1					△ (不定)			1	実習	6, 7, 8, 9		集中
S0 82 20 01	海外建築研修	2				△				2	実習	6, 7, 9		集中
S0 87 10 01	国内ワークショップ1	1	△ (不定)							1	実習	8, 9		集中
S0 87 20 01	国内ワークショップ2	1	△ (不定)							1	実習	8, 9		集中
S0 87 30 01	国内ワークショップ3	1	△ (不定)							1	実習	8, 9		集中
S0 87 40 01	国内ワークショップ4	1	△ (不定)							1	実習	8, 9		集中

建築学部

【建築学科　UAコース　専門科目群】

◎　必修科目　　○　コース必修

4　選択必修科目(4群)　　△　選択科目

科	科目名	単	1年	2年	3年	4年	週	授	学	備

目番号	称	位数	次		次		次		次		コマ数	業形態	修・教育達目標	考
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
S0010002	建築デザイン基礎1	2	◎								3	演習	4	
S0013002	建築デザイン入門	2	△								1	講義	2，4	
S0016002	居住空間史	2	△								1	講義	1	
S0022000	デザイン史	2		△							1	講義	1	
S0025002	建築デザイン基礎2	2		◎							3	演習	4	
S0031002	都市建築デザイン演習1	2		△							2	演習	4，5	UAコースのみ
S	建築の	2		△							1	講	4	

目番号	称	位数	次		次		次		次		コマ数	業形態	修・教育達目標	考
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
S0010002	建築デザイン基礎1	2	◎								3	演習	4	
S0013002	建築デザイン入門	2	△								1	講義	2，4	
S0016002	居住空間史	2	△								1	講義	1	
S0022000	デザイン史	2		△							1	講義	1	
S0025002	建築デザイン基礎2	2		◎							3	演習	4	
S0031002	都市建築デザイン演習1	2		△							2	演習	4，5	UAコースのみ
S	建築の	2		△							1	講	4	

0037002	形態と空間										義			
S0040002	建築ものづくり	2		△					1	講義	4			
S0043002	建築環境工学1	2		◎					1	講義	2，4			
S0046002	構造力学・演習	3		◎					2	講義	3，4			
S0210000	住生活論	2			△				1	講義	1			
S0216002	都市建築デザイン演習2	2			○				3	演習	4，5	UAコースのみ		
S0222002	CAD・CG演習	2			△				2	演習	4			
S	建築計	2			△				1	講	4			

0037002	形態と空間										義			
S0040002	建築ものづくり	2		△					1	講義	4			
S0043002	建築環境工学1	2		◎					1	講義	2，4			
S0046002	構造力学・演習	3		◎					2	講義	3，4			
S0210000	住生活論	2			△				1	講義	1			
S0216002	都市建築デザイン演習2	2			○				3	演習	4，5	UAコースのみ		
S0222002	CAD・CG演習	2			△				2	演習	4			
S	建築計	2			△				1	講	4			

| | | |

| | | |

| | | |

002	習4A													スのみ
S0419502	都市建築デザイン演習4B	1				△			3	演習	4，5			UAコースのみ
S0425002	都市地域デザイン演習	2				△			3	演習	4，5			UAコースのみ
S0434002	近代建築作家論	2				△			1	講義	1，4			
S0446002	都市デザイン論	2				△			1	講義	4			
S0455002	建築プロジェクトマネジメント	2				△			1	講義	4			
S0458002	BIM演習2	2				△			2	演習	4			
S	建築構	2				△			1	講	4			

002	習4A													スのみ
S0419502	都市建築デザイン演習4B	1				△			3	演習	4，5			UAコースのみ
S0425002	都市地域デザイン演習	2				△			3	演習	4，5			UAコースのみ
S0434002	近代建築作家論	2				△			1	講義	1，4			
S0446002	都市デザイン論	2				△			1	講義	4			
S0455002	建築プロジェクトマネジメント	2				△			1	講義	4			
S0458002	BIM演習2	2				△			2	演習	4			
S	建築構	2				△			1	講	4			

| | | |

| | | |

| | | |

2														
S0536002	都市防災計画	2					△		1	講義	2，4			
S0542002	近代建築史	2					△		1	講義	1			
S0545002	施工計画・管理	2					△		1	講義	4			
S0548002	建築経済	2					△		1	講義	4			
S0554002	建築構工法2	2					△		1	講義	4			
S0557002	建築環境学	2					△		1	講義	4			
S0613000	卒業研究1	2						◎	◎	2	実習	1，2，3，4，5，		

2														
S0536002	都市防災計画	2					△		1	講義	2，4			
S0542002	近代建築史	2					△		1	講義	1			
S0545002	施工計画・管理	2					△		1	講義	4			
S0548002	建築経済	2					△		1	講義	4			
S0554002	建築構工法2	2					△		1	講義	4			
S0557002	建築環境学	2					△		1	講義	4			
S0613000	卒業研究1	2						◎	◎	2	実習	1，2，3，4，5，		

												6, 7, 8，9		
S 06 16 00 0	卒業研究2	2					◎	◎	2	実習	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8，9			
S 08 10 00 2	国際ワークショップ1A	1	△(不定)						1	実習	6, 7, 8，9	集中		
S 08 10 10 2	国際ワークショップ2A	1	△(不定)						1	実習	6, 7, 8，9	集中		
S 08 10 20 2	国際ワークショップ3A	1	△(不定)						1	実習	6, 7, 8，9	集中		
S 08 10 30 2	国際ワークショップ4A	1	△(不定)						1	実習	6, 7, 8，9	集中		
S 08 13 00 2	国際ワークショップ1B	1	△(不定)						1	実習	6, 7, 8，9	集中		

												6, 7, 8，9		
S 06 16 00 0	卒業研究2	2					◎	◎	2	実習	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8，9			
S 08 10 00 2	国際ワークショップ1A	1	△(不定)						1	実習	6, 7, 8，9	集中		
S 08 10 10 2	国際ワークショップ2A	1	△(不定)						1	実習	6, 7, 8，9	集中		
S 08 10 20 2	国際ワークショップ3A	1	△(不定)						1	実習	6, 7, 8，9	集中		
S 08 10 30 2	国際ワークショップ4A	1	△(不定)						1	実習	6, 7, 8，9	集中		
S 08 13 00 2	国際ワークショップ1B	1	△(不定)						1	実習	6, 7, 8，9	集中		

| | | |

| | | |

7300 32	ョップ3		定)											
S0874 0042	国内ワークショップ4	1	△(不定)							1	実習	8，9	集中	

別表7

学部・課程・学科別卒業要件(取得単位数)

工学部卒業要件

卒業要件は原則として入学年度の学則に従う。

但し、学士・編入及び再入学者は、原則として入学する学年の卒業要件を適用する。

以下の条件を満たした学生のみが卒業することができる。

・卒業要件に含む単位を124単位以上取得していること。

・各科目系列について、少なくとも以下の表において定められている単位数を取得していること。

・累積のGPAは2.0以上であること

機械工学課程　基幹機械コース

科目系列			各科目系列において最低限取得すべき単位数	(参考)必修科目の内訳
基礎・教養科目	数理基礎科目	数学科目	必修19単位を含み27単位	・線形代数1(2単位) ・線形代数2(2単位) ・微分積分1(4単位) ・微分積分2

7300 32	ョップ3		定)											
S0874 0042	国内ワークショップ4	1	△(不定)							1	実習	8，9	集中	

別表7

学部・課程・学科別卒業要件(取得単位数)

工学部卒業要件

卒業要件は原則として入学年度の学則に従う。

但し、学士・編入及び再入学者は、原則として入学する学年の卒業要件を適用する。

以下の条件を満たした学生のみが卒業することができる。

・卒業要件に含む単位を124単位以上取得していること。

・各科目系列について、少なくとも以下の表において定められている単位数を取得していること。

・累積のGPAは2.0以上であること

機械工学課程　基幹機械コース

科目系列			各科目系列において最低限取得すべき単位数	(参考)必修科目の内訳
基礎・教養科目	数理基礎科目	数学科目	必修19単位を含み27単位	・線形代数1(2単位) ・線形代数2(2単位) ・微分積分1(4単位) ・微分積分2

				(4単位)
		物理学科目		・物理学実験(3単位) ・基礎力学(2単位)
		化学科目		・化学の基礎と実験(2単位)
	英語科目		必修4単位を含み8単位	・Reading& Writing 1(2単位) ・Listening &Speaking 1(2単位)
	情報科目		必修2単位	・データサイエンス演習(2単位)
	人文社会系教養科目		必修2単位と選択必修4単位	・技術者の倫理(2単位)
	体育健康科目		必修1単位	・スポーツ科学実技1(1単位)
	工学部共通教養科目		—	—
専門科目	工学部共通専門科目		必修2単位	・社会の中の工学(1単位) ・工学研究探訪1(1単位)
	自コース専門科目		必修26単位 選択必修A群から12単位	・材料力学1(2単位) ・流体力学1(2単位) ・熱力学1(2

				(4単位)
		物理学科目		・物理学実験(3単位) ・基礎力学(2単位)
		化学科目		・化学の基礎と実験(2単位)
	英語科目		必修4単位を含み8単位	・Reading& Writing 1(2単位) ・Listening &Speaking 1(2単位)
	情報科目		必修2単位	・データサイエンス演習(2単位)
	人文社会系教養科目		必修2単位と選択必修4単位	・技術者の倫理(2単位)
	体育健康科目		必修1単位	・スポーツ科学実技1(1単位)
	工学部共通教養科目		—	—
専門科目	工学部共通専門科目		必修2単位	・社会の中の工学(1単位) ・工学研究探訪1(1単位)
	自コース専門科目		必修26単位 選択必修A群から12単位	・材料力学1(2単位) ・流体力学1(2単位) ・熱力学1(2

			選択必修B群から12単位を含み62単位	単位) ・振動工学1(2単位) ・機械設計製図1(3単位) ・機械設計製図2(3単位) ・卒業研究1(2単位) ・卒業研究2(2単位) ・卒業研究3(4単位) ・卒業研究4(4単位)
	他コース専門科目		—	—
コース外科目			—	—
教職科目			—	—
総単位数			124単位	

工学部卒業要件

卒業要件は原則として入学年度の学則に従う。

但し、学士・編入及び再入学者は、原則として入学する学年の卒業要件を適用する。

以下の条件を満たした学生のみが卒業することができる。

・卒業要件に含む単位を124単位以上取得していること。

・各科目系列について、少なくとも以下の表において定められている単位数を取得していること。

・累積のGPAは2.0以上であること

機械工学課程　先進機械コース

科目系列	各科目系	(参考)必修科

			選択必修B群から12単位を含み62単位	単位) ・振動工学1(2単位) ・機械設計製図1(3単位) ・機械設計製図2(3単位) ・卒業研究1(2単位) ・卒業研究2(2単位) ・卒業研究3(4単位) ・卒業研究4(4単位)
	他コース専門科目		—	—
コース外科目			—	—
教職科目			—	—
総単位数			124単位	

工学部卒業要件

卒業要件は原則として入学年度の学則に従う。

但し、学士・編入及び再入学者は、原則として入学する学年の卒業要件を適用する。

以下の条件を満たした学生のみが卒業することができる。

・卒業要件に含む単位を124単位以上取得していること。

・各科目系列について、少なくとも以下の表において定められている単位数を取得していること。

・累積のGPAは2.0以上であること

機械工学課程　先進機械コース

科目系列	各科目系	(参考)必修科

			列において最低限取得すべき単位数	目の内訳
基礎・教養科目	数理基礎科目	数学科目	必修19単位を含み27単位	・線形代数1(2単位) ・線形代数2(2単位) ・微分積分1(4単位) ・微分積分2(4単位)
		物理学科目		・物理学実験(3単位) ・基礎力学(2単位)
		化学科目		・化学の基礎と実験(2単位)
	英語科目		必修4単位を含み8単位	・Reading&Writing 1(2単位) ・Listening&Speaking 1(2単位)
	情報科目		必修3単位	・C言語入門(3単位)
	人文社会系教養科目		必修2単位と選択必修4単位	・技術者の倫理(2単位)
	体育健康科目		必修1単位	・スポーツ科学実技1(1単位)
	工学部共通教養科目		—	—

			列において最低限取得すべき単位数	目の内訳
基礎・教養科目	数理基礎科目	数学科目	必修19単位を含み27単位	・線形代数1(2単位) ・線形代数2(2単位) ・微分積分1(4単位) ・微分積分2(4単位)
		物理学科目		・物理学実験(3単位) ・基礎力学(2単位)
		化学科目		・化学の基礎と実験(2単位)
	英語科目		必修4単位を含み8単位	・Reading&Writing 1(2単位) ・Listening&Speaking 1(2単位)
	情報科目		必修3単位	・C言語入門(3単位)
	人文社会系教養科目		必修2単位と選択必修4単位	・技術者の倫理(2単位)
	体育健康科目		必修1単位	・スポーツ科学実技1(1単位)
	工学部共通教養科目		—	—

専門科目	工学部共通専門科目		必修2単位	・社会の中の工学(1単位) ・工学研究探訪1(1単位)
	自コース専門科目		必修28単位 選択必修A群から12単位 選択必修B群から4単位を含み60単位	・先進機械基礎1(2単位) ・材料力学1(2単位) ・機械工学概論1(2単位) ・流体力学1(2単位) ・熱力学1(2単位) ・振動工学1(2単位) ・機械工学概論2(2単位) ・機械工学概論3(2単位) ・卒業研究1(2単位) ・卒業研究2(2単位) ・卒業研究3(4単位) ・卒業研究4(4単位)
	他コース専門科目		—	—
コース外科目			—	—
教職科目			—	—
総単位数			124単位	

工学部卒業要件

専門科目	工学部共通専門科目		必修2単位	・社会の中の工学(1単位) ・工学研究探訪1(1単位)
	自コース専門科目		必修28単位 選択必修A群から12単位 選択必修B群から4単位を含み60単位	・先進機械基礎1(2単位) ・材料力学1(2単位) ・機械工学概論1(2単位) ・流体力学1(2単位) ・熱力学1(2単位) ・振動工学1(2単位) ・機械工学概論2(2単位) ・機械工学概論3(2単位) ・卒業研究1(2単位) ・卒業研究2(2単位) ・卒業研究3(4単位) ・卒業研究4(4単位)
	他コース専門科目		—	—
コース外科目			—	—
教職科目			—	—
総単位数			124単位	

工学部卒業要件

卒業要件は原則として入学年度の学則に従う。

但し、学士・編入及び再入学者は、原則として入学する学年の卒業要件を適用する。

以下の条件を満たした学生のみが卒業することができる。

・卒業要件に含む単位を124単位以上取得していること。

・各科目系列について、少なくとも以下の表において定められている単位数を取得していること。

・累積のGPAは2.0以上であること

物質化学課程　環境・物質工学コース

科目系列			各科目系列において最低限取得すべき単位数	(参考)必修科目の内訳
基礎・教養科目	数理基礎科目	数学科目	必修2単位を含み12単位	—
		物理学科目		—
		化学科目		・化学実験(2単位)
	英語科目		必修4単位を含み8単位	・Reading&Writing 1(2単位) ・Listening&Speaking 1(2単位)
	情報科目		1単位	—
	人文社会系教養科目		必修2単位を含み8単位	・技術者の倫理(2単位)

卒業要件は原則として入学年度の学則に従う。

但し、学士・編入及び再入学者は、原則として入学する学年の卒業要件を適用する。

以下の条件を満たした学生のみが卒業することができる。

・卒業要件に含む単位を124単位以上取得していること。

・各科目系列について、少なくとも以下の表において定められている単位数を取得していること。

・累積のGPAは2.0以上であること

物質化学課程　環境・物質工学コース

科目系列			各科目系列において最低限取得すべき単位数	(参考)必修科目の内訳
基礎・教養科目	数理基礎科目	数学科目	必修2単位を含み12単位	—
		物理学科目		—
		化学科目		・化学実験(2単位)
	英語科目		必修4単位を含み8単位	・Reading&Writing 1(2単位) ・Listening&Speaking 1(2単位)
	情報科目		1単位	—
	人文社会系教養科目		必修2単位を含み8単位	・技術者の倫理(2単位)

	体育健康科目		必修1単位	・スポーツ科学実技1(1単位)
	工学部共通教養科目		—	—
専門科目	工学部共通専門科目		必修2単位	・社会の中の工学(1単位) ・工学研究探訪1(1単位)
	自コース専門科目		必修34単位 選択必修16単位を含み70単位	・環境と化学(2単位) ・環境物質工学入門(2単位) ・熱力学(2単位) ・有機材料(2単位) ・状態図と金属組織(2単位) ・環境物質工学通論(2単位) ・生体材料化学(2単位) ・環境物質科学実験1(2単位) ・環境物質科学実験2(2単位) ・環境物質工学実験1(2

	体育健康科目		必修1単位	・スポーツ科学実技1(1単位)
	工学部共通教養科目		—	—
専門科目	工学部共通専門科目		必修2単位	・社会の中の工学(1単位) ・工学研究探訪1(1単位)
	自コース専門科目		必修34単位 選択必修16単位を含み70単位	・環境と化学(2単位) ・環境物質工学入門(2単位) ・熱力学(2単位) ・有機材料(2単位) ・状態図と金属組織(2単位) ・環境物質工学通論(2単位) ・生体材料化学(2単位) ・環境物質科学実験1(2単位) ・環境物質科学実験2(2単位) ・環境物質工学実験1(2

				単位) ・環境物質工学実験2(2単位) ・卒業研究1(2単位) ・卒業研究2(2単位) ・卒業研究3(4単位) ・卒業研究4(4単位)
	他コース専門科目		—	—
コース外科目			—	—
教職科目			—	—
総単位数			124単位	

工学部卒業要件

卒業要件は原則として入学年度の学則に従う。

但し、学士・編入及び再入学者は、原則として入学する学年の卒業要件を適用する。

以下の条件を満たした学生のみが卒業することができる。

・卒業要件に含む単位を124単位以上取得していること。

・各科目系列について、少なくとも以下の表において定められている単位数を取得していること。

・累積のGPAは2.0以上であること

物質化学課程　化学・生命工学コース

科目系列	各科目系列において最低限取得すべ	(参考)必修科目の内訳

				単位) ・環境物質工学実験2(2単位) ・卒業研究1(2単位) ・卒業研究2(2単位) ・卒業研究3(4単位) ・卒業研究4(4単位)
	他コース専門科目		—	—
コース外科目			—	—
教職科目			—	—
総単位数			124単位	

工学部卒業要件

卒業要件は原則として入学年度の学則に従う。

但し、学士・編入及び再入学者は、原則として入学する学年の卒業要件を適用する。

以下の条件を満たした学生のみが卒業することができる。

・卒業要件に含む単位を124単位以上取得していること。

・各科目系列について、少なくとも以下の表において定められている単位数を取得していること。

・累積のGPAは2.0以上であること

物質化学課程　化学・生命工学コース

科目系列	各科目系列において最低限取得すべ	(参考)必修科目の内訳

			き単位数	
基礎・教養科目	数理基礎科目	数学科目	8単位	―
		物理学科目		―
		化学科目	必修2単位	・化学実験(2単位)
	英語科目		必修4単位を含み10単位	・Reading&Writing 1(2単位) ・Listening&Speaking 1(2単位)
	情報科目		―	―
	人文社会系教養科目		必修2単位を含み8単位	・技術者の倫理(2単位)
	体育健康科目		必修1単位	・スポーツ科学実技1(1単位)
	工学部共通教養科目		―	―
専門科目	工学部共通専門科目		必修2単位	・社会の中の工学(1単位) ・工学研究探訪1(1単位)
	自コース専門科目		必修28単位 選択必修A群から8単位 選択必修	・工業化学概論(2単位) ・生物化学実験(2単位) ・分析化学実験(2単位)

			き単位数	
基礎・教養科目	数理基礎科目	数学科目	8単位	―
		物理学科目		―
		化学科目	必修2単位	・化学実験(2単位)
	英語科目		必修4単位を含み10単位	・Reading&Writing 1(2単位) ・Listening&Speaking 1(2単位)
	情報科目		―	―
	人文社会系教養科目		必修2単位を含み8単位	・技術者の倫理(2単位)
	体育健康科目		必修1単位	・スポーツ科学実技1(1単位)
	工学部共通教養科目		―	―
専門科目	工学部共通専門科目		必修2単位	・社会の中の工学(1単位) ・工学研究探訪1(1単位)
	自コース専門科目		必修28単位 選択必修A群から8単位 選択必修	・工業化学概論(2単位) ・生物化学実験(2単位) ・分析化学実験(2単位)

			B群から6単位 選択必修 C群から6単位を含み64単位	・物理化学実験(2単位) ・化学工学実験(3単位) ・有機化学実験(3単位) ・化学工業総論(2単位) ・卒業研究1(2単位) ・卒業研究2(2単位) ・卒業研究3(4単位) ・卒業研究4(4単位)
	他コース専門科目		―	―
コース外科目			―	―
教職科目			―	―
総単位数			124単位	

工学部卒業要件

卒業要件は原則として入学年度の学則に従う。

但し、学士・編入及び再入学者は、原則として入学する学年の卒業要件を適用する。

以下の条件を満たした学生のみが卒業することができる。

・卒業要件に含む単位を124単位以上取得していること。

・各科目系列について、少なくとも以下の表において定められている単位数を取得していること。

・累積のGPAは2.0以上であること

電気電子工学課程　電気・ロボット工学コー

			B群から6単位 選択必修 C群から6単位を含み64単位	・物理化学実験(2単位) ・化学工学実験(3単位) ・有機化学実験(3単位) ・化学工業総論(2単位) ・卒業研究1(2単位) ・卒業研究2(2単位) ・卒業研究3(4単位) ・卒業研究4(4単位)
	他コース専門科目		―	―
コース外科目			―	―
教職科目			―	―
総単位数			124単位	

工学部卒業要件

卒業要件は原則として入学年度の学則に従う。

但し、学士・編入及び再入学者は、原則として入学する学年の卒業要件を適用する。

以下の条件を満たした学生のみが卒業することができる。

・卒業要件に含む単位を124単位以上取得していること。

・各科目系列について、少なくとも以下の表において定められている単位数を取得していること。

・累積のGPAは2.0以上であること

電気電子工学課程　電気・ロボット工学コー

ス

科目系列			各科目系列において最低限取得すべき単位数	(参考)必修科目の内訳
基礎・教養科目	数理基礎科目	数学科目	必修14単位と選択必修2単位を含み20単位	・線形代数1(2単位) ・線形代数2(2単位) ・微分積分1(4単位) ・微分積分2(4単位) ・微分方程式(2単位)
		物理学科目		―
		化学科目		―
	英語科目		必修4単位を含み10単位	・Reading&Writing 1(2単位) ・Listening&Speaking 1(2単位)
	情報科目		必修6単位	・C言語入門(3単位) ・データサイエンス(3単位)
	人文社会系教養科目		必修4単位	・技術者の倫理(2単位) ・人間社会と環境問題(2

ス

科目系列			各科目系列において最低限取得すべき単位数	(参考)必修科目の内訳
基礎・教養科目	数理基礎科目	数学科目	必修14単位と選択必修2単位を含み20単位	・線形代数1(2単位) ・線形代数2(2単位) ・微分積分1(4単位) ・微分積分2(4単位) ・微分方程式(2単位)
		物理学科目		―
		化学科目		―
	英語科目		必修4単位を含み10単位	・Reading&Writing 1(2単位) ・Listening&Speaking 1(2単位)
	情報科目		必修6単位	・C言語入門(3単位) ・データサイエンス(3単位)
	人文社会系教養科目		必修4単位	・技術者の倫理(2単位) ・人間社会と環境問題(2

				単位)
	体育健康科目		必修1単位	・スポーツ科学実技1(1単位)
	工学部共通教養科目		—	—
専門科目	工学部共通専門科目		必修2単位	・社会の中の工学(1単位) ・工学研究探訪1(1単位)
	自コース専門科目		必修31単位 選択必修20単位を含み66単位	・電気回路1A(2単位) ・電気回路1B(2単位) ・電気磁気学1A(2単位) ・電気磁気学1B(2単位) ・基礎実験1(1単位) ・基礎実験2(3単位) ・電気・ロボット工学研究概論(1単位) ・応用実験1(2単位) ・電気工学技術英語(2単位) ・応用実験2(2単位) ・卒業研究1

				単位)
	体育健康科目		必修1単位	・スポーツ科学実技1(1単位)
	工学部共通教養科目		—	—
専門科目	工学部共通専門科目		必修2単位	・社会の中の工学(1単位) ・工学研究探訪1(1単位)
	自コース専門科目		必修31単位 選択必修20単位を含み66単位	・電気回路1A(2単位) ・電気回路1B(2単位) ・電気磁気学1A(2単位) ・電気磁気学1B(2単位) ・基礎実験1(1単位) ・基礎実験2(3単位) ・電気・ロボット工学研究概論(1単位) ・応用実験1(2単位) ・電気工学技術英語(2単位) ・応用実験2(2単位) ・卒業研究1

				(2単位) ・卒業研究2 (2単位) ・卒業研究3 (4単位) ・卒業研究4 (4単位)
	他コース専門科目		—	—
コース外科目			—	—
教職科目			—	—
総単位数			124単位	

工学部卒業要件

卒業要件は原則として入学年度の学則に従う。

但し、学士・編入及び再入学者は、原則として入学する学年の卒業要件を適用する。

以下の条件を満たした学生のみが卒業することができる。

・卒業要件に含む単位を124単位以上取得していること。

・各科目系列について、少なくとも以下の表において定められている単位数を取得していること。

・累積のGPAは2.0以上であること

電気電子工学課程　先端電子工学コース

科目系列			各科目系列において最低限取得すべき単位数	(参考)必修科目の内訳
基礎・教養科目	数理基礎科目	数学科目	6単位	—
		物理学科	必修3単位を含み7単	・物理学実験 (3単位)

				(2単位) ・卒業研究2 (2単位) ・卒業研究3 (4単位) ・卒業研究4 (4単位)
	他コース専門科目		—	—
コース外科目			—	—
教職科目			—	—
総単位数			124単位	

工学部卒業要件

卒業要件は原則として入学年度の学則に従う。

但し、学士・編入及び再入学者は、原則として入学する学年の卒業要件を適用する。

以下の条件を満たした学生のみが卒業することができる。

・卒業要件に含む単位を124単位以上取得していること。

・各科目系列について、少なくとも以下の表において定められている単位数を取得していること。

・累積のGPAは2.0以上であること

電気電子工学課程　先端電子工学コース

科目系列			各科目系列において最低限取得すべき単位数	(参考)必修科目の内訳
基礎・教養科目	数理基礎科目	数学科目	6単位	—
		物理学科	必修3単位を含み7単	・物理学実験 (3単位)

		目	位	
		化学科目	必修2単位を含み4単位	・化学実験(2単位)
	英語科目		必修4単位を含み8単位	・Reading&Writing 1(2単位) ・Listening&Speaking 1(2単位)
	情報科目		4単位	—
	人文社会系教養科目		8単位	—
	体育健康科目		必修1単位	・スポーツ科学実技1(1単位)
	工学部共通教養科目		—	—
専門科目	工学部共通専門科目		必修2単位	・社会の中の工学(1単位) ・工学研究探訪1(1単位)
	自コース専門科目		必修34単位 選択必修32単位を含み70単位	・電気数学1(2単位) ・電気回路1(2単位) ・電気数学2(2単位) ・電気回路2(2単位) ・電磁気学1(2単位)

		目	位	
		化学科目	必修2単位を含み4単位	・化学実験(2単位)
	英語科目		必修4単位を含み8単位	・Reading&Writing 1(2単位) ・Listening&Speaking 1(2単位)
	情報科目		4単位	—
	人文社会系教養科目		8単位	—
	体育健康科目		必修1単位	・スポーツ科学実技1(1単位)
	工学部共通教養科目		—	—
専門科目	工学部共通専門科目		必修2単位	・社会の中の工学(1単位) ・工学研究探訪1(1単位)
	自コース専門科目		必修34単位 選択必修32単位を含み70単位	・電気数学1(2単位) ・電気回路1(2単位) ・電気数学2(2単位) ・電気回路2(2単位) ・電磁気学1(2単位)

				・電気回路3(2単位) ・電磁気学2(2単位) ・電磁気学3(2単位) ・電子工学基礎実験(2単位) ・先端技術1(2単位) ・電子工学倫理(2単位) ・卒業研究1(2単位) ・卒業研究2(2単位) ・卒業研究3(4単位) ・卒業研究4(4単位)
	他コース専門科目		―	―
コース外科目			―	―
教職科目			―	―
総単位数			124単位	

工学部卒業要件

卒業要件は原則として入学年度の学則に従う。

但し、学士・編入及び再入学者は、原則として入学する学年の卒業要件を適用する。

以下の条件を満たした学生のみが卒業することができる。

・卒業要件に含む単位を124単位以上取得していること。

				・電気回路3(2単位) ・電磁気学2(2単位) ・電磁気学3(2単位) ・電子工学基礎実験(2単位) ・先端技術1(2単位) ・電子工学倫理(2単位) ・卒業研究1(2単位) ・卒業研究2(2単位) ・卒業研究3(4単位) ・卒業研究4(4単位)
	他コース専門科目		―	―
コース外科目			―	―
教職科目			―	―
総単位数			124単位	

工学部卒業要件

卒業要件は原則として入学年度の学則に従う。

但し、学士・編入及び再入学者は、原則として入学する学年の卒業要件を適用する。

以下の条件を満たした学生のみが卒業することができる。

・卒業要件に含む単位を124単位以上取得していること。

・各科目系列について、少なくとも以下の表において定められている単位数を取得していること。

・累積のGPAは2.0以上であること

情報・通信工学課程　情報通信コース

科目系列			各科目系列において最低限取得すべき単位数	(参考)必修科目の内訳
基礎・教養科目	数理基礎科目	数学科目	必修19単位	・線形代数1(2単位) ・線形代数2(2単位) ・微分積分1(4単位) ・微分積分2(4単位)
		物理学科目		・物理学入門(4単位) ・物理学実験(3単位)
		化学科目		—
	英語科目		必修4単位を含み6単位	・Reading& Writing 1(2単位) ・Listening &Speaking 1(2単位)
	情報科目		—	—
	人文社会系教養科目		必修2単位を含み6単位	・技術者の倫理(2単位)
	体育健		必修1単位	・スポーツ科

・各科目系列について、少なくとも以下の表において定められている単位数を取得していること。

・累積のGPAは2.0以上であること

情報・通信工学課程　情報通信コース

科目系列			各科目系列において最低限取得すべき単位数	(参考)必修科目の内訳
基礎・教養科目	数理基礎科目	数学科目	必修19単位	・線形代数1(2単位) ・線形代数2(2単位) ・微分積分1(4単位) ・微分積分2(4単位)
		物理学科目		・物理学入門(4単位) ・物理学実験(3単位)
		化学科目		—
	英語科目		必修4単位を含み6単位	・Reading& Writing 1(2単位) ・Listening &Speaking 1(2単位)
	情報科目		—	—
	人文社会系教養科目		必修2単位を含み6単位	・技術者の倫理(2単位)
	体育健		必修1単位	・スポーツ科

	康科目			学実技1(1単位)
	工学部共通教養科目		―	―
専門科目	工学部共通専門科目		必修2単位	・社会の中の工学(1単位) ・工学研究探訪1(1単位)
	自コース専門科目		必修26単位を含み64単位	・情報通信ソフトウェア演習A(1単位) ・情報通信ハードウェア実験A(1単位) ・情報通信ソフトウェア演習B(1単位) ・情報通信ハードウェア実験B(1単位) ・情報通信ソフトウェア演習C(1単位) ・情報通信ハードウェア実験C(1単位) ・情報通信ソフトウェア

	康科目			学実技1(1単位)
	工学部共通教養科目		―	―
専門科目	工学部共通専門科目		必修2単位	・社会の中の工学(1単位) ・工学研究探訪1(1単位)
	自コース専門科目		必修26単位を含み64単位	・情報通信ソフトウェア演習A(1単位) ・情報通信ハードウェア実験A(1単位) ・情報通信ソフトウェア演習B(1単位) ・情報通信ハードウェア実験B(1単位) ・情報通信ソフトウェア演習C(1単位) ・情報通信ハードウェア実験C(1単位) ・情報通信ソフトウェア

				演習D(1単位) ・情報通信ハードウェア実験D(1単位) ・情報通信応用実験A(3単位) ・情報通信応用実験B(3単位) ・卒業研究1(2単位) ・卒業研究2(2単位) ・卒業研究3(4単位) ・卒業研究4(4単位)
	他コース専門科目		—	—
コース外科目			—	—
教職科目			—	—
総単位数			124単位	

工学部卒業要件

卒業要件は原則として入学年度の学則に従う。

但し、学士・編入及び再入学者は、原則として入学する学年の卒業要件を適用する。

以下の条件を満たした学生のみが卒業することができる。

・卒業要件に含む単位を124単位以上取得していること。

・各科目系列について、少なくとも以下の

				演習D(1単位) ・情報通信ハードウェア実験D(1単位) ・情報通信応用実験A(3単位) ・情報通信応用実験B(3単位) ・卒業研究1(2単位) ・卒業研究2(2単位) ・卒業研究3(4単位) ・卒業研究4(4単位)
	他コース専門科目		—	—
コース外科目			—	—
教職科目			—	—
総単位数			124単位	

工学部卒業要件

卒業要件は原則として入学年度の学則に従う。

但し、学士・編入及び再入学者は、原則として入学する学年の卒業要件を適用する。

以下の条件を満たした学生のみが卒業することができる。

・卒業要件に含む単位を124単位以上取得していること。

・各科目系列について、少なくとも以下の

表において定められている単位数を取得していること。

・累積のGPAは2.0以上であること

情報・通信工学課程　情報工学コース

科目系列			各科目系列において最低限取得すべき単位数	(参考)必修科目の内訳
基礎・教養科目	数理基礎科目	数学科目	必修14単位	・線形代数1(2単位) ・微分積分1(4単位) ・確率と統計1(2単位)
		物理学科目		・物理学入門(4単位)
		化学科目		・基礎化学(2単位)
	英語科目		必修4単位を含み10単位	・Reading&Writing 1(2単位) ・Listening&Speaking 1(2単位)
	情報科目		—	—
	人文社会系教養科目		6単位	—
	体育健康科目		必修1単位	・スポーツ科学実技1(1単位)
	工学部共通教		—	—

表において定められている単位数を取得していること。

・累積のGPAは2.0以上であること

情報・通信工学課程　情報工学コース

科目系列			各科目系列において最低限取得すべき単位数	(参考)必修科目の内訳
基礎・教養科目	数理基礎科目	数学科目	必修14単位	・線形代数1(2単位) ・微分積分1(4単位) ・確率と統計1(2単位)
		物理学科目		・物理学入門(4単位)
		化学科目		・基礎化学(2単位)
	英語科目		必修4単位を含み10単位	・Reading&Writing 1(2単位) ・Listening&Speaking 1(2単位)
	情報科目		—	—
	人文社会系教養科目		6単位	—
	体育健康科目		必修1単位	・スポーツ科学実技1(1単位)
	工学部共通教		—	—

	養科目			
専門科目	工学部共通専門科目		必修2単位	・社会の中の工学(1単位) ・工学研究探訪1(1単位)
	自コース専門科目		必修34単位 選択必修6単位を含み66単位	・コンピュータ科学序説(2単位) ・離散数学1(2単位) ・プログラミング入門1(2単位) ・情報工学通論(2単位) ・プログラミング入門2(2単位) ・コンピュータアーキテクチャ(2単位) ・データ構造とアルゴリズム1(2単位) ・基礎情報演習1A(2単位) ・基礎情報演習1B(2単位) ・基礎情報演習2A(2単位)

	養科目			
専門科目	工学部共通専門科目		必修2単位	・社会の中の工学(1単位) ・工学研究探訪1(1単位)
	自コース専門科目		必修34単位 選択必修6単位を含み66単位	・コンピュータ科学序説(2単位) ・離散数学1(2単位) ・プログラミング入門1(2単位) ・情報工学通論(2単位) ・プログラミング入門2(2単位) ・コンピュータアーキテクチャ(2単位) ・データ構造とアルゴリズム1(2単位) ・基礎情報演習1A(2単位) ・基礎情報演習1B(2単位) ・基礎情報演習2A(2単位)

				・基礎情報演習2B(2単位) ・卒業研究1(2単位) ・卒業研究2(2単位) ・卒業研究3(4単位) ・卒業研究4(4単位)
	他コース専門科目		—	—
コース外科目			—	—
教職科目			—	—
総単位数			124単位	

工学部卒業要件

卒業要件は原則として入学年度の学則に従う。

但し、学士・編入及び再入学者は、原則として入学する学年の卒業要件を適用する。

以下の条件を満たした学生のみが卒業することができる。

・卒業要件に含む単位を124単位以上取得していること。

・各科目系列について、少なくとも以下の表において定められている単位数を取得していること。

・累積のGPAは2.0以上であること

土木工学課程　都市・環境コース

科目系列	各科目系列において最低限取得すべき単位数	(参考)必修科目の内訳

				・基礎情報演習2B(2単位) ・卒業研究1(2単位) ・卒業研究2(2単位) ・卒業研究3(4単位) ・卒業研究4(4単位)
	他コース専門科目		—	—
コース外科目			—	—
教職科目			—	—
総単位数			124単位	

工学部卒業要件

卒業要件は原則として入学年度の学則に従う。

但し、学士・編入及び再入学者は、原則として入学する学年の卒業要件を適用する。

以下の条件を満たした学生のみが卒業することができる。

・卒業要件に含む単位を124単位以上取得していること。

・各科目系列について、少なくとも以下の表において定められている単位数を取得していること。

・累積のGPAは2.0以上であること

土木工学課程　都市・環境コース

科目系列	各科目系列において最低限取得すべき単位数	(参考)必修科目の内訳

基礎・教養科目	数理基礎科目	数学科目	必修10単位を含み12単位	・線形代数1(2単位) ・線形代数2(2単位) ・微分積分1(4単位)
		物理学科目		—
		化学科目		・基礎環境化学(2単位)
	英語科目		必修4単位を含み8単位	・Reading&Writing 1(2単位) ・Listening&Speaking 1(2単位)
	情報科目		3単位	—
	人文社会系教養科目		必修4単位を含み8単位	・技術者の倫理(2単位) ・土木と経済学(2単位)
	体育健康科目		必修1単位	・スポーツ科学実技1(1単位)
	工学部共通教養科目		—	—
専門科目	工学部共通専門科目		必修2単位	・社会の中の工学(1単位) ・工学研究探訪1(1単位)
	自コース専門科目		必修42単位を含み7	・導入ゼミナール(1単

基礎・教養科目	数理基礎科目	数学科目	必修10単位を含み12単位	・線形代数1(2単位) ・線形代数2(2単位) ・微分積分1(4単位)
		物理学科目		—
		化学科目		・基礎環境化学(2単位)
	英語科目		必修4単位を含み8単位	・Reading&Writing 1(2単位) ・Listening&Speaking 1(2単位)
	情報科目		3単位	—
	人文社会系教養科目		必修4単位を含み8単位	・技術者の倫理(2単位) ・土木と経済学(2単位)
	体育健康科目		必修1単位	・スポーツ科学実技1(1単位)
	工学部共通教養科目		—	—
専門科目	工学部共通専門科目		必修2単位	・社会の中の工学(1単位) ・工学研究探訪1(1単位)
	自コース専門科目		必修42単位を含み7	・導入ゼミナール(1単

		8単位	位) ・環境の科学(2単位) ・土木数学1(2単位) ・土木情報処理(2単位) ・地盤工学1(2単位) ・土木の力学(2単位) ・マテリアルデザイン(2単位) ・流れの力学(2単位) ・地盤工学2(2単位) ・都市計画(2単位) ・土木工学総合講義(2単位) ・水理学(2単位) ・材料実験(1単位) ・土質実験(1単位) ・水理実験(1単位) ・地盤工学演習(1単位) ・土木応用実験(1単位) ・土木キャリ
		8単位	位) ・環境の科学(2単位) ・土木数学1(2単位) ・土木情報処理(2単位) ・地盤工学1(2単位) ・土木の力学(2単位) ・マテリアルデザイン(2単位) ・流れの力学(2単位) ・地盤工学2(2単位) ・都市計画(2単位) ・土木工学総合講義(2単位) ・水理学(2単位) ・材料実験(1単位) ・土質実験(1単位) ・水理実験(1単位) ・地盤工学演習(1単位) ・土木応用実験(1単位) ・土木キャリ

				アセミナー(1単位) ・土木設計演習(1単位) ・卒業研究1(2単位) ・卒業研究2(2単位) ・卒業研究3(4単位) ・卒業研究4(4単位)
	他コース専門科目		—	—
コース外科目			—	—
教職科目			—	—
総単位数			124単位	

工学部卒業要件

卒業要件は原則として入学年度の学則に従う。

但し、学士・編入及び再入学者は、原則として入学する学年の卒業要件を適用する。

以下の条件を満たした学生のみが卒業することができる。

・卒業要件に含む単位を124単位以上取得していること。

・各科目系列について、少なくとも以下の表において定められている単位数を取得していること。

・累積のGPAは2.0以上であること

先進国際課程

専門科目群	先端工学研究科目	必修　64単位
	先端工学概論科目	選択　6単位以上

				アセミナー(1単位) ・土木設計演習(1単位) ・卒業研究1(2単位) ・卒業研究2(2単位) ・卒業研究3(4単位) ・卒業研究4(4単位)
	他コース専門科目		—	—
コース外科目			—	—
教職科目			—	—
総単位数			124単位	

工学部卒業要件

卒業要件は原則として入学年度の学則に従う。

但し、学士・編入及び再入学者は、原則として入学する学年の卒業要件を適用する。

以下の条件を満たした学生のみが卒業することができる。

・卒業要件に含む単位を124単位以上取得していること。

・各科目系列について、少なくとも以下の表において定められている単位数を取得していること。

・累積のGPAは2.0以上であること

先進国際課程

専門科目群	先端工学研究科目	必修　64単位
	先端工学概論科目	選択　6単位以上

	専門科目	選択　6単位以上
数理基礎科目・情報科目	数理基礎科目	選択　6単位以上
	情報科目	
教養科目	人文社会系教養科目	必修　1単位　6単位以上
	体育・健康科目	
総単位		124単位

システム理工学部卒業要件

卒業要件の総取得単位数は124単位以上

全学共通科目		電子情報システム学科 機械制御システム学科 環境システム学科 数理科学科			専門科目以外単位数	電子情報システム学科 60単位以上 機械制御システム学科 60単位以上 環境システム学科 50単位以上 生命科学科 56単位
共通科目	教職科目					
	総合科目	エンジニア・リテラシー科目、社会	電子情報システム学科 機械制御システム学科 環境システム学科	必修1単位　計5単位以上	12単位以上	

	専門科目	選択　6単位以上
数理基礎科目・情報科目	数理基礎科目	選択　6単位以上
	情報科目	
教養科目	人文社会系教養科目	必修　1単位　6単位以上
	体育・健康科目	
総単位		124単位

システム理工学部卒業要件

卒業要件の総取得単位数は124単位以上

全学共通科目		電子情報システム学科 機械制御システム学科 環境システム学科 生命科学科 数理科学科			専門科目以外単位数	電子情報システム学科 60単位以上 機械制御システム学科 60単位以上 環境システム学科 50単位以上 生命科学科 56単位
共通科目	教職科目					
	総合科目	エンジニア・リテラシー科目、社会	電子情報システム学科 機械制御システム学科 環境システム学科	必修1単位　計5単位以上	12単位以上	

	科学系科目	数理科学科		以上 数理科学科 54単位以上
	人文科学系科目、保健・体育系科目、第2外国語科目		6単位以上 (体育実技2単位迄)	
	英語科目		8単位以上	
基礎科目	電子情報システム学科	必修10単位	計16単位以上	
	機械制御システム学科	必修12単位	計18単位以上	
	環境システム学科	必修4単位	計10単位以上	
	数理科学科	必修14単位	計16単位以上	
システム・情報科目	電子情報システム学科	必修12単位	計18単位以上	
	機械制御	必修12	計18	

	科学系科目	生命科学科 数理科学科		以上 数理科学科 54単位以上
	人文科学系科目、保健・体育系科目、第2外国語科目		6単位以上 (体育実技2単位迄)	
	英語科目		8単位以上	
基礎科目	電子情報システム学科	必修10単位	計16単位以上	
	機械制御システム学科	必修12単位	計18単位以上	
	環境システム学科	必修4単位	計10単位以上	
	生命科学科	必修4単位	計16単位以上	
	数理科学科	必修14単位	計16単位以上	
システム・情報科目	電子情報システム学科	必修12単位	計18単位以上	
	機械制御	必修12	計18	

		システム学科	単位	単位以上	
		環境システム学科	必修12単位	計18単位以上	
		数理科学科	必修12単位	計16単位以上	
専門科目		電子情報システム学科	必修21単位	計60単位以上	
		機械制御システム学科	必修30単位	計58単位以上	
		環境システム学科	必修22単位	計70単位以上	
				上	
		数理科学科	必修18単位	計58単位以上	

システム理工学部卒業要件　生命科学課程

卒業要件の総取得単位数は124単位以上

科目系列	生命科学課程

		システム学科	単位	単位以上	
		環境システム学科	必修12単位	計18単位以上	
		生命科学科	必修12単位	計16単位以上	
		数理科学科	必修12単位	計16単位以上	
専門科目		電子情報システム学科	必修21単位	計60単位以上	
		機械制御システム学科	必修30単位	計58単位以上	
		環境システム学科	必修22単位	計70単位以上	
		生命科学科	必修8単位	計64単位以上	
		数理科学科	必修18単位	計58単位以上	

学際科目	SDGs・キャリアデザイン システム工学 アントレプレナーシップ	13単位以上	124単位以上	
基礎教養科目	理数・情報	10単位以上		
	社会科学 人文科学 保健体育	6単位以上		
	英語	8単位以上		
(小計)単位数		48単位以上		
専門科目	主専攻 副専攻	主専攻5モジュールまたは主専攻4モジュール+副専攻1モジュール		
		60単位以上		
	総合研究	12単位以上		

モジュールとはある職能上で必要な知識と技術を修得するために必要な科目12単位以上のまとまりである

デザイン工学部卒業要件

デザイン工学部卒業要件

卒業要件は原則として入学年度の学則に従う。

但し、学士・編入及び再入学者は、原則として入学する学年の卒業要件を適用する。

卒業要件の総取得単位数は124単位以上、GPAは2.0以上

全学共通科目		10単位以上	22単位以上
共通教養科目	英語を除く共通教養科目		
	英語科目	8単位以上	
データ・サイエンス科目		必修　6単位	必修　14単位
デザイン科目		必修　8単位	選択必修4単位
エンジニアリング科目		選択必修4単位	選択64単位以上
プロジェクト科目		必修　14単位 選択　6単位	
総単位数		124単位以上	

建築学部卒業要件

卒業要件は原則として入学年度の学則に従う。

但し、学士・編入及び再入学者は、原則として入学する学年の卒業要件を適用する。

以下の卒業要件を満たし、かつGPAは、2.0以上であること。

卒業要件の総取得単位数は124単位以上

基礎・教養	基礎・教養科目群から32単位以上 1. 数理基礎科目 必修科目　1単位　を含み「数学科目」・「理科科目」から9単位以上を取得すること。

卒業要件は原則として入学年度の学則に従う。

但し、学士・編入及び再入学者は、原則として入学する学年の卒業要件を適用する。

卒業要件の総取得単位数は124単位以上、GPAは2.0以上

全学共通科目		10単位以上	22単位以上
共通教養科目	英語を除く共通教養科目		
	英語科目	8単位以上	
データ・サイエンス科目		必修　6単位	必修　14単位
デザイン科目		必修　8単位	選択必修4単位
エンジニアリング科目		選択必修4単位	選択64単位以上
プロジェクト科目		必修　14単位 選択　6単位	
総単位数		124単位以上	

建築学部卒業要件

卒業要件は原則として入学年度の学則に従う。

但し、学士・編入及び再入学者は、原則として入学する学年の卒業要件を適用する。

以下の卒業要件を満たし、かつGPAは、2.0以上であること。

卒業要件の総取得単位数は124単位以上

基礎・教養	基礎・教養科目群から32単位以上 1. 数理基礎科目 必修科目　1単位　を含み「数学科目」・「理科科目」から9単位以上を取得すること。

科目群	2. 外国語科目 「英語科目」から8単位以上を取得すること。 3. 人文社会・情報系教養科目 「人文社会・情報系教養科目」から12単位以上を取得すること。 4. 体育・健康科目
専門科目群	必修科目　13単位　を含み　72単位以上　総単位数　124単位以上

別表8

納入金

１．学費等

【工学部・システム理工学部・デザイン工学部・建築学部】

	1年次	2年次	3年次	4年次
入学金(一時金)	280,000円			
維持料(年額)	283,000円	283,000円	283,000円	283,000円
授業料(年額)	1,199,000円	1,199,000円	1,299,000円	1,299,000円
休学在籍料(年額)	60,000円	60,000円	60,000円	60,000円

※再入学の入学金は免除する。

２．科目等履修生の学費等

(1)　審査料　10,000円(ただし、本学卒業生は不要)

(2)　入学金(一時金)　30,000円(ただし、本学卒業生は２分の１額)

(3)　履修料(１単位につき)　15,000円(ただし、本学大学院生は２分の１額

※本学大学院生が教員免許状取得を目的として必要な科目を履修する場合、履修料は不

科目群	2. 外国語科目 「英語科目」から8単位以上を取得すること。 3. 人文社会・情報系教養科目 「人文社会・情報系教養科目」から12単位以上を取得すること。 4. 体育・健康科目
専門科目群	必修科目　13単位　を含み　72単位以上　総単位数　124単位以上

別表8

納入金

１．学費等

【工学部・システム理工学部・デザイン工学部・建築学部】

	1年次	2年次	3年次	4年次
入学金(一時金)	280,000円			
維持料(年額)	283,000円	283,000円	283,000円	283,000円
授業料(年額)	1,199,000円	1,199,000円	1,299,000円	1,299,000円
休学在籍料(年額)	60,000円	60,000円	60,000円	60,000円

※再入学の入学金は免除する。

２．科目等履修生の学費等

(1)　審査料　10,000円(ただし、本学卒業生は不要)

(2)　入学金(一時金)　30,000円(ただし、本学卒業生は２分の１額)

(3)　履修料(１単位につき)　15,000円(ただし、本学大学院生は２分の１額

※本学大学院生が教員免許状取得を目的として必要な科目を履修する場合、履修料は不

要

３．研究生の学費等

(1)　検定料　35,000円

(2)　登録料　59,000円(ただし、本学卒業生は２分の１額)

(3)　研究指導料(年額)　300,000円(半期150,000円)

(4)　実験実習料　実費

別表9

学位の種類

工学部

学科・課程名	学位の種類
機械工学課程	学士(工学)
物質化学課程	学士(工学)
電気電子工学課程	学士(工学)
情報・通信工学課程	学士(工学)
土木工学課程	学士(工学)
先進国際課程	学士(工学)

システム理工学部

学科名	学位の種類
電子情報システム学科	学士(工学)
機械制御システム学科	学士(工学)
環境システム学科	学士(工学)
生命科学課程	学士(生命科学)
数理科学科	学士(数理科学)

デザイン工学部

学科名	学位の種類
デザイン工学科	学士(デザイン工学)

建築学部

学科名	学位の種類
建築学科	学士(建築学)

要

３．研究生の学費等

(1)　検定料　35,000円

(2)　登録料　59,000円(ただし、本学卒業生は２分の１額)

(3)　研究指導料(年額)　300,000円(半期150,000円)

(4)　実験実習料　実費

別表9

学位の種類

工学部

学科・課程名	学位の種類
機械工学課程	学士(工学)
物質化学課程	学士(工学)
電気電子工学課程	学士(工学)
情報・通信工学課程	学士(工学)
土木工学課程	学士(工学)
先進国際課程	学士(工学)

システム理工学部

学科名	学位の種類
電子情報システム学科	学士(工学)
機械制御システム学科	学士(工学)
環境システム学科	学士(工学)
生命科学科	学士(生命科学)
数理科学科	学士(数理科学)

デザイン工学部

学科名	学位の種類
デザイン工学科	学士(デザイン工学)

建築学部

学科名	学位の種類
建築学科	学士(建築学)

○芝浦工業大学システム理工学部教授会規則

平成２年９月26日
制定

(趣旨)

第1条　芝浦工業大学システム理工学部教授会(以下「教授会」という。)は、本規則により運営する。

(組織)

第2条　教授会は、学部長及び専任の教授、准教授、講師、助教で組織する。

(諮問事項等)

第3条　教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うにあたり、意見を述べるものとする。

(1)　学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項
(2)　学位の授与に関する事項
(3)　教育及び研究組織に関する事項
(4)　学科、課程、学科目及び授業に関する事項
(5)　教員の研究育成及び留学に関する事項
(6)　教育研究予算の配分の方針に関する事項
(7)　教員の任用に関する事項
(8)　学生の指導育成に関する事項
(9)　学生の賞罰に関する事項
(10)　教員の資格審査に関する事項
(11)　学則に関する事項
(12)　その他学長から意見を求められた事項

2　教授会は、前項各号に定める事項のほか、学長及び学部長その他の教授会等が置かれる組織の長(以下「学長等」という)がつかさどる次の事項について審議し、及び学長等の求めに応じて意見を述べることができる。

(1)　教授会の運営に関する事項
(2)　図書、設備及び施設に関する事項
(3)　学生の試験、進級、転科、転部に関する事項
(4)　授業日数及び休業に関する事項
(5)　学生団体及び学生活動並びに学生生活に関する事項
(6)　学部規則に関する事項
(7)　その他学長等から意見を求められた事項

3　前項にいう審議とは、議論・検討することを意味し、決定権を含意するものではない。

(資格審査会議)

第4条　前条第10号「教員の資格審査に関する事項」については、次のとおりとする。

(1)　この事項の審議は、学部長及び専任の教授で組織する資格審査会議で行う。
(2)　資格審査会議は、必要に応じて開催する。
(3)　資格審査会議の議長は、学部長とする。
(4)　資格審査会議は、教授総数の３分の２以上で成立し、教授総数の過半数の賛成により同会議における意思を決する。

(議案)

第5条　教授会の議案は、学部長が定め、開催７日前までに会員に連絡しなければならない。ただし、緊急の場合は、出席会員の同意を得て議案を追加することができる。

(開催の期日)

第6条　教授会は、年に４回定期に開催するほか、学長又は学部長が必要と認めたとき及び会員の３分の１以上の申出があったとき臨時に開催しなければならない。

(議長の選出)

第7条　教授会の正副議長は、会員の選挙によって選出する。

(開催及び運営)

第8条　教授会は、会員の過半数の出席により成立し、出席会員の過半数により教授会における意思を決する。可否同数の場合は、議長が決する。

(学生の罰則)

第9条　第３条第１項第９号に関する事項のうち、罰則については芝浦工業大学懲戒処分細則又は単位認定に関わる学生の不正行為に関する取扱い細則による。

(委員会への検討等の付託)

第10条　教授会に委員会を設け、当該委員会に第３条各項各号における事項の検討等を付託することができる。

(その他の事項)

第11条　本規則に掲げるほか、運営その他について、必要な事項は細則をもって定める。

(事務の所管)

第12条　教授会の庶務は、大宮学事部学事・学生課が行う。

(規程の改廃)

第13条　この規則の改廃は、教授会の議を経て学長が行う。

附　則

この規則は、平成３年４月１日から施行する。

附　則

この規則(改正)は、平成７年11月１日から施行する。

附　則

この規則(改正)は、平成９年４月１日から施行する。

附　則

この規則(改正)は、平成16年11月１日から施行する。

附　則

この規程(改正)は、平成19年４月１日から施行する。

附　則

この規則(改正)は、平成20年12月１日から施行する。

附　則

この規則(改正)は、平成21年４月１日から施行する。

附　則

この規則(改正)は、平成25年４月１日から施行する。

附　則

この規則(改正)は、平成26年４月１日から施行する。

附　則

この規則(改正)は、平成26年４月１日から施行する。

附　則

この規則(改正)は、平成27年４月１日から施行する。

附　則

この規則(改正)は、平成28年６月15日から施行する。

附　則

この規則(改定)は、平成30年３月31日から施行する。

附　則

この規則(改定)は、令和６年４月１日から施行する。

設置の趣旨等を記載した書類

目次

１　設置の趣旨及び必要性 ····· 2
２　学部・学科等の特色 ····· 13
３　学部・学科等の名称及び学位の名称 ····· 13
４　教育課程の編成の考え方及び特色 ····· 14
５　教育方法、履修指導方法及び卒業要件 ····· 24
６　多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合の具体的計画 ····· 28
７　企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画 ····· 30
８　取得可能な資格 ····· 35
９　入学者選抜の概要 ····· 36
１０　教育研究実施組織等の編成の考え方及び特色 ····· 39
１１　研究の実施についての考え方、体制、取り組み ····· 40
１２　施設、設備等の整備計画 ····· 41
１３　管理運営 ····· 42
１４　自己点検・評価 ····· 44
１５　情報の公表 ····· 46
１６　教育内容等の改善を図るための組織的な研修等 ····· 46
１７　社会的・職業的自立に関する指導等及び体制 ····· 47

1　設置の趣旨及び必要性

（1）　はじめに

芝浦工業大学（以下「本学」という。）は、1927 年の開学以来、「社会に学び、社会に貢献する技術者の育成」を建学の精神に掲げ、実学主義の教育を展開してきた。さらに建学の精神を継承し続けるべく「世界に学び、世界に貢献するグローバル理工系人材の育成」を教育の理念として、世界で活躍できる人材育成に取り組んでいる。この実学教育により、本学はこれまで優れた卒業生を多数輩出し、現在では 4 学部（工学部、システム理工学部、デザイン工学部、建築学部）で収容定員 7,440 名を擁する理工系大学として発展を遂げている。

一方で現代の世界は変化が激しく、科学技術の高度化や産業構造の複雑化が急速に進展している。このような時代において、本学が社会に求められる大学として今後も発展していくためには、本学も時代の変化に合わせて改革を行っていく必要がある。

そこで、システム理工学部（収容定員 1,940 名）においても、時代の要請に応じた改組を実施することとした。本学部は、1991 年システム工学部として設置（電子情報システム学科、機械制御システム学科、環境システム学科の 3 学科を開設）され、2008 年生命科学科、2009 年数理科学科を増設し、現システム理工学部となった。本学部の特徴は、複数の学問体系を横断し関連付けるシステム思考とシステム工学の知識と手法を生かし、総合的、学際的に問題解決できるグローバル理工系人材を養成する教育研究にある。

本学部改組の目的は、「分野横断型教育の強化」「学修者の主体性を発揮させる教育カリキュラムの構築」「特定成長分野（デジタル・Well-being・グリーン）への転換等に貢献できる人材育成の促進」である。これらを推進、実現できる教育組織体制を確立するために、学科制から課程制へ移行することとした。

システム理工学部全体としては、「情報課程」「機械・電気課程」「建築・環境課程」「生命科学課程」「数理科学課程」の 5 課程体制となる。

本申請書においては上記のうち「生命科学課程」について設置の趣旨等を記載する。

（2）　課程の設置の趣旨及び必要性

システム理工学部は、1991 年の学部開設以来、複数の学問体系を横断し関連付けるシステム思考とシステム工学の知識と手法を生かし、新たな時代の要請に応え、地域と人類社会の発展に寄与する教育研究を行ってきた。地球規模で複雑化、多様化する現代社会においては、諸問題を総合的、学際的に解決できる力がますます必要とされている。こうした背景を踏まえ、幅広い教養と国際性を礎にした分野横断型教育を一層促進・強化するために、既存の学科制から課程制へ移行し、「生命科学課程」を設置する。

地域社会における少子高齢化の進行に伴い、社会構造が大きく変化し、従来の医療制度や福祉制度では対応できない問題が顕在化しつつある。人々の医療・福祉への関心が

高まる中、身体的・精神的・社会的に良好な状態にあることを意味する「Well-being」が社会課題として注目されている。「Well-being」とは、単に個人の「健康」にとどまらず、生きがい等、将来に渡る持続的な幸福といった要素を含む概念であり、地域社会全体の幸福感を示す指標としても位置付けられる。「Well-being」の向上は、高齢者や子供への支援だけではなく、経済を支える労働者の生産性向上にも深く関わることから、すべての人々にとって個人的、社会的に重要な課題と言える。こうした背景を鑑み、人々の「Well-being」に貢献する教育研究の強化・促進が求められている。

これまでの学科制では、生命現象を解明する「生命科学」と、病気や障がいを持つ人々を工学で支援する「医工学」の2領域に渡る教育プログラムを実践してきた。この2領域に加え、健康な人々の健康増進やパフォーマンス向上を工学で支援する「スポーツ工学」を配置する。このことにより、すべての人々を対象にした「Well-being」の向上に貢献し、現代社会における生命科学の重要性を学際的に捉える教育の枠組みとして、課程制の教育プログラムに改定する。

生命科学課程では、生命現象の解明や健康寿命の延伸に寄与する生命科学領域、医療・福祉機器の研究開発や工学技術を基盤とした生体現象を解明する医工学領域、身体活動の機序を理解し、すべての人々が楽しむためのスポーツ関連機器の研究開発を行うスポーツ工学領域を展開する。それぞれ異なるアプローチで人々の生活の質（Quality of Life: QOL）向上に取り組み、「Well-being」の実現を目指す。生命科学課程の趣旨を具体化するため、本課程内に「生命科学コース」「医工学コース」「スポーツ工学コース」を設ける。これにより、3つのコースが連動して機能することで、生命科学の特定領域に精通し、かつ他分野と連携して、すべての人々を対象とした健康な生活や福祉の促進に貢献できる人材を育成することが期待される。

（3） 養成する人材像

【生命科学課程】

生命科学や工学に関する職業倫理を身につけ、生命の複雑なシステム、生命現象、および個々の生命機能を理解し、ヒトの発達や加齢を科学的に洞察し、システム思考に基づく創造的な発想から人の健康に関する諸問題を解決できる人材を養成する。

【生命科学コース】

多様性を尊重し、生命の仕組みの理解に必要な生命科学の知識と思考力を身につけ、健康寿命の延伸に貢献できる人材を養成する。

【医工学コース】

医工学の幅広い専門知識・技術・論理的思考力を身につけ、生体機能を診断・治療・補助する医療・福祉技術の発展に貢献できる人材を養成する。

【スポーツ工学コース】

スポーツ工学の幅広い専門知識・技術・論理的思考力を身につけ、運動機能の発展・拡張を通して、人々のQOL(Quality of Life)向上に貢献できる人材を養成する。

（4）3つのポリシー

■ディプロマ・ポリシー

生命科学課程では、教育研究上の目的に定める人材を育成するため、卒業時に以下の能力と素養を身につけ、卒業要件を満たした者に学位を授与します。

＜基礎教養力＞

DP-1（学部共通）

① グローバルな視点から多面的にひと・もの・ことを考える幅広い視野と教養を身につけ、諸問題を多面的かつ客観的に扱うことができる。

② 科学技術が社会や自然に及ぼす便益とリスク、および技術者・科学者が社会に対し負うべき責任を理解し、社会に貢献する職業人としての倫理観に基づき行動できる。

③ 自然科学、情報技術等に関する知識を修得し、課題の解決に応用できる。

＜総合的、学際的な知識やスキル＞

DP-2（学部共通）

① 目的の達成へ向けて取り組むべき具体的な課題を設定し、対象とするひと・もの・ことが関係する現象をシステムとして捉えることができる。(システム思考)

② システム思考を用いて、包括的な解決策を導き出すことができる。(システム工学

③ 目標を達成するために、関係する人々と相互の知識や技術を関連付け合いながら、一人ひとりが最大の力を発揮するチームを形成し活動できる。(協働力)

④ 社会の具体的な課題を解決するアイデアをかたちにし、社会実装に向けて行動できる。(アントレプレナーシップ)

⑤ 新たな課題の解決に必要な知識やスキルを認識し、自らの可能性を広げる学修を継続できる。(生涯学修能力)

＜コミュニケーション能力＞

DP-3（学部共通）

① 技術文書の作成、口頭発表、討論等のコミュニケーションができる。

② 英語の技術文書を理解、作成し、技術者・科学者と英語でコミュニケーションができる。

＜専門知識を応用できる能力＞

DP-4a(生命科学コース)

① 研究者・技術者としての基礎的素養
分子・細胞・個体レベルの専門知識を修得し、生命現象を俯瞰して課題を特定すると共に、適切な実験・解析手法を用いて問題解決策を構築できる。

② キャリアを見据えた高度な専門知識
栄養・薬・環境が健康に及ぼす影響を科学的に評価し、健康寿命の延伸戦略を提案できる。

③ 専門分野と他分野を関連付ける素養
主軸となる分野の専門知識を他分野と関連付ける分野横断型の知識と行動力を修得し、社会で活用できる。

DP-4b(医工学コース)

① 研究者・技術者としての基礎的素養
医工学分野の専門知識・ものづくり技術を修得し、論理的に課題解決できる。

② キャリアを見据えた高度な専門知識
工学技術を基盤として生体現象を理解し、医療・福祉機器や生体制御技術を開発できる。

③ 専門分野と他分野を関連付ける素養
主軸となる分野の専門知識を他分野と関連付ける分野横断型の知識と行動力を修得し、社会で活用できる。

DP-4c(スポーツ工学コース)

① 研究者・技術者としての基礎的素養
運動機器・支援デバイスを開発し、運動機能の発展・拡張に寄与できる。

② キャリアを見据えた高度な専門知識
運動機能・パフォーマンスを科学的に解析し、論理的に課題解決できる。

③ 専門分野と他分野を関連付ける素養
主軸となる分野の専門知識を他分野と関連付ける分野横断型の知識と行動力を修得し、社会で活用できる。

■カリキュラム・ポリシー

生命科学課程は、学部のカリキュラム・ポリシーのもと、生命科学分野の生命科学・医工学・スポーツ工学領域の専門知識と、これらの専門知識を関連付ける分野横断型の知識を修得し、問題解決に応用できる能力が身につくように編成されています。

専門科目のカリキュラムは、職業人としてのキャリア形成に必要とされる知識やス

キルを具体的に示した以下のモジュール群を積み重ね、総合研究を行うことで、キャリアパスを見据えた学修ができるように構成されています。

本カリキュラムにより得られた学修成果は、多面的に評価（試験、レポート、成果発表等）し、学生の振り返りを促すことにより、学修・教育到達目標の達成に導きます。

＜基礎教養科目＞

理数・情報、社会科学、人文科学、保健体育、英語で構成されています。

CP-1（学部共通）

①グローバルな視点で幅広い視野と教養を身につける社会科学、人文科学、保健体育、英語の科目を配置しています。

②職業倫理に関する幅広い視野と教養を身につける倫理科目を配置しています。

③自然科学と情報技術等に関する基礎知識を身につける理数・情報科目を配置しています。

＜学際科目＞

CP-2（学部共通）

①目的の達成へ向けて取り組むべき具体的な課題を設定し、対象とするひと・もの・ことが関係する現象をシステムとして捉える能力（システム思考）を身につけるシステム工学科目を配置しています。

②システム思考を用いて、包括的な解決策を導き出す能力（システム工学）を身につけるシステム工学科目を配置しています。

③プロジェクト活動を通してチームで共同して活動できる能力（協働力）を身につけるシステム工学科目を配置しています。

④社会の具体的な課題を解決するアイデアをかたちにし、社会実装に向けて行動できる能力（アントレプレナーシップ）を身につけるシステム工学、アントレプレナーシップ、SDGs・キャリアデザイン科目を配置しています。

⑤新たな課題の解決に必要な知識やスキルを認識し、自らの可能性を広げる学修を継続できる能力（生涯学修能力）を身につけるキャリアデザイン、アントレプレナーシップ科目を配置しています。

＜学際科目（コミュニケーション）＞

CP-3（学部共通）

①技術文書の作成、口頭発表、討論等のコミュニケーションができる能力を身につけるシステム工学科目、総合研究を配置しています。

②英語の技術文書を理解、作成し、技術者・科学者と英語でコミュニケーションができる能力を身につける英語科目を配置しています。

＜専門科目＞

CP-4a(生命科学コース)

主専攻モジュール

①生命科学系の研究者・技術者としての基礎的素養を身につける主専攻モジュールで構成されています。

・専門基礎モジュール

生命科学を学ぶ上での基礎知識となる生理学や解剖学、生化学等を学ぶ科目で構成されています。また、国際性や多様性を受け入れ学ぶグローバル PBL（global Project-Based Learning）科目も配置し、社会との繋がりや多様なニーズを意識させることも重視しています。

・バイオサイエンステクニカルモジュール

生命科学における実験技術（基礎・応用・発展）の取得に繋がる実験科目で構成されています。

・ライフサイエンスモジュール

生命科学における基礎となる有機化学や分析化学、薬理学等を学ぶ科目で構成されています。

②キャリアを見据えた高度な専門知識を身につける主専攻モジュールで構成されています。

・ヒューマンヘルスサイエンスモジュール

生命科学における食品・生物分野の応用となる食品栄養学や発生生物学等を学ぶ科目で構成されています。

・サステナブルバイオサイエンスモジュール

生命科学における環境・化学分野の応用となる環境化学や微生物学、創薬化学等を学ぶ科目で構成されています。

③専門分野と他分野を関連付ける素養を身につける総合研究と副専攻モジュールを配置しています。

・総合研究

生命科学分野に関する基礎的専門知識と実践的専門知識・技術を駆使し、各自が設定した生命科学に関連するテーマについての問題を解明し、総合的、学際的に具体的な解決策を導き出す能力を養います。

副専攻モジュール

・他の課程・コースの他コース向けモジュール

・生命科学（理科・工業）教職モジュール
「理科」「工業」の教員免許状取得に必要な専門知識および指導法を学ぶための科目で構成されています。
・留学モジュール
国外短期留学に関する科目と生命科学分野の生命科学領域の専門知識を英語で学ぶための科目で構成されています。

CP-4b(医工学コース)
主専攻モジュール
①医工学系エンジニアとしての基礎的素養を身につける主専攻モジュールで構成されています。
・専門基礎モジュール
医工学を学ぶ上での基礎知識となる生理学や解剖学、プログラミング技術等を学ぶ科目で構成されています。また、国際性や多様性を受け入れ学ぶグローバル PBL 科目も配置し、社会との繋がりや多様なニーズを意識させることも重視しています。
・医工学モジュール
医療福祉への工学応用に必要な機械設計製作やメカトロニクス等の技術を学ぶ科目で構成されています。
・ものづくりモジュール
ものづくりの基礎となる機械工学や電気電子工学等を学ぶ科目で構成されています。
②キャリアを見据えた高度な専門知識を身につける主専攻モジュールで構成されています。
・バイオエンジニアリングモジュール
生体現象の理解や制御を対象としたバイオエンジニアリングを学ぶ科目で構成されています。
・メディカルエンジニアリングモジュール
医療・福祉支援を対象としたメディカルエンジニアリングを学ぶ科目で構成されています。

③専門分野と他分野を関連付ける素養を身につける総合研究と副専攻モジュールで構成されています。
・総合研究
生命科学分野に関する基礎的専門知識と実践的専門知識・技術を駆使し、各自が設定した医工学に関連するテーマについての問題を解明し、総合的、学際的に具体的な解決策を導き出す能力を養います。

副専攻モジュール
・他の課程・コースの他コース向けモジュール
・生命科学（理科・工業）教職モジュール
「理科」「工業」の教員免許状取得に必要な専門知識および指導法を学ぶための科目で構成されています。
・留学モジュール
国外短期留学に関する科目と生命科学分野の医工学領域の専門知識を英語で学ぶための科目で構成されています。

CP-4c（スポーツ工学コース）
主専攻モジュール
①スポーツ工学系エンジニアとしての基礎的素養を身につける主専攻モジュールで構成されています。
・専門基礎モジュール
スポーツ工学を学ぶ上での基礎知識となる生理学や解剖学、プログラミング技術等を学ぶ科目で構成されています。また、国際性や多様性を受け入れ学ぶグローバル PBL 科目も配置し、社会との繋がりや多様なニーズを意識させることも重視しています。
・ものづくり理論モジュール
スポーツ工学分野におけるものづくりの基礎となる機構学やメカトロニクス等を学ぶ科目で構成されています。
・エンジニアリングモジュール
スポーツ工学分野において、より実践的な技術開発に必要な信号処理や画像工学等を学ぶ科目で構成されています。

②キャリアを見据えた高度な専門知識を身につける主専攻モジュールで構成されています。
・運動理論モジュール
スポーツ工学分野の研究基礎となる、ヒトの身体運動の理解を深めるための科目で構成されています。
・データ計測・解析モジュール
スポーツ工学分野の研究基礎となるデータの計測方法と解析方法を修得する科目で構成されています。

③専門分野と他分野を関連付ける素養を身につける総合研究と副専攻モジュールで構成されています。
・総合研究

生命科学分野に関する基礎的専門知識と実践的専門知識・技術を駆使し、各自が設定したスポーツ工学に関連するテーマについての問題を解明し、総合的、学際的に具体的な解決策を導き出す能力を養います。

副専攻モジュール
・他の課程・コースの他コース向けモジュール
・生命科学（理科・工業）教職モジュール
「理科」「工業」の教員免許状取得に必要な専門知識および指導法を学ぶための科目で構成されています。
・留学モジュール
国外短期留学に関する科目と生命科学分野のスポーツ工学領域の専門知識を英語で学ぶための科目で構成されています。

■アドミッション・ポリシー
生命科学課程は、学部のディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーのもと、命科学分野（生命科学・医工学・スポーツ工学領域）のみならず、他の課程・コースの分野にも触れる分野横断型の学修を実践します。この学修を実りあるものとするため、以下のような人物の入学を求めます。

求める人物像
AP-1
持続可能で豊かな社会の実現に強い関心と意欲をもち、国際的視点に立った研究者・技術者をめざす人。
AP-2
生命科学課程の教育・研究環境を十分に活用して、より高いレベルの学びに自主的に取り組むことができる人。

AP-3
誠実な人間性、倫理観と適切なコミュニケーション能力をもち、科学技術にかかわる者として良識のある行動ができる人。

AP-4a(生命科学コース)
生命科学コースでは、対象分野の教育・研究への取り組みを実りあるものとするため、以下のような人物の入学を求めています。
①数学、生物学、化学、情報技術などの基礎教養科目と生命科学の専門科目を学ぶために必要となる基礎学力を身につけている人。

②生命科学の基礎を理解し、食品分野・医薬分野・環境分野などの生命現象の解明に挑戦する人。

AP-4b(医工学コース)
医工学コースでは、対象分野の教育・研究への取り組みを実りあるものとするため、以下のような人物の入学を求めています。
①数学、物理学、情報技術などの基礎教養科目と医工学の専門科目を学ぶために必要となる基礎学力を身につけている人。
②ものづくりの基礎を理解し、予防・診断・治療・リハビリのための医療機器の開発や、高齢者や障がい者を支援する福祉機器・支援システムの開発に挑戦する人。

AP-4c(スポーツ工学コース)
スポーツ工学コースでは、対象分野の教育・研究への取り組みを実りあるものとするため、以下のような人物の入学を求めています。
①情報技術などの基礎教養科目とスポーツ工学の専門科目を学ぶために必要となる基礎学力を身につけている人。
②ものづくりの基礎を理解し、スポーツ分野に応用することで、人々の QOL 向上に挑戦する人。

高等学校等で身につける学力の 3 要素
本課程への入学を希望する人は、高等学校等において以下の能力を身につけておくことを求めます。
（1）高等学校等の課程で学ぶ知識・技能（特に英語、数学、理科）
（2）思考力・判断力・表現力等の能力
（3）主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ能力
上記の能力を多面的・総合的に評価するため、システム理工学部のアドミッション・ポリシーを指針とした入学者選抜を実施します。

本課程においては、上記の能力等を総合・多面的に評価するため、以下の入学者選抜を実施します。評価の重みづけ（配点等）は、各選抜方式の要項を参照してください。

・一般入学者選抜の前期・後期・全学統一日程入試では、(1) を重視するとともに、筆記試験、外部試験により (2) を評価します。
・一般入学者選抜の大学入学共通テスト利用方式では、多科目の合計点により (1) (2) の総合的な能力を重視した評価を行います。
・学校推薦型入学者選抜では、調査書により (1) (2) を評価し、面接により (1) ～ (3)

を総合的に評価します。

・総合型選抜では、基礎学力調査、外部検定試験などにより（1）（2）を評価し、面接で（1）～（3）を総合的に評価します。

・特別入学者選抜では、外部検定試験、筆記試験等により（1）（2）を評価し、提出書類、面接により（1）～（3）を総合的に評価します。

【資料１　養成する人材像と 3 つのポリシー】

（5） 養成する人材像と 3 つのポリシーの相関関係・整合性について

本課程の「養成する人材像」と「3 つのポリシー」は、システム理工学部の「養成する人材像」と「3　つのポリシー」に基づき設定されている。「ディプロマ・ポリシー」は、「養成する人材像」に基づき設定され、「何ができるようになるか」に力点を置き、学生が身につけるべき知識やスキルの目標を具体化し、学位を授与する方針としている。「カリキュラム・ポリシー」は、「ディプロマ・ポリシー」を達成するためのカリキュラムの編成と学修方法の方針を示し、「ディプロマ・ポリシー」から展開した学修・教育到達目標、および目標達成に必要な主要授業科目と専門科目のモジュール（ある職能上で必要な知識と技術を修得するために必要な科目 12 単位以上のまとまり）が適切に配当されている。「アドミッション・ポリシー」では、「ディプロマ・ポリシー」と「カリキュラム・ポリシー」に基づき、入学者に求める人物像について、課程共通の 3 項目とコース別の 1 項目、および高等学校等で身につける学力の 3 要素が明示されている。以上のことから、本課程の「養成する人材像」と「3 つのポリシー」は、それぞれの相互関係とカリキュラム・ツリーによって体系化され、整合性がとれたものとなっている。

【資料２　養成する人材像と 3 つのポリシー関係図】

【資料３　カリキュラム・ツリー】

（6） 教育・研究対象となる中心的な学問分野

本課程の教育・研究の対象となる中心的な学問分野は、生命科学分野およびそれらに関連する基礎工学分野の領域である。少子高齢化に伴う社会的ニーズに応え、人々の「Well-being」に貢献するための生命科学・医工学・スポーツ工学分野が教育研究の対象となる。本課程・各コースにおける具体的な学問分野は、以下のとおりである。

【生命科学コース】

食品分野や医薬品分野、環境分野の研究開発に必要となる食品栄養学や創薬化学、環境化学等の生命科学分野から構成される。応用的な領域として、食料・資源枯渇問題の解決、様々な疾患・感染症治療、環境汚染緩和等が挙げられる。

【医工学コース】

医療・福祉機器や生体制御技術の研究開発に必要となる基礎医学、ものづくり工学、バイオエンジニアリング、メディカルエンジニアリング等の医工学分野から構成される。応用的な領域として、幅広い分野における電気機械・精密機器開発やソフト・ハードウエア開発、医薬品・バイオ関連技術開発等が挙げられる。

【スポーツ工学コース】

運動機能を発展・拡張させる研究開発に必要となる運動理論、ものづくり理論、データ計測・解析技術等のスポーツ工学分野から構成される。応用的な領域として、スポーツアナリティクス、ヘルスケアマネジメント、スマートエイジング等が挙げられる。

2　学部・学科等の特色

（1）　課程の特色

生命科学課程では、分子・遺伝子レベルから個体に至るまで、さまざまな観点から生命現象の機序を解明する研究や、人々の生活を支援する科学技術の開発を通して、健康寿命の延伸と QOL 向上に貢献する教育研究を展開する。

生命科学課程の趣旨を具体化するため、本課程内に「生命科学コース」「医工学コース」「スポーツ工学コース」を設ける。これら 3 つのコースが連動して機能することで、生命科学の特定領域に精通し、かつ他分野と連携して、すべての人々を対象とした健康な生活や福祉の促進に貢献できる人材を育成することを教育課程の編成方針とする。

学修者の主体的な学修、分野横断型の学修を促進するために、学部共通科目として、「学際科目（SDGs・キャリアデザイン、アントレプレナーシップ、システム工学)」を必修科目として配置している。

（2）　本課程の設置が工学部へ与える影響

生命科学課程の生命科学、医工学、スポーツ工学の領域は、健康寿命の延伸と人々の QOL を支える分野であり、学部教育が目指す「特定成長分野（Well-being）への転換等に貢献できる人材育成の促進」「分野横断型教育の強化」に貢献できるものである。

3　学部・学科等の名称及び学位の名称

（1）　学部・課程・学位の名称

学部・課程の名称	修業年限	入学定員	収容定員	学位の名称	学位の分野
	年	人	人		
システム理工学部					
生命科学課程	4	180	720	学士	工学関係

				（生命科学）	理学関係
					体育関係

（2） 上記名称とした理由・背景

本課程では、生命科学や工学に関する専門知識・技術、研究倫理観を修得させ、システム思考とシステム工学の知識と手法を活用し、すべての人が健康な生活を享受できる社会の実現に貢献できる人材を養成する。研究においては、分子や遺伝子レベルから細胞、個体に至るまで、さまざまな観点から発達や加齢といった生命現象の機序を解明する研究をはじめとし、医療や人々の生活を支援する科学技術の開発を通して、健康寿命の延伸と人々の QOL 向上に貢献することを目的とする。したがって、課程名を「生命科学課程」とする。システム思考に基づき生命科学分野の諸問題を総合的に解決する能力を身につけることを求めていることから、学位の名称を「学士（生命科学）」とする。

4 教育課程の編成の考え方及び特色

（1） 科目区分の設定及び理由

システム理工学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、学問体系を横断し関連付けるシステム思考とシステム工学の知識、学修者の主軸となる専門知識と他分野を関連付ける分野横断型の知識、そして自ら行動し多様な人々と共創できる能力を修得する。開講科目は、「基礎教養科目」「学際科目」「専門科目」に区分し、「教職課程」の 6 科目を加えて配置する。

「基礎教養科目」は、「理数・情報科目」「社会科学・人文科学・保健体育科目」「英語科目」で構成し、全ての専門分野の学修を支える基礎力を養う科目群として位置付ける。

「学際科目」は、「SDGs・キャリアデザイン科目」「システム工学科目」「アントレプレナーシップ科目」で構成し、本学部改組の目的に掲げる「分野横断型教育の強化」「学修者の主体性を発揮させる教育カリキュラムの構築」を推進する科目群として位置付ける。

「専門科目」は、5 課程 11 コースで編成する。各科目は、新たな価値を創生し社会に貢献する職業人としてのキャリア形成に必要となるスキルに紐づけられている。スキルに紐づけられた科目のセット（モジュール：ある職能上で必要な知識と技術を修得するために必要な科目 12 単位以上のまとまり）を組み合わせることで、主軸となる分野（主専攻）の専門知識と他分野（副専攻）を関連付け、問題解決するための能力を修得することもできる。学生は所属する各課程・コース（主専攻）から 4 モジュールを完成し、他の課程・コース（副専攻）から 1 モジュール（主専攻からでもよい）を完成させることを卒業要件とする。

上述の分野別専門科目モジュールは、システム理工学部の他課程においても設置さ

れている。各課程・コースの主専攻には 5～7 のモジュールがあり、「副専攻モジュール」は他課程・他コースから履修できる。学修者自身の目的、興味に合ったモジュールを自由に組み合わせて学修計画を立てることができる。学生は、課程・コースをまたいで、分野別の専門科目モジュールを活用することで、効果的・効率的に他分野の学びを進めることができる。

（2） 各科目区分の科目構成及び理由

① 基礎教養科目

「基礎教養科目」は、「理数・情報科目」「社会科学・人文科学・保健体育科目」「英語科目」で構成し、全ての専門分野の学修を支える基礎力を養う科目群として位置付ける。主として 1、2 年次の履修科目として配当する。持続可能な社会を形成するための基礎知識である自然科学・情報技術等に関する基礎知識、および英語、職業倫理、幅広い視野と教養等、グローバル理工系人材に相応しい豊かな人間性を育むことに重点を置く。

「基礎教養科目」は以下の科目構成とする。

・理数・情報科目

理数科目は、各分野の学術基盤を成す自然科学の原理や思考法を身につける科目である。

数学科目は、生命科学コース、医工学コースでは、「微分積分 1」「線形代数 1」を必修科目として配置する。これらに続く選択科目として「微分積分 2」「線形代数 2」を配置する。スポーツ工学コースでは、選択科目として「微分積分 1」「線形代数 1」「微分積分 2」「線形代数 2」を配置する。

物理科目は、医工学コースでは「力学 1」「電磁気学」を必修科目として配置し、これらに続く選択科目として「力学 2」「波動・熱力学」「現代物理学概論」を配置する。生命科学コース、スポーツ工学コースでは、選択科目として「力学 1」「力学 2」「波動・熱力学」「電磁気学」「現代物理学概論」を配置する。

化学科目は、生命科学コースでは「化学」を必修科目として配置する。医工学コース、スポーツ工学コースでは選択科目として「化学」を配置する。

生物科目は、生命科学コースでは「生物学」を必修科目として配置する。医工学コース、スポーツ工学コースでは選択科目として「生物学」を配置する。

情報科目は、創造活動のプロセスで要求される情報収集能力や、収集した情報を適切に利用して正確に発信する情報活用能力の基礎を身につけるため、基礎的な情報系科目で構成する。全てのコースにおいて、「情報基礎」「AI 基礎」「統計学基礎」「データサイエンスリテラシー」を必修科目として配置する。

・社会科学・人文科学・保健体育科目

社会科学・人文科学は、技術者のあるべき姿を客観的に認識できる倫理観、技術と社会の関わりについてさまざまな側面から考えられる大局的観点を身につける科目である。人文科学としては「倫理学」「生命倫理概論」「技術者と倫理」を選択必修科目として設置し、加えて哲学、歴史、心理、教育等に関連する科目で構成する。社会科学としては社会、政治、法律、環境等に関連する科目で構成する。

保健体育科目は、心身の健康を維持・増進するとともに、社会性やリーダーシップを身につけるための科目である。演習科目「体育実技 1」「体育実技 2」、および関連する講義科目で構成する。

・英語科目

英語の技術文書を理解、作成し、技術者・科学者と英語でコミュニケーションができることを目的とし、国際社会の場においても個々の専門能力が発揮できるグローバル理工系人材に相応しい力を身につけるための科目である。「English Basic Skills 1/2」「English Advanced Skills 1/2」「English Remedial Course 1/2」「Basic English for Science and Technology 1/2」「Advanced English for Science and Technology 1/2」「理工系英語プレゼンテーション」「海外英語研修 1/2」「海外短期英語研修 1/2」「学外英語検定 1/2」の 17 科目から 8 単位以上の履修を卒業要件として課す。

② 学際科目

「学際科目」は、学修者が主体的に自分と社会をつなぐ学修計画を立て、複数の専門分野を横断的につなぐ知識・技能・方法、そして心構えを身につけ、社会の変化に合わせて諸課題と積極的に向き合える力を培うものである。

「SDGs・キャリアデザイン科目」は、持続可能な社会の構成員としての職業人生を主体的・能動的にデザインし、実現に向けて行動するためのスキルを養成する科目群である。「SDGs 科目」は、学修者の学びがいかなる社会の課題と結びつくのかを知る機会（社会起点）、「キャリアデザイン科目」は、学修者が目指したい人材像を自ら描いてみる機会（自分起点）を提供し、いずれも学ぶ動機や意欲を形成するものである。

「システム工学科目」は、取り組むべき具体的な課題を設定し、目的達成に向けて、関連するひと・もの・ことの諸現象をシステムと捉え（システム思考）、総合的、学際的に解決策を導き出すためのシステムズアプローチの方法論と、プロジェクト活動により、チームで協働して活動できる能力を養成する科目群である。分野を越えて複数の専門領域をつなぎ、課題解決する知識・技能・方法を修得する。

「アントレプレナーシップ科目」は、社会の具体的な課題を解決するアイデアをかた

ちにし、社会実装に向けて行動できるスキルを養成する科目群である。社会の課題を解決するアイデアを社会実装するための主体的な態度・行動力を養う機会を提供し、社会貢献を果たすための心構えを修得する。

「学際科目」の科目構成は以下の通りである。

・SDGs・キャリアデザイン科目

SDGs 科目は「SDGs 入門」、キャリアデザイン科目は「未来を創る 1」「未来を創る 2」を必修科目として配置し、これらに続く選択科目として「ダイバーシティ入門」「インターンシップ」「芝浦工業大学通論」を配置する。

・アントレプレナーシップ科目

「アントレプレナーシップ A（価値創造）」を必修科目として配置し、これらに続く選択科目として「アントレプレナーシップ B（事業創出）」「経営工学」「産学官金連携 PBL」「会計簿記」を配置する。

・システム工学科目

「システム工学Ａ（システム計画方法論）」「システム工学Ｂ（数理計画法）」を必修科目として配置し、これらに続く選択科目として「プロジェクトマネジメント」「Advanced Systems Science and Engineering 1/2」「信頼性工学」「人間工学」「サイバーセキュリティと社会」を配置する。

② 専門科目

生命科学課程は、学部のカリキュラム・ポリシーのもと、生命科学分野の生命科学・医工学・スポーツ工学領域の専門知識と、これらの専門知識を関連付ける分野横断型の知識を修得し、問題解決に応用できる能力が身につくように編成されている。

課程のカリキュラムは、職業人としてのキャリア形成に必要とされる知識やスキルを具体的に示した以下のモジュール（ある職能上で必要な知識と技術を修得するために必要な科目 12 単位以上のまとまり）群を積み重ね、総合研究を行うことで、キャリアパスを見据えた学修ができるように構成されている。

各科目は、キャリア形成に必要となるスキルに紐づけられている。スキルに紐づけられた科目のモジュールを組み合わせることで、主軸となる分野（主専攻）の専門知識と他分野（副専攻）を関連付け、問題解決するための能力を修得することもできる。各モジュールにおいて重要と位置付けられる主要授業科目（必修科目、選択必修科目）を履修することで、モジュールに紐づけられたキャリア形成に必要とされるスキルを修得できるようにしている。

各コースのモジュールは以下の通りである。

【生命科学コース】

主専攻モジュール

CP-4a

① 生命科学系の研究者・技術者としての基礎的素養を身につける主専攻モジュールで構成されています。

・専門基礎モジュール

・バイオサイエンステクニカルモジュール

・ライフサイエンスモジュール

② キャリアを見据えた高度な専門知識を身につける主専攻モジュールで構成されています。

・ヒューマンヘルスサイエンスモジュール

・サステナブルバイオサイエンスモジュール

③ 専門分野と他分野を関連付ける素養を身につける総合研究と副専攻モジュールで構成されています。

・総合研究

3、4 年次の専門科目は、「総合研究 1」～「総合研究 4」を中心に構成されてるい生命科学分野に関する基礎的専門知識と実践的専門知識・技術を駆使し、各自が設定した生命科学に関連するテーマについての問題を解明し、総合的、学際的に具体的な解決策を導き出す能力を養う。

副専攻モジュール

・他の課程・コースの他コース向けモジュール

・生命科学（理科・工業）教職モジュール

・留学モジュール

※モジュールの説明はカリキュラム・ポリシー参照

【医工学コース】

主専攻モジュール

CP-4b

① 医工学系エンジニアとしての基礎的素養を身につける主専攻モジュールで構成されています。

・専門基礎モジュール

・医工学モジュール

・ものづくりモジュール

② キャリアを見据えた高度な専門知識を身につける主専攻モジュールで構成されています。

・バイオエンジニアリングモジュール
・メディカルエンジニアリングモジュール

② 専門分野と他分野を関連付ける素養を身につける総合研究と副専攻モジュールで構成されています。

・総合研究

3、4 年次の専門科目は、「総合研究 1」～「総合研究 4」を中心に構成されている。生命科学分野に関する基礎的専門知識と実践的専門知識・技術を駆使し、各自が設定した医工学に関連するテーマについての問題を解明し、総合的、学際的に具体的な解決策を導き出す能力を養う。

副専攻モジュール

・他の課程・コースの他コース向けモジュール
・生命科学（理科・工業）教職モジュール
・留学モジュール

※モジュールの説明はカリキュラム・ポリシー参照

【スポーツ工学コース】

主専攻モジュール

CP-4c

① スポーツ工学系エンジニアとしての基礎的素養を身につける主専攻モジュールで構成されています。

・専門基礎モジュール
・ものづくり理論モジュール
・エンジニアリングモジュール

② キャリアを見据えた高度な専門知識を身につける主専攻モジュールで構成されています。

・運動理論モジュール
・データ計測・解析モジュール

③ 専門分野と他分野を関連付ける素養を身につける総合研究と副専攻モジュールで構成されています。

・総合研究

3、4 年次の専門科目は、「総合研究 1」～「総合研究 4」を中心に構成されている。生命科学分野に関する基礎的専門知識と実践的専門知識・技術を駆使し、各

自が設定したスポーツ工学に関連するテーマについての問題を解明し、総合的、学際的に具体的な解決策を導き出す能力を養う。

副専攻モジュール

・他の課程・コースの他コース向けモジュール
・生命科学（理科・工業）教職モジュール
・留学モジュール

※モジュールの説明はカリキュラム・ポリシー参照

（3） 課程の設置の趣旨等を実現するための科目の対応関係

本課程では、課程設置の趣旨を踏まえてディプロマ・ポリシーを定めるとともに、ディプロマ・ポリシーを細分化した学修・教育到達目標を設定している。各科目は、いずれも学修・教育到達目標と対応しており、主要授業科目同士の関連がカリキュラム・ツリーで明示されている。学生は所属するコースによらず、主要授業科目（必修科目、選択必修科目）を履修することで、学位取得に必要な学修・教育到達目標を理解し、ディプロマ・ポリシーを達成できるようになっている。

また、各モジュールにおいて重要と位置付けられる主要授業科目を履修することで、モジュールに紐づけられたキャリア形成に必要とされるスキルを修得できるようにしている。

【資料３　カリキュラム・ツリー】

（4） 必修科目・選択科目・自由科目の構成及び理由

本課程では、学修・教育到達目標の達成に強く関与する科目を「必修科目」に設定している。また、ディプロマ・ポリシーとして設定されている「専門知識を応用できる能力」は、生命科学、医工学、スポーツ工学分野における技術者・研究者としてのキャリア形成に必要とされるスキルを具体的に示したモジュール群を履修することで学修・教育到達目標を達成する。モジュール群は、主専攻モジュールと副専攻モジュールで構成される。主専攻モジュールは、生命科学課程の専門知識やスキルを修得するため、副専攻モジュールは、生命科学課程の専門知識を他分野と関連付ける分野横断型の知識を修得するために設定されている。

主専攻モジュールのうち、専門基礎モジュールは、生命科学・医工学・スポーツ工学分野の基礎的素養を学修するために必修としている。

生命科学コースでは、目指すキャリアの専門基礎を学ぶために、バイオサイエンステクニカルモジュール、ライフサイエンスモジュール を、目指すキャリアを見据えた高度な専門知識等を学ぶために、ヒューマンヘルスモジュール、サステナブルバイオサイエンスモジュールを設定している。

医工学コースでは、目指すキャリアの専門基礎を学ぶために、医工学モジュール、ものづくりモジュールを、目指すキャリアを見据えた高度な専門知識等を学ぶために、バイオエンジニアリングモジュール、メディカルエンジニアリングモジュールを設定している。

スポーツ工学コースでは、目指すキャリアの専門基礎を学ぶために、ものづくり理論モジュール、エンジニアリングモジュールを、目指すキャリアを見据えた高度な専門知識等を学ぶために、運動理論モジュール、データ計測・解析モジュールを設定している。また各コースでは、分野横断型の知識を修得するために副専攻モジュール群（海外留学を促進する留学モジュール、生命科学（理科・工業）教職モジュールを含む）を設定している。

学修・教育到達目標の達成に寄与する主要な科目を「必修科目」「選択必修科目」として設定し、モジュール完成のために必須となる科目を「モジュール必修科目」「モジュール選択必修科目」と設定している。上記以外の科目とモジュール内の科目については、履修者の関心や必要性に応じて自主的に選択する科目を開講しており、卒業・修了要件に含まれるものを「選択科目」、卒業・修了要件に含まれないものを「自由科目」としている。

※詳細については、別記様式第２号（その２の1）「教育課程等の概要」に記載

（５） 履修順序（配当年次）の考え方

本学部改組の目的は、「分野横断型教育の強化」「学修者の主体性を発揮させる教育カリキュラムの構築」「特定成長分野（デジタル・Well-being・グリーン）への転換等に貢献できる人材育成の促進」である。これらを推進、実現するために、学修者が主体的に自分と社会をつなぐ学修計画を立て、複数の専門分野を横断的につなぐ知識・技能・方法、そして心構えを身につけ、社会の変化に合わせて諸課題と積極的に向き合える力を培う「学際科目」を学部共通の科目として配当する。主体的に学ぶ動機と目的を理解した上で、自身の専門分野に関する基礎力を修得し、その応用力の学修へと進む履修順序を方針として学修カリキュラムを構築している。また、主専攻モジュール（モジュール：ある職能上で必要な知識と技術を修得するために必要な科目 12 単位以上のまとまり）に副専攻モジュールを加えることで、分野横断的な学修を促進できるようにしている。

具体的には以下のような順序で科目を配当している。

生命科学課程のディプロマ・ポリシーから展開された学修・到達目標を達成するために、「学際科目（SDGs・キャリアデザイン、アントレプレナーシップ、システム工学)」「基礎教養科目（理数・情報、社会科学、人文科学、保健体育、英語)」「専門科目（主

専攻、副専攻)」を教育カリキュラムに配置する。

1 年次には、学際科目の SDG s ・キャリアデザイン科目にて、学修者が目指したい人材像を自ら描き、学ぶ動機や意欲を形成する「未来を創る 1」と、学修者の学びがいかなる社会の課題と結びつくのかを知る機会を提供する「SDGs 入門」を配置する。基礎教養科目では、全ての分野に共通する教養力、職業倫理、自然科学や情報技術の知識を修得することで専門分野を支える基礎力を身につけられるように配置する。専門科目では、「主専攻モジュール」の「専門基礎モジュール」を配置することで、生命科学分野の基礎的専門知識・技術を学修する。1 年次から、全コースで、「専門基礎モジュール」において、分野の基礎知識や技術を将来の応用に結びつける能力を修得できる。自身の学びの動機となる社会課題を総合的、学際的に解決するために、「副専攻モジュール」を配置することで、分野横断型の知識と行動力の修得を開始できる。

2 年次には、分野を越えて複数の専門領域をつなぐためのシステム思考とシステム工学の知識・技能・方法を学修するために「システム工学 A」「システム工学 B」を配置する。専門科目では、目指すキャリアの主軸となる分野を選択するために、各コース複数のモジュールを配置し、主軸となる分野を選択し、専門分野の基礎的素養を学修する。例えば、生命科学コースの「バイオサイエンステクニカルモジュール」では、1 年次後期に「生命科学実験（基礎)」、2 年次前期に「生命科学実験（応用)」、2 年次後期に「生命科学実験（発展)」を配置することで、授業内容が基礎から応用へと円滑に接続するように考慮されている。また、「副専攻モジュール」を学修することで、分野横断型の知識と行動力の修得を進める。2 年次後期には、学際科目の SDG s ・キャリアデザイン科目にて「未来を創る 2」を配置する。「未来を創る 1」で立てた学修計画を基に、めざす職業や職能を具体化し、実現するための研究内容を構想し、3 年次以降の総合研究で取り組むべき方向性を策定する。

3 年次には、学際科目のアントレプレナーシップ科目にて「アントレプレナーシップ A」を配置する。2 年次のシステム工学教育により得られた知識を組み合わせ、社会の課題を解決するアイデアを実現するための行動力を学修する。専門科目では、目指す職業や職能を具体化していくために、生命科学コースでは、「ヒューマンヘルスサイエンスモジュール」「サステナブルバイオサイエンスモジュール」から、医工学コースでは、「バイオエンジニアリングモジュール」「メディカルエンジニアリングモジュール」から、スポーツ工学コースでは、「運動理論モジュール」「データ計測・解析モジュール」から複数選択し、キャリアを見据えた高度な専門知識を修得する。これらのモジュール群は、総合研究を進めて行く上での基礎知識となる。

3 年次前期の「総合研究 1」から開始し「総合研究 2」、4 年次の「総合研究 3」「総合研究 4」まで、段階的に研究活動を実践することで、持続可能な社会の実現へ向けて、社会や科学における取り組むべき課題を自ら設定し、総合的、学際的な視野に立って、理工学分野の専門知識と技術を活用した問題解決力を学修する。

（6） 科目の設定単位数の考え方

大学設置基準第 21 条に従い、本課程では「1 単位は 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成する」としている。講義・演習科目は、授業外学修に必要な内容、および時間を考慮し、2 単位を基準に設定している。講義と演習を併用する授業では、週 2 コマの開講による授業時間を確保するとともに、演習で実施する課題作成に伴う授業外学修量を考慮して 3 単位としている。

また、実習、演習、実験に関する科目の単位数は、授業時間と課題作成に伴う授業外学修の量を考慮して 1～2 単位の範囲で設定している。卒業研究の授業科目である「総合研究 1」「総合研究 2」「総合研究 3」「総合研究 4」は、学修成果をルーブリックによって評価し、その研究に関わる授業時間と学修量を考慮して、3 年次の「総合研究 1」と「総合研究 2」をそれぞれ 2 単位、4 年次の「総合研究 3」と「総合研究 4」をそれぞれ 4 単位に定めている。

なお、海外活動を伴う実習、演習、実験に関する科目等のグローバル PBL については、活動期間と学修時間に基づいて 2 単位としている。

（7） 主要授業科目として設定する考え方

本課程では、学位を取得させるにあたり、システム理工学部の 3 ポリシーに基づき、ディプロマ・ポリシーを細分化した学修・教育到達目標を設定している。この学修・教育到達目標を達成すべき能力を育成するために必要な科目群を主要授業科目としている。主要授業科目は、原則として本学基幹教員が担当する。主要授業科目は、次の条件で設定する。

（ア） 本学基幹教員が 1 名で担当する科目

（イ） 1 科目で複数クラスを開講する科目で、本学基幹教員が下記を実施する科目

- 大学 Web ページに掲載するシラバスを作成し、開講する複数クラスが同一のシラバスに基づいて実施されるよう、学期の始まる前に担当者間で共有する
- 最終成績の 60%以上を占める評価課題（群）、およびその採点基準を作成し、開講する複数クラスが同一の評価課題（群）、および採点基準を使用する
- 開講する複数クラスすべての最終成績分布を把握する
- 開講する複数クラスすべての授業評価・自己評価アンケート結果を把握する

（ウ） 1 科目 1 クラスを複数教員で担当する科目で、本学基幹教員が下記を実施する科目

- 大学 Web ページに掲げるシラバスを作成し、学期の始まる前に担当者間で共有する
- 最終成績の 60%以上を占める評価課題（群）、およびその採点基準を作成し、担当者間で共有する

・最終成績分布を把握し、担当者間で共有する
・授業評価・自己評価アンケート結果を把握し、担当者間で共有する

(エ) 総合研究

主要授業科目は、学修・教育到達目標の達成に強く関与する科目であることから、必修科目または選択必修科目に設定されている。ディプロマ・ポリシーから展開される学修・教育到達目標、学修・教育到達目標に対する主要授業科目の配置の詳細は、カリキュラム・ツリーに示す通りである。目標ごとに主要授業科目を配当することで、学修・教育到達目標、および関連するディプロマ・ポリシーが達成できるように設定している。

【資料３　カリキュラム・ツリー】

（８） 一年間の授業期間や各授業科目について

芝浦工業大学の一年間の授業期間は、「春学期」と「秋学期」の２セメスターで構成する。春学期授業期間（Spring term）は、「春１ターム（Spring Term 1)」を７週、「春２ターム（Spring Term 2)」を７週、計 14 週で構成する。秋学期授業期間（Fall Term）は、「秋１ターム（Fall Term 1)」を７週、「秋２ターム（Fall Term 2)」を７週、計 14 週で構成する。４月第１週は各種ガイダンス、７月最終週、８月第１週、１月最終週は、定期試験、追試験、再試験、補講等に充てる。

夏季休業期間を「ひまわりターム（HIMAWARI Term)」、春季休業期間を「さくらターム（SAKURA Term)」として、インターンシップやグローバル PBL（海外への派遣プログラムや海外からの受入プログラム）等の短期集中科目や海外短期留学等の短期で十分な教育効果の得られる授業の学修に充て、合計 35 週以上にわたるものである。

本課程の各授業科目は、「春学期」「秋学期」とも 14 週にわたる期間を単位として行うセメスター開講とする。また、数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（文部科学省）のリテラシーレベルと応用基礎レベルの認定のための基礎的知識を学修する科目の「AI 基礎」「データサイエンスリテラシー」は、短期で十分な教育効果が得られることから、７週のクォーター開講とする。

５　教育方法、履修指導方法及び卒業要件

（１） 授業内容に応じた授業の方法、学生数の設定、配当年次について

本課程では、4 章（5）項の履修順序の考え方に基づき、学生による主体的な学修の促進と学修成果の向上を目指し、講義科目、演習を含む講義科目、実験・実習科目、製図科目と、授業内容に適した授業方法を設定している。また、複数教員による授業や、ラーニングマネジメントシステム（LMS）やオンライン・メディア等の情報技術を活用した授業、およびティーチング・アシスタントを活用した授業等を取り入れることで、実質的な担当学生数が過度に多くならないよう工夫している。

全学部生が履修する学際科目の「システム工学 A、B（演習を含む講義科目・必修）」では、学生の主体的学修の促進と学修成果の向上を目指し、事前課題を提示した学生同士の教え合いを導入した反転授業と SDGs の目標に対する企画提案プロジェクトを学部全体で実施している。講義は、反転授業の形式で複数の教室に分けて実施する。プロジェクト演習の実施体制は、1 チーム 10 名程度のグループで構成する。各グループには、講義担当教員を含む複数の教員とティーチング・アシスタントを配置し、プロジェクトのマネジメントを行う。

専門科目の事例として、「生命科学実験（基礎・応用・発展）」「医工学エレクトロニクス演習」「機械設計製作演習」「スポーツ工学実験演習 1、2」等の実験・演習科目では、学生を 2～8 名程度で構成されるチームに分け、チームごとに実験や演習を行い、議論を通して主体的に活動ができるよう工夫している。また、専任教員とティーチング・アシスタントが直接、各チームに指導することにより、各チームの学修状況を個別に把握できるような体制としている。

なお、配当年次に関しては授業内容が基礎から応用へと円滑に接続することを考慮して教育の質を担保している。

（2） 卒業要件について

本課程の卒業要件は、基礎教養科目、学際科目、および修得できるスキルごとに設定されたモジュール（ある職能上で必要な知識と技術を修得するために必要な科目 12 単位以上のまとまり）制を導入した専門科目で構成され、規定のモジュール数、および単位数を取得した上で、計 124 単位以上を修得しなければならない。

【資料４　卒業要件表】

（3） 卒業研究への単位付与について

学生は、指導教員と相談して設定したテーマに沿いながら総合研究に取り組み、卒業論文を完成させ、最終報告を行うことが求められる。この過程において、情報収集、構想、計画、思考、実行、ディスカッション、プレゼンテーション等のさまざまな能力を身につけることを求められる。必要に合わせて、英語での専門書・論文の講読や、教員が遂行している産学官連携にも触れながら、研究と実社会との接点についても学ぶ。特にシステム理工学部では、所属する課程、コース外の研究室での総合研究の履修も推進しており、分野横断型の教育研究を促進する体制となっている。

本課程では、上記の学びの内容を質と量を勘案し、3 年次の「総合研究 1」「総合研究 2」に各 2 単位、4 年次の「総合研究 3」「総合研究 4」に各 4 単位を認定し、総合研究全体としては 12 単位を認定する。

（4） CAP 制について

通期 48 単位以下（半期 24 単位以下）とする CAP を設定し、1 科目当たりの予習と復習を含めた学習時間が確保されるようにしている。

（５） 副専攻における授業科目の履修について

システム理工学部では 1991 年の学部設立当初から、分野横断型の学びを推進している。本課程の学生は、自身のキャリアデザインに基づき、他課程・他コースの分野を副専攻として履修することができる。本履修は、副専攻モジュールとして卒業要件に含まれる。

（６） 他大学における授業科目の履修等について

学生が在籍中に、外国を含む他大学等において修得した単位は、担当委員会にて認められた場合、60 単位を超えない範囲で、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

（７） 履修モデル

本課程の「養成する人材像」に基づき、卒業要件を満たすための代表的な履修モデルを示す。

① 生命科学コースの科目による履修モデル

主専攻 4 モジュール（専門基礎モジュール、バイオサイエンステクニカルモジュール、ライフサイエンスモジュール、ヒューマンヘルスサイエンスモジュール、）＋副専攻モジュール（スポーツ工学モジュール）を履修するモデルである。生命科学技術を上記の分野以外に、スポーツ健康分野への社会実装に寄与できる人材を養成する。

② 医工学コースの科目による履修モデル

主専攻 4 モジュール（専門基礎モジュール、医工学モジュール、ものづくりモジュール、メディカルエンジニアリングモジュール）＋副専攻モジュール（IoT 基礎モジュール)を履修するモデルである。医療 IoT の社会実装に寄与できる人材を養成する。

③ スポーツ工学の科目による履修モデル

主専攻 4 モジュール（専門基礎モジュール、運動理論モジュール、エンジニアリングモジュール、データ計測・解析モジュール）＋副専攻モジュール（医工学モジュール）を履修するモデルである。スポーツ工学技術の社会実装に貢献できる人材を養成する。

履修モデルの詳細については、【資料５　履修モデル】に示す通りである。

（8） メディア授業と卒業要件の関係

本課程では、6 章で示すオンデマンド型とブレンド型の授業形式にて、メディア授業を実施する。これらの授業は、学生の主体的な学修の促進と学修成果の向上を目指すものである。特に、学際科目の「システム工学 A/B」は、複数の学問体系を横断し関連付けるシステム思考とシステム工学の知識・技能・方法を学修するもので、学部教育の主軸となる授業である。このことから、反転授業と演習を組み合わせることで、講義で学んだ知識を定着させる。これらの授業科目は、卒業要件の必修科目である。

（9）指導補助者について

学則第 11 条の 4（指導補助者）に基づき、授業の質的向上と学生へのきめ細やかな学修支援体制の構築を目的として、指導補助者（ティーチング・アシスタントおよびスチューデント・アシスタント）を授業に参画させる。指導補助者の活用にあたっては、以下のとおり、教員との責任関係、役割分担、指導体制を明確にし、教育効果の高い授業運営を実現している。

1. 教員と指導補助者の責任関係

指導補助者は、授業担当教員の明確な指示・監督のもとで業務を行い、教育補助に関する最終的な責任は教員が負う。指導補助者の業務内容は、教育補助に限定され、成績評価や教員の私的業務には一切関与しない。

2. 指導補助者の具体的な役割分担

授業形態や内容に応じて、以下のような業務を担う。
授業中の出席確認、資料配布、機器操作補助
学生からの質問対応、グループワークや演習の支援
実験・実習における安全管理補助、手順説明
オンライン授業における技術支援（チャット対応、ブレイクアウトルーム管理等）
授業前後の教員との打ち合わせや準備作業の補助
これらの業務内容は、授業開始前に教員と指導補助者の間で文書により確認され、役割の明確化を図っている。

3. 事前研修および継続的な指導体制

指導補助者は、採用前に「契約上の心得」「守秘義務」「教員との責任関係」「担当科目に関する内容的・技術的事項」等を含む事前研修を受講する。授業期間中も、教員との定期的なミーティングやフィードバックを通じて、業務の遂行状況を確認し、必要に応じて指導を行う。

4. 教育効果の確保

指導補助者の参画により、履修学生に対する個別対応が可能となり、学習支援の質が向上する。

6　多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合の具体的計画

学則第16条の3「授業の方法」では、以下の内容が明記されている。

1．授業は講義、演習、実験、実習もしくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2．本学学生は前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修することができる。

3．本学学生は第1項の授業を外国において履修することができる。また、前項の規定により多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修する場合についても同様とする。

この学則にもとづき、つぎのような講義、演習を実施している。

（1）　オンデマンド型

基礎教養科目の理数・情報科目「統計学基礎」「データサイエンスリテラシー」「AI基礎」では、学生が自らの必要性に合わせて主体的に学ぶことができるように、オンデマンド形式で開講し、LMS（学習管理システム： Learning Management System）を活用し、設問の設定と解答、課題提出等を行い、質疑応答、添削指導等を別途、教員にて行う方式で実施している。授業の概要は、以下の通りである。

（ア）　統計学基礎（1年前期開講・必修科目）

実験や観測、あるいはアンケート等によってさまざまなデータを取得することができるが、このようなデータから情報を抽出し、背景に潜む構造を理解する手法の一つが統計学である。このようなデータに対する解析手法は、ますます重要視され、さまざまな方向に発展している。本授業で扱う統計学の内容は、データを扱う手法として古くから用いられているものであり、基本的であるがゆえに、その理解は必要不可欠である。本授業では、統計学における基本的概念、分析手法を学ぶ。

（イ）　データサイエンスリテラシー（1年後期開講・必修科目）

工学系の多くの研究において、データを取り扱うことは必須といってもよい。また、現在もしくは今後の工学において、データサイエンスは切っても切れない関係にある。この授業の目的は、工学系の研究において、データサイエンスの基礎となる歴史や現在を知ることで、卒業研究に向けてリテラシーを身につけることである。7回の講義を通して、社会で起きている変化、社会で活用されているデータ、データ・AIの活用領域、データ・AI利活用のための

技術、データ・AI 利活用の現場、データ・AI 利活用の最新動向、データ・AI を扱う上での倫理と法規についての知識を身につけ、各回小テストを行い、獲得した知識の確認を行う。

（ウ） AI 基礎（2 年後期開講・必修科目）

近年の社会において、人工知能は無視できない存在となってきている。また、今後も人工知能が使われる分野は拡大していくことが予想される。この授業の目的は、社会で人工知能がどのように活用されているかを学ぶとともに、どのような社会課題を解決してきたかについて触れることで、今後の人工知能の活用法について知見を広めることを目的とする。7 回の講義の中で、AI の歴史、AI の応用分野、AI と社会、機械学習の帰途と展望、深層学習の基礎と展望、AI の構築と運用、AI を扱う上での倫理と法規、の 7 つの単元について、講義形式で知識を深め、レポートにて学修した知識の確認を行う。

（2） ブレンド型

学際科目「システム工学 A/B」では、学生の主体的学修の促進と学修成果の向上を目指し、講義と演習を組み合わせて学修する。講義は、反転授業形式で実施する。オンデマンド動画を視聴し、事前課題を解いた上で講義を受ける。講義では、事前課題で提示した内容に関連する重要なポイントを対面で解説し、その後に事前課題に対する学生同士の教え合いを行い、最後に課題を提出する。

本講義で学んだ知識を定着させるために、講義内の演習として、SDGs の目標に対する企画提案プロジェクトに、混成チームで取り組む。授業は、複数の教室に分けて実施、プロジェクト演習の実施体制は、1 チーム 10 名程度のグループで構成する。各グループには、講義担当教員を含む複数の教員とティーチング・アシスタントでプロジェクトのマネジメントを行う。また、プロジェクト演習の後方支援として、プロジェクト演習運営会議のファシリテーション、各種資料作成、進捗管理と演習の質保証を実施するプロジェクトマネジメントオフィスの教員を 1 名配置する。

授業運営には、デジタル・コミュニケーションツール（Microsoft Teams 等）を用い、チーム活動のプラットフォームとなるサイトを設定し、各種ドキュメントの管理、さらに講義課題やプロジェクトチームのシステム計画書の提出管理等を行う。授業の概要は、以下の通りである。

（ア） システム工学 A（システム計画方法論）（2 年前期開講・必修科目）

INCOSE（The International Council on Systems Engineering）の Systems Engineering Handbook によれば、システムとは、「定義された目的を成し遂げるため、相互に作用する要素を組み合わせたものである。これにはハードウェア、ソフトウェア、ファームウェア、人、情報、技術、設備、サービスおよび他の支援要素を含む」である。この授業は、講義と演習形式で実施され、シ

ステム計画をするにあたって実行される問題発見・定義から始まる問題解決のためのシステム思考のプロセスと手法を学ぶ。また、複数の課程・コースの学生が混成でプロジェクトチームを構成し、問題発見、要求分析、機能設計、評価、プロジェクト計画を行い、システム企画を立案し、プレゼンテーションと文章による報告を行う。本講義と演習により、学問体系を横断し、関連づけるシステム工学のプロセスを理解し、総合的な解決策を導出・評価できる能力を修得することが目標である。

（イ） システム工学 B（数理計画法）（2 年後期開講・必修科目）

1 つの専門分野の知識のみでは解決することができない現代社会の問題に対して、総合的解決策を提示するための体系的な計画手法と分析手法をツールの活用方法とともに学ぶ。具体的には、講義・演習形式にて、数理計画法（線形計画、スケジューリング、待ち行列）、意思決定法、確率的シミュレーションとその質保証のための V&V（Verification&Validation）を学修する。また、システム工学 A と同様に、複数の課程・コースの学生が混成で、ビジネスを題材としたプロジェクトチームを結成し、ビジネスの実現に向けた演習活動を行う。この講義・演習を通じて、計画立案、意思決定、分析、最適化のための定量的な意思決定を行う能力を修得することが目標である。

なお、学生の履修状況に応じて、上記科目以外にも対面授業の一部を同時かつ双方向形式のオンライン配信を併用する形で実施することがある。

7　企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

（1） 実習先の確保の状況

（ア） グローバル PBL（Global Project Based Learning）

本学部では、システム工学教育プログラムのシステム工学 A、システム工学 B や学科の専門科目である演習科目を発展させ、国内外の協定校と連携してグローバル PBL を実施している。

2024 年度に、実施した渡航型のグローバル PBL の協定校は、次の通りである。

渡航型	イタリア	ラクイラ大学
	ポーランド	ウッジ工科大学
	ポルトガル	リスボン新大学
		ミーニョ大学
	オーストリア	ウィーン工科大学
	タイ	キングモンクット工科大学トンブリ校
	ベトナム	ハノイ理工科大学
		ドンア大学
	インドネシア	スラバヤ工科大学
		バンドン工科大学
	マレーシア	サラワク大学
		マラ工科大学
		マレーシア・日本国際工科院
	台湾	義守大学
		明志科技大学

また本学部では、受入れ型の PBL も多数実施している。例えば、本学部と大学院システム理工学専攻で実施している受入れ型の多国籍・多分野型の産学官金連携グローバル PBL では、本学協定校のすべてを受入れ可能である。2024 年度は、以下の協定校から学生が参加しており、日本人学生を含めて総勢 90 名のグローバル PBL を実施した。

なお、本学協定大学は以下の Web ページに記載されている。

https://www.shibaura-it.ac.jp/global/summary/partner_univ_and_institutes.html

受入れ型	タイ	キングモンクット工科大学トンブリ校
		スラナリー工科大学
		タマサート大学
		泰日工業大学
		カセサート大学
	インドネシア	スラバヤ工科大学
	ベトナム	ハノイ理工科大学
	マレーシア	マレーシア国民大学
	ブラジル	ブラジル連邦大学 ABC
	ウズベキスタン	タシュケント情報技術大学

（イ） 海外語学研修

本学部では、英語教育の一環として、長期休暇（夏季、春季）を利用し、「海外英語研修」（4 週間、2 単位）および「海外短期英語研修」（2 週間、1 単位）を協定大学において実施している。米国、東南アジア、ヨーロッパの大学で開講される英語授業を受講する。英語教育を受けるだけではなく、現地の文化や生活環境に触れるプログラムやホームステイも組み入れている。これにより、英語力の向上に加え、異文化体験を通じて、国際的な感覚とコミュニケーション能力を養い、学生の人間性を涵養する。

現在実施している海外研修先と派遣人数を以下の表に示す。

	国・地域	研修先大学	派遣人数
海外英語研修	マレーシア	アジアパシフィック大学	15
	アメリカ	ローワン大学	5
	アメリカ	カリフォルニア大学アーバイン校	5
	アメリカ	カリフォルニア大学デイビス校	5
	アメリカ	ペンシルバニア大学	5
	アイルランド	ダブリンシティ大学	5

	国・地域	研修先大学	派遣人数
短期海外英語研修	インドネシア	スラバヤ工科大学	35
	マレーシア	マレーシア工科大学	20
	タイ	キングモンクット工科大学	10
	インド	インド工科大学マドラス校	5
	カナダ	オンタリオ工科大学	5
	アメリカ	カリフォルニア大学アーバイン校	15
	アメリカ	グアム大学	10
	アメリカ	ハワイ大学マノア校	5
	イギリス	シェフィールド大学	5
	フランス・ ドイツ	クレルモン工科大学 ボーフム応用化学大学	5

（ウ） 産学官金連携 PBL

本学部では、2005 年度からスタートした PBL 科目「システム工学演習 C」、および「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」を経て、産業界、地域、行政、金融機関等と連携して PBL の実践を進めてきた。

2024 年度までの 3 年間で、課題提供に協力していただいた自治体、産業界、金融機関は次の通りである。ものづくり企業から、観光、サービス、ベンチャー企業まで、広範囲の企業と連携している。

自治体	埼玉県	金融機関	埼玉りそな銀行
	さいたま市		東京東信用金庫
	那須町		さいしんコラボ産学官 (埼玉縣信用金庫)
	那須塩原市		
	墨田区		
	御殿場市		

企業	東芝エレベータ（株）	企業	（合）十色
	東日本旅客鉄道（株）		（有）エイケイシステム
	東武タワースカイツリー（株）		（株）NOAA
	スズキ（株）		（株）志結舎
	ソフトバンク（株）		（株）ファナティック
	（株）バンダイナムコエンターテインメント		（株）東あられ本舗
	京浜急行電鉄（株）		（株）藤一
	トキタ種苗（株）		大塚ファンド（株）
	応用技術（株）		アンザ（株）
	自然電力（株）		アルコット（株）
	（株）アルファコード		那須高原リゾート開発（株）
	インターステラテクノロジズ（株）		（株）どうぶつ王国
	OpenStreet（株）		藤和那須リゾート（株）
	（株）学研スタディエ		（株）プロープル
	Continental AG		（株）岩岳リゾート
	Hexagon manufacturing intelligence		（株）ONDO ホールディングス

（エ） インターンシップ

学生のキャリア形成支援に係る産学協働の取り組みの四つの類型のうち、タイプ３「汎用型能力・専門活用型インターンシップ」を対象としている。このことから、本学の就職・キャリア支援部と連携をとって本学の学生を積極的に採用している企業、および産学官金連携 PBL の課題提供先企業と連携することで、インターンシップの実習先を十分に確保している。

（２） 実習先との連携体制

グローバル PBL や海外語学研修では、実施先の海外大学等とプログラムを実施するに当たり、大学間で締結している包括協定、もしくは案件ごとに締結している個別の実施契約に基づき実施している。

産学官金連携 PBL やインターンシップでは、連携協定をベースにしたものと民間企業等との恒常的な協力関係に基づき実施している。

地域連携	埼玉県と芝浦工業大学との相互協力・連携に関する協定
	さいたま市と芝浦工業大学とのイノベーションに関する連携協定
	さいたま市と SDGs 連携協定
	那須町と芝浦工業大学との観光活性化に関する連携協定

金融機関連携	埼玉縣信用金庫との産学連携協力に関する協定
	東京東信用金庫との産学連携協力に関する協定

本学部では、協定先との緊密な連携体制を構築し、学生派遣、プロジェクト活動を通じた課題解決、インターンシップによる実習を円滑に行うための支援体制を整えている。派遣先との定期的な情報交換を通して、学生が安心して研修が受けられる環境の構築や、海外派遣においては、協定校とのサポート体制構築だけでなく、危機管理サービス（海外旅行保険を含む）を構築し、安全面や生活面でのサポートを強固なものにしている。

なお、実施状況や成果についても、検証と妥当性確認を継続的に実施することで、各種プログラムの改善に努めている。

（3） 成績評価体制及び単位認定方法

成績評価体制及び単位認定方法については、グローバル PBL や産学官金連携 PBL では、各プログラムのルーブリックに基づく評価（発表内容、事前事後の自己評価、プロジェクトメンバーによる相互評価を含む）による。海外語学研修では、研修先で発行される成績書・修了証と事前事後学習による評価による。また、インターンシップでは、研修から得られる振り返り報告書と実習の取り組み状況を示す日誌に基づく評価により、本学の教員がシラバスに示した評価方法と規準に従って成績評価を行い、単位を認定する。

（4） その他特記事項

特になし

8 取得可能な資格

・中学校・高等学校教諭一種免許状（理科）

ア 国家資格

イ 資格取得可能

ウ 免許状取得に必要な教職課程の単位を取得して卒業することにより資格を得られる。

・高等学校教諭一種免許状（工業）

ア 国家資格

イ 資格取得可能

ウ 免許状取得に必要な教職課程の単位を取得して卒業することにより資格を得られる。

・CAPM

ア 民間資格

イ 受験資格取得可能

ウ プロジェクトマネジメント関連科目を 23 時間以上受講することにより、 受験資格を得られる。

9　入学者選抜の概要

（1） 選抜方法

システム理工学部「アドミッション・ポリシー」

「本学部への入学を志望する者は、本学の建学の精神と大学が求める人物像に加え 、以下に挙げる「システム理工学部が求める人物像」、および教育方針、課程のカリキュラム、教育・研究の内容をよく理解して出願することを求めます。

＜システム理工学部が求める人物像＞

① 身の回りのさまざまなひと・もの・ことの仕組みや成り立ちについて深く考え、課題を解決することに興味や関心を持つ者。

② 総合的、学際的に課題を解決することで、新たな価値を創生し、社会に貢献する意志を持つ者。

③ 他分野の学生とチームを形成し課題に取り組む等、システム理工学部における分野の枠を超えたプロジェクト演習に興味をもち、主体的かつ積極的に行動することに強い意欲を持つ者。」

上記したシステム理工学部のアドミッション・ポリシーに基づき、本課程のアドミッション・ポリシー【1 章（4）3 つのポリシー】を定め、求める人物像、および能力について明示した。それらの各項について、公正かつ妥当な方法によって入学志願者の能力等を適切に評価し、判定できるように、①一般入学者選抜、②総合型選抜、③学校推薦型入学者選抜を 3 つの柱とし、選抜を行う。

以下、各選抜方式について説明する。

① 一般入学者選抜

一般入学者選抜では、入学試験として「前期日程（A 方式、B 方式）、全学統一

日程（A 方式、B 方式）、後期日程」「大学入学共通テスト利用方式（前期・後期）」を設ける。

（ア） 前期日程（A 方式）、全学統一日程（A 方式）、後期日程

本学独自試験として、2 月初旬（前期日程・全学統一日程【それぞれ A 方式】）、2 月下旬（後期日程）を行う。前期日程、全学統一日程、後期日程ともに 3 教科（数学、理科、英語）で評価・判定することとするが、英語については大学入学共通テスト、もしくは実用英語技能検定（英検）の CSE スコアを用いる。数学、理科については、本学の独自問題を用いる。

（イ） 前期日程（B 方式）、全学統一日程（B 方式）

上記（ア）前期日程（A 方式）、全学統一日程（A 方式）と同一日程で行う。本学が指定する英語資格・検定試験のスコアが基準値以上であることを出願要件とし、試験科目として数学・理科の 2 科目により評価・判定を行う。数学、理科については、本学の独自問題を用いる。

（ウ） 大学入学共通テスト利用方式（前期、後期）

大学入学共通テストの得点を利用し、多科目による幅広い知識で評価・判定する。具体的には、3 教科（数学、外国語、理科）、もしくは 6 教科（数学、外国語、国語、情報、理科、地理歴史・公民）により評価・判定する。

② 総合型選抜

総合型選抜では、書類審査と時間をかけた丁寧な面接等を組み合わせることにより、入学志願者の能力等を総合的に評価・判定する。入学試験として、「システム理工学部総合型選抜」「理工系女子特別入学者選抜」「駅伝プロジェクト入学者選抜」を設ける。

（ア） システム理工学部総合型選抜

一定の基礎学力があり、スポーツ・文化等の課外活動に関する実績をもつ者を対象とした入学者選抜を実施する。具体的には、数学・理科・英語科目の履修を前提として、上記の活動実績を含む調査書の内容、小論文や面接（口頭試問含む）、プレゼンテーションなどを行い、志願者の能力等を総合的に判断する。

（イ） 理工系女子特別入学者選抜

ダイバーシティ推進や社会的ニーズに応えるため、理工学分野に強い関心と意欲をもつ女子生徒を対象とした入学者選抜を実施する。一定の基礎学力があり、入学後のプランや将来のビジョンが明確で、かつ論理的思考力やコミュニケーション力のある者を総合的に評価し選抜する。具体的には、数学、および理科に関する基礎学力の調査や調査書の内容、面接、英語資格・検定試験の成績により総合的に評価・判定する。

（ウ） 駅伝プロジェクト入学者選抜

一定の基礎学力があり、生命科学分野（生命科学・医工学・スポーツ工学領域）に興味を持つ、陸上競技の実績のある者を対象とした入学者選抜を実施する。具体的には、調査書の内容や小論文、面接、英語資格・検定試験の成績により総合的に評価・判定する。

③ 学校推薦型選抜

学校推薦型選抜では、出身高等学校長の推薦に基づき、調査書を主な資料としつつ、面接や英語資格・検定試験の成績により総合的に評価・判定する。入学試験として、「指定校推薦入学者選抜」「在外教育施設指定校推薦入学者選抜」「併設校推薦入学者選抜」「協定校推薦入学者選抜」「協定女子校推薦入学者選抜」を設ける。

（ア） 指定校推薦入学者選抜、在外教育施設指定校推薦入学者選抜

指定校在籍者を対象とし、大学教育を受けるために必要な基礎学力があり、入学後のプランや将来のビジョンが明確で、かつ論理的思考力やコミュニケーション力のある者を総合的に評価・判定する。具体的には、調査書の内容や面接、口頭試問、英語資格・検定試験の成績により総合的に評価・判定する。

（イ） 併設校推薦入学者選抜

併設校在籍者を対象とし、大学教育を受けるために必要な基礎学力があり、入学後のプランや将来のビジョンが明確で、かつ論理的思考力やコミュニケーション力のある者を総合的に評価・判定する。具体的には、調査書の内容や面接、口頭試問、英語資格・検定試験の成績により総合的に評価・判定する。

（ウ） 協定校推薦入学者選抜、協定女子校推薦入学者選抜

協定校在籍者を対象とし、大学教育を受けるために必要な基礎学力があり、入学後のプランや将来のビジョンが明確で、かつ論理的思考力やコミュニケーション力のある者を総合的に評価・判定する。具体的には、調査書の内容や面接、口頭試問、英語資格・検定試験の成績により総合的に評価・判定する。

④ その他

多様な背景を持った者を対象とする入学試験として、「帰国生徒特別入学者選抜」「外国人特別入学者選抜」「日本語学校指定校推薦入学者選抜」「国際バカロレア特別入学者選抜」「学士入学者選抜」「編入学者選抜」を設ける。

（２） 各選抜区分の募集人員について

本課程の入学定員は 180 名とする。各選抜区分による募集人員の割合は、おおむね一般選抜約 65%、総合型選抜約 10%、学校推薦型選抜約 25%を目安とする。

（３） 正規学生以外の受入について

科目等履修生、研究生等、正規の学生以外の者は、本学学則に沿って若干名受け入れることがある。

１０ 教育研究実施組織等の編成の考え方及び特色

（１） 教育研究実施組織の編成の考え方及び特色

各課程の教育プログラムを担当する教員を割り当てるに際しては、各課程で「養成する人材像」や「3 つのポリシー」等を踏まえ、各課程の専門教育を体系的に実施していくために十分な教員を配置している。個々の科目の担当教員については、各科目の関連分野において十分な専門知識、および研究業績を持つ基幹教員を中心に配置している。特に、カリキュラムの中核となる科目には、必ず基幹教員（教授または准教授）を配置している。基幹教員の年齢構成は、年齢バランスに配慮し、教育研究の水準の維持向上に支障がない構成としている。具体的な年齢構成は別記様式第 3 号（その 3）に示すとおりである。なお、本学基幹教員の定年は 65 歳である。

【資料６ 定年延長に関する規程】

（２） 各課程において中心となる研究分野と研究体制

本課程において中心となる研究分野は、分子生物学、創薬化学、食品栄養学、微生物学等の生命科学分野、バイオエレクトロニクス、バイオマテリアル、バイオエンジニアリング、生活支援ロボット工学等の医工学分野、バイオメカニクス、運動生理学、映像工学、生体信号解析等のスポーツ工学分野が挙げられる。

なお、課程制導入後は分野横断をさらに推進し、研究室間の交流を強化しながら、横断領域の発展に寄与できる研究体制を構築していく。なお、課程制導入後は分野横断をさらに推進し、研究室間の交流を強化し、横断領域の発展に寄与できる研究体制を構築していく。

（３） 教員及び事務職員等の協働や組織的な連携体制

本学では、教職協働を重視した組織運営を行っている。学長のもと、教員と職員が協力して大学改革を推進しており、その取り組みは 2000 年代後半から本格化した。大学の重要な意思決定機関である「学部長・研究科長会議」や「学長室会議」には、教員だけでなく、事務部門の代表者も参加し、意見を述べる機会が設けられている。これにより、大学全体の視点を踏まえた議論が可能となっている。情報共有においても、教職協

働の姿勢が貫かれている。全学で収集した情報は、教員と職員が参加する会議体で共有され、そこから各部門の会議体へと徹底して伝達される。また、FD・SD という研修を定期的に実施し、教員と職員が共に高等教育政策の動向等を学ぶ機会を設けている。近年では、学生も含めた「教職学協働」へと発展しており、大学改革のアイデア出しや学修成果の可視化ツール開発等において、学生の視点を積極的に取り入れている。この教職協働の取り組みにより、外部競争的資金の獲得や大学改革の推進がスピーディーに行われるようになり、大学の発展に大きく寄与している。

１１　研究の実施についての考え方、体制、取り組み

（1）　研究の実施についての考え方、実施体制、環境整備等

本学では、国際共同研究による世界的な研究拠点の形成と、地域自治体・中小企業との共同研究を通じた社会貢献の両立を目指し、「知と地の創造拠点」としての研究ビジョンを掲げている。この実現に向け、産学連携の推進、研究環境の整備、研究成果の拡大を重点方策とし、教育研究を支える組織として「SIT 総合研究所」「複合領域産学官民連携推進本部」、および事務組織「研究推進室」を設置している。「SIT 総合研究所」は、本学の研究を強化・支援し、社会に貢献する人材育成とイノベーション創出を促進することを目的として設置された機関であり、本学独自の研究テーマを扱う 8 つの研究センターを有している。一方、「複合領域産学官民連携推進本部」では、産学官連携を推進するため、「連携研究・人材育成部門」「知的財産管理活用部門」「地域共創センター部門」を設け、共同研究の促進、知的財産の管理活用、地域連携による人材育成事業（旧 COC 事業）を推進している。また、学長を議長とし、SIT 総合研究所長、学部長、研究科長等で構成される研究戦略会議を設置し、大学の研究基盤維持・強化に必要な体制・研究環境・資金の検討と実行を行っている。特に、学部の教育研究予算とは別に、毎年、一定基準の特別研究予算を設け、SIT 総合研究所長と研究推進室が原案を策定し、研究戦略会議で審議・決定している。例えば、研究力向上を目的とした S-SPIRE 事業（SIT Supporting Program for Innovative Research）では、有望な研究プロジェクトに複数年の研究予算を配分し、URA による支援を行うことで、大型研究予算の獲得や本学ブランドの確立につなげている。さらに、先端的かつ高額な研究機器を大学が購入し、学内で共用する「共通機器センター」では、機器利用を通じた教員間の交流と新たな協創の創出を期待している。加えて、研究費の適正管理や研究倫理の徹底を図るため、文部科学省のガイドラインに基づくコンプライアンス体制を構築し、安全保障貿易管理の強化にも対応している。研究推進室が迅速かつ適切に判断・対処することで、優秀な留学生や外国人研究者の受け入れを円滑にし、自由な発想に基づく研究活動が安全に遂行できる環境を整えている。

（2）　研究活動をサポートする技術職員や URA の配置状況、役割、責任等

研究活動をサポートする人材として、URA、産学連携コーディネーター8 名を配置している（その内、認定 URA 制度の有資格者 1 名）。主な業務の内容は、外部資金の獲得や研究チームの編成、研究プロジェクトの企画立案や外部資金獲得後のプロジェクト進捗管理、成果の発信支援等、さらには、地域、自治体との連携に関する支援や産学協創のコーディネートまで幅広く支援を行っている。いずれも有期の雇用であるが、当該組織には専任職員の長がおり、その責任の下、業務を遂行している。共通機器センターには、SIT 総合研究所教員の下、機器を保守、管理する技術派遣職員 2 名を配置している。

１２　施設、設備等の整備計画

（1）　校地、運動場の整備計画

本学は大宮キャンパス（埼玉県さいたま市見沼区深作 307）と豊洲キャンパス（東京都江東区豊洲 3-7-5）を有している。システム理工学部の学生は、1 年次から 4 年次まで、大宮キャンパスで学ぶ。大宮キャンパスは、約 17 万㎡の敷地を有し、グリーンキャンパスの愛称で親しまれる緑豊かなキャンパスである。敷地内には、広場や休憩スペースも多く設けられ、開放感溢れるキャンパスとなっている。運動場についても、総合グラウンド、多目的コート、バレーコート、テニスコート、弓道場、アーチェリーコート等の複数設備をキャンパス内に有している。

（2）　校舎等施設の整備計画

大宮キャンパスには、敷地内に、齋藤記念館、大学会館、2 号館～6 号館等、複数の校舎を配置している。各校舎には、多種多様な大きさの教室、実験・実習室、PC 講義室、PC 実習室等を設けている。さらに、全学共用の教育研究設備として、共通機器センターやものづくりセンターも設置している。各センターには、最先端機器から汎用機器に至るまで、多種多様な機器を備え、研究に取り組む学生、および教職員に提供している。令和 7 年 12 月には、システム理工学部が主に活用する新たな建物が完成予定であり、収容定員増への対応や教育研究の質向上が期待されている。

なお、本課程の教育課程を運営していくために本学が十分な教育施設・設備を有していることについては、時間割の作成等を通じてシミュレーションを行い確認している。

【資料 7　時間割】

（3）　図書館等の資料及び図書館の整備計画

① 図書の整備計画等について

課程制開設年度の図書数は、大宮キャンパスで約 9.5 万冊であり、今後も充実を図っていく予定である。

② デジタルデータベース・電子ジャーナルの整備計画について

デジタルデータベース、および電子ジャーナルの需要は、年ごとに高まっており、大宮キャンパス内、および自宅（学内ネットワーク経由）から 24 時間利用できるよう、利用条件等の基盤整備を推進している。導入した電子資料をより有効に活用するため、さまざまな電子媒体を同一のインタフェースで検索できるディスカバリーサービス「SIT Search」の利便性を向上させている。また、これまで紙媒体で契約してきた雑誌や学会誌等も媒体変更を進め、デジタル技術を活用した電子図書館の構築を推進している。

③ 図書館における教育研究促進のための機能について

大宮図書館の延床面積は 2779.04 ㎡であり、収容能力冊数約 10 万冊、座席数 434 席となっている。PC2 台を設置したエリア、個室 30 部屋、グループ学習 10 部屋、ゼミナール室 1 部屋を備えている。資料利用促進のため、資料別や授業対応等、多様なガイダンスを実施するとともに、関連した動画や案内を作成し、図書館ホームページ等で公開し、支援を進めている。図書館での貸出しは、一人 30 冊まで可能である。また、他大学所蔵資料利用の利便性を高めるため、ILL（図書館間相互貸借システム）を無料化し、研究への支援を行っている。

④ 他大学図書館等との協力について

首都圏理工系大学の相互協力組織「私工大懇話会」、および協定大学である東京海洋大学との相互利用連携を行っている。

１３　管理運営

（1）　教学面における管理運営体制について

本学学則に基づき、システム理工学部教授会を設置し、学部長及び専任の教授、准教授、講師、および助教をその構成員とする。教授会は、会員の選挙によって正・副議長を選出する。教授会は原則として年 4 回定期的に開催するほか、学長又は学部長が必要と認めたとき、および会員の 3 分の 1 以上の申出があったとき臨時に開催する。また、会員の過半数の出席により成立し、出席会員の過半数により教授会における意思を決する。本学では、学長が校務における決定権を有し、最終的な責任を負う。システム理工学部教授会は学長が次に掲げる事項について決定を行うにあたり、意見を述べるものとする。

① 学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項
② 学位の授与に関する事項
③ 教育及び研究組織に関する事項
④ 課程、学科目及び授業に関する事項

⑤ 教員の研究育成及び留学に関する事項
⑥ 教育研究予算の配分の方針に関する事項
⑦ 教員の任用に関する事項
⑧ 学生の指導育成に関する事項
⑨ 学生の賞罰に関する事項
⑩ 教員の資格審査に関する事項
⑪ 学則に関する事項
⑫ その他学長から意見を求められた事項

また、システム理工学部教授会は上記の事項のほか、学長および部長その他の教授会等が置かれる組織の長がつかさどる次の事項について審議し、学長等の求めに応じて意見を述べることができる。

① 教授会の運営に関する事項
② 図書、設備及び施設に関する事項
③ 学生の試験、進級、転科、転課程・コース、転部に関する事項
④ 授業日数及び休業に関する事項
⑤ 学生団体及び学生活動並びに学生生活に関する事項
⑥ 学部規則に関する事項
⑦ その他学長等から意見を求められた事項

（2） 教授会以外に関連する委員会の役割について

システム理工学部教授会では下記の委員会を設け、当該委員会に上記の事項の検討等を付託する。各委員会は、教授会から付託された事項を審議し、その結果を教授会に報告する。また、必要に応じ、教授会に議題を提案することができる。

各委員会の審議事項は下記の通り。

① 教務委員会
教育課程及び授業に関する事項、学外単位等認定に関する事項、転部転科転課程・コースの可否の審査等に関する事項、学生の表彰、単位認定に関わる不正行為に関する事項及びその他教務に関する事項

② 入試委員会
入試（学士入学、編入学、外国人特別入学を含む）の方針、合否の審査等に関する事項及びその他入試に関する事項

③ 教員資格審査委員会
教員の昇格審査並びに資格の再審査に関する事項及びその他教員資格審査に関する事項

④ FD 委員会
教員の教育能力向上に関する事項、授業内容の改善に関する事項、授業技法の改

善に関する事項及びその他 FD 活動に関する事項

⑤ 共通科目委員会

共通科目及びこれに関連する諸事項の企画・運営に関する事項

（3） 事務組織体制、学生の厚生補導のための組織について

事務組織体制については、大宮学事・学生課学生課、キャリアサポート課、情報イノベーション推進課等、学生教員向けの業務を担う部署を設置している。国際部、研究支援部等も必要に応じて窓口を設けている。また、学生の福利厚生等に関する事項を議論・審議する組織として学生センターを設置している。

学生センターは、各学部の教員と学生関係の職員で構成され、以下に示すことにつき議論、審議を行う。

・学生の助育、およびそれに係る企画・調査に関すること
・学生の自治、および課外活動に関すること
・学生生活全般に係る相談、助言、および指導に関すること
・学生の奨学金に関すること
・学生の厚生施設の使用、管理、および運営に関すること
・学生の表彰、および懲戒に関すること（単位認定に関わる不正行為に関することは除く）
・外国人留学生、および帰国子女学生に関すること
・学生の安全管理、および事故対策に関すること
・各学部間の学生にかかわる連絡、および調整に関すること
・学長、学部長、および大宮校舎キャンパス長の諮問に関すること
・ボランティアに関すること
・その他学生の福利厚生に関すること

１４ 自己点検・評価

（1） 実施方法・実施体制

本学では「学校法人芝浦工業大学評価委員会」のもと「大学点検・評価分科会」「経営点検・評価分科会」「SIT 総合研究所点検評価委員会」「中学・高等学校点検・評価分科会」を設置し自己点検・評価を行っている。

「学校法人芝浦工業大学評価委員会」では、理事長を委員長とし、以下の事項を担当し、審議する。

① 点検・評価に関する方針、実施基準の策定
② 点検・評価に関する報告書の作成
③ 点検・評価に関する結果の公表
④ 点検・評価結果の分析、教育研究等の改善計画の審議と執行部への提言

⑤ 認証評価受審に伴う決定および対応

⑥ その他、点検・評価に関する事項

「大学点検・評価分科会」「経営点検・評価分科会」「SIT 総合研究所点検評価委員会」「中学・高等学校点検・評価分科会」では、以下の事項を担当し、審議する。

① 評価項目の設定

② 評価実施の企画、立案および実施要領の作成

③ 作業分科会の設置

④ 評価結果の分析

⑤ 評価結果の評価委員会への報告

（2） 点検項目

2023 年度の評価項目は以下のとおりである。

① 理念・目的

② 内部質保証

③ 教育研究組織

④ 教育課程・学習成果

⑤ 学生の受け入れ

⑥ 教員・教員組織

⑦ 学生支援

⑧ 教育研究等環境

⑨ 社会連携・社会貢献

⑩ 大学運営・財務

⑪ 文部科学省・内閣府採択事業

⑫ 産学連携活動

⑬ SDGs への挑戦

⑭ 研究活動と研究体制の整備

⑮ 教職課程

（3） 第三者評価について

自己点検・評価活動の客観性・公平性を担保するため、「学校法人芝浦工業大学評価委員会」に外部委員を含めるとともに、学外有識者による「大学外部評価委員会」「法人運営外部評価委員会」を設置し、その意見を自己点検・評価活動に反映させている。「大学外部評価委員会」は「大学点検・評価分科会」が行う自己点検・評価活動に関する評価を、「法人運営外部評価委員会」は「経営点検・評価分科会」が行う自己点検・評価活動に関する評価を行う。

（4） 公表・活用

「自己点検・評価報告書」および「大学外部評価委員会総括」を本学 Web ページ（https://www.shibaura-it.ac.jp/about/education/evaluation/inspection.html）にて公表している。また、各学部・学科・課程においても毎年度自己点検を実施し、「点検・評価報告書」を同ページで公表している。

１５ 情報の公表

本学は、学校法人としての公共性に鑑み、社会に対する社会的説明責任を果たすために、教育・研究・社会貢献活動等の状況について情報の公表を行っている。本学ウェブサイトの「教育・研究情報」のページ（https://www.shibaura-it.ac.jp/about/info/）において、以下の 10 項目を含む情報開示を行っている。

㋐ 大学の教育研究上の目的、および 3 つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）に関すること
㋑ 教育研究上の基本組織に関すること
㋒ 教育研究実施組織、教員の数並びに各教員が有する学位、および業績に関すること
㋓ 入学者に関する受入れ方針、および入学者の数、収容定員、および在学する学生の数、卒業、または修了した者の数、並びに進学者数、および就職者数、その他進学、および就職等の状況に関すること
㋔ 授業科目、授業の方法、および内容、並びに年間の授業の計画に関すること
㋕ 学修の成果に係る評価、および卒業、または修了の認定に当たっての基準に関すること
㋖ 校地・校舎等の施設、および設備その他の学生の教育研究環境に関すること
㋗ 授業料、入学料、その他の大学が徴収する費用に関すること
㋘ 大学が行う学生の修学、進路選択、および心身の健康等に係る支援に関すること
㋙ その他（教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識、および能力に関する情報、学則等各種規程、設置認可申請書、設置届出書、設置計画履行状況等報告書、自己点検・評価報告書、認証評価の結果、大学院設置基準第 14 条の 2 第 2 項に規定する学位論文に係る評価に当たっての基準等）

１６ 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

全学的な教育改革・改善活動を推進する教育イノベーション推進センター※を中心とし、教育システムの検証と分析、開発、教育改革に関する提案等の活動を行っている。教育イノベーション推進センターには、IR 部門、カリキュラムマネジメント部門、FD・SD 推進部門、先進教育部門、教職支援室、データサイエンス部門、全学開講・学科間開講検討部門等の部門を設置

し、教育についての授業レベル、カリキュラムレベル、制度設計レベル等、各段階での改善に取り組んでいる。近年では、新任教職員を対象とした新任研修の企画・実施も強化しており、教育・研究における有効なAV機器等の利用方法等を学ぶ「新任教職員研修」や入職3年目までの教職員を対象に、授業デザインやシラバスの書き方等を学ぶ「FD・SD フォローアップ研修」等を実施している。また、教員や職員のみの視点ではなく、実際教育を受ける学生からの視点・観点も入れるための取り組みとして、研修を受けた学生が、教員の要望により学生目線で授業観察等を行い、授業改善の支援をするSCOT（Students Consulting on Teaching）プログラムの運営等も行っている。さらに、教育イノベーション推進センターは、2016年度に文部科学大臣より「理工学共同利用拠点」（大学の教職員の組織的な研修等の実施機関）の認定を受けており、「ティーチングポートフォリオ作成」「詳細シラバスの書き方」「授業デザイン」「学生主体の授業運営方法」等のワークショップをはじめ、年間30余りの研修を提供している。
【※教育イノベーション推進センター　http://edudvp.shibaura-it.ac.jp/】

１７　社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

（1）　教育課程内の取り組みについて

システム理工学部は、1991 年の学部開設以来、複数の学問体系を横断し関連付けるシステム思考とシステム工学の知識と手法を生かし、新たな時代の要請に応え、地域と人類社会の発展に寄与する教育研究を行ってきた。本学部改組の目的は、「分野横断型教育の強化」「学修者の主体性を発揮させる教育カリキュラムの構築」「特定成長分野（デジタル･Well-being･グリーン）への転換等に貢献できる人材育成の促進」である。これらを推進、実現するために、学修者が主体的に自分と社会をつなぐ学修計画を立て、複数の専門分野を横断的につなぐ知識・技能・方法、そして心構えを身につけ、社会の変化に合わせて諸課題と積極的に向き合える力を培う「学際科目」を学部共通の科目として配当する。主体的に学ぶ動機と目的を理解した上で、自身の専門分野に関する基礎力を修得し、その応用力の学修へと進む履修順序を方針として学修カリキュラムを構築している。また、主専攻モジュール（モジュール：ある職能上で必要な知識と技術を修得するために必要な科目12単位以上のまとまり）に副専攻モジュールを加えることで、分野横断的な学修を促進できるようにしている。これらにより教育課程を通じて、社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う。

（2）　教育課程外の取り組みについて

大学全体として取り組んでいる就職・キャリア支援体制について以下に概要を述べる。

①　Web就職支援システムの導入

「CAST」（Career Station、以下、CAST）という学生の就職活動を支援するためのポータルサイトを導入している。求人情報検索のほか、以下の機能を備えている。

㋐ 企業情報（卒業生の内定状況、過去の求人状況等）の閲覧
㋑ 卒業生・先輩の進路情報の閲覧
㋒ 卒業生が作成した「入社試験活動報告書」の閲覧
㋓ 企業による説明会・セミナー情報の閲覧
㋔ インターンシップ求人の閲覧
㋕ 「卒業生サポーター」（本学卒業生）へのアプローチ機能
㋖ e-ラーニングシステムを利用した「SPI 対策講座」「TOEIC 対策講座」の受講
㋗ キャリアカウンセラーや元企業採用担当者・公務員の OB/OG 等による進路相談予約

② キャリアカウンセラー・OB/OG・職員による包括的な進路相談活動の実施

学生が 4 年間の学びの中で感じる、進路に関するさまざまな悩みに関して、以下のようなきめ細かい相談体制を敷き、それに応えている。

㋐ キャリアサポート課職員による全般的な進路相談の実施
㋑ キャリアカウンセラーによる就職活動支援
㋒ 元採用担当 OB/OG による民間企業就職活動支援
㋓ 元公務員 OB/OG による公務員就職活動支援
㋔ 元教育委員会経験者による教員採用試験支援

③ 各種キャリアガイダンス・セミナーの開催

学生の就業意識を高めるとともに、内定を得るためのスキルを身に付ける各種ガイダンス・セミナーを本格的な就職活動開始前に順次開催している（「理工系人材のための進路説明」「インターンシップガイダンス」「入社試験対策講座」「業界研究ガイダンス」「職種研究ガイダンス」等）。

④ 学内企業説明会の実施

毎年、就職活動がスタートすると同時に、新 4 年生を対象とした学内合同企業説明会を実施している。日本を代表するリーディングカンパニーを大学に招き、本学学生のみを対象とした企業説明を行っている。参加企業は毎年総勢約 300 以上にのぼる。

⑤ 卒業生サポーター制度の導入

在学生と卒業生との活発な交流を図ることを目的に、「卒業生サポーター制度」を導入している。学生は CAST を通じて卒業生サポーターに直接質問・相談を行うことができる。回答は卒業生が電子メールで返信する。

（3） 適切な体制の整備

教職協働組織であるキャリアサポートセンターは、関連事務を担う就職・キャリア支援部とキャリアセンター員によって組織されている。就職・キャリア支援部は、事務職員で構成され、年間約 5,000 件に及ぶ学生相談への対応、約 5,000 社に及ぶ求人の整理と公開、30 回を超える「就職支援講座」と学内合同説明会の企画・運営、および全学で約 2,800 名の当該年度卒業生の進路把握と情報を集約した資料の作成等を行っている。キャリアセンター員は、各学部を代表する 7 名の教員により構成され、就職・キャリア支援部が実施する各種学生支援に対する助言・承認や、各課程の教員との調整を担い、教職員がスムーズに連携できる体制を整える。このように本学では全学を挙げて就職・キャリア支援体制を整備している。

設置等の趣旨

《資料目次》

資料１　養成する人材像と３つのポリシー　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
資料２　養成する人材像と３つのポリシー関係図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
資料３　カリキュラム・ツリー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
資料４　卒業要件表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
資料５　履修モデル・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
資料６　定年延長に関する規程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
資料７　時間割・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24

養成する人材像

■システム理工学部

持続可能な社会の実現に貢献するために、科学技術が社会や自然に及ぼす利点と欠点を見据えて、ひと・もの・ことが関係する現象をシステムと捉え（システム思考）、総合的、学際的に問題解決できる知識やスキルを修得し、世界に貢献する職業人としての倫理観をもつグローバル理工系人材を養成する。

■生命科学課程

【生命科学課程】

生命科学や工学に関する職業倫理を身につけ、生命の複雑なシステム、生命現象、および個々の生命機能を理解し、ヒトの発達や加齢を科学的に洞察し、システム思考に基づく創造的な発想から人の健康に関する諸問題を解決できる人材を養成する。

【生命科学コース】

多様性を尊重し、生命の仕組みの理解に必要な生命科学の知識と思考力を身につけ、健康寿命の延伸に貢献できる人材を養成する。

【医工学コース】

医工学の幅広い専門知識・技術・論理的思考力を身につけ、生体機能を診断・治療・補助する医療・福祉技術の発展に貢献できる人材を養成する。

【スポーツ工学コース】

スポーツ工学の幅広い専門知識・技術・論理的思考力を身につけ、運動機能の発展・拡張を通して、人々の QOL(Quality of Life)向上に貢献できる人材を養成する。

教育研究上の目的

■システム理工学部

地球規模で複雑化、多様化する現代社会において、諸問題を総合的、学際的に解決できる力が必要とされている。 システム理工学部は、複数の学問体系を横断し関連付けるシステム思考とシステム工学の知識と手法を生かし、新たな時代の要請に応え、地域と人類社会の発展に寄与する教育研究を行う。幅広い教養と国際性を礎にした分野横断型の教育を通して、体系的な理工学の知識や自ら行動し多様な人々と共創できる能力を身につけたグローバル理工系人材を養成することを目的とする。

■生命科学課程

【生命科学課程】

生命科学や工学に関する専門知識・技術、研究倫理観を修得させ、システム思考とシステム工学の知識と手法を活用し、すべての人が健康な生活を享受できる社会の実現に貢献できる人材を養成する。研究においては、分子や遺伝子レベルから細胞、個体に至るまで、さまざまな観点から発達や加齢といった生命現象の機序を解明する研究をはじめとし、医療や人々の生活を支援する科学技術の開発を通して、健康寿命の延伸と人々の QOL 向上に貢献することを目的とする。

【生命科学コース】

生命科学に関する基礎的知識や生命科学分野における発展的専門知識・技術を修得させ、ヒトと自然環境が調和した持続可能で豊かな社会の実現に貢献できる人材を養成する。研究においては、生命現象の解明や健康寿命の延伸に寄与する研究を通して、人々の QOL 向上に貢献することを目的とする。

【医工学コース】

医工学分野の基礎的専門知識・ものづくり技術、およびバイオエンジニアリング分野やメディカルエンジニアリング分野の発展的専門知識・技術を修得させ、医工学技術の社会実装に寄与できる人材を養成する。研究においては、工学技術を基盤として生体現象を理解し、医療・福祉機器や生体制御技術の研究開発を通して、病気の予防・治療や身体的サポートを必要とする人々の QOL 向上に貢献することを目的とする。

【スポーツ工学コース】

スポーツ工学分野の専門知識とエンジニアリング技術を修得させ、スポーツ工学技術の社会実装に寄与できる人材を養成する。研究においては、ヒトの身体活動の機序を理解し、子供から高齢者、そして、健常者および障がい者が楽しむためのスポーツ関連機器の研究開発を通して、幅広い人々の QOL 向上に貢献することを目的とする。

ディプロマ・ポリシー

■システム理工学部

システム理工学部は、持続可能な社会の実現に貢献するために、科学技術が社会や自然に及ぼす利点と欠点を見据えて、ひと・もの・ことが関係する現象をシステムと捉え（システム思考）、総合的、学際的に問題解決できる知識やスキルを修得し、世界に貢献する職業人としての倫理観をもち、卒業要件を満たした者に学位を授与します。

以下に示す能力と行動特性を有した世界に貢献するグローバル理工系人材を養成するために、学修・教育到達目標を定めます。

＜基礎教養力＞
・グローバルな視点から多面的にひと・もの・ことを考える幅広い視野と教養を身につけ、諸問題を多面的かつ客観的に扱うことができる。
・科学技術が社会や自然に及ぼす便益とリスク、および技術者・科学者が社会に対し負うべき責任を理解し、社会に貢献する職業人としての倫理観に基づき行動できる。
・自然科学、情報技術等に関する知識を修得し、課題の解決に応用できる。

＜総合的、学際的な知識やスキル＞
・目的の達成へ向けて取り組むべき具体的な課題を設定し、対象とするひと・もの・ことが関係する現象をシステムとして捉えることができる。（システム思考）
・システム思考を用いて、包括的な解決策を導き出すことができる。（システム工学）
・目標を達成するために、関係する人々と相互の知識や技術を関連付け合いながら、一人ひとりが最大の力を発揮するチームを形成し活動できる。（協働力）
・社会の具体的な課題を解決するアイデアをかたちにし、社会実装に向けて行動できる。（アントレプレナーシップ）
・新たな課題の解決に必要な知識やスキルを認識し、自らの可能性を広げる学修を継続できる。（生涯学修能力）

＜コミュニケーション能力＞
・技術文書の作成、口頭発表、討論等のコミュニケーションができる。
・英語の技術文書を理解、作成し、技術者・科学者と英語でコミュニケーションができる。

＜専門知識を応用できる能力＞
・主軸となる分野の専門知識を修得し、問題解決に応用できる。
・主軸となる分野の専門知識を他分野と関連付ける分野横断型の知識と行動力を修得し、社会で活用できる。

■生命科学課程

生命科学課程では、教育研究上の目的に定める人材を育成するため、卒業時に以下の能力と素養を身につけ、卒業要件を満たした者に学位を授与します。

＜基礎教養力＞

DP-1（学部共通）

① グローバルな視点から多面的にひと・もの・ことを考える幅広い視野と教養を身につけ、諸問題を多面的かつ客観的に扱うことができる。
② 科学技術が社会や自然に及ぼす便益とリスク、および技術者・科学者が社会に対し負うべき責任を理解し、社会に貢献する職業人としての倫理観に基づき行動できる。
③ 自然科学、情報技術等に関する知識を修得し、課題の解決に応用できる。

＜総合的、学際的な知識やスキル
＞　DP-2（学部共通）
① 目的の達成へ向けて取り組むべき具体的な課題を設定し、対象とするひと・もの・ことが関係する現象をシステムとして捉えることができる。(システム思考)
② システム思考を用いて、包括的な解決策を導き出すことができる。(システム工学)
③ 目標を達成するために、関係する人々と相互の知識や技術を関連付け合いながら、一人ひとりが最大の力を発揮するチームを形成し活動できる。(協働力)
④ 社会の具体的な課題を解決するアイデアをかたちにし、社会実装に向けて行動できる。(アントレプレナーシップ)
⑤ 新たな課題の解決に必要な知識やスキルを認識し、自らの可能性を広げる学修を継続できる。(生涯学修能力)
＜コミュニケーション能力
＞ DP-3（学部共通）
① 技術文書の作成、口頭発表、討論等のコミュニケーションができる。
② 英語の技術文書を理解、作成し、技術者・科学者と英語でコミュニケーションができる。

＜専門知識を応用できる能力
＞ DP-4a(生命科学コース)
① 研究者・技術者としての基礎的素養
分子・細胞・個体レベルの専門知識を修得し、生命現象を俯瞰して課題を特定すると共に、適切な実験・解析手法を用いて問題解決策を構築できる。
② キャリアを見据えた高度な専門知識
栄養・薬・環境が健康に及ぼす影響を科学的に評価し、健康寿命の延伸戦略を提案できる。
③ 専門分野と他分野を関連付ける素養
主軸となる分野の専門知識を他分野と関連付ける分野横断型の知識と行動力を

修得し、社会で活用でき

る。 DP-4b(医工学コース)

① 研究者・技術者としての基礎的素養
医工学分野の専門知識・ものづくり技術を修得し、論理的に課題解決できる。

② キャリアを見据えた高度な専門知識
工学技術を基盤として生体現象を理解し、医療・福祉機器や生体制御技術を開発できる。

③ 専門分野と他分野を関連付ける素養
主軸となる分野の専門知識を他分野と関連付ける分野横断型の知識と行動力を修得し、社会で活用できる。

DP-4c(スポーツ工学コース)

① 研究者・技術者としての基礎的素養
運動機器・支援デバイスを開発し、運動機能の発展・拡張に寄与できる。

② キャリアを見据えた高度な専門知識
運動機能・パフォーマンスを科学的に解析し、論理的に課題解決できる。

③ 専門分野と他分野を関連付ける素養
主軸となる分野の専門知識を他分野と関連付ける分野横断型の知識と行動力を修得し、社会で活用できる。

カリキュラム・ポリシー

■システム理工学部

システム理工学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、学問体系を横断し関連付けるシステム思考とシステム工学の知識、学修者の主軸となる専門知識と他分野を関連付ける分野横断型の知識、そして自ら行動し多様な人々と共創できる能力を修得します。カリキュラムは、「基礎教養科目」、「学際科目」、「専門科目」で構成しています。専門科目は、新たな価値を創生し、社会に貢献する職業人としてのキャリア形成に必要となるスキルに紐づけられます。スキルに紐づけられた科目のセット（モジュール）を組み合わせることで、主軸となる分野（主専攻）の専門知識と他分野（副専攻）を関連付け問題解決するための能力を修得することもできます。
各科目の学修成果を多面的に評価し、学生の振り返りを促すことで、学修・教育到達目標を達成します。

＜基礎教養科目＞

・理数・情報
自然科学、情報技術等に関する基礎知識を養成する。
・社会科学・人文科学・保健体育・英語
英語、職業倫理、幅広い視野と教養を養成する。

＜学際科目＞
・システム工学
取り組むべき具体的な課題を設定し、目的達成に向けて、関連するひと・もの・ことの諸現象をシステムと捉え（システム思考）、総合的、学際的に解決策を導き出すためのシステムズアプローチの方法論と、プロジェクト活動によりチームで共同して活動できる能力を養成する。
・SDGs・キャリアデザイン
持続可能な社会の構成員としての職業人生を主体的・能動的にデザインし、実現に向けて行動するためのスキルを養成する。
・アントレプレナーシップ
社会の具体的な課題を解決するアイデアをかたちにし、社会実装に向けて行動できるスキルを養成する。

＜専門科目＞
・主軸となる分野（主専攻）の専門知識を修得し、課題の解決に応用できる能力を養成する。
・主軸となる分野（主専攻）の専門知識を他分野（副専攻）と関連付ける能力を養成する。
・総合研究では、各自が設定したテーマについての問題を解明し、具体的な解決策を導く能力を修得し、総合的、学際的に問題解決できる能力を養成する。

■生命科学課程
　生命科学課程は、学部のカリキュラム・ポリシーのもと、生命科学分野の生命科学・医工学・スポーツ工学領域の専門知識と、これらの専門知識を関連付ける分野横断型の知識を修得し、問題解決に応用できる能力が身につくように編成されています。
　専門科目のカリキュラムは、職業人としてのキャリア形成に必要とされる知識やスキルを具体的に示した以下のモジュール群を積み重ね、総合研究を行うことで、キャリアパスを見据えた学修ができるように構成されています。
　本カリキュラムにより得られた学修成果は、多面的に評価（試験、レポート、成果発表等）し、学生の振り返りを促すことにより、学修・教育到達目標の達成に導きます。

＜基礎教養科目＞
　理数・情報、社会科学、人文科学、保健体育、英語で構成されています。

CP-1（学部共通）

① グローバルな視点で幅広い視野と教養を身につける社会科学、人文科学、保健体育、英語の科目を配置しています。

② 職業倫理に関する幅広い視野と教養を身につける倫理科目を配置しています。

③ 自然科学と情報技術等に関する基礎知識を身につける理数・情報科目を配置しています。

＜学際科目＞

CP-2（学部共通）

① 目的の達成へ向けて取り組むべき具体的な課題を設定し、対象とするひと・もの・ことが関係する現象をシステムとして捉える能力（システム思考）を身につけるシステム工学科目を配置しています。

② システム思考を用いて、包括的な解決策を導き出す能力（システム工学）を身につけるシステム工学科目を配置しています。

③ プロジェクト活動を通してチームで共同して活動できる能力（協働力）を身につけるシステム工学科目を配置しています。

④ 社会の具体的な課題を解決するアイデアをかたちにし、社会実装に向けて行動できる能力（アントレプレナーシップ）を身につけるシステム工学、アントレプレナーシップ、SDGs・キャリアデザイン科目を配置しています。

⑤ 新たな課題の解決に必要な知識やスキルを認識し、自らの可能性を広げる学修を継続できる能力（生涯学修能力）を身につけるキャリアデザイン、アントレプレナーシップ科目を配置しています。

＜学際科目（コミュニケーション）＞

CP-3（学部共通）

① 技術文書の作成、口頭発表、討論等のコミュニケーションができる能力を身につける

システム工学科目、総合研究を配置しています。

② 英語の技術文書を理解、作成し、技術者・科学者と英語でコミュニケーションができる能力を身につける英語科目を配置しています。

＜専門科目＞

CP-4a(生命科学コース)

主専攻モジュール

① 生命科学系の研究者・技術者としての基礎的素養を身につける主専攻モジュールで構成されています。

・専門基礎モジュール

生命科学を学ぶ上での基礎知識となる生理学や解剖学、生化学等を学ぶ科目で構成されています。また、国際性や多様性を受け入れ学ぶグローバルPBL（global Project-Based Learning）科目も配置し、社会との繋がりや多様なニーズを意識させることも重視しています。

・バイオサイエンステクニカルモジュール

生命科学における実験技術（基礎・応用・発展）の取得に繋がる実験科目で構成されています。

・ライフサイエンスモジュール

生命科学における基礎となる有機化学や分析化学、薬理学等を学ぶ科目で構成されています。

② キャリアを見据えた高度な専門知識を身につける主専攻モジュールで構成されています。

・ヒューマンヘルスサイエンスモジュール

生命科学における食品・生物分野の応用となる食品栄養学や発生生物学等を学ぶ科目で構成されています。

・サステナブルバイオサイエンスモジュール

生命科学における環境・化学分野の応用となる環境化学や微生物学、創薬化学等を学ぶ科目で構成されています。

③ 専門分野と他分野を関連付ける素養を身につける総合研究と副専攻モジュールを配置しています。

・総合研究

生命科学分野に関する基礎的専門知識と実践的専門知識・技術を駆使し、各自が設定した生命科学に関連するテーマについての問題を解明し、総合的、学際的に具体的な解決策を導き出す能力を養います。

副専攻モジュール

・他の課程・コースの他コース向けモジュール

・生命科学（理科・工業）教職モジュール

「理科」「工業」の教員免許状取得に必要な専門知識および指導法を学ぶための科目で構成されています。

・留学モジュール

国外短期留学に関する科目と生命科学分野の生命科学領域の専門知識を英語で学ぶための科目で構成されています。

CP-4b(医工学コース)

主専攻モジュール

① 医工学系エンジニアとしての基礎的素養を身につける主専攻モジュールで構成されています。

・専門基礎モジュール

医工学を学ぶ上での基礎知識となる生理学や解剖学、プログラミング技術等を学ぶ科目で構成されています。また、国際性や多様性を受け入れ学ぶグローバル PBL 科目も配置し、社会との繋がりや多様なニーズを意識させることも重視しています。

・医工学モジュール

医療福祉への工学応用に必要な機械設計製作やメカトロニクス等の技術を学ぶ科目で構成されています。

・ものづくりモジュール

ものづくりの基礎となる機械工学や電気電子工学等を学ぶ科目で構成されています。

② キャリアを見据えた高度な専門知識を身につける主専攻モジュールで構成されています。

・バイオエンジニアリングモジュール

生体現象の理解や制御を対象としたバイオエンジニアリングを学ぶ科目で構成されています。

・メディカルエンジニアリングモジュール

医療・福祉支援を対象としたメディカルエンジニアリングを学ぶ科目で構成されています。

③ 専門分野と他分野を関連付ける素養を身につける総合研究と副専攻モジュールで構成されています。

・総合研究

生命科学分野に関する基礎的専門知識と実践的専門知識・技術を駆使し、各自が設定した医工学に関連するテーマについての問題を解明し、総合的、学際的に具体的な解決策を導き出す能力を養います。

副専攻モジュール

・他の課程・コースの他コース向けモジュール

・生命科学（理科・工業）教職モジュール

「理科」「工業」の教員免許状取得に必要な専門知識および指導法を学ぶための科目で構成されています。

・留学モジュール

国外短期留学に関する科目と生命科学分野の医工学領域の専門知識を英語で学ぶため

の科目で構成されています。

CP-4c(スポーツ工学コース)
主専攻モジュール
① スポーツ工学系エンジニアとしての基礎的素養を身につける主専攻モジュールで構成されています。
・専門基礎モジュール
スポーツ工学を学ぶ上での基礎知識となる生理学や解剖学、プログラミング技術等を学ぶ科目で構成されています。また、国際性や多様性を受け入れ学ぶグローバルPBL科目も配置し、社会との繋がりや多様なニーズを意識させることも重視しています。
・ものづくり理論モジュール
スポーツ工学分野におけるものづくりの基礎となる機構学やメカトロニクス等を学ぶ科目で構成されています。
・エンジニアリングモジュール
スポーツ工学分野において、より実践的な技術開発に必要な信号処理や画像工学等を学ぶ科目で構成されています。

・キャリアを見据えた高度な専門知識を身につける主専攻モジュールで構成されています。
・運動理論モジュール
スポーツ工学分野の研究基礎となる、ヒトの身体運動の理解を深めるための科目で構成されています。
・データ計測・解析モジュール
スポーツ工学分野の研究基礎となるデータの計測方法と解析方法を修得する科目で構成されています。

・専門分野と他分野を関連付ける素養を身につける総合研究と副専攻モジュールで構成されています。
・総合研究
生命科学分野に関する基礎的専門知識と実践的専門知識・技術を駆使し、各自が設定したスポーツ工学に関連するテーマについての問題を解明し、総合的、学際的に具体的な解決策を導き出す能力を養います。

副専攻モジュール
・他の課程・コースの他コース向けモジュール

・生命科学（理科・工業）教職モジュール
「理科」「工業」の教員免許状取得に必要な専門知識および指導法を学ぶための科目で構成されています。
・留学モジュール
国外短期留学に関する科目と生命科学分野のスポーツ工学領域の専門知識を英語で学ぶための科目で構成されています。

アドミッション・ポリシー

■システム理工学部
本学部への入学を志望する者は、本学の建学の精神と大学が求める人物像に加え 、以下に挙げる「システム理工学部が求める人物像」、および教育方針、課程のカリキュラム、教育・研究の内容をよく理解して出願することを求めます。

＜システム理工学部が求める人物像＞
(1) 身の回りのさまざまなひと・こと・ものの仕組みや成り立ちについて深く考え、課題を解決することに興味や関心を持つ者。
(2) 総合的、学際的に課題を解決することで、新たな価値を創生し、社会に貢献する意志を持つ者。
(3) 他分野の学生とチームを形成し課題に取り組む等、システム理工学部における分野の枠を超えたプロジェクト演習に興味をもち、主体的かつ積極的に行動することに強い意欲を持つ者。

■生命科学課程
生命科学課程は、学部のディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーのもと、生命科学分野（生命科学・医工学・スポーツ工学領域）のみならず、他の課程・コースの分野にも触れる分野横断型の学修を実践します。この学修を実りあるものとするため、以下のような人物の入学を求めます。

求める人物像
AP-1
持続可能で豊かな社会の実現に強い関心と意欲をもち、国際的視点に立った研究者・技術者をめざす人。

AP-2
生命科学課程の教育・研究環境を十分に活用して、より高いレベルの学びに自主的に取り

組むことができる人。

AP-3

誠実な人間性、倫理観と適切なコミュニケーション能力をもち、科学技術にかかわる者として良識のある行動ができる人。

AP-4a(生命科学コース)

生命科学コースでは、対象分野の教育・研究への取り組みを実りあるものとするため、以下のような人物の入学を求めています。

① 数学、生物学、化学、情報技術などの基礎教養科目と生命科学の専門科目を学ぶために必要となる基礎学力を身につけている人。
② 生命科学の基礎を理解し、食品分野・医薬分野・環境分野などの生命現象の解明に挑戦する人。

AP-4b(医工学コース)

医工学コースでは、対象分野の教育・研究への取り組みを実りあるものとするため、以下のような人物の入学を求めています。

① 数学、物理学、情報技術などの基礎教養科目と医工学の専門科目を学ぶために必要となる基礎学力を身につけている人。
② ものづくりの基礎を理解し、予防・診断・治療・リハビリのための医療機器の開発や、高齢者や障がい者を支援する福祉機器・支援システムの開発に挑戦する人。

AP-4c(スポーツ工学コース)

スポーツ工学コースでは、対象分野の教育・研究への取り組みを実りあるものとするため、以下のような人物の入学を求めています。

① 情報技術などの基礎教養科目とスポーツ工学の専門科目を学ぶために必要となる基礎学力を身につけている人。
② ものづくりの基礎を理解し、スポーツ分野に応用することで、人々の QOL 向上に挑戦する人。

高等学校等で身につける学力の 3 要素

本課程への入学を希望する人は、高等学校等において以下の能力を身につけておくことを求めます。

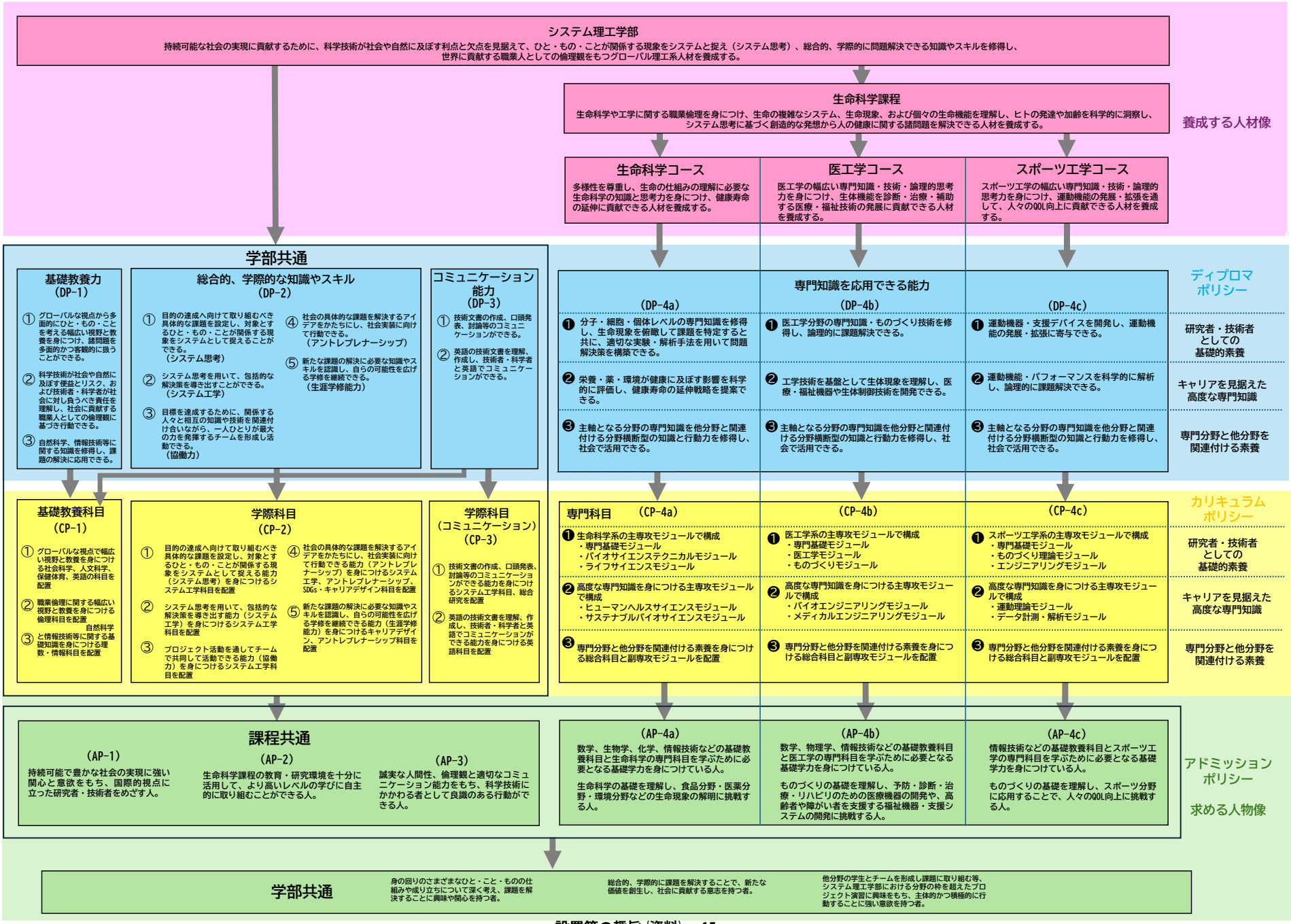
(1)高等学校等の課程で学ぶ知識・技能（特に英語、数学、理科）
(2)思考力・判断力・表現力等の能力
(3)主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ能力

上記の能力を多面的・総合的に評価するため、システム理工学部のアドミッション・ポリシーを指針とした入学者選抜を実施します。

本課程においては、上記の能力等を総合・多面的に評価するため、以下の入学者選抜を実施します。評価の重みづけ（配点等）は、各選抜方式の要項を参照してください。

・一般入学者選抜の前期・後期・全学統一日程入試では、(1) を重視するとともに、筆記試験、外部試験により（2）を評価します。
・一般入学者選抜の大学入学共通テスト利用方式では、多科目の合計点により（1）(2）の総合的な能力を重視した評価を行います。
・学校推薦型入学者選抜では、調査書により（1）(2）を評価し、面接により（1）～（3）を総合的に評価します。
・総合型選抜では、基礎学力調査、外部検定試験などにより (1) (2) を評価し、面接で (1) ～（3）を総合的に評価します。
・特別入学者選抜では、外部検定試験、筆記試験等により（1）(2）を評価し、提出書類、面接により（1）～（3）を総合的に評価します。

養成する人材像とディプロマ・ポリシー／カリキュラム・ポリシー／アドミッション・ポリシーの相関図



生命科学課程　生命科学コース　カリキュラム・ツリー

◎必修科目、○選択必修科目

ディプロマ・ポリシー（DP）/学修・教育到達目標					カリキュラム・ポリシー（CP）		授業科目							
							1　年		2　年		3　年		4　年	
							前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎教養力	DP-1	①グローバルな視点から多面的にひと・もの・ことを考える幅広い視野と教養を身につけ、諸問題を多面的かつ客観的に扱うことができる。			CP-1	①グローバルな視点で幅広い視野と教養を身につける社会科学、人文科学、保健体育、英語の科目を配置しています。	基礎教養科目の社会科学、人文科学（3単位以上）							
		②科学技術が社会や自然に及ぼす便益とリスク、および技術者・科学者が社会に対し負うべき責任を理解し、社会に貢献する職業人としての倫理観に基づき行動できる。				②職業倫理に関する幅広い視野と教養を身につける倫理科目を配置しています	○倫理学（2単位）、○生命倫理概論（2単位） ◎SDGs入門（2単位）				○技術者と倫理（2単位）			
		③自然科学、情報技術等に関する知識を修得し、課題の解決に応用できる。	（イ）	自然科学、情報技術に関する基礎的知識を理解し、利用できる。		③自然科学と情報技術等に関する基礎知識を身につける理数・情報科目を配置しています。	◎微分積分1 ◎線形代数1 ◎生物学 ◎化学 ◎情報基礎（3単位）							
			（ロ）	データを収集・分析・予測を行うためのデータサイエンスの基礎的知識を理解し、利用できる。			◎統計学基礎（1単位）	◎データサイエンス リテラシー（1単位）		◎AI基礎（1単位）				
総合的、学際的な知識やスキル	DP-2	①目的の達成へ向けて取り組むべき具体的な課題を設定し、対象とするひと・もの・ことが関係する現象をシステムとして捉えることができる。（システム思考）			CP-2	①目的の達成へ向けて取り組むべき具体的な課題を設定し、対象とするひと・もの・ことが関係する現象をシステムとして捉える能力（システム思考）を身につけるシステム工学科目を配置しています。			◎システム工学A（3単位）					
		②システム思考を用いて、包括的な解決策を導き出すことができる。（システム工学）				②システム思考を用いて、包括的な解決策を導き出す能力（システム工学）を身につけるシステム工学科目を配置しています				◎システム工学B（3単位）				
		③目標を達成するために、関係する人々と相互の知識や技術を関連付け合いながら、一人ひとりが最大の力を発揮するチームを形成し活動できる。（協働力）				③プロジェクト活動を通してチームで共同して活動できる能力（協働力）を身につけるシステム工学科目を配置しています。			◎システム工学A（3単位）	◎システム工学B（3単位）				
		④社会の具体的な課題を解決するアイデアをかたちにし、社会実装に向けて行動できる。（アントレプレナーシップ）	（イ）	社会の具体的な課題に向き合い、学際的なチームによる活動を通じて、自信創出力を身につける。		④社会の具体的な課題を解決するアイデアをかたちにし、社会実装に向けて行動できる能力（アントレプレナーシップ）を身につけるシステム工学、アントレプレナーシップ、SDGs・キャリアデザイン科目を配置しています。			◎システム工学A（3単位）	◎システム工学B（3単位）	◎アントレプレナーシップA（2単位）			
			（ロ）	社会の具体的な課題に向き合い、課題解決の目標を達成するために、自ら主体的に判断し、社会実現に向けて行動できる。			◎未来を創る1（2単位）			◎未来を創る2（1単位）	◎アントレプレナーシップA（2単位）			
			（ハ）	多様性を理解し、互いに共感し合い、アイディアをかたちにできる。			◎SDGs入門（2単位）				◎アントレプレナーシップA（2単位）			
		⑤新たな課題の解決に必要な知識やスキルを認識し、自らの可能性を広げる学修を継続できる。（生涯学修能力）				⑤新たな課題の解決に必要な知識やスキルを認識し、自らの可能性を広げる学修を継続できる能力（生涯学修能力）を身につけるキャリアデザイン、アントレプレナーシップ科目を配置しています。	◎未来を創る1（2単位）			◎未来を創る2（1単位）	◎アントレプレナーシップA（2単位）			
コミュニケーション能力	DP-3	①技術文書の作成、口頭発表、討論等のコミュニケーションができる。			CP-3	①技術文書の作成、口頭発表、討論等のコミュニケーションができる能力を身につけるシステム工学科目、総合研究を配置しています。			◎システム工学A（3単位）	◎システム工学B（3単位）	◎総合研究1（2単位）	◎総合研究2（2単位）	◎総合研究3（4単位）	◎総合研究4（4単位）
		②英語の技術文書を理解、作成し、技術者・科学者と英語でコミュニケーションができる。				②英語の技術文書を理解、作成し、技術者・科学者と英語でコミュニケーションができる能力を身につける英語科目を配置しています。	○EBS1（2単位）&○EBS2（2単位）、○BEST1（2単位）&○BEST2（2単位） または、○EAS1（2単位）&○EAS2（2単位）、○AEST1（2単位）&○AEST2（2単位）							
専門知識を応用できる能力	DP-4a	①研究者・技術者としての基礎的素養 分子・細胞・個体レベルの専門知識を修得し、生命現象を俯瞰して課題を特定すると共に、適切な実験・解析手法を用いて問題解決策を構築できる。			CP-4a	①生命科学系の研究者・技術者としての基礎的素養を身につける主専攻モジュールで構成されています。	◎主専攻モジュール ・専門基礎モジュール ・バイオサイエンステクニカルモジュール ・ライフサイエンスモジュール							
		②キャリアを見据えた高度な専門知識 栄養・薬・環境が健康に及ぼす影響を科学的に評価し、健康寿命の延伸戦略を提案できる。				②キャリアを見据えた高度な専門知識を身につける主専攻モジュールで構成されています。	◎主専攻モジュール ・ヒューマンサイエンスモジュール ・サステイナブルバイオサイエンスモジュール							
		③専門分野と他分野を関連付ける素養 主軸となる分野の専門知識を他分野と関連付ける分野横断型の知識と行動力を修得し、社会で活用できる。				③専門分野と他分野を関連付ける素養を身につける総合研究と副専攻モジュールで構成されています	○副専攻モジュール ・他の課程・コースの他コース向けモジュール ・生命科学（理科・工業）教職モジュール ・留学モジュール							
											◎総合研究1（2単位）	◎総合研究2（2単位）	◎総合研究3（4単位）	◎総合研究4（4単位）

生命科学課程　医工学コース　カリキュラム・ツリー

◎必修科目、○選択必修科目

ディプロマ・ポリシー（DP）/学修・教育到達目標					カリキュラム・ポリシー（CP）		授業科目							
							1　年		2　年		3　年		4　年	
							前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎教養力	DP-1	①グローバルな視点から多面的にひと・もの・ことを考える幅広い視野と教養を身につけ、諸問題を多面的かつ客観的に扱うことができる。			CP-1	①グローバルな視点で幅広い視野と教養を身につける社会科学、人文科学、保健体育、英語の科目を配置しています。	基礎教養科目の社会科学、人文科学（3単位以上）							
		②科学技術が社会や自然に及ぼす便益とリスク、および技術者・科学者が社会に対し負うべき責任を理解し、社会に貢献する職業人としての倫理観に基づき行動できる。				②職業倫理に関する幅広い視野と教養を身につける倫理科目を配置しています	○倫理学（2単位）、○生命倫理概論（2単位） ◎SDGs入門（2単位）				○技術者と倫理（2単位）			
		③自然科学、情報技術等に関する知識を修得し、課題の解決に応用できる。	（イ）	自然科学、情報技術に関する基礎的知識を理解し、利用できる。		③自然科学と情報技術等に関する基礎知識を身につける理数・情報科目を配置しています。	◎微分積分1 ◎線形代数1 ◎力学1 ◎情報基礎（3単位）		◎電磁気学					
			（ロ）	データを収集・分析・予測を行うためのデータサイエンスの基礎的知識を理解し、利用できる。			◎統計学基礎（1単位）	◎データサイエンス リテラシー（1単位）		◎AI基礎（1単位）				
総合的、学際的な知識やスキル	DP-2	①目的の達成へ向けて取り組むべき具体的な課題を設定し、対象とするひと・もの・ことが関係する現象をシステムとして捉えることができる。（システム思考）			CP-2	①目的の達成へ向けて取り組むべき具体的な課題を設定し、対象とするひと・もの・ことが関係する現象をシステムとして捉える能力（システム思考）を身につけるシステム工学科目を配置しています。			◎システム工学A（3単位）					
		②システム思考を用いて、包括的な解決策を導き出すことができる。（システム工学）				②システム思考を用いて、包括的な解決策を導き出す能力（システム工学）を身につけるシステム工学科目を配置しています				◎システム工学B（3単位）				
		③目標を達成するために、関係する人々と相互の知識や技術を関連付け合いながら、一人ひとりが最大の力を発揮するチームを形成し活動できる。（協働力）				③プロジェクト活動を通してチームで共同して活動できる能力（協働力）を身につけるシステム工学科目を配置しています。			◎システム工学A（3単位）	◎システム工学B（3単位）				
		④社会の具体的な課題を解決するアイデアをかたちにし、社会実装に向けて行動できる。（アントレプレナーシップ）	（イ）	社会の具体的な課題に向き合い、学際的なチームによる活動を通じて、自信創出力を身につける。		④社会の具体的な課題を解決するアイデアをかたちにし、社会実装に向けて行動できる能力（アントレプレナーシップ）を身につけるシステム工学、アントレプレナーシップ、SDGs・キャリアデザイン科目を配置しています。			◎システム工学A（3単位）	◎システム工学B（3単位）	◎アントレプレナーシップA（2単位）			
			（ロ）	社会の具体的な課題に向き合い、課題解決の目標を達成するために、自ら主体的に判断し、社会実現に向けて行動できる。			◎未来を創る1（2単位）			◎未来を創る2（1単位）	◎アントレプレナーシップA（2単位）			
			（ハ）	多様性を理解し、互いに共感し合い、アイディアをかたちにできる。			◎SDGs入門（2単位）				◎アントレプレナーシップA（2単位）			
		⑤新たな課題の解決に必要な知識やスキルを認識し、自らの可能性を広げる学修を継続できる。（生涯学修能力）				⑤新たな課題の解決に必要な知識やスキルを認識し、自らの可能性を広げる学修を継続できる能力（生涯学修能力）を身につけるキャリアデザイン、アントレプレナーシップ科目を配置しています。	◎未来を創る1（2単位）			◎未来を創る2（1単位）	◎アントレプレナーシップA（2単位）			
コミュニケーション能力	DP-3	①技術文書の作成、口頭発表、討論等のコミュニケーションができる。			CP-3	①技術文書の作成、口頭発表、討論等のコミュニケーションができる能力を身につけるシステム工学科目、総合研究を配置しています。			◎システム工学A（3単位）	◎システム工学B（3単位）	◎総合研究1（2単位）	◎総合研究2（2単位）	◎総合研究3（4単位）	◎総合研究4（4単位）
		②英語の技術文書を理解、作成し、技術者・科学者と英語でコミュニケーションができる。				②英語の技術文書を理解、作成し、技術者・科学者と英語でコミュニケーションができる能力を身につける英語科目を配置しています。	○EBS1（2単位）&○EBS2（2単位）、○BEST1（2単位）&○BEST2（2単位） または、○EAS1（2単位）&○EAS2（2単位）、○AEST1（2単位）&○AEST2（2単位）							
専門知識を応用できる能力	DP-4b	①研究者・技術者としての基礎的素養 医工学分野の専門知識・ものづくり技術を修得し、論理的に課題解決できる。			CP-4b	①医工学系エンジニアとしての基礎的素養を身につける主専攻モジュールで構成されています。	◎主専攻モジュール ・専門基礎モジュール ・医工学モジュール ・ものづくりモジュール							
		②キャリアを見据えた高度な専門知識 工学技術を基盤として生体現象を理解し、医療・福祉機器や生体制御技術を開発できる				②キャリアを見据えた高度な専門知識を身につける主専攻モジュールで構成されています。	◎主専攻モジュール ・バイオエンジニアリングモジュール ・メディカルエンジニアリングモジュール							
		③専門分野と他分野を関連付ける素養 主軸となる分野の専門知識を他分野と関連付ける分野横断型の知識と行動力を修得し、社会で活用できる。				③専門分野と他分野を関連付ける素養を身につける総合研究と副専攻モジュールで構成されています	○副専攻モジュール ・他の課程・コースの他コース向けモジュール ・生命科学（理科・工業）教職モジュール ・留学モジュール							
											◎総合研究1（2単位）	◎総合研究2（2単位）	◎総合研究3（4単位）	◎総合研究4（4単位）

生命科学課程　スポーツ工学コース　カリキュラム・ツリー

◎必修科目、○選択必修科目

ディプロマ・ポリシー（DP）/学修・教育到達目標					カリキュラム・ポリシー(CP)		授業科目							
							1　年		2　年		3　年		4　年	
							前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎教養力	DP-1	①グローバルな視点から多面的にひと・もの・ことを考える幅広い視野と教養を身につけ、諸問題を多面的かつ客観的に扱うことができる。			CP-1	①グローバルな視点で幅広い視野と教養を身につける社会科学、人文科学、保健体育、英語の科目を配置しています。	基礎教養科目の社会科学、人文科学（3単位以上）							
		②科学技術が社会や自然に及ぼす便益とリスク、および技術者・科学者が社会に対し負うべき責任を理解し、社会に貢献する職業人としての倫理観に基づき行動できる。				②職業倫理に関する幅広い視野と教養を身につける倫理科目を配置しています	○倫理学（2単位）、○生命倫理概論（2単位） ◎SDGs入門（2単位）				○技術者と倫理（2単位）			
		③自然科学、情報技術等に関する知識を修得し、課題の解決に応用できる。	（イ）	自然科学、情報技術に関する基礎的知識を理解し、利用できる。		③自然科学と情報技術等に関する基礎知識を身につける理数・情報科目を配置しています。	◎情報基礎（3単位）							
			（ロ）	データを収集・分析・予測を行うためのデータサイエンスの基礎的知識を理解し、利用できる。			◎統計学基礎（1単位）	◎データサイエンス リテラシー（1単位）		◎AI基礎（1単位）				
総合的、学際的な知識やスキル	DP-2	①目的の達成へ向けて取り組むべき具体的な課題を設定し、対象とするひと・もの・ことが関係する現象をシステムとして捉えることができる。（システム思考）			CP-2	①目的の達成へ向けて取り組むべき具体的な課題を設定し、対象とするひと・もの・ことが関係する現象をシステムとして捉える能力（システム思考）を身につけるシステム工学科目を配置しています。			◎システム工学A（3単位）					
		②システム思考を用いて、包括的な解決策を導き出すことができる。（システム工学）				②システム思考を用いて、包括的な解決策を導き出す能力（システム工学）を身につけるシステム工学科目を配置しています				◎システム工学B（3単位）				
		③目標を達成するために、関係する人々と相互の知識や技術を関連付け合いながら、一人ひとりが最大の力を発揮するチームを形成し活動できる。（協働力）				③プロジェクト活動を通してチームで共同して活動できる能力（協働力）を身につけるシステム工学科目を配置しています。			◎システム工学A（3単位）	◎システム工学B（3単位）				
		④社会の具体的な課題を解決するアイデアをかたちにし、社会実装に向けて行動できる。（アントレプレナーシップ）	（イ）	社会の具体的な課題に向き合い、学際的なチームによる活動を通じて、自信創出力を身につける。		④社会の具体的な課題を解決するアイデアをかたちにし、社会実装に向けて行動できる能力（アントレプレナーシップ）を身につけるシステム工学、アントレプレナーシップ、SDGs・キャリアデザイン科目を配置しています。			◎システム工学A（3単位）	◎システム工学B（3単位）	◎アントレプレナーシップA（2単位）			
			（ロ）	社会の具体的な課題に向き合い、課題解決の目標を達成するために、自ら主体的に判断し、社会実現に向けて行動できる。			◎未来を創る1（2単位）			◎未来を創る2（1単位）	◎アントレプレナーシップA（2単位）			
			（ハ）	多様性を理解し、互いに共感し合い、アイディアをかたちにできる。			◎SDGs入門（2単位）				◎アントレプレナーシップA（2単位）			
		⑤新たな課題の解決に必要な知識やスキルを認識し、自らの可能性を広げる学修を継続できる。（生涯学修能力）				⑤新たな課題の解決に必要な知識やスキルを認識し、自らの可能性を広げる学修を継続できる能力（生涯学修能力）を身につけるキャリアデザイン、アントレプレナーシップ科目を配置しています。	◎未来を創る1（2単位）			◎未来を創る2（1単位）	◎アントレプレナーシップA（2単位）			
コミュニケーション能力	DP-3	①技術文書の作成、口頭発表、討論等のコミュニケーションができる。			CP-3	①技術文書の作成、口頭発表、討論等のコミュニケーションができる能力を身につけるシステム工学科目、総合研究を配置しています。			◎システム工学A（3単位）	◎システム工学B（3単位）	◎総合研究1（2単位）	◎総合研究2（2単位）	◎総合研究3（4単位）	◎総合研究4（4単位）
		②英語の技術文書を理解、作成し、技術者・科学者と英語でコミュニケーションができる。				②英語の技術文書を理解、作成し、技術者・科学者と英語でコミュニケーションができる能力を身につける英語科目を配置しています。	○EBS1（2単位）&○EBS2（2単位）、○BEST1（2単位）&○BEST2（2単位） または、○EAS1（2単位）&○EAS2（2単位）、○AEST1（2単位）&○AEST2（2単位）							
専門知識を応用できる能力	DP-4c	①研究者・技術者としての基礎的素養 運動機器・支援デバイスを開発し、運動機能の発展・拡張に寄与できる。			CP-4c	①スポーツ工学系エンジニアとしての基礎的素養を身につける主専攻モジュールで構成されています。	◎主専攻モジュール ・専門基礎モジュール ・ものづくり理論モジュール ・エンジニアリングモジュール							
		②キャリアを見据えた高度な専門知識 運動機能・パフォーマンスを科学的に解析し、論理的に課題解決できる。				②キャリアを見据えた高度な専門知識を身につける主専攻モジュールで構成されています。	◎主専攻モジュール ・運動理論モジュール ・データ計測・解析モジュール							
		③専門分野と他分野を関連付ける素養 主軸となる分野の専門知識を他分野と関連付ける分野横断型の知識と行動力を修得し、社会で活用できる。				③専門分野と他分野を関連付ける素養を身につける総合研究と副専攻モジュールで構成されています	○副専攻モジュール ・他の課程・コースの他コース向けモジュール ・生命科学（理科・工業）教職モジュール ・留学モジュール							
											◎総合研究1（2単位）	◎総合研究2（2単位）	◎総合研究3（4単位）	◎総合研究4（4単位）

EBS: English Basic Skills, BEST: Basic English for Science and Technology, EAS: English Advanced Skills, AEST: Advanced English for Science and Technology

【卒業・修了要件及び履修方法】

・所属する学生は、以下の要件を満たしたうえで１２４単位を取得すること。

・なお、履修上限は、通期４８単位以下（半期２４単位以下）とする。

【生命科学コース】

科目系列	基礎教養科目			学際科目	専門科目		
	理数・情報	社会科学 人文科学 保健体育	英語	SDGs・キャリアデザイン システム工学 アントレプレナーシップ	主専攻	副専攻	総合研究
単位数	必修６単位、コース必修８単位を含む ２０単位以上	選択必修２単位を含む ６単位以上	８単位以上	必修１３単位以上	主専攻５モジュール または 主専攻４モジュール+副専攻１モジュール		必修 １２単位
	必修19単位、選択必修２単位、コース必修６単位を含む４８単位以上				コース必修20単位を含む６０単位以上		
総単位数	必修31単位、選択必修２単位、コース必修28単位を含む１２４単位以上						

【基礎教養】
〈理数・情報〉
　コース必修：微分積分1、線形代数１、生物学、化学
〈人文科学〉
選択必修：倫理学、生命倫理概論、技術者と倫理

【専門科目】
〈主専攻〉
　コース必修：生理学、生化学、生命健康統計学、医療・医学概論、生命科学実験（基礎）、生命科学実験（応用）、生命科学実験（発展）
・※1 12単位以上修得で1モジュールの完成とする
・科目が複数のモジュールで重複する場合はモジュールの完成※1には重複してカウントされるが、総単位数には単位数は重複してカウントされない
・専門基礎モジュールを必修とする
・バイオサイエンステクニカルモジュールをコース必修とする
・主専攻５モジュール または　主専攻４モジュール+副専攻１モジュール を完成すること
・上記いずれかのモジュール完成後、修得単位数が60単位に満たない場合は主専攻の未修得科目から選択し、修得単位数を60単位以上にすること

【医工学コース】

科目系列	基礎教養科目			学際科目	専門科目		
	理数・情報	社会科学 人文科学 保健体育	英語	SDGs・キャリアデザイン システム工学 アントレプレナーシップ	主専攻	副専攻	総合研究
単位数	必修6単位、コース必修8単位を含む ２０単位以上	選択必修２単位を含む ６単位以上	８単位以上	必修１３単位以上	主専攻５モジュール または 主専攻４モジュール+副専攻１モジュール		必修 １２単位
	必修19単位、選択必修２単位、コース必修８単位を含む４８単位以上				コース必修14単位を含む６０単位以上		
総単位数	必修31単位、選択必修２単位、コース必修22単位を含む１２４単位以上						

【基礎教養】
〈理数・情報〉
　コース必修：微分積分1、線形代数１、力学１、電磁気学
〈人文科学〉
選択必修：倫理学、生命倫理概論、技術者と倫理

【専門科目】
〈主専攻〉
　コース必修：Pythonプログラミング、医工学概論、医工学エレクトロニクス演習、機械設計製作演習、医工学セミナー、CAD/CAM演習
・※1 12単位以上修得で1モジュールの完成とする
・科目が複数のモジュールで重複する場合はモジュールの完成※1には重複してカウントされるが、総単位数には単位数は重複してカウントされない
・専門基礎モジュールを必修とする
・医工学モジュールをコース必修とする
・主専攻５モジュール または　主専攻４モジュール+副専攻１モジュール を完成すること
・上記いずれかのモジュール完成後、修得単位数が60単位に満たない場合は主専攻の未修得科目から選択し、修得単位数を60単位以上にすること

【スポーツ工学コース】

科目系列	基礎教養科目			学際科目	専門科目		
	理数・情報	社会科学 人文科学 保健体育	英語	SDGs・キャリアデザイン システム工学 アントレプレナーシップ	主専攻	副専攻	総合研究
単位数	必修６単位を含む １０単位以上	選択必修２単位を含む ６単位以上	８単位以上	必修１３単位以上	主専攻５モジュール または 主専攻４モジュール+副専攻１モジュール		必修 １２単位
	必修１９単位、選択必修２単位を含む４８単位以上				コース必修13単位を含む６０単位以上		
総単位数	必修３1単位、選択必修２単位、コース必修13単位を含む１２４単位以上						

【基礎教養】
〈人文科学〉
選択必修：倫理学、生命倫理概論、技術者と倫理

【専門科目】
〈主専攻〉
　コース必修：生理学、解剖学、Pythonプログラミング、スポーツ工学実験演習１、スポーツ工学実験演習２
・※1 12単位以上修得で1モジュールの完成とする
・科目が複数のモジュールで重複する場合はモジュールの完成※1には重複してカウントされるが、総単位数には単位数は重複してカウントされない
・専門基礎モジュールを必修とする
・主専攻５モジュール または　主専攻４モジュール+副専攻１モジュール を完成すること
・上記いずれかのモジュール完成後、修得単位数が60単位に満たない場合は主専攻の未修得科目から選択し、修得単位数を60単位以上にすること

履修モデル

生命科学コース

単位	1年		2年	
	前期	後期	前期	後期
1	SDGs入門	データサイエンスリテラシー	システム工学A	未来を創る2
2		微分積分2		システム工学B
3	未来を創る1			
4		線形代数2	Basic English for Science and Technology1 (or Advanced English for Science and Technology1)	
5	情報基礎			AI基礎
6		English Basic Skills 2 (or English Advanced Skills2)	生化学	Basic English for Science and Technology2 (or Advanced English for Science and Technology2)
7				
8	統計学基礎	生命倫理概論	分析化学	生命倫理
9	微分積分Ⅰ			
10		体育実技1	生命科学実験（応用）	生命科学実験（応用）
11	線形代数Ⅰ	生理学		
12				
13	生物学	生命統計学		
14			神経生理学	発生生物学
15	化学	医学概論		
16			Advanced Bioscience	分子生物学
17	力学1	Basic Bioscience		
18			食品栄養学	公衆衛生学
19	English Basic Skills1 (or English Advanced Skills1)	有機化学		
20			無機化学	物理化学
21	解剖学	生命科学実験（基礎）		
22			スポーツ信号処理	スポーツ工学概論
23	生命科学概論			
24			体育実技2	
単位数	24	24	24	23

単位	3年		4年	
	前期	後期	前期	後期
1	総合研究1	総合研究2	総合研究3	総合研究4
2				
3	アントレプレナーシップA（基礎）	アントレプレナーシップB(応用)		
4				
5	薬理学	倫理学		
6				
7	生物物理学	分子遺伝学		
8				
9	映像メディア解析	細胞生理学		
10				
11	応用バイオメカニクス	健康長寿学		
12				
13	脳機能計測学			
14				
15				
単位数	14	12	4	4

医工学コース

単位	1年		2年	
	前期	後期	前期	後期
1	SDGs入門	データサイエンスリテラシー	システム工学A	未来を創る2
2		微分積分2		システム工学B
3	未来を創る1			
4		線形代数2	電磁気学	
5	情報基礎			AI基礎
6		波動・熱力学	Basic English for Science and Technology1 (or Advanced English for Science and Technology1)	Basic English for Science and Technology2 (or Advanced English for Science and Technology2)
7				
8	統計学基礎	English Basic Skills 2 (or English Advanced Skills2)	生化学（専門基礎）	生命倫理（専門基礎）
9	微分積分1			
10		科学技術史	生命健康統計学（専門基礎）	機械設計製作演習（医工学）
11	線形代数1			
12		体育実技2	医工学エレクトロニクス演習（医工学）	
13	力学1	Pythonプログラミング（専門基礎）		医工学セミナー（医工学）
14			電気電子回路	
15	English Basic Skills1 (or English Advanced Skills1)			流れ学（ものづくり）
16		医学・医療概論（専門基礎）	材料力学（ものづくり）	
17	体育実技１			制御工学（ものづくり）
18	解剖学（専門基礎）	生理学（専門基礎）	人工知能基礎（ものづくり）	
19				
20	医工学概論（医工学）		生体計測学（メディカルエンジニアリング）	
21	機械力学（ものづくり）			
22			IoT基礎（副専攻，IoT基礎）	
23				
24				
単位数	22	19	23	18

単位	3年		4年	
	前期	後期	前期	後期
1	総合研究1	総合研究2	総合研究3	総合研究4
2				
3	アントレプレナーシップA（価値創造）	倫理学		
4				
5	CAD/CAM演習（医工学）	医工学プログラミング演習（医工学）		
6				
7		バイオエレクトロニクス（メディカルエンジニアリング）		
8	バイオメカニクス（メディカルエンジニアリング）			
9		バイオメカニカルエンジニアリング（メディカルエンジニアリング）		
10	メカトロニクス（メディカルエンジニアリング）			
11		メディカルエンジニアリング実験（メディカルエンジニアリング）		
12	バイオレオロジー（メディカルエンジニアリング）			
13		フロントエンドとインターフェース基礎（副専攻，IoT基礎）		
14	センサーとアクチュエータ（副専攻，IoT基礎）			
15		アントレプレナーシップB（事業創出）		
16	デジタル信号処理（副専攻，IoT基礎）			
17				
18	数値解析（副専攻，IoT基礎）			
19				
20	IoT設計論（副専攻，IoT基礎）			
21				
22				
23				
24				
単位数	21	16	4	4

スポーツ工学コース

単位	1年		2年	
	前期	後期	前期	後期
1	SDGs入門	データサイエンスリテラシー	システム工学A	未来を創る2
2		生理学		システム工学B
3	未来を創る1			
4		生命統計学	生化学	
5	情報基礎			AI基礎
6		スポーツ工学概論	運動生理学	生命倫理
7				
8	統計学基礎	Pythonプログラミング	機能解剖学	体力医科学
9	解剖学			
10			材料力学	食品栄養学
11	微分積分1	English Basic Skills 2		
12			スポーツ信号処理	スポーツ工学実験演習2
13	生物学	生命倫理概論		
14			生体計測学	
15	機械力学	体育実技2		Basic English for Science and Technology 2
16		組織心理学	スポーツ工学実験演習1	
17	English Basic Skills 1			
18		微分積分2		
19	体育実技1		Basic English for Science and Technology 1	
20	力学1	医学・医療概論		
21			電気電子回路	
22	化学			
23				
24				
単位数	23	21	22	16

単位	3年		4年	
	前期	後期	前期	後期
1	総合研究1	総合研究2	総合研究3	総合研究4
2				
3	アントレプレナーシップA	健康データサイエンス		
4				
5	スポーツ工学研究法	スポーツ画像工学		
6				
7	脳機能計測学	アントレプレナーシップB		
8				
9	健康行動栄養学	日本国憲法		
10				
11	応用バイオメカニクス	健康長寿学		
12				
13	バイオレオロジー	公衆衛生学		
14				
15	バイオメカニクス			
16				
17	メカトロニクス			
18				
19	人間工学			
20				
21				
22				
23				
24				
単位数	20	14	4	4

就業規則

（定年）

第37条　職員の定年は、満65歳とする。

２　前項の退職日は、その者が定年に達した当該年度末日とする。

３　大学長がその職にある間は、本条による定年を適用しない。

４　第１項の規定に係わらず、平成12年度以前の採用者の平成13年度から平成19年度までの定年は、別に定める定年年齢変更に伴う移行内規による。

５　理事長、学長が推薦し、理事会が承認した場合、定年を５年間延長することができる。１年ごとに理事会の承認をもって延長する。

2029年度前期時間割
（生命科学課程）

時限	月								火								水							
	コース	学年	系列	区分	科目名	主担当教員	教室	備考	コース	学年	系列	区分	科目名	主担当教員	教室	備考	学科	学年	系列	区分	科目名	主担当教員	教室	備考
	全	1	理数・情報	必修	情報基礎	市川　学	5号館5251教室	1－2限連続	全	1	保健体育	選択	体育実技1	村山光義			全	1	保健体育	選択	体育実技1	江間　諒一		
	生命科学	2	主専攻	必修	生命科学実験（応用）	須原　義智		3コマ連続	全	1	保健体育	選択	体育実技2	村山光義		体育実技1を修得済みだと2になる	全	1	保健体育	選択	体育実技2	江間　諒一		体育実技1を修得済みだと2になる
	医工学	2	主専攻	選択	機械・電気基礎数学	伊藤　和寿	5号館5271多目的教室（イコバ）		生命科学	1	副専攻	選択	メディア処理基礎	高橋 正信	新施設大教室		生命科学	1	副専攻	モジュール必修	IoT基礎	NICODIMUS RETDIAN	5号館5251教室	
	全	3	アントレプレナーシップ	必修	アントレプレナーシップA(価値創造)	長谷川　浩志	2号館2301教室		生命科学	1	主専攻	選択	職業指導	山崎貞登	5号館5342教室		生命科学	1	主専攻	モジュール必修	教育におけるICT活用	田村俊之	5号館5351教室	
									医工学	1	副専攻	選択	メディア処理基礎	高橋 正信	新施設大教室		生命科学	1	主専攻	モジュール必修	教育におけるICT活用	波多野和彦	5号館5351教室	
									医工学	1	主専攻	選択	職業指導	山崎貞登	5号館5342教室		医工学	1	副専攻	モジュール必修	IoT基礎	NICODIMUS RETDIAN	5号館5251教室	
									スポーツ工学	1	副専攻	選択	メディア処理基礎	高橋 正信	新施設大教室		医工学	1	主専攻	モジュール必修	教育におけるICT活用	田村俊之	5号館5351教室	
									スポーツ工学	1	主専攻	選択	職業指導	山崎貞登	5号館5342教室		医工学	1	主専攻	モジュール必修	教育におけるICT活用	波多野和彦	5号館5351教室	
									全	2	SDGs・キャリアデザイン	選択	インターンシップ	長谷川　浩志	5号館5242教室		スポーツ工学	1	副専攻	モジュール必修	IoT基礎	NICODIMUS RETDIAN	5号館5251教室	
									全	2	副専攻	選択	総合的な学習の時間の指導法	山崎貞登	新施設小教室		スポーツ工学	1	主専攻	モジュール必修	教育におけるICT活用	田村俊之	5号館5351教室	
									生命科学	2	副専攻	選択	音声音響情報処理	高橋 正信	5号館5251教室		スポーツ工学	1	主専攻	モジュール必修	教育におけるICT活用	波多野和彦	5号館5351教室	
									生命科学	2	副専攻	選択	建築構造力学1	石川　裕次	5号館5274中教室		生命科学	2	主専攻	必修	生命科学実験（発展）	福井　浩二		3コマ連続
									生命科学	2	副専攻	選択	数理計画法	サイ　貴生	5号館5341教室		全	3	アントレプレナーシップ	選択	産学官金連携PBL	長谷川　浩志	新施設大教室	
									生命科学	2	主専攻	選択	電気電子回路	髙木　基樹	5号館5351教室		生命科学	3	副専攻	選択	建築構造設計	石川　裕次	5号館5342教室	
									生命科学	2	副専攻	選択	都市計画演習	増田　幸宏	5号館5451教室		生命科学	3	主専攻	選択	脳機能計測学	佐藤　大樹	5号館5274中教室	
									医工学	2	副専攻	選択	音声音響情報処理	高橋 正信	5号館5251教室		医工学	3	副専攻	選択	建築構造設計	石川　裕次	5号館5342教室	
									医工学	2	副専攻	選択	建築構造力学1	石川　裕次	5号館5274中教室		医工学	3	主専攻	選択	脳機能計測学	佐藤　大樹	5号館5274中教室	
									医工学	2	副専攻	選択	数理計画法	サイ　貴生	5号館5341教室		スポーツ工学	3	副専攻	選択	建築構造設計	石川　裕次	5号館5342教室	
									医工学	2	主専攻	選択	電気電子回路	髙木　基樹	5号館5351教室		スポーツ工学	3	主専攻	選択	脳機能計測学	佐藤　大樹	5号館5274中教室	
									医工学	2	副専攻	選択	都市計画演習	増田　幸宏	5号館5451教室									
1時限　9:00～10:40									スポーツ工学	2	副専攻	選択	音声音響情報処理	高橋 正信	5号館5251教室									
									スポーツ工学	2	副専攻	選択	建築構造力学1	石川　裕次	5号館5274中教室									
									スポーツ工学	2	副専攻	選択	数理計画法	サイ　貴生	5号館5341教室									
									スポーツ工学	2	主専攻	選択	電気電子回路	髙木　基樹	5号館5351教室									
									スポーツ工学	2	副専攻	選択	都市計画演習	増田　幸宏	5号館5451教室									
									生命科学	3	副専攻	選択	ベクトル解析	鈴木　達夫	5号館5241教室									
									生命科学	3	主専攻	選択	ものづくり工学	川上　幸男	5号館5374教室									
									生命科学	3	副専攻	選択	都市環境デザイン	山嵜　一也	5号館5542教室									
									医工学	3	副専攻	選択	ベクトル解析	鈴木　達夫	5号館5241教室									
									医工学	3	主専攻	選択	ものづくり工学	川上　幸男	5号館5374教室									
									医工学	3	副専攻	選択	都市環境デザイン	山嵜　一也	5号館5542教室									
									スポーツ工学	3	副専攻	選択	ベクトル解析	鈴木　達夫	5号館5241教室									
									スポーツ工学	3	主専攻	選択	ものづくり工学	川上　幸男	5号館5374教室									
									スポーツ工学	3	副専攻	選択	都市環境デザイン	山嵜　一也	5号館5542教室									

2029年度前期時間割
（生命科学課程）

時限	月								火								水							
	コース	学年	系列	区分	科目名	主担当教員	教室	備考	コース	学年	系列	区分	科目名	主担当教員	教室	備考	学科	学年	系列	区分	科目名	主担当教員	教室	備考
	全	1	保健体育	選択	体育実技1	柴田　翔平			全	1	保健体育	選択	体育実技1	岩沼聡一朗			全	1	SDGs・キャリアデザイン	選択	ダイバーシティ入門	小嶋　美代子	5号館5242教室	
	全	1	保健体育	選択	体育実技2	柴田　翔平		体育実技1を修得済みだと2になる	全	1	保健体育	選択	体育実技2	岩沼聡一朗		体育実技1を修得済みだと2になる	全	1	社会科学	選択	科学技術と社会	詫間　直樹	5号館5351教室	
	医工学	2	主専攻	必修	医工学エレクトロニクス演習	高木　基樹	5号館5242教室		生命科学	1	主専攻	選択	機械力学	信太　宗也	新施設大教室		全	1	社会科学	選択	教育社会学	谷田川　ルミ	5号館5341教室	
	スポーツ工学	2	主専攻	必修	スポーツ工学実験演習1	赤木　亮太	5号館5542教室		生命科学	1	副専攻	選択	論理と集合	竹内　慎吾	齋藤記念館7202教室		全	1	社会科学	選択	社会福祉論	齋藤　知子	5号館5271多目的教室	
	医工学	3	主専攻	必修	CAD/CAM演習	渡邉　宣夫	5号館5151情報処理教室	2コマ連続	医工学	1	主専攻	選択	機械力学	信太　宗也	新施設大教室		全	1	社会科学	選択	情報社会と法	田中幸弘	5号館5342教室	
									医工学	1	副専攻	選択	論理と集合	竹内　慎吾	5号館5374教室		全	1	人文科学	選択	認知心理学	桐谷　佳惠	5号館5451教室	
									スポーツ工学	1	主専攻	選択	機械力学	信太　宗也	新施設大教室		全	1	保健体育	選択	からだの仕組みと運動	初雁晶子	5号館5251教室	
									スポーツ工学	1	副専攻	選択	論理と集合	竹内　慎吾	5号館5451教室		全	1	保健体育	選択	体育実技1	白木駿佑		
									全	2	英語	選択	Advanced English for Science and Technology1	ルビー　オガワ	3号館3303教室		全	1	保健体育	選択	体育実技2	白木駿佑		体育実技1を修得済みだと2になる
									全	2	英語	選択	Advanced English for Science and Technology1	吉村　建二郎	5号館5451教室		全	1	副専攻	選択	教育相談論	岡田　佳子	新施設小教室	
									全	2	英語	選択	Advanced English for Science and Technology1	小抜　久子	5号館5541教室		生命科学	1	副専攻	選択	都市及び都市計画史	増田　幸宏	5号館5542教室	
									全	2	英語	選択	Advanced English for Science and Technology1	柳澤　順一	3号館3205教室		生命科学	1	主専攻	選択	保健医療福祉政策概論	市川　学	新施設大教室	
									全	2	英語	選択	Basic English for Science and Technology1	出淵　栄理	5号館5351教室		医工学	1	副専攻	選択	都市及び都市計画史	増田　幸宏	5号館5542教室	
									全	2	英語	選択	Basic English for Science and Technology1	真保　晶子	新施設小教室		医工学	1	主専攻	選択	保健医療福祉政策概論	市川　学	新施設大教室	
									全	2	英語	選択	Basic English for Science and Technology1	土井　香乙里	5号館5441教室		スポーツ工学	1	副専攻	選択	都市及び都市計画史	増田　幸宏	5号館5542教室	
									全	2	英語	選択	Basic English for Science and Technology1	木戸　充	5号館5251教室		スポーツ工学	1	主専攻	選択	保健医療福祉政策概論	市川　学	新施設大教室	
									生命科学	2	主専攻	選択	Introduction to Control Engineering	伊藤　和寿	4号館4204教室		生命科学	3	副専攻	選択	メディア処理2	高橋 正信	5号館5374教室	
									医工学	2	主専攻	選択	Introduction to Control Engineering	伊藤　和寿	4号館4204教室		医工学	3	副専攻	選択	メディア処理2	高橋 正信	5号館5374教室	
2時限 10:50～12:30									スポーツ工学	2	主専攻	選択	Introduction to Control Engineering	伊藤　和寿	4号館4204教室		スポーツ工学	3	副専攻	選択	メディア処理2	高橋 正信	5号館5374教室	

2029年度前期時間割
（生命科学課程）

時限	月								火								水							
	コース	学年	系列	区分	科目名	主担当教員	教室	備考	コース	学年	系列	区分	科目名	主担当教員	教室	備考	学科	学年	系列	区分	科目名	主担当教員	教室	備考
3時限 13:20～15:00	全	1	人文科学	選択必修	生命倫理概論	中川　雅博	5号館5251教室		全	1	保健体育	選択	体育実技1	小泉潤			生命科学	1	副専攻	モジュール必修	データサイエンス入門	市川　学	新施設大教室	1Q
	全	1	保健体育	選択	体育実技1	赤木　亮太			全	1	保健体育	選択	体育実技2	小泉潤		体育実技1を修得済みだと2になる	医工学	1	副専攻	モジュール必修	データサイエンス入門	市川　学	新施設大教室	1Q
	全	1	保健体育	選択	体育実技2	赤木　亮太		体育実技1を修得済みだと2になる	生命科学	1	理数・情報	必修	化学	須原　義智	5号館5274中教室		スポーツ工学	1	主専攻	選択	データサイエンス入門	市川　学	新施設大教室	1Q
	全	1	英語	選択	English Advanced Skills1	中村　明美	5号館5441教室		医工学	1	理数・情報	選択	化学	須原　義智	5号館5274中教室		スポーツ工学	2	主専攻	選択	運動生理学	江間　諒一	5号館5271多目的教室	
	全	1	英語	選択	English Basic Skills1	宮崎　敬子	新施設小教室		スポーツ工学	1	理数・情報	選択	化学	須原　義智	5号館5274中教室		生命科学	3	主専攻	選択	スポーツ工学研究法	赤木　亮太	5号館5351教室	
	全	1	英語	選択	English Basic Skills1	三井　淳子	3号館3303教室		全	2	英語	選択	Advanced English for Science and Technology1	ルビー　オガワ	5号館5342教室		生命科学	3	副専攻	選択	メディアデザイン2	浅野　裕俊	5号館5251教室	
	全	1	英語	選択	English Basic Skills1	小林　潤	5号館5274中教室		全	2	英語	選択	Advanced English for Science and Technology1	吉村　建二郎	5号館5441教室		生命科学	3	副専攻	選択	金融工学	中津　智則	5号館5242教室	
	全	1	英語	選択	English Basic Skills1	新井竜治	3号館3303教室		全	2	英語	選択	Advanced English for Science and Technology1	小抜　久子	5号館5541教室		生命科学	3	副専攻	選択	建築材料	加藤　詞史	5号館5341教室	
	全	1	英語	選択	English Basic Skills1	北野　功樹	5号館5541教室		全	2	英語	選択	Advanced English for Science and Technology1	柳澤　順一	3号館3304教室		医工学	3	主専攻	選択	スポーツ工学研究法	赤木　亮太	5号館5351教室	
	全	1	英語	選択	English Basic Skills1	矢田部　清美	3号館3205教室		全	2	英語	選択	Basic English for Science and Technology1	出淵　栄理	5号館5351教室		医工学	3	副専攻	選択	メディアデザイン2	浅野　裕俊	5号館5251教室	
	全	1	英語	自由	English Remedial Course1	北野　功樹	4号館4204教室		全	2	英語	選択	Basic English for Science and Technology1	真保　晶子	5号館5251教室		医工学	3	副専攻	選択	金融工学	中津　智則	5号館5242教室	
	全	1	英語	自由	English Remedial Course1	木戸　充	3号館3310教室		全	2	英語	選択	Basic English for Science and Technology1	土井　香乙里	新施設大教室		医工学	3	副専攻	選択	建築材料	加藤　詞史	5号館5341教室	
	全	1	副専攻	選択	教職論	奥田　宏志	齋藤記念館7101大教室		全	2	英語	選択	Basic English for Science and Technology1	木戸　充	3号館3303教室		スポーツ工学	3	主専攻	選択	スポーツ工学研究法	赤木　亮太	5号館5351教室	
	生命科学	1	副専攻	選択	SDGsと環境	袖野　玲子	2号館2102教室		生命科学	2	副専攻	選択	ディジタル信号処理	渡部英二	5号館5451教室		スポーツ工学	3	副専攻	選択	メディアデザイン2	浅野　裕俊	5号館5251教室	
	生命科学	1	副専攻	モジュール必修	消費者行動論	小山　友介	4号館4203教室		医工学	2	副専攻	選択	ディジタル信号処理	渡部英二	5号館5451教室		スポーツ工学	3	副専攻	選択	金融工学	中津　智則	5号館5242教室	
	医工学	1	副専攻	選択	SDGsと環境	袖野　玲子	2号館2102教室		スポーツ工学	2	副専攻	選択	ディジタル信号処理	渡部英二	5号館5451教室		スポーツ工学	3	副専攻	選択	建築材料	加藤　詞史	5号館5341教室	
	医工学	1	副専攻	モジュール必修	消費者行動論	小山　友介	4号館4203教室																	
	スポーツ工学	1	副専攻	選択	SDGsと環境	袖野　玲子	2号館2102教室																	
	スポーツ工学	1	副専攻	モジュール必修	消費者行動論	小山　友介	4号館4203教室																	
	医工学	2	主専攻	選択	機械・電気基礎数学	伊藤　和寿	5号館5271多目的教室（イコバ）																	

2029年度前期時間割
（生命科学課程）

時限	月								火								水							
	コース	学年	系列	区分	科目名	主担当教員	教室	備考	コース	学年	系列	区分	科目名	主担当教員	教室	備考	学科	学年	系列	区分	科目名	主担当教員	教室	備考
4時限 15:10～16:50	全	1	人文科学	選択必修	倫理学	真田　乃輔	5号館5274中教室		全	1	人文科学	選択	世界史A	正田　浩由	5号館5251教室		生命科学	1	理数・情報	必修	微分積分1	亀子　正喜	5号館5451教室	
	全	1	保健体育	選択	体育実技1	赤木　亮太			全	1	保健体育	選択	健康科学論A	品川明穂	齋藤記念館7101大教室		医工学	1	理数・情報	必修	微分積分1	山本　宏子	5号館5451教室	
	全	1	保健体育	選択	体育実技2	赤木　亮太		体育実技1を修得済みだと2になる	全	1	保健体育	選択	体育実技1	門馬怜子			スポーツ工学	1	理数・情報	選択	微分積分1	亀子　正喜	5号館5451教室	
	全	1	英語	選択	English Advanced Skills1	宮崎　敬子	新施設小教室		全	1	保健体育	選択	体育実技2	門馬怜子		体育実技1を修得済みだと2になる	全	2	副専攻	選択	特別活動の指導法	山崎貞登	新施設小教室	
	全	1	英語	選択	English Advanced Skills1	中村　明美	5号館5242教室		全	1	副専攻	選択	特別支援教育論	岡田　佳子	5号館5542教室		生命科学	2	副専攻	選択	センサとアクチュエータ	田中　直彦	5号館5342教室	
	全	1	英語	選択	English Advanced Skills1	矢田部　清美	2号館2401教室		生命科学	1	主専攻	モジュール必修	教育の方法及び技術	田村俊之	5号館5351教室		生命科学	2	主専攻	選択	メディア認知心理・人間工学	高嶋　和毅	齋藤記念館7101大教室	
	全	1	英語	選択	English Basic Skills1	宮崎　敬子	5号館5241教室		生命科学	1	主専攻	モジュール必修	教育の方法及び技術	波多野和彦	5号館5351教室		生命科学	2	副専攻	選択	建築環境設備基礎	近藤　武士	5号館5341教室	
	全	1	英語	選択	English Basic Skills1	三井　淳子	5号館5541教室		医工学	1	主専攻	モジュール必修	教育の方法及び技術	田村俊之	5号館5351教室		医工学	2	副専攻	選択	センサとアクチュエータ	田中　直彦	5号館5342教室	
	全	1	英語	選択	English Basic Skills1	小林　潤	3号館3207教室		医工学	1	主専攻	モジュール必修	教育の方法及び技術	波多野和彦	5号館5351教室		医工学	2	主専攻	選択	メディア認知心理・人間工学	高嶋　和毅	齋藤記念館7101大教室	
	全	1	英語	選択	English Basic Skills1	新井竜治	新施設小教室		スポーツ工学	1	主専攻	モジュール必修	教育の方法及び技術	田村俊之	5号館5351教室		医工学	2	副専攻	選択	建築環境設備基礎	近藤　武士	5号館5341教室	
	全	1	英語	選択	English Basic Skills1	北野　功樹	新施設小教室		スポーツ工学	1	主専攻	モジュール必修	教育の方法及び技術	波多野和彦	5号館5351教室		スポーツ工学	2	副専攻	選択	センサとアクチュエータ	田中　直彦	5号館5342教室	
	全	1	英語	自由	English Remedial Course1	木戸　充	4号館4203教室		全	2	アントレプレナーシップ	選択	経営工学	後藤　裕介	2号館2402教室		スポーツ工学	2	主専攻	選択	メディア認知心理・人間工学	高嶋　和毅	齋藤記念館7101大教室	
	全	1	副専攻	選択	教育心理学	岡田　佳子	5号館5271多目的教室（イコバ）		全	2	英語	選択	Advanced English for Science and Technology1	ルビー　オガワ	新施設小教室		スポーツ工学	2	副専攻	選択	建築環境設備基礎	近藤　武士	5号館5341教室	
	生命科学	1	副専攻	モジュール必修	社会調査法	小山　友介	齋藤記念館7101大教室		全	2	英語	選択	Advanced English for Science and Technology1	柳澤　順一	5号館5374教室		生命科学	3	主専攻	選択	Genetic Engineering	アズハム　ズルカルナイン	5号館5271多目的教室（イコバ）	
	生命科学	1	主専攻	選択	生命科学概論	須原　義智	2号館2103教室		全	2	英語	選択	Basic English for Science and Technology1	出淵　栄理	5号館5441教室		医工学	3	主専攻	選択	Genetic Engineering	アズハム　ズルカルナイン	5号館5271多目的教室（イコバ）	
	医工学	1	副専攻	モジュール必修	社会調査法	小山　友介	齋藤記念館7101大教室		全	2	英語	選択	Basic English for Science and Technology1	真保　晶子	5号館5342教室		スポーツ工学	3	主専攻	選択	Genetic Engineering	アズハム　ズルカルナイン	5号館5271多目的教室（イコバ）	
	医工学	1	主専攻	選択	生命科学概論	須原　義智	2号館2103教室		全	2	英語	選択	Basic English for Science and Technology1	土井　香乙里	5号館5341教室									
	スポーツ工学	1	副専攻	モジュール必修	社会調査法	小山　友介	齋藤記念館7101大教室		全	2	英語	選択	理工系英語プレゼンテーション	吉村　建二郎	大宮西館B1視聴覚教室									
	スポーツ工学	1	主専攻	選択	生命科学概論	須原　義智	2号館2103教室		生命科学	2	主専攻	選択	スポーツ信号処理	柴田　翔平	5号館5274中教室									
	全	2	システム工学	必修	システム工学A(システム計画方法論)	長谷川　浩志	2号館2302教室		生命科学	2	副専攻	選択	フロントエンドとインタフェース基礎	NICODIMUS RETDIAN	3号館3310教室									
	全	3	人文科学	選択必修	技術者と倫理	真田　乃輔	5号館5274中教室		生命科学	2	副専攻	選択	資源・エネルギーシステム論	磐田　朋子	2号館2103教室									
	生命科学	3	副専攻	選択	脱炭素と地域創発	KATRAMIZ　TAREK	5号館5374教室		医工学	2	副専攻	選択	スポーツ信号処理	柴田　翔平	5号館5274中教室									
	医工学	3	副専攻	選択	脱炭素と地域創発	KATRAMIZ　TAREK	5号館5374教室		医工学	2	副専攻	選択	フロントエンドとインタフェース基礎	NICODIMUS RETDIAN	3号館3310教室									
	スポーツ工学	3	副専攻	選択	脱炭素と地域創発	KATRAMIZ　TAREK	5号館5374教室		医工学	2	副専攻	選択	資源・エネルギーシステム論	磐田　朋子	2号館2103教室									
									医工学	2	主専攻	選択	人工知能基礎	保坂　亮介	5号館5451教室									
									スポーツ工学	2	主専攻	選択	スポーツ信号処理	柴田　翔平	5号館5274中教室									
									スポーツ工学	2	副専攻	選択	フロントエンドとインタフェース基礎	NICODIMUS RETDIAN	3号館3310教室									
									スポーツ工学	2	副専攻	選択	資源・エネルギーシステム論	磐田　朋子	2号館2103教室									
									生命科学	3	副専攻	選択	ICT Systems Design	山崎　託	大宮5号館5261演習室									
									医工学	3	副専攻	選択	ICT Systems Design	山崎　託	大宮5号館5261演習室									
									スポーツ工学	3	副専攻	選択	ICT Systems Design	山崎　託	大宮5号館5261演習室									

2029年度前期時間割
（生命科学課程）

時限	月								火								水							
	コース	学年	系列	区分	科目名	主担当教員	教室	備考	コース	学年	系列	区分	科目名	主担当教員	教室	備考	学科	学年	系列	区分	科目名	主担当教員	教室	備考
	全	1	英語	選択	English Advanced Skills1	宮崎　敬子	5号館5274中教室		全	1	人文科学	選択	世界史B	正田　浩由	5号館5342教室		生命科学	1	理数・情報	選択	電磁気学	木村　元	新施設小教室	
	全	1	英語	選択	English Advanced Skills1	中村　明美	新施設小教室		生命科学	1	主専攻	選択	医工学概論	山本　紳一郎	5号館5251教室		生命科学	1	主専攻	選択	解剖学	中村　奈緒子	5号館5374教室	
	全	1	英語	選択	English Advanced Skills1	矢田部　清美	5号館5441教室		医工学	1	主専攻	必修	医工学概論	山本　紳一郎	5号館5251教室		医工学	1	理数・情報	必修	電磁気学	木村　元	新施設小教室	
	全	1	英語	選択	English Basic Skills1	宮崎　敬子	5号館5341教室		スポーツ工学	1	主専攻	選択	医工学概論	山本　紳一郎	5号館5251教室		医工学	1	主専攻	選択	解剖学	中村　奈緒子	5号館5374教室	
	全	1	英語	選択	English Basic Skills1	三井　淳子	5号館5241教室		全	2	システム工学	選択	Advanced Systems Science and Engineering2	市川　学	5号館5542教室		スポーツ工学	1	理数・情報	選択	電磁気学	木村　元	新施設小教室	
	全	1	英語	選択	English Basic Skills1	小林　潤	齋藤記念館7202教室		全	2	システム工学	選択	人間工学	佐藤　健	新施設大教室		スポーツ工学	1	主専攻	必修	解剖学	中村　奈緒子	5号館5374教室	
	全	1	英語	選択	English Basic Skills1	新井竜治	5号館5441教室		全	2	主専攻	選択	Cross-cultural Student Support	伊藤　和寿	5号館5242教室		生命科学	2	副専攻	選択	オブジェクト指向言語	久住　憲嗣	新施設大教室	
	全	1	英語	選択	English Basic Skills1	北野　功樹	5号館5351教室		生命科学	2	副専攻	選択	現象の数理	石渡　哲哉	5号館5541教室		生命科学	2	副専攻	選択	機械計測工学	大谷　拓也	5号館5441教室	
	全	1	副専攻	選択	生徒・進路指導論	三浦　巧也	5号館5271多目的教室（イコバ）		生命科学	2	主専攻	選択	神経生理学	福井　浩二	5号館5351教室		医工学	2	副専攻	選択	オブジェクト指向言語	久住　憲嗣	新施設大教室	
	生命科学	1	副専攻	選択	マーケティング論	小山　友介	新施設大教室		医工学	2	副専攻	選択	現象の数理	石渡　哲哉	5号館5541教室		医工学	2	副専攻	選択	機械計測工学	大谷　拓也	5号館5441教室	
	医工学	1	副専攻	選択	マーケティング論	小山　友介	新施設大教室		医工学	2	主専攻	選択	神経生理学	福井　浩二	5号館5351教室		スポーツ工学	2	副専攻	選択	オブジェクト指向言語	久住　憲嗣	新施設大教室	
	スポーツ工学	1	副専攻	選択	マーケティング論	小山　友介	新施設大教室		スポーツ工学	2	副専攻	選択	現象の数理	石渡　哲哉	5号館5541教室		スポーツ工学	2	副専攻	選択	機械計測工学	大谷　拓也	5号館5441教室	
	生命科学	2	副専攻	選択	代数学1	田森　宥好	5号館5451教室		スポーツ工学	2	主専攻	選択	神経生理学	福井　浩二	5号館5351教室		生命科学	3	副専攻	選択	サイバーセキュリティ	持永 大	5号館5342教室	
	医工学	2	副専攻	選択	代数学1	田森　宥好	5号館5451教室		生命科学	3	副専攻	選択	VR/AR2	高嶋　和毅	新施設小教室		生命科学	3	主専攻	選択	映像メディア解析	赤木　亮太	5号館5251教室	
5時限 17:00～18:40	スポーツ工学	2	副専攻	選択	代数学1	田森　宥好	5号館5451教室		医工学	3	副専攻	選択	VR/AR2	高嶋　和毅	新施設小教室		医工学	3	副専攻	選択	サイバーセキュリティ	持永 大	5号館5342教室	
									スポーツ工学	3	副専攻	選択	VR/AR2	高嶋　和毅	新施設小教室		医工学	3	主専攻	選択	ロボティクス	飯塚　浩二郎	5号館5341教室	
																	医工学	3	主専攻	選択	映像メディア解析	赤木　亮太	5号館5251教室	
																	スポーツ工学	3	副専攻	選択	サイバーセキュリティ	持永 大	5号館5342教室	
																	スポーツ工学	3	主専攻	選択	映像メディア解析	赤木　亮太	5号館5251教室	
																	生命科学	4	副専攻	選択	システム科学	市川　学	5号館5241教室	
																	医工学	4	副専攻	選択	システム科学	市川　学	5号館5241教室	
																	スポーツ工学	4	副専攻	選択	システム科学	市川　学	5号館5241教室	

2029年度前期時間割
（生命科学課程）

時限	木								金								土							
	学科	学年	系列	区分	科目名	主担当教員	教室	備考	学科	学年	系列	区分	科目名	主担当教員	教室	備考	学科	学年	系列	区分	科目名	主担当教員	教室	備考
	全	1	保健体育	選択	体育実技1	山本　紳一郎			生命科学	1	副専攻	選択	Python入門	原田　拓弥	5号館5242教室	2Q								
	全	1	保健体育	選択	体育実技2	山本　紳一郎		体育実技1を修得済みだと2になる	生命科学	1	副専攻	選択	プログラミング入門	市川　学	5号館5242教室	1Q								
	生命科学	1	副専攻	モジュール必修	社会システム入門	市川　学	新施設大教室	2Q	生命科学	1	主専攻	選択	工学基礎概論	長谷川浩志	5号館5451教室									
	生命科学	1	副専攻	選択	情報理論	三好　匠	5号館5251教室		医工学	1	副専攻	選択	Python入門	原田　拓弥	5号館5242教室	2Q								
	医工学	1	副専攻	モジュール必修	社会システム入門	市川　学	新施設大教室	2Q	医工学	1	副専攻	選択	プログラミング入門	市川　学	5号館5242教室	1Q								
	医工学	1	副専攻	選択	情報理論	三好　匠	5号館5251教室		医工学	1	主専攻	選択	工学基礎概論	長谷川浩志	5号館5451教室									
	スポーツ工学	1	副専攻	モジュール必修	社会システム入門	市川　学	新施設大教室	2Q	スポーツ工学	1	副専攻	選択	Python入門	原田　拓弥	5号館5242教室	2Q								
	スポーツ工学	1	副専攻	選択	情報理論	三好　匠	5号館5251教室		スポーツ工学	1	副専攻	選択	プログラミング入門	市川　学	5号館5242教室	1Q								
	医工学	2	主専攻	選択	材料力学	赤木　亮太	5号館5242教室		スポーツ工学	1	主専攻	選択	工学基礎概論	長谷川浩志	5号館5451教室									
	スポーツ工学	2	主専攻	選択	材料力学	赤木　亮太	5号館5242教室		スポーツ工学	2	主専攻	選択	機能解剖学	赤木　亮太	5号館5542教室									
	生命科学	3	副専攻	選択	ソフトウェア設計論	久住　憲嗣	5号館5351教室		全	3	システム工学	選択	プロジェクトマネジメント	大塚　有希	新施設大教室									
	生命科学	3	副専攻	選択	環境政策	袖野　玲子	5号館5451教室		生命科学	3	副専攻	選択	サイバーセキュリティ	持永 大	5号館5342教室									
	生命科学	3	主専攻	選択	理科指導法3	奥田　宏志	5号館5374教室		生命科学	3	主専攻	選択	バイオマテリアル	中村　奈緒子	5号館5374教室									
	医工学	3	副専攻	選択	ソフトウェア設計論	久住　憲嗣	5号館5351教室		生命科学	3	主専攻	選択	健康行動栄養学	廣田　佳久	5号館5241教室									
	医工学	3	副専攻	選択	環境政策	袖野　玲子	5号館5451教室		医工学	3	副専攻	選択	サイバーセキュリティ	持永 大	5号館5342教室									
	医工学	3	主専攻	選択	理科指導法3	奥田　宏志	5号館5374教室		医工学	3	主専攻	選択	バイオマテリアル	中村　奈緒子	5号館5374教室									
	スポーツ工学	3	副専攻	選択	ソフトウェア設計論	久住　憲嗣	5号館5351教室		スポーツ工学	3	副専攻	選択	サイバーセキュリティ	持永 大	5号館5342教室									
	スポーツ工学	3	副専攻	選択	環境政策	袖野　玲子	5号館5451教室		スポーツ工学	3	主専攻	選択	バイオマテリアル	中村　奈緒子	5号館5374教室									
	スポーツ工学	3	主専攻	選択	理科指導法3	奥田　宏志	5号館5374教室		スポーツ工学	3	主専攻	選択	健康行動栄養学	廣田　佳久	5号館5241教室									
1時限　9:00～10:40																								

2029年度前期時間割
（生命科学課程）

時限	木								金								土							
	学科	学年	系列	区分	科目名	主担当教員	教室	備考	学科	学年	系列	区分	科目名	主担当教員	教室	備考	学科	学年	系列	区分	科目名	主担当教員	教室	備考
2時限 10:50～12:30	全	1	SDGs・キャリアデザイン	選択	芝浦工業大学通論	榊原　暢久	5号館5241教室		生命科学	1	理数・情報	必修	生物学	矢嶋　伊知朗	5号館5251教室									
	全	1	人文科学	選択	教育原論	田中　友佳子	5号館5542教室		医工学	1	理数・情報	選択	生物学	矢嶋　伊知朗	5号館5251教室									
	全	1	人文科学	選択	人間関係論	岡田　佳子	新施設小教室		スポーツ工学	1	理数・情報	選択	生物学	矢嶋　伊知朗	5号館5251教室									
	全	1	人文科学	選択	哲学1	中川　雅博	5号館5271多目的教室（イコバ）		生命科学	2	主専攻	必修	生化学	廣田　佳久	5号館5274中教室									
	全	1	保健体育	選択	体育実技1	木村憲			医工学	2	主専攻	選択	生化学	廣田　佳久	5号館5274中教室									
	全	1	保健体育	選択	体育実技1	木村新			スポーツ工学	2	主専攻	選択	生化学	廣田　佳久	5号館5274中教室									
	全	1	保健体育	選択	体育実技2	木村憲		体育実技1を修得済みだと2になる	生命科学	3	副専攻	選択	ネットワークプログラミング	三好　匠	5号館5451教室									
	全	1	保健体育	選択	体育実技2	木村新		体育実技1を修得済みだと2になる	生命科学	3	主専攻	選択	応用バイオメカニクス	柴田　翔平	5号館5351教室									
	全	1	副専攻	選択	教育課程論	谷田川　ルミ	新施設小教室		医工学	3	副専攻	選択	ネットワークプログラミング	三好　匠	5号館5451教室									
	生命科学	1	副専攻	選択	ビジネスエコノミクス	小山　友介	5号館5351教室		医工学	3	主専攻	選択	応用バイオメカニクス	柴田　翔平	5号館5351教室									
	生命科学	1	主専攻	選択	機構学	飯塚　浩二郎	5号館5251教室		スポーツ工学	3	副専攻	選択	ネットワークプログラミング	三好　匠	5号館5451教室									
	医工学	1	副専攻	選択	ビジネスエコノミクス	小山　友介	5号館5351教室		スポーツ工学	3	主専攻	選択	応用バイオメカニクス	柴田　翔平	5号館5351教室									
	医工学	1	主専攻	選択	機構学	飯塚　浩二郎	5号館5251教室																	
	スポーツ工学	1	副専攻	選択	ビジネスエコノミクス	小山　友介	5号館5351教室																	
	スポーツ工学	1	主専攻	選択	機構学	飯塚　浩二郎	5号館5251教室																	
	生命科学	2	副専攻	モジュール必修	IoT設計論	NICODIMUS RETDIAN	5号館5451教室																	
	生命科学	2	主専攻	モジュール選択必修	工業科指導法1	山崎貞登	新施設大教室																	
	医工学	2	副専攻	モジュール必修	IoT設計論	NICODIMUS RETDIAN	5号館5451教室																	
	医工学	2	主専攻	モジュール選択必修	工業科指導法1	山崎貞登	新施設大教室																	
	スポーツ工学	2	副専攻	モジュール必修	IoT設計論	NICODIMUS RETDIAN	5号館5451教室																	
	スポーツ工学	2	主専攻	モジュール選択必修	工業科指導法1	山崎貞登	新施設大教室																	
	生命科学	3	副専攻	選択	Computer　Simulation	山本　嶺	5号館5151情報処理教室																	
	生命科学	3	主専攻	選択	生物物理学	吉村　建二郎	5号館5374教室																	
	生命科学	3	副専攻	選択	保険数学	中津　智則	5号館5342教室																	
	医工学	3	副専攻	選択	Computer　Simulation	山本　嶺	5号館5151情報処理教室																	
	医工学	3	主専攻	選択	生物物理学	吉村　建二郎	5号館5374教室																	
	医工学	3	副専攻	選択	保険数学	中津　智則	5号館5342教室																	
	スポーツ工学	3	副専攻	選択	Computer　Simulation	山本　嶺	5号館5151情報処理教室																	
	スポーツ工学	3	主専攻	選択	生物物理学	吉村　建二郎	5号館5374教室																	
	スポーツ工学	3	副専攻	選択	保険数学	中津　智則	5号館5342教室																	

2029年度前期時間割
（生命科学課程）

時限	木								金								土							
	学科	学年	系列	区分	科目名	主担当教員	教室	備考	学科	学年	系列	区分	科目名	主担当教員	教室	備考	学科	学年	系列	区分	科目名	主担当教員	教室	備考
	生命科学	1	理数・情報	選択	力学1	迫田 大輔	5号館5251教室		生命科学	1	理数・情報	必修	生物学	矢嶋 伊知朗	5号館5251教室									
	生命科学	1	理数・情報	選択	力学1	野中敏幸	5号館5274中教室		医工学	1	理数・情報	選択	生物学	矢嶋 伊知朗	5号館5251教室									
	医工学	1	理数・情報	必修	力学1	迫田 大輔	5号館5251教室		スポーツ工学	1	理数・情報	選択	生物学	矢嶋 伊知朗	5号館5251教室									
	医工学	1	理数・情報	必修	力学1	野中敏幸	5号館5274中教室		生命科学	2	主専攻	必修	生化学	廣田 佳久	5号館5274中教室									
	スポーツ工学	1	理数・情報	選択	力学1	迫田 大輔	5号館5251教室		医工学	2	主専攻	選択	生化学	廣田 佳久	5号館5274中教室									
	スポーツ工学	1	理数・情報	選択	力学1	野中敏幸	5号館5274中教室		スポーツ工学	2	主専攻	選択	生化学	廣田 佳久	5号館5274中教室									
	生命科学	2	主専攻	モジュール選択必修	工業科指導法2	山崎貞登	新施設大教室		生命科学	3	副専攻	選択	ネットワークプログラミング	三好 匠	5号館5451教室									
	生命科学	2	副専攻	選択	都市計画基礎	作山 康	5号館5351教室		生命科学	3	主専攻	選択	応用バイオメカニクス	柴田 翔平	5号館5351教室									
	医工学	2	主専攻	モジュール選択必修	工業科指導法2	山崎貞登	新施設大教室		医工学	3	副専攻	選択	ネットワークプログラミング	三好 匠	5号館5451教室									
	医工学	2	副専攻	選択	都市計画基礎	作山 康	5号館5351教室		医工学	3	主専攻	選択	応用バイオメカニクス	柴田 翔平	5号館5351教室									
	スポーツ工学	2	主専攻	モジュール選択必修	工業科指導法2	山崎貞登	新施設大教室		スポーツ工学	3	副専攻	選択	ネットワークプログラミング	三好 匠	5号館5451教室									
	スポーツ工学	2	副専攻	選択	都市計画基礎	作山 康	5号館5351教室		スポーツ工学	3	主専攻	選択	応用バイオメカニクス	柴田 翔平	5号館5351教室									
	生命科学	3	主専攻	選択	薬理学	廣田 佳久	新施設小教室																	
3時限 13:20～15:00	スポーツ工学	3	主専攻	選択	スポーツ工学とSDGs	江間 諒一	新施設小教室																	

2029年度前期時間割
（生命科学課程）

時限	木								金								土							
	学科	学年	系列	区分	科目名	主担当教員	教室	備考	学科	学年	系列	区分	科目名	主担当教員	教室	備考	学科	学年	系列	区分	科目名	主担当教員	教室	備考
	全	1	SDGs・キャリアデザイン	必修	SDGs入門	KATRAMIZ TAREK	5号館5351教室		生命科学	1	副専攻	モジュール必修	データサイエンス入門	市川　学	新施設大教室	1Q								
	生命科学	2	主専攻	選択	Advanced Bioscience	須原　義智	5号館5241教室		生命科学	1	副専攻	選択	電気機器システム	桑原　央明	5号館5241教室									
	生命科学	2	副専攻	選択	建築計画基礎	水谷　晃啓	5号館5251教室		医工学	1	副専攻	モジュール必修	データサイエンス入門	市川　学	新施設大教室	1Q								
	医工学	2	主専攻	選択	Advanced Bioscience	須原　義智	5号館5241教室		医工学	1	副専攻	選択	電気機器システム	桑原　央明	5号館5241教室									
	医工学	2	副専攻	選択	建築計画基礎	水谷　晃啓	5号館5251教室		スポーツ工学	1	副専攻	モジュール必修	データサイエンス入門	市川　学	新施設大教室	1Q								
	スポーツ工学	2	主専攻	選択	Advanced Bioscience	須原　義智	5号館5241教室		スポーツ工学	1	副専攻	選択	電気機器システム	桑原　央明	5号館5241教室									
	スポーツ工学	2	副専攻	選択	建築計画基礎	水谷　晃啓	5号館5251教室		全	2	副専攻	選択	道徳の理論及び指導法	田中　友佳子	5号館5271多目的教室									
	生命科学	3	主専攻	選択	理科指導法4	奥田　宏志	5号館5542教室		生命科学	2	副専攻	選択	コンピュータグラフィックス	淺野　裕俊	5号館5242教室									
	医工学	3	主専攻	選択	理科指導法4	奥田　宏志	5号館5542教室		生命科学	2	副専攻	選択	ソフトウェア開発管理	久住　憲嗣	5号館5251教室									
	スポーツ工学	3	主専攻	選択	理科指導法4	奥田　宏志	5号館5542教室		生命科学	2	主専攻	モジュール選択必修	理科指導法2	奥田　宏志	5号館5342教室									
									医工学	2	副専攻	選択	コンピュータグラフィックス	淺野　裕俊	5号館5242教室									
									医工学	2	副専攻	選択	ソフトウェア開発管理	久住　憲嗣	5号館5251教室									
									医工学	2	主専攻	モジュール選択必修	理科指導法2	奥田　宏志	5号館5342教室									
									スポーツ工学	2	副専攻	選択	コンピュータグラフィックス	淺野　裕俊	5号館5242教室									
									スポーツ工学	2	副専攻	選択	ソフトウェア開発管理	久住　憲嗣	5号館5251教室									
									スポーツ工学	2	主専攻	モジュール選択必修	理科指導法2	奥田　宏志	5号館5342教室									
									生命科学	3	主専攻	選択	バイオメカニクス	山本　紳一郎	5号館5351教室									
									医工学	3	主専攻	選択	バイオメカニクス	山本　紳一郎	5号館5351教室									
4時限 15:10～16:50									スポーツ工学	3	主専攻	選択	バイオメカニクス	山本　紳一郎	5号館5351教室									

2029年度前期時間割
（生命科学課程）

時限	木								金								土							
	学科	学年	系列	区分	科目名	主担当教員	教室	備考	学科	学年	系列	区分	科目名	主担当教員	教室	備考	学科	学年	系列	区分	科目名	主担当教員	教室	備考
	全	1	SDGs・キャリアデザイン	必修	未来を創る1	長谷川　浩志	新施設大教室		生命科学	1	理数・情報	選択	電磁気学	迫田 大輔	5号館5342教室									
	生命科学	2	副専攻	選択	Introduction to Industrial Design	田中　みなみ	5号館5242教室		生命科学	1	理数・情報	選択	電磁気学(英語)	木村　元	新施設大教室									
	生命科学	2	副専攻	選択	データ構造とアルゴリズム	鈴木　徹也	5号館5172プログラミング教室1		医工学	1	理数・情報	必修	電磁気学	迫田 大輔	5号館5342教室									
	生命科学	2	副専攻	選択	数値解析1	福田　亜希子	5号館5451教室		医工学	1	理数・情報	必修	電磁気学(英語)	木村　元	新施設大教室									
	医工学	2	副専攻	選択	Introduction to Industrial Design	田中　みなみ	5号館5242教室		スポーツ工学	1	理数・情報	選択	電磁気学	迫田 大輔	5号館5342教室									
	医工学	2	副専攻	選択	データ構造とアルゴリズム	鈴木　徹也	5号館5172プログラミング教室1		スポーツ工学	1	理数・情報	選択	電磁気学(英語)	木村　元	新施設大教室									
	医工学	2	副専攻	選択	数値解析1	福田　亜希子	5号館5451教室		生命科学	2	副専攻	選択	幾何学1	梶ヶ谷　徹	5号館5351教室									
	スポーツ工学	2	副専攻	選択	Introduction to Industrial Design	田中　みなみ	5号館5242教室		生命科学	2	主専攻	モジュール選択必修	理科指導法1	奥田　宏志	5号館5242教室									
	スポーツ工学	2	副専攻	選択	データ構造とアルゴリズム	鈴木　徹也	5号館5172プログラミング教室1		医工学	2	副専攻	選択	幾何学1	梶ヶ谷　徹	5号館5351教室									
	スポーツ工学	2	副専攻	選択	数値解析1	福田　亜希子	5号館5451教室		医工学	2	主専攻	モジュール選択必修	理科指導法1	奥田　宏志	5号館5242教室									
	生命科学	3	副専攻	選択	都市・地域システム計画	増田　幸宏	5号館5251教室		スポーツ工学	2	副専攻	選択	幾何学1	梶ヶ谷　徹	5号館5351教室									
	医工学	3	副専攻	選択	都市・地域システム計画	増田　幸宏	5号館5251教室		スポーツ工学	2	主専攻	モジュール選択必修	理科指導法1	奥田　宏志	5号館5242教室									
	スポーツ工学	3	副専攻	選択	都市・地域システム計画	増田　幸宏	5号館5251教室		生命科学	3	主専攻	選択	メカトロニクス	髙木　基樹	5号館5374教室									
									生命科学	3	副専攻	選択	建設プロジェクトマネジメント	片岡　誠	5号館5451教室									
5時限									生命科学	3	主専攻	選択	微生物学	アズハム　ズルカルナイン	5号館5274中教室									
17:00～18:40									医工学	3	主専攻	選択	メカトロニクス	髙木　基樹	5号館5374教室									
									医工学	3	副専攻	選択	建設プロジェクトマネジメント	片岡　誠	5号館5451教室									
									医工学	3	主専攻	選択	微生物学	アズハム　ズルカルナイン	5号館5274中教室									
									スポーツ工学	3	主専攻	選択	メカトロニクス	髙木　基樹	5号館5374教室									
									スポーツ工学	3	副専攻	選択	建設プロジェクトマネジメント	片岡　誠	5号館5451教室									
									スポーツ工学	3	主専攻	選択	微生物学	アズハム　ズルカルナイン	5号館5274中教室									

2029年度後期時間割
（生命科学課程）

時限	月								火								水							
	コース	学年	系列	区分	科目名	主担当教員	教室	備考	コース	学年	系列	区分	科目名	主担当教員	教室	備考	学科	学年	系列	区分	科目名	主担当教員	教室	備考
1時限 9:00～10:40	全	1	SDGs・キャリアデザイン	選択	ダイバーシティ入門	小嶋 美代子	5号館5342教室		全	1	人文科学	選択	組織心理学	石橋 里美	新施設大教室		全	1	人文科学	選択必修	生命倫理概論	中川 雅博	5号館5342教室	
	全	1	社会科学	選択	科学技術史	小林 学	5号館5374教室		全	1	保健体育	選択	体育実技1	江間 諒一			全	1	保健体育	選択	健康科学論B	加藤辰弥	新施設大教室	
	生命科学	1	主専攻	選択	医学・医療概論	中村 奈緒子	5号館5542教室		全	1	保健体育	選択	体育実技2	江間 諒一		体育実技1を修得済みだと2になる	全	1	保健体育	選択	体育実技1	柴田 翔平		
	生命科学	1	副専攻	選択	建築史	山嵜 一也	5号館5251教室		生命科学	1	副専攻	選択	解析基礎	竹内 慎吾	5号館5341教室		全	1	保健体育	選択	体育実技2	柴田 翔平		体育実技1を修得済みだと2になる
	医工学	1	主専攻	選択	医学・医療概論	中村 奈緒子	5号館5542教室		生命科学	1	副専攻	選択	金融・経済リテラシー	小山 友介	5号館5451教室		生命科学	2	副専攻	選択	機械・電気システムセミナー	矢田部 清美	5号館5341教室	
	医工学	1	副専攻	選択	建築史	山嵜 一也	5号館5251教室		生命科学	1	主専攻	選択	分析化学	川島 洋人	5号館5274中教室		生命科学	2	主専攻	選択	分子生物学	廣田 佳久	5号館5374教室	
	スポーツ工学	1	主専攻	選択	医学・医療概論	中村 奈緒子	5号館5542教室		医工学	1	副専攻	選択	解析基礎	竹内 慎吾	5号館5341教室		医工学	2	副専攻	選択	機械・電気システムセミナー	矢田部 清美	5号館5341教室	
	スポーツ工学	1	副専攻	選択	建築史	山嵜 一也	5号館5251教室		医工学	1	副専攻	選択	金融・経済リテラシー	小山 友介	5号館5451教室		医工学	2	主専攻	選択	分子生物学	廣田 佳久	5号館5374教室	
	全	2	SDGs・キャリアデザイン	必修	未来を創る2	長谷川 浩志	新施設大教室		医工学	1	主専攻	選択	分析化学	川島 洋人	5号館5274中教室		スポーツ工学	2	副専攻	選択	機械・電気システムセミナー	矢田部 清美	5号館5341教室	
	生命科学	3	副専攻	選択	景観・ランドスケープデザイン	増田 幸宏	2号館2102教室		スポーツ工学	1	副専攻	選択	解析基礎	竹内 慎吾	5号館5341教室		スポーツ工学	2	主専攻	選択	分子生物学	廣田 佳久	5号館5374教室	
	生命科学	3	主専攻	選択	創薬化学	須原 義智	新施設小教室		スポーツ工学	1	副専攻	選択	金融・経済リテラシー	小山 友介	5号館5451教室		生命科学	3	副専攻	選択	社会システム実践演習	市川 学	5号館5274中教室	
	医工学	3	副専攻	選択	景観・ランドスケープデザイン	増田 幸宏	2号館2102教室		スポーツ工学	1	主専攻	選択	分析化学	川島 洋人	5号館5274中教室		生命科学	3	主専攻	選択	生体高分子工学	廣田 佳久		
	スポーツ工学	3	副専攻	選択	景観・ランドスケープデザイン	増田 幸宏	2号館2102教室		生命科学	3	主専攻	選択	理科指導法3	奥田 宏志	5号館5242教室		医工学	3	副専攻	選択	社会システム実践演習	市川 学	5号館5274中教室	
	スポーツ工学	3	主専攻	選択	健康データサイエンス	廣田 佳久	5号館5271多目的教室（イコバ）		医工学	3	主専攻	選択	理科指導法3	奥田 宏志	5号館5242教室		スポーツ工学	3	副専攻	選択	社会システム実践演習	市川 学	5号館5274中教室	
									スポーツ工学	3	主専攻	選択	理科指導法3	奥田 宏志	5号館5242教室									

2029年度後期時間割
（生命科学課程）

時限	月								火								水							
	コース	学年	系列	区分	科目名	主担当教員	教室	備考	コース	学年	系列	区分	科目名	主担当教員	教室	備考	学科	学年	系列	区分	科目名	主担当教員	教室	備考
2時限 10:50～12:30	全	1	保健体育	選択	体育実技1	山本　紳一郎			全	1	社会科学	選択	人間と自然環境	渋江　桂子	新施設大教室		全	1	人文科学	選択	国際デザイン史	真保　晶子	5号館5242教室	
	全	1	保健体育	選択	体育実技2	山本　紳一郎		体育実技1を修得済みだと2になる	全	1	人文科学	選択	哲学2	中川　雅博	3号館3310教室		全	1	保健体育	選択	身体運動のメカニズム	景行崇文	新施設大教室	
	全	1	英語	選択	English Basic Skills2	新井竜治	5号館5241教室		全	1	保健体育	選択	体育実技1	小林亮太			全	1	保健体育	選択	体育実技1	山本　紳一郎		
	生命科学	1	主専攻	選択	無機化学	須原　義智			全	1	保健体育	選択	体育実技2	小林亮太		体育実技1を修得済みだと2になる	全	1	保健体育	選択	体育実技2	山本　紳一郎		体育実技1を修得済みだと2になる
	医工学	1	主専攻	選択	無機化学	須原　義智			全	1	副専攻	選択	生徒・進路指導論	三浦　巧也	5号館5271多目的教室		生命科学	1	主専攻	選択	スポーツ工学概論	赤木　亮太	5号館5374教室	
	スポーツ工学	1	主専攻	選択	無機化学	須原　義智			生命科学	1	主専攻	モジュール必修	教育の方法及び技術	田村俊之	5号館5351教室		生命科学	1	副専攻	選択	メディア表現基礎	浅野　裕俊	5号館5274中教室	
	生命科学	2	副専攻	選択	データサイエンス応用	市川　学	5号館5451教室		生命科学	1	主専攻	モジュール必修	教育の方法及び技術	波多野和彦	5号館5351教室		生命科学	1	副専攻	選択	建築構造基礎	石川　裕次	5号館5241教室	
	生命科学	2	副専攻	選択	現代的ソフトウェア構築技法	久住　憲嗣	5号館5542教室		医工学	1	主専攻	モジュール必修	教育の方法及び技術	田村俊之	5号館5351教室		医工学	1	主専攻	選択	スポーツ工学概論	赤木　亮太	5号館5374教室	
	生命科学	2	主専攻	選択	生物地球化学	川島　洋人	5号館5374教室		医工学	1	主専攻	モジュール必修	教育の方法及び技術	波多野和彦	5号館5351教室		医工学	1	副専攻	選択	メディア表現基礎	浅野　裕俊	5号館5274中教室	
	生命科学	2	副専攻	選択	電子回路	渡部英二	5号館5351教室		スポーツ工学	1	主専攻	モジュール必修	教育の方法及び技術	田村俊之	5号館5351教室		医工学	1	副専攻	選択	建築構造基礎	石川　裕次	5号館5241教室	
	生命科学	2	副専攻	選択	複素解析	鈴木　達夫	5号館5341教室		スポーツ工学	1	主専攻	モジュール必修	教育の方法及び技術	波多野和彦	5号館5351教室		スポーツ工学	1	主専攻	選択	スポーツ工学概論	赤木　亮太	5号館5374教室	
	医工学	2	副専攻	選択	データサイエンス応用	市川　学	5号館5451教室		全	2	英語	選択	Advanced English for Science and Technology2	ルピー　オガワ	5号館5241教室		スポーツ工学	1	副専攻	選択	メディア表現基礎	浅野　裕俊	5号館5274中教室	
	医工学	2	副専攻	選択	現代的ソフトウェア構築技法	久住　憲嗣	5号館5542教室		全	2	英語	選択	Advanced English for Science and Technology2	小抜　久子	5号館5451教室		スポーツ工学	1	副専攻	選択	建築構造基礎	石川　裕次	5号館5241教室	
	医工学	2	主専攻	選択	生物地球化学	川島　洋人	5号館5374教室		全	2	英語	選択	Advanced English for Science and Technology2	柳澤　順一	5号館5441教室		全	2	システム工学	必修	システム工学B(数理計画法)	陳　新開	5号館5251教室	
	医工学	2	副専攻	選択	電子回路	渡部英二	5号館5351教室		全	2	英語	選択	Basic English for Science and Technology2	出淵　栄理	齋藤記念館7202教室		生命科学	3	主専攻	選択	分子遺伝学	矢嶋　伊知朗	5号館5271多目的教室	
	医工学	2	副専攻	選択	複素解析	鈴木　達夫	5号館5341教室		全	2	英語	選択	Basic English for Science and Technology2	真保　晶子	5号館5541教室									
	スポーツ工学	2	副専攻	選択	データサイエンス応用	市川　学	5号館5451教室		全	2	英語	選択	Basic English for Science and Technology2	土井　香乙里	5号館5341教室									
	スポーツ工学	2	副専攻	選択	現代的ソフトウェア構築技法	久住　憲嗣	5号館5542教室		全	2	英語	選択	Basic English for Science and Technology2	木戸　充	5号館5374教室									
	スポーツ工学	2	主専攻	選択	生物地球化学	川島　洋人	5号館5374教室		全	2	副専攻	選択	道徳の理論及び指導法	田中　友佳子	5号館5242教室									
	スポーツ工学	2	副専攻	選択	電子回路	渡部英二	5号館5351教室		生命科学	2	副専攻	選択	機械・電気システムセミナー	矢田部　清美	2号館2101教室									
	スポーツ工学	2	副専攻	選択	複素解析	鈴木　達夫	5号館5341教室		生命科学	2	主専攻	モジュール選択必修	理科指導法2	奥田　宏志	5号館5251教室									
	全	3	アントレプレナーシップ	選択	アントレプレナーシップB(事業創出)	長谷川　浩志	新施設大教室		医工学	2	副専攻	選択	機械・電気システムセミナー	矢田部　清美	2号館2101教室									
	生命科学	3	副専攻	選択	クラウドコンピューティング	三好　匠	5号館5274中教室		医工学	2	主専攻	モジュール選択必修	理科指導法2	奥田　宏志	5号館5251教室									
	医工学	3	副専攻	選択	クラウドコンピューティング	三好　匠	5号館5274中教室		スポーツ工学	2	副専攻	選択	機械・電気システムセミナー	矢田部　清美	2号館2101教室									
	医工学	3	主専攻	選択	医工学プログラミング演習	迫田　大輔	5号館5551CAD教室	2コマ連続	スポーツ工学	2	主専攻	モジュール選択必修	理科指導法2	奥田　宏志	5号館5251教室									
	スポーツ工学	3	副専攻	選択	クラウドコンピューティング	三好　匠	5号館5274中教室																	
	スポーツ工学	3	副専攻	選択	クラウドコンピューティング	三好　匠	5号館5274中教室																	

2029年度後期時間割
（生命科学課程）

時限	月								火								水							
	コース	学年	系列	区分	科目名	主担当教員	教室	備考	コース	学年	系列	区分	科目名	主担当教員	教室	備考	学科	学年	系列	区分	科目名	主担当教員	教室	備考
3時限 13:20～15:00	全	1	保健体育	選択	体育実技1	初雁晶子			全	1	社会科学	選択	社会学概論	武藤　正義	5号館5542教室		生命科学	1	副専攻	選択	Cプログラミング(情報)	保坂　亮介	新施設大教室	
	全	1	保健体育	選択	体育実技1	赤木　亮太			全	1	保健体育	選択	体育実技1	赤木　亮太			生命科学	1	主専攻	選択	Introduction to Biomedical-Engineering	山本　紳一郎	5号館5451教室	
	全	1	保健体育	選択	体育実技2	初雁晶子		体育実技1を修得済みだと2になる	全	1	保健体育	選択	体育実技2	赤木　亮太		体育実技1を修得済みだと2になる	医工学	1	副専攻	選択	Cプログラミング(情報)	保坂　亮介	新施設大教室	
	全	1	保健体育	選択	体育実技2	赤木　亮太		体育実技1を修得済みだと2になる	生命科学	1	副専攻	選択	建築基礎演習	山嵜　一也	3号館3208(旧建築系製図室)		医工学	1	主専攻	選択	Introduction to Biomedical-Engineering	山本　紳一郎	5号館5451教室	
	全	1	英語	選択	English Advanced Skills2	宮崎　敬子	2号館2102教室		医工学	1	副専攻	選択	建築基礎演習	山嵜　一也	3号館3208(旧建築系製図室)		スポーツ工学	1	副専攻	選択	Cプログラミング(情報)	保坂　亮介	新施設大教室	
	全	1	英語	選択	English Advanced Skills2	中村　明美	5号館5374教室		スポーツ工学	1	副専攻	選択	建築基礎演習	山嵜　一也	3号館3208(旧建築系製図室)		スポーツ工学	1	主専攻	選択	Introduction to Biomedical-Engineering	山本　紳一郎	5号館5451教室	
	全	1	英語	選択	English Advanced Skills2	矢田部　清美	5号館5541教室		全	2	英語	選択	Advanced English for Science and Technology2	ルビー　オガワ	齋藤記念館7202教室									
	全	1	英語	選択	English Basic Skills2	宮崎　敬子	5号館5351教室		全	2	英語	選択	Advanced English for Science and Technology2	小抜　久子	5号館5541教室									
	全	1	英語	選択	English Basic Skills2	三井　淳子	新施設小教室		全	2	英語	選択	Advanced English for Science and Technology2	柳澤　順一	新施設小教室									
	全	1	英語	選択	English Basic Skills2	小林　潤	5号館5342教室		全	2	英語	選択	Basic English for Science and Technology2	出淵　栄理	4号館4203教室									
	全	1	英語	選択	English Basic Skills2	新井竜治	5号館5251教室		全	2	英語	選択	Basic English for Science and Technology2	真保　晶子	5号館5241教室									
	全	1	英語	選択	English Basic Skills2	北野　功樹	2号館2101教室		全	2	英語	選択	Basic English for Science and Technology2	土井　香乙里	3号館3205教室									
	全	1	英語	自由	English Remedial Course2	北野　功樹	4号館4203教室		全	2	英語	選択	Basic English for Science and Technology2	木戸　充	5号館5441教室									
	全	1	英語	自由	English Remedial Course2	木戸　充	3号館3310教室		全	2	副専攻	選択	特別活動の指導法	山崎貞登	5号館5342教室									
	生命科学	1	主専攻	モジュール必修	教育におけるICT活用	田村俊之	新施設大教室		生命科学	2	副専攻	選択	VR/AR1	高嶋　和毅	5号館5451教室									
	生命科学	1	主専攻	モジュール必修	教育におけるICT活用	波多野和彦	2号館2103教室		生命科学	2	主専攻	モジュール選択必修	工業科指導法2	山崎貞登	新施設大教室									
	医工学	1	主専攻	モジュール必修	教育におけるICT活用	田村俊之	新施設大教室		医工学	2	副専攻	選択	VR/AR1	高嶋　和毅	5号館5451教室									
	医工学	1	主専攻	モジュール必修	教育におけるICT活用	波多野和彦	2号館2103教室		医工学	2	主専攻	モジュール選択必修	工業科指導法2	山崎貞登	新施設大教室									
	スポーツ工学	1	主専攻	モジュール必修	教育におけるICT活用	田村俊之	新施設大教室		スポーツ工学	2	副専攻	選択	VR/AR1	高嶋　和毅	5号館5451教室									
	スポーツ工学	1	主専攻	モジュール必修	教育におけるICT活用	波多野和彦	2号館2103教室		スポーツ工学	2	主専攻	モジュール選択必修	工業科指導法2	山崎貞登	新施設大教室									
	生命科学	2	主専攻	必修	生命科学実験（発展）	福井　浩二		3コマ連続																
	医工学	2	主専攻	必修	機械設計製作演習	渡邉　宣夫	5号館5242教室	3コマ連続																

2029年度後期時間割
（生命科学課程）

時限	月								火								水							
	コース	学年	系列	区分	科目名	主担当教員	教室	備考	コース	学年	系列	区分	科目名	主担当教員	教室	備考	学科	学年	系列	区分	科目名	主担当教員	教室	備考
	全	1	人文科学	選択	人間関係論	岡田　佳子	5号館5271多目的教室（イコバ）		全	1	理数・情報	必修	データサイエンスリテラシー	市川　学	2号館2301教室		生命科学	1	主専攻	必修	生理学	福井　浩二	5号館5251教室	
	全	1	人文科学	選択必修	倫理学	真田　乃輔	新施設大教室		全	2	理数・情報	選択	現代物理学概論	木村　元	5号館5342教室		医工学	1	主専攻	選択	生理学	福井　浩二	5号館5251教室	
	全	1	英語	選択	English Advanced Skills2	宮崎　敬子	5号館5374教室		全	2	英語	選択	Advanced English for Science and Technology2	ルビー　オガワ	5号館5374教室		スポーツ工学	1	主専攻	必修	生理学	福井　浩二	5号館5251教室	
	全	1	英語	選択	English Advanced Skills2	中村　明美	3号館3303教室		全	2	英語	選択	Advanced English for Science and Technology2	柳澤　順一	5号館5441教室		医工学	3	主専攻	選択	メディカルエンジニアリング実験	山本　紳一郎	新施設小教室	
	全	1	英語	選択	English Advanced Skills2	矢田部　清美	3号館3207教室		全	2	英語	選択	Basic English for Science and Technology2	出淵　栄理	5号館5241教室									
	全	1	英語	選択	English Basic Skills2	宮崎　敬子	5号館5241教室		全	2	英語	選択	Basic English for Science and Technology2	土井　香乙里	5号館5541教室									
	全	1	英語	選択	English Basic Skills2	三井　淳子	新施設小教室		生命科学	2	副専攻	選択	メディア処理1	高橋 正信	2号館2103教室									
	全	1	英語	選択	English Basic Skills2	小林　潤	新施設小教室		生命科学	2	副専攻	選択	建築環境工学	増田　幸宏	5号館5242教室									
	全	1	英語	選択	English Basic Skills2	新井竜治	3号館3205教室		生命科学	2	主専攻	モジュール選択必修	工業科指導法1	山崎貞登	齋藤記念館7101大教室									
	全	1	英語	選択	English Basic Skills2	北野　功樹	5号館5542教室		医工学	2	副専攻	選択	メディア処理1	高橋 正信	2号館2103教室									
	全	1	英語	自由	English Remedial Course2	木戸　充	5号館5342教室		医工学	2	副専攻	選択	建築環境工学	増田　幸宏	5号館5242教室									
									医工学	2	主専攻	モジュール選択必修	工業科指導法1	山崎貞登	齋藤記念館7101大教室									
									スポーツ工学	2	副専攻	選択	メディア処理1	高橋 正信	2号館2103教室									
									スポーツ工学	2	副専攻	選択	建築環境工学	増田　幸宏	5号館5242教室									
									スポーツ工学	2	主専攻	モジュール選択必修	工業科指導法1	山崎貞登	齋藤記念館7101大教室									
									全	3	システム工学	選択	サイバーセキュリティと社会	持永　大	2号館2201教室									
									生命科学	3	主専攻	選択	細胞生理学	福井　浩二	5号館5271多目的教室（イコバ）									
4時限 15:10～16:50																								

2029年度後期時間割
（生命科学課程）

時限	月								火								水							
	コース	学年	系列	区分	科目名	主担当教員	教室	備考	コース	学年	系列	区分	科目名	主担当教員	教室	備考	学科	学年	系列	区分	科目名	主担当教員	教室	備考
	全	1	SDGs・キャリアデザイン	選択	芝浦工業大学通論	榊原　暢久	5号館5241教室		生命科学	1	副専攻	選択	インターネットプロトコル	三好　匠	新施設大教室		生命科学	1	副専攻	モジュール必修	ゲーミング入門	市川　学	新施設大教室	4Q
	全	1	英語	選択	English Advanced Skills2	宮崎　敬子	5号館5441教室		医工学	1	副専攻	選択	インターネットプロトコル	三好　匠	新施設大教室		生命科学	1	副専攻	モジュール必修	ゲーミング入門	市川　学	新施設大教室	4Q
	全	1	英語	選択	English Advanced Skills2	中村　明美	新施設小教室		スポーツ工学	1	副専攻	選択	インターネットプロトコル	三好　匠	新施設大教室		生命科学	1	副専攻	モジュール必修	社会シミュレーション入門	市川　学	新施設大教室	3Q
	全	1	英語	選択	English Advanced Skills2	矢田部　清美	5号館5251教室										生命科学	1	副専攻	モジュール必修	社会シミュレーション入門	市川　学	新施設大教室	3Q
	全	1	英語	選択	English Basic Skills2	宮崎　敬子	5号館5542教室										生命科学	1	主専攻	選択	物理化学	須原　義智		
	全	1	英語	選択	English Basic Skills2	三井　淳子	5号館5342教室										医工学	1	副専攻	モジュール必修	ゲーミング入門	市川　学	新施設大教室	4Q
	全	1	英語	選択	English Basic Skills2	小林　潤	5号館5341教室										医工学	1	副専攻	モジュール必修	ゲーミング入門	市川　学	新施設大教室	4Q
	全	1	英語	選択	English Basic Skills2	新井竜治	5号館5351教室										医工学	1	副専攻	モジュール必修	社会シミュレーション入門	市川　学	新施設大教室	3Q
	全	1	英語	選択	English Basic Skills2	北野　功樹	5号館5374教室										医工学	1	副専攻	モジュール必修	社会シミュレーション入門	市川　学	新施設大教室	3Q
	スポーツ工学	2	主専攻	選択	体力医科学	赤木　亮太	3号館3310教室										医工学	1	主専攻	選択	物理化学	須原　義智		
																	スポーツ工学	1	副専攻	モジュール必修	ゲーミング入門	市川　学	新施設大教室	4Q
																	スポーツ工学	1	副専攻	モジュール必修	ゲーミング入門	市川　学	新施設大教室	4Q
																	スポーツ工学	1	副専攻	モジュール必修	社会シミュレーション入門	市川　学	新施設大教室	3Q
																	スポーツ工学	1	副専攻	モジュール必修	社会シミュレーション入門	市川　学	新施設大教室	3Q
5時限 17:00～18:40																	スポーツ工学	1	主専攻	選択	物理化学	須原　義智		
																	スポーツ工学	2	主専攻	必修	スポーツ工学実験演習2	佐藤　大樹	5号館5351教室	
																	生命科学	3	主専攻	選択	理科指導法4	奥田　宏志	5号館5242教室	
																	医工学	3	主専攻	選択	理科指導法4	奥田　宏志	5号館5242教室	
																	スポーツ工学	3	主専攻	選択	理科指導法4	奥田　宏志	5号館5242教室	

2029年度後期時間割
（生命科学課程）

時限	木								金								土							
	学科	学年	系列	区分	科目名	主担当教員	教室	備考	学科	学年	系列	区分	科目名	主担当教員	教室	備考	学科	学年	系列	区分	科目名	主担当教員	教室	備考
1時限 9:00～10:40	全	1	社会科学	選択	日本国憲法	田中幸弘	新施設小教室		生命科学	1	理数・情報	選択	波動・熱力学	野中敏幸	5号館5242教室									
	全	1	保健体育	選択	体育実技1	加藤辰弥			生命科学	1	主専攻	選択	Basic Bioscience	アズハム ズルカルナイン	5号館5542教室									
	全	1	保健体育	選択	体育実技2	加藤辰弥		体育実技1を修得済みだと2になる	生命科学	1	副専攻	選択	環境・都市基礎	磐田 朋子	5号館5351教室									
	生命科学	1	理数・情報	選択	線形代数2	関坂 歩幹	5号館5242教室		医工学	1	理数・情報	選択	波動・熱力学	野中敏幸	5号館5242教室									
	生命科学	1	副専攻	選択	環境・都市基礎演習	磐田 朋子	5号館5274中教室		医工学	1	主専攻	選択	Basic Bioscience	アズハム ズルカルナイン	5号館5542教室									
	生命科学	1	副専攻	選択	数理科学概論	石渡 哲哉	5号館5341教室		医工学	1	副専攻	選択	環境・都市基礎	磐田 朋子	5号館5351教室									
	生命科学	1	主専攻	選択	有機化学	須原 義智	5号館5251教室		スポーツ工学	1	理数・情報	選択	波動・熱力学	野中敏幸	5号館5242教室									
	医工学	1	理数・情報	選択	線形代数2	松浦 啓	5号館5242教室		スポーツ工学	1	主専攻	選択	Basic Bioscience	アズハム ズルカルナイン	5号館5542教室									
	医工学	1	副専攻	選択	環境・都市基礎演習	磐田 朋子	5号館5274中教室		スポーツ工学	1	副専攻	選択	環境・都市基礎	磐田 朋子	5号館5351教室									
	医工学	1	副専攻	選択	数理科学概論	石渡 哲哉	5号館5341教室		全	2	SDGs・キャリアデザイン	選択	インターンシップ	長谷川 浩志	5号館5241教室									
	医工学	1	主専攻	選択	有機化学	須原 義智	5号館5251教室		全	2	英語	選択	理工系英語プレゼンテーション	吉村 建二郎	大会図書館B1視聴覚教室									
	スポーツ工学	1	理数・情報	選択	線形代数2	関坂 歩幹	5号館5242教室		全	2	副専攻	選択	総合的な学習の時間の指導法	山崎貞登	5号館5374教室									
	スポーツ工学	1	副専攻	選択	環境・都市基礎演習	磐田 朋子	5号館5274中教室		生命科学	2	副専攻	選択	自然言語処理	奥村学	新施設大教室									
	スポーツ工学	1	副専攻	選択	数理科学概論	石渡 哲哉	5号館5341教室		生命科学	2	副専攻	選択	数理シミュレーション	原田 拓弥	5号館5274中教室									
	スポーツ工学	1	主専攻	選択	有機化学	須原 義智	5号館5251教室		医工学	2	副専攻	選択	自然言語処理	奥村学	新施設大教室									
	生命科学	2	副専攻	選択	データベース	江口 律子	5号館5451教室		医工学	2	副専攻	選択	数理シミュレーション	原田 拓弥	5号館5274中教室									
	生命科学	2	主専攻	選択	制御工学	伊藤 和寿	5号館5542教室		スポーツ工学	2	副専攻	選択	自然言語処理	奥村学	新施設大教室									
	生命科学	2	主専攻	選択	発生生物学	矢嶋 伊知朗	新施設大教室		スポーツ工学	2	副専攻	選択	数理シミュレーション	原田 拓弥	5号館5274中教室									
	医工学	2	副専攻	選択	データベース	江口 律子	5号館5451教室		生命科学	3	副専攻	選択	メディアコンテンツビジネス	小山 友介	5号館5451教室									
	医工学	2	主専攻	選択	制御工学	伊藤 和寿	5号館5542教室		生命科学	3	主専攻	選択	環境化学	川島 洋人	5号館5251教室									
	医工学	2	主専攻	選択	発生生物学	矢嶋 伊知朗	新施設大教室		生命科学	3	副専攻	選択	建築生産・施工	片岡 誠	5号館5541教室									
	スポーツ工学	2	副専攻	選択	データベース	江口 律子	5号館5451教室		生命科学	3	副専攻	選択	符号理論	木村 元	新施設小教室									
	スポーツ工学	2	主専攻	選択	制御工学	伊藤 和寿	5号館5542教室		医工学	3	副専攻	選択	メディアコンテンツビジネス	持永 大	5号館5451教室									
	スポーツ工学	2	主専攻	選択	発生生物学	矢嶋 伊知朗	新施設大教室		医工学	3	主専攻	選択	環境化学	川島 洋人	5号館5251教室									
	生命科学	3	主専攻	選択	バイオエレクトロニクス	迫田 大輔	5号館5351教室		医工学	3	副専攻	選択	建築生産・施工	片岡 誠	5号館5541教室									
	生命科学	3	主専攻	選択	公衆衛生学	越阪部 奈緒美	5号館5342教室		医工学	3	副専攻	選択	符号理論	木村 元	新施設小教室									
	医工学	3	主専攻	選択	バイオエレクトロニクス	迫田 大輔	5号館5351教室		スポーツ工学	3	副専攻	選択	メディアコンテンツビジネス	持永 大	5号館5451教室									
	スポーツ工学	3	主専攻	選択	バイオエレクトロニクス	迫田 大輔	5号館5351教室		スポーツ工学	3	主専攻	選択	環境化学	川島 洋人	5号館5251教室									
	スポーツ工学	3	主専攻	選択	公衆衛生学	越阪部 奈緒美	5号館5342教室		スポーツ工学	3	副専攻	選択	建築生産・施工	片岡 誠	5号館5541教室									
									スポーツ工学	3	副専攻	選択	符号理論	木村 元	新施設小教室									

2029年度後期時間割
（生命科学課程）

時限	木								金								土							
	学科	学年	系列	区分	科目名	主担当教員	教室	備考	学科	学年	系列	区分	科目名	主担当教員	教室	備考	学科	学年	系列	区分	科目名	主担当教員	教室	備考
	全	1	社会科学	選択	行政学	小山　友介			生命科学	1	主専攻	必修	生命科学実験（基礎）	須原　義智		3コマ連続								
	全	1	社会科学	選択	政治学	小山　友介			生命科学	2	副専攻	選択	シミュレーション＆ゲーミング	市川　学	5号館5342教室									
	全	1	人文科学	選択	教育の近現代史	田中　友佳子	5号館5271多目的教室（イス・机）		生命科学	2	副専攻	選択	ネットワークアプリケーション	山崎　託	5号館5251教室									
	全	1	保健体育	選択	体育実技1	山本　紳一郎			生命科学	2	副専攻	選択	建築構造力学2	石川　裕次	5号館5341教室									
	全	1	保健体育	選択	体育実技2	山本　紳一郎		体育実技1を修得済みだと2になる	生命科学	2	副専攻	選択	土地利用計画	増田　幸宏	5号館5172プログラミング教室1	2コマ連続								
	生命科学	1	副専攻	選択	クリエイティブ産業論	小山　友介	5号館5242教室		生命科学	2	主専攻	モジュール選択必修	理科指導法1	奥田　宏志	5号館5542教室									
	生命科学	1	副専攻	選択	画像情報処理	高橋　正信	5号館5251教室		医工学	2	副専攻	選択	シミュレーション＆ゲーミング	市川　学	5号館5342教室									
	生命科学	1	主専攻	選択	工学基礎概論	奥田　宏志	5号館5351教室		医工学	2	副専攻	選択	ネットワークアプリケーション	山崎　託	5号館5251教室									
	医工学	1	副専攻	選択	クリエイティブ産業論	小山　友介	5号館5242教室		医工学	2	副専攻	選択	建築構造力学2	石川　裕次	5号館5341教室									
	医工学	1	副専攻	選択	画像情報処理	高橋　正信	5号館5251教室		医工学	2	副専攻	選択	土地利用計画	増田　幸宏	5号館5172プログラミング教室1	2コマ連続								
	医工学	1	主専攻	選択	工学基礎概論	奥田　宏志	5号館5351教室		医工学	2	主専攻	モジュール選択必修	理科指導法1	奥田　宏志	5号館5542教室									
	スポーツ工学	1	副専攻	選択	クリエイティブ産業論	小山　友介	5号館5242教室		スポーツ工学	2	副専攻	選択	シミュレーション＆ゲーミング	市川　学	5号館5342教室									
	スポーツ工学	1	副専攻	選択	画像情報処理	高橋　正信	5号館5251教室		スポーツ工学	2	副専攻	選択	ネットワークアプリケーション	山崎　託	5号館5251教室									
	スポーツ工学	1	主専攻	選択	工学基礎概論	奥田　宏志	5号館5351教室		スポーツ工学	2	副専攻	選択	建築構造力学2	石川　裕次	5号館5341教室									
	スポーツ工学	3	主専攻	選択	スポーツ画像工学	柴田　翔平	5号館5541教室		スポーツ工学	2	副専攻	選択	土地利用計画	増田　幸宏	5号館5172プログラミング教室1	2コマ連続								
									スポーツ工学	2	主専攻	モジュール選択必修	理科指導法1	奥田　宏志	5号館5542教室									
									全	3	システム工学	選択	信頼性工学	白井　誠	新施設大教室									
									生命科学	3	副専攻	選択	ゲームプログラミング	久住　憲嗣	新施設小教室									
2時限									生命科学	3	副専攻	選択	ヒューマンコンピュータインタラクション	高嶋　和毅	5号館5274中教室									
10:50～12:30									医工学	3	副専攻	選択	ゲームプログラミング	久住　憲嗣	新施設小教室									
									医工学	3	副専攻	選択	ヒューマンコンピュータインタラクション	高嶋　和毅	5号館5274中教室									
									スポーツ工学	3	副専攻	選択	ゲームプログラミング	久住　憲嗣	新施設小教室									
									スポーツ工学	3	副専攻	選択	ヒューマンコンピュータインタラクション	高嶋　和毅	5号館5274中教室									

2029年度後期時間割
（生命科学課程）

時限	木								金								土							
	学科	学年	系列	区分	科目名	主担当教員	教室	備考	学科	学年	系列	区分	科目名	主担当教員	教室	備考	学科	学年	系列	区分	科目名	主担当教員	教室	備考
3時限 13:20～15:00	生命科学	1	理数・情報	選択	微分積分2	亀子　正喜	5号館5542教室		生命科学	1	主専攻	必修	生命科学実験（基礎）	須原　義智		3コマ連続								
	生命科学	1	理数・情報	選択	力学2	浅井和美	5号館5242教室		生命科学	2	副専攻	選択	シミュレーション＆ゲーミング	市川　学	5号館5342教室									
	生命科学	1	主専攻	選択	生命健康統計学	山本　紳一郎	5号館5351教室		生命科学	2	副専攻	選択	ネットワークアプリケーション	山崎　託	5号館5251教室									
	医工学	1	理数・情報	選択	微分積分2	松浦　啓	5号館5542教室		生命科学	2	副専攻	選択	建築構造力学2	石川　裕次	5号館5341教室									
	医工学	1	理数・情報	選択	力学2	浅井和美	5号館5242教室		生命科学	2	副専攻	選択	土地利用計画	増田　幸宏	5号館5172プログラミング教室1	2コマ連続								
	医工学	1	主専攻	選択	生命健康統計学	山本　紳一郎	5号館5351教室		生命科学	2	主専攻	モジュール選択必修	理科指導法1	奥田　宏志	5号館5542教室									
	スポーツ工学	1	理数・情報	選択	微分積分2	亀子　正喜	5号館5542教室		医工学	2	副専攻	選択	シミュレーション＆ゲーミング	市川　学	5号館5342教室									
	スポーツ工学	1	理数・情報	選択	力学2	浅井和美	5号館5242教室		医工学	2	副専攻	選択	ネットワークアプリケーション	山崎　託	5号館5251教室									
	スポーツ工学	1	主専攻	選択	生命健康統計学	山本　紳一郎	5号館5351教室		医工学	2	副専攻	選択	建築構造力学2	石川　裕次	5号館5341教室									
	生命科学	2	主専攻	選択	Basic Control　Engineering	NICODIMUS RETDIAN	5号館5241教室		医工学	2	副専攻	選択	土地利用計画	増田　幸宏	5号館5172プログラミング教室1	2コマ連続								
	生命科学	2	副専攻	選択	メディア表現応用	淺野　裕俊	5号館5251教室		医工学	2	主専攻	モジュール選択必修	理科指導法1	奥田　宏志	5号館5542教室									
	医工学	2	主専攻	選択	Basic Control　Engineering	NICODIMUS RETDIAN	5号館5241教室		スポーツ工学	2	副専攻	選択	シミュレーション＆ゲーミング	市川　学	5号館5342教室									
	医工学	2	副専攻	選択	メディア表現応用	淺野　裕俊	5号館5251教室		スポーツ工学	2	副専攻	選択	ネットワークアプリケーション	山崎　託	5号館5251教室									
	スポーツ工学	2	主専攻	選択	Basic Control　Engineering	NICODIMUS RETDIAN	5号館5241教室		スポーツ工学	2	副専攻	選択	建築構造力学2	石川　裕次	5号館5341教室									
	スポーツ工学	2	副専攻	選択	メディア表現応用	淺野　裕俊	5号館5251教室		スポーツ工学	2	副専攻	選択	土地利用計画	増田　幸宏	5号館5172プログラミング教室1	2コマ連続								
	生命科学	3	主専攻	選択	バイオイメージング	髙山　祐三	5号館5374教室		スポーツ工学	2	主専攻	モジュール選択必修	理科指導法1	奥田　宏志	5号館5542教室									
	医工学	3	主専攻	選択	バイオイメージング	髙山　祐三	5号館5374教室		全	3	システム工学	選択	信頼性工学	白井　誠	新施設大教室									
	スポーツ工学	3	主専攻	選択	バイオイメージング	髙山　祐三	5号館5374教室		生命科学	3	副専攻	選択	ゲームプログラミング	久住　憲嗣	新施設小教室									
									生命科学	3	副専攻	選択	ヒューマンコンピュータインタラクション	高嶋　和毅	5号館5274中教室									
									医工学	3	副専攻	選択	ゲームプログラミング	久住　憲嗣	新施設小教室									
									医工学	3	副専攻	選択	ヒューマンコンピュータインタラクション	高嶋　和毅	5号館5274中教室									
									スポーツ工学	3	副専攻	選択	ゲームプログラミング	久住　憲嗣	新施設小教室									
									スポーツ工学	3	副専攻	選択	ヒューマンコンピュータインタラクション	高嶋　和毅	5号館5274中教室									

2029年度後期時間割
（生命科学課程）

時限	木								金								土							
	学科	学年	系列	区分	科目名	主担当教員	教室	備考	学科	学年	系列	区分	科目名	主担当教員	教室	備考	学科	学年	系列	区分	科目名	主担当教員	教室	備考
	生命科学	1	副専攻	選択	情報理論	三好　匠	5号館5271多目的教室		医工学	2	主専攻	選択	流れ学	君島　真仁	5号館5242教室									
	生命科学	1	主専攻	選択	総合科学実験	高津先生	5号館5242教室		スポーツ工学	2	主専攻	選択	流れ学	君島　真仁	5号館5242教室									
	医工学	1	副専攻	選択	情報理論	三好　匠	5号館5271多目的教室		全	3	アントレプレナーシップ	選択	会計簿記	小山　友介										
	医工学	1	主専攻	選択	総合科学実験	小貫先生	5号館5242教室		生命科学	3	副専攻	選択	モバイルプログラミング	久住　憲嗣	5号館5451教室									
	スポーツ工学	1	副専攻	選択	情報理論	三好　匠	5号館5271多目的教室		医工学	3	主専攻	選択	バイオエンジニアリング実験	中村　奈緒子	新施設小教室									
	医工学	2	主専攻	必修	医工学セミナー	山本　紳一郎	5号館5351教室		医工学	3	副専攻	選択	モバイルプログラミング	久住　憲嗣	5号館5451教室									
	生命科学	3	主専攻	選択	構造解析学	須原　義智	5号館5341教室		スポーツ工学	3	副専攻	選択	モバイルプログラミング	久住　憲嗣	5号館5451教室									
4時限 15:10～16:50																								

2029年度後期時間割
（生命科学課程）

時限	木								金								土							
	学科	学年	系列	区分	科目名	主担当教員	教室	備考	学科	学年	系列	区分	科目名	主担当教員	教室	備考	学科	学年	系列	区分	科目名	主担当教員	教室	備考
	生命科学	1	副専攻	選択	材料・加工学	伊東敏夫	5号館5241教室		生命科学	1	主専攻	選択	Pythonプログラミング	高木　基樹	新施設大教室									
	生命科学	1	主専攻	選択	職業指導	山崎貞登	5号館5341教室		医工学	1	主専攻	必修	Pythonプログラミング	高木　基樹	新施設大教室									
	生命科学	1	副専攻	選択	電気回路	NICODIMUS RETDIAN	5号館5451教室		スポーツ工学	1	主専攻	必修	Pythonプログラミング	高木　基樹	新施設大教室									
	医工学	1	副専攻	選択	材料・加工学	伊東敏夫	5号館5241教室		全	2	システム工学	選択	Advanced Systems Science and Engineering1	市川　学	5号館5451教室									
	医工学	1	主専攻	選択	職業指導	山崎貞登	5号館5341教室		生命科学	2	副専攻	選択	Global Governance and Sustainable Strategy	KATRAMIZ TAREK	5号館5341教室									
	医工学	1	副専攻	選択	電気回路	NICODIMUS RETDIAN	5号館5451教室		医工学	2	副専攻	選択	Global Governance and Sustainable Strategy	KATRAMIZ TAREK	5号館5341教室									
	スポーツ工学	1	副専攻	選択	材料・加工学	伊東敏夫	5号館5241教室		スポーツ工学	2	副専攻	選択	Global Governance and Sustainable Strategy	KATRAMIZ TAREK	5号館5341教室									
	スポーツ工学	1	主専攻	選択	職業指導	山崎貞登	5号館5341教室		生命科学	3	副専攻	選択	自動車工学	渡邉　大	5号館5542教室									
	スポーツ工学	1	副専攻	選択	電気回路	NICODIMUS RETDIAN	5号館5451教室		生命科学	3	副専攻	選択	情報セキュリティ	山崎　託	5号館5271多目的教室									
	生命科学	2	副専攻	選択	環境ビジネス	KATRAMIZ TAREK	5号館5351教室		医工学	3	副専攻	選択	自動車工学	渡邉　大	5号館5542教室									
	生命科学	2	主専攻	選択	食品栄養学	廣田　佳久	5号館5251教室		医工学	3	副専攻	選択	情報セキュリティ	山崎　託	5号館5271多目的教室									
	医工学	2	副専攻	選択	環境ビジネス	KATRAMIZ TAREK	5号館5351教室		スポーツ工学	3	副専攻	選択	自動車工学	渡邉　大	5号館5542教室									
	医工学	2	主専攻	選択	食品栄養学	廣田　佳久	5号館5251教室		スポーツ工学	3	副専攻	選択	情報セキュリティ	山崎　託	5号館5271多目的教室									
	スポーツ工学	2	副専攻	選択	環境ビジネス	KATRAMIZ TAREK	5号館5351教室																	
	スポーツ工学	2	主専攻	選択	食品栄養学	廣田　佳久	5号館5251教室																	
5時限 17:00～18:40	全	3	アントレプレナーシップ	選択	産学官金連携PBL	長谷川　浩志	新施設大教室																	

学生の確保の見通し等を記載した書類

目次

（１）新設組織の概要 2
①新設組織の概要（名称，入学定員（編入学定員），収容定員，所在地） 2
②新設組織の特色 2
（２）人材需要の社会的な動向等 2
①新設組織で養成する人材の全国的，地域的，社会的動向の分析 2
②中長期的な１８歳人口等入学対象人口の全国的，地域的動向の分析 2
③新設組織の主な学生募集地域 4
④既設組織の定員充足の状況 4
（３）学生確保の見通し 4
①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果 4
ア 既設組織における取組とその目標 4
イ 新設組織における取組とその目標 5
ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく，新設組織での入学者の見込み数 5
②競合校の状況分析（立地条件，養成人材，教育内容と方法の類似性と定員充足状況） 6
ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析，優位性 6
イ 競合校の入学志願動向等 7
ウ 学生納付金等の金額設定の理由 7
③先行事例分析 8
④学生確保に関するアンケート調査 8
⑤人材需要に関するアンケート調査等 8
（４）新設組織の定員設定の理由 9

（１）新設組織の概要

①新設組織の概要（名称，入学定員（編入学定員），収容定員，所在地）

新設組織	入学定員	編入学定員	収容定員	所在地（教育研究を行うキャンパス）
システム理工学部生命科学課程	180	－	720	埼玉県さいたま市（大宮キャンパス）

②新設組織の特色

新設組織では、生命科学に関連する幅広い分野に対する基礎的知識と職業倫理を身につけた上で専門とする分野をもち、これらの技術に関する社会的ニーズに対して、システム思考に基づく創造的な発想から問題解決できる人材を養成する。具体的には、課程制による複数の専門領域を横断して学ぶことができる教育プログラムを設置する。キャリアデザインやシステム工学、SDGs、アントレプレナーシップといった学際科目で専門領域を繋ぎ、スキルセットであるモジュールを自由に組み合わせることで個性のある自由度の高い学修計画を立てることが可能となっている。

【既設組織】

名称：システム理工学部生命科学科

入学定員：115 名

収容定員：460 名

所在地の概要：埼玉県さいたま市（大宮キャンパス）

新組織開設後の予定：学生募集停止

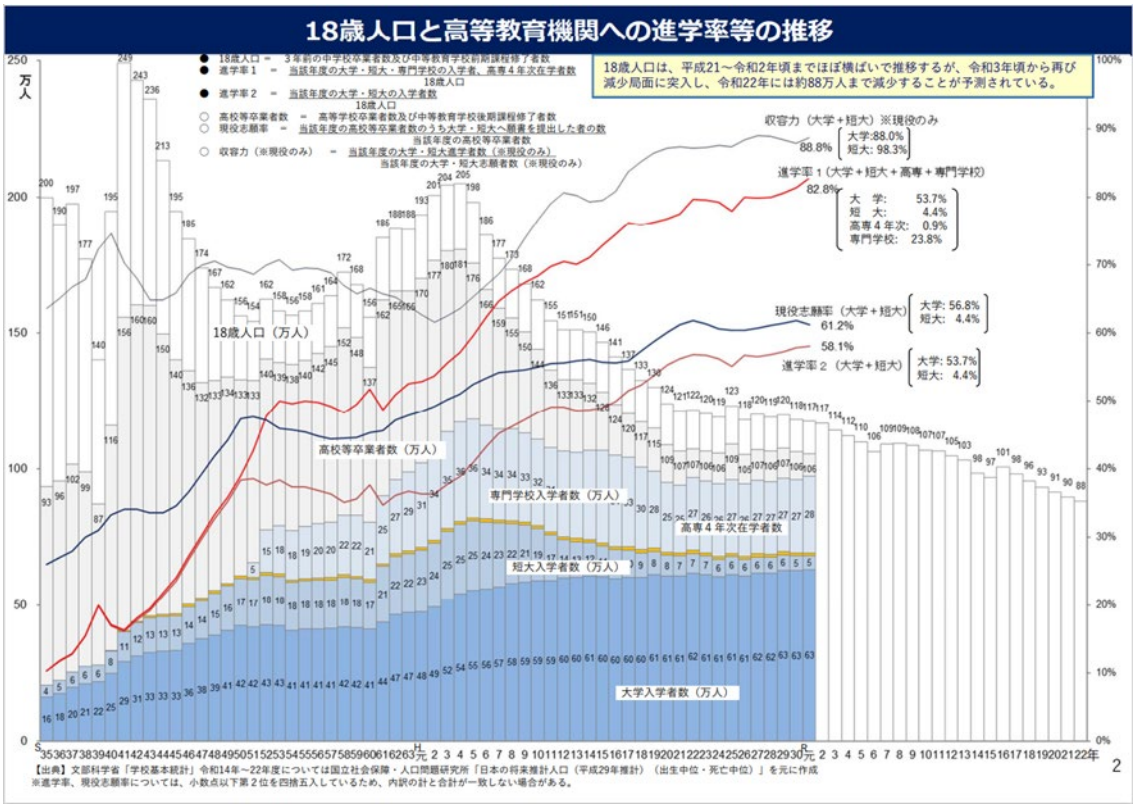
（２）人材需要の社会的な動向等

①新設組織で養成する人材の全国的，地域的，社会的動向の分析

新設組織で養成される人材は、日本社会において高い需要が見込まれる。新設組織では、少子高齢化の進行により、地域社会の構造が変化し、従来の医療・福祉制度では対応困難な課題が顕在化している。「Well-being」は、身体的・精神的・社会的な健康に加え、生きがいや持続的な幸福を含む概念であり、地域全体の幸福感を示す指標でもある。その向上は、高齢者や子供への支援だけでなく、労働者の生産性向上にも寄与するため、すべての人々にとって重要な課題となっている。また、社会的な動向として、柔軟な思考力と適応力を持つ人材のニーズは高まっている。システム思考に基づく問題解決能力は、複雑化する社会課題に対し有効なアプローチを可能にする。企業や組織が直面する課題に対し、根本的な解決策を見出す上で重要な能力である。アントレプレナーシップ教育は、不確実な未来を切り拓く人材育成に不可欠であり、国を挙げて推進されている。本課程の人材は、この社会的要請に応える存在となる。SDGs やキャリアデザイン等の学際科目は、社会課題解決に貢献できる人材を育成し、持続可能な社会を目指す企業や組織にとって魅力的な人材となる。自由度の高い学習計画は、多様化する産業界のニーズに柔軟に対応できる独自のスキルセットを持つ人材を輩出する。新設組織が輩出する人材は、生命や健康を体系的に捉え、システム思考に基づく創造的な発想から人の健康に関する諸問題を解決技術革新や社会変革に対応し、創造的に問題解決できる能力を持つため、多様な分野で活躍が期待される。

②中長期的な１８歳人口等入学対象人口の全国的，地域的動向の分析

【図表１】18 歳人口と高等教育機関への進学率等の推移



文部科学省及び内閣府資料（「18　歳人口と高等教育機関への進学率の推移」【図表１】）によると、今後 18 歳人口は令和５年から令和９年頃までほぼ横ばいで推移し、令和 10 年以降緩やかに減少すると予想されている。

一方で、首都圏においては、人口減少の度合いは緩やかであり、進学率の高さと相まって今後も大規模なマーケットが持続的に存在すると予想される。【図表２】のとおり、新設組織が置かれる埼玉県に限定しても、充足率は過去３年間の平均 96%超を得ていることからも安定した入学希望者がいるということがわかる。

【図表２】都道府県別定員充足率

	令和４年度	令和５年度	令和６年度	平均
関東	99.49	97.47	102.35	100.50
埼玉	99.80	97.50	91.19	96.16
千葉	97.46	95.48	94.52	97.61
東京	103.48	103.46	102.20	102.58
神奈川	100.33	98.85	96.29	99.53
上記を除く全国	96.73	93.45	95.88	95.35

※関東は茨城・栃木・群馬の合計

※日本私立学校振興・共済事業団　私立大学・短期大学等入学志願動向より

また、新設組織が置かれる埼玉県への進学者については、別紙１のとおり、埼玉県と東京都出身者（出身高校）だけで 80%を超えており、特に地元である埼玉県の高校からの進学者が全体の 52.8%となっていることから、半分以上が地元からの進学であることが分かる。

これらのことから、本学は大学進学に高い意欲（実績）を示している地域から安定した志願者を確保しており、将来、国内の 18 歳人口が減少する局面にあっても新設組織が置かれる埼玉県において、志願

者数が著しく減少する可能性は低いと考える。

【添付データ】

・新設組織が置かれる都道府県への入学状況（別紙１）

③新設組織の主な学生募集地域

本学の状況としても、首都圏から多くの入学者が集まっており、図表３の通り約 83%の入学者が一都六県からとなっている。埼玉県に限定しても約 18%と、その割合からも埼玉県に設置予定の新設組織への進学者は十分確保できると考える。

【図表３】一都六県からの本学入学者の状況

	令和４年度	令和５年度	令和６年度	平均数	平均比率
茨城	75(3.67%)	67（3.73%）	59(3.16%)	67	3.52%
栃木	51(2.49%)	39（2.17%）	38(2.03%)	42.66	2.23%
群馬	32(1.56%)	32（1.78%）	29(1.55%)	31	1.63%
埼玉	402(19.68%)	324（18.05%）	395(21.15%)	373.66	19.62%
千葉	247(12.09%)	216（12.03%）	190(10.17%)	217.66	11.43%
東京	665(32.56%)	591（32.92%）	630(33.74%)	628.66	33.07%
神奈川	233(11.41%)	221（12.31%）	182(9.74%)	212	33.46%
一都六県計	1,705(83.49%)	1,490(83.00%)	1,523(81.57%)	1,572.66	82.68%
全国	2,042(100%)	1,795(100%)	1,867(100%)	1921.33	100%

※本学の入試データより作成

④既設組織の定員充足の状況

既設学科の定員充足の状況については、別紙２―４の通り、いずれの学科においても安定的に志願者および入学者を獲得できている。特に近年は総合型選抜、学校推薦型選抜などの年内入試の志願者が多くなっており、約 40%が年内入試での入学者となっている。年内に安定的に合格者、入学者を得た上で、一般入試においてもいずれの学科、いずれの入試方式においても競争率約３倍を保っており、十分な志願者の選抜を行うことができる状況となっている。

【添付データ】

・既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）（別紙２－４）

（３）学生確保の見通し

①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

ア 既設組織における取組とその目標

学生確保に向けては、これまでもオープンキャンパスの開催や大学案内その他各種媒体を用いたプロモーション活動を行っており、別紙３の通りの実績となっている。

《オープンキャンパス》

令和４年度入試に際してはオンラインでの開催、令和５年度入試に際しては事前申し込み定員制での参加者数となっている。当該年度の受験者としては、過去２年でいずれも 70%を超えるなど、高い受験率となっており、オープンキャンパスの満足度も高いことから、本イベントで出願を決めた、また意欲を高めた層が多くいることがわかる。本学のオープンキャンパスは、キャンパスの雰囲気を体験し、実際に研究内容を見学することで自身のやりたい学問を見つけてもらう機会として実施しており、特に近

年は年内入試の受験希望者がより具体的に学問分野を知りたいという理由で参加することも多く、高い受験率と直結していると考えられる。

《資料請求（大学案内パンフレット)》

各種メディアを通じて資料請求を受け付けているが、毎年２万人以上の資料請求者がおり、当該年度に絞ると、資料請求者のうち実際に受験した者が 48%と、資料請求者は本学の受験を真剣に考えている層が多くいると考えられ、こちらも高いプロモーション効果を得ている。

《高校との連携》

本学には２つの附属/併設校があり、毎年、各校の１年生、２年生に対してシステム理工学部主催による大宮キャンパス見学会が開催されている。システム理工学部の概要などの説明のほか、キャンパス見学、研究室体験などの企画が催され、これをきっかけに毎年システム理工学部を志す生徒が多くおり、推薦入試によって安定的に入学者を確保している。

また令和４年度には、埼玉県を拠点としている学校法人佐藤栄学園と協定を結び、高大連携の取り組みを実施している。同学園は、栄東高校、埼玉栄高校、栄北高校、花咲徳栄高校を設置しており、キャンパス見学イベントや説明会などを実施し連携を図っており、地元埼玉にあるシステム理工学部への進学意欲向上にもつながっている。また、あわせてシステム理工学部を中心に協定校推薦入試の制度も設けており、同学園から安定的に入学者を受け入れている。

そのほか、埼玉県、千葉県の高校の進路指導教員を大宮キャンパスに招き、大学説明会、学部長との懇談会、キャンパス見学会などを定期的に実施している。令和６年度は３回開催し、高校とのコミュニケーション増進を図っている。

【添付データ】

・既設学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績（別紙３）

イ 新設組織における取組とその目標

上記活動は、新設組織においても引き続き実施していく。

今後はさらに、まだ一般には耳慣れない「課程制」という新しい工学の学び方の認知度を高めるため、オープンキャンパス、高校説明会、相談会のほか Web サイトや SNS などのデジタル施策も含めて複合的に広報活動を実施し、システム理工学部の学び方がこれからの社会にとって必要なものであるという点を訴求する活動を行っていく。

そのため、イベントやパンフレット等でも、まず学問分野を選ぶ前に、課程制への理解を深めるためのコンテンツを多く用意して生徒たちに示す。

また、引き続き高校との連携は強化していく。特に新設組織のある埼玉県の高校からの注目度が高いと見込まれるため、埼玉県の高校訪問や相談会に積極的に参加していく。

ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく，新設組織での入学者の見込み数

オープンキャンパスについては、対面実施において令和５年度は 1,000 人、令和６年度は 2,000 人と事前申し込みの定員制と制限していたが、コロナ禍の収束とともに人数制限も大幅に緩和する予定としているため、参加者数も増加することが見込まれる。また資料請求も令和５年までは有料としていたが、

令和６年からは無料にしたことで資料請求数も大幅に増えることが予想されている。前述のどおり、参加者、請求者からの受験率が高いこと、また埼玉エリアへの重点施策により施設組織の認知が高くなることで、入学者は十分定員を満たすことが可能と考えられる。

②競合校の状況分析（立地条件，養成人材，教育内容と方法の類似性と定員充足状況）

ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析，優位性

新設の競合校として、以下の大学をあげる。

・法政大学生命科学部生命機能学科（設置場所：東京都小金井市）

（カリキュラムの特徴）

「ゲノム機能」「蛋白質機能」「細胞機能」の 3 コースで構成され、それぞれゲノムの全遺伝子機能解明、蛋白質の合成と機能発現の仕組み、細胞の個性解明を目指す。科学英語の習得を重視し、最先端の生命科学教育を提供している。

・東京理科大学創域理工学部生命生物科学科（設置場所：千葉県野田市）

（カリキュラムの特徴）

動物・植物・微生物・薬学・環境など多様な分野をカバーし、研究室間の交流も盛ん。大学院進学を見据えた 6 年一貫教育コースも用意されており、早期から高度な専門教育を受けることができる。

・東京理科大学先進工学部機能デザイン工学科（設置場所：東京都葛飾区）

（カリキュラムの特徴）

基礎科学、デザイン思考、プログラミングを共通の学びとし、専門性の高い 2 コースへと発展させる。4 年次では「メディカル機能」「知能認識」「運動ロボティクス」の 3 研究領域から 1 つを選び、卒業研究を通じて社会課題解決のためのデザイン思考を実践的に学ぶ。

・東京都市大学理工学部医用工学科（設置場所：東京都世田谷区）

（カリキュラムの特徴）

電気電子工学と機械工学の基礎を学びつつ、解剖学や生理学などの医学基礎も学習する。関連医療機関と連携し、医療現場での実践的な学びも提供している。このカリキュラム構成により、工学的アプローチで医療問題を解決できる複合技術エンジニアの育成を目指している。

・立教大学スポーツウエルネス学部スポーツウエルネス学科（設置場所：埼玉県新座市）

（カリキュラムの特徴）

多元的な健康観「ウエルネス」を追究するため、「アスリートパフォーマンス」「ウエルネススポーツ」「環境・スポーツ教育」の 3 つの領域から専門的にアプローチし、段階的に学びを深める。実践的な学びも重視し、スポーツ指導者やトレーナーなどの資格取得も可能。

・東洋大学健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科（設置場所：東京都北区）

（カリキュラムの特徴）

スポーツを機能的、社会・文化的側面から多角的に捉え、科学的思考を伴った専門知識と技術の修得を目指している。実践的な学びを重視し、充実したスポーツ施設を活用した実技や、多様なスポーツ体験を通じて、健康づくりやアスリートのパフォーマンス向上、QOL 向上に貢献できる人材育成を目指している。

新設組織は埼玉県さいたま市に設置される。カリキュラムの特徴としては、生命科学に関連する幅広い分野に対する基礎的知識と職業倫理を身につけるだけでなく、課程制による複数の専門領域を横断して学ぶことができる教育プログラムがあげられる。キャリアデザインやシステム工学、SDGs、アントレプレナーシップといった学際科目で専門領域を繋ぎ、スキルセットであるモジュールを自由に組み合わせることで個性のある自由度の高い学修計画を立てることが可能となっている。これらの教育プログラムが競合校との比較において新設組織に優位性があると言える。

イ 競合校の入学志願動向等

競合校となる学科等の過去３年間の入学志願状況については、総合型選抜及び学校推薦型選抜の志願者数が一部非公開であること等により、志願者数や受験者数、合格者数が不明の学科が多い。入学者数については各大学の公開している大学基礎資料等で把握することができた。いずれの大学も平均した定員充足率は100%を超えている。

【図表５】競合校の過去３年間の入学志願状況

		法政大学 生命科学部 生命機能学科	東京理科大学 創域理工学部 生命生物科学科	東京理科大学 先進工学部 機能デザイン工学科	東京都市大学 理工学部 医用工学科	立教大学 スポーツウエルネス学部 スポーツウエルネス学科	東洋大学 健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科
令和４年度	志願者数	—	1,817 名	—	—	—	—
	受験者数	—	—	—	—	—	—
	合格者数	—	718 名	—	—	—	—
	入学者数	65 名	102 名	—	70 名	—	—
	定員充足率（%）	87.8	85.0	—	116.7	—	—
令和５年度	志願者数	—	1,814 名	1,405 名	—	2,010 名	—
	受験者数	—	—	—	—	—	—
	合格者数	—	722 名	582 名	—	656 名	—
	入学者数	94 名	118 名	129 名	62 名	232 名	239 名
	定員充足率（%）	127.0	107.3	112.2	103.3	100.9	103.9
令和６年度	志願者数	—	1,984 名	1,752 名	—	2,089 名	—
	受験者数	—	—	—	—	—	—
	合格者数	—	720 名	571 名	—	650 名	—
	入学者数	102 名	111 名	133 名	61 名	231 名	249 名
	定員充足率（%）	137.8	100.9	115.7	101.7	100.4	108.3

ウ 学生納付金等の金額設定の理由

新設組織の学費は【図表６】のとおりである。【図表７】からも分かるとおり、競合校の学費とほぼ同等の水準となり、妥当な金額設定であるといえる。

【図表６】新設組織の学費等

学費項目	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	4 年間合計
入学金	280,000	－	－	－	280,000
授業料	1,199,000	1,199,000	1,299,000	1,299,000	4,996,000
維持料	283,000	283,000	283,000	283,000	1,132,000
計	1,762,000	1,482,000	1,582,000	1,582,000	6,408,000

【図表７】競合校の学費等（初年度納入額）

大学	金額
法政大学	1,824,000 円（生命科学部生命機能学科）
東京理科大学	1,849,740 円（創域理工学部生命生物科学科）
東京理科大学	1,832,740 円（先進工学部機能デザイン工学科）
東京都市大学	1,822,000 円（理工学部医用工学科）
立教大学	1,473,500 円（スポーツウエルネス学部スポーツウエルネス学科）
東洋大学	1,505,000 円（健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科）

③先行事例分析

該当なし。

④ 学生確保に関するアンケート調査

令和６年 10 月から 12 月にかけて本学が独自に実施した高校生アンケート調査では、高校卒業後の進路に「大学」、その上で志望する大学の設置者に「私立」、さらには芝浦工業大学が設置構想中のシステム理工学部 課程制 生命・健康科学課程（仮称・以下同課程）と関連のある学問分野（いずれかまたは複数）に興味を示した高校生は 4,071 人であった。そのうち芝浦工業大学 システム理工学部課程制（仮称）において最も興味があるのは同課程のいずれかのコースとしたのは 721 人であった。その上で同課程を「第一志望として受験する」としたのは 121 人、「第二志望として受験する」124 人、「第三志望以降として受験する」344 人と合計すると 589 人（予定する入学定員 180 名の 3.3 倍）であった。同課程に対し「第一志望として受験する」とした上で「入学する」は 104 人であったが、「第二志望として受験する」または「第三志望以降として受験する」とした上で「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」は合計で 392 人おり、併願者を含めると同課程の入学定員充足については十分な見通しがあると判断できる。

なお、アンケート実施後に生命・健康科学課程から生命科学課程に名称を変更したが、この名称の変更が入学意向に与える影響は少ないと思われるため、アンケート結果は有効であると考える。

⑤人材需要に関するアンケート調査等

システム理工学部全体の社会的需要について、昨年度の就職実績に基づき「芝浦工業大学システム理工学部課程制（仮称）設置構想についての人材需要アンケート調査（別紙５）」における生命科学課程に関する採用可能人数がどの程度になるかを推計した。具体的には、令和６年 11 月から 12 月にかけて本学が独自に実施した人材需要に関するアンケート調査では、「ニーズは高い」が 322 箇所（57.9%）、「ニーズはある程度高い」200 箇所（36.0%）で、合計すると 522 箇所（93.9%）がそのニーズの高さを認める結果となった。また、478 箇所（86.0%）が採用意向を示し、そのうえで採用可能人数（単年度）合計は、予定する学部の総入学定員 705 名の 1.3 倍となる 928 名であった。その内「製造業」「IT 関連業」「卸売・小売業」「その他サービス業」における採用可能人数は 661 名であった。過去の実績（2024 年度)において、システム理工学部全体では上記業種に就職した学部卒業生は 224 名、その内生命科学科の学部の卒業生は34名おり、同業種就職者における生命科学科卒業生の割合は34÷224　15.1%であった。このことから、【図表 8】にあるとおり、およそ同業種に限ってみても生命科学科の学生を採用したいという需要は 100 名程度あると推察される。これは新設組織である生命科学課程の大学院進学率が学年定員の60%と仮定した場合（昨年実績64%）の学部卒業生72名（入学定員180名×40%=72名）を上回ることから、新組織に対する社会的な人材ニーズは高いと判断できる。

また 2024 年度に本学に寄せられた求人件数 5,544 件の内、生命科学科を対象にした求人は 1,864 件あり、求人件数は生命科学課程卒業生の 26 倍（生命科学科求人件数 1,864 件÷学部卒業生 72 名＝26 倍）

と人材需要は十分にあると推察される。実際、2024 年度の就職実績において生命科学科卒業生 115 名のうち大学院進学者は 74 名、残り 41 名は全員就職しており、就職率は 100%であった。

【図表８】システム理工学部人材需要に関するアンケート調査結果と 2024 年度システム理工学部生命科学科における就職者数

システム理工学部人材需要に関するアンケート調査における採用可能人数	左記の内、製造、IT 関連、卸売小売、その他サービス業における採用可能人数	左記の内、生命科学科における採用可能人数の推計	割合（下記割合と同一になると推察）
982 人	661 人	100 人	15.1%
	上記業界における　2024 年度システム理工学部就職者数	左記の内、生命科学科における学部生就職者数	割合
	224 人	34 名	15.1%

【添付データ】芝浦工業大学システム理工学部課程制（仮称）設置構想についての人材需要アンケート調査報告書（別紙５）

（４）新設組織の定員設定の理由

前述のとおり、新設組織の人材需要の社会的動向では、日本社会において高い需要が見込まれている。生命科学関連の幅広い知識と専門性を持ち、システム思考による創造的な問題解決能力を備えた人材は、デジタル社会の変革に不可欠である。アントレプレナーシップや SDGs などの学際的な教育は、社会課題解決に貢献できる人材を育成する。また、自由度の高い学習計画により、多様化する産業界のニーズに柔軟に対応できる独自のスキルセットを持つ人材を輩出する。国が進める不足するデジタル人材のへの対応となる事業である「大学・高専機能強化支援事業」において、新設組織は（支援１）に採択されており、これらの能力を持つ人材は、生命や健康を体系的に捉え、システム思考に基づく創造的な発想から人の健康に関する諸問題を解決技術革新や社会変革に対応し、創造的に問題解決できる能力を持つため、多様な分野での活躍が期待される。

既設組織の過年度入学志願者の状況や定員充足の状況は、過去５年間の平均志願者数は 2,328 名おり、平均合格者数は 844 名であることから、競争率は 2.8 倍ある。今後も PR 施策としてオープンキャンパス参加定員人数の大幅緩和や大学案内の無料化、Web を通じてのデジタル施策の実施などにより、新設組織への注目度や志願度が益々高まると考える。収容定員を既設組織の 460 名から 720 名と約 1.6 倍増とするが、生命科学分野の社会的需要を各種 PR 施策で伝えることにより志願者を増やすことで、合格者数を増やし競争率を約 4 倍から 2 倍超に引き下げたとしても、競争率と学力を担保しながら入学者数を増やすことは可能だと考える。

《別紙目次》

別紙１　新設組織が置かれる都道府県への入学状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
別紙２　既設学科等の入学定員の充足状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
別紙３　既設学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績・・・・・・・・・・・・・・・4
別紙４　芝浦工業大学システム理工学部課程制（仮称）設置構想についての
　　高校生アンケート調査報告書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
別紙５　芝浦工業大学システム理工学部課程制（仮称）設置構想についての
　　人材需要アンケート調査報告書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37

新設組織が置かれる都道府県への入学状況

別紙１

〇出身高校の所在地県別の入学者数の構成比（上位５都道府県）※直近年度

	都道府県名	人　　数	構成比
1	埼玉県	9,657人	52.8%
2	東京都	5,142人	28.1%
3	千葉県	1,625人	8.9%
4	栃木県	1,050人	5.7%
5	神奈川県	823人	4.5%
	全　　体	18,297人	100.0%

※「学校基本調査」の「出身高校の所在地県別入学者数」から作成すること。

※大学、学部、学部の学科、短期大学、短期大学の学科を設置する場合のみ作成（専門職大学、専門職短期大学、高等専門学校を含む）。大学院は作成不要。

〇新設組織が置かれる都道府県の定員充足状況

	新組織所在地（都道府県等）	充足率		
		令和４年度	令和５年度	令和６年度
1	埼玉県	98.83%	98.90%	98.03%
2				

※２校地で教育課程を実施する場合はそれぞれの状況を記載すること。

〇新設組織の学問分野（系統区分）の定員充足状況

	系統区分	充足率		
		令和４年度	令和５年度	令和６年度
1	理・工学系	100.90%	104.35%	101.88%
2				

※「系統区分」は日本私立学校振興・共済事業団の「今日の私学財政」の系統区分に従うこと。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間） 別紙２

大学学部学科等名：芝浦工業大学システム理工学部生命科学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平　均
総合型選抜	募集人員		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	1人	3人	1人	12人	16人	7人
		受験者数	1人	3人	1人	12人	16人	7人
		合格者数	1人	2人	1人	10人	14人	6人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	1人	4人	1人
	実人数	志願者数	1人	3人	1人	12人	16人	7人
		受験者数	1人	3人	1人	12人	16人	7人
		合格者数	1人	2人	1人	10人	14人	6人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	1人	4人	1人
	入学者数		1人	2人	1人	9人	10人	5人
学校推薦型選抜	募集人員		13人	14人	22人	20人	28人	19人
	延べ人数	志願者数	29人	34人	32人	33人	67人	39人
		受験者数	29人	34人	32人	33人	67人	39人
		合格者数	29人	34人	32人	33人	67人	39人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	29人	34人	32人	33人	67人	39人
		受験者数	29人	34人	32人	33人	67人	39人
		合格者数	29人	34人	32人	33人	67人	39人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		29人	34人	32人	33人	67人	39人
一般選抜	募集人員		65人	65人	65人	64人	58人	63人
	延べ人数	志願者数	1177人	1014人	1106人	1194人	1361人	1170人
		受験者数	1102人	952人	1042人	1118人	1284人	1100人
		合格者数	438人	407人	418人	400人	281人	389人
		うち追加合格者数	55人	55人	19人	3人	5人	27人
		辞退者数	366人	356人	368人	339人	245人	335人
	実人数	志願者数	944人	830人	883人	952人	1067人	935人
		受験者数	888人	777人	840人	896人	1014人	883人
		合格者数	398人	371人	380人	367人	265人	356人
		うち追加合格者数	52人	55人	19人	3人	5人	27人
		辞退者数	326人	320人	330人	306人	229人	302人
	入学者数		72人	51人	50人	61人	36人	54人
共通テスト利用入試	募集人員		28人	28人	28人	18人	16人	24人
	延べ人数	志願者数	1143人	1106人	1149人	1244人	897人	1108人
		受験者数	1137人	1096人	1146人	1239人	890人	1102人
		合格者数	454人	540人	541人	327人	178人	408人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	439人	506人	516人	317人	175人	391人
	実人数	志願者数	1136人	1101人	1139人	1235人	891人	1100人
		受験者数	1130人	1091人	1136人	1231人	884人	1094人
		合格者数	454人	539人	540人	326人	178人	407人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	439人	505人	515人	316人	175人	390人
	入学者数		15人	34人	25人	10人	3人	17人
その他の特別選抜	募集人員		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	9人	8人	2人	1人	0人	4人
		受験者数	9人	8人	2人	1人	0人	4人
		合格者数	4人	6人	1人	1人	0人	2人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	3人	3人	0人	1人	0人	1人
	実人数	志願者数	9人	8人	2人	1人	0人	4人
		受験者数	9人	8人	2人	1人	0人	4人
		合格者数	4人	6人	1人	1人	0人	2人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	3人	3人	0人	1人	0人	1人
	入学者数		1人	3人	1人	0人	0人	1人
合計	募集人員		106人	107人	115人	102人	102人	106人
	延べ人数	志願者数	2359人	2165人	2290人	2484人	2341人	2328人
		受験者数	2278人	2093人	2223人	2403人	2257人	2251人
		合格者数	926人	989人	993人	771人	540人	844人
		うち追加合格者数	55人	55人	19人	3人	5人	27人
		辞退者数	808人	865人	884人	658人	424人	728人
	実人数	志願者数	2119人	1976人	2057人	2233人	2041人	2085人
		受験者数	2057人	1913人	2011人	2173人	1981人	2027人
		合格者数	886人	952人	954人	737人	524人	811人
		うち追加合格者数	52人	55人	19人	3人	5人	27人
		辞退者数	768人	828人	845人	624人	408人	695人
	入学者数		118人	124人	109人	113人	116人	116人

２．入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平　均
入学定員	115人	115人	115人	115人	115人	115人
入学定員充足率	1.03	1.08	0.95	0.98	1.01	1.01
歩留率	0.13	0.13	0.11	0.15	0.21	0.14

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績

別紙３

①募集を行った学科等名称及び取組の名称：システム理工学部のオープンキャンパス

	R5年度 入学者入試	R6年度 入学者入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	7680人	8884人	①取組概要 ●R5年度入試に向けては、コロナ禍を鑑みて人数を制限したうえでキャンパスを開放し、既設学部の特色や養成する人材像の紹介、模擬授業、在学生との懇談、施設案内等を実施。計4回（2023年7月30日、31日、8月20日、21日）。 ●R6年度入試に向けては、コロナ禍の緩和を些か考慮しつつも一部人数を制限したうえでキャンパスを解放し、既設学部の特色や養成する人材像の紹介、模擬授業、在学生との懇談、施設案内等を実施。計5回（2024年7月29日、30日、8月18日、19日、20日）。 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 左記2年分の本取組の「参加者等総数(a)」はコロナ禍のため参加者数に上限を設けた状況での数値であり、直近のR7年度入試に向けた同取組では参加者総数：約16000人、うち受験対象者数：約5500人であった。R8年度入試に向けても同程度以上の規模で実施予定であることから、R7年度実績の「うち受験対象者数」（約5500人）に左記入学率(7%)をかけ、約385人の入学者数の見込み。 ③「うち受験対象者数(b)」に該当すると判断した根拠 「参加者総数(a)」のうち、参加時アンケートにて「学年」を「高校3年」または「既卒」と回答したものの数から算出
うち受験対象者数(b)	2918人	3376人	
うち受験者数(c)	2129人	2543人	
うち入学者数(d)	221人	239人	
（受験率 c/b）	73%	75%	
（入学率 d/b）	8%	7%	

②募集を行った学科等名称及び取組の名称：芝浦工業大学の大学案内の配付（郵送）

	R5年度 入学者入試	R6年度 入学者入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	22389人	24897人	①取組概要 大学公式Webサイトおよび各種進学情報サイトより資料請求を受付、配付（郵送）。 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 左記2年分の本取組の「うち受験対象者数(b)」（約12000人）に左記入学率（3%）をかけると、約360人の入学者数の見込み。 ③「うち受験対象者数(b)」に該当すると判断した根拠 「参加者総数(a)」のうち、資料請求時のアンケートにて「学年」を「高校3年」または「既卒」と回答したものの数から算出
うち受験対象者数(b)	11298人	12494人	
うち受験者数(c)	5477人	6058人	
うち入学者数(d)	398人	343人	
（受験率 c/b）	48%	48%	
（入学率 d/b）	4%	3%	

③募集を行った学科等名称及び取組の名称：

	R5年度 入学者入試	R6年度 入学者入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)			
うち受験対象者数(b)			
うち受験者数(c)			
うち入学者数(d)			
（受験率 c/b）	#DIV/0!	#DIV/0!	
（入学率 d/b）	#DIV/0!	#DIV/0!	

④募集を行った学科等名称及び取組の名称：

	R5年度 入学者入試	R6年度 入学者入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)			
うち受験対象者数(b)			
うち受験者数(c)			
うち入学者数(d)			
（受験率 c/b）	#DIV/0!	#DIV/0!	
（入学率 d/b）	#DIV/0!	#DIV/0!	

⑤募集を行った学科等名称及び取組の名称：

	R5年度 入学者入試	R6年度 入学者入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)			
うち受験対象者数(b)			
うち受験者数(c)			
うち入学者数(d)			
（受験率 c/b）	#DIV/0!	#DIV/0!	
（入学率 d/b）	#DIV/0!	#DIV/0!	

芝浦工業大学

システム理工学部 課程制（仮称）

設置構想についての高校生アンケート調査

報告書

目次

1.　高校生アンケート調査 概要..... 2

2.　調査実施高等学校等一覧..... 3

3.　高校生アンケート調査 集計結果..... 6

4.　高校生アンケート調査 結果の要点..... 15

（１）情報課程（仮称）..... 15

（２）機械・電気課程（仮称）..... 17

（３）建築・環境課程（仮称）..... 19

（４）生命・健康科学課程（仮称）..... 21

（５）数理科学課程（仮称）..... 23

高校生アンケート調査用紙..... 25

「システム理工学部 課程制（仮称）」リーフレット..... 27

1.高校生アンケート調査 概要

調査目的	令和8年（2026年）度に芝浦工業大学が設置構想中の「システム理工学部 課程制」（入学定員：情報課程240名、機械・電気課程90名、建築・環境課程120名、生命・健康科学課程180名、数理科学課程75名）における志願者・入学者等の学生確保の見込みを測定することを目的とする。
調査対象	[調査対象] 令和8年3月に高校卒業予定である高校2年生（令和6年度） [調査地域] 「システム理工学部 課程制」の主たる学生募集エリアと想定される高等学校133校から調査の協力を得た。 また、オープンキャンパスに来場した学生には個別で調査の協力を得た。
調査内容	・回答者の基本情報（性別、居住地） ・卒業後の志望進路 ・志望する大学等の設置者 ・興味のある学問分野 ・芝浦工業大学「システム理工学部 課程制」特色への興味・関心 ・芝浦工業大学「システム理工学部 課程制」への受験・入学意向
調査時期	令和6年10～12月
調査方法	高校側の希望に基づき、紙方式・WEB方式のいずれかでアンケート調査を実施。 [紙方式] ① 高校での実施依頼分については、各高校の希望に基づき、アンケート用紙・「システム理工学部 課程制」リーフレットを必要部数送付。ホームルームで配付の上、その場で回答し回収いただいた。 ② オープンキャンパス実施分については、協力を承諾いただいた来場者に対し、個別にアンケート用紙・「システム理工学部 課程制」リーフレットを配布し、その場で回答いただいた。 [WEB方式] 担当教員のメールアドレスにアンケート調査サイトURLおよびアクセス用QRコードを送付。自校対象生徒のタブレット端末等に配信の上、原則その場で回答し送信するよう促していただいた。
回収件数	有効回答数14,808件（計133校13,714件、オープンキャンパス1,094件）

2.調査実施高等学校等一覧

番号	高校コード	高校名	件数	番号	高校コード	高校名	件数
1	01298A	苫小牧東高等学校	210	31	10509A	樹徳高等学校	45
2	01556D	クラーク記念国際高等学校	117	32	10512A	高崎健康福祉大学高崎高等学校	104
3	04503K	東北学院高等学校	45	33	11102D	熊谷高等学校	168
4	04507B	尚絅学院高等学校	66	34	11105J	松山高等学校	22
5	04512J	聖ウルスラ学院英智高等学校	109	35	11117B	浦和西高等学校	10
6	05104H	秋田工業高等学校	19	36	11122J	越ケ谷高等学校	38
7	08104D	日立第一高等学校	78	37	11130K	朝霞高等学校	266
8	08122B	緑岡高等学校	131	38	11136J	坂戸高等学校	75
9	08147H	土浦第二高等学校	243	39	11175K	越谷南高等学校	36
10	08163K	下館第一高等学校	111	40	11184J	川越南高等学校	71
11	08175C	水海道第一高等学校	28	41	11205E	杉戸高等学校	101
12	08179F	古河第三高等学校	199	42	11213F	浦和南高等学校	110
13	08196F	水戸桜ノ牧高等学校	80	43	11223C	朝霞西高等学校	66
14	08211C	伊奈高等学校	75	44	11242K	大宮南高等学校	36
15	08510D	土浦日本大学高等学校	4	45	11507A	本庄第一高等学校	65
16	08512A	東洋大学附属牛久高等学校	15	46	11515A	本庄東高等学校	47
17	08515E	江戸川学園取手高等学校	153	47	11521F	星野高等学校	38
18	08517A	常総学院高等学校	54	48	11529A	浦和学院高等学校	239
19	08521K	つくば秀英高等学校	46	49	11530E	栄東高等学校	259
20	09102C	宇都宮東高等学校	74	50	11533K	獨協埼玉高等学校	30
21	09105H	宇都宮中央女子高等学校	263	51	11540B	花咲徳栄高等学校	69
22	09122H	栃木女子高等学校	122	52	11545C	東京農業大学第三高等学校	85
23	09153H	黒磯高等学校	158	53	11549F	栄北高等学校	167
24	09174A	栃木翔南高等学校	72	54	12103H	千葉東高等学校	57
25	09508H	佐野日本大学高等学校	68	55	12107A	千葉南高等学校	1
26	10103G	前橋女子高等学校	36	56	12111J	八千代高等学校	187
27	10111H	高崎工業高等学校	9	57	12117H	鎌ケ谷高等学校	188
28	10126F	沼田高等学校	28	58	12120H	国府台高等学校	133
29	10504A	新島学園高等学校	66	59	12121F	国分高等学校	238
30	10508C	東京農業大学第二高等学校	137	60	12125J	小金高等学校	29

番号	高校コード	高校名	件数	番号	高校コード	高校名	件数
61	12126G	松戸国際高等学校	90	91	13607H	江戸川女子高等学校	62
62	12130E	柏南高等学校	75	92	13608F	関東第一高等学校	85
63	12144E	佐原高等学校	137	93	13609D	品川翔英高等学校	125
64	12161E	長生高等学校	147	94	13612D	品川女子学院高等部	74
65	12230A	柏中央高等学校	114	95	13617E	立正大学付属立正高等学校	83
66	12504A	千葉敬愛高等学校	112	96	13632J	田園調布学園高等部	65
67	12512B	和洋国府台女子高等学校	19	97	13642F	駒場学園高等学校	75
68	12515G	千葉英和高等学校	358	98	13666C	東亜学園高等学校	37
69	12517C	日出学園高等学校	107	99	13681G	日本大学第二高等学校	153
70	12523H	敬愛学園高等学校	109	100	13685K	芝浦工業大学附属高等学校	179
71	12539D	八千代松陰高等学校	39	101	13696E	本郷高等学校	146
72	12546G	東京学館浦安高等学校	90	102	13709A	工学院大学附属高等学校	205
73	12554H	西武台千葉高等学校	330	103	13713J	八王子学園八王子高等学校	99
74	13009F	東京学芸大学附属国際中等教育学校	87	104	13714G	八王子実践高等学校	36
75	13120C	江戸川高等学校	115	105	13720A	錦城高等学校	22
76	13176J	石神井高等学校	252	106	13723F	拓殖大学第一高等学校	57
77	13204H	調布北高等学校	44	107	13731G	聖徳学園高等学校	166
78	13206D	豊島高等学校	282	108	13746E	穎明館高等学校	57
79	13236F	深川高等学校	187	109	14138A	横須賀（県立）高等学校	21
80	13289G	成瀬高等学校	254	110	14180B	伊志田高等学校	93
81	13501B	大妻高等学校	104	111	14206K	戸塚高等学校	36
82	13514D	東洋高等学校	145	112	14258B	大船高等学校	3
83	13515B	二松學舎大学附属高等学校	37	113	14503D	横浜共立学園高等学校	80
84	13537C	明治学院高等学校	77	114	14507G	関東学院高等学校	66
85	13539K	山脇学園高等学校	90	115	14510G	横浜清風高等学校	431
86	13550A	國學院高等学校	161	116	14535B	横須賀学院高等学校	34
87	13551J	実践女子学園高等学校	71	117	14544A	鎌倉学園高等学校	99
88	13556K	東京女学館高等学校	72	118	14554J	藤嶺学園藤沢高等学校	101
89	13562D	跡見学園高等学校	65	119	14557C	向上高等学校	57
90	13574H	昭和第一高等学校	64	120	14564F	相模女子大学高等部高等学校	125

番号	高校コード	高校名	件数
121	14568J	立花学園高等学校	376
122	14573E	桐光学園高等学校	67
123	15514E	新潟第一高等学校	33
124	19126E	吉田高等学校	99
125	20173B	松本県ケ丘高等学校	3
126	20515A	東海大学付属諏訪高等学校	54
127	22135A	静岡東高等学校	93
128	22507A	加藤学園暁秀高等学校	129
129	22508J	加藤学園高等学校	42
130	22535F	浜松学芸高等学校	59
131	28519G	滝川高等学校	196
132	34521A	広島城北高等学校	29
133	40529K	上智福岡高等学校	32
134	－	オープンキャンパス	1,094
合計			14,808

3.高校生アンケート調査 集計結果

※「構成比」（%）はいずれも、小数点第二位を四捨五入。

問１　あなたの現在の居住地をお答えください。（あてはまるもの1つ）

選択肢	回答数	回答割合
埼玉県	2,509	16.9%
東京都	3,625	24.5%
神奈川県	1,932	13.0%
千葉県	2,823	19.1%
茨城県	1,152	7.8%
栃木県	784	5.3%
群馬県	509	3.4%
長野県	70	0.5%
山梨県	109	0.7%
静岡県	355	2.4%
その他1	890	6.0%
無回答	50	0.3%
合計	14,808	100.0%

問２　あなたの性別をお答えください。（あてはまるもの1つ）

選択肢	回答数	回答割合
男性	7,665	51.8%
女性	6,532	44.1%
答えたくない	340	2.3%
無回答	271	1.8%
合計	14,808	100.0%

問３　卒業後の進路をどのように考えていますか。（あてはまるものすべて）

選択肢	回答数	回答割合
①大学	14,144	95.5%
②短期大学	298	2.0%
③専門職大学	279	1.9%
④専門職短期大学	72	0.5%
⑤専門学校	919	6.2%
⑥就職	242	1.6%
⑦その他	143	1.0%

問４　問３で①～④を選択した方に質問です。（※問3で①～④を選択しなかった方は問５に進んでください）　　志望する大学等の設置者の希望を選択してください。（あてはまるものすべて）

選択肢	回答数	回答割合
私立	10,525	71.1%
国立	6,226	42.0%
公立	3,223	21.8%

問５　高校を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。（あてはまるものすべて）※現時点で進学を希望されていない方も進学する場合を想像してお答えください。

選択肢	回答数	回答割合
機械工学	2,332	15.7%
電気通信工学	1,923	13.0%
土木建築工学	1,287	8.7%
応用化学	728	4.9%
経営工学	678	4.6%
工学その他	1,186	8.0%
数学	1,152	7.8%
物理学	1,246	8.4%
生物	1,287	8.7%
化学	1,204	8.1%
地学	302	2.0%
理学その他	534	3.6%
文学	1,039	7.0%
史学	497	3.4%
哲学	475	3.2%
心理学	1,314	8.9%
人文科学その他	270	1.8%
法学・政治学	1,005	6.8%
商学・経済学	1,865	12.6%
社会学	784	5.3%
社会科学その他	246	1.7%
農学	747	5.0%
農芸化学	270	1.8%
農業工学	149	1.0%
農業経済学	138	0.9%
水産学	241	1.6%
農学その他	250	1.7%
医学	921	6.2%
歯学	255	1.7%
薬学	1,218	8.2%
看護学	1,019	6.9%
保健その他	952	6.4%
教育学	1,004	6.8%
小学校課程	320	2.2%
中・高校課程	748	5.1%
体育学	471	3.2%
教育その他	185	1.2%
美術	406	2.7%
デザイン	847	5.7%
音楽	499	3.4%
芸術その他	287	1.9%
商船学	105	0.7%
家政学	163	1.1%
食物学	457	3.1%
被服学	125	0.8%
住居学	83	0.6%
児童学	188	1.3%
家政その他	61	0.4%
教養学	215	1.5%
総合科学	141	1.0%
国際学	819	5.5%
人間科学	383	2.6%
その他	548	3.7%

問６　芝浦工業大学「システム理工学部」の2026年度の学科制から課程制への移行に伴い設置構想中の課程のコースのうち、あなたが興味のあるものをお答えください。次より１つ選択してください。※以下の課程･コース名称はいずれも仮称です。

選択肢	回答数	回答割合
情報課程　Iotコース	1,013	6.8%
情報課程　ソフトウェアコース	1,252	8.5%
情報課程　メディアコース	1,071	7.2%
情報課程　データサイエンスコース	880	5.9%
機械・電気課程　機械・電気コース	1,353	9.1%
建築・環境課程　建築コース	1,375	9.3%
建築・環境課程　環境・都市コース	1,251	8.4%
生命・健康科学課程　生命科学コース	2,497	16.9%
生命・健康科学課程　医工学コース	1,401	9.5%
生命・健康科学課程　スポーツ健康工学コース	1,591	10.7%
数理科学課程　数理科学コース	1,020	6.9%
無回答	104	0.7%
合計	14,808	100.0%

問７　あなたは問6で興味があるとされた課程のコースを受験したいと思いますか。次より一つ選択してください。

選択肢	回答数	回答割合
第一志望として受験する	973	6.6%
第二志望として受験する	1,091	7.4%
第三志望以降として受験する	2,560	17.3%
受験しない	9,897	66.8%
無回答	287	1.9%
合計	14,808	100.0%

問８　上記、問７で①～③を選択した方に質問です。問７で興味があるとされた課程のコースを受験して合格した場合､入学を希望しますか｡次より一つ選択してください。

選択肢	回答数	回答割合
入学する	1,178	25.5%
志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	3,139	67.9%
入学しない	277	6.0%
無回答	30	0.7%
合計	4,624	100.0%

問９　芝浦工業大学システム理工学部は、一つの専門性だけではなく、分野を超えた学びを飛躍させます。以下に示す能力から、あなたが特に身に付けたいと思うものをお答えください。(5つまで複数選択可)

選択肢	回答数	回答割合
幅広い視野と教養を身につけ、それを活用応用する力	6,261	42.3%
デジタル技術を自由に使いこなす力	3,992	27.0%
人や物事を全体的総合的に理解する力	2,858	19.3%
誰にでもわかりやすい文章を書く力	4,596	31.0%
いろいろな分野を結び付けて問題を解決する力	3,414	23.1%
異なる文化や考え方を持つ人達とチームをつくる力	2,038	13.8%
人の役に立つアイデアを考え出す力	1,905	12.9%
他の人が納得できるようにプレゼンテーションする力	3,314	22.4%
人の役に立つアイデアを実際のかたちにする力	2,577	17.4%
英語で技術文書を理解し、自分でも書ける力	1,524	10.3%
アイデアを社会で実現するための行動力	2,157	14.6%
英語で技術的なコミュニケーションをする力	1,287	8.7%
特定の理工学分野で高度な技術を使う力	2,638	17.8%
社会の変化に対応して学び続ける力	2,373	16.0%

※問８のうち、問７で「第一志望として受験する」を選択した回答者のみの回答

情報課程　Iotコース

選択肢	回答数	回答割合
入学する	82	81.2%
志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	9	8.9%
入学しない	8	7.9%
無回答	2	2.0%
合計	101	100.0%

情報課程　ソフトウェアコース

選択肢	回答数	回答割合
入学する	123	83.7%
志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	22	15.0%
入学しない	1	0.7%
無回答	1	0.7%
合計	147	100.0%

情報課程　メディアコース

選択肢	回答数	回答割合
入学する	40	71.4%
志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	12	21.4%
入学しない	3	5.4%
無回答	1	1.8%
合計	56	100.0%

情報課程　データサイエンスコース

選択肢	回答数	回答割合
入学する	47	79.7%
志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	8	13.6%
入学しない	3	5.1%
無回答	1	1.7%
合計	59	100.0%

機械・電気課程　機械・電気コース

選択肢	回答数	回答割合
入学する	155	87.1%
志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	22	12.4%
入学しない	1	0.6%
無回答	0	0.0%
合計	178	100.0%

建築・環境課程　建築コース

選択肢	回答数	回答割合
入学する	121	82.9%
志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	19	13.0%
入学しない	6	4.1%
無回答	0	0.0%
合計	146	100.0%

建築・環境課程　環境・都市コース

選択肢	回答数	回答割合
入学する	73	86.9%
志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	10	11.9%
入学しない	1	1.2%
無回答	0	0.0%
合計	84	100.0%

生命・健康科学課程　生命科学コース

選択肢	回答数	回答割合
入学する	84	85.7%
志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	11	11.2%
入学しない	3	3.1%
無回答	0	0.0%
合計	98	100.0%

生命・健康科学課程　医工学コース

選択肢	回答数	回答割合
入学する	35	77.8%
志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	6	13.3%
入学しない	4	8.9%
無回答	0	0.0%
合計	45	100.0%

生命・健康科学課程　スポーツ健康工学コース

選択肢	回答数	回答割合
入学する	50	83.3%
志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	7	11.7%
入学しない	3	5.0%
無回答	0	0.0%
合計	60	100.0%

数理科学課程　数理科学コース

選択肢	回答数	回答割合
入学する	51	86.4%
志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	3	5.1%
入学しない	4	6.8%
無回答	1	1.7%
合計	59	100.0%

4.高校生アンケート調査 結果の要点

（１）情報課程（仮称）

高校卒業後の進路に「大学」、その上で志望する大学の設置者に「私立」、さらには芝浦工業大学が設置構想中のシステム理工学部 課程制 情報課程（仮称・以下同課程）と関連のある学問分野（いずれかまたは複数）に興味を示した高校生は3,805人であった。そのうち芝浦工業大学 システム理工学部 課程制（仮称）において最も興味があるのは同課程のいずれかのコースとしたのは1,599人であった。

その上で同課程を「第一志望として受験する」としたのは275人、「第二志望として受験する」268人、「第三志望以降として受験する」445人と合計すると988人（予定する入学定員240名の4.1倍）であった。同課程に対し「第一志望として受験する」とした上で「入学する」は232人であったが、「第二志望として受験する」または「第三志望以降として受験する」とした上で「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」は合計で613人おり、併願者を含めると同課程の入学定員充足については十分な見通しがあると判断できる。

進路		設置者		興味のある学問分野		芝浦工業大学 システム理工学部 課程制で興味のある学科		受験意向		合格した場合の入学意向	
大学	14,144人	私立	10,371人	次頁・「情報課程（仮称）と関連のある学問分野」のいずれかまたは複数に興味	3,805人	情報課程（仮称）のいずれかのコース	1,599人	第一志望として受験する	275人	入学する	232人
										志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	33人
								第二志望として受験する	268人	入学する	54人
										志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	210人
								第三志望以降として受験する	445人	入学する	29人
										志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	403人

● 情報課程（仮称）と関連のある学問分野（コース別含む）

課程名	入学定員	コース名	機械工学	電気通信工学	経営工学	工学その他	数学	物理学	デザイン
情報課程	240	Iotコース	○	○		○	○	○	
		ソフトウェアコース	○	○		○	○	○	
		メディアコース	○	○	○	○			○
		データサイエンスコース	○	○		○	○	○	

● 情報課程（仮称）五重クロス集計後の受験・入学意向内訳

			第一志望			第二志望			第三志望以降			合計		
課程名	入学定員	コース名	受験	入学	併願入学	受験	入学	併願入学	受験	入学	併願入学	受験	入学	併願入学
情報課程	240	Iotコース	64	55	5	64	16	47	92	9	80	220	80	132
		ソフトウェアコース	122	104	17	124	25	98	168	7	159	414	136	274
		メディアコース	45	34	8	37	7	29	78	6	71	160	47	108
		データサイエンスコース	44	39	3	43	6	36	107	7	93	194	52	132
		合計	275	232	33	268	54	210	445	29	403	988	315	646

※併願入学＝志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する

（２）機械・電気課程（仮称）

高校卒業後の進路に「大学」、その上で志望する大学の設置者に「私立」、さらには芝浦工業大学が設置構想中のシステム理工学部 課程制 機械・電気課程（仮称・以下同課程）と関連のある学問分野（いずれかまたは複数）に興味を示した高校生は2,110人であった。そのうち芝浦工業大学 システム理工学部 課程制（仮称）において最も興味があるのは同課程のコースとしたのは721人であった。

その上で同課程を「第一志望として受験する」としたのは142人、「第二志望として受験する」154人、「第三志望以降として受験する」198人と合計すると494人（予定する入学定員90名の5.5倍）であった。同課程に対し「第一志望として受験する」とした上で「入学する」は125人で入学定員を上回った。別途、「第二志望として受験する」または「第三志望以降として受験する」とした上で「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」は合計で296人おり、同課程の入学定員充足については十分な見通しがあると判断できる。

進路		設置者		興味のある学問分野		芝浦工業大学 システム理工学部 課程制で興味のある学科		受験意向		合格した場合の入学意向	
大学	14,144人	私立	10,371人	次頁・「機械・電気課程（仮称）と関連のある学問分野」のいずれかまたは複数に興味	2,110人	機械・電気課程（仮称）のコース	721人	第一志望として受験する	142人	入学する	125人
										志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	16人
								第二志望として受験する	154人	入学する	29人
										志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	125人
								第三志望以降として受験する	198人	入学する	21人
										志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	171人

● 機械・電気課程（仮称）と関連のある学問分野（コース別含む）

課程名	入学定員	コース名	機械工学	電気通信工学
機械・電気課程	90	機械・電気コース	○	○

● 機械・電気課程（仮称）五重クロス集計後の受験・入学意向内訳

			第一志望			第二志望			第三志望以降			合計		
課程名	入学定員	コース名	受験	入学	併願入学	受験	入学	併願入学	受験	入学	併願入学	受験	入学	併願入学
機械・電気課程	90	機械・電気コース	142	125	16	154	29	125	198	21	171	494	175	312
		合計	142	125	16	154	29	125	198	21	171	494	175	312

※併願入学＝志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する

（３）建築・環境課程（仮称）

高校卒業後の進路に「大学」、その上で志望する大学の設置者に「私立」、さらには芝浦工業大学が設置構想中のシステム理工学部 課程制 建築・環境課程（仮称・以下同課程）と関連のある学問分野（いずれかまたは複数）に興味を示した高校生は3,431人であった。そのうち芝浦工業大学 システム理工学部 課程制（仮称）において最も興味があるのは同課程のいずれかのコースとしたのは988人であった。

その上で同課程を「第一志望として受験する」としたのは190人、「第二志望として受験する」178人、「第三志望以降として受験する」278人と合計すると646人（予定する入学定員120名の5.4倍）であった。同課程に対し「第一志望として受験する」とした上で「入学する」は163人で入学定員を上回った。別途、「第二志望として受験する」または「第三志望以降として受験する」とした上で「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」は合計で381人おり、同課程の入学定員充足については十分な見通しがあると判断できる。

進路		設置者		興味のある学問分野		芝浦工業大学 システム理工学部 課程制で興味のある課程・コース		受験意向		合格した場合の入学意向	
大学	14,144人	私立	10,371人	次頁・「建築・環境課程（仮称）と関連のある学問分野」のいずれかまたは複数に興味	3,431人	建築・環境課程（仮称）のいずれかのコース	988人	第一志望として受験する	190人	入学する	163人
										志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	23人
								第二志望として受験する	178人	入学する	46人
										志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	131人
								第三志望以降として受験する	278人	入学する	22人
										志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	250人

● 建築・環境課程（仮称）と関連のある学問分野（コース別含む）

課程名	入学定員	コース名	機械工学	土木建築工学	工学その他	物理学	デザイン
建築・環境課程	120	建築コース	○	○	○	○	○
		環境・都市コース	○	○	○		○

● 建築・環境課程（仮称）五重クロス集計後の受験・入学意向内訳

			第一志望			第二志望			第三志望以降			合計		
課程名	入学定員	コース名	受験	入学	併願入学	受験	入学	併願入学	受験	入学	併願入学	受験	入学	併願入学
建築・環境課程	120	建築コース	121	101	16	109	33	76	180	12	163	410	146	255
		環境・都市コース	69	62	7	69	13	55	98	10	87	236	85	149
		合計	190	163	23	178	46	131	278	22	250	646	231	404

※併願入学＝志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する

（４）生命・健康科学課程（仮称）

高校卒業後の進路に「大学」、その上で志望する大学の設置者に「私立」、さらには芝浦工業大学が設置構想中のシステム理工学部 課程制 生命・健康科学課程（仮称・以下同課程）と関連のある学問分野（いずれかまたは複数）に興味を示した高校生は4,071人であった。そのうち芝浦工業大学 システム理工学部 課程制（仮称）において最も興味があるのは同課程のいずれかのコースとしたのは721人であった。

その上で同課程を「第一志望として受験する」としたのは121人、「第二志望として受験する」124人、「第三志望以降として受験する」344人と合計すると589人（予定する入学定員180名の3.3倍）であった。同課程に対し「第一志望として受験する」とした上で「入学する」は104人であったが、「第二志望として受験する」または「第三志望以降として受験する」とした上で「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」は合計で392人おり、併願者を含めると同課程の入学定員充足については十分な見通しがあると判断できる。

進路		設置者		興味のある学問分野		芝浦工業大学 システム理工学部 課程制で興味のある学科		受験意向		合格した場合の入学意向	
大学	14,144人	私立	10,371人	次頁・「生命・健康科学課程（仮称）と関連のある学問分野」のいずれかまたは複数に興味	4,071人	生命・健康科学課程（仮称）のいずれかコース	1,860人	第一志望として受験する	121人	入学する	104人
										志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	13人
								第二志望として受験する	124人	入学する	28人
										志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	94人
								第三志望以降として受験する	344人	入学する	19人
										志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	298人

● 生命・健康科学課程（仮称）と関連のある学問分野（コース別含む）

課程名	入学定員	コース名	機械工学	応用化学	生物	化学	医学	保健その他	体育学
生命・健康科学課程	180	生命科学コース		○	○	○			
		医工学コース	○		○		○	○	
		スポーツ健康工学コース			○			○	○

● 生命・健康科学課程（仮称）五重クロス集計後の受験・入学意向内訳

			第一志望			第二志望			第三志望以降			合計		
課程名	入学定員	コース名	受験	入学	併願入学	受験	入学	併願入学	受験	入学	併願入学	受験	入学	併願入学
生命・健康科学課程	180	生命科学コース	63	58	4	78	20	57	155	11	136	296	89	197
		医工学コース	30	24	5	26	7	18	86	5	72	142	36	95
		スポーツ健康工学コース	28	22	4	20	1	19	103	3	90	151	26	113
		合計	121	104	13	124	28	94	344	19	298	589	151	405

※併願入学＝志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する

（５）数理科学課程（仮称）

高校卒業後の進路に「大学」、その上で志望する大学の設置者に「私立」、さらには芝浦工業大学が設置構想中のシステム理工学部 課程制 数理科学課程（仮称・以下同課程）と関連のある学問分野（いずれかまたは複数）に興味を示した高校生は2,141人であった。そのうち芝浦工業大学 システム理工学部 課程制（仮称）において最も興味があるのは同課程のコースとしたのは455人であった。

その上で同課程を「第一志望として受験する」としたのは43人、「第二志望として受験する」37人、「第三志望以降として受験する」121人と合計すると201人（予定する入学定員75名の2.7倍）であった。同課程に対し「第一志望として受験する」とした上で「入学する」は40人であったが、「第二志望として受験する」または「第三志望以降として受験する」とした上で「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」は合計で139人おり、併願者を含めると同課程の入学定員充足については十分な見通しがあると判断できる。

進路		設置者		興味のある学問分野		芝浦工業大学システム理工学部課程制で興味のある学科		受験意向		合格した場合の入学意向	
大学	14,144人	私立	10,371人	次頁・「数理科学課程（仮称）と関連のある学問分野」のいずれかまたは複数に興味	2,141人	数理科学課程（仮称）のコース	455人	第一志望として受験する	43人	入学する	40人
										志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	2人
								第二志望として受験する	37人	入学する	8人
										志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	28人
								第三志望以降として受験する	121人	入学する	2人
										志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	111人

● 数理科学課程（仮称）と関連のある学問分野（コース別含む）

課程名	入学定員	コース名	数学	物理学	化学	中・高校課程
数理科学課程	75	数理科学コース	○	○	○	○

● 数理科学課程（仮称）五重クロス集計後の受験・入学意向内訳

			第一志望			第二志望			第三志望以降			合計		
課程名	入学定員	コース名	受験	入学	併願入学	受験	入学	併願入学	受験	入学	併願入学	受験	入学	併願入学
数理科学課程	75	数理科学コース	43	40	2	37	8	28	121	2	111	201	50	141
		合計	43	40	2	37	8	28	121	2	111	201	50	141

※併願入学＝志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する

芝浦工業大学「システム理工学部　課程制（設置構想中）」
設置構想についての高校生アンケート調査（対象：高校２年生の皆さん）

芝浦工業大学は、2026年4月にシステム理工学部課程制の導入を構想中です。本学はこのアンケート調査を通して、皆さんからのご回答を参考に、計画の充実を図っていきたいと考えています。回答結果は、芝浦工業大学の新課程等の設置構想に係る統計資料としてのみ活用します。アンケート調査へのご協力をお願いいたします。

※本アンケート調査への回答は１回のみとなります。本アンケート調査と同一内容の芝浦工業大学が実施したアンケートに過去に回答した方は回答できません。
※本アンケート調査は芝浦工業大学から委託された第三者機関（株式会社高等教育総合研究所）が実施しています。
※本アンケート調査および学部概要資料に記載されている内容については予定であり、変更される可能性があります。

記入要領	1. 回答は**所定の欄を塗りつぶしてください。** 2. 回答用紙を汚したり、折り曲げたりしないでください。 3. 記入は必ず**鉛筆及びシャープペンシル**で濃く書いてください。	記入例	良い例 ● 悪い例 ☑ ⊙ ⊖ ○ ●

◆最初にあなた自身についてお聞きします。

問１　あなたの現在の居住地をお答えください。（あてはまるもの1つ）

① 埼玉県　② 東京都　③ 神奈川県　④ 千葉県　⑤ 茨城県　⑥ 栃木県　⑦ 群馬県
⑧ 長野県　⑨ 山梨県　⑩ 静岡県　⑪ その他

問２　あなたの性別をお答えください。（あてはまるもの1つ）

① 男性　② 女性　③ 答えたくない

◆高校卒業後の進路や、興味のある学びについてお聞きします。

問３　卒業後の進路をどのように考えていますか。（あてはまるものすべて）

① 大学　② 短期大学　③ 専門職大学　④ 専門職短期大学
⑤ 専門学校　⑥ 就職　⑦ その他

▶問４　問３で①～④を選択した方に質問です。（※問3で①～④を選択しなかった方は問５に進んでください）
志望する大学等の設置者の希望を選択してください。（あてはまるものすべて）

① 私立　② 国立　③ 公立

問５　高校を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。
（あてはまるものすべて）※現時点で進学を希望されていない方も進学する場合を想像してお答えください。

工　学	① 機械工学	② 電気通信工学	③ 土木建築工学	④ 応用化学	⑤ 経営工学	⑥ 工学その他
理　学	⑦ 数学	⑧ 物理学	⑨ 生物	⑩ 化学	⑪ 地学	⑫ 理学その他
人文科学	⑬ 文学	⑭ 史学	⑮ 哲学	⑯ 心理学	⑰ 人文科学その他	
社会科学	⑱ 法学･政治学	⑲ 商学･経済学	⑳ 社会学	㉑ 社会科学その他		
農　学	㉒ 農学	㉓ 農芸化学	㉔ 農業工学	㉕ 農業経済学	㉖ 水産学	㉗ 農学その他
保　健	㉘ 医学	㉙ 歯学	㉚ 薬学	㉛ 看護学	㉜ 保健その他	
教　育	㉝ 教育学	㉞ 小学校課程	㉟ 中･高校課程	㊱ 体育学	㊲ 教育その他	
芸　術	㊳ 美術	㊴ デザイン	㊵ 音楽	㊶ 芸術その他		
商　船	㊷ 商船学					
家　政	㊸ 家政学	㊹ 食物学	㊺ 被服学	㊻ 住居学	㊼ 児童学	㊽ 家政その他
その他	㊾ 教養学	㊿ 総合科学	(51) 国際学	(52) 人間科学	(53) その他	

→裏面に続く

以降は別添の芝浦工業大学「システム理工学部　課程制(設置構想中)」の概要資料および、以下の課程別併願大学例を見てお答えください。

◆課程別併願大学例

課程名	情報課程（仮称）			機械・電気課程（仮称）		
併願が想定される大学の学部・学科名	東京電機大学	システムデザイン工学部	情報システム工学科	法政大学	理工学部	機械工学科
	東洋大学	理工学部	電気電子情報工学科	東京電機大学	未来科学部	ロボット・メカトロニクス学科
	東京理科大学	創域理工学部	電気電子情報工学科	東洋大学	理工学部	機械工学科
	明治大学	理工学部	情報科学科	中央大学	理工学部	精密機械工学科
	中央大学	理工学部	情報工学科	明治大学	理工学部	機械工学科

課程名	建築・環境課程（仮称）			数理科学課程（仮称）		
併願が想定される大学の学部・学科名	法政大学	デザイン工学部	建築学科	中央大学	理工学部	数学科
	明治大学	理工学部	建築学科	東京理科大学	創域理工学部	数理科学科
	中央大学	理工学部	都市環境学科	明治大学	理工学部	数学科
	東洋大学	理工学部	都市環境デザイン学科	立教大学	理学部	数学科
	東京理科大学	創域理工学部	社会基盤工学科	東京理科大学	理学部第一部	数学科

課程名	生命・健康科学課程（仮称）		
併願が想定される大学の学部・学科名	法政大学	生命科学部	生命機能学科
	東京理科大学	創域理工学部	生命生物科学科
	東京理科大学	先進工学部	機能デザイン工学科
	東京都市大学	理工学部	医用工学科
	立教大学	スポーツウエルネス学部	スポーツウエルネス学科
	東洋大学	健康スポーツ科学部	健康スポーツ科学科

問６　芝浦工業大学「システム理工学部」の2026年度の学科制から課程制への移行に伴い設置構想中の課程のコースのうち、あなたが興味のあるものをお答えください。次より１つ選択してください。※以下の課程･コース名称はいずれも仮称です。

① 情報課程　IoTコース
② 情報課程　ソフトウェアコース
③ 情報課程　メディアコース
④ 情報課程　データサイエンスコース
⑤ 機械･電気課程　機械･電気コース
⑥ 建築･環境課程　建築コース
⑦ 建築･環境課程　環境･都市コース
⑧ 生命･健康科学課程　生命科学コース
⑨ 生命･健康科学課程　医工学コース
⑩ 生命･健康科学課程　スポーツ健康工学コース
⑪ 数理科学課程　数理科学コース

問７　あなたは問6で興味があるとされた課程のコースを受験したいと思いますか。次より一つ選択してください。

① 第一志望として受験する　② 第二志望として受験する　③ 第三志望以降として受験する　④ 受験しない

▶問８　上記、問７で①～③を選択した方に質問です。
問７で興味があるとされた課程のコースを受験して合格した場合、入学を希望しますか。次より一つ選択してください。

① 入学する　② 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する　③ 入学しない

問９　芝浦工業大学システム理工学部は、一つの専門性だけではなく、分野を超えた学びを飛躍させます。以下に示す能力から、あなたが特に身に付けたいと思うものをお答えください。（5つまで複数選択可）

① 幅広い視野と教養を身につけ、それを活用（応用）する力
② 人や物事を全体的（総合的）に理解する力
③ いろいろな分野を結び付けて問題を解決する力
④ 人の役に立つアイデアを考え出す力
⑤ 人の役に立つアイデアを実際のかたちにする力
⑥ アイデアを社会で実現するための行動力
⑦ 特定の理工学分野で高度な技術を使う力
⑧ デジタル技術を自由に使いこなす力
⑨ 誰にでも分かりやすい文章を書く力
⑩ 異なる文化や考え方を持つ人達とチームをつくる力
⑪ 他の人が納得できるようにプレゼンテーションする力
⑫ 英語で技術文書を理解し、自分でも書ける力
⑬ 英語で技術的なコミュニケーションをする力
⑭ 社会の変化に対応して学び続ける力

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

迷うから、
遠くに
行けるんだ。

どんな発明も どんな発見も、
この世界にぱっと生まれたわけではありません。
たくさんの技術者 研究者たちが悩んで迷って、
行ったり来たり グルグルしながら
ようやく だれも見たことがない景色にたどりついたのです。
迷うのは、前に進んでいるから。
不安なのは、挑戦しているから。
2026年、システム理工学部は課程制に移行して、
一つの専門性だけではない、分野を越えた学びをさらに飛躍させます。
地域社会や国際社会での密度の濃い経験をさらに進化させます。
多種多様な視点が、あなたを迷わせるかもしれません。
でも、今日わからないことは、明日わかるようになればいい。
上手くいかなかったら、みんなで手を取り合えばいい。
答えなんか、一瞬で変わってしまう時代だから。
この経験が、あなたを はるか遠くに連れて行ってくれるから。
どこよりも、学びがいのある大学へ。
それがシステム理工学部の、宣言です。

2026年、課程制へ
芝浦工業大学 システム理工学部

※構想中の内容は未定であり、変更の可能性があります。

芝浦工業大學
SHIBAURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY
Established 1927



分野を越えて、未来を創る

複雑化する課題

現代社会は、先行きが不透明な時代といわれています。情報技術の進展によって社会や産業の構造が激しく変化しているのです。次々と社会や地域に巻き起こるさまざまな課題は、多様化、複雑化し、その解決のためには、複数の分野にまたがる専門知識が必要なのです。

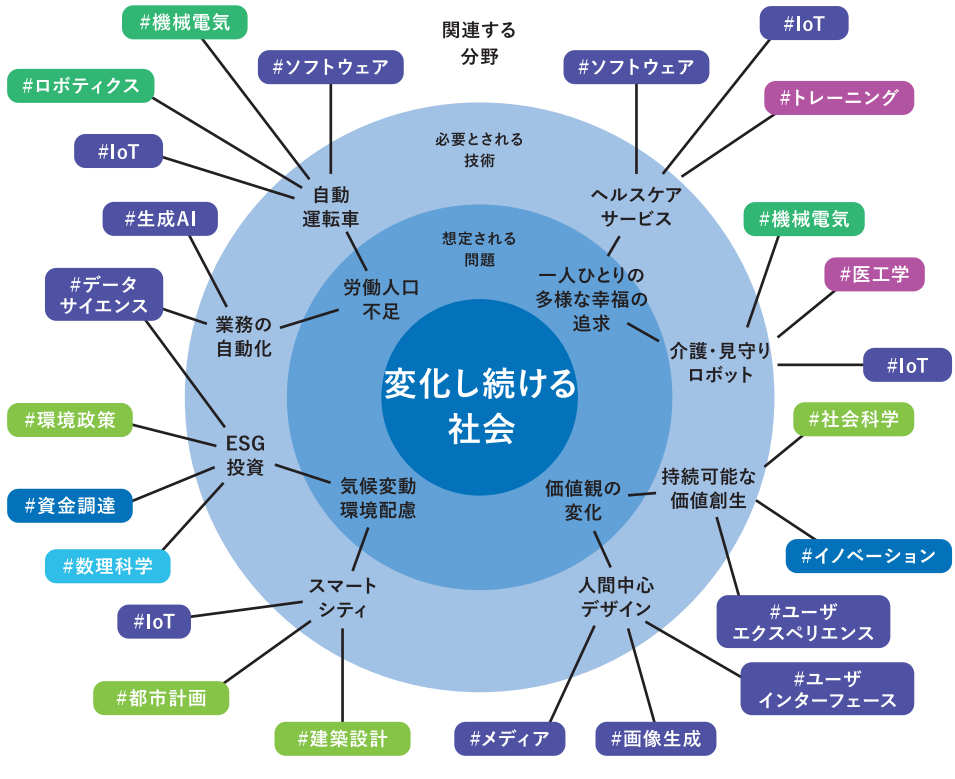
融合する分野

例えばお気に入りのスマートフォン。精密機械・カメラ（機械）、充電池（電気）、センサー（IoT）、アプリ（情報）、手触り（人間）…ひと・もの・ことに関わるあらゆる専門分野が日々進化し、融合し、バージョンアップを繰り返しています。

システム思考とイノベーション

現代社会が求める新たなテーマを、ひと・もの・ことが関係し合うシステムとして捉え（システム思考）、複数の理工学分野を総合して問題解決する力（システム工学）が求められています。システム理工学部は、システム思考からイノベーション（技術革新）を導き出すグローバル理工系人材を育成します。

例えば、「Society5.0」の社会で想定される分野融合とは？



Society5.0は、「我が国が目指すべき未来社会の姿であり、…サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会」として、内閣府が提唱した用語です。

分野横断型の学びを促進する課程制

現5学科を5課程11コースへ

現学科	課程（仮称）／入学定員（予定）	コース（仮称）	養成する人材像（抜粋）	モジュール例／目指せる将来像（一例）	資格	学位
電子情報システム学科 115名	情報課程 240名	IoTコース	IoT技術の実践的能力をもち、多様な人々と協働しながら情報社会の基盤を構築できる人材	IoT × 環境・都市 × 留学 スマートシティの情報インフラを構築できるグローバルなIoTエンジニア	●高等学校教諭一種免許状（情報） ●CAPM※	学士（工学）
		ソフトウェアコース	ソフトウェア工学に精通し、プログラム開発を通して、社会的ニーズに適切に対応したソフトウェアを開発できる人材	ソフトウェア × 機械・電気 自動運転や車両間ネットワークを実現する自動車ソフトウェア開発エンジニア		
		メディアコース	画像や音響等のメディア情報を活用し、社会的ニーズに適切に対応したシステムを開発できる人材	メディア × スポーツ健康工学 スポーツ科学、健康科学に詳しいVR（Virtual Reality）エンジニア		
		データサイエンスコース	多様なデータを収集・分析・予測し、体験を通じて対象の理解を深め、エビデンスを基に解決法を考え提案できる人材	データサイエンス × 環境・都市 × 留学 データサイエンス、シミュレーションの技術を活用してビジネスを立案できる起業家		
機械制御システム学科 90名	機械・電気課程 90名	機械・電気コース	未来の機械・電気システムに関する社会的ニーズに対して、システム思考に基づく創造的な発想から問題解決できる人材	機械・電気 × メディア × 留学 機械・電気をネットワークでつなぐことができるグローバルエンジニア	●中学校教諭一種免許状（技術） ●高等学校教諭一種免許状（工業） ●CAPM※	学士（工学）
環境システム学科 90名	建築・環境課程 120名	建築コース	国内外を問わず多様な人々と協働しながら、新たな発想でこれからの社会に必要とされる空間（建築）を創出できる人材	建築 × データサイエンス 顧客ニーズの経済背景を分析し、デジタルツールを駆使して最適な建築計画を構想できる建築設計者	●高等学校教諭一種免許状（情報） ●高等学校教諭一種免許状（工業） ●一級・二級・木造 建築士 ●CAPM※	学士（工学）
		環境・都市コース	持続可能なまちづくりに必要な環境システム、対策、政策、ビジネス等を提案し、社会実装に寄与できる人材	環境・都市 × 留学 国内外のサステナビリティ経営やESG投資に貢献する施策を提言できる国際開発機関職員		
生命科学科 115名	生命・健康科学課程 180名	生命科学コース	多様性を尊重し、生命の仕組みの理解に必要な生命科学の知識と思考力を身につけ、健康寿命の延伸に貢献できる人材	生命科学 × データサイエンス × 留学 生命科学を理解しプログラミングができる国際的に活躍できるバイオインフォマティシャン	●中学校・高等学校教諭一種免許状（理科） ●高等学校教諭一種免許状（工業） ●CAPM※	学士（生命科学）
		医工学コース	医工学の幅広い専門知識・技術・論理的思考力を身につけ、生体機能を回復・補助する医療・福祉に貢献できる人材	医工学 × ソフトウェア 福祉・医療現場をはじめとした様々な場面での貢献が期待されるアプリ開発者		
		スポーツ健康工学コース	ヒトの心身機能を発展・拡張させるための手法を創出し活用することで、人々の健康増進に貢献できる人材	スポーツ健康工学 × 医工学 使いやすく効果的なトレーニング・リハビリテーション機器を開発できるエンジニア		
数理科学科 75名	数理科学課程 75名	数理科学コース	数理科学の専門知識とシミュレーション技術等の応用力をもち、科学・教育・産業の幅広い分野で諸問題を論理的に解決できる人材	数理科学 × ソフトウェア × 教職 プログラミングもできる数学教員や数学に強い情報教員	●中学校・高等学校教諭一種免許状（数学） ●高等学校教諭一種免許状（情報） ●CAPM※	学士（数理科学）

※Certified Associate in Project Management：プロジェクトマネジメントの国際資格。

学修の起点づくり「学際科目」

基礎教養

学際科目
分野を越えた専門を**つなぐ**パーツ

- キャリアデザイン
- システム工学
- SDGs
- アントレプレナーシップ

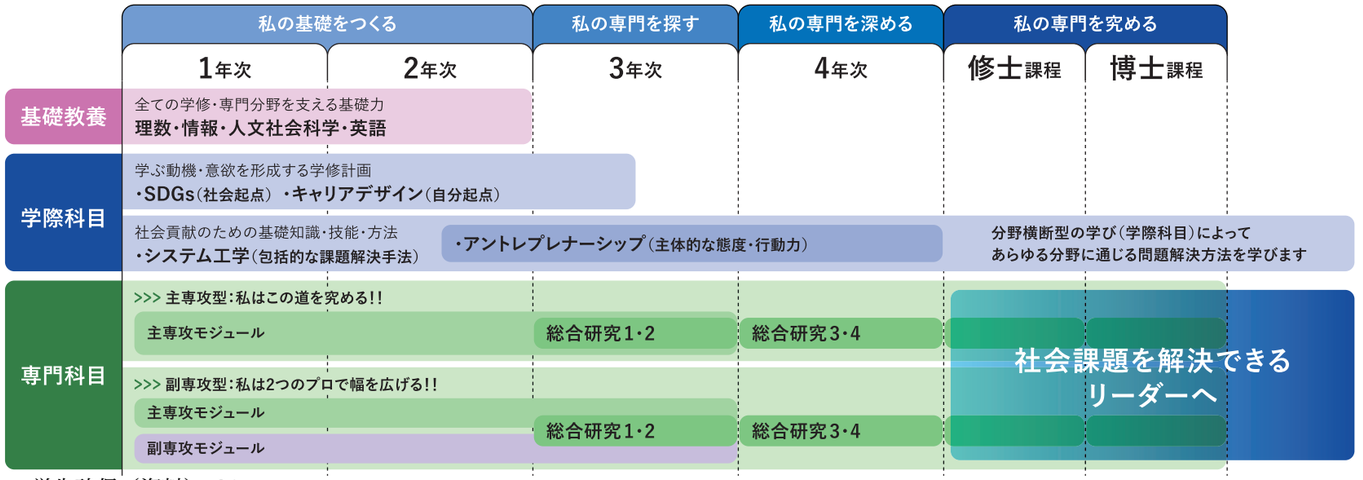
パーツを使って、自身の学びをデザインする

専門科目

社会課題を解決できるリーダーへ

「学際」とは、複数の学問領域にまたがることを意味します。「学際科目」は、道を見つけ出すための起点をつくる科目群です。「キャリアデザイン」では、社会のいかなるステージで活躍したいのかを自ら描き出し、「SDGs」では、自らの学びが社会のいかなる課題と結びつくのかを知ります。「システム工学」では、分野を越えて複数の専門領域をつなぐための知識・技能・方法を学び、「アントレプレナーシップ」では、社会の課題を解決するアイデアを実現するための行動力を養います。自分と社会をつなぐ学修計画を立て、専門科目を広げる知識と方法を身につけ、自身の学びをアップデートしていく起点をつくります。

「学際科目」で分野横断型の学びを支え促進する



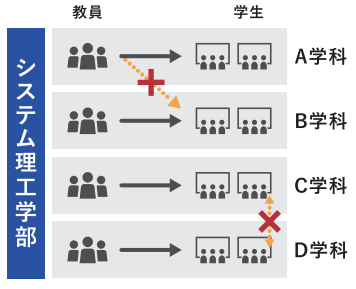
システム思考に基づく分野横断型の学び

芝浦工業大学 システム理工学部は、2026年4月、時代の大きな転換期を見据え、システム思考に基づく
分野横断型の教育理念をさらに進化、飛躍させます。学科制から、社会をアップデートするための学び方『課程制』に変わります。
分野を越えた自由な発想から問題解決できる力を育み、社会、そして自分の「あるべき姿」を見定めます。

『課程制』と学科制の違い

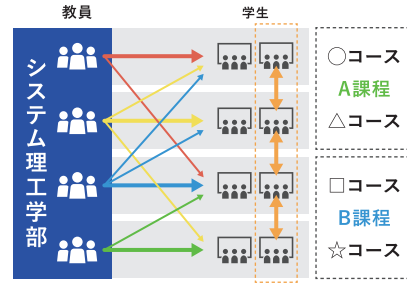
学科制

特定の専門領域に特化した教育プログラム・体制です。学生・教員は学科に所属し、基本的には学科の科目群から履修し単位を取得します。



課程制

複数の専門領域を横断して学ぶことができる教育プログラム・体制です。学生はコースに所属し、教員は学部に所属するため、コースにまたがって授業を担当します。複合的な社会的ニーズに応じて、複数の分野にわたって科目を選択し、単位を取得することができるのが特徴です。



『課程制』を支える「学際科目」と「モジュール制」

システム理工学部の『課程制』は、分野横断型の学びを促進するための「学際科目」と「モジュール制」を設けています。

「○○できる」を意識する「モジュール制」

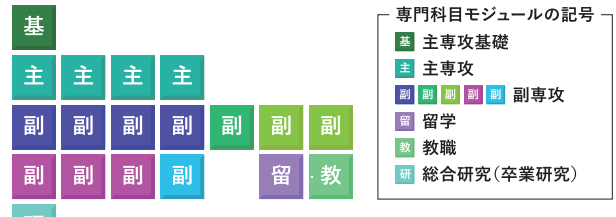
システム理工学部は5課程11コースで編成され、自らの専門分野の中心がコースです。各コースに設けられた科目は、「モジュール」と呼ばれる科目群で分類されます。モジュールとは、ある仕事をうまく進めるための能力「○○できる」を修得する専門科目のまとまりです。自身が所属するコース（主専攻）のみから履修し完成させる専門性の強い「主専攻型」、自コースと他コース（副専攻）にわたって履修し完成させる分野横断性のある「副専攻型」、あるいは留学を前提にしたモジュールを組み込んだ「主専攻（国際※）型」、教職課程を組み込んだ「副専攻（教職）型」など、自らの目的、好奇心に合った「○○できる」モジュールを自由に組み合わせて学修計画を立てることができます。モジュール制によって、従来の学科制では難しかった個性ある自由度の高い学びを実現します。

※国際プログラム：システム理工学部は、グローバル社会で活躍する理工系人材の育成に力を入れています。英語による科目履修、海外協定校への留学（半期以上）、英語による総合研究（卒業研究）によって学位を修める教育プログラムで、留学前教育も充実しています。

基礎教養 土台　専門を修得するための土台パーツ

学際科目 つなぐ　分野を越えた専門をつなぐパーツ

専門科目



目的に応じて自由に選べるパーツ

組み合わせは自由自在

	モジュール例	組み合わせ例／目指せる将来像（一例）	
主専攻型	基礎教養 ＋ 学際 ＋ 専門（基 主 主 主 主 研）／主専攻	建築コースモジュール	健康・快適・安全、省エネ・資源の建築環境を計画できる建築設計・技術者（一級建築士）
主専攻（国際）型	基礎教養 ＋ 学際 ＋ 専門（基 主 主 主 留 研）／主専攻	機械・電気コースモジュール × 留学モジュール	高知能ロボットのプロダクト化など国際的に活躍できるエンジニア
副専攻型	基礎教養 ＋ 学際 ＋ 専門（基 主 主 主 副 研）／主専攻／副専攻 ＋ 他コースのモジュール（副 副 副 副）	数理科学コースモジュール × スポーツ健康工学コースモジュール	グローバルな視点からスポーツを数理的に解析できるスポーツアナリスト
副専攻（教職）型	基礎教養 ＋ 学際 ＋ 専門（基 主 主 教 教 研）／主専攻／副専攻	データサイエンスコースモジュール × 教職モジュール	シミュレーションを用いて未来を予期・予測し、社会課題を解決できる高校教員（情報）

※記載の設置計画・課程・コース名称は予定であり、設置構想中です。内容は変更となる可能性があります。

設置の理念

地球規模で複雑化、多様化する現代社会において、諸問題を総合的、学際的に解決できる力が必要とされています。システム理工学部は、複数の学問体系を横断し関連付けるシステム思考とシステム工学の知識と手法を生かし、新たな時代の要請に応え、地域と人類社会の発展に寄与する教育研究を行います。幅広い教養と国際性を礎にした分野横断型の教育を通して、体系的な理工学の知識や自ら行動し多様な人々と共創できる能力を身につけたグローバル理工系人材を養成します。

アドミッション・ポリシー（求める人物像）

本学部への入学を志望する者は、本学の建学の精神と以下に挙げる「求める人物像」、および教育方針、課程のカリキュラム、教育・研究の内容をよく理解して出願することを求めます。

システム理工学部が求める人物像

(1) 身の回りのさまざまなひと・こと・ものの仕組みや成り立ちについて深く考え、課題を解決することに興味や関心を持つ者。

(2) 総合的、学際的に課題を解決することで、新たな価値を創生し、社会に貢献する意志を持つ者。

(3) 他分野の学生とチームを組んで課題に取り組む等、システム理工学部における分野の枠を越えたプロジェクト演習に興味を持ち、主体的かつ積極的に行動することに強い意欲を持つ者。

システム理工学部の「養成する人材像」

持続可能な社会の実現に貢献するために、科学技術が社会や自然に及ぼす利点と欠点を見据えて、ひと・もの・ことが関係する現象をシステムと捉え（システム思考）、総合的、学際的に問題解決できる知識やスキルを修得し、世界に貢献する職業人としての倫理観をもつグローバル理工系人材を養成します。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）抜粋

システム理工学部は、持続可能な社会の実現に貢献するために、科学技術が社会や自然に及ぼす利点と欠点を見据えて、ひと・もの・ことが関係する現象をシステムと捉え（システム思考）、総合的、学際的に問題解決できる知識やスキルを修得し、世界に貢献する職業人としての倫理観を持ち、卒業要件を満たした者に学位を授与します。

学修・教育到達目標（抜粋）

以下に示す能力と行動特性を有した世界に貢献するグローバル理工系人材を養成するために、学修・教育到達目標を定めます。

◆ **総合的、学際的な知識やスキル**

- 目的の達成へ向けて取り組むべき具体的な課題を設定し、対象とするひと・もの・ことが関係する現象をシステムとして捉えることができる。（システム思考）
- システム思考を用いて、包括的な解決策を導き出すことができる。（システム工学）
- 社会の具体的な課題を解決するアイデアをかたちにし、社会実装に向けて行動できる。（アントレプレナーシップ）
- 新たな課題の解決に必要な知識やスキルを認識し、自らの可能性を広げる学習を継続できる。（生涯学習能力）

◆ **専門知識を応用できる能力**

- 主軸となる分野の専門知識を修得し、問題解決に応用できる。
- 主軸となる分野の専門知識を他分野と関連付ける分野横断型の知識と行動力を修得し、社会で活用できる。

設置概要

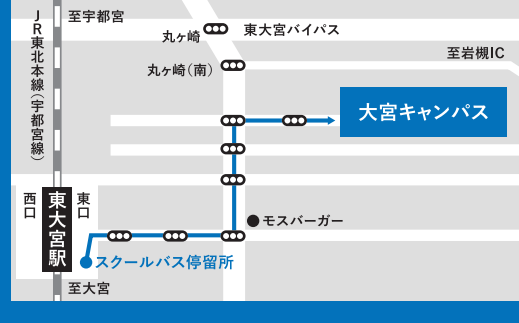
◆ **修業年限：4年**
◆ **開設時期：2026年4月（予定）**
◆ **初年度納付金：1,795,020円** ※2024年度実績

芝浦工業大学 システム理工学部

〒337-8570
埼玉県さいたま市見沼区深作307
TEL：03-5859-7100（入試課）
URL：https://newsystems2026.shibaura-it.ac.jp/

交通アクセス

JR宇都宮線（東北本線）「東大宮駅」より
スクールバス5分



100th
芝浦工業大學
100th ANNIVERSARY
Established 1927

理工学の可能性を追求し続ける芝浦工業大学は、100周年は通過点と捉えています。「常に前進する文化の醸成」をモットーに教員と職員と学生が協働で前進していくために、上の周年ロゴマークとスローガンを設定いたしました。

芝浦工業大学

システム理工学部 課程制（仮称）

設置構想についての人材需要アンケート調査

報告書

令和７年１月

株式会社高等教育総合研究所

目次

1.　人材需要アンケート調査 概要..... 2

2.　人材需要アンケート調査 集計結果..... 3

3.　人材需要アンケート調査 結果の要点..... 12

人材需要アンケート調査用紙..... 14

「システム理工学部 課程制（仮称）」リーフレット..... 16

1.人材需要アンケート調査 概要

調査目的	令和7年（2025年）度に芝浦工業大学が設置構想中の「システム理工学部 課程制（仮称） 」における卒業後の採用・就職（人材需要）の見込みを測定することを目的とする。
調査対象	［調査対象］ ・芝浦工業大学システム理工学部卒業生の採用実績がある地方公共団体や企業のうち 前述の学部学科が育成するそれぞれの人材像に適した業種等 ・養成するそれぞれの人材の就職先として適合する業種の新規企業 ［業種］ 製造業、IT関連業を中心とした理工学系技能を要する業種 ［調査地域］ 東京および関東近郊を主とした企業本社所在地 ［依頼件数］ 3,167件
調査内容	・回答対象先の基本情報（業種・所在地・従業員／職員規模） ・芝浦工業大学「システム理工学部 課程制（仮称）」卒業生の人材ニーズ ・芝浦工業大学「システム理工学部 課程制（仮称）」卒業生の採用意向
調査時期	令和6年11月～12月
調査方法	調査対象事業所に対しアンケートを郵送し依頼することにより実施 （紙方式・web方式での回答方法を案内し、いずれかで回答を依頼）
回収件数	有効回答数556件（回収率17.6%）

2.人材需要アンケート調査 集計結果

※「構成比」（%）はいずれも、小数点第二位を四捨五入。

問１　貴社の本社または貴団体の本部所在地について、お答えください。

選択肢	回答数	回答割合
北海道	9	1.6%
青森県	2	0.4%
岩手県	0	0.0%
宮城県	4	0.7%
秋田県	1	0.2%
山形県	0	0.0%
福島県	2	0.4%
茨城県	2	0.4%
栃木県	5	0.9%
群馬県	3	0.5%
埼玉県	12	2.2%
千葉県	14	2.5%
東京都	258	46.4%
神奈川県	42	7.6%
新潟県	11	2.0%
富山県	6	1.1%
石川県	5	0.9%
福井県	2	0.4%
山梨県	1	0.2%
長野県	10	1.8%
岐阜県	5	0.9%
静岡県	13	2.3%
愛知県	39	7.0%
三重県	3	0.5%

選択肢	回答数	回答割合
滋賀県	3	0.5%
京都府	9	1.6%
大阪府	49	8.8%
兵庫県	9	1.6%
奈良県	0	0.0%
和歌山県	1	0.2%
鳥取県	1	0.2%
島根県	0	0.0%
岡山県	2	0.4%
広島県	6	1.1%
山口県	2	0.4%
徳島県	0	0.0%
香川県	3	0.5%
愛媛県	2	0.4%
高知県	0	0.0%
福岡県	10	1.8%
佐賀県	0	0.0%
長崎県	2	0.4%
熊本県	3	0.5%
大分県	1	0.2%
宮崎県	0	0.0%
鹿児島県	2	0.4%
沖縄県	2	0.4%
無回答	0	0.0%
合計	556	100.0%

問２　貴社・貴団体の業種（主な事業内容）として、最もあてはまるものをお選びください。（あてはまるもの１つ）

選択肢	回答数	回答割合
農・林・漁・鉱業	0	0.0%
建設業	92	16.5%
電気・ガス・熱供給・水道業	8	1.4%
製造業	165	29.7%
通信業	8	1.4%
IT関連業	131	23.6%
放送、新聞、出版業	0	0.0%
運輸業、郵便業	1	0.2%
金融業（銀行・信託・証券・貸金）	9	1.6%
保険業	4	0.7%
学術研究、専門・技術サービス	6	1.1%
卸売業、小売業	99	17.8%
不動産業、物品賃貸業	5	0.9%
旅行業	0	0.0%
宿泊業、飲食サービス業	6	1.1%
教育・学習支援業	2	0.4%
生活関連サービス業、娯楽業	0	0.0%
医療	0	0.0%
福祉	1	0.2%
その他サービス業	10	1.8%
国家公務	1	0.2%
地方公務	0	0.0%
非営利団体	1	0.2%
その他	6	1.1%
無回答	1	0.2%
合計	556	100.0%

問３　貴社・貴団体の従業員・職員規模として、最もあてはまるものをお選びください。（あてはまるもの1つ）

選択肢	回答数	回答割合
20名未満	0	0.0%
20名～100名未満	32	5.8%
100名～300名未満	106	19.1%
300名～1,000名未満	233	41.9%
1,000名以上	185	33.3%
無回答	0	0.0%
合計	556	100.0%

問４　芝浦工業大学が設置構想中の「システム理工学部 課程制（仮称）」が養成する人材についての社会ニーズについてお答えください。（あてはまるもの１つ）

選択肢	回答数	回答割合
ニーズは高い	322	57.9%
ニーズはある程度高い	200	36.0%
ニーズはあまりない	10	1.8%
ニーズはない	1	0.2%
わからない	19	3.4%
無回答	4	0.7%
合計	556	100.0%

問５　芝浦工業大学が設置構想中の「システム理工学部 課程制（仮称）」が養成する人材について採用したいと思われますか。（あてはまるもの１つ）

選択肢	回答数	回答割合
採用したい	478	86.0%
採用しない	5	0.9%
わからない	73	13.1%
無回答	0	0.0%
合計	556	100.0%

問６　問５で「採用したい」とされた場合、単年度で採用可能な人数をお答えください。

選択肢	回答数	回答割合
1人	63	13.2%
2人	68	14.2%
3人	39	8.2%
4人	5	1.0%
5人以上	73	15.3%
人数は未定だが、最低1人	227	47.5%
無回答	3	0.6%
合計	478	100.0%

※芝浦工業大学が設置構想中の「システム理工学部 課程制（仮称）」について期待される点、ご要望がありましたらご自由にご記入ください。

番号	回答
1	在学中に学生自身が興味をもった授業や分野に学科関係なく受講できる点が非常に興味深く、今後のキャリアの幅を持つことができるのではないかという点に期待しました。
2	貴大学野もつノウハウを踏まえて新たな人材育成が行われることを期待します。
3	即戦力となる人材を育成していただけますようおねがいいたします。
4	分野を超えて、魅力ある学生が育つ環境になるよう期待します。
5	施工機械の自動化、システム化のところに大きくニーズがあると考えています。
6	弊社は建設業であることから、即戦力という観点から考えると一級、二級の建築施工管理技士の資格を目材していただければと思います。
7	当社のニーズに一致しています。スキル知識に加え、コミュニケーション力も身につけいただきたいです。
8	プログラミング言語やネットワーク技術の知識のみならず、モジュールなどを活用して、様々な知識を身につけていただける人材をお会いしたいと考えています。
9	弊社の主な事業は建物のリニューアル工事です。ニーズを捉え、現在の経済、環境などを踏まえて、提案する力が必要不可欠です。そういった人材の教育の御校に期待いたします。
10	大学進学後でも日々の気づきによって自分の進路を改めたい日とも一定数以上いると思います。はっと思い立ったときのエネルギーを受け止めることが出ている課程制はモチベーションを維持し、成長を促すことができると思います。
11	コースがごとに得られる受験資格の有無を明記いただきたい
12	指示待ち人間では困ります。チャレンジして学び続ける方を育てていただきたいです。
13	自身の成長を選択するできることに期待しています。
14	マーケティング・プログラミングや業績管理、予測などの分野での活躍。ただし販売、製造の業務経験も必須なため、スペシャリストのみでは難しいです。
15	現時点ではとくにございませんが、課程制への移行に伴い、様々な専門分野で幅広い知識、考え方を身につけた人材と出会えることを期待したいト思います。
16	複数野専門領域の学べるトのことで学生たちの視野が広がることと思います。
17	IT業界にかかわらず、ほかの業界でもIT人材のニーズが高まる中、課程制で幅広く知識を身につけルことは社会のニーズとマッチした人材が育つと思う
18	複数野分野の教育ですので、バランスがとれた学生育成につながると期待します。
19	建築設備系に強い人材の輩出
20	広くて浅くても色々なことができる人材。専門職ではなく、総合職として活躍できる人を輩出すること
21	電機機械メーカーですが、ソフト、メか、エレキそれぞれ連動していいものが作られます、その観点で期待したいト思います。
22	施工管理を志望する学生を増やしてほしい
23	現状はもちろん、未来を予見したシステムを構築できる技術力と発想力
24	弊社は機械、電気系の技術者、建築系の2つの事業があるためニーズはとても高い
25	複数の専門領域を横断して学ぶことができる教育プログラム・体制ということなので優秀な人材の育成に期待しています。

26	いろんなことに興味の持てるプログラムで学生の学習意欲を高める
27	様々な幅広い知識のある応用力のある人材の育成を期待しています。
28	環境を学べることから当社へのエントリーやイベント参加者が増えることを期待
29	建築コース卒　積極的に採用させていただきたいです。よろしくお願いいたします。リフォームについての授業を期待します。
30	1つの専門性だけではなく、様々な分野を学ぶことができる点は就職後も問題解決や新しいアイデアの創造等で活躍できなそうだと感じます。そういった方は是非採用したいです。
31	制御や組み込みの経験など
32	特になし。
33	専門分野１つを深めるだけでなく分野を横断して学びを習得することで視野が広くより豊かな発想ができる人材育成につながると大変期待しております。 貴校学生様にお会いできることがとても楽しみです。
34	是非、御校主催の合同企業説明会に参加させていただきたいです。
35	色々な分野に対応しているので、それなりの思想がある学生が いるかと思うので、期待したい。
36	多方面の知識を習得できる点で非常に期待ができる。幹部候補生として積極的に採用したい。
37	一般教養、時代に即した価値観・考え方がない技術者は、ＡＩに対抗できない時代が近づいている気がしています。技術力だけではく、これからの時代に求められている力を身につけた人材の輩出に期待しております。
38	専門的な知識だけでなく、分野を超えた知識を身に付けられる点がたいへん興味深く感じました。
39	2023,2024入社はご縁がありませんでしたが、複数の生命科学科卒業生に活躍いただいております。弊社は医療機器メーカーですが、より広い分野の知見をもつ学生に興味を持ってもらえれば大変嬉しいです。
40	【期待点】ものごとに多様な選択肢が存在するなかで、ファクトやエビデンスを通して適切な意思決定を行う力が身につくこと。 システムに対しての理解とともに、AI活用の知見等を深めるカリキュラムがあると、なお良いと思います。
41	形だけを作れば良いのではなく、継続が重要と考えます。中途半端どっちづかずのがくせいよりうｊ
42	日本人の学生を育成してください。補助金をねらうために留学生を入学させることを前提にしないでください。ＩＴ分野の育成は国力の育成でもあります。国家にとって大切な人財を育成することを第一目的としてください。
43	VUCAの時代だからこそ、柔軟な思考を持ち、様々な学びを得た学生のチカラが必要であると感じています。 従来の発想を越えた・越えるような環境の中で学んだ学生に非常に興味があります。
44	高齢化がますます進む社会で求められる知識とシステム思考の融合が出来る学生の排出を望んでおります
45	ご同封いただいたパンフレットを拝見し、ただ指定された勉強をこなすだけではなく、自ら主体性をもって学び、それを生かしていける力を身に着けられるようなシステムだと感じました。自分から様々なことにチャレンジし、学びを深めることができる方に出会えることを期待しております。
46	貴校卒業生が既に活躍しており、学習指導の賜物と既存の学部卒を含め期待しております。現役学生の就活具体化の際には是非とも弊社への応募を薦めて頂けると幸いですし、新たな学部設置が実施されましたら、養成人材のご紹介をお願い申し上げます。
47	ＩＴサービス分野において、要求された欲しいものを作るサービスではなく、可能性から提案し提供するサービスを創造できる人材育成
48	特にないです。
49	弊社は、完全独立系IT企業として、DX&SI事業並びにパッケージ事業を展開しております。貴学の新設される予定の学部で学ぶカリキュラムを拝見すると親和性が高く是非とも卒業生を採用したいです。

50	ハードウェア・ソフトウェア両面の知識を持つことに興味を持っていただけると大変嬉しいです。
51	機械・電気・ソフトウェア、データサイエンスなど、専門的な学びを活かし、当社でも活躍していただけることを期待します。
52	弊社東急コミュニティーは総合不動産管理業を行っております。何か商品があるということではなく、コンサルティングを行っておりますので多くの知識が提案に繋がると考えます。課程制での学びはまさに複数の分野を学ぶことができるということで、弊社でぜひ活躍いただきたいと感じました。
53	リーフレットを拝見させていただきました。今日の企業活動継続において、新しい価値を考案し、提案できる人財の育成、採用が必須と考えております。御校の養成する人物像がそれに該当するものとして、非常に興味を持った次第でございます。
54	学生の主体性を重んじて、特定領域でない幅広い学びができる点。
55	昨今IT化が進む中、社内SEの需要が非常に高まってきております。今後さらなる業務改善の為にもシステム理工学部の学生様とご縁をいただければ幸甚です。
56	分野を超えた自由な発想から問題解決できる力に大変期待しております。
57	理系科目がメインですが、希望に応じて文系科目も受けられるなどの制度も一部あると良いかと思いました。
58	労働者不足の中、どの分野においてもデジタル化は必至である一方で、セキュリティやリテラシー、世代間のギャップなど、実務に繋げるには課題も多いため、貴校を適切な知識を身につける場とし、分野を問わず社会で活躍する人材を養成していただきたい。
59	幅広く学べる点はとても良いと思いました。
60	現在の社会情勢やトレンド、社会の課題解決に向けた学術領域への貢献度向上の機運、かかる産業界への成果や責任についての訴求の高まり、等々を鑑みた際、当該人財のニーズとして、今後増加していく可能性が高いと考えます。但し、その求められる要素や技術、知識、経験、等の具体については、今後の経済環境や世界動静等にも左右されるかと思われます。特に学部開設当初期については、よく動向や情勢等の把握と確認を行いながら、必要であれば、時流に合わせたカリキュラムや組織の変更も必要となるのではと考えます。
61	学生の意思で、分野を跨いで学べるのは、とても良いと思います。
62	これからの時代において、理系学生においても専門性を高めることは大事ながらも、ゼネラルに複合的な視点がビジネス現場では求められてきているので、学生教育の段階から取り入れていただくと将来的により良くなると考えます。
63	国際的な観点から物事を考えることができ、推進していく人材が育つことに期待。要望としては、グローバル化が進む中、理系学生の語学力が乏しいので英語での論文発表などの機会を作って世界で戦える学生を育成してほしい。
64	学生に「技術的専門性」「社会とのつながり」「グローバル視点」を兼ね備えた教育を提供することで、未来の日本のみならず、世界の産業を支える優れたエンジニアが多く輩出されることを大いに期待しています。
65	特にありません。
66	幅広く興味を持つ学生が、能動的に学習・成長するのに良い環境だと期待
67	総合的に幅広い知識を学べることは、社会に出る上で有意義なものだと感じますが、当社にマッチした学生になるのかどうかは、まだなんとも言えないです。
68	建設業界に関わる、ICT活用に携わる人材の輩出を期待します。
69	弊社のような食品小売業でも、バイヤーや店舗を全体的に管理・運営する本部において、市場動向を分析するのに、データサイエンスを学んだ学生は積極的に採用したい。
70	現時点ではなし
71	複数名で協力して課題を解決する力を身に付けていること期待します。
72	電子情報システム学科をご卒業される方に関しまして、お会いしてお話を聞きたいと感じました。

73	様々な領域を横断的・体系的に学ぶことができる仕組みなのかと感じました。選択肢が増えすぎて「学生が迷うことがないか」という点を１つ懸念点として浮かびましたが、主体的に考えることができる学生であれば大丈夫だと思いました。
74	昨今人材不足と言われている中で、ITによる省人化に期待されているのでシステムを学びの中に入れて、社会に出た際に人材不足による諸問題を解決してくれるような学生が増えてくれることは望ましいと考えます。
75	弊社が掲げる中期経営計画のキーワードとも非常に親和性が高いと感じた次第です。 https://www.ishiifood.co.jp/ir/management-plan/ 弊社は単なる食品メーカーの枠を超え社会課題の解決に向けて日々様々な取り組みを行っており、そうした未来創造に共感いただける学生さんに入社いただきたいと考えます。 弊社新卒採用においては千葉工業大学の卒業生が多部門で活躍しておりますのでぜひご興味いただけますと幸いです。
76	専門的な知識に加え、協調、コミュニケーション能力も期待します
77	将来の職種選択の幅が広がる点については、とても良いと思います。一方で、専門的に学んできた学生と知識の差が出てしまわないか心配な部分もあります。
78	平素より大変お世話になっております。新設される「システム理工学部課程制」に強い関心を抱いております。当社では学部・学科を問わず幅広く採用しておりますが、この新たな取り組みによって、自ら考え行動できる人材が成長していくことに期待を寄せております。
79	ジョブ型に偏らず、全体最適な視座を持った人材育成（専門人材育成も重要であるが、会社を自分事として捉えられるような感覚・意識を持つことも、教育課程において必要と感じています）
80	特に意見はありません。
81	より広い視野をもち、アジリティの高い学生が育成される期待がございます。 まさに弊社が欲している人財かと存じますので、今後ともどうぞよろしくお願い致します。
82	今後とも宜しくお願い致します。
83	学科制と比べてどのようなスキルがあるのか判りづらくなりそうなので、モジュールの組み合わせにどのような特徴・強みがあるのか判りやすくなるよう成績証明書等に工夫があると助かります。
84	当社はＢＩＭ、ＣＩＭ、ドローンの導入から１０年が経過するが、これだけではＤＸとしてすでに不足している。今後の人材はＡＩ、ｃｈａｔＧＰＴを使えるのは当然として、建築の知識だけでなくより幅広い情報に触れ、多面的な知見を持つ人間的にも多様性あふれる人材の育成を推進される貴校の取り組みは非常に素晴らしい。
85	新設に伴い、より専門的な知識や経験を身につけていただければと思います。しかしながら、弊社はこの専門性がなければならないなどの誓約はございませんので、幅広く興味を持って学んでいただければと思います。
86	技術者としての知識向上とビジネスの融合を期待しております。
87	学生さんが入学してから学びたい興味が変わることは多々あり、大学4年間の間でも世の中の動向は変化いたしますので、入学後の選択肢が多く良い試みと存じます。
88	特に無し
89	IT業界発展に併せた学習は有益で、企業のDX化に欠かせない人材が増えることに大変興味深く思います。
90	特に建築・環境過程へ入学される学生におかれましては、建設についての学びとともに、データ分析関連の知識も増やすことで、今後の建設業界のDX化や業務効率化に向けての取り組みにも寄与できる人材の育成を期待します。
91	広い分野の興味、知識を持つ学生さんが増えることを期待します。
92	学生ひとりひとりの個性を尊重した教育体制や、複数の学びを得られる環境により、物事を柔軟かつ多角的に見る力が養われた学生の輩出に期待できると考えています。何にも捉われない発想や、自由闊達な社風は弊社ともマッチしていますので、ぜひ良いご縁が作れたら嬉しく思っています。
93	自らの学習したい内容をより多く選択できる「課程制」制度はとても有意義であると考えられる。 弊社はITを事業形態としていることから、「システム理工学部 課程制（仮称）」の学生に是非入社して頂きたい。 要望としては、本年度以降の新卒採用においてコンタクトを行いたい。

94	機械メンテナンス等があるため、機械に強い人が来てくれると活躍できると思います。
95	要望は特にございません。 課程制導入による、今後の効果について興味関心がございます。
96	分野横断型で学ぶことができるとのことですので、多様性、多角的な視野・視点を持った学生様が増えるのではないかと思います。そのような方々はご入社後、大きくご活躍いただけるポテンシャルを秘めていると思います。
97	学生の選択肢が増え、今後のキャリア形成を自身で考えて学ぶことができるのは大変良い事だと思います。 成績証明書などで学生が何を学んできたか一目見てわかるようにしていただけると、採用時のコミュニケーションがとりやすく、ミスマッチを防げるのではないかと存じます。
98	電子・情報系を横断して知見のある学生の育成
99	知識を幅広く学んでいただいて、入社しても視野を広くご活躍いただける学生に期待しています。
100	視野が狭くならずに幅広く自身の可能性を考えることができると思うので良いと思います。
101	ぜひ、弊社のインターン等にもご参加いただきたいです。学部学生の雰囲気も感じてみたいです
102	特にございません
103	総合職採用となる弊社が、専門的な学びを納められた学生様のお役に立てるかは現段階では判断できかねますが、分野横断型で学ぶ事ができる御学科では広い知識を持たれている事と期待します。 よろしくお願いいたします。
104	DX推進を進めていく中で、 企業から求められていく学部だと考えます。
105	狭い分野にとらわれず、柔軟な考え方による問題解決力を身につけた人材を育成していただきたい。
106	システムでの変革が求められる中で活躍できるIT知識だけでなく、その他の分野についても専門知識を持つ人財の育成。
107	情報システム部門の人材育成
108	複数の視点で物事を捉え、創造する力が求められる時代に合った良い取り組みだと感じます。
109	基礎（土台）＋学際（つなぐ）＋専門科目（自由に選べる）が学びの多様性になっており、とても良いと思います。世の中の進化は著しく、ひとつに特化していることも大事ですがより多くのことを学び自分の引き出しを増やすことも大切だと感じており、期待しております。
110	理想として掲げる人材の育成に向けて、指導する教授陣が実ビジネスを理解した人材かどうか？が鍵だと考えます。
111	様々な分野から変化し続ける社会について学びを深めることは、変化し続ける証券業界でも生かせる部分があれば良いなと感じました。
112	情報社会の基盤を構築できる人材の育成面に期待をしています。
113	周囲とのコミュニケーション、主張と傾聴、意見集約、対立回避などの対外スキルについても磨き上げていただければ有難いと考えます。

3.人材需要アンケート調査 結果の要点

芝浦工業大学が設置構想中の「システム理工学部 課程制（仮称）」が養成する人材に係るニーズ、採用意向

芝浦工業大学が設置構想中の「システム理工学部 課程制（仮称）」が養成する人材の社会ニーズについては「ニーズは高い」322箇所（57.9%）、「ニーズはある程度高い」200箇所（36.0%）で合計すると522箇所（93.9%）がそのニーズの高さを認める結果となった。
また、478箇所（86.0%）が採用意向を示し、その上での採用可能人数（単年度）合計は予定する課程制の総入学定員705名の1.3倍となる928人であった。

問４　養成する人材の社会ニーズ

人材ニーズは高い・ある程度高い	522事業所	93.9%
人材ニーズはない・あまりない・わからない・無回答	34事業所	6.1%
合計	556事業所	100.0%

問５　卒業生の採用意向

採用したい	478事業所	86.0%
採用しない・わからない・無回答	78事業所	14.0%
合計	556事業所	100.0%

問６　採用可能人数（単年度）

	1人	2人	3人	4人	5人以上	人数は未定だが、最低1人	無回答	合計
「採用したい」の回答数	63	68	39	5	73	227	3	478
採用可能人数計（回答数×採用可能人数）	**63人**	**136人**	**117人**	**20人**	**365人**	**227人**	**0人**	**928人**

※「5人以上」は5人として計算した。
※「人数は未定だが、最低1人」は1人として計算した。
※採用可能人数へ無回答の場合は集計から除外（0人）した。

問２業種×問５卒業生の採用意向のクロス集計

本人材需要アンケートでは選択肢として設定した24業種中、18業種と幅広く回答を得た。このうち回答数が多く、また各業種で採用意向を示した割合が8割を超えていたのは「製造業」「IT関連業」「建設業」であり、芝浦工業大学が設置構想中の「システム理工学部 課程制（仮称）」が養成する人材の採用が特に期待される分野であった。採用可能人数（単年度）の合計は、この3業種でのみで総入学定員705名を上回る715人であった。他にも「卸売業、小売業」の他、「電気・ガス・熱供給・水道業」「通信業」「金融業（銀行・信託・証券・貸金）」「保険業」「学術研究、専門・技術サービス」など幅広い業種で採用意向が示された。

業種	回答事業所数	採用意向を示した事業所		採用可能人数（単年度）合計
		事業所数	割合	
農・林・漁・鉱業	0	0	－	－
建設業	92	85	92.4%	183
電気・ガス・熱供給・水道業	8	6	75.0%	13
製造業	165	149	90.3%	260
通信業	8	8	100.0%	12
IT関連業	131	116	88.5%	272
放送、新聞、出版業	0	0	－	－
運輸業、郵便業	1	1	100.0%	5
金融業（銀行・信託・証券・貸金）	9	7	77.8%	7
保険業	4	2	50.0%	6
学術研究、専門・技術サービス	6	6	100.0%	13
卸売業、小売業	99	70	70.7%	112
不動産業、物品賃貸業	5	3	60.0%	7
旅行業	0	0	－	－
宿泊業、飲食サービス業	6	4	66.7%	5
教育・学習支援業	2	2	100.0%	2
生活関連サービス業、娯楽業	0	0	－	－
医療	0	0	－	－
福祉	1	1	100.0%	1
その他サービス業	10	8	80.0%	17
国家公務	1	0	0.0%	0
地方公務	0	0	－	－
非営利団体	1	1	100.0%	1
その他	6	5	83.3%	5

芝浦工業大学 「システム理工学部 課程制（仮称）」
設置構想についての人材需要アンケート

芝浦工業大学では、2026 年 4 月開設に向けて、「システム理工学部 課程制（仮称）」を設置構想中です。つきましては、採用意向に関する調査にご協力をお願いいたします。なお、この調査の結果は、統計資料としてのみ用い、他の用途に使用することはありません。また、設置計画は予定であり、今後変更となる可能性があります。

※このアンケート調査は芝浦工業大学から委託された第三者機関（株式会社高等教育総合研究所）が実施しています。

※本アンケートおよびリーフレットに記載されている内容については予定であり、変更される可能性があります。

記入要領	1. 回答は**所定の欄を塗りつぶしてください。** 2. この用紙は電算処理しますので汚さないようにしてください。 3. 記入は必ず**鉛筆及びシャープペンシル**で濃く書いてください。	【記入例】 ● 北海道 0 茨城県

問１　貴社の本社または貴団体の本部所在地について、お答えください。（あてはまるもの１つ）

0 北海道	0 青森県	0 岩手県	0 宮城県	0 秋田県	0 山形県	0 福島県
0 茨城県	0 栃木県	0 群馬県	0 埼玉県	0 千葉県	0 東京都	0 神奈川県
0 新潟県	0 富山県	0 石川県	0 福井県	0 山梨県	0 長野県	0 岐阜県
0 静岡県	0 愛知県	0 三重県	0 滋賀県	0 京都府	0 大阪府	0 兵庫県
0 奈良県	0 和歌山県	0 鳥取県	0 島根県	0 岡山県	0 広島県	0 山口県
0 徳島県	0 香川県	0 愛媛県	0 高知県	0 福岡県	0 佐賀県	0 長崎県
0 熊本県	0 大分県	0 宮崎県	0 鹿児島県	0 沖縄県		

問２　貴社・貴団体の業種（主な事業内容）として、最もあてはまるものをお選びください。（あてはまるもの１つ）

0 農業、林業、漁業、鉱業	0 建設業	0 電気、ガス、熱供給、水道業	0 製造業
0 通信業	0 IT 関連業	0 放送、新聞、出版業	0 運輸業、郵便業
0 金融業（銀行・信託・証券・貸金）	0 保険業	0 学術研究、専門・技術サービス	0 卸売業、小売業
0 不動産業、物品賃貸業	0 旅行業	0 宿泊業、飲食サービス業	0 教育・学習支援業
0 生活関連サービス業、娯楽業	0 医療	0 福祉	0 その他サービス業
0 国家公務	0 地方公務	0 非営利団体	0 その他

問３　貴社・貴団体の従業員・職員規模として、最もあてはまるものをお選びください。（あてはまるもの１つ）

0 20 名未満	0 20 名以上 100 名未満	0 100 名以上 300 名未満
0 300 名以上 1,000 名未満	0 1,000 名以上	

⇒裏面に続く

ここからは別添の芝浦工業大学が設置構想中の「システム理工学部 課程制（仮称）」の
「リーフレット」をご確認いただき、ご回答をお願いいたします。

問４　芝浦工業大学が設置構想中の「システム理工学部 課程制（仮称）」が養成する人材についての社会ニーズについてお答えください。（あてはまるもの１つ）

0 ニーズは高い　0 ニーズはある程度高い　0 ニーズはあまりない
0 ニーズはない　0 わからない

問５　芝浦工業大学が設置構想中の「システム理工学部 課程制（仮称）」養成する人材について採用したいと思われますか。（あてはまるもの１つ）

0 ①採用したい　0 ②採用しない　0 ③わからない

問６　問５で「①採用したい」とされた場合、単年度で採用可能な人数をお答えください。

0 1人　0 2人　0 3人
0 4人　0 5人以上　0 人数は未確定だが、最低１人

※　芝浦工業大学が設置構想中の「システム理工学部 課程制（仮称）」について期待される点、
ご要望がありましたらご自由にご記入ください。

※宜しければ貴社名をお教えください。こちらは、どの企業にご返送いただいたかを把握するための質問であり、アンケートの回答は統計的に処理され、特定の企業・団体が識別できる情報として公表されることはございません。
（ゴム印の押印でも問題ございません）

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

迷うから、
遠くに
行けるんだ。

どんな発明も どんな発見も、
この世界にぱっと生まれたわけではありません。
たくさんの技術者 研究者たちが悩んで迷って、
行ったり来たり グルグルしながら
ようやく だれも見たことがない景色にたどりついたのです。
迷うのは、前に進んでいるから。
不安なのは、挑戦しているから。
2026年、システム理工学部は課程制に移行して、
一つの専門性だけではない、分野を越えた学びをさらに飛躍させます。
地域社会や国際社会での密度の濃い経験をさらに進化させます。
多種多様な視点が、あなたを迷わせるかもしれません。
でも、今日わからないことは、明日わかるようになればいい。
上手くいかなかったら、みんなで手を取り合えばいい。
答えなんか、一瞬で変わってしまう時代だから。
この経験が、あなたを はるか遠くに連れて行ってくれるから。
どこよりも、学びがいのある大学へ。
それがシステム理工学部の、宣言です。

2026年、課程制へ
芝浦工業大学 システム理工学部

※構想中の内容は未定であり、変更の可能性があります。

芝浦工業大學
SHIBAURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY
Established 1927



分野を越えて、未来を創る

複雑化する課題

現代社会は、先行きが不透明な時代といわれています。情報技術の進展によって社会や産業の構造が激しく変化しているのです。次々と社会や地域に巻き起こるさまざまな課題は、多様化、複雑化し、その解決のためには、複数の分野にまたがる専門知識が必要なのです。

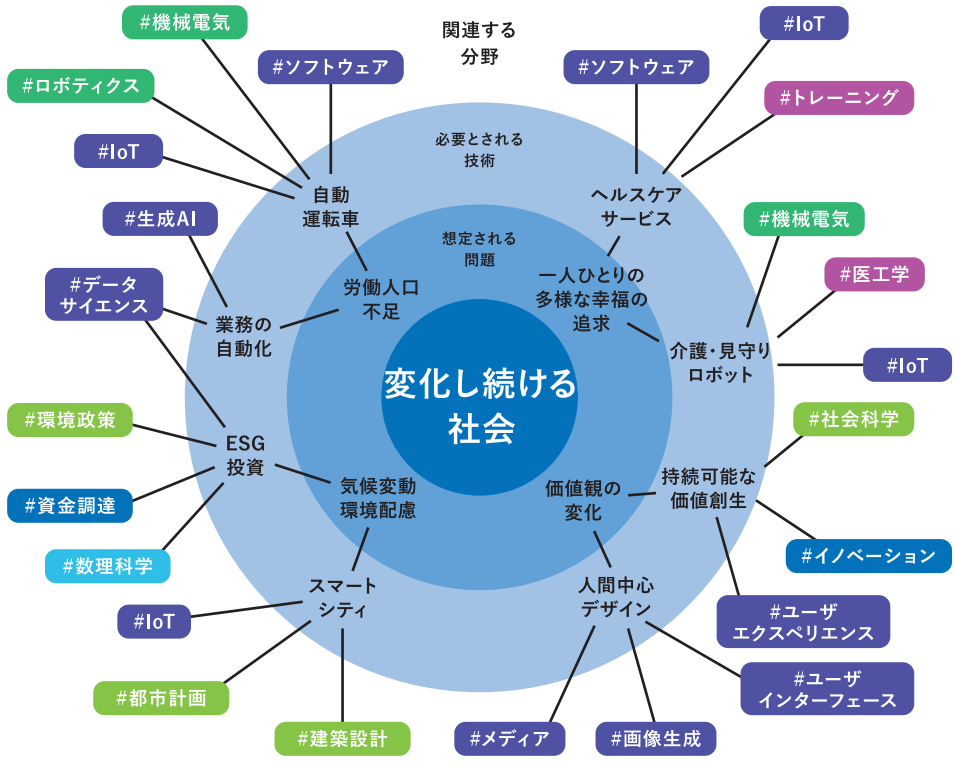
融合する分野

例えばお気に入りのスマートフォン。精密機械・カメラ（機械）、充電池（電気）、センサー（IoT）、アプリ（情報）、手触り（人間）…ひと・もの・ことに関わるあらゆる専門分野が日々進化し、融合し、バージョンアップを繰り返しています。

システム思考とイノベーション

現代社会が求める新たなテーマを、ひと・もの・ことが関係し合うシステムとして捉え（システム思考）、複数の理工学分野を総合して問題解決する力（システム工学）が求められています。システム理工学部は、システム思考からイノベーション（技術革新）を導き出すグローバル理工系人材を育成します。

例えば、「Society5.0」の社会で想定される分野融合とは？



Society5.0は、「我が国が目指すべき未来社会の姿であり、…サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会」として、内閣府が提唱した用語です。

分野横断型の学びを促進する課程制

現5学科を5課程11コースへ

現学科	課程（仮称）／入学定員（予定）	コース（仮称）	養成する人材像（抜粋）	モジュール例／目指せる将来像（一例）	資格	学位
電子情報システム学科 115名	情報課程 240名	IoTコース	IoT技術の実践的能力をもち、多様な人々と協働しながら情報社会の基盤を構築できる人材	IoT × 環境・都市 × 留学 スマートシティの情報インフラを構築できるグローバルなIoTエンジニア	●高等学校教諭一種免許状（情報） ●CAPM※	学士（工学）
		ソフトウェアコース	ソフトウェア工学に精通し、プログラム開発を通して、社会的ニーズに適切に対応したソフトウェアを開発できる人材	ソフトウェア × 機械・電気 自動運転や車両間ネットワークを実現する自動車ソフトウェア開発エンジニア		
		メディアコース	画像や音響等のメディア情報を活用し、社会的ニーズに適切に対応したシステムを開発できる人材	メディア × スポーツ健康工学 スポーツ科学、健康科学に詳しいVR（Virtual Reality）エンジニア		
		データサイエンスコース	多様なデータを収集・分析・予測し、体験を通じて対象の理解を深め、エビデンスを基に解決法を考え提案できる人材	データサイエンス × 環境・都市 × 留学 データサイエンス、シミュレーションの技術を活用してビジネスを立案できる起業家		
機械制御システム学科 90名	機械・電気課程 90名	機械・電気コース	未来の機械・電気システムに関する社会的ニーズに対して、システム思考に基づく創造的な発想から問題解決できる人材	機械・電気 × メディア × 留学 機械・電気をネットワークでつなぐことができるグローバルエンジニア	●中学校教諭一種免許状（技術） ●高等学校教諭一種免許状（工業） ●CAPM※	学士（工学）
環境システム学科 90名	建築・環境課程 120名	建築コース	国内外を問わず多様な人々と協働しながら、新たな発想でこれからの社会に必要とされる空間（建築）を創出できる人材	建築 × データサイエンス 顧客ニーズの経済背景を分析し、デジタルツールを駆使して最適な建築計画を構想できる建築設計者	●高等学校教諭一種免許状（情報） ●高等学校教諭一種免許状（工業） ●一級・二級・木造 建築士 ●CAPM※	学士（工学）
		環境・都市コース	持続可能なまちづくりに必要な環境システム、対策、政策、ビジネス等を提案し、社会実装に寄与できる人材	環境・都市 × 留学 国内外のサステナビリティ経営やESG投資に貢献する施策を提言できる国際開発機関職員		
生命科学科 115名	生命・健康科学課程 180名	生命科学コース	多様性を尊重し、生命の仕組みの理解に必要な生命科学の知識と思考力を身につけ、健康寿命の延伸に貢献できる人材	生命科学 × データサイエンス × 留学 生命科学を理解しプログラミングができる国際的に活躍できるバイオインフォマティシャン	●中学校・高等学校教諭一種免許状（理科） ●高等学校教諭一種免許状（工業） ●CAPM※	学士（生命科学）
		医工学コース	医工学の幅広い専門知識・技術・論理的思考力を身につけ、生体機能を回復・補助する医療・福祉に貢献できる人材	医工学 × ソフトウェア 福祉・医療現場をはじめとした様々な場面での貢献が期待されるアプリ開発者		
		スポーツ健康工学コース	ヒトの心身機能を発展・拡張させるための手法を創出し活用することで、人々の健康増進に貢献できる人材	スポーツ健康工学 × 医工学 使いやすく効果的なトレーニング・リハビリテーション機器を開発できるエンジニア		
数理科学科 75名	数理科学課程 75名	数理科学コース	数理科学の専門知識とシミュレーション技術等の応用力をもち、科学・教育・産業の幅広い分野で諸問題を論理的に解決できる人材	数理科学 × ソフトウェア × 教職 プログラミングもできる数学教員や数学に強い情報教員	●中学校・高等学校教諭一種免許状（数学） ●高等学校教諭一種免許状（情報） ●CAPM※	学士（数理科学）

※Certified Associate in Project Management：プロジェクトマネジメントの国際資格。

学修の起点づくり「学際科目」

基礎教養

学際科目
分野を越えた専門を**つなぐ**パーツ

- キャリアデザイン
- システム工学
- SDGs
- アントレプレナーシップ

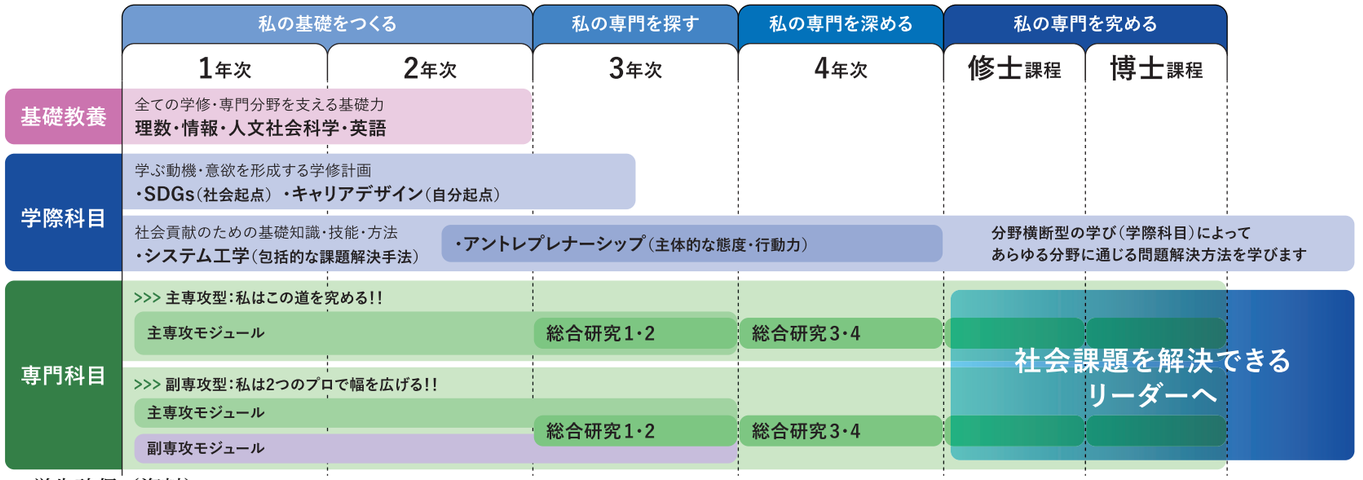
パーツを使って、自身の学びをデザインする

専門科目

社会課題を解決できるリーダーへ

「学際」とは、複数の学問領域にまたがることを意味します。「学際科目」は、道を見つけ出すための起点をつくる科目群です。「キャリアデザイン」では、社会のいかなるステージで活躍したいのかを自ら描き出し、「SDGs」では、自らの学びが社会のいかなる課題と結びつくのかを知ります。「システム工学」では、分野を越えて複数の専門領域をつなぐための知識・技能・方法を学び、「アントレプレナーシップ」では、社会の課題を解決するアイデアを実現するための行動力を養います。自分と社会をつなぐ学修計画を立て、専門科目を広げる知識と方法を身につけ、自身の学びをアップデートしていく起点をつくります。

「学際科目」で分野横断型の学びを支え促進する



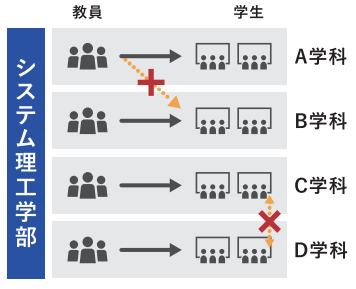
システム思考に基づく分野横断型の学び

芝浦工業大学 システム理工学部は、2026年4月、時代の大きな転換期を見据え、システム思考に基づく
分野横断型の教育理念をさらに進化、飛躍させます。学科制から、社会をアップデートするための学び方『課程制』に変わります。
分野を越えた自由な発想から問題解決できる力を育み、社会、そして自分の「あるべき姿」を見定めます。

『課程制』と学科制の違い

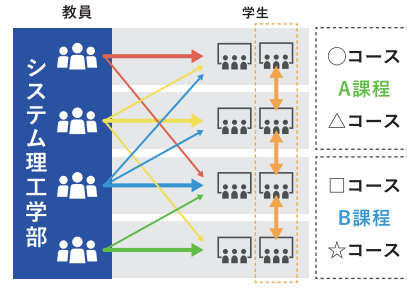
学科制

特定の専門領域に特化した教育プログラム・体制です。学生・教員は学科に所属し、基本的には学科の科目群から履修し単位を取得します。



課程制

複数の専門領域を横断して学ぶことができる教育プログラム・体制です。学生はコースに所属し、教員は学部に所属するため、コースにまたがって授業を担当します。複合的な社会的ニーズに応じて、複数の分野にわたって科目を選択し、単位を取得することができるのが特徴です。



『課程制』を支える「学際科目」と「モジュール制」

システム理工学部の『課程制』は、分野横断型の学びを促進するための「学際科目」と「モジュール制」を設けています。

「○○できる」を意識する「モジュール制」

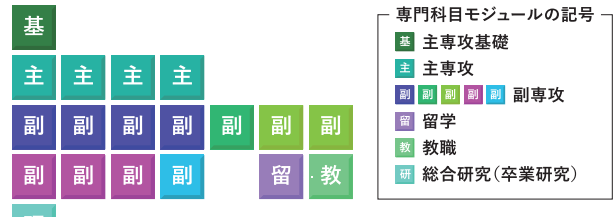
システム理工学部は5課程11コースで編成され、自らの専門分野の中心がコースです。各コースに設けられた科目は、「モジュール」と呼ばれる科目群で分類されます。モジュールとは、ある仕事をうまく進めるための能力「○○できる」を修得する専門科目のまとまりです。自身が所属するコース（主専攻）のみから履修し完成させる専門性の強い「主専攻型」、自コースと他コース（副専攻）にわたって履修し完成させる分野横断性のある「副専攻型」、あるいは留学を前提にしたモジュールを組み込んだ「主専攻（国際※）型」、教職課程を組み込んだ「副専攻（教職）型」など、自らの目的、好奇心に合った「○○できる」モジュールを自由に組み合わせて学修計画を立てることができます。モジュール制によって、従来の学科制では難しかった個性ある自由度の高い学びを実現します。

※国際プログラム：システム理工学部は、グローバル社会で活躍する理工系人材の育成に力を入れています。英語による科目履修、海外協定校への留学（半期以上）、英語による総合研究（卒業研究）によって学位を修める教育プログラムで、留学前教育も充実しています。

基礎教養 土台　専門を修得するための土台パーツ

学際科目 つなぐ　分野を越えた専門をつなぐパーツ

専門科目



目的に応じて自由に選べるパーツ

組み合わせは自由自在

	モジュール例	組み合わせ例／目指せる将来像（一例）	
主専攻型	基礎教養 ＋ 学際 ＋ 専門（基 主 主 主 主 研）／主専攻	建築コースモジュール	健康・快適・安全、省エネ・資源の建築環境を計画できる建築設計・技術者（一級建築士）
主専攻（国際）型	基礎教養 ＋ 学際 ＋ 専門（基 主 主 主 留 研）／主専攻	機械・電気コースモジュール × 留学モジュール	高知能ロボットのプロダクト化など国際的に活躍できるエンジニア
副専攻型	基礎教養 ＋ 学際 ＋ 専門（基 主 主 主 副 研）／主専攻 副専攻 ＋ 他コースのモジュール（副 副 副 副）	数理科学コースモジュール × スポーツ健康工学コースモジュール	グローバルな視点からスポーツを数理的に解析できるスポーツアナリスト
副専攻（教職）型	基礎教養 ＋ 学際 ＋ 専門（基 主 主 教 教 研）／主専攻 副専攻	データサイエンスコースモジュール × 教職モジュール	シミュレーションを用いて未来を予期・予測し、社会課題を解決できる高校教員（情報）

※記載の設置計画・課程・コース名称は予定であり、設置構想中です。内容は変更となる可能性があります。

設置の理念

地球規模で複雑化、多様化する現代社会において、諸問題を総合的、学際的に解決できる力が必要とされています。システム理工学部は、複数の学問体系を横断し関連付けるシステム思考とシステム工学の知識と手法を生かし、新たな時代の要請に応え、地域と人類社会の発展に寄与する教育研究を行います。幅広い教養と国際性を礎にした分野横断型の教育を通して、体系的な理工学の知識や自ら行動し多様な人々と共創できる能力を身につけたグローバル理工系人材を養成します。

アドミッション・ポリシー（求める人物像）

本学部への入学を志望する者は、本学の建学の精神と以下に挙げる「求める人物像」、および教育方針、課程のカリキュラム、教育・研究の内容をよく理解して出願することを求めます。

システム理工学部が求める人物像

(1) 身の回りのさまざまなひと・こと・ものの仕組みや成り立ちについて深く考え、課題を解決することに興味や関心を持つ者。

(2) 総合的、学際的に課題を解決することで、新たな価値を創生し、社会に貢献する意志を持つ者。

(3) 他分野の学生とチームを組んで課題に取り組む等、システム理工学部における分野の枠を越えたプロジェクト演習に興味を持ち、主体的かつ積極的に行動することに強い意欲を持つ者。

システム理工学部の「養成する人材像」

持続可能な社会の実現に貢献するために、科学技術が社会や自然に及ぼす利点と欠点を見据えて、ひと・もの・ことが関係する現象をシステムと捉え（システム思考）、総合的、学際的に問題解決できる知識やスキルを修得し、世界に貢献する職業人としての倫理観をもつグローバル理工系人材を養成します。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）抜粋

システム理工学部は、持続可能な社会の実現に貢献するために、科学技術が社会や自然に及ぼす利点と欠点を見据えて、ひと・もの・ことが関係する現象をシステムと捉え（システム思考）、総合的、学際的に問題解決できる知識やスキルを修得し、世界に貢献する職業人としての倫理観を持ち、卒業要件を満たした者に学位を授与します。

学修・教育到達目標（抜粋）

以下に示す能力と行動特性を有した世界に貢献するグローバル理工系人材を養成するために、学修・教育到達目標を定めます。

◆ **総合的、学際的な知識やスキル**

- 目的の達成へ向けて取り組むべき具体的な課題を設定し、対象とするひと・もの・ことが関係する現象をシステムとして捉えることができる。（システム思考）
- システム思考を用いて、包括的な解決策を導き出すことができる。（システム工学）
- 社会の具体的な課題を解決するアイデアをかたちにし、社会実装に向けて行動できる。（アントレプレナーシップ）
- 新たな課題の解決に必要な知識やスキルを認識し、自らの可能性を広げる学習を継続できる。（生涯学習能力）

◆ **専門知識を応用できる能力**

- 主軸となる分野の専門知識を修得し、問題解決に応用できる。
- 主軸となる分野の専門知識を他分野と関連付ける分野横断型の知識と行動力を修得し、社会で活用できる。

設置概要

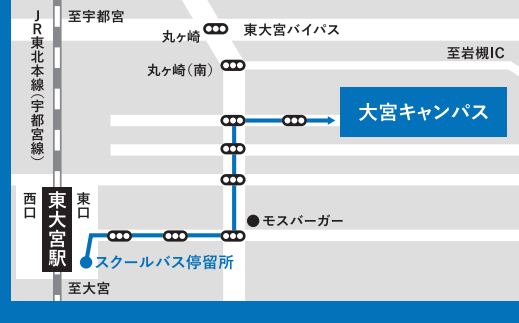
◆ **修業年限：4年**
◆ **開設時期：2026年4月（予定）**
◆ **初年度納付金：1,795,020円** ※2024年度実績

芝浦工業大学 システム理工学部

〒337-8570
埼玉県さいたま市見沼区深作307
TEL：03-5859-7100（入試課）
URL：https://newsystems2026.shibaura-it.ac.jp/

交通アクセス

JR宇都宮線（東北本線）「東大宮駅」より
スクールバス5分



100th
芝浦工業大學
100th ANNIVERSARY
Established 1927

理工学の可能性を追求し続ける芝浦工業大学は、100周年は通過点と捉えています。「常に前進する文化の醸成」をモットーに教員と職員と学生が協働で前進していくために、上の周年ロゴマークとスローガンを設定いたしました。

別記様式第３号（その１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員名簿

学　長　又　は　校　長　の　氏　名　等						
調書番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	現　職 （就任年月）
－	学長	ヤマダ　ジュン 山田　純 ＜令和8年4月＞		博士(工学)		芝浦工業大学　学長 (令和3.4～令和10.4)

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教 員 の 氏 名 等

（芝浦工業大学　システム理工学部）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	主要授業科目	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
①	基(主専)	教授	フクダ(アイハラ)　アキコ 福田(相原) 亜希子 ＜令和8年4月＞		博士 (理学)			Practical English in Mathematical Sciences	1前・後	2	1	芝浦工業大学　システム理工学部 数理科学科　教授 （令5年4月）	○				5日	
							○	線形代数１	１前	2	1							
								Topics in Numerical Analysis　※	3前	0.7	1							
								Topics in Pure and Applied Mathematics　※	2前・後	0.1	1							
							○	基礎数理セミナー	1前	2	1							
								国際数理科学実習1	1前・後	2	1							
								国際数理科学実習2	1前・後	2	1							
							○	情報リテラシー	1前	2	1							
							○	数値解析1	2前	2	1							
								数値解析2	2後	2	1							
								数理科学概論　※	1後	0.3	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究２	3後	2	1							
							○	総合研究３	4前	4	1							
							○	総合研究４	4後	4	1							
								離散数理　※	2後	0.7	1							
2	基(主専)	教授	アカギ　リョウタ 赤木 亮太 ＜令和8年4月＞		博士 (スポーツ科学)			スポーツ工学概論　※	1後	0.6	2	芝浦工業大学　システム理工学部 生命科学科　教授 （令4年4月）	○				5日	
							○	スポーツ工学実験演習1　※	2前	1.5	1							
								スポーツ工学研究法	3前	2	1							
								スポーツ画像工学	3後	2	1							
								機能解剖学　　※	2前	0.6	1							
								材料力学	2後	2	1							
								映像メディア解析	3前	2	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究２	3後	2	1							
							○	総合研究３	4前	4	1							
							○	総合研究４	4後	4	1							
								体育実技１	1前・後	1	1							
								体育実技２	1前・後	1	1							
3	基(主専)	教授	アサノ　ヒロトシ 淺野 裕俊 ＜令和8年4月＞		博士 (工学)			Recent trends on media technology　　※	2後	0.3	1	工学院大学　情報学部コンピュータ科学科　准教授 （令2年9月）	○				5日	
								コンピュータグラフィックス	2前	2	1							
								メディアデザイン1	2後	2	1							
								メディアデザイン2	3前	2	1							
								メディア表現応用	2後	2	1							
								メディア表現基礎	1後	2	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究２	3後	2	1							
							○	総合研究3	4前	4	1							
							○	総合研究4	4後	4	1							

②	基(主専)	教授	イイヅカ　コウジロウ 飯塚 浩二郎 ＜令和8年4月＞		博士 (工学)			ものづくり工学　※	3前	1	1	芝浦工業大学　システム理工学部 機械制御システム学科　教授 (平30年4月)	○				5日	
								ロボット工学演習	2後	1	1							
								ロボティクス	3前	2	2							
								機械・電気システムセミナー　※	2後	0.3	1							
								機構学	1前	2	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究２	3後	2	1							
							○	総合研究3	4前	4	1							
							○	総合研究4	4後	4	1							
5	基(主専)	教授	イシカワ　ユウジ 石川 裕次 ＜令和8年4月＞		博士 (工学)			Architecture and Environmental Design　※	2後	0.3	1	芝浦工業大学　システム理工学部 環境システム学科　教授 (平29年4月)	○				5日	
							○	建築・都市・環境応用演習A	3後	3	1							
							○	建築・都市・環境応用演習Ｂ	3後	3	1							
							○	建築・都市・環境総論　※	3前	0.1	1							
							○	建築基礎演習　※	1後	0.3	1							
								建築構造基礎	1後	2	1							
								建築構造設計	3前	3	1							
								建築構造力学1	2前	2	1							
								建築構造力学2	2後	2	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究2	3後	2	1							
							○	総合研究3	3後	4	1							
							○	総合研究4	4後	4	1							
③	基(主専)	教授	イシワタ　テツヤ 石渡 哲哉 ＜令和8年4月＞		博士 (理学)		○	Cプログラミング（数理科学）	1後	3	1	芝浦工業大学　システム理工学部 数理科学科　教授 (平27年4月)	○				5日	
								Practical English in Mathematical Sciences	1前・後	2	1							
								Topics in Numerical Analysis　※	3前	0.7	1							
								Topics in Pure and Applied Mathematics　※	2前・後	0.1	1							
								シミュレーション	3後	2	1							
							○	基礎数理セミナー	1前	2	1							
								現象の数理	2前	2	1							
								国際数理科学実習1	1前・後	2	1							
								国際数理科学実習2	1前・後	2	1							
							○	情報リテラシー	1前	2	1							
								数理科学概論　※	1後	0.1	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究２	3後	2	1							
							○	総合研究３	4前	4	1							
							○	総合研究4	4後	4	1							
								離散数理　※	2後	0.7	1							

④	基(主専)	教授	イチカワ　マナブ 市川 学 ＜令和8年4月＞		博士 (工学)			Advanced Systems Science and Engineering1	2前・後	2	1	芝浦工業大学　システム理工学部 環境システム学科　教授 (令5年4月)	○				5日	
								Advanced Systems Science and Engineering2	2前・後	2	1							
							○	AI基礎	1後	1	1							
							○	Python入門	1前	1	1							
								インターンシップ	2前・後	2	1							
								エージェントシミュレーション	3前	3	1							
								シミュレーション＆ゲーミング	2後	2	1							
								ゲーミング入門　※	1後	0.7	1							
							○	システム工学Ａ（システム計画方法論）	2前	3	1							
							○	システム工学Ｂ（数理計画法）	2後	3	1							
							○	データサイエンスリテラシー	1後	1	1							
							○	データサイエンス実践1	1後	3	1							
							○	データサイエンス実践2	2前	3	1							
							○	データサイエンス実践3	2後	3	1							
							○	データサイエンス実践4	3前	3	1							
								データサイエンス入門　※	1前	0.1	1							
							○	プログラミング入門	1前	1	1							
								システム科学	4前	2	1							
								データサイエンス応用	1後	3	1							
								機械学習データサイエンス演習	2後	1	1							
								産学官金連携PBL	3前・後	2	1							
								社会シミュレーション入門　※	1後	0.1	1							
							○	情報基礎	1前	3	1							
								社会システム入門　※	1前	0.1	1							
								社会システム実践演習	3後	3	1							
								深層学習データサイエンス演習	2前	1	1							
								人工知能データサイエンス演習	2前	1	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究２	3後	2	1							
							○	総合研究3	4前	4	1							
							○	総合研究4	4後	4	1							
							○	統計学基礎	1前	1	1							
								保健医療福祉政策概論	1前	2	1							
⑤	基(主専)	教授	イトウ　カズヒサ 伊藤 和寿 ＜令和8年4月＞		博士 (工学)			Introduction to Control Engineering	2前	2	1	芝浦工業大学　システム理工学部 機械制御システム学科　教授 (平23年4月)	○				5日	
								Introduction to Embedded Programming　※	1前	0.4	1							
								エンジニアリング・プラクティス1	1前	2	2							
								エンジニアリング・プラクティス2	2前	4	2							
								機械・電気システムセミナー　※	2後	0.3	2							
							○	機械・電気基礎数学	2前	4	2							
								制御工学	2後	2	1							
							○	微分方程式　※	1後	1	1							
								線形システム制御	3前	2	1							
								Cross-cultural Student Support	1前・後	1	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究２	3後	2	1							
							○	総合研究3	4前	4	1							
							○	総合研究4	4後	4	1							

⑥	基(主専)	教授	イドガワ　トモユキ 井戸川 知之 ＜令和8年4月＞		博士 (理学)			Practical English in Mathematical Sciences	1前・後	2	1	芝浦工業大学　システム理工学部 数理科学科　教授 (平24年4月)	○				5日	
								Theory of Computation	2後	2	1							
								Topics in Pure and Applied Mathematics　※	2前・後	0.1	1							
							○	基礎数理セミナー	1前	2	1							
								記号処理	2後	2	1							
								計算機代数	3後	2	1							
								計算理論基礎	2前	2	1							
								国際数理科学実習1	1前・後	2	1							
								国際数理科学実習2	1前・後	2	1							
								数理科学概論　※	1後	0.1	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究２	3後	2	1							
							○	総合研究３	4前	4	1							
							○	総合研究4	4後	4	1							
⑦	基(主専)	教授	エノモト　ユウコ 榎本 裕子 ＜令和8年4月＞		博士 (理学)			Introduction to Advanced Mathematics　※	2後	0.7	1	芝浦工業大学　システム理工学部 数理科学科　教授 (平30年4月)	○				5日	
								Practical English in Mathematical Sciences	1前・後	2	1							
								Topics in Pure and Applied Mathematics　※	2前・後	0.1	1							
								関数方程式論	2後	2	1							
							○	基礎数理セミナー	1前	2	1							
								国際数理科学実習1	1前・後	2	1							
								国際数理科学実習2	1前・後	2	1							
							○	数学入門1　※	1前	1	1							
							○	数学入門2　※	1後	1	1							
							○	微分積分1	1前	2	1							
							○	微分積分2	1後	2	1							
								数理科学概論　※	1後	0.1	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究２	3後	2	1							
							○	総合研究３	4前	4	1							
							○	総合研究4	4後	4	1							
11	基(主専)	教授	オオスカ　ヨウスケ 大須賀 洋祐 ＜令和8年4月＞		博士 (スポーツ医学)			体力医科学	2後	2	1	国立長寿医療研究センター フレイル研究部 副部長 (令和5年1月)	○				5日	
								健康長寿学	3後	2	1							
								スポーツ工学概論　※	1後	0.6	2							
							○	スポーツ工学実験演習1　※	2前	1.5	1							
								体育実技１	1前・後	1	1							
								体育実技２	1前・後	1	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究2	3後	2	1							
							○	総合研究３	4前	4	1							
							○	総合研究４	4後	4	1							
12	基(主専)	教授	オクダ　ヒロシ 奥田 宏志 ＜令和8年4月＞		博士 (学術)			教育実習１	3前・後	2	1	芝浦工業大学　システム理工学部 生命科学科　教授 (令5年4月)	○				5日	
								教育実習２	3前・後	2	1							
								教職インターンシップ１	1前・後	1	1							
								教職インターンシップ２	1前・後	1	1							
								教職実践演習（中・高）	4前・後	2	1							
								事前・事後指導	3前・後	1	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究2	3後	2	1							
							○	総合研究３	4前	4	1							
							○	総合研究４	4後	4	1							
								栽培学	1前・後	2	1							
								教職論	1前・後	2	1							
								理科指導法1	2前・後	2	1							
								理科指導法2	2前・後	2	1							
								理科指導法3	3前・後	2	1							
								理科指導法4	3前・後	2	1							

⑧	基(主専)	教授	オザキ　カツヒサ 尾崎 克久 ＜令和8年4月＞		博士 (工学)		○	Cプログラミング(数理科学)	1後	3	1	芝浦工業大学　システム理工学部 数理科学科　教授 (平31年4月)	○				5日	
								Javaプログラミング	2後	3	1							
								Practical English in Mathematical Sciences	1前・後	2	1							
								Topics in Numerical Analysis　※	3前	0.6	1							
								Topics in Pure and Applied Mathematics　※	2前・後	0.1	1							
								ハイパフォーマンスコンピューティング	2前	2	1							
							○	基礎数理セミナー	1前	2	1							
								国際数理科学実習1	1前・後	2	1							
								国際数理科学実習2	1前・後	2	1							
								数理科学概論　※	1後	0.1	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究２	3後	2	1							
							○	総合研究３	4前	4	1							
							○	総合研究4	4後	4	1							
14	基(主専)	教授	カタオカ　マコト 片岡 誠 ＜令和8年4月＞		博士 (工学)			International Comparison of AEC Industry	2後	2	1	芝浦工業大学　システム理工学部 環境システム学科　教授 (令6年4月)	○				5日	
								建設プロジェクトマネジメント	3前	2	1							
							○	建築・都市・環境応用演習A	3後	3	1							
							○	建築・都市・環境応用演習Ｂ	3後	3	1							
							○	建築・都市・環境総論　※	3前	0.1	1							
								建築デジタル・ファブリケーション　※	2後	0.9	1							
								建築生産・施工	3後	2	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究2	3後	2	1							
							○	総合研究3	3後	4	1							
							○	総合研究4	4後	4	1							
15	基(主専)	教授	カトラミーズ　ターレク ＫＡＴＲＡＭＩＺ　ＴＡＲＥＫ ＜令和8年4月＞		博士 (政策・ メディア)			Environmental Urban Planning	2後	2	1	芝浦工業大学　システム理工学部 環境システム学科 (令6年4月)	○				5日	
								Global Governance and Sustainable Strategy	2後	2	1							
								Planning for Community Resilience	3前	2	1							
								SDGs入門	1前	2	1							
								Sustainable Business Practices	3前	2	1							
								Urban and Regional Studies	2前	2	1							
							○	環境・都市基礎　※	1後	0.3	1							
							○	環境・都市基礎演習　※	1後	0.3	1							
								International Workshop on Environmental Planning and Design 1	2前・後	2	1							
								International Workshop on Environmental Planning and Design 2	3前・後	3	1							
								環境ビジネス	2後	3	1							
								環境フィールド実習　※	2前・後	0.6	1							
							○	建築・都市・環境応用演習A	3後	3	1							
							○	建築・都市・環境応用演習Ｂ	3後	3	1							
							○	建築・都市・環境総論　※	3前	0.1	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究2	3後	2	1							
							○	総合研究3	3後	4	1							
							○	総合研究4	4後	4	1							
								脱炭素と地域創発	3前	2	1							

16	基(主専)	教授	ソデノ（カニエ）　レイコ 袖野（蟹江）　玲子 ＜令和8年4月＞		博士 （環境学）		○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	Environmental Management International Studies on Planning, Architecture and Environmental Systems Environmental Field Survey 1 Environmental Field Survey 2 SDGsと環境 環境・都市基礎　※ 環境・都市基礎演習　※ 環境フィールド実習　※ 環境政策 建築・都市・環境応用演習A 建築・都市・環境応用演習Ｂ 建築・都市・環境総論　※ 総合研究１ 総合研究2 総合研究3 総合研究4	2後 3後 2前・後 3前・後 1前 1後 1後 2前・後 3前 3後 3後 3前 3前 3後 4後	2 1 2 3 2 0.3 0.1 0.6 2 3 3 0.3 2 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学　システム理工学部 環境システム学科　教授 （平30年4月）	○				5日	
⑨	基(主専)	教授	カワカミ　ユキオ 川上 幸男 ＜令和8年4月＞		博士 （工学）		○ ○ ○ ○	ものづくり工学　※ 機械・電気システムセミナー　※ 機械・電気工学実験 設計製図 総合研究１ 総合研究２ 総合研究3 総合研究4	3前 2後 3前 2後 3前 3後 4前 4後	1 0.3 3 2 2 2 4 4	1 2 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学　システム理工学部 機械制御システム学科 （平16年4月）	○				5日	
18	基(主専)	教授	カワシマ　ヒロト 川島 洋人 ＜令和8年4月＞		博士 （工学）		○ ○ ○ ○ ○ ○	Advanced Bioscience　※ 環境化学 生物地球化学 生命科学概論　※ 生命科学実験（応用）　※ 生命科学実験（基礎）　※ 総合研究１ 総合研究2 総合研究３ 総合研究４ 分析化学	2前 3後 2後 1前 2前 1後 3前 3後 4前 4後 1後	0.3 2 2 0.3 0.6 0.6 2 2 4 4 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学　システム理工学部 生命科学科　教授 （令5年4月）	○				5日	
⑩	基(主専)	教授	キミジマ　シンジ 君島 真仁 ＜令和8年4月＞		博士 （工学）		○ ○ ○ ○ ○	機械・電気システムセミナー　※ 総合研究１ 総合研究２ 総合研究3 総合研究4 伝熱工学 電気・熱流体機器演習 熱力学 流れ学	2後 3前 3後 4前 4後 3後 3後 2後 2前	0.3 2 2 4 4 2 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学　システム理工学部 機械制御システム学科　教授 （平23年4月）	○				5日	

⑪	基(主専)	教授	キムラ　ゲン 木村　元 ＜令和8年4月＞		博士 (理学)		○	Cプログラミング(機械・電気)　※	1後	1.5	1	芝浦工業大学　システム理工学部 機械制御システム学科　教授 (平31年4月)	○				5日	
							○	力学１	1前	2	1							
								力学２	1後	2	1							
							○	波動・熱力学	1後	2	1							
								電磁気学	2前	2	1							
								機械・電気システムセミナー　※	2後	0.3	2							
								現代物理学概論	2後	2	1							
								符号理論	3後	2	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究２	3後	2	1							
							○	総合研究3	4前	4	1							
							○	総合研究4	4後	4	1							
							○	微分方程式　※	1後	1	1							
21	基(主専)	教授	イワタ（ゲンチ）　トモコ 磐田（玄地）　朋子 ＜令和8年4月＞		博士 (環境学)		○	International Studies on Planning, Architecture and Environmental Systems	3後	1	1	芝浦工業大学　システム理工学部 環境システム学科　教授 (令4年4月)	○				5日	
								Life Cycle Assessment	3前	2	1							
							○	環境・都市基礎　※	1後	0.3	1							
							○	環境・都市基礎演習　※	1後	0.1	1							
								環境フィールド実習　※	2前・後	0.6	1							
							○	建築・都市・環境応用演習A	3後	3	1							
							○	建築・都市・環境応用演習B	3後	3	1							
							○	建築・都市・環境総論　※	3前	0.3	1							
								資源・エネルギーシステム論	2前	3	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究2	3後	2	1							
							○	総合研究3	4前	4	1							
							○	総合研究4	4後	4	1							
⑫	基(主専)	教授	コヤマ　ユウスケ 小山　友介 ＜令和8年4月＞		博士 (経済学)		○	AI基礎	1後	1	1	芝浦工業大学　システム理工学部 環境システム学科　教授 (平28年4月)	○				5日	
								クリエイティブ産業論	1後	2	1							
								シミュレーション＆ゲーミング	2後	2	1							
								ゲーミング入門　※	1後	0.1	1							
								システム科学	4前	2	1							
							○	データサイエンスリテラシー	1後	1	1							
							○	データサイエンス実践1	1後	3	1							
							○	データサイエンス実践2	2前	3	1							
							○	データサイエンス実践3	2後	3	1							
							○	データサイエンス実践4	3前	3	1							
								データサイエンス入門　※	1前	0.1	1							
							○	データ解析	1後	2	1							
								ビジネスエコノミクス	1前	2	1							
								機械学習データサイエンス演習	2後	1	1							
								金融・経済リテラシー	1後	2	1							
								社会システム実践演習	3後	3	1							
								社会システム入門　※	1前	0.7	1							
								社会シミュレーション入門　※	1後	0.1	1							
								メディアコンテンツビジネス	1後	2	1							
								社会調査法	1前	2	1							
								消費者行動論	1前	2	1							
							○	情報基礎	1前	3	1							
								深層学習データサイエンス演習	2前	1	1							
								人工知能データサイエンス演習	2前	1	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究２	3後	2	1							
							○	総合研究3	4前	4	1							
							○	総合研究4	4後	4	1							
							○	統計学基礎	1前	1	1							

23	基(主専)	教授	コンドウ タケシ 近藤 武士 ＜令和8年4月＞		博士 (工学)			Architecture and Environmental Design ※	2後	0.3	1	日建設計総合研究所　主任研究員 (平19年4月)	○				5日	
							○	建築・都市・環境応用演習A	3後	3	1							
							○	建築・都市・環境応用演習B	3後	3	1							
							○	建築・都市・環境総論 ※	3前	0.1	1							
								建築環境設備基礎	2前	2	1							
							○	建築基礎演習 ※	1後	0.1	1							
								建築設備学	3前	3	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究2	3後	2	1							
							○	総合研究3	4前	4	1							
							○	総合研究4	4後	4	1							
⑬	基(主専)	教授	サイ　キセイ サイ 貴生 ＜令和8年4月＞		博士 (学術)			Advanced Control Theory	3前	2	1	芝浦工業大学　システム理工学部 数理科学科　教授 (平25年4月)	○				5日	
								Practical English in Mathematical Sciences	1前・後	2	1							
								Topics in Pure and Applied Mathematics ※	2前・後	0.1	1							
							○	基礎数理セミナー	1前	2	1							
								国際数理科学実習1	1前・後	2	1							
								国際数理科学実習2	1前・後	2	1							
								数理科学概論 ※	1後	0.1	1							
								数理計画法	2前	2	1							
								制御理論基礎	2後	2	1							
							○	線形代数１	1前	2	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究２	3後	2	1							
							○	総合研究３	4前	4	1							
							○	総合研究4	4後	4	1							
							○	微分方程式	1後	2	1							
25	基(主専)	教授	サコタ ダイスケ 迫田 大輔 ＜令和8年4月＞		博士 (学術)			Introduction to Biomedical-Engineering ※	1後	0.1	1	国立研究開発法人産業技術総合研究所　主任研究員 (平29年10月)	○				5日	
								バイオエレクトロニクス	3後	2	1							
							○	医工学セミナー ※	2後	0.3	1							
								医工学プログラミング演習	3前	3	1							
							○	医工学概論 ※	1前	0.1	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究2	3後	2	1							
							○	総合研究３	4前	4	1							
							○	総合研究４	4後	4	1							
							○	電磁気学	2前	2	1							
26	基(主専)	教授	サトウ　ヒロキ 佐藤 大樹 ＜令和8年4月＞		博士 (工学)			Global Project-Based Learning 1	2前・後	2	1	芝浦工業大学　システム理工学部 生命科学科　教授 (平30年4月)	○				5日	
								Global Project-Based Learning 2	2前・後	2	1							
								Global Project-Based Learning 3	2前・後	2	1							
								スポーツ工学概論 ※	1後	0.6	2							
							○	スポーツ工学実験演習2 ※	2後	1.5	1							
								生体計測学	2前	4	2							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究2	3後	2	1							
							○	総合研究３	4前	4	1							
							○	総合研究４	4後	4	1							
								脳機能計測学	3前	2	1							
27	基(主専)	教授	シンボ　アキコ 真保 晶子 ＜令和8年4月＞		Doctor of Philosophy (History) (英国)			Basic English for Science and Technology 1	2前	6	1	芝浦工業大学　システム理工学部 環境システム学科　教授 (平27年5月)	○				5日	
								Basic English for Science and Technology 2	2後	4	1							
								History of Housing and Interior Design	2後	2	1							
								学外英語検定1	1前・後	4	1							
								学外英語検定2	1前・後	4	1							
							○	建築・都市・環境応用演習A	3後	3	1							
							○	建築・都市・環境応用演習B	3後	3	1							
							○	建築・都市・環境総論 ※	3前	0.1	1							
								国際デザイン史	1後	2	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究2	3後	2	1							
							○	総合研究3	4前	4	1							
							○	総合研究4	4後	4	1							

⑭	基(主専)	教授	スズキ　タツオ 鈴木 達夫 ＜令和8年4月＞		博士 (理学)			Linear Space and Vector Calculus	3前	2	1	芝浦工業大学　システム理工学部 数理科学科　教授 (平26年4月)	○				5日	
								Practical English in Mathematical Sciences	1前・後	2	1							
								Topics in Pure and Applied Mathematics　※	2前・後	0.1	1							
								ベクトル解析	3前	2	1							
							○	基礎数理セミナー	1前	2	1							
								国際数理科学実習1	1前・後	2	1							
								国際数理科学実習2	1前・後	2	1							
								集合と位相	1後	2	1							
								数理科学概論　※	1後	0.1	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究２	3後	2	1							
							○	総合研究３	4前	4	1							
							○	総合研究4	4後	4	1							
								複素解析	2後	2	1							
29	基(主専)	教授	スズキ　テツヤ 鈴木 徹也 ＜令和8年4月＞		博士 (工学)			Recent trends on Software engineering　※	2前	0.3	1	芝浦工業大学　システム理工学部 電子情報システム学科　教授 (平29年4月)	○				5日	
								ソフトウェア開発プロジェクト	3前	2	1							
								ソフトウェア開発管理　※	2前	1	1							
							○	データ構造とアルゴリズム	2前	3	1							
							○	情報処理入門	1前	1	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究２	3後	2	1							
							○	総合研究3	4前	4	1							
							○	総合研究4	4後	4	1							
30	基(主専)	教授	スハラ　ヨシトモ 須原 義智 ＜令和8年4月＞		博士 (薬学)			Advanced Bioscience　※	2前	0.3	1	芝浦工業大学　システム理工学部 生命科学科 (平24年4月)	○				5日	
								構造解析学　※	3後	1	1							
								生命科学概論　※	1前	0.3	1							
							○	生命科学実験（応用）　※	2前	1.1	1							
							○	生命科学実験（基礎）　※	1後	0.6	1							
								創薬化学	3後	2	1							
								化学	1前	1	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究2	3後	2	1							
							○	総合研究３	4前	4	1							
							○	総合研究４	4後	4	1							
								有機化学	1後	2	1							
⑮	基(主専)	教授	タカシマ　カズキ 高嶋 和毅 ＜令和8年4月＞		博士 (情報科学)			Recent trends on media technology　※	2後	0.3	1	芝浦工業大学　システム理工学部 電子情報システム学科　教授 (令6年4月)	○				5日	
								VR/AR1	2後	2	1							
								VR/AR2	3前	2	1							
								エンタテインメントコンピューティング	2前	1	1							
								ヒューマンコンピュータインタラクション	3後	1	1							
								メディア認知心理・人間工学	2前	2	1							
							○	メディア処理基礎　※	1後	1	1							
							○	情報倫理	1前・後	2	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究２	3後	2	1							
							○	総合研究3	4前	4	1							
							○	総合研究4	4後	4	1							
32	基(主専)	教授	タカハシ　マサノブ 高橋 正信 ＜令和8年4月＞		博士 (工学)			Recent trends on media technology　※	2後	1.1	1	芝浦工業大学　システム理工学部 電子情報システム学科　教授 (平21年4月)	○				5日	
								メディア処理1	2後	2	1							
								メディア処理2	3前	2	1							
							○	メディア処理基礎　※	1後	1	1							
								音声音響情報処理	2前	2	1							
								画像情報処理	1後	2	1							
							○	情報処理入門　※	1前	0.4	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究２	3後	2	1							
							○	総合研究3	4前	4	1							
							○	総合研究4	4後	4	1							

⑯	基(主専)	教授	タケウチ　シンゴ 竹内 慎吾 ＜令和8年4月＞		博士 (理学)			Calculus with Differential Equations	2前	2	1	芝浦工業大学　システム理工学部 数理科学科　教授 (平28年4月)	○				5日	
								Practical English in Mathematical Sciences	1前・後	2	1							
								Topics in Pure and Applied Mathematics　※	2前・後	0.1	1							
								解析基礎	1後	2	1							
							○	関数解析1	3前	2	1							
								基礎数理セミナー	1前	2	1							
								国際数理科学実習1	1前・後	2	1							
							○	国際数理科学実習2	1前・後	2	1							
							○	数理科学概論　※	1後	0.1	1							
							○	微分積分1	1前	2	1							
							○	論理と集合	1前	2	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究２	3後	2	1							
							○	総合研究３	4前	4	1							
							○	総合研究4	4後	4	1							
34	基(主専)	教授	タナカ　ナオヒコ 田中 直彦 ＜令和8年4月＞		博士 (工学)		○	IoTプロジェクト	3前	3	1	芝浦工業大学　システム理工学部 電子情報システム学科　教授 (平21年4月)	○				5日	
							○	エレクトロニクスプロジェクト	2後	2	1							
								センサとアクチュエータ	2前	2	1							
								ハードウェア基礎	1前	2	1							
								計測工学	1後	2	1							
								信号解析	3前	2	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究２	3後	2	1							
							○	総合研究3	4前	4	1							
							○	総合研究4	4後	4	1							
35	基(主専)	教授	タナカ　ミナミ 田中 みなみ ＜令和8年4月＞		博士 (学術)			Introduction to Industrial Design	2前	2	1	芝浦工業大学　システム理工学部 機械制御システム学科　教授 (平28年4月)	○				5日	
								デザインエルゴノミクス	2後	2	1							
							○	ものづくり工学実習	1後	2	1							
								機械基礎製図	2前	2	1							
							○	工業デザイン演習	3前	2	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究２	3後	2	1							
							○	総合研究3	4前	4	1							
							○	総合研究4	4後	4	1							
36	基(主専)	教授	チェン　シンカイ 陳 新開 ＜令和8年4月＞		博士 (工学)			Recent trends on IoT　※	1後	0.3	1	芝浦工業大学　システム理工学部 電子情報システム学科　教授 (平22年4月)	○				5日	
							○	システム工学Ａ（システム計画方法論）	2前	3	1							
							○	システム工学Ｂ（数理計画法）	2後	3	1							
							○	システム制御	2後	2	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究２	3後	2	1							
							○	総合研究3	4前	4	1							
							○	総合研究4	4後	4	1							
37	基(主専)	教授	ニコデムス　レディアン ＮＩＣＯＤＩＭＵＳ　ＲＥＴＤＩＡＮ ＜令和8年4月＞		博士 (工学)			Basic Control　Engineering	2後	2	1	芝浦工業大学　システム理工学部 電子情報システム学科　教授 (令3年4月)	○				5日	
							○	IoTプロジェクト	3前	3	1							
							○	IoT基礎	1前	2	1							
							○	IoT設計論	2前	2	1							
								Recent trends on IoT　※	1後	0.9	1							
							○	エレクトロニクスプロジェクト	2後	2	1							
								コミュニケーションシステム	2後	2	1							
								センサとアクチュエータ　※	2前	0.9	1							
								フロントエンドとインタフェース基礎	1後	2	1							
							○	組込みシステム	2後	3	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究２	3後	2	1							
							○	総合研究3	4前	4	1							
							○	総合研究4	4後	4	1							
							○	電気回路	1後	2	1							
							○	電気回路演習	1後	1	1							

⑰	基(主専)	教授	ハセガワ　ヒロシ 長谷川 浩志 ＜令和8年4月＞		博士 (工学)			Advanced Systems Science and Engineering1	2前・後	2	1	芝浦工業大学　システム理工学部 機械制御システム学科　教授 (平23年4月)	○				5日	
								Advanced Systems Science and Engineering2	2前・後	2	1							
							○	アントレプレナーシップA（価値創造）	3前	2	1							
								アントレプレナーシップB（事業創出）	3後	2	1							
								インターンシップ	2前・後	2	1							
								エンジニアリング・プラクティス1	1前	2	1							
								エンジニアリング・プラクティス2	2前	4	1							
							○	システム工学A（システム計画方法論）	2前	3	1							
							○	システム工学B（数理計画法）	2後	3	1							
								応用設計	3前	3	1							
								機械・電気システムセミナー　※	2後	0.3	2							
								工学基礎概論	1前・後	1	1							
								産学官金連携PBL	3前・後	2	1							
								創生設計	3後	3	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究２	3後	2	1							
							○	総合研究3	4前	4	1							
							○	総合研究4	4後	4	1							
							○	未来を創る1	1前	2	1							
							○	未来を創る2	2後	1	1							
39	基(主専)	教授	ヒサズミ　ケンジ 久住 憲嗣 ＜令和8年4月＞		博士 (工学)			Recent trends on Software engineering　※	2前	0.3	1	芝浦工業大学　システム理工学部 電子情報システム学科　教授 (令4年4月)	○				5日	
							○	オブジェクト指向言語	2前	2	1							
								ゲームプログラミング	3後	2	1							
								ソフトウェア開発プロジェクト	3前	2	1							
								ソフトウェア開発管理　※	2前	1	1							
								ソフトウェア設計論	3前	2	1							
								モバイルプログラミング	3後	2	1							
								現代的ソフトウェア構築技法	2後	2	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究２	3後	2	1							
							○	総合研究２	4前	4	1							
							○	総合研究4	4後	4	1							
40	基(主専)	教授	フクイ　コウジ 福井 浩二 ＜令和8年4月＞		博士 (工学)			Advanced Bioscience　※	2前	0.3	1	芝浦工業大学　システム理工学部 生命科学科　教授 (平29年4月)	○				5日	
								Global Project-Based Learning 1	2前・後	2	1							
								Global Project-Based Learning 2	2前・後	2	1							
								Global Project-Based Learning 3	2前・後	2	1							
								細胞生理学	3後	2	1							
								神経生理学	2前	2	1							
								生命科学概論　※	1前	0.3	1							
							○	生命科学実験（基礎）　※	1後	0.6	1							
							○	生命科学実験（発展）　※	2前・後	1.2	1							
							○	生理学	1後	2	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究2	3後	2	1							
							○	総合研究３	4前	4	1							
							○	総合研究４	4後	4	1							

⑱	基(主専)	教授	マスダ　ユキヒロ 増田 幸宏 ＜令和8年4月＞		博士 (工学)			Architecture and Environmental Design ※	2後	0.1	1	芝浦工業大学　システム理工学部 環境システム学科　教授 (平30年4月)	○				5日	
							○	International Studies on Planning, Architecture and Environmental Systems	3後	1	1							
								環境フィールド実習 ※	2前・後	0.6	1							
								景観・ランドスケープデザイン	3後	2	1							
							○	建築・都市・環境応用演習A	3後	3	1							
							○	建築・都市・環境応用演習B	3後	3	1							
							○	建築・都市・環境総論 ※	3前	0.4	1							
								建築・都市法規	3後	2	1							
								建築環境工学	2後	2	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究2	3後	2	1							
							○	総合研究3	4前	4	1							
							○	総合研究4	4後	4	1							
								都市・地域システム計画 ※	3前	0.3	1							
								都市環境基盤計画	3前	2	1							
								都市及び都市計画史	1前	2	1							
								都市計画演習	2前	1	1							
								土地利用計画	2後	3	1							
42	基(主専)	教授	クボタ（ミタニ）　アヤ 久保田（三谷）　あや ＜令和8年4月＞		博士 (理学)			Recent trends on IoT ※	1後	0.3	1	芝浦工業大学　システム理工学部 電子情報システム学科　教授 (令2年4月)	○				5日	
								宇宙観測技術 ※	3後	1	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究２	3後	2	1							
							○	総合研究3	4前	4	1							
							○	総合研究4	4後	4	1							
								電磁気学	2前	2	1							
								力学1	1前	2	1							
								力学2	1後	4	1							
⑲	基(主専)	教授	ミヨシ　タクミ 三好 匠 ＜令和8年4月＞		博士 (工学)			Global Project-based Learning	2前・後	4	2	芝浦工業大学　システム理工学部 電子情報システム学科　教授 (平24年4月)	○				5日	
								Introduction to Embedded Programming ※	1前・後	0.4	1							
								Recent trends on Software engineering ※	2前	0.9	1							
							○	インターネットプロトコル	1後	2	1							
								クラウドコンピューティング	3後	2	1							
								ネットワークプログラミング	3前	2	1							
							○	機械学習	2後	2	1							
								情報ネットワークプロジェクト	3前	2	1							
								情報理論	2前	2	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究２	3後	2	1							
							○	総合研究3	4前	4	1							
							○	総合研究4	4後	4	1							
⑳	基(主専)	教授	ムトウ　マサヨシ 武藤 正義 ＜令和8年4月＞		博士 (学術)			機械・電気システムセミナー ※	2後	0.3	2	芝浦工業大学　システム理工学部 機械制御システム学科　教授 (令2年4月)	○				5日	
								社会学概論	1後	2	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究２	3後	2	1							
							○	総合研究3	4前	4	1							
							○	総合研究4	4後	4	1							
45	基(主専)	教授	ヤジマ　イチロウ 矢嶋 伊知朗 ＜令和8年4月＞		博士 (理学)			Advanced Bioscience ※	2前	0.3	1	芝浦工業大学　システム理工学部 生命科学科　教授 (平31年4月)	○				5日	
							○	生物学	1前	2	1							
							○	生命科学実験（基礎） ※	1後	0.6	1							
							○	生命科学実験（発展） ※	2前・後	1.1	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究2	3後	2	1							
							○	総合研究３	4前	4	1							
							○	総合研究４	4後	4	1							
								発生生物学	2後	2	1							
								分子遺伝学	3後	2	1							

㉑	基(主専)	教授	ヤタベ　キヨミ 矢田部 清美 ＜令和8年4月＞		博士 (学術)			English Advanced Skills 1	1前	6	1	芝浦工業大学　システム理工学部 機械制御システム学科　教授 (平31年4月)					5日	
								English Advanced Skills 2	1後	6	1							
								English Basic Skills 1	1前	2	1							
								機械・電気システムセミナー　※	2後	0.3	2							
							○	総合研究１	3前	2	1		○					
							○	総合研究２	3後	2	1							
							○	総合研究3	4前	4	1							
							○	総合研究4	4後	4	1							
㉒	基(主専)	教授	マツシタ（ヤツカ）　キワ 松下（八束）　希和 ＜令和8年4月＞		博士 (工学)			Architectural Planning and Design	3前	2	1	芝浦工業大学　システム理工学部 環境システム学科　教授 (平30年4月)	○				5日	
								Architecture and Environmental Design　※	2後	0.4	1							
							○	International Studies on Planning, Architecture and Environmental Systems	3後	1	1							
								International Workshop on Environmental Planning and Design 1	2前・後	2	1							
								International Workshop on Environmental Planning and Design 2	3前・後	3	1							
								建築デジタルデザイン演習	2後	2	1							
							○	環境・都市基礎　※	1後	0.3	1							
							○	環境・都市基礎演習　※	1後	0.1	1							
							○	建築・都市・環境応用演習A	3後	3	1							
							○	建築・都市・環境応用演習B	3後	3	1							
							○	建築・都市・環境総論　※	3前	0.1	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究2	3後	2	1							
							○	総合研究3	4前	4	1							
							○	総合研究4	4後	4	1							
								都市・地域システム計画　※	3前	0.4	1							
								都市住宅論	2後	2	1							
㉓	基(主専)	教授	ヤマザキ　カズヤ 山崎 一也 ＜令和8年4月＞		博士 (観光科学)			Architecture and Environmental Design　※	2後	0.4	1	芝浦工業大学　システム理工学部 環境システム学科　教授 (令6年4月)	○				5日	
								Environmental Field Survey 1	2前・後	2	1							
								Environmental Field Survey 2	3前・後	3	1							
							○	環境・都市基礎　※	1後	0.3	1							
							○	環境・都市基礎演習　※	1後	0.1	1							
								観光建築デザイン論	2後	4	2							
								居住環境デザイン演習	3前	2	1							
							○	建築・都市・環境応用演習A	3後	3	1							
							○	建築・都市・環境応用演習B	3後	3	1							
							○	建築・都市・環境総論　※	3前	0.1	1							
							○	建築基礎演習　※	1後	1.4	1							
								建築史	1後	2	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究2	3後	2	1							
							○	総合研究3	4前	4	1							
							○	総合研究4	4後	4	1							
								都市・地域システム計画　※	3前	0.4	1							
								都市環境デザイン	3前	2	1							
								都市環境デザイン演習	3前	2	1							
49	基(主専)	教授	ヤマモト　シンイチロウ 山本 紳一郎 ＜令和8年4月＞		博士 (学術)			Introduction to Biomedical-Engineering　※	1後	0.1	1	芝浦工業大学　システム理工学部 生命科学科　教授 (平21年4月)	○				5日	
								バイオメカニクス	3前	2	1							
								メディカルエンジニアリング実験	3後	3	1							
							○	医工学セミナー　※	2後	0.3	1							
							○	医工学概論　※	1前	0.1	1							
								生命統計学	1後	2	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究2	3後	2	1							
							○	総合研究３	4前	4	1							
							○	総合研究４	4後	4	1							
								体育実技１	1前・後	1	1							
								体育実技２	1前・後	1	1							

50	基(主専)	教授	ヨシダ　ケンジ（ケンジ） 吉田 賢二（健二） ＜令和8年4月＞		博士 (理学)			Recent trends on IoT　※	1後	0.3	1	芝浦工業大学　システム理工学部 電子情報システム学科　教授 (平21年4月)	○				5日	
								宇宙観測技術　※	3後	1	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究２	3後	2	1							
							○	総合研究3	4前	4	1							
							○	総合研究4	4後	4	1							
								波動・熱力学	1後	4	1							
								力学1	1前	2	1							
51	基(主専)	教授	ヨシムラ　ケンジロウ 吉村 建二郎 ＜令和8年4月＞		理学博士			Advanced Bioscience　※	2前	0.3	1	芝浦工業大学　システム理工学部 生命科学科　教授 (令５年4月)	○				5日	
								Advanced English for Science and Technology 1	2前	4	1							
								海外英語研修1	1前・後	4	1							
								海外英語研修2	1前・後	4	1							
								海外短期英語研修1	1前・後	2	1							
								海外短期英語研修2	1前・後	2	1							
								生物物理学	3前	2	1							
								生命科学概論　※	1前	0.3	1							
							○	生命科学実験（基礎）　※	1後	0.6	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究2	3後	2	1							
							○	総合研究３	4前	4	1							
							○	総合研究４	4後	4	1							
								理工系英語プレゼンテーション	2前・後	4	1							
㉔	基(主専)	教授	ワタナベ　ダイ 渡邉 大 ＜令和8年4月＞		博士 (工学)			応用材料力学	3前	2	1	芝浦工業大学　システム理工学部 機械制御システム学科　教授 (令4年4月)	○				5日	
								応用設計	3前	3	1							
								機械・電気システムセミナー　※	2後	0.3	2							
								材料力学	2前	2	1							
								自動車工学	3後	2	1							
								創生設計	3後	3	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究２	3後	2	1							
							○	総合研究3	4前	4	1							
							○	総合研究4	4後	4	1							
53	基(主専)	教授	ワタナベ　ノブオ 渡邉 宣夫 ＜令和8年4月＞		博士 (学術)		○	CAD/CAM演習　※	3前	1.5	1	芝浦工業大学　システム理工学部 生命科学科　教授 (令4年4月)	○				5日	
								Global Project-Based Learning 1	2前・後	2	1							
								Global Project-Based Learning 2	2前・後	2	1							
								Global Project-Based Learning 3	2前・後	2	1							
								Introduction to Biomedical-Engineering　※	1後	0.1	1							
								バイオレオロジー	3前	2	1							
							○	医工学セミナー　※	2後	0.3	1							
							○	医工学概論　※	1前	0.1	1							
							○	機械設計製作演習	2後	3	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究2	3後	2	1							
							○	総合研究３	4前	4	1							
							○	総合研究４	4後	4	1							
54	基(主専)	准教授	アズハム　ピン　ズルカルナイン AZHAM BIN ZULKH ARNAIN ＜令和8年4月＞		博士 (工学)			Advanced Bioscience　※	2前	0.3	1	芝浦工業大学　システム理工学部 生命科学科　准教授 (平31年4月)	○				5日	
								Basic Bioscience	1後	2	1							
								Genetic Engineering	3前	2	1							
								Global Project-Based Learning 1	2前・後	2	1							
								Global Project-Based Learning 2	2前・後	2	1							
								Global Project-Based Learning 3	2前・後	2	1							
								生命科学概論　※	1前	0.3	1							
							○	生命科学実験（応用）　※	2前	1.1	1							
							○	生命科学実験（基礎）　※	1後	0.6	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究2	3後	2	1							
							○	総合研究３	4前	4	1							
							○	総合研究４	4後	4	1							
								微生物学	3前	2	1							

55	基(主専)	准教授	エマ リョウイチ 江間 諒一 ＜令和8年4月＞		博士 (スポーツ科学)			スポーツ工学とSDGs	3前	2	1	静岡産業大学　スポーツ科学部スポーツ科学科　准教授 (令2年4月)	○				5日	
								スポーツ工学概論　※	1後	0.9	2							
							○	スポーツ工学実験演習1　※	2前	1.5	1							
								運動生理学	2前	2	1							
								機能解剖学　※	2前	1.4	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究2	3後	2	1							
							○	総合研究３	4前	4	1							
							○	総合研究４	4後	4	1							
								体育実技１	1前・後	1	1							
								体育実技２	1前・後	1	1							
㉕	基(主専)	准教授	オオタニ　タクヤ 大谷 拓也 ＜令和8年4月＞		博士 (工学)			機械・電気システムセミナー　※	2後	0.3	2	芝浦工業大学　システム理工学部機械制御システム学科　　准教授 (令6年4月)	○				5日	
								機械・電気工学実験	3前	3	1							
								機械計測工学	2前	2	1							
							○	設計製図	2後	2	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究２	3後	2	1							
							○	総合研究3	4前	4	1							
							○	総合研究4	4後	4	1							
㉖	基(主専)	准教授	カジガヤ トオル 梶ヶ谷 徹 ＜令和8年4月＞		博士 (理学)			Practical English in Mathematical Sciences	1前・後	2	1	東京理科大学　理学部第一部数学科　助教 (令3年4月)	○				5日	
								Topics in Pure and Applied Mathematics　※	2前・後	0.1	1							
								力学２	1後	2	1							
								線形代数1	1前	2	1							
							○	基礎数理セミナー	1前	2	1							
							○	幾何学1	2前	2	1							
								幾何学2	2後	2	1							
								国際数理科学実習1	1前・後	2	1							
								国際数理科学実習2	1前・後	2	1							
								数理科学概論　※	1後	0.1	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究２	3後	2	1							
							○	総合研究３	4前	4	1							
							○	総合研究4	4後	4	1							

㉗	基(主専)	准教授	ゴトウ　ユウスケ 後藤 裕介 ＜令和8年4月＞		博士 (工学)			データサイエンス入門　※	1前	0.1	1	芝浦工業大学　システム理工学部 電子情報システム学科　准教授 (令3年4月)	○				5日	
								Advanced Systems Science and Engineering1	2前・後	2	1							
								Advanced Systems Science and Engineering2	2前・後	2	1							
							○	AI基礎	1後	1	1							
							○	アントレプレナーシップA（価値創造）	3前	2	1							
								アントレプレナーシップB（事業創出）	3後	2	1							
								エージェントシミュレーション	3前	3	1							
								ゲーミング入門　※	1後	0.1	1							
								システム科学	4前	2	1							
							○	システム工学Ａ（システム計画方法論）	2前	3	1							
							○	システム工学Ｂ（数理計画法）	2後	3	1							
							○	データサイエンスリテラシー	1後	1	1							
							○	データサイエンス実践1	1後	3	1							
							○	データサイエンス実践2	2前	3	1							
							○	データサイエンス実践3	2後	3	1							
							○	データサイエンス実践4	3前	3	1							
							○	データ解析	1後	2	1							
								機械学習データサイエンス演習	2後	1	1							
								経営工学	2前	2	1							
								社会システム実践演習	3後	3	1							
								社会システム入門　※	1前	0.1	1							
								社会シミュレーション入門　※	1後	0.7	1							
								消費者行動論	1前	2	1							
							○	情報基礎	1前	3	1							
								深層学習データサイエンス演習	2前	1	1							
								人工知能データサイエンス演習	2前	1	1							
								数理シミュレーション	2後	3	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究２	3後	2	1							
							○	総合研究3	4前	4	1							
							○	総合研究4	4後	4	1							
							○	統計学基礎	1前	1	1							
59	基(主専)	准教授	シダ　シュウヤ 信太 宗也 ＜令和9年4月＞		博士 (工学)			Introduction to Biomedical-Engineering　※	1後	0.1	1	東洋大学　生命科学部生体医工学科　助教 (令4年4月)	○				5日	
							○	医工学エレクトロニクス演習	2前	2	1							
							○	医工学セミナー　※	2後	0.2	1							
								バイオメカニカルエンジニアリング	3後	2	1							
							○	機械設計製作演習	2後	3	1							
							○	機械力学	1前	2	1							
							○	医工学概論　※	1前	0.1	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究2	3後	2	1							
							○	総合研究３	4前	4	1							
							○	総合研究４	4後	4	1							
60	基(主専)	准教授	シバタ　ショウヘイ 柴田 翔平 ＜令和8年4月＞		博士 (学術)			応用バイオメカニクス	3前	2	1	ミズノ株式会社 研究員 (平25年4月)	○				5日	
								スポーツ工学概論　※	1後	0.4	2							
							○	スポーツ工学実験演習2　※	2後	1.5	1							
								スポーツ信号処理	2前	2	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究2	3後	2	1							
							○	総合研究３	4前	4	1							
							○	総合研究４	4後	4	1							
								体育実技１	1前・後	1	1							
								体育実技２	1前・後	1	1							

㉘	基(主専)	准教授	シミズ　ケンイチ 清水 健一 ＜令和8年4月＞		博士 (理学)			Introduction to Applied Algebra	2後	2	1	芝浦工業大学　システム理工学部 数理科学科　准教授 (平31年4月)	○				5日	
								Practical English in Mathematical Sciences	1前・後	2	1							
								Topics in Pure and Applied Mathematics　※	2前・後	0.1	1							
							○	基礎数理セミナー	1前	2	1							
								国際数理科学実習1	1前・後	2	1							
							○	国際数理科学実習2	1前・後	2	1							
							○	数学入門1	1前	1	1							
							○	線形代数１	1前	2	1							
								数理科学概論　※	1後	0.1	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究２	3後	2	1							
							○	総合研究３	4前	4	1							
							○	総合研究4	4後	4	1							
								代数学2	2後	2	1							
								離散数理　※	2後	0.6	1							
62	基(主専)	准教授	タカギ　モトキ 高木 基樹 ＜令和8年4月＞		博士 (工学)			Introduction to Biomedical-Engineering　※	1後	0.1	1	芝浦工業大学　システム理工学部 生命科学科　准教授 (平31年4月)	○				5日	
								Introduction to Embedded Programming　※	1前	0.8	1							
								メカトロニクス	3前	2	1							
								メディカルエンジニアリング実験	3後	3	1							
							○	医工学エレクトロニクス演習	2前	2	1							
							○	医工学セミナー　※	2後	0.3	1							
							○	Pythonプログラミング	1後	2	1							
							○	医工学概論　※	1前	0.1	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究2	3後	2	1							
							○	総合研究３	4前	4	1							
							○	総合研究４	4後	4	1							
								電気電子回路	2前	2	1							
63	基(主専)	准教授	タカヤマ　ユウゾウ 高山 祐三 ＜令和8年4月＞		博士 (科学)			Introduction to Biomedical-Engineering　※	1後	0.1	1	芝浦工業大学　システム理工学部 生命科学科　准教授 (令6年4月)	○				5日	
							○	CAD/CAM演習　※	3前	1.5	1							
								バイオイメージング	3後	2	1							
							○	解剖学　※	1前	1	1							
							○	機械設計製作演習	2後	3	1							
							○	医工学セミナー　※	2後	0.3	1							
							○	医工学概論　※	1前	0.1	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究2	3後	2	1							
							○	総合研究３	4前	4	1							
							○	総合研究４	4後	4	1							
64	基(主専)	准教授	タナカ　ユカコ 田中 友佳子 ＜令和8年4月＞		博士 (教育学)			Practical English in Mathematical Sciences	1前・後	2	1	芝浦工業大学　システム理工学部 数理科学科　准教授 (令5年4月)	○				5日	
								Topics in Pure and Applied Mathematics　※	2前・後	0.3	1							
							○	基礎数理セミナー	1前	2	1							
								教育の近現代史	1前・後	2	1							
								道徳の理論及び指導法	2前・後	2	1							
								教育原論	1前・後	2	1							
								教育実習１	3前・後	1	1							
								教育実習２	3前・後	1	1							
								教職インターンシップ１	1前・後	1	1							
								教職インターンシップ２	1前・後	1	1							
								教職実践演習（中・高）	4前・後	1	1							
								国際数理科学実習1	1前・後	2	1							
								国際数理科学実習2	1前・後	2	1							
								事前・事後指導	3前・後	1	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究２	3後	2	1							
							○	総合研究３	4前	4	1							
							○	総合研究4	4後	4	1							

㉙	基(主専)	准教授	ナカツ　トモノリ 中津 智則 ＜令和8年4月＞		博士 (理学)			Introduction to Advanced Mathematics ※	2後	0.6	1	芝浦工業大学　システム理工学部 数理科学科　准教授 (平29年10月)	○				5日	
								Practical English in Mathematical Sciences	1前・後	2	1							
								Topics in Pure and Applied Mathematics ※	2前・後	0.1	1							
							○	確率統計	2前	2	1							
								確率統計学特論	3後	2	1							
							○	基礎数理セミナー	1前	2	1							
								金融工学	3前	2	1							
								国際数理科学実習1	1前・後	2	1							
								国際数理科学実習2	1前・後	2	1							
								数理科学概論 ※	1後	0.1	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究２	3後	2	1							
							○	総合研究３	4前	4	1							
							○	総合研究4	4後	4	1							
								保険数学	3前	2	1							
66	基(主専)	准教授	ナカムラ　ナオコ 中村 奈緒子 ＜令和8年4月＞		博士 (学術)			Introduction to Biomedical-Engineering ※	1後	0.1	1	芝浦工業大学　システム理工学部 生命科学科　准教授 (令3年4月)	○				5日	
								バイオエンジニアリング実験	3後	3	1							
								医学・医療概論	1後	2	1							
								バイオマテリアル	3 前	2	1							
							○	医工学セミナー ※	2後	0.3	1							
							○	解剖学 ※	1前	1	1							
							○	医工学概論 ※	1前	0.1	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究2	3後	2	1							
							○	総合研究３	4前	4	1							
							○	総合研究４	4後	4	1							
67	基(主専)	准教授	ヒロタ　ヨシヒサ 廣田 佳久 ＜令和8年4月＞		博士 (薬学)			Advanced Bioscience ※	2前	0.3	1	芝浦工業大学　システム理工学部 生命科学科　准教授 (平31年4月)	○				5日	
								Global Project-Based Learning 1	2前・後	2	1							
								Global Project-Based Learning 2	2前・後	2	1							
								Global Project-Based Learning 3	2前・後	2	1							
								健康行動栄養学	3前	2	1							
								健康データサイエンス	3後	2	1							
								構造解析学 ※	3後	1	1							
							○	生化学	2前	2	1							
							○	生命科学実験（応用） ※	2前	0.6	1							
							○	生命科学実験（基礎） ※	1後	0.6	1							
							○	生命科学実験（発展） ※	2前・後	1.7	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究2	3後	2	1							
							○	総合研究３	4前	4	1							
							○	総合研究４	4後	4	1							
								化学	1 前	1	1							
								食品栄養学	2 後	2	1							
								生命科学概論 ※	1 前	0.3	1							
								分子生物学	2 後	2	1							
								薬理学	3前	2	1							
68	基(主専)	准教授	ホサカ　リョウスケ 保坂 亮介 ＜令和8年4月＞		博士 (工学)		○	Cプログラミング(情報) ※	1後	1.5	1	芝浦工業大学　システム理工学部 電子情報システム学科　准教授 (令4年4月)	○				5日	
								Recent trends on Software engineering ※	2前	0.3	1							
								機械学習プロジェクト	3前	2	1							
							○	情報処理入門 ※	1前	0.6	1							
							○	深層学習	2前	2	1							
								人工知能基礎	2前	2	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究２	3後	2	1							
							○	総合研究3	4前	4	1							
							○	総合研究4	4後	4	1							
							○	離散数学	1後	2	1							

69	基(主専)	准教授	イオカ（ミズカミ）　エリ 井岡（水上）　惠理 ＜令和8年4月＞		博士 (工学)		○	IoTプロジェクト	3前	3	1	芝浦工業大学　システム理工学部 電子情報システム学科　准教授 （令2年4月）	○				5日	
								Recent trends on IoT　※	1後	0.3	1							
							○	エレクトロニクスプロジェクト	2後	2	1							
								数値解析	2前	2	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究２	3後	2	1							
							○	総合研究3	4前	4	1							
							○	総合研究4	4後	4	1							
							○	電気回路	1後	2	1							
							○	電気回路演習	1後	1	1							
㉚	基(主専)	准教授	ミズタニ アキヒロ 水谷 晃啓 ＜令和８年4月＞		博士 (工学)		○	環境・都市基礎演習　※	1後	0.1	1	芝浦工業大学　システム理工学部 環境システム学科　准教授 （令6年11月）	○				5日	
								居住環境デザイン論	3前	2	1							
							○	建築・都市・環境応用演習A	3後	3	1							
							○	建築・都市・環境応用演習Ｂ	3後	3	1							
							○	建築・都市・環境総論　※	3前	0.1	1							
								建築デジタル・ファブリケーション　※	2後	2.1	1							
							○	建築基礎演習　※	1後	0.6	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究2	3後	2	1							
							○	総合研究3	4前	4	1							
							○	総合研究4	4後	4	1							
								都市環境デザイン演習	3前	2	1							
								建築設計情報演習	２前	2	1							
							○	環境・都市基礎　※	１後	0.3	1							
							○	都市・地域システム計画　※	3前	0.4	1							
							○	建築計画基礎	２前	2	1							
71	基(主専)	准教授	モチナガ　ダイ 持永 大 ＜令和8年4月＞		博士 (工学)			Recent trends on media technology　※	2後	0.3	1	芝浦工業大学　システム理工学部 環境システム学科　准教授 （令4年4月）	○				5日	
							○	情報基礎	1前	3	1							
								メディアコンテンツビジネス	3後	2	1							
								サイバーセキュリティと社会	3後	2	1							
								サイバーセキュリティ	3前	4	2							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究２	3後	2	1							
							○	総合研究3	4前	4	1							
							○	総合研究4	4後	4	1							
72	基(主専)	准教授	ヤマザキ　タク 山崎 託 ＜令和8年4月＞		博士 (工学)		○	Cプログラミング(情報)　※	1後	1.5	1	芝浦工業大学　システム理工学部 電子情報システム学科 （令3年4月）	○				5日	
								ICT Systems Design	3前	2	1							
								Recent trends on Software engineering　※	2前	0.3	1							
								ネットワークアプリケーション	2後	2	1							
								情報セキュリティ	3後	2	1							
								情報ネットワークプロジェクト	3前	2	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究２	3後	2	1							
							○	総合研究3	4前	4	1							
							○	総合研究4	4後	4	1							
㉛	基(主専)	助教	クワハラ　ヒロアキ 桑原 央明 ＜令和8年4月＞		博士 (工学)		○	Cプログラミング(機械・電気)　※	1後	1.5	1	芝浦工業大学　システム理工学部 機械制御システム学科 （令5年4月）	○				5日	
								センサとアクチュエータ　※	2前	0.6	1							
								回路とシステム	2後	2	1							
								機械・電気システムセミナー　※	2後	0.3	1							
								機械・電気工学実験	3前	3	1							
								振動工学	2前	2	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究２	3後	2	1							
							○	総合研究3	4前	4	1							
							○	総合研究4	4後	4	1							
								電気機器システム	1前	2	1							

㉜	基(主専)	助教	タモリ　ヒロヨシ 田森 宥好 ＜令和8年4月＞		博士 (数理科学)			Introduction to Advanced Mathematics ※	2後	0.7	1	芝浦工業大学　システム理工学部 数理科学科　助教 (令5年4月)	○				5日	
								Practical English in Mathematical Sciences	1前・後	2	1							
								Topics in Pure and Applied Mathematics ※	2前・後	0.1	1							
							○	基礎数理セミナー	1前	2	1							
								国際数理科学実習1	1前・後	2	1							
								国際数理科学実習2	1前・後	2	1							
							○	線形代数２	1後	2	1							
							○	数学入門2 ※	1後	1	1							
								数理科学概論 ※	1後	0.1	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究２	3後	2	1							
							○	総合研究３	4前	4	1							
							○	総合研究4	4後	4	1							
							○	代数学1	2前	2	1							
75	基(主専)	助教	ハラダ　タクヤ 原田 拓弥 ＜令和8年4月＞		博士 (情報学)		○	AI基礎	1後	1	1	芝浦工業大学　システム理工学部 電子情報システム学科　助教 (令4年4月)	○				5日	
							○	Python入門	1前	1	1							
								エージェントシミュレーション	3前	3	1							
								ゲーミング入門 ※	1後	0.1	1							
							○	データサイエンスリテラシー	1後	1	1							
							○	データサイエンス実践1	1後	3	1							
							○	データサイエンス実践2	2前	3	1							
							○	データサイエンス実践3	2後	3	1							
							○	データサイエンス実践4	3前	3	1							
								データサイエンス入門 ※	1前	0.7	1							
							○	プログラミング入門	1前	1	1							
								システム科学	4前	2	1							
								社会システム入門 ※	1前	0.1	1							
								社会システム実践演習	3後	3	1							
								データサイエンス応用	1後	3	1							
								数理シミュレーション	2後	3	1							
								機械学習データサイエンス演習	2後	1	1							
								社会シミュレーション入門 ※	1後	0.1	1							
								社会調査法	1前	2	1							
							○	情報基礎	1前	3	1							
								深層学習データサイエンス演習	2前	1	1							
								人工知能データサイエンス演習	2前	1	1							
							○	総合研究１	3前	2	1							
							○	総合研究２	3後	2	1							
							○	総合研究3	4前	4	1							
							○	総合研究4	4後	4	1							
							○	統計学基礎	1前	1	1							
76	その他	教授	オカダ（モリタ）　ヨシコ 岡田（森田）　佳子 ＜令和8年4月＞		修士 (教育学) ※			人間関係論	1前・後	2	1	芝浦工業大学　工学部　土木工学課程　教授 (令6年4月)						
								教育相談論	1前・後	3	2							
								教育心理学	1前・後	2	1							
								特別支援教育論	1前・後	4	3							
77	その他	教授	サカキバラ　ノブヒサ 榊原 暢久 ＜令和8年4月＞		博士 (理学)			芝浦工業大学通論	1前・後	2	1	芝浦工業大学教育イノベーション推進センター　教授 (平31年4月)						
78	その他	教授	ヤタガワ　ルミ 谷田川 ルミ ＜令和8年4月＞		博士 (教育学)			教育社会学	1前・後	2	1	芝浦工業大学　工学部　土木工学課程　教授 (令6年4月)						
								教育課程論	1前・後	2	1							

79	その他	講師	アサイ　カズミ 浅井　和美 ＜令和8年4月＞		博士 (理学)			電磁気学 力学1 力学2	2前 1前 1後	2 2 2	1 1 1	芝浦工業大学 システム理工学部 講師 (平成30.4)						
80	その他	講師	アライ　リュウジ 新井　竜治 ＜令和8年4月＞		博士 (工学)			English Basic Skills1 English Basic Skills2	1前 1後	6 8	3 4	芝浦工業大学 システム理工学部 講師 (令和6.9)						
81	その他	講師	アリモト　アラタ 有本　新 ＜令和8年4月＞		博士 (政策科学)			行政学	1後	2	1	公益財団法人　後藤・安田記念東京都市研究所 研究部 研究員 (令和5.4)						
82	その他	講師	イシバシ　サトミ 石橋　里美 ＜令和8年4月＞		修士 (文学)			組織心理学	1後	2	1	東京未来大学 准教授 (令和6.4)						
83	その他	講師	イチシマ　ムネノリ 市島　宗典 ＜令和8年4月＞		修士 (法学)			政治学	1後	2	1	白鴎大学　法学部　教授 (令和6.4)						
84	その他	講師	イトウ　トシオ 伊東　敏夫 ＜令和8年4月＞		博士 (工学)			材料・加工学	1後	2	1	芝浦工業大学SIT総合研究所特任研究員 (令和5.4)						
85	その他	講師	イトウ　ヒロム 伊藤　紘 ＜令和8年4月＞		博士 (医学)			生物学	1前	2	1	国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構 量子生命科学研究所主任研究員 (令和4.4)						
86	その他	講師	イワヌマ　ソウイチロウ 岩沼　聡一朗 ＜令和8年4月＞		博士 (スポーツ科学)			体育実技1 体育実技2	1前・後 1前・後	2 2	1 1	芝浦工業大学 システム理工学部 講師 (令和6.9)						
87	その他	講師	エグチ　リツコ 江口　律子 ＜令和8年4月＞		学士			データベース	2後	2	1	芝浦工業大学 システム理工学部 講師 (令和6.4)						
88	その他	講師	オオクシ　タツオ 大串　辰雄 ＜令和8年4月＞		修士 (工学)			建築・都市・環境応用演習A 建築・都市・環境応用演習B	3後 3後	3 3	1 1	芝浦工業大学 システム理工学部 講師 (令和6.4)						
89	その他	講師	オオツカ　ユウキ 大塚　有希 ＜令和8年4月＞		学士 (工学)			プロジェクトマネジメント	3前	2	1	大塚ファンド株式会社　取締役 (令和3.2)						
90	その他	講師	オオツキ　シゲヒロ 大槻　成弘 ＜令和8年4月＞		学士			建築デジタルデザイン演習 建築設計情報演習	2後 2前	2 2	1 1	株式会社SEEZBIMコンサルティング (平成28.7)						
91	その他	講師	オオホリ　コウタロウ 大堀　耕太郎 ＜令和8年4月＞		博士 (工学)			マーケティング論 情報経営論	1前 1後	2 2	1 1	東洋大学経営学部経営学科 教授 (令和4.4)						
92	その他	講師	オギタ　ハルミ 荻田　晴美 ＜令和8年4月＞		博士 (学術)			幾何学3 線形代数1 微分積分2	3前 1前 1前	2 2 2	1 1 1	芝浦工業大学 システム理工学部 講師 (令和6.4)						

93	その他	講師	オギハラ　フミヒロ 荻原　文弘 ＜令和8年4月＞		修士 (理学)			数学科指導法1 数学科指導法2 数学科指導法3 数学科指導法4	2前・後 2前・後 2前・後 2前・後	2 2 2 2	1 1 1 1	国立大学法人 茨城大学准教授 (平成31.4)						
94	その他	講師	オクムラ　マナブ 奥村　学 ＜令和8年4月＞		工学博士			自然言語処理	2後	2	1	芝浦工業大学 システム理工学部 講師 (令和6.4)						
95	その他	講師	オサダ　ユウキ 長田　祐輝 ＜令和8年4月＞		博士 (理学)			関数解析2 測度と積分	3後 2後	2 2	1 1	芝浦工業大学 システム理工学部 講師 (令和6.9)						
96	その他	講師	オヌキ　ヒサコ 小抜　久子 ＜令和8年4月＞		修士 (言語学)			Advanced English for Science and Technology1 Advanced English for Science and Technology2	2前 2後	4 4	2 2	芝浦工業大学 システム理工学部 講師 (平成30.4)						
97	その他	講師	オヌキ　ヨシユキ 小貫　良行 ＜令和8年4月＞		博士 (理学)			総合科学実験	1後	1	1	東京大学 素粒子物理国際研究センター助教 (平成23.12)						
98	その他	講師	カゲユキ　タカフミ 景行　崇文 ＜令和8年4月＞		博士 (コーチング学)			身体運動のメカニズム	1後	2	1	日本スポーツ振興センター国立スポーツ科学センター契約研究員 (令和3.5)						
99	その他	講師	カトウ　コトフミ 加藤　詞史 ＜令和8年4月＞		修士 (工学)			建築基礎演習 建築材料	1後 3前	0.1 2	1 1	芝浦工業大学 システム理工学部 講師 (令和3.4)						
100	その他	講師	カトウ　タツヤ 加藤　辰弥 ＜令和8年4月＞		博士 (教養)			健康科学論Ｂ 体育実技1 体育実技2	1後 1前・後 1前・後	2 2 2	1 1 1	株式会社ソニーコンピュータサイエンス研究所博士研究員 (令和5.4)						
101	その他	講師	カトウ　ヒトシ 加藤　等 ＜令和8年4月＞		短期大学士		○	ものづくり工学実習	1後	2	1	芝浦工業大学 システム理工学部 講師 (平成30.4)						
102	その他	講師	カメコ　マサキ 亀子　正喜 ＜令和8年4月＞		Ph.D			数理科学特論Ｂ 数理科学特論Ｄ 線形代数1 線形代数2 代数学3 微分積分1 微分積分2	3前 3後 1前 1後 3前 1前 1前	1 1 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 システム理工学部 講師 (平成22.4)						
103	その他	講師	カンドウ　タケアキ 神藤　健朗 ＜令和8年4月＞		修士 (学術)			情報科指導法1 情報科指導法２ 情報科指導法2	2前 2後 2後	2 2 2	1 1 1	世田谷学園中学校高等学校教諭 (令和3.4)						
104	その他	講師	キタノ　コウキ 北野　功樹 ＜令和8年4月＞		修士 (言語教育学)			English Basic Skills1 English Basic Skills2 English Remedial Course1 English Remedial Course2	1前 1後 1前 1後	6 2 6 2	3 1 3 1	芝浦工業大学 システム理工学部 講師 (令和5.4)						
105	その他	講師	キド　ミツル 木戸　充 ＜令和8年4月＞		修士 (政治学)			Basic English for Science and Technology1 Basic English for Science and Technology2 English Remedial Course1 English Remedial Course2	2前 2後 1前 1後	4 4 4 4	2 2 2 2	芝浦工業大学 システム理工学部 講師 (令和2.4)						

106	その他	講師	キムラ　アラタ 木村　新 ＜令和8年4月＞		博士 (学術)			体育実技1 体育実技2	1前・後 1前・後	2 2	1 1	法政大学講師 (令和6.4)						
107	その他	講師	キムラ　ケン 木村　憲 ＜令和8年4月＞		博士 (理学)			体育実技1 体育実技2	1前・後 1前・後	2 2	1 1	東京電機大学教授 (令和2.10)						
108	その他	講師	キリタニ　ヨシエ 桐谷　佳惠 ＜令和8年4月＞		博士 (心理学)			認知心理学	1前	2	1	芝浦工業大学 システム理工学部 講師 (令和6.4)						
109	その他	講師	コイズミ　ジュン 小泉　潤 ＜令和8年4月＞		博士 (スポーツ科学)			体育実技1 体育実技2	1前・後 1前・後	2 2	1 1	独立行政法人日本スポーツ振興センター ハイパフォーマンススポーツセンター 国立スポーツ科学センター契約研究員(令和6.4)						
110	その他	講師	コクブン　アキコ 國分　昭子 ＜令和8年4月＞		博士 (工学)			建築・都市・環境応用演習A 建築・都市・環境応用演習B	3後 3後	3 3	1 1	株式会社アイケイディーエス建築設計（一級建築士） (平成9.6)						
111	その他	講師	コジマ　ミヨコ 小嶋　美代子 ＜令和8年4月＞		専門学校卒			ダイバーシティ入門	1前・後	2	1	芝浦工業大学 システム理工学部 講師 (令和5.4)						
112	その他	講師	コジマ　ミズキ 小島　瑞輝 ＜令和8年4月＞		博士 (理学)			微分積分1	1前	2	1	芝浦工業大学 システム理工学部 講師 (令和7.4)						
113	その他	講師	コバヤシ　ジュン 小林　潤 ＜令和8年4月＞		修士 (文学)			English Basic Skills1 English Basic Skills2	1前 1後	6 6	3 3	芝浦工業大学 システム理工学部 講師 (令和5.4)						
114	その他	講師	コバヤシ　マナブ 小林　学 ＜令和8年4月＞		博士 (学術)			科学技術史	1後	2	1	千葉工業大学准教授 (平成27.4)						
115	その他	講師	コバヤシ　リョウタ 小林　亮太 ＜令和8年4月＞		博士 (体育科学)			体育実技1 体育実技2	1前・後 1前・後	2 2	1 1	芝浦工業大学 システム理工学部 講師 (令和5.4)						
116	その他	講師	サイトウ　トモコ 齋藤　知子 ＜令和8年4月＞		博士 (社会福祉学)			社会福祉論	1前	2	1	芝浦工業大学 システム理工学部 講師 (令和6.4)						
117	その他	講師	サクマ　ユウ 佐久間　悠 ＜令和8年4月＞		修士			建築・都市法規	3後	2	1	株式会社建築再構企画一級建築士 (平成25.2)						
118	その他	講師	サクライ　マサタカ 櫻井　政考 ＜令和8年4月＞		学士 (経済学)			アントレプレナーシップA(価値創造) アントレプレナーシップB(事業創出)	3前 3後	2 2	1 1	TEAMアライアンス株式会社　代表取締役 (令和5.4)						
119	その他	講師	サトウ　タケシ 佐藤　健 ＜令和8年4月＞		博士 (工学)			人間工学	2前	2	1	芝浦工業大学 システム理工学部 講師 (平成30.4)						
120	その他	講師	サトウ　ヒロキ 佐藤　広生 ＜令和8年4月＞		博士 (工学)			組込みシステム	2後	3	1	東京科学大学助教 (平成21.8)						

121	その他	講師	サナダ　ダイスケ 真田　乃輔 ＜令和8年4月＞		博士 （文学）			技術者と倫理 倫理学	3前 1前・後	2 2	1 1	芝浦工業大学 システム理工学部 講師 （令和4.4）						
122	その他	講師	シバタ　ツクル 柴田　作 ＜令和8年4月＞		修士 （建築）			居住環境デザイン演習	3前	2	1	芝浦工業大学 システム理工学部 講師 （令和6.4）						
123	その他	講師	シブエ　ケイコ 渋江　桂子 ＜令和8年4月＞		博士 （学術）			人間と自然環境	1後	2	1	芝浦工業大学 システム理工学部 講師 （令和6.4）						
124	その他	講師	シマガミ　ナオト 島上　直人 ＜令和8年4月＞		教育学修士			数学科指導法1 数学科指導法2 数学科指導法3 数学科指導法4	2前・後 2前・後 2前・後 2前・後	2 2 2 2	1 1 1 1	芝浦工業大学 システム理工学部 講師 （令和4.4）						
125	その他	講師	ショウダ　ヒロヨシ 正田　浩由 ＜令和8年4月＞		修士 （政治学）			世界史A 世界史B	1前 1前	2 2	1 1	芝浦工業大学 システム理工学部 講師 （令和6.4）						
126	その他	講師	シライ　マコト 白井　誠 ＜令和8年4月＞		修士			信頼性工学	3後	2	1	内閣官房内閣事務官 （令和3.4）						
127	その他	講師	シラキ　シュンスケ 白木　駿佑 ＜令和8年4月＞		博士 （コーチング学）			体育実技1 体育実技2 健康科学論Ａ	1前・後 1前・後 1前	2 2 2	1 1 1	国立スポーツ科学センター 契約研究員 （令和4.4）						
128	その他	講師	シロセ　ケイイチ 白勢　圭一 ＜令和8年4月＞		学士 （工学）			設計製図	２後	2	1	芝浦工業大学 システム理工学部 講師 （令和6.9）						
129	その他	講師	セキサカ　アユキ 関坂　歩幹 ＜令和8年4月＞		博士 （理学）			線形代数1 線形代数2	1前 1後	2 2	1 1	芝浦工業大学 システム理工学部 講師 （令和3.4）						
130	その他	講師	セツ　ギョクケツ XUE　Yujie （令和8年4月）		博士 （理学）			多変量解析	2後	2	1	データサイエンス共同利用基盤施設社会データ構造化センター 兼 統計数理研究所リスク解析戦略研究センター特任助教(令和5.9)						
131	その他	講師	タカツ　ヒロカツ 高津　博勝 ＜令和8年4月＞		博士 （工学）			総合科学実験	1後	1	1	杏林大学准教授(平成31.4)						
132	その他	講師	タクマ　ナオキ 詫間　直樹 ＜令和8年4月＞		博士 （学術）			科学技術と社会	1前	2	1	芝浦工業大学 システム理工学部 講師 （令和6.4）						
133	その他	講師	タナカ　ユキヒロ 田中　幸弘 ＜令和8年4月＞		法学修士			情報社会と法 日本国憲法	1前 1後	2 2	1 1	新潟大学教授(平成16.4)						
134	その他	講師	タムラ　トシユキ 田村　俊之 ＜令和8年4月＞		修士 （教育学）			技術科指導法1 技術科指導法2 技術科指導法３ 技術科指導法４ 教育におけるICT活用 教育の方法及び技術	2前・後 2前・後 ３前・後 ３前・後 2前・後 2前・後	2 2 2 2 1 1	1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 システム理工学部 講師 （令和6.4）						

135	その他	講師	デブチ　エリ 出淵　栄理 ＜令和8年4月＞		修士			Basic English for Science and Technology1 Basic English for Science and Technology2	2前 2後	6 6	3 3	芝浦工業大学 システム理工学部 講師 (平成30.4)						
136	その他	講師	ドイ　カオリ 土井　香乙里 ＜令和8年4月＞		MA			Basic English for Science and Technology1 Basic English for Science and Technology2	2前 2後	6 6	3 3	ものつくり大学講師(平成22.9)						
137	その他	講師	ナカガワ　マサヒロ 中川　雅博 ＜令和8年4月＞		修士 (哲学)			生命倫理概論 哲学1 哲学2	1前・後 1前 1後	2 2 2	1 1 1	芝浦工業大学 システム理工学部 講師 (平成30.4)						
138	その他	講師	ナガセ　ジュンペイ 長瀬　准平 ＜令和8年4月＞		博士 (学術)			線形代数2	1後	2	1	電気通信大学特任助教 (令和5.4)						
139	その他	講師	ナカノ　アツシ 中野　敦 ＜令和8年4月＞		博士 (社会工学)			交通システム計画	3前	2	1	一般財団法人　計量計画研究所 主幹研究員 (昭和63.4)						
140	その他	講師	ナカムラ　アケミ 中村　明美 ＜令和8年4月＞		MA en Route			English Advanced Skills1 English Advanced Skills2	1前 1後	6 6	3 3	芝浦工業大学 システム理工学部 講師 (平成30.4)						
141	その他	講師	ニシダ　タケト 西田　武人 ＜令和8年4月＞		修士 (工学)			建築・都市・環境応用演習A 建築・都市・環境応用演習Ｂ	３後 3後	3 3	1 1	株式会社オリエンンタルコンサルタンツグローバル一級建築士 (令和6.10)						
142	その他	講師	ネギシ　ヨシマサ 根岸　良征 ＜令和8年4月＞		博士 (工学)			LSI設計 コンピュータアーキテクチャ	3前 2後	2 2	1 1	(株)根岸情報教育研究所代表取締役 (平成25.2)						
143	その他	講師	ノナカ　トシユキ 野中　敏幸 ＜令和8年4月＞		博士 (理学)			波動・熱力学 力学1	1後 1前	2 2	1 1	東京大学　宇宙線研究所助教 (平成23.3)						
144	その他	講師	ハタノ　カズヒコ 波多野　和彦 ＜令和8年4月＞		修士 (工学)			教育におけるICT活用 教育の方法及び技術	2前・後 2前・後	1 1	1 1	江戸川大学教授 (平成21.4)						
145	その他	講師	ハチヤ　ユウキ 蜂谷　悠希 ＜令和8年4月＞		修士 (工学)			会計簿記	3後	2	1	蜂谷公認会計士事務所　代表 (平成29.7)						
146	その他	講師	ハツカリ　アキコ 初雁　晶子 ＜令和8年4月＞		博士 (スポーツ科学)			からだの仕組みと運動 体育実技1 体育実技2	1前 1前・後 1前・後	2 2 2	1 1 1	早稲田大学スポーツ科学学術院助教(令和6.4)						
147	その他	講師	フセ　ヒロユキ 布施　博之 ＜令和8年4月＞		博士 (農学)			化学	1前	2	1	芝浦工業大学 システム理工学部 講師 (令和5.4)						
148	その他	講師	フルカワ　タツヤ 古川　達也 ＜令和8年4月＞		修士 (工学)			建築デジタルデザイン演習 建築・都市・環境応用演習A 建築・都市・環境応用演習Ｂ	2後 ３後 3後	2 3 3	1 1 1	芝浦工業大学 システム理工学部 講師 (令和6.4)						
149	その他	講師	ヘヤ　ナオキ 部家　直樹 ＜令和8年4月＞		博士 (数理科学)			数理科学特論Ａ 微分積分1	3前 1前	1 2	1 1	芝浦工業大学 システム理工学部 講師 (令和6.4)						

150	その他	講師	マツウラ　ケイ 松浦　啓 ＜令和8年4月＞		修士 (理学)			線形代数1 線形代数2 微分積分1 微分積分2	1前 1後 1前 1前	2 2 2 2	1 1 1 1	芝浦工業大学 システム理工学部 講師 (平成30.4)						
151	その他	講師	マツザワ　ヒロシ 松澤　寛 ＜令和8年4月＞		博士 (理学)			数理科学特論C	3後	1	1	神奈川大学理学部教授 (令和2.4)						
152	その他	講師	ミウラ　タクヤ 三浦　巧也 ＜令和8年4月＞		博士 (教育学)			生徒・進路指導論	1前・後	2	1	東京農工大学　大学院　工学研究院　准教授 (平成29.4)						
153	その他	講師	ミツイ　ジュンコ 三井　淳子 ＜令和8年4月＞		歴史学修士			English Basic Skills1 English Basic Skills2	1前 1後	6 6	3 3	芝浦工業大学 システム理工学部 講師 (令和6.4)						
154	その他	講師	ミヤザキ　ケイコ 宮崎　敬子 ＜令和8年4月＞		修士 (英文学)			English Advanced Skills1 English Advanced Skills2 English Basic Skills1 English Basic Skills2	1前 1後 1前 1後	4 6 6 6	2 3 3 3	芝浦工業大学 システム理工学部 講師 (平成30.4)						
155	その他	講師	ムラヤマ　エイジ 村山　栄治 ＜令和8年4月＞		博士			数値流体力学概論	3前	2	1	芝浦工業大学 システム理工学部 講師 (令和5.4)						
156	その他	講師	ムラヤマ　ミツヨシ 村山　光義 ＜令和8年4月＞		博士 (スポーツ健康科学)			体育実技1 体育実技2	1前・後 1前・後	2 2	1 1	慶應義塾大学体育研究所教授(平成24.4)						
157	その他	講師	モンマ　レイコ 門馬　怜子 ＜令和8年4月＞		博士 (スポーツ医学)			体育実技1 体育実技2	1前・後 1前・後	2 2	1 1	独立行政法人日本スポーツ振興センター ハイパフォーマンススポーツセンター 国立スポーツ科学センター契約吸引(令和3.4)						
158	その他	講師	ヤナギサワ　ジュンイチ 柳澤　順一 ＜令和8年4月＞		学術修士			Advanced English for Science and Technology1 Advanced English for Science and Technology2	2前 2後	6 6	3 3	芝浦工業大学 システム理工学部 講師 (平成30.4)						
159	その他	講師	ヤマグチ　シホコ 山口(青木)　志保子 ＜令和8年4月＞		修士 (環境学)			建築・都市・環境応用演習A 建築・都市・環境応用演習Ｂ	3後 3後	3 3	1 1	Wholeness Lab代表 (令和3.1)						
160	その他	講師	ヤマザキ　サダト 山崎　貞登 ＜令和8年4月＞		農学博士			工業科指導法1 工業科指導法2 職業指導 総合的な学習の時間の指導法 特別活動の指導法	2前・後 2前・後 1前・後 2前・後 2前・後	2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	上越教育大学　教授(平成15.10)						

161	その他	講師	ヤマモト　ヒロコ 山本　宏子 ＜令和8年4月＞		博士 (理学)			線形代数2 微分積分1	1後 1前	2 2	1 1	理化学研究所 革新知能統合研究センター上級研究員 (令和4.4)						
162	その他	講師	ヤマモト　リョウ 山本　嶺 ＜令和8年4月＞		博士 (国際情報通信学)			Computer Simulation	3前	2	1	電気通信大学准教授 (平成26.4)						
163	その他	講師	ルビー　オガワ ルビー　オガワ ＜令和8年4月＞		Masters in Public Policy and Admin			Advanced English for Science and Technology1 Advanced English for Science and Technology2	2前 2後	6 6	3 3	芝浦工業大学 システム理工学部 講師 (平成30.4)						
164	その他	講師	ワタナベ　エイジ 渡部　英二 ＜令和8年4月＞		工学博士			MATALBプログラミング ディジタル信号処理 オペレーティングシステム 電子回路	2前 2前 3後 2後	2 2 2 3	1 1 1 1	芝浦工業大学 システム理工学部 講師 (令和6.4)						
165	その他	講師	ワタヌキ　ケン 綿貫　建 ＜令和8年4月＞		修士 (工学)			建築・都市・環境応用演習A 建築・都市・環境応用演習Ｂ	3後 3後	3 3	1 1	芝浦工業大学 システム理工学部 講師 (令和6.4)						
166	その他	講師	タナベ　ヒロコ 田邊　寛子 ＜令和8年4月＞		修士 (工学)			都市環境デザイン演習	3前	2	1	有限会社田辺コンサルタント・グループ　まちひとこと総合計画室 取締役 (令和2.9)						
167	その他	講師	シナガワ　アキホ 品川　明穂 ＜令和8年4月＞		博士 (食環境科学)			健康科学論A	1 前	2	1	国立スポーツ科学センター 契約研究員 (令和5.4)						
㉝	その他	講師	サクヤマ　ヤスシ 作山　康 ＜令和9年4月＞		工学士			都市計画基礎 都市・地域システム計画	2前 3前	2 2	1 1	芝浦工業大学 システム理工学部 環境システム学科　教授 (平成23.4)						
㉞	その他	講師	オサカベ　ナオミ 越阪部　奈緒美 ＜令和10年4月＞		博士 (薬学)			公衆衛生学	3後	2	1	芝浦工業大学　システム理工学部 生命科学科　教授 (平成21.4)						

別記様式第３号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

基幹教員の年齢構成・学位保有状況（システム理工学部全体）

職　位	学　位	29 歳 以 下	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	合　計	備　考
教　授	博　士	人	人	7人	25人	14人	7人	人	53人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人		人	人	人	人	
准教授	博　士	人	人	17人	2人	人	人	人	19人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講　師	博　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助　教	博　士	人	2人	1人	人	人	人	人	3人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合　計	博　士	人	2人	25人	27人	14人	7人	人	75人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	